新潟県埋蔵文化財調査報告書　第116集

二級河川郷本川広域基幹河川改修工事・一般国道116号和島バイパス関係報告書

奈　良　崎　遺　跡

（本文編）

２００２

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

二級河川郷本川広域基幹河川改修工事・一般国道116号和島バイパス関係報告書

奈良崎遺跡

（本文編）

２００２

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

新潟県教育委員会では、道路建設などの開発事業に伴う発掘調査を行っており、その成果を発掘調査報告書として公表してまいりました。

本書は国道116号和島バイパス建設工事と郷本川河川改修に伴ない実施した、三島郡和島村奈良崎遺跡の発掘調査報告書です。現国道116号のうち和島村島崎地区では、道路幅員が狭く人家連担部を通過するため、交通事故・降雪時の交通障害・騒音・振動などの交通環境の悪化が深刻な社会問題となっていました。また、郷本川は水路幅が狭く梅雨末期の集中豪雨時などには、増水により周辺の水田・畑地が頻繁に湛水し、周辺農民にとっては深刻な問題となっていました。和島バイパス建設と郷本川河川改修はこのような問題を解決するために計画された事業です。

地域の発展に貢献する開発事業と発掘調査を円滑に調整しながら、調査を実施してゆくことは難しい面もありますが、発掘調査により明らかにされた成果は、その地域の歴史について多くを物語ります。また、これらの調査成果が地域社会の歴史や文化を見直す契機になることも少なくありません。

奈良崎遺跡は、南北朝の動乱に際し、戦いが行われたことが中世文書に記されている「島崎城郭」の有力な比定地として、地元研究者の間では古くから知られる遺跡でした。調査の結果、南北朝期から戦国時代にかけての山城跡が発見され、本遺跡が「島崎城郭」である可能性が一層高まりました。また、これとは別に弥生時代から古墳時代前期にかけての墳墓や住居跡などが発見され、本遺跡が三島地域の中世史のみならず古代史を考える上でも重要な遺跡であることが明らかになりました。

今回の報告が今後の古代・中世史研究に資すると共に、県民の皆様の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める一助となれば幸いです。

最後に、この発掘調査に際し多大な御協力と援助を賜りました和島村教育委員会並びに地元の方々、また調査から報告書刊行に至るまで格別の配慮を賜った国土交通省北陸地方整備局長岡国道工事事務所・新潟県土木部・新潟県与板土木事務所に対し、深甚なる敬意と感謝を表します。

平成14年10月

新潟県教育委員会

教育長　板屋越　麟　一

例　　言

1　本書は新潟県三島郡和島村大字島崎字奈良崎・小谷に所在する奈良崎遺跡の発掘調査記録である。

2　本書は新潟県教育委員会（以下県教委）が管理する「遺跡カード（和島村）」に「奈良崎塚」・「奈良崎遺跡」・「奈良崎城跡」と記録されている３遺跡を一括して「奈良崎遺跡」として報告する。

3　発掘調査は国道116号和島バイパス建設及び県営郷本川河川改修に伴い実施した。調査期間は昭和63年７月（一次調査）、平成元年10月～12月（二次調査）、平成４年４月～７月（二次調査）、平成７年10月～11月（一次調査）、平成10年４月～12月（二次調査）、平成11年４月～12月（二次調査）である。このうち平成11年度の調査が、和島バイパス建設と郷本川河川改修の重複する地点である。二次調査面積の合計は17,580㎡である。

4　本遺跡は、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下埋文事業団）が発足する以前の昭和６３年・平成元年の発掘調査は、県教委が建設省（現国土交通省）から受託して実施した。埋文事業団発足以後の平成４･７･10年の発掘調査は、県教委が建設省より委託を受け調査主体となり、埋文事業団が調査にあった。原因者が二者存在する平成11年の調査は、県教委が建設省、埋文事業団が県教委の依頼を受け新潟県土木部（以下県土木）から受託し、埋文事業団が調査に当たった。調査費用は面積比に応じ建設省と県土木で按分した。

5　整理作業は県教委から依頼を受けて、平成13年度に埋文事業団で実施し、平成14年度に印刷・刊行した。なお、整理費用は発掘調査と同様に按分した。

6　出土遺物及び記録類については、県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。遺物の注記記号は「ナラサキ」とし、出土位置・層位・取り上げ日などを併記した。

7　本書で示す方位は全て真北である。ここでいう真北とは国家座標軸のＸ軸方向を表す。

8　既存の図面を挿図・図版で用いた場合はその出典を記した。

9　引用文献は著者及び発行年（西暦）を本文中に［］で示し、巻末に一括して掲載した。ただし第Ⅵ章　自然化学分析及び第Ⅶ章－２は引用文献を節毎に掲載した。

10　本書の作成作業は春日真実（埋文事業団　主任調査員）が担当し、小池義人（同　主任調査員：現新潟県立糸魚川高校教諭）に協力を得た。遺物の復元・実測・製図・仮版作製などの作業は事業団嘱託員が主にあたった。ただし、剥片石器類はアイシン精機株式会社に実測・製図・観察表作成・記述を委託した。遺構図と挿図の製図、図面図版・写真図版の版組み及び全体のデジタル編集・データ化は、株式会社セビアスに委託した。

11　自然化学分析とそれに係わる第Ⅵ章の記述は民間業者に委託した。内訳は「1　土器の胎土分析」が株式会社第四紀地質研究所、「2　樹種同定（98年度分）」が株式会社　古環境研究所、「3　樹種同定（99年度分）」が株式会社　パレオ･ラボ、「4　花粉・プラントオパール分析」が株式会社　パレオ･ラボである。

12　１号墳から出土した捩文鏡については、森下章司氏（大手前大学助教授）より玉稿を頂いた（第Ⅶ章－２）。

13　11･12に示す以外の本書の記述は、第Ⅴ章２－Ｇ－１）～４）・10）・11）、４－Ｅが廣田吉三郎（創和システム株式会社）、第Ⅴ章２－Ｇ－５）～９）・12）、４－Ｄが小池、その他が春日である。遺物の写真撮影は小池が行った。航空写真の撮影はセントラル航業株式会社（平成元･４年度）、国際航業株式会社（平成10･11年度）に委託し撮影したものを用いた。編集は春日が主にあたり、北村が補佐した。

14　本遺跡については、埋文事業団　1992「奈良崎遺跡第２次調査－弥生時代高地性環濠集落」『埋文にいがた』創刊号、同前　1993「奈良崎遺跡」『年報』、春日　真実1999･2000「奈良崎遺跡」『年報』埋文事業団、同前2000「奈良崎遺跡－中世文書に表れる「島崎城郭」と新発見の古墳」『埋文にいがた』（№29）埋文事業団、同前2001「奈良崎遺跡－新発見の古墳と南北朝期の山城」『発掘調査報告会2001』埋文事業団などに概要が報告されているが、これらの間に齟齬が生じた場合は本報告を持って正とする。

15　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々並びに機関から多大な御教示と御協力を賜った。記して厚くお礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

安藤　正美　　魚津　知克　　柿田　祐司　　川村　浩司　　坂井　秀弥　　田中　　靖　　楢崎　彰一
鳴海　忠夫　　橋本　博文　　藤澤　良祐　　前川　　要　　丸山　一昭　　宮田　進一　　渡邊ますみ
国土交通省北陸地方整備局長岡国道工事事務所　　新潟県　　与板土木事務所　　和島村教育委員会

目　　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理作業 …… 3

A　調査の経過 …… 3

B　整 理 作 業 …… 7

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 8

1　遺跡の位置 …… 8

2　地理的環境 …… 8

3　歴史的環境 …… 13

A　文献資料からみた和島村周辺 …… 13

B　周辺の遺跡 …… 14

1）弥生時代・古墳時代 …… 14　　2）中　　世 …… 16

3）近隣の遺跡 …… 21

第Ⅲ章　調査の概要 …… 25

1　遺跡の名称 …… 25

2　グリッドの設定 …… 25

3　基 本 層 序 …… 25

4　遺構・遺物の検出状況 …… 27

A　遺　　構 …… 27

B　遺　　物 …… 27

第Ⅳ章　遺　　構 …… 29

1　記述の方法 …… 29

2　上層の遺構 …… 30

3　下層の遺構 …… 41

4　遺構の前後関係 …… 43

A　複雑な切り合い関係を持つ地点 …… 43

B　そ　の　他 …… 61

C　掘立柱建物 …… 64

第Ⅴ章　遺　　物 …… 66

1　記述の方法 …… 66

2　遺 物 各 説 …… 66

A　中世の遺物 …… 66
1）概　　要 …… 66　2）主な遺物 …… 69
B　近世の遺物 …… 76
C　古代の遺物 …… 76
D　古墳時代中期～後期の遺物 …… 77
1）概　　要 …… 77　2）主な遺物 …… 77
E　弥生時代後期～古墳時代前期の遺物 …… 79
1）概　　要 …… 79　2）主な遺物 …… 81
F　弥生時代中期の土器・縄文土器 …… 82
G　縄文時代・弥生時代の石器・石製品 …… 82
1）石　　鏃 …… 82　2）石　　錐 …… 85
3）石　　匙 …… 85　4）不定形剥片石器 …… 85
5）磨製石斧 …… 85　6）磨　石　類 …… 86
7）石　　錘 …… 86　8）砥石様の石製品 …… 87
9）石　　核 …… 87　10）玉作関係資料 …… 87
11）玉作工具類 …… 88　12）石　　棒 …… 88
3　遺物からみた遺構の年代 …… 89
A　上　　層 …… 89
B　下　　層 …… 94
4　遺物小考 …… 97
A　陶磁器の消費痕跡 …… 97
B　砥　　石 …… 98
C　被熱痕跡のある陶磁器について …… 99
D　弥生時代の鉄器について …… 100
E　石鏃の製作方法について …… 102
第Ⅵ章　自然科学分析 …… 105
1　胎土分析 …… 105
2　木材及び炭化材の樹種同定（平成11年度分析） …… 112
3　木器及び炭化材の樹種同定（平成13年度分析） …… 116
4　プラント・オパール …… 131
5　花粉化石群集 …… 136
6　木材及び炭化材の放射性炭素年代測定 …… 142
第Ⅶ章　ま　と　め …… 144
1　遺構の変遷 …… 144
2　捩文鏡について …… 152
《要　約》 …… 156
《引用文献》 …… 157
《付表（各種観察表）》 …… 161

挿図目次

第 1 図　和島バイパス建設に伴い調査された主な遺跡 …… 2
第 2 図　一次調査のトレンチの位置 …… 4
第 3 図　調査範囲 …… 5
第 4 図　年度別の調査範囲 …… 5
第 5 図　和島村の位置 …… 8
第 6 図　奈良崎遺跡の位置（1） …… 9
第 7 図　奈良崎遺跡の位置（2） …… 10
第 8 図　各地の降水量 …… 11
第 9 図　奈良崎遺跡周辺の地質 …… 12
第10図　遺跡周辺の荘・保 …… 13
第11図　遺跡周辺の防禦的集落 …… 15
第12図　遺跡周辺の古墳群 …… 16
第13図　遺跡周辺の弥生時代・古墳時代の遺跡 …… 18
第14図　遺跡周辺の中世遺跡 …… 20
第15図　遺跡周辺の塚 …… 22
第16図　姥ヶ入南遺跡の周溝墓と出土鉄器 …… 23
第17図　大武遺跡の層位と出土遺物 …… 24
第18図　グリッド設定図 …… 25
第19図　奈良崎遺跡の層序 …… 26
第20図　土器・陶磁器類の出土状況（1） …… 27
第21図　土器・陶磁器類の出土状況（2） …… 28
第22図　地点の名称 …… 30
第23図　削平段の位置と名称 …… 31
第24図　遺構の形状の分類 …… 32
第25図　（長）方形土坑の分類 …… 33
第26図　99SK1276遺物出土状況 …… 34
第27図　（長）方形土坑Ｃ類の規模 …… 34
第28図　（長）方形土坑Ｅ類の規模 …… 34
第29図　井戸の分布 …… 35
第30図　99SE813 …… 35
第31図　掘立柱建物の分類 …… 37
第32図　掘立柱建物の規模 …… 37
第33図　掘立柱建物の分布 …… 37
第34図　掘立柱建物の柱間寸法 …… 38
第35図　地下式坑の分布 …… 39
第36図　地下式坑の埋没過程 …… 40
第37図　地下式坑の分類 …… 40
第38図　1号周溝墓周溝の呼称 …… 42
第39図　古墳・墳墓の分布 …… 43
第40図　竪穴建物の分布 …… 43
第41図　8KL・9KL・10KL、10KL・11KLの遺構と変遷 …… 44
第42図　11HIJ・12HIJ、11J・12Jの遺構と変遷 …… 45
第43図　27G・28Gの遺構と変遷 …… 47
第44図　28H・29Hの遺構と変遷 …… 47
第45図　28IJの遺構と変遷 …… 48
第46図　28I・29Iの遺構と変遷 …… 48
第47図　28IJ・29IJの遺構と変遷 …… 49
第48図　26Lの遺構と変遷 …… 52
第49図　27LM・28LMの遺構と変遷 …… 52
第50図　27M・28Mの遺構と変遷 …… 53
第51図　28KLの遺構と変遷 …… 54
第52図　28LMの遺構と変遷 …… 54
第53図　29JKの遺構と変遷 …… 55
第54図　29KL・30KLの遺構と変遷 …… 55
第55図　30LM・31LMの遺構と変遷 …… 57
第56図　31J・32Jの遺構と変遷 …… 58
第57図　30JKLM・31JKLMの遺構 …… 59
第58図　30JKLM・31JKLMの遺構と変遷 …… 60
第59図　30OP・31OPの遺構と変遷 …… 61
第60図　29TU・30TUの遺構と変遷 …… 62
第61図　29NO・30NOの遺構と変遷 …… 62
第62図　20IJKL・21IJKLの遺構と変遷 …… 63
第63図　29LM・30LMの遺構と変遷 …… 63
第64図　柱間寸法別掘立柱建物の分布 …… 65
第65図　1号塚周辺貨泉 …… 69
第66図　器種分類図（1） …… 70
第67図　砥石の出土状況 …… 71
第68図　石塔類の出土状況 …… 71
第69図　粉挽き臼の出土状況 …… 71
第70図　茶臼の出土状況 …… 71
第71図　炉壁の出土状況 …… 72
第72図　鉄滓の出土状況 …… 72
第73図　器種分類図（2） …… 78
第74図　器種分類図（3） …… 78
第75図　器種分類図（4） …… 79
第76図　器種分類図（5） …… 80
第77図　溝の主な出土遺物（1） …… 90
第78図　溝の主な出土遺物（2） …… 90
第79図　地下式坑・（長）方形土坑から出土した陶磁器類 …… 91
第80図　井戸の主な出土遺物 …… 93
第81図　竪穴建物の出土遺物 …… 96
第82図　墳墓の出土遺物 …… 96
第83図　その他の下層遺構出土遺物 …… 96
第84図　珠洲すり鉢の消費痕跡 …… 98
第85図　珠洲甕の消費痕跡 …… 98

第86図　施釉陶磁器碗類の消費痕跡 …… 98
第87図　円形に割り揃えた施釉陶磁器の底部 …… 98
第88図　遠隔地産の砥石 …… 99
第89図　在地産の砥石（1）…… 99
第90図　在地産の砥石（2）…… 99
第91図　被熱痕跡のある陶磁器 …… 100
第92図　円礫由来の素材薄片と石鏃未成品 …… 104
第93図　三角ダイヤグラム位置分類図 …… 105
第94図　菱形ダイヤグラム位置分類図 …… 106
第95図　各要素の相関図 …… 109
第96-1図　木材及び炭化材の顕微鏡写真（1）…… 114
第96-2図　木材及び炭化材の顕微鏡写真（2）…… 115
第97-1図　木器・炭化材樹種（1）…… 123
第97-2図　木器・炭化材樹種（2）…… 124
第97-3図　木器・炭化材樹種（3）…… 125
第97-4図　木器・炭化材樹種（4）…… 126
第97-5図　木器・炭化材樹種（5）…… 127
第97-6図　木器・炭化材樹種（6）…… 128
第97-7図　木器・炭化材樹種（7）…… 129
第97-8図　木器・炭化材樹種（8）…… 130
第98図　試料の採取層位 …… 131
第99図　プラント・オパール分布図 …… 134
第100図　プラント・オパール …… 135
第101図　花粉化石分布図 …… 139
第102-1図　産出した花粉化石（1）…… 140
第102-2図　産出した花粉化石（2）…… 141
第103図　遺構の変遷（1）…… 147
第104図　遺構の変遷（2）…… 148
第105図　遺構の変遷（3）…… 149
第106図　遺構の変遷（4）…… 150
第107図　奈良崎遺跡・大武遺跡周辺の
　明治26年の土地更正図 …… 150
第108図　奈良崎遺跡と大武遺跡の関連 …… 151
第109図　奈良崎遺跡出土の捩文鏡 …… 152
第110図　鱗状文 …… 153
第111図　香川県円養寺C地区出土鏡 …… 154

表　目　次

第 1 表　一般国道116号改築事業の概要 …… 2
第 2 表　和島バイパス建設に伴い
　調査された主な遺跡 …… 2
第 3 表　郷本川河川改修に伴い
　調査された主な遺跡 …… 2
第 4 表　協議・調査の経過 …… 3
第 5 表　一次調査で検出された遺構・遺物 …… 4
第 6 表　奈良崎遺跡の調査・整理作業 …… 5
第 7 表　遺跡周辺の荘･保 …… 13
第 8 表　遺跡周辺の防禦的集落 …… 15
第 9 表　遺跡周辺の古墳（群） …… 16
第10表　遺跡周辺の弥生時代・古墳時代遺跡 …… 17
第11表　遺跡周辺の中世遺跡 …… 19
第12表　遺跡周辺の塚 …… 23
第13表　基本層序の土質 …… 26
第14表　遺構の略称 …… 29
第15表（長）方形土坑の分類 …… 33
第16表　99SE813井戸側部材計測表 …… 35
第17表　ピットの覆土 …… 37
第18表　地下式坑の分類 …… 40
第19表　土器の一生 …… 67
第20表　生産段階と生産痕跡 …… 67
第21表　土器にみられる使用段階以後の
　様々な痕跡 …… 68
第22表　器種構成表（1）…… 69
第23表　99SX926の銭貨（1）…… 74
第24表　99SX926の銭貨（2）…… 75
第25表　器種構成表（2）…… 76
第26表　器種構成表（3）…… 77
第27表　器種構成表（4）…… 77
第28表　須恵器胎土の特徴 …… 78
第29表　器種構成表（5）…… 79
第30表　遺構出土銭貨の構成（1）…… 92
第31表　遺構出土銭貨の構成（2）…… 92
第32表　出土遺物から推測される
　遺構の埋没年代 …… 93
第33表　主な下層遺構の年代 …… 96
第34表　新潟県域における
　弥生時代の鉄器一覧 …… 101
第35表　胎土性状表 …… 110
第36-1表　化学分析表（1）…… 110
第36-2表　化学分析表（2）…… 111
第37表　組成分類表 …… 111
第38表　木材及び炭化材の樹種同定結果 …… 112
第39表　木器（中世）の樹種同定結果 …… 121
第40表　遺構別出土木器の樹種利用傾向 …… 121
第41表　炭化材の樹種同定結果 …… 122
第42表　炭化材遺構別の検出樹種比較 …… 122
第43表　試料1ｇ当たりの
　プラント・オパール個数 …… 132
第44表　遺跡の時期区分（1）…… 145
第45表　遺跡の時期区分（2）…… 146

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

奈良崎遺跡は一般国道116号和島バイパス建設及び郷本川河川改修に伴い発掘調査が実施された。

一般国道116号は、柏崎市を起点に、刈羽郡刈羽村・西山町、三島郡出雲崎町・和島村・寺泊町、西蒲原郡分水町・吉田町・岩室村・巻町・西川町を経過し、新潟市に至る総延長77.6㎞の路線である。当路線は一般国道８号線及び北陸自動車道の代替路線として、また中越地区の幹線道路として、社会・経済の発展に大きな役割を果たすとともに、沿線２市７町３村の通勤・通学・買物などの生活道路として重要な役割を果たしている。

しかし、現116号のうち和島村島崎地区では、道路幅員が狭く人家連担部を通過するために、交通渋滞・交通事故・降雪時の交通障害・騒音・振動等の交通環境の悪化が深刻な社会問題となっていた。和島バイパスは、このような問題を解決し現道を地域の活動道路としての機能を回復させるほか、地域の幹線道路としての役割を果たすために「一般国道116号改築事業」の一部として計画されたもので、和島村両高から寺泊町硲田に至る延長6,260ｍの事業である（第１表）。

新潟県教育委員会（以下県教委）は建設省北陸地方建設局（以下北陸地建）の依頼を受け、昭和61・62年度に和島バイパス法線内の分布調査を行い、この区間に８遺跡以上の埋蔵文化財包蔵地があることを確認し、これを北陸地建に通知している。また県教委は奈良崎遺跡の一次調査を昭和63年７月に実施し、弥生時代から中世までの遺物包蔵地・城館・塚の性格が認められるとし、二次調査が必要である旨を北陸地建に伝達した。その後、北陸地建・県教委は協議を重ね、遺跡の性格・和島バイパスの工事工程や県教委の調査体制を考慮した結果、平成元年度10月に遺跡の一部1,980㎡について二次調査を行うこととし、残りの部分については、バイパス建設の工程に合わせ、断続的に調査を行うこととなった。

郷本川は明治６年に人工的に掘削された放水路である。明治30・44年、昭和36年には大規模な水害が起こり、そのたびに改修が行われてきたが、それでも水路幅が狭く、梅雨末期の集中豪雨時には、増水により周辺の水田・畑地が頻繁に堪水し、周辺農民にとっては深刻な問題となっていた。そこで新潟県土木部（以下県土木）は、郷本川の河川改修を計画した。県営事業に伴う遺跡発掘調査は、各市町村の教育委員会が実施することが新潟県下では慣例となっていたが、郷本川河川改修と和島バイパス建設のための工事が重複する地点が存在することと、調査面積が広大となることから、平成９年度１月、北陸地建・県土木・県教委と平成４年度に発足した財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下埋文事業団）の四者は協議を行った。その結果、郷本川河川改修と和島バイパス建設のための工事が重複する地点（第３図Ａ～Ｃ地点、以下Ａ地点とする）の遺跡発掘調査を、埋文事業団が行うことが決定した。その後四者は協議を重ね、平成10年２月には、平成11年４月より第３図Ａ～Ｃ地点の発掘調査を実施することが決定した。

なお、和島バイパス建設に伴い発掘調査された主要な遺跡には第２表の10遺跡があり、郷本川河川改修に関連して発掘調査が行われた主要な遺跡には第３表の２遺跡がある。これらの遺跡の位置については第１図に示した。

事業箇所名	起終点	延長	事業化	共　　用
刈　羽　拡　幅	自：柏崎市長崎新田 至：刈羽郡西山町和田	6,600ｍ	昭和48年度	昭和54年度全線４車線完成
西山バイパス	自：刈羽郡西山町和田 至：三島郡出雲崎町豊橋	9,170ｍ	昭和49年度	昭和60年度全線暫定２車線共用
出雲崎バイパス	自：三島郡出雲崎町豊橋 至：三島郡和島村両高	8,960ｍ	昭和53年度	一部を除き平成元年暫定２車線共用
和島バイパス	自：三島郡和島村両高 至：三島郡寺泊町硲田	6,260ｍ	昭和61年度	平成10年一部共用
寺　泊　拡　幅	自：三島郡寺泊町硲田 至：三島郡寺泊町敦ヶ曽根	3,150ｍ	昭和54年度	一部を除き昭和63年４車線共用

第１表　一般国道116号改築事業の概要

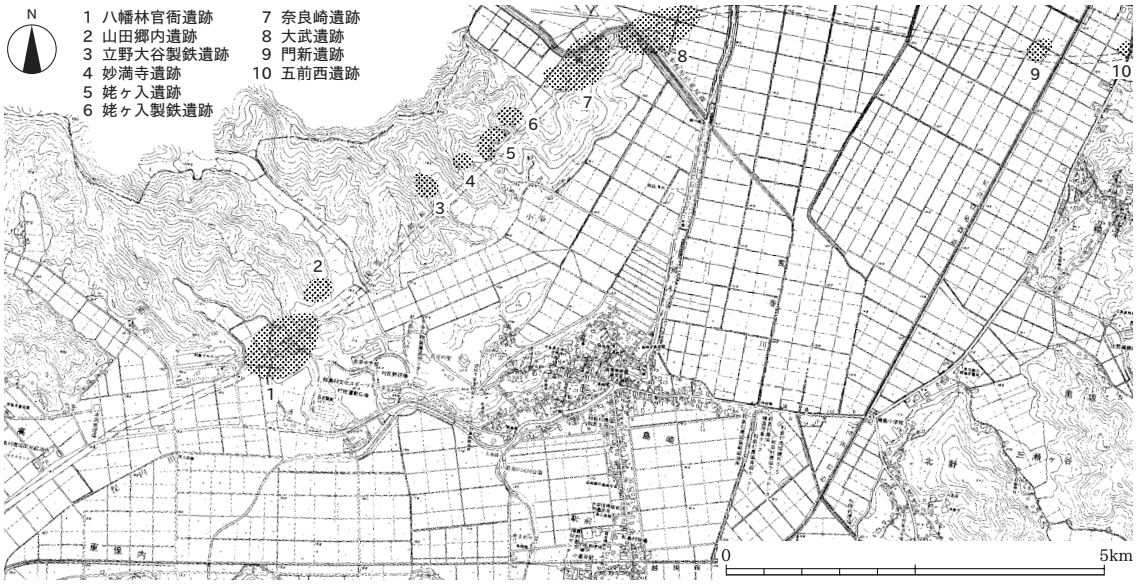
遺跡名／調査年度	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	報　　告	備　　考
八幡林官衙遺跡													未	二次調査は和島村教委が対応
山田郷内遺跡													未	二次調査は和島村教委が対応
立野大谷製鉄遺跡													未	二次調査は埋文事業団が対応
妙満寺遺跡													未	二次調査は和島村教委が対応
姥ヶ入南遺跡													未	二次調査は埋文事業団が対応
姥ヶ入製鉄遺跡													未	二次調査は埋文事業団が対応
奈良崎遺跡													本書	二次調査は埋文事業団が対応
大武遺跡													［春日ほか2000］（一部）	二次調査は埋文事業団が対応、一部未了有り
門新遺跡													未	二次調査は和島村教委が対応
五前西遺跡													未	立会い工事は埋文事業団が対応

第２表　和島バイパス建設に伴い調査された主な遺跡

遺跡名／調査年度	H10	H11	H12	H13	報　　告	備　　考
和島村奈良崎遺跡					本書、丸山［2000・2002］	H11の二次調査は埋文事業団、H12・13の二次調査は和島村教委が対応
和島村大武遺跡					未	二次調査は和島村教委が対応

凡例　立会い工事
一次調査
二次調査

第３表　郷本川河川改修に伴い調査された主な遺跡



第１図　和島バイパス建設に伴い調査された主な遺跡　　和島村　平成５年作製「和島村地図」　１：10,000原図

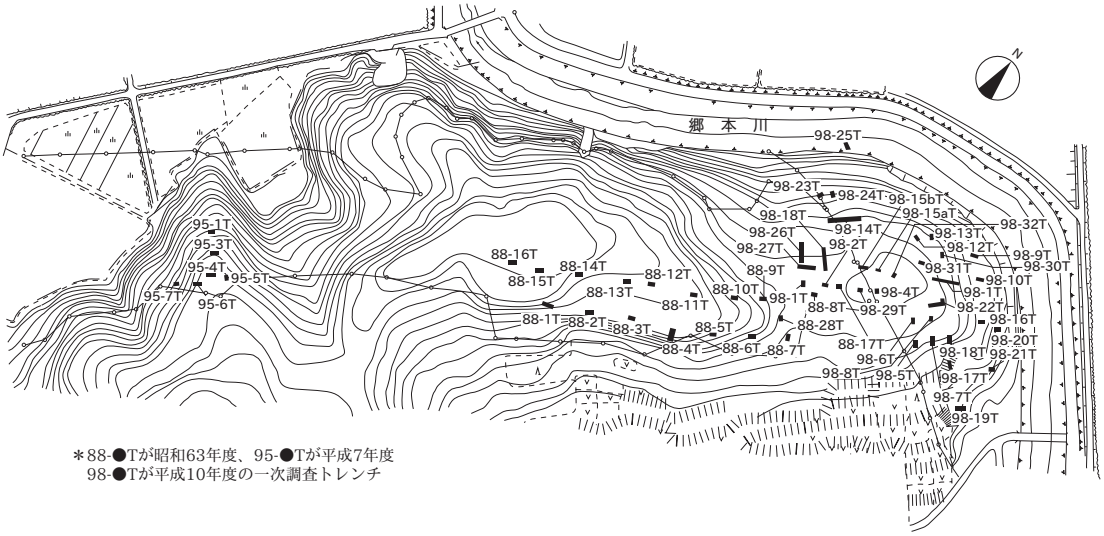
2　調査と整理作業

A　調 査 の 経 過

昭和63年度・平成7年度・10年度に一次調査、昭和63年度に立ち会い工事、平成元年度・4年度・10年度・11年度に二次調査を実施している。調査とそれに関連する協議の経過については第4表に示した。一次調査の設定とトレンチの位置、出土遺物・検出遺構については第2図・第5表に示し、調査必要範囲は第3図に、各年度の二次調査の範囲については第4図に示した。

年度	月	日	協議・調査	内　　容
昭和61～62	—		法線内分布調査	奈良崎遺跡を含む8遺跡以上が法線内に分布することを通知。
	—		北陸地建・県教委協議	昭和63年度に一次調査を実施することが決定する。
昭和63	7月	−	一次調査（第2図88-1T～88-13T）	二次調査必要範囲決定（第3図D・E・F）
	2月	10日	遺跡の一部地崩れに関する現地確認・北陸地建との打合せ	平成元年度調査範囲が決定する。
	2月	15日	地崩れに伴う工事立ち会い（第3図F）	
平成元	10月～12月	24日～5日	二次調査（第4図A）	調査面積は1,940㎡。
平成3	1月	18日	北陸地建・県教委協議	平成4年度二次調査範囲決定する。
平成4	4月	1日	埋文事業団発足	
	4月～7月	17日～10日	二次調査（第4図B）	調査面積は1,840㎡。
平成6	3月	—	北陸地建・県教委協議	平成7年度一次調査範囲決定する。
平成7	10月～11月	30日～10日	一次調査（第2図95-1T～95-7T）	対象面積は400㎡、調査面積は60㎡、二次調査必要なし（第3図Gの一部）。
平成9	12月	19日	北陸地建・県教委・埋文事業団協議	平成10年度の調査範囲決定。近隣に道の駅建設が決定したため、ポケットパーク部分の調査が不要となる（第3図E）。
	1月	9日	北陸地建・県土木・県教委・埋文事業団協議	郷本川河川改修と和島バイパス建設のための工事が重複する部分（第3図A～C）を、埋文事業団が調査を行うことが決定。平成10年度二次調査範囲決定する。
平成10	4月～12月	13日～14日	二次調査（第4図C）	調査面積は5,500㎡。
	10月～11月	7日～5日	一次調査	調査対象面積は6,700㎡、調査面積は300㎡、調査必要面積は6,700㎡。
	2月	17日	北陸地建・県土木・県教委・和島村教委・埋文事業団協議	平成11年度調査範囲が決定する。
平成11	4月～12月	19日～29日	二次調査（第4図D）	調査面積8,300㎡（建設省2,600㎡〔第3図B・Dの一部〕・県土木5,700㎡〔第3図A・C〕）。

第4表　協議・調査の経過



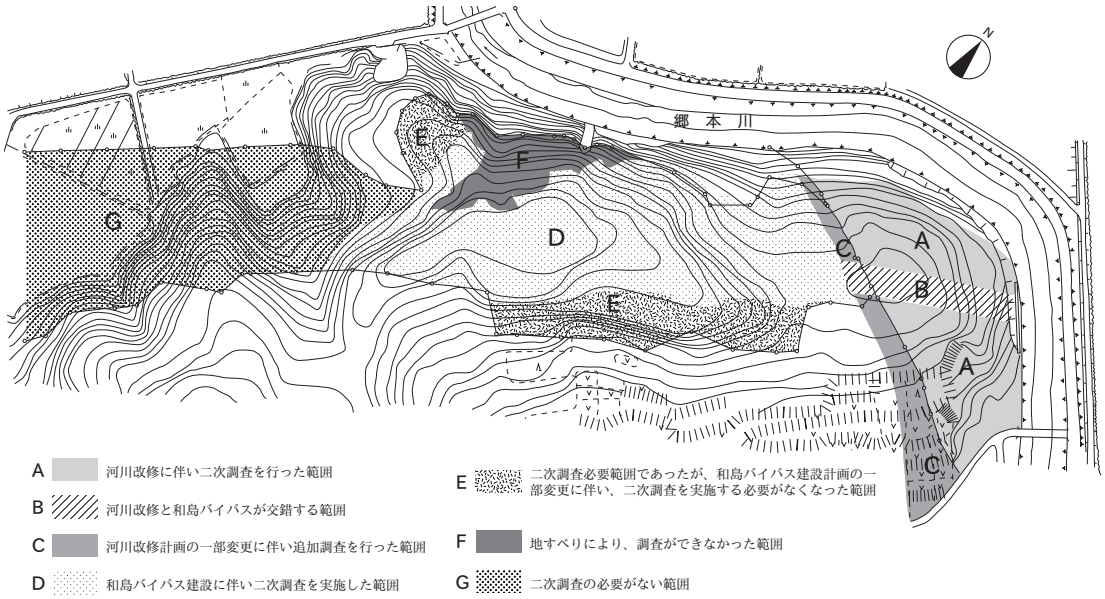
＊88-●Tが昭和63年度、95-●Tが平成7年度
98-●Tが平成10年度の一次調査トレンチ

第2図　一次調査のトレンチの位置　　国土交通省作製の平面図を一部改変

年度	トレンチ名	遺　物	遺　構	年度	トレンチ名	遺　物	遺　構
昭和63年	1トレンチ			平成10年	7トレンチ		溝1
昭和63年	2トレンチ			平成10年	8トレンチ	珠洲1	土坑2、溝4、ピット1
昭和63年	3トレンチ	土師器1、須恵器1、珠洲5		平成10年	9トレンチ		土坑1、ピット1
昭和63年	4トレンチ	肥前系陶磁器8		平成10年	10トレンチ		土坑3、溝1、ピット3
昭和63年	5トレンチ	須恵器1、青磁1		平成10年	11トレンチ	珠洲20、瀬戸・美濃3、砥石7、鉄滓2	土坑1
昭和63年	6トレンチ			平成10年	12トレンチ		土坑1、溝1
昭和63年	7トレンチ	珠洲1		平成10年	13トレンチ		土坑1、溝1
昭和63年	8トレンチ			平成10年	14トレンチ	土師器4	
昭和63年	9トレンチ			平成10年	15トレンチ	土師器350、剥片（石器）15、鉄滓2	土坑1、溝1、ピット5
昭和63年	10トレンチ			平成10年	16トレンチ	土師器14	
昭和63年	11トレンチ			平成10年	17トレンチ	珠洲1、瓷器系陶器1	
昭和63年	12トレンチ			平成10年	18トレンチ	珠洲3、砥石1、磨製石斧1	溝2
昭和63年	13トレンチ			平成10年	19トレンチ		
昭和63年	14トレンチ			平成10年	20トレンチ		ピット1
平成7年	1トレンチ			平成10年	21トレンチ		
平成7年	2トレンチ			平成10年	22トレンチ	珠洲18、瀬戸･美濃1、青磁1、砥石3、釘1	溝4、ピット2
平成7年	3トレンチ			平成10年	23トレンチ	土師器10、須恵器1、剥片（石器）2	
平成7年	4トレンチ	弥生土器1、近世陶器1		平成10年	24トレンチ	白磁1	
平成7年	5トレンチ			平成10年	25トレンチ		
平成7年	6トレンチ			平成10年	26トレンチ		
平成7年	7トレンチ			平成10年	27トレンチ	珠洲2、青磁1	溝1
平成10年	1トレンチ		溝、ピット1	平成10年	28トレンチ	珠洲1	ピット2
平成10年	2トレンチ		溝	平成10年	29トレンチ		
平成10年	3トレンチ		溝、ピット1	平成10年	30トレンチ		
平成10年	4トレンチ		土坑5、溝1、ピット3	平成10年	31トレンチ	土師器約100	
平成10年	5トレンチ	土師器10		平成10年	32トレンチ	土師器15	
平成10年	6トレンチ	青磁1	土坑2、ピット1				

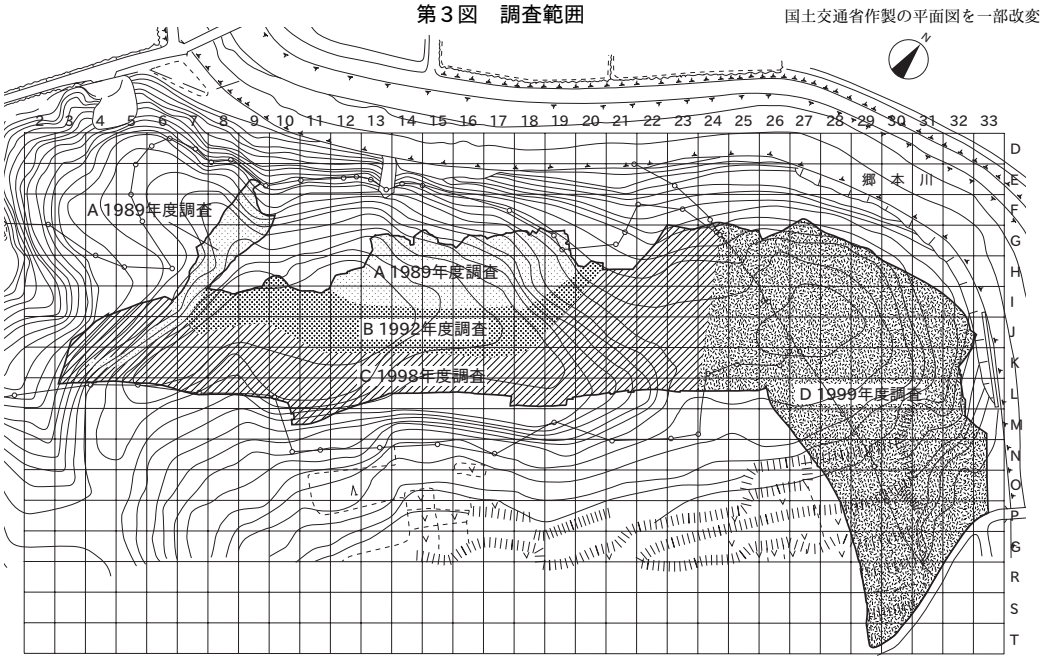
＊「土師器」には縄文土器･弥生土器が含まれる。
＊＊このほか、昭和63年度の一次調査では、出土トレンチが不明な珠洲5、須恵器10、瓷器系陶器1、土師器1が出土している。

第5表　一次調査で検出された遺構・遺物



A　河川改修に伴い二次調査を行った範囲
B　河川改修と和島バイパスが交錯する範囲
C　河川改修計画の一部変更に伴い追加調査を行った範囲
D　和島バイパス建設に伴い二次調査を実施した範囲
E　二次調査必要範囲であったが、和島バイパス建設計画の一部変更に伴い、二次調査を実施する必要がなくなった範囲
F　地すべりにより、調査ができなかった範囲
G　二次調査の必要がない範囲

第３図　調査範囲　　国土交通省作製の平面図を一部改変



第４図　年度別の調査範囲　　国土交通省作製の平面図を一部改変

年度／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昭和63年度				一次調査							立会い工事	
平成元年度							二次調査				基礎整理	
平成2年度												
平成3年度												
平成4年度	二次調査									基礎整理		
平成5年度												
平成6年度												
平成7年度							一次調査					
平成8年度												
平成9年度												
平成10年度	二次調査						一次調査			基礎整理		
平成11年度	二次調査									基礎整理		
平成12年度												
平成13年度	本格整理											
平成14年度	編集／印刷											

第６表　奈良崎遺跡の調査・整理作業

埋文事業団が発足する以前の昭和63年・平成元年の発掘調査は、新潟県教育委員会（以下県教委）が建設省（当時、現国土交通省）から受託して実施した。埋文事業団発足以後の平成4･7･10年の発掘調査は県教委が建設省より受託を受け調査主体となり、埋文事業団が調査にあたった。原因者が二者存在する平成11年の調査は、県教委が建設省、埋文事業団が県教委の要請を受け土木部から受託し、埋文事業団が調査に当たった。調査費用は調査面積比に応じ建設省と県土木で按分した。

調査の経過は、整理の経過と共に第6表に示した。調査体制は以下のとおりである。

調査体制

昭和63年度（一次調査）

調　　査	新潟県教育委員会（教育長　田中　邦正）
総　　括	大塚　克夫（文化行政課長）
管　　理	矢部　　亮（文化行政課課長補佐）
庶　　務	近　　文蔵（文化行政課主任）
調査指導	中島　栄一（文化行政課埋蔵文化財係長）
調査担当	山本　　肇（文化行政課文化財専門員）
調査職員	鈴木　俊成（文化行政課嘱託員）

平成元年度（二次調査）

調査期間	平成元年10月24日～11月5日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　田中　邦正）
総　　括	大塚　克夫（文化行政課長）
管　　理	矢部　　亮（文化行政課課長補佐）
庶　　務	境原　信夫（文化行政課主任）
調査指導	中島　栄一（文化行政課埋蔵文化財係長）
調査担当	高橋　　保（文化行政課主任）
調査職員	田中　　靖（文化行政課嘱託員）

平成4年度（二次調査）

調査期間	平成4年4月17日～7月10日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　堀川　徹夫）
調　　査	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	藍原　直木（事務局長）
管　　理	渡辺　耕吉（総務課長）
庶　　務	藤田　守彦（総務課主事）
調査総括	茂田井信彦（調査課長）
調査担当	藤巻　正信（調査課調査第二係長）
調査職員	赤羽　正春（調査課主任）
	木村　孝一（調査課嘱託員）

平成7年度（一次調査）

調査期間	平成7年10月30日～11月10日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　本間栄三郎）
調　　査	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	藍原　直木（事務局長）
管　　理	山上　利雄（総務課長）
庶　　務	泉田　　誠（総務課主事）
調査総括	亀井　　功（調査課長）
調査指導	寺崎　裕助（調査課調査第二係長）
調査担当	中沢　　毅（調査課主任調査員）
調査職員	大滝　正人（調査課文化財調査員）
	江口　友子（調査課文化財調査員）

平成10年度（一次調査・二次調査）

調査期間	平成10年4月13日～12月14日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　野本　憲雄）
調　　査	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	須田　益輝（事務局長）
管　　理	若槻　勝則（総務課長）
庶　　務	椎谷　久雄（総務課主任）
調査総括	本間　信昭（調査課長）
調査指導	高橋　　保（調査課調査第二係長）
調査担当	春日　真実（調査課文化財調査員）
調査職員	浦部　頼之（調査課文化財調査員）
	白井　利夫（調査課嘱託員）

平成11年度（二次調査）

調査期間	平成11年4月19日～12月29日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長　野本　憲雄）
調　　査	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	須田　益輝（事務局長）
管　　理	若槻　勝則（総務課長）
庶　　務	椎谷　久雄（総務課主任）
調査総括	本間　信昭（調査課長）
調査指導	高橋　　保（調査課第二係長）
調査担当	春日　真実（調査課主任調査員）
調査職員	霜鳥　正道（調査課主任調査員）
	小野塚徹夫（調査課主任調査員）
	村上　義則（調査課嘱託員）
	滝川　邦彦（調査課嘱託員）

B　整　理　作　業

二次調査を行った平成元・4・10・11年度の冬期（12～3月）にかけて基礎整理を行った。本格的な整理作業は、平成13年に実施した。県教委が国土交通省（以下国交省）、埋文事業団が県教委の要請に基づき県土木から受託し、埋文事業団が整理作業にあたった（第6表）。整理費用は調査面積比に応じ国交省と県土木部で按分した。

平成13年度の整理の体制は、以下のとおりである。

整理体制

整理期間　　平成13年4月1日～平成14年3月31日
整理主体　　新潟県教育委員会（教育長　板屋越麟一）
整　　理　　財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括　　須田　益輝（事務局長）
管　　理　　長谷川司郎（総務課長）
庶　　務　　椎谷　久雄（総務課主任）
整理総括　　岡本　郁栄（調査課長）
整理指導　　北村　　亮（調査課整理担当課長代理）
整理担当　　春日　真実（調査課主任調査員）
整理職員　　小池　義人（調査課主任調査員）
作　　業　　小倉　睦子　　小林智恵子　　渡辺　知子　　室塚　真弓　　高野智恵子（以上、嘱託員）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺 跡 の 位 置

奈良崎遺跡は、新潟県三島郡和島村大字島崎字奈良崎・字小谷にまたがって所在する。和島村は新潟県のほぼ中央部に位置し、「新潟県のヘソ」と呼ばれることもしばしばある（第５図）。北を三島郡寺泊町、南を三島郡出雲崎町・三島町、東を三島郡与板町に接し、西は日本海に面する。人口は5,232人（平成７年度10月国勢調査）、面積は31.86㎢である。村の総面積に占める宅地面積は3.1％、農地面積は30％、残りは山林などが占め、現在でも農村の景観をとどめている。

奈良崎遺跡は丘陵上に立地し、標高は最も高いところで約34ｍである。遺跡の北東から北西を取り巻くように郷本川が流れるが、これは明治６年に人工的に掘削された放水路である（第６・７図）。道路法線用地となる以前の旧状は大半が山林であり、一部が畑地・水田として利用されていた。

2　地 理 的 環 境

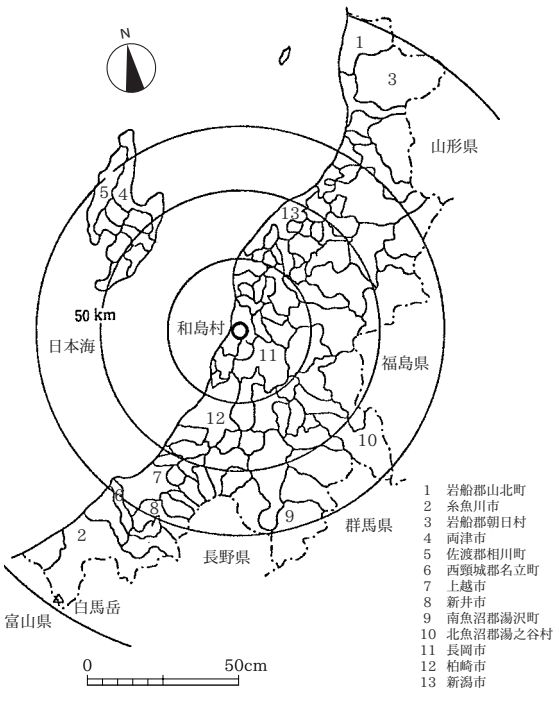
A　地　　勢

和島村の地形は東西に丘陵がのび、丘陵の間には沖積平野が広がる。また西側は日本海に接する。東西にある２つの丘陵については名称が統一されておらず、様々に呼称されているが、以下では東側の丘陵を三島丘陵、西側の丘陵を西山丘陵とする［岡本1993］。西山丘陵は柏崎市荒浜砂丘付近からのび、弥彦山・角田山へと続く標高100ｍ前後のなだらかで低い丘陵である。一方、三島丘陵は柏崎市曾地峠付近からのびる明瞭な尾根を持ち、大河津分水付近で信濃川と島崎川に挟まれるように新潟平野に没する。標高は、中永峠付近で約240ｍ、小木ノ城山付近で340ｍを超え、西山丘陵に比べかなり高い。

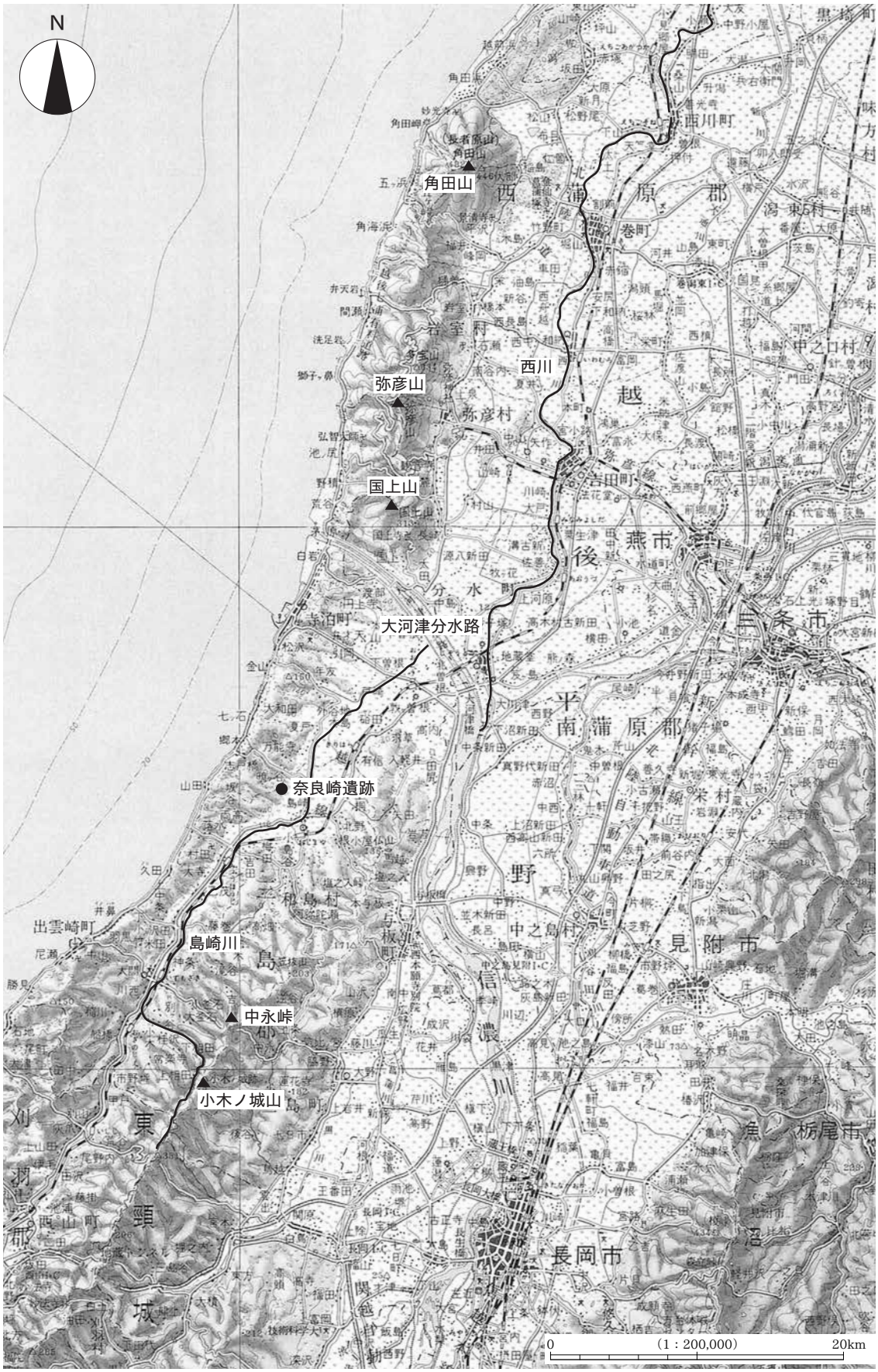
両丘陵の間を流れる島崎川は西山町と出雲崎町の境界付近に端を発する。現在の島崎川は大河津分水に合流するが、大河津分水が掘削される以前は西川と通じていた（第６図）。

島崎川の勾配は、出雲崎町乙茂付近から和島村と寺泊町の境界付近までは、1,000ｍにつき1.6ｍであるが、それ以北は1,000ｍにつき0.2ｍとかなり緩やかである。

川沿いの平野は、和島村村田付近から徐々に広がり、新潟平野へと連なっている。平野の幅は出雲崎町乙茂付近では500ｍ前後だが、寺泊町夏戸－桐原周辺で



第５図　和島村の位置　藤田・長谷川［1996］より転載



第６図　奈良崎遺跡の位置（1）　　国土地理院　昭和57年発行［長岡］　1：200,000原図

第７図　奈良崎遺跡の位置（2）　　和島村　昭和57年修正「和島村2」　1：5,000原図

は約２㎞前後となる。

これらの丘陵や平野は概ね南南西－北北東の方向性がみられる。この方向は広く新潟県の中・下越地方にみられるもので、「新潟方向」と呼ばれ、地層が圧力を受けたことで生じる褶曲軸の方向と考えられている［藤田・長谷川1996］。島崎川流域の平野は、褶曲により生じた谷に流れる川の堆積作用によって形成されたものと考えられる。西側の海岸は基本的には岩礁である。砂丘はほとんど存在しない。これは、西山丘陵の分水嶺が海岸側に偏しているため、海に開く谷を持った河川が存在せず、砂が供給されない結果である（第６図）。

B　地　　層

和島村の地層の分布を見ると村中央の沖積地を挟んで、対照的な配置が見られる。外側から西山層・灰爪層・魚沼層がそれぞれ分布しており、これらの地層が丘陵を構成している（第９図）。

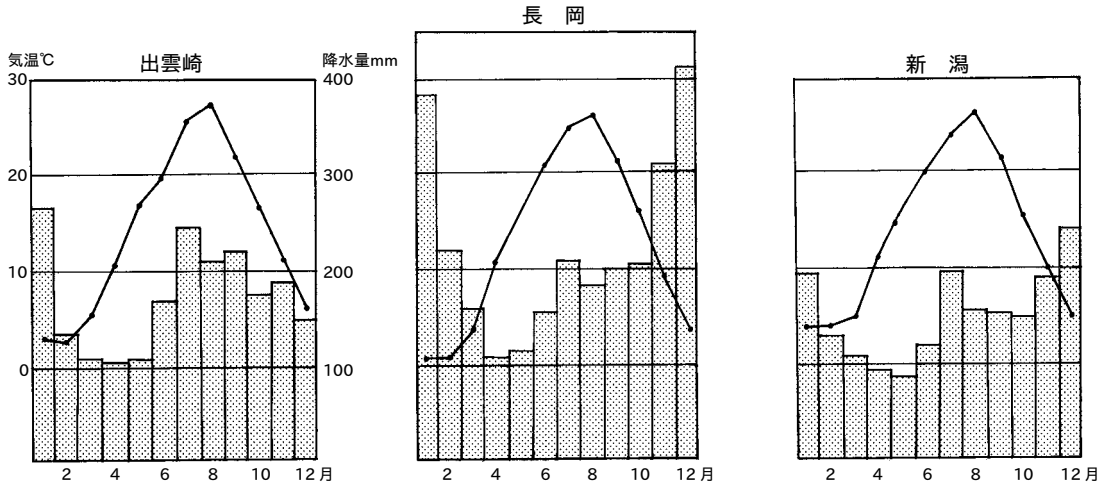
各地層は土質・地層中の貝化石・珪藻化石・火山灰などから、地層の堆積した年代と環境がおおむね明らかになってきており、西山層は第三紀鮮新世の海中、灰爪層は第四紀更新世前期頃の浅海、魚沼層は第四紀更新世前期から中期にかけて浅海から内湾そして潟へと変化していく過程で堆積した土層とされる［藤田・長谷川1996］。和島村から出土する土器の胎土中に海綿骨針が含まれるものが定量確認できるのは、丘陵の大半が海成層による事と関連するものと思われる。

西側の丘陵と沖積地の間に点在する台地は和島層と呼ばれる土層により形成される。和島層はシルト層と小礫を含む砂層から構成される土層で、第四紀更新世中期頃に河川堆積により堆積した土層である。これらの土砂を運んだ川は、土中に含まれる礫が小型であることから流れの弱い小河川と考えられている［藤田・長谷川1996］。

奈良崎遺跡の立地する丘陵は粘土と砂の互層であり、ピンク色の火山灰層が存在することから魚沼層を基盤としているものと考えられる。

C　気　　象

和島村は海岸に近く、北部に広がる平野を除く三方を丘陵に囲まれるために、年間を通じての気候変化



1951～1970年の平均値
13.8℃　2090mm

1960～1989年の平均値
12.9℃　2665mm

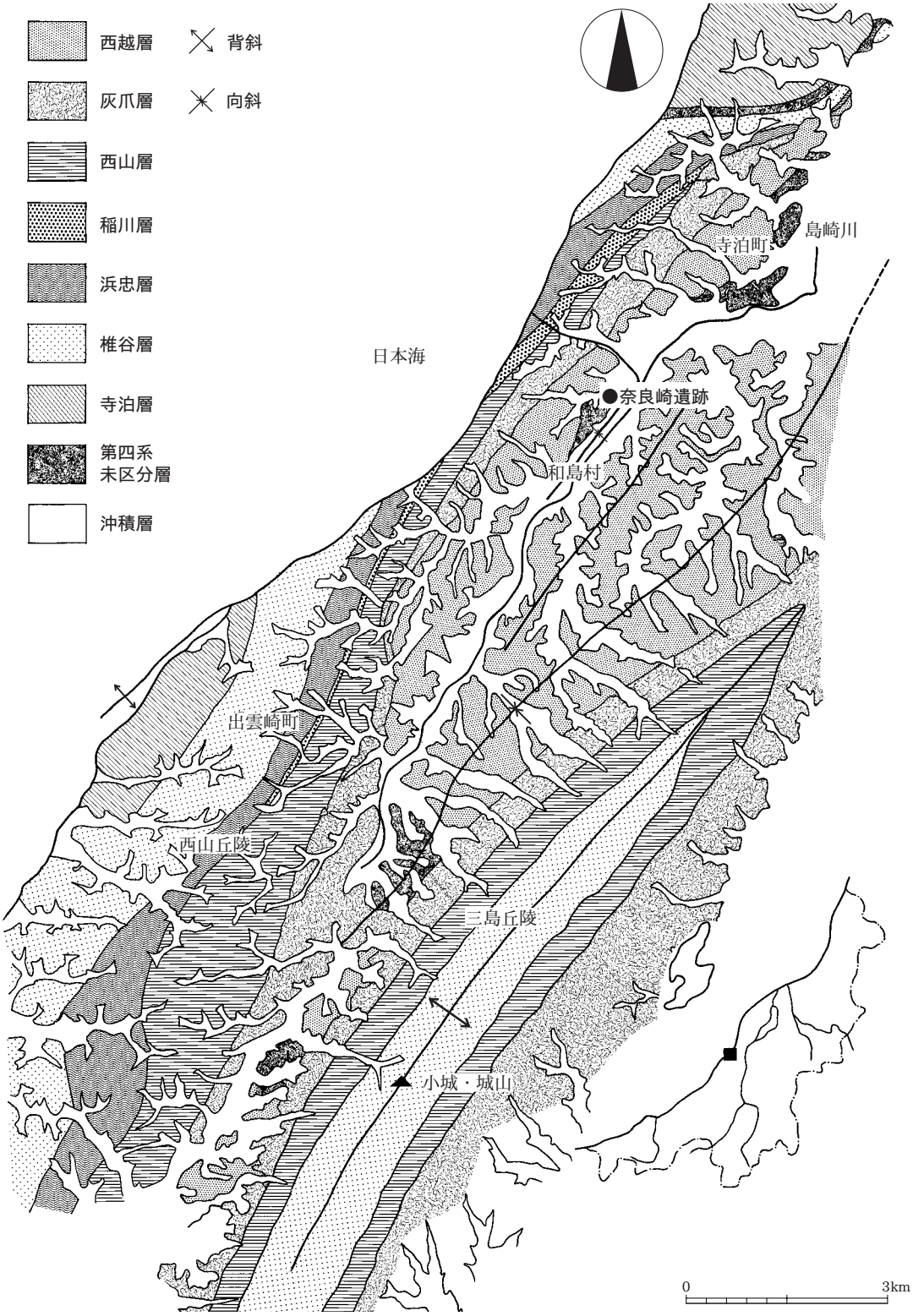
1951～1980年の平均値
13.1℃　1822mm

第８図　各地の降水量

岡本［1993］より転載、一部改変

がそれほど激しくなく、新潟県内では恵まれた地域といえる。

夏は日中海風が入りやすく、比較的涼しい日が多い。冬は比較的温暖で、降雪量も少なく、北部の平野部で積雪が30㎝を超えることは近年ではほとんどない。冬期に比較的温暖なのは上記の理由のほかに対馬海流の影響も大きいと考えられる。第７図には近接する出雲崎町と長岡市・新潟市の気温と降水量を示



第９図　奈良崎遺跡周辺の地質　　岡本［1993］より転載、一部改変

した。長岡と較べ平均気温で1℃高く、冬期間の降水量はかなり少ない。

3　歴 史 的 環 境

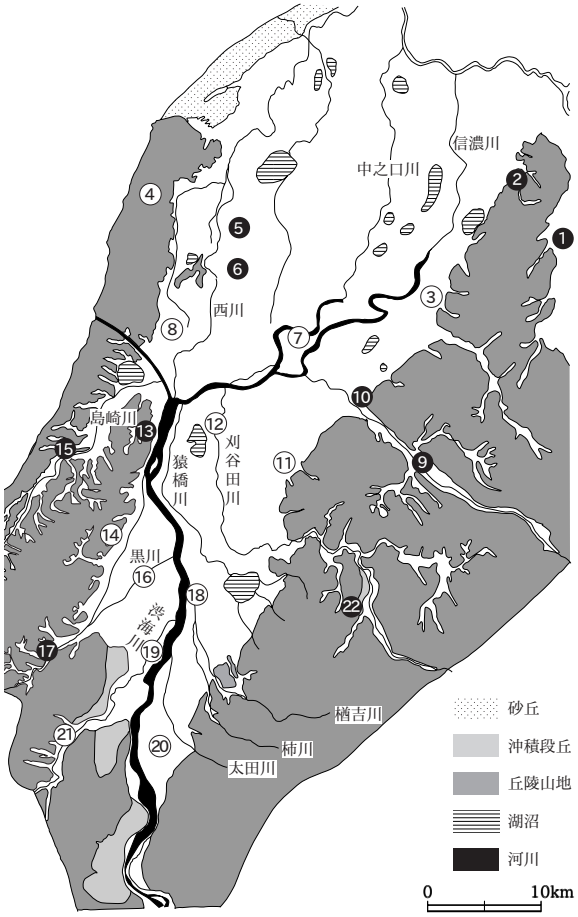
A　文献資料からみた和島村周辺

古代の三嶋・現在の三島　　平安時代中頃に編纂された『延喜式』には、越後国に頸城・古志・三嶋・魚沼・蒲原・沼垂・石船の6郡があったことが記されている。和島村は現在三島郡に属するが、これは延喜式に現れる三嶋とは基本的に一致しない。延喜式の三嶋郡は、9世紀初頭から後半の間に古志郡から分立した郡であり［米沢1980］、現在の柏崎市および刈羽郡とおおむね一致した地域と考えられる。和島村周辺は、古代においては古志郡に属していたと考えられる。

南北朝頃から三嶋郡は刈羽郡と呼ばれるようになる。また古志郡は、信濃川右（東）岸の地域が東古志郡、信濃川左（西）岸の地域が西古志郡もしくは山東郡と呼ばれるようになった。そして安土・桃山時代から江戸時代初頭頃に山東郡が「三島郡」に変化し、現在へ至ったものと考えられている［井上1976］。

西川・島崎川流域の荘園・国衙領　　平安時代後期（11世紀後半から12世紀）頃には、各地に盛んに荘園が作られた。一方、荘園の伸長にともない、国衙領においても地方行政単位の再編がおこった。それが郷・保と呼ばれる公領の成立である。

阿賀野川以南の新潟平野における荘・保の分布を第7表・第10図に示した。西川・島崎川流域に存在



第10図　遺跡周辺の荘・保（白ヌキが保、黒字が荘）

番号	荘・保名	所　在　地	初　出
1	長 井 保	中蒲原郡村松町周辺	建武3(1336)年
2	金 津 保	新津市金津周辺	建武3(1336)年
3	青 海 荘	加茂市､南蒲原郡田上町・小須戸町､白根市・三条市・西蒲原郡中之口村の一部	文治2(1186)年
4	弥 彦 荘	新潟市南部から西蒲原郡巻町・岩室村・弥彦村周辺、西川町・吉田町の一部	大治4(1129)年
5	吉 田 保	西蒲原郡吉田町吉田周辺	応永13(1406)年
6	治 田 保	西蒲原郡吉田町下中野周辺	宝徳3(1451)年
7	大 槻 荘	三条市・加茂市・燕市の一部	文治2(1186)年
8	福 雄 荘	西蒲原郡分水町、燕市と弥彦村の一部	文治2(1186)年
9	五十嵐保	南蒲原郡下田村周辺	明徳4(1393)年
10	大 崎 保	三条市大崎周辺	文明3(1471)年
11	大 面 荘	見附市・南蒲原郡栄町・三条市南部	文治2(1186)年
12	出雲田荘	南蒲原郡栄町、三条市･見附市の一部	大永7(1527)年
13	小加礼井保	三島郡寺泊町軽井・入軽井周辺	永徳2(1382)年
14	吉 河 荘	三島郡三島町を中心に同郡出雲崎町・和島村に及ぶ地域	保延6(1140)年
15	乙 面 保	三島郡出雲崎町・和島村の一部	応永33(1426)年
16	白 鳥 荘	長岡市西部･三島町･出雲崎町の一部	安元2(1176)年
17	大 積 保	長岡市大積町周辺	至徳元(1382)年
18	大 島 荘	長岡市市街地周辺	仁平2(1152)年
19	紙 屋 荘	長岡市南西部・三島郡越路町東部・小千谷市片貝・高梨周辺	保元元(1156)年
20	志度野岐荘	小千谷市東部から長岡市南部	文治2(1186)年
21	太 田 保	三島郡越路町周辺	天正7(1579)年
22	高 波 保	栃尾市・見附市南西部・長岡市北東部周辺	文明19(1478)年

第7表　遺跡周辺の荘・保

した荘園には、弥彦荘（巻町・弥彦村・岩室村の全域、新潟市・吉田町・分水町・燕市の一部）、福雄荘（分水町・燕市の一部）、吉河荘（三島町を中心に和島村から出雲崎町の一部）・白鳥荘（長岡市西部から和島村・出雲崎町の一部）があり、国衙領には、吉田保（吉田町）・治田保（吉田町下中野周辺）、小加礼井保（寺泊町軽井・町軽井周辺）、乙面保（出雲崎町乙茂周辺）、於木保（出雲崎町小木周辺）などがある。ここでは、西川・島崎川流域に国衙領が一定量確認できる点に注目したい。古代における西川・島崎川が交通・運輸において果たした役割の重要性については、坂井秀弥の研究［坂井1995］により明らかになっている。また、河川交通と国衙領の関連については県北の瀬波川（三面川）・荒川を事例とした井上鋭夫の研究や石井進の指摘がある［井上1981・石井1981］。

河川交通などの掌握を重要な目的の一つとして、西川・島崎川沿いに国衙領が設置された可能性が考えられる。中規模河川と関連すると思われる国衙領は他にも多く確認でき、新潟平野周辺では能代川と金津保・長井保、五十嵐川と大崎保・五十嵐保、刈谷田川と高波保、魚野川と藪上郷・浦佐保、渋海川と大田保・小国保・松山保、黒川と大積保などがある。奈良崎遺跡はその位置から乙面保との関係が推察される。

南北朝の動乱と島崎城郭　建武元（1334）年に成立した後醍醐天皇の新政は、成立後まもなく瓦解し、足利尊氏は京都に室町幕府を開き武家政権を復活させる。しかし、後醍醐天皇は大和国吉野に逃れ対抗した。動乱は足利氏（北朝）側の勝利に終わるが、半世紀以上にわたって足利氏（北朝方）と大和国吉野の南朝方の争いが全国的に展開した。

越後においては、加地・和田・黒川・色部など阿賀北の領主層の多くが北朝方につき、小国・河内・池・小木・風間・高梨・千屋などの阿賀野川以南の新潟平野（周辺）の領主層は南朝方についた。当初は南朝方が優勢であったが、足利尊氏が京都を占領するころ（延元元（1336）年）になると中央の情勢に連動し北朝方が優勢となったが、文和４年（1355年）頃まで騒乱は続いた。

和島村では、建武３（1336）年に、小木・風間・河内・池氏が「島崎城郭」に立て篭もり、色部高長・加地景綱など阿賀北の北朝方の勢力と戦ったことが「色部高長軍忠状案」により知られ、「島崎城郭」が搦手（城の背後）より責められ、落城したことが記されている。小木氏は出雲崎町周辺、風間氏は和島村村田周辺、池氏は中之島町から三条市周辺、河内氏は村松町周辺に勢力を持つ領主である。「島崎城郭」の比定地は奈良崎遺跡（奈良崎城跡）とするのがこれまで最も有力な考えであった［鳴海1997］。

B　周 辺 の 遺 跡

1）弥生時代・古墳時代

県内の防禦的集落・古墳（群）

防禦的集落　県内の防禦的集落として、甘粕　健は31の遺跡をあげた［甘粕1993］。一方、小池義人は、丘陵・台地上で弥生土器が少量出土しているのみの遺跡は除外し、23の遺跡を防禦的集落とした［小池2000］。第11図には小池の示した23遺跡のうち、蒲原平野に分布するもの13遺跡に田中　靖から教示を受けたもの１遺跡、小池の集成では除外されたが、防禦的集落としても良いと判断したもの４遺跡を加えた19遺跡を示した（第8表）。信濃川右岸と左岸の丘陵に対峙するように、防禦的集落が分布する点が注目される。

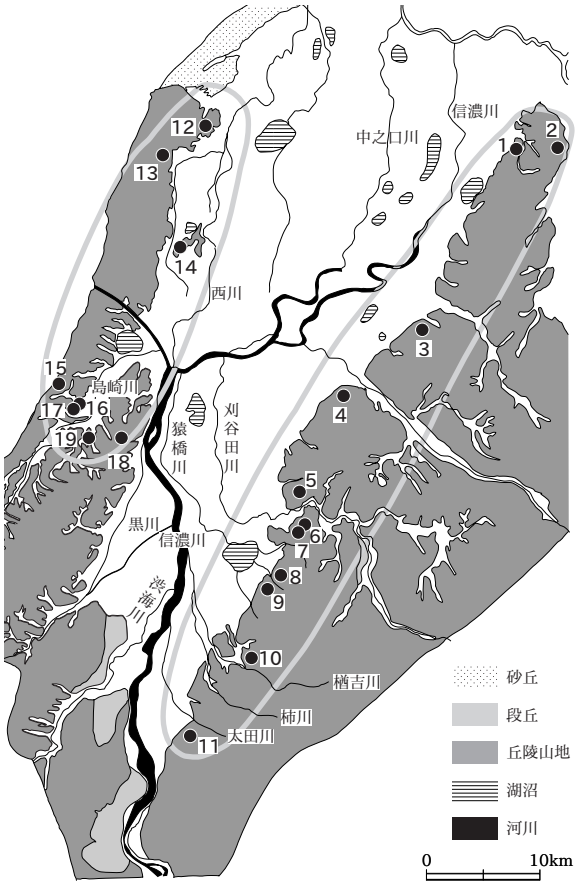
古　墳（群）　県内の古墳（群）は60か所以上が知られる。このうち阿賀川以南の蒲原平野には前期古墳を中心に26か所の古墳（群）が存在する。防禦的集落同様、信濃川右岸と左岸の丘陵に対峙するように古墳（群）が分布している点が注目される（第12図・第9表）。防禦的集落と前期古墳が同一もしくは近

接した場所に存在する例が定量あることが指摘されており［甘粕1993・広井1996など］、巻町山谷古墳と山谷下層遺跡、弥彦村稲葉塚古墳と稲葉塚下層遺跡、新津市古津八幡山古墳と八幡山遺跡、和島村・寺泊町赤坂遺跡と寺泊町大久保古墳群などがその例としてあげられる。奈良崎遺跡もこれらの例に含まれるものと考えられる。これらのことから、弥生時代後期の軍事的緊張関係を契機に、各地に政治勢力が形成されていったとする考えもある［甘粕1993］。

周辺の弥生時代・古墳時代の遺跡（第10表・第13図）

墳墓・古墳　三島丘陵先端付近に2.諏訪田遺跡（弥生中期：土坑墓・木棺墓）［寺村ほか1991］、5.横滝山舞台塚古墳（古墳後期？：円墳？）［新潟県教育委員会1980］、6.夷塚古墳（古墳後期？：円墳？）［新潟県教育委員会1980］、8.大久保古墳群（古墳前期：前方後円墳2基・方墳2基・円墳5基）［寺村1991］が確認できる。また島崎川中流域には20.奈良崎遺跡（弥生後期～古墳前期：周溝墓3基、方墳1基、円墳？1基）［本書］、21.姥ヶ入南遺跡（弥生後期～古墳前期：円墳1基）［和田1997、管井1998］、33.下小島谷古墳群（前方後方墳2基・方墳1基）［駒見1997］、が確認でき、三島丘陵先端付近と島崎川中流域付近にそれぞれ分布のまとまりが確認できる。

集落遺跡　平野部の微高地上に位置する遺跡（A類）、丘陵裾（付近）に立地する遺跡（B類）、平野部との比高15ｍ以下の低丘陵上に位置する遺跡



第11図　遺跡周辺の防禦的集落

番号	遺跡名	所在地	年　代	文　献	備　考
1	八幡山遺跡	新津市金津	弥生後期・末	川上1994a 渡辺1995	「V」字状溝4、竪穴建物27、前方後方形周溝墓1、方形周溝墓2
2	大倉山遺跡	五泉市橋田	弥生後期	川上1994b	溝？
3	二ツ山山頂遺跡	三条市上保内	弥生後期	長谷川・本間1989	
4	経塚山遺跡	三条市如法寺	弥生後期	金子1999	「V」字溝2、竪穴建物3
5	大平城跡	見附市島切窪町	弥生後期	関ほか1974	「V」字状溝、墳墓2
6	岩沢遺跡	見附市名木野町	弥生後期	田中1988	竪穴建物4
7	高稲場遺跡	見附市名木野町	弥生後期	田中1988	「V」字状溝1、竪穴建物1
8	横山遺跡	長岡市桂町	弥生中期・後期･末	駒形ほか1987	「V」字状溝3、竪穴建物4、方形周溝墓1
9	原山遺跡	長岡市加津保町	弥生後期	長岡市1992	
10	堅正寺遺跡	長岡市御山町	弥生後期	長岡市1992	
11	阿部山遺跡	長岡市滝谷町	弥生後期	長岡市1992	
12	大沢遺跡	巻町稲島	弥生後期	小野ほか1982	竪穴建物4、方形周溝墓1
13	山谷古墳下層遺跡	巻町福井	弥生後期	甘粕ほか1993	
14	稲場塚古墳下層遺跡	弥彦村山岸	弥生後期	稲場塚古墳測量調査団1993 滝沢2000	
15	名称未定	寺泊町	弥生後期	田中　靖教示	
16	奈良崎遺跡	和島村島崎	弥生中期・後期･末	本書	周溝墓3、竪穴建物10
17	姥ヶ入南遺跡	和島村小谷	弥生後期？	和田1997 管井1998	「V」字状溝1、周溝墓1
18	赤坂遺跡	寺泊町和島村上桐	弥生後期	田中・鈴木1996	「V」字状溝4、竪穴建物4
19	大平・大稲葉・上畑遺跡	和島村大平	弥生後期	田中1989	

第8表　遺跡周辺の防禦的集落

（C類）、平野部との比高15ｍ以上の丘陵上に立地する遺跡（D類）に分類が可能である。

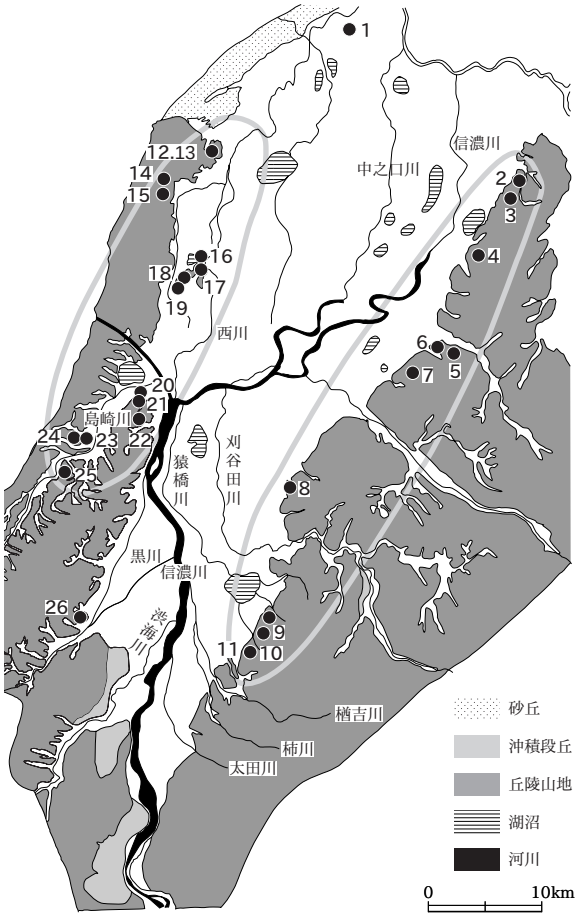
分類別の遺跡数をみるとA類は少なく、B類が最も多い。特に三島丘陵西側の丘陵裾（付近）には多くの遺跡が確認できるが、これは三島丘陵西側に比べ、西山丘陵東側の斜面が畑地として利用されている率が低く、遺物の採集が困難であることに由来している可能性もある［田中1989］。

また、A類が少ない状況も、遺跡が地下に埋没しているために発見されづらいという要因が考えられる。今後の調査の進展に伴い、A類が増加する可能性はあろう。D類はいわゆる「高地性集落」と考えられ、時期を弥生時代後期にほぼ限定できる。

2）　中　　世

周辺の中世遺跡（第11表・第13図）

集 落 遺 跡　　和島村では、中世の遺跡は城館跡



第12図　遺跡周辺の古墳群

番号	遺跡名	所在地	構成・形状	年代	文献	備考
1	緒立八幡神社古墳	新潟市黒鳥	円墳（長径30ｍ）	古墳前期	吉田ほか1982	
2	古津八幡山古墳	新津市金津	造出付き円墳（直径55m）	古墳前期	甘粕ほか1992	高地性集落と重複
3	円塚古墳	小須戸町矢代田	円墳（直径19m）		広野1989	
4	蝦夷塚古墳	田上町上野	円墳（直径22m）		広野1989	
5	福島古墳群	加茂市福島	円墳2基（ともに15m）、他に3基	古墳前期?	広野1989	
6	宮ノ浦古墳	加茂市福島・三条市宮ノ浦	円墳（直径19m）	古墳前期?	広野1989	
7	保内三王山古墳群	三条市上保内	前方後円墳1（全長37m）、前方後方墳1、円墳9、造出付き円墳1（直径24m）、方墳1	古墳前期後期	甘粕ほか1989	高地性集落と考えられる二ッ山遺跡と近接
8	山崎古墳群	見附市小栗山	前方後方墳1（全長14.5m）、円墳1（直径7m）、方墳1	古墳前期後期	金子ほか1991	
9	藤ヶ森古墳	長岡市亀崎町	方形周溝墓1、墳丘墓2	弥生末？	駒形1999	
10	麻生田古墳群	長岡市麻生田	円墳1、造出付き円墳1（直径19m）	古墳前期	麻生田古墳群測量調査団1991	
11	七ツ塚古墳群	長岡市	円墳5、造出付き円墳2	古墳前期	長岡市1996	
12	菖蒲塚古墳	巻町竹生野	前方後円墳（全長53m）	古墳前期	甘粕1994	
13	隼人塚古墳	巻町竹生野	円墳（直径15m）	古墳前期	甘粕1994	
14	山谷古墳	巻町福井	前方後方墳（全長38ｍ）	古墳前期	甘粕ほか1993	高地性集落と重複
15	観音山古墳	岩室村樋曽	円墳（直径20m）	古墳前期	甘粕ほか	
16	鮒穴古墳	弥彦村鮒穴	円墳	古墳後期	県教委1980	
17	夷塚古墳	弥彦村井田	円墳	古墳後期	滝沢2000	
18	稲場塚古墳	弥彦村山岸	前方後円墳（全長18m）	古墳前期	稲場塚古墳測量調査団1993	高地性集落と重複
19	十三宝古墳	弥彦村山岸	円墳	古墳後期	県教委1979	
20	横滝山舞台塚古墳	寺泊町竹森	円墳	古墳後期	県教委1980	
21	蝦夷塚古墳	寺泊町竹森	円墳	古墳後期	県教委1980	
22	大久保古墳	寺泊町町軽井	前方後円墳2（全長25・18m）、方墳3（長軸12・6.5・7m）	古墳前期	寺村ほか1991	高地性集落である赤坂遺跡に近接
23	奈良崎遺跡	和島村島崎	円墳？1、方墳1、周溝墓3	弥生後～古墳前期	本書	高地性集落と重複
24	姥ヶ入南遺跡	和島村小谷	円墳？1（直径3.3m）		和田1998 菅井1999	高地性集落と重複
25	下小島谷古墳群	和島村小島谷	前方後円墳3（全長17・12.2・6m）	古墳前期	駒見1994	
26	大萱場古墳	長岡市雲出	円墳（15m）1基	古墳後期	駒形ほか1985	

第9表　遺跡周辺の古墳（群）

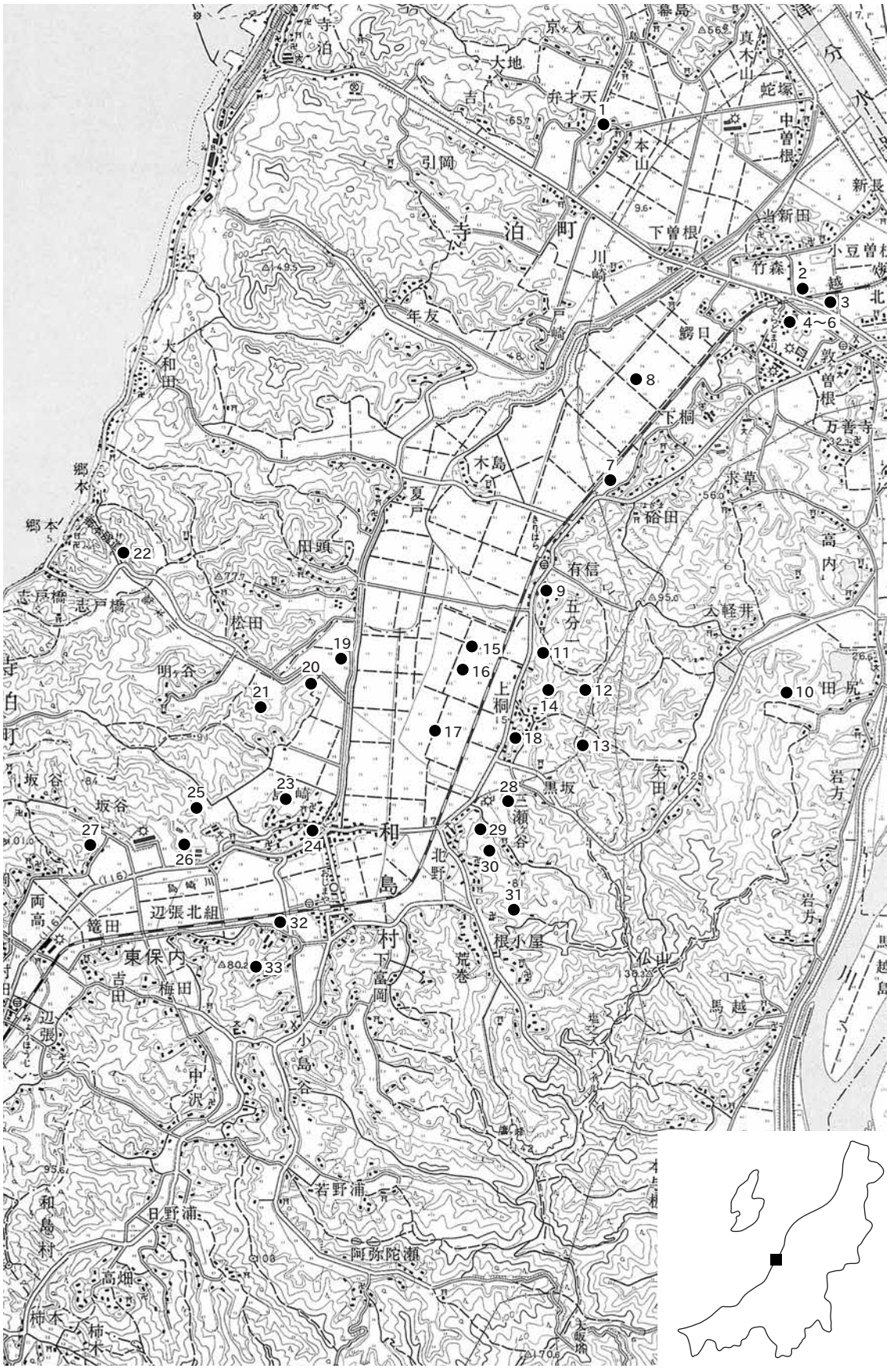
と時期不明の塚を除けばほとんど確認されていなかったが、近年の和島バイパスの建設などによる発掘調査などで、その実体が少しずつ明らかになっている。中世の集落跡と考えられる遺跡の立地は、台地・丘陵上もしくは丘陵の先端に位置する遺跡（上桐神社遺跡・中道遺跡・奈良崎遺跡）、丘陵裾の谷口付近に位置する遺跡（山田郷内遺跡）、低地の微高地上に位置する遺跡（大武遺跡・下ノ西遺跡）の３種に大別できる［戸根1997］。

なお、現在集落跡と推定されている遺跡の数は７カ所で、これは城館跡の18か所に比べ、非常に少ない。和島村周辺では、いわゆる新田村はほとんどみられず、現存する集落名のほとんどが慶長３（1598）年の検地帳に表れる。当地には小さな谷が多く見られ、これらの谷の周辺に現在の集落の大半が位置していることから、「谷水田を中心とした開発が、中世までに活発に行われていた」ために、現在の集落が中世遺跡と重複しており、遺跡が発見されていない可能性が考えられている［坂井1987］。また大武遺跡や国道116号出雲崎バイパスの建設に伴い調査された寺前遺跡のように平野部に埋没している遺跡も多く存在するものと思われる。

城　館　跡　　城館跡は山城と館の総称で、一般的には山城は戦の時に立て篭もるための軍事施設、館

番号	遺跡名	所在地	時　代	種別	分類	文　　献
1	舞台島遺跡	寺泊町本山字舞台島	弥生後期	散布地	B類	関1991
2	諏訪田遺跡	寺泊町竹森字諏訪田	弥生中期～後期・古墳前期	集落跡・墓	A類	関1991
3	京田遺跡	寺泊町竹森字京田	弥生中期～後期・古墳前期	集落跡	A類	関1991
4	横滝山廃寺跡	寺泊町竹森字横滝山	弥生中～後期、古墳後期	集落跡	C類	寺村ほか1977・1983・1984・1985
5	横滝山舞台塚古墳	寺泊町竹森字横滝山	古墳後期	古墳	－	新潟県教委1980
6	夷塚古墳	寺泊町竹森字横滝山	古墳後期	古墳	－	新潟県教委1980
7	土手上遺跡	寺泊町下桐字土手上	古墳後期	集落跡	B類	寺村ほか1999
8	古屋敷遺跡	寺泊町鰐口字古屋敷	弥生時代末～古墳前期	散布地	A類	戸根1991
9	五分一稲場遺跡	寺泊町五分一字稲場	古墳前期から中期	集落跡	B類	戸根1978
10	大久保古墳群	寺泊町町軽井字大久保	古墳前期	古墳	－	寺村1991
11	ヤケ山遺跡	和島村上桐字ヤケ山	弥生後期	散布地	D類	田中・鈴木1996
12	イブケ入遺跡	和島村上桐字イブケ入	弥生	散布地	D類	田中・鈴木1996
13	赤坂遺跡	寺泊町、和島村上桐字峠	弥生後期	集落跡	D類	田中・鈴木1996
14	上桐城遺跡	和島村上桐字城山	弥生	散布地	D類	田中・鈴木1996
15	門新谷内遺跡	和島村上桐字谷内	古墳前期から後期	集落跡	A類	田中・鈴木1996
16	門新外割田遺跡	和島村上桐字外割田	古墳中期	集落跡・水田	A類	田中1995
17	上新田遺跡	和島村上桐字上新田	古墳	散布地	A類	田中・鈴木1996
18	上桐神社裏遺跡	和島村上桐シテノ木・桐畑	弥生後期～古墳前期	散布地	C類	田中1989
19	大武遺跡	和島村島崎字大武	弥生中期・古墳前～後期	集落跡・水田	B類	永井1995・1996，春日1997・1998a
20	奈良崎遺跡	和島村島崎字奈良崎・小谷	弥生中期・古墳後期	集落跡・墳墓	D類	春日1999・2000
21	姥ヶ入南遺跡	和島村小谷字姥ヶ入	弥生後期～古墳前期	集落跡・墳墓	D類	和田1997・菅井1998
22	名称無し	寺泊町郷本	弥生後期	集落跡	D類	田中・鈴木1996
23	大塚遺跡	和島村島崎字大塚	弥生	散布地	C類	田中・鈴木1996
24	中央遺跡	和島村島崎字中央	弥生	散布地	C類	田中・鈴木1996
25	山田郷内遺跡	和島村島崎字山田郷内	古墳前期・中期	集落跡	B類	田中・鈴木1996
26	八幡林遺跡	和島村島崎・両高字八幡林	古墳前期	集落跡	C類	山本ほか1992・高橋ほか1993・田中1994
27	板谷遺跡	和島村西保内	古墳	散布地	B類	田中・鈴木1996
28	松ノ脇遺跡	和島村三瀬ヶ谷字松ノ脇	弥生中期～古墳前期	集落跡？	B類	丸山1998
29	大平遺跡	和島村北野字大平	弥生後期	散布地	D類	田中1989
30	大稲葉遺跡	和島村北野字大稲葉	弥生後期	散布地	D類	田中・鈴木1996
31	城遺跡	和島村北野字城	弥生後期	散布地	D類	田中・鈴木1996
32	下ノ西遺跡	和島村小島谷字下ノ西	古墳前期～後期	散布地	B類	田中・鈴木1996・田中ほか1998～2000
33	下小島谷古墳群	和島村小島谷字下小島谷	古墳前期	墳墓	－	駒見1997

第10表　遺跡周辺の弥生時代・古墳時代遺跡



第13図　遺跡周辺の弥生時代・古墳時代の遺跡

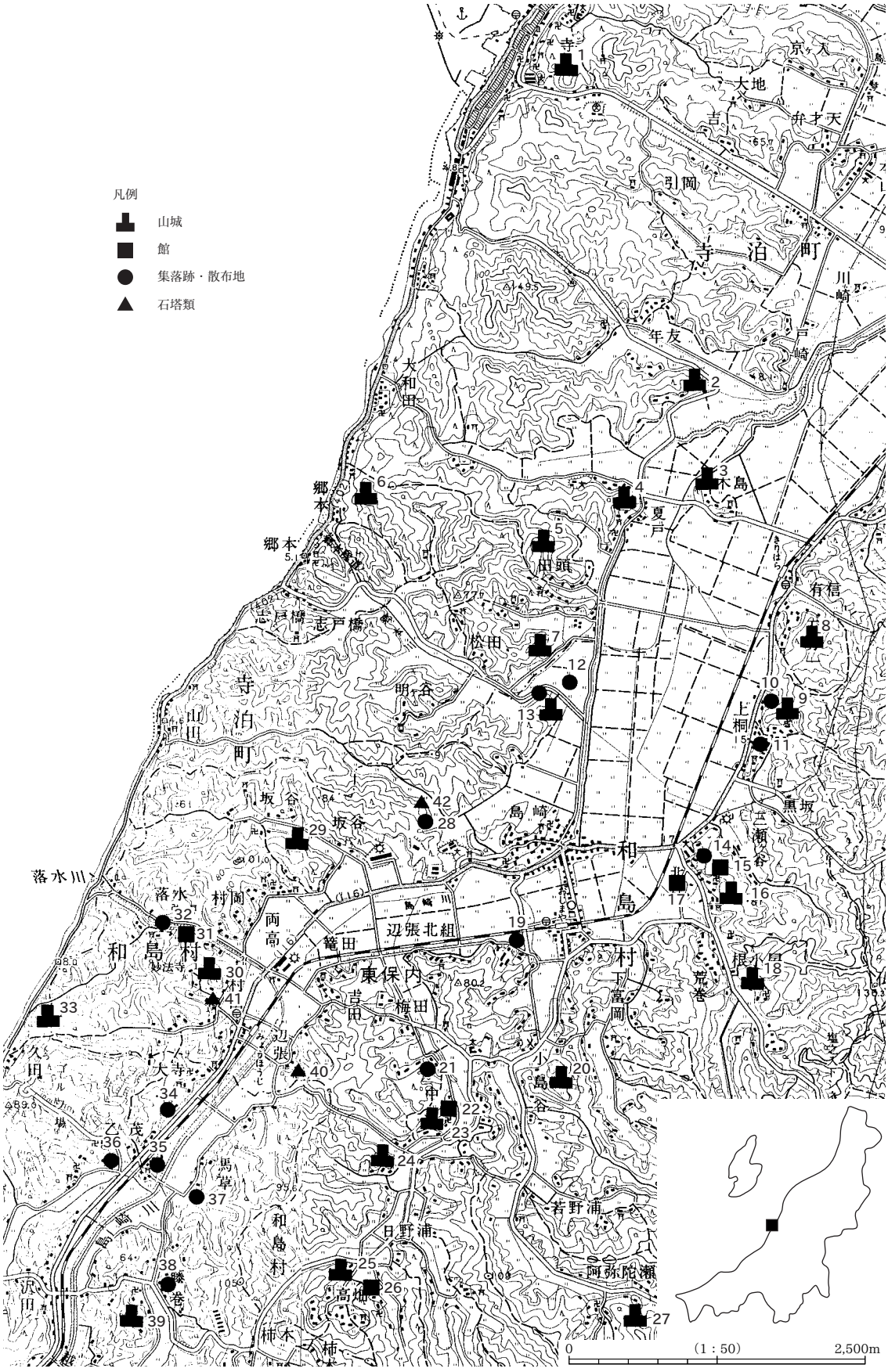
国土地理院　平成元年発行「三条」　昭和57年発行「出雲崎」1：50,000原図

は有力者が普段住んでいた生活の場といえる。このうち山城は島崎川を挟んだ東側と西側の丘陵にそれぞれかなりの数が確認されている［鳴海・戸根1991・鳴海1996、花ヶ前1993］。山城は集落に近接した丘陵上に立地するものが多い。

これに対し館の確認例は少なく、和島村内では根小屋式城郭を館に含めた場合でも、山城13に対し館は6であり、山城と館のセット関係を確認できるのは北野城と入り館、高畑城と高畑館、村岡城と落水館の3か所である。また集落に隣接する小型の山城を、村人が集会や回避をするための「村の城」とする考えがあり［横山1989］、阿弥陀瀬城・矢場砦についてこの可能性を指摘する意見がある［鳴海1997］。

番号	遺跡名	所　在　地	種　　別	時期	文　　献
1	赤坂山城跡	寺泊町寺泊字赤坂	城館跡	南北朝期	鳴海･戸根1991
2	年友城跡	寺泊町年友字中村	城館跡	戦国期	鳴海･戸根1991
3	木島城跡	寺泊町木島字城山	城館跡	戦国期	鳴海･戸根1991
4	夏戸城跡	寺泊町夏戸字川西	城館跡	戦国期	鳴海･戸根1991
5	田頭城跡	寺泊町田頭字田頭	城館跡	室町・戦国期	鳴海･戸根1991
6	伊奈胡城跡	寺泊町郷本字七ッ石	城館跡	室町・戦国期	鳴海･戸根1991・寺村ほか1992
7	万能寺城跡	寺泊町田頭字万能寺	城館跡	室町・戦国期	鳴海･戸根1991
8	稲葉城跡	寺泊町五分一字稲葉	城館跡	戦国期	鳴海･戸根1991
9	五分一城跡	寺泊町五分一字谷割	城館跡	室町・戦国期	鳴海･戸根1991
10	大平遺跡	和島村北野字大平	散布地		戸根1996
11	上桐神社裏遺跡	和島村上桐字桐畑・シテノ木	散布地	14～16世紀	戸根1996
12	大武遺跡	和島村島崎字大武	水田跡・集落跡	13～16世紀	春日ほか2000
13	奈良崎遺跡	和島村島崎字奈良崎・小谷	集落跡・城館跡・塚	13～16世紀	本書･丸山2001・2002
14	中道遺跡	和島村北野字中道	散布地		戸根1996
15	入り館跡	和島村北野字入り	城館跡	室町・戦国期	戸根1996
16	北野城跡	和島村北野字城	城館跡	室町・戦国期	鳴海1996
17	丸山館跡	和島村北野字丸山	城館跡		鳴海1996
18	根小屋城跡	和島村北野字神明	城館跡	15～16世紀	鳴海1996
19	下ノ西遺跡	和島村小島谷字下ノ西	散布地		戸根1996
20	小島谷城跡	和島村小島谷字中ノ東	城館跡	戦国期	鳴海1996
21	中沢古銭出土地	和島村中沢字宮ノ河内	集落跡？	近世？	戸根1996
22	円蔵寺館	和島村中沢字塔寺場	城館跡		鳴海1996
23	矢場砦跡	和島村中沢字吉渕	城館跡		鳴海1996
24	中村城跡	和島村中沢字堂ノ河内	城館跡	戦国期	鳴海1996
25	高畑城跡	和島村高畑字入山	城館跡	戦国期	鳴海1996
26	高畑館跡	和島村高畑字前田	城館跡		鳴海1996
27	阿弥陀瀬城跡	和島村阿弥陀瀬字上ノ山	城館跡		鳴海1996
28	山田郷内遺跡	和島村島崎字山田郷内	集落跡・鍛冶関連遺跡	13～15世紀	戸根1996
29	高森城跡	和島村両高字腰廻り	城館跡	室町期	鳴海1996
30	村岡城跡	和島村村田字祖師堂上・落水字川内ヶ入	城館跡	南北朝～戦国期	鳴海1996
31	落水館跡	和島村落水字川内ヶ入	城館跡	南北朝～戦国期	鳴海1996
32	城ノ丘遺跡	和島村落水	墳墓？		鳴海1996
33	久田城跡	出雲崎町久田字カウヤ	城館跡	戦国期	鳴海1996
34	坂縄遺跡	出雲崎町乙茂字坂縄	集落跡	15世紀	岡本ほか1988
35	乙茂島崎川遺跡群	出雲崎町乙茂字鍛冶畑	集落跡		岡本ほか1988
36	寺前遺跡	出雲崎町乙茂字寺前	集落跡・鍛冶関連遺跡	12～15世紀	岡本ほか1988・赤羽ほか1990
37	向江山遺跡	出雲崎町乙茂字向江山	集落跡？	13～14世紀	岡本ほか1988
38	屋郷遺跡	出雲崎町藤巻字屋郷	集落跡		岡本ほか1988
39	藤巻城跡	出雲崎町沢田字城山	城館跡	室町・戦国期	岡本ほか1988
40	蓮念寺宝篋印塔	和島村東保内	石塔	南北朝期	戸根1996
41	治暦寺宝篋印塔	和島村村田	石塔	戦国期	戸根1996
42	禅釈寺石塔	和島村島崎字駒林	石塔	戦国期～近世	戸根1996

第11表　遺跡周辺の中世遺跡



第14図　遺跡周辺の中世遺跡

国土地理院　平成元年発行「三条」　昭和57年発行「出雲崎」1：50,000原図

奈良崎遺跡周辺には万能寺城が近接して存在し、北北西約２㎞には県指定史跡の夏戸城が存在する。また、南北朝の騒乱の際に、南朝方として小木・河内・池氏とともに島崎城に立て篭もり、北朝方の色部・加地氏らと戦った風間氏に関連する村岡城は南西３㎞に位置する。

万能寺城は奈良崎遺跡の北西約500ｍの丘陵上に位置する。50×15ｍの主郭を中心に幅６～７ｍの腰郭が巡り、西方に伸びる尾根には３カ所の堀切が確認できる。戦国期に築かれた山城とされる［鳴海・戸根1991］。

夏戸城は上杉氏の一武将志駄氏累代の居城で､山上の要害と城下が一体となった根小屋式城郭とされる。規模は東－西・南－北とも約600ｍ前後となる大規模なものである。城下町は要害の西側に広がっていたものと考えられ、ここには南北500ｍにわたって「町」のつく地名が存在する。ただし、これらが形成された年代や城下町の詳細な構造などは明らかになっていない［鳴海・戸根1991］。

村岡城は、南北朝期に南朝方の武将として活躍した風間信濃守信昭の弟村岡三郎の居城とされる。馬蹄形の丘陵を利用した山城であり、一部を除き、南北朝期に築城されて以後、あまり改変を受けていないものと考えられている［鳴海1996］。

周　辺　の　塚

島崎川流域は、新潟県内でも柏崎市周辺と並んで塚が多く分布する地域である。和島村内では69遺跡、157基を数え村内に万遍なく分布している。立地状況は、希に集落から遠く離れた山頂部に存在するものもあるが、集落境・小字境・旧街道沿いに立地するものが多いとされる（第12表・第15図）。

形態については、従来和島村内に存在するものの大半が円形とされたが、和島村史編纂のために行われた調査では、半数は方形であることが明らかとなった。規模は多様なものが存在するが、径（ないしは一辺）５～10ｍ、高さ１～２ｍのものが多い。年代や性格については不明なものが大半である［鳴海1996］。

3）近 隣 の 遺 跡

奈良崎遺跡に近接し、関連すると考えられる遺跡として、大武遺跡と姥ヶ入南遺跡がある。以下、両遺跡の概要を記述する。両遺跡の位置については、第７図を参照。

大 武 遺 跡

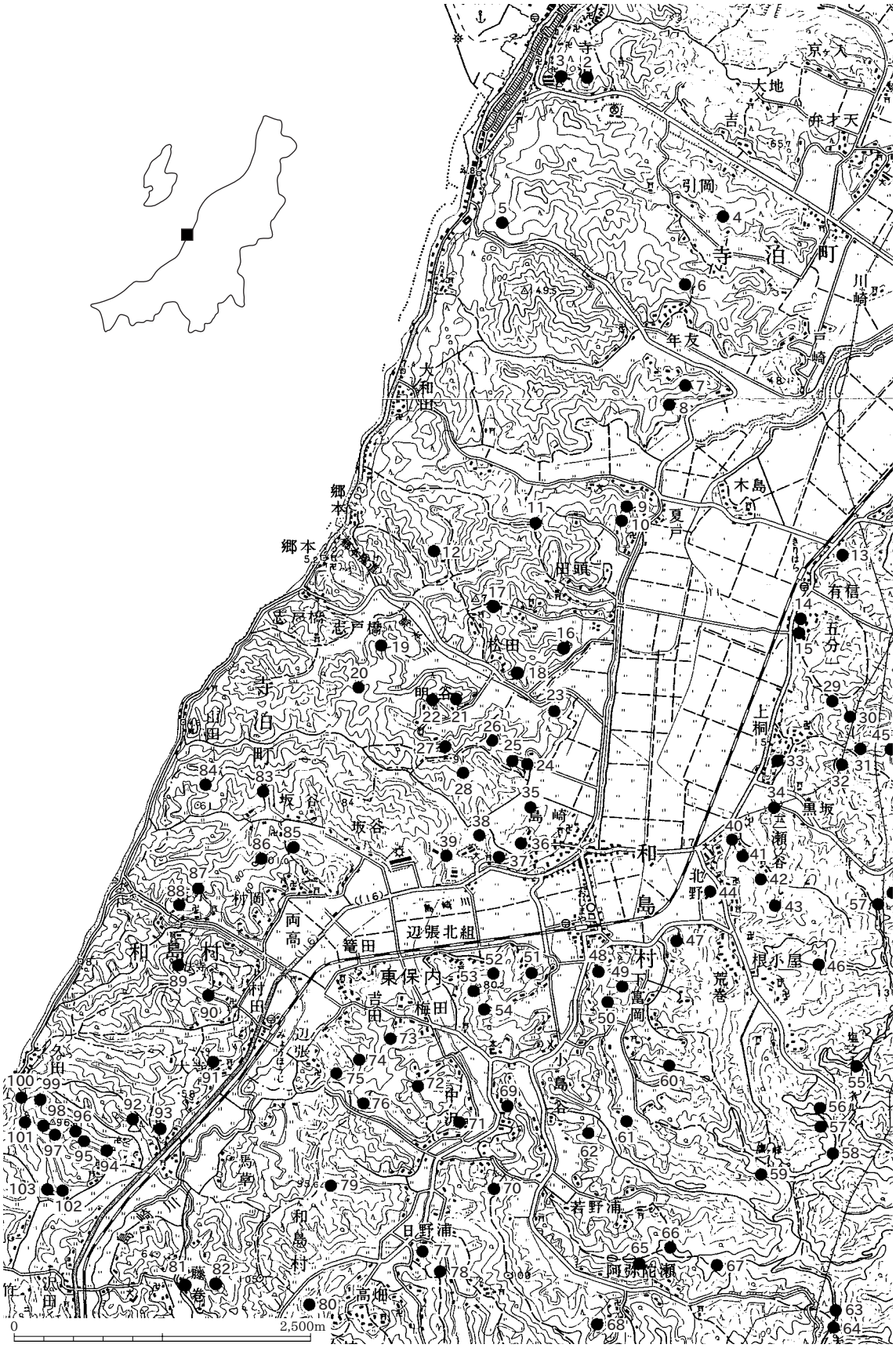
奈良崎遺跡の北東に隣接する大武遺跡は、埋没谷から大量の遺物が層位的に出土した。縄文時代前期前葉・中期・後期中葉・晩期前葉、弥生時代中期、弥生時代末～古墳時代初頭、古墳時代中期～後期、９世紀・13～16世紀の遺物が出土している。

特に縄文時代前期、弥生時代中期、弥生時代末～古墳時代初頭、13～16世紀の遺物が多く出土しており、縄文時代前期では多量の土器・石器のほか漆塗りの糸球が出土した。

弥生時代中期では、土器と玉作関係の遺物が多量に出土した。また、弥生時代末から古墳時代初頭頃の水田・水路跡も検出され、水路からは多量の土器・木器が出土した。13～16世紀では水田跡が検出され、陶磁器・木器のほか、水田の用水路と考えられる溝から銅製の花瓶が出土している（第17図）。時期的に奈良崎遺跡と重複することが多く、相互に関連する遺跡である可能性が高い。

姥ヶ入南遺跡

奈良崎遺跡の西に隣接する遺跡であり、弥生時代末～古墳時代初めにかけての周溝墓が１基検出され、鉄剣ないしは鉄刀、袋状鉄斧が埋葬施設から検出されている（第16図）。

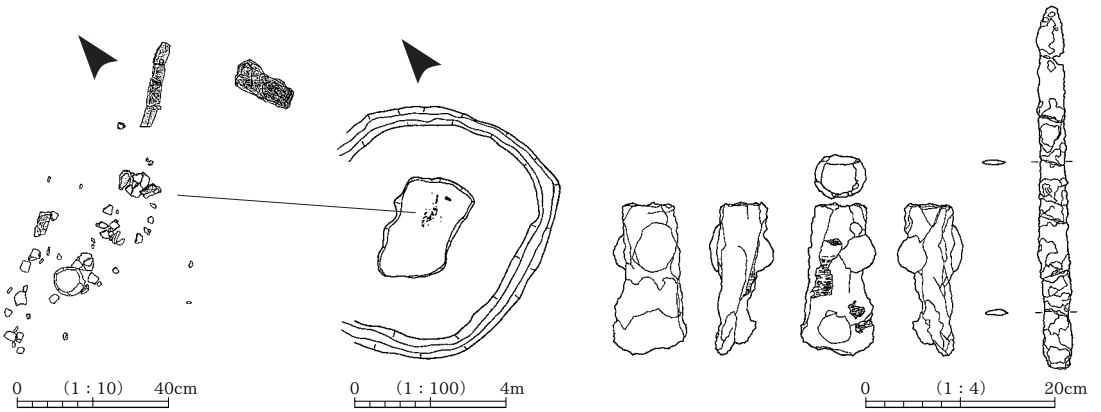


第15図　遺跡周辺の塚

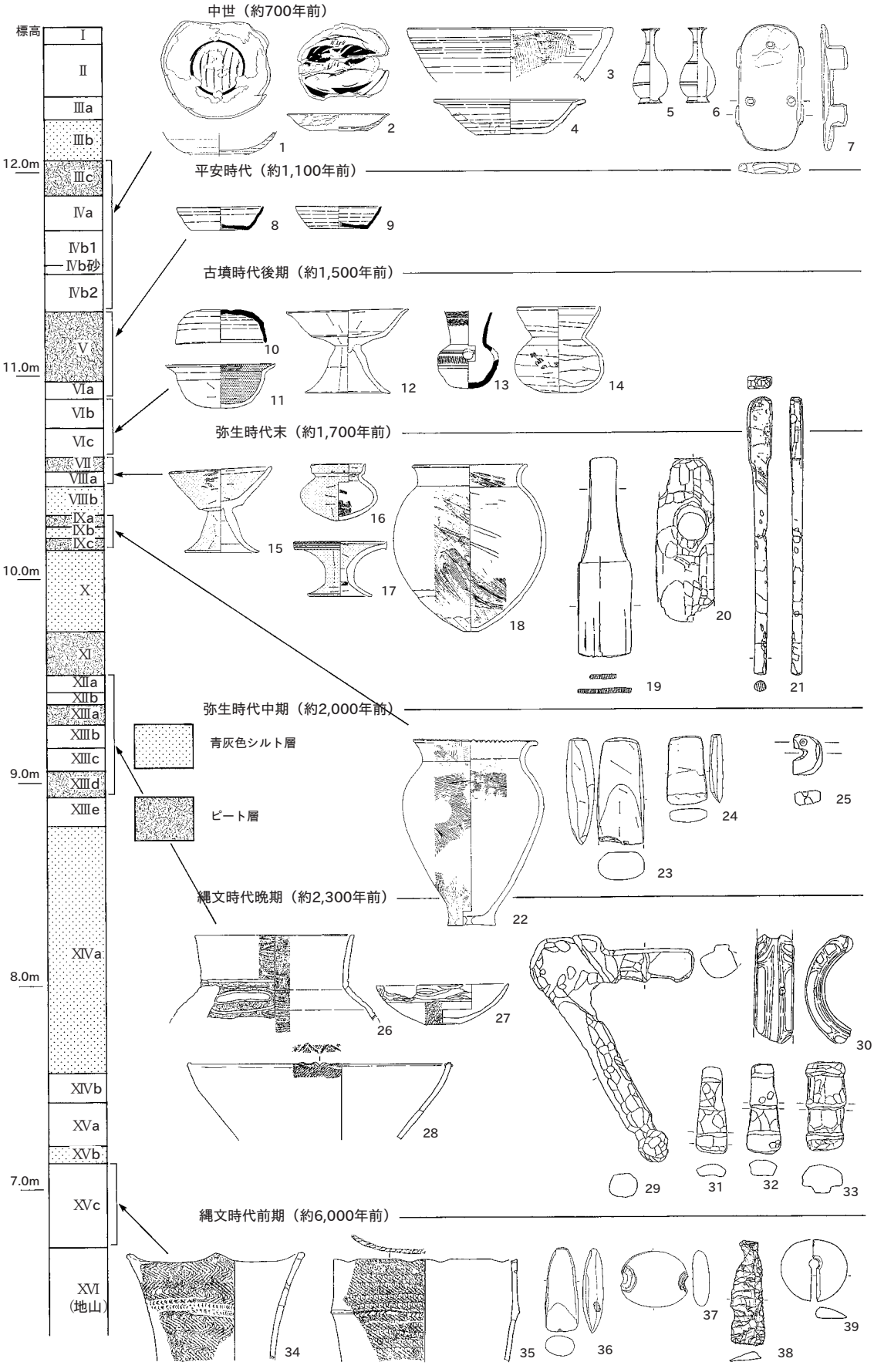
国土地理院　平成元年発行「三条」　昭和57年発行「出雲崎」1：50,000原図

番号	名　称	所在地	構　成	文　献	番号	名　称	所在地	構　成	文　献
1	坂井町塚	寺泊町寺泊	円形１基	本間1991	53	三角点塚群	和島村東保内	方形４基	鳴海1996
2	赤坂山塚群	寺泊町寺泊	円形５基	本間1991	54	後谷の塚	和島村小島谷	円形	鳴海1996
3	栄秀塚	寺泊町寺泊	円形１基	本間1991	55	笹塚	和島村荒巻	円形	鳴海1996
4	念仏塚群	寺泊町引岡	円形３基	本間1991	56	荒巻大平塚群	和島村荒巻	円形５基	鳴海1996
5	お経塚	寺泊町年友	円形１基	本間1991	57	荒巻金塚	和島村荒巻	方形	鳴海1996
6	馬道塚群	寺泊町年友	円形２基	本間1991	58	花立山塚群	和島村荒巻	円形２基	鳴海1996
7	年友城塚群	寺泊町年友	円形３基	本間1991	59	狐塚群	和島村下富岡	円形３基	鳴海1996
8	中村塚群	寺泊町年友	円形３基	本間1991	60	中山御経塚	和島村下富岡	方形	鳴海1996
9	夏戸城塚	寺泊町夏戸	円形１基	本間1991	61	十三塚群	和島村下富岡	方形７基	鳴海1996
10	夏戸四ッ塚	寺泊町夏戸	円形３基	本間1991	62	中ノ東塚	和島村小島谷	円形	鳴海1996
11	田頭城塚群	寺泊町田頭	円形４基	本間1991	63	柳田の塚群	和島村阿弥陀瀬	方形１基・円形１基	鳴海1996
12	火生石塚お金塚	寺泊町田頭	円形２基	本間1991	64	塔場の塚群	和島村阿弥陀瀬	方形１基・円形１基	鳴海1996
13	お聖人塚	寺泊町五分一	湮滅	本間1991	65	台場の塚群	和島村若野浦	方形２基	鳴海1996
14	屋敷塚	寺泊町五分一	円形	本間1991	66	若野浦経塚群	和島村若野浦	方形３基・円形１基	鳴海1996
15	稲葉城塚	寺泊町五分一	方形	本間1991	67	東山経塚群	和島村若野浦	方形２基	鳴海1996
16	万能寺城塚群	寺泊町田頭	円形３基	本間1991	68	灰塚	和島村阿弥陀瀬	円形	鳴海1996
17	万能寺塚	寺泊町田頭	円形２基	本間1991	69	石原塚群	和島村小島谷	円形３基	鳴海1996
18	松田四ッ塚	寺泊町松田	方形４基	本間1991	70	円蔵寺塚	和島村中沢	円形	鳴海1996
19	坊山塚群	寺泊町志戸橋	方形１基・円形３基	本間1991	71	西福寺裏山塚	和島村中沢	円形	鳴海1996
20	花立塚群	寺泊町志戸橋	円形４基	本間1991	72	丸山塚	和島村中沢	円形	鳴海1996
21	新一道塚	寺泊町志戸橋	円形	本間1991	73	吉田塚群	和島村東保内	方形２基	鳴海1996
22	テッコウ塚	寺泊町明ヶ谷	円形	本間1991	74	戦武塚群	和島村東保内	方形４基・円形１基	鳴海1996
23	奈良崎塚	和島村島崎	円形	鳴海1996	75	岡田塚群	和島村東保内	方形１基・円形４基	鳴海1996
24	池ノ上塚	和島村島崎	方形	鳴海1996	76	中沢塚群	和島村中沢	方形１基・円形６基	鳴海1996
25	小谷御経塚	和島村島崎	不明	鳴海1996	77	アッチムラ経塚群	和島村日野浦	円形３基	鳴海1996
26	双子塚群	和島村島崎	方形１基・円形１基	鳴海1996	78	用蔵塚	和島村日野浦	方形１基	鳴海1996
27	五輪塚	寺泊町志戸橋	円形１基	鳴海1996	79	高畠御経塚	和島村高畑	円形１基	鳴海1996
28	立野塚群	和島村島崎	円形13基	鳴海1996	80	入山塚群	和島村高畑	方形２基	鳴海1996
29	イブケ入塚群	和島村上桐	円形２基	鳴海1996	81	上条第１号塚	出雲崎町神条	円形２基	県教委1980
30	千石塚	和島村上桐	方形	鳴海1996	82	上条第２号塚	出雲崎町神条	円形２基	県教委1980
31	峠の塚群	和島村上桐	円形２基	鳴海1996	83	城塚の塚	和島村板谷	円形	鳴海1996
32	金塚	和島村上桐	方形	鳴海1996	84	乗光寺裏山の塚	和島村両高	円形	鳴海1996
33	桐原石部神社境内の塚	和島村上桐	円形	鳴海1996	85	定光寺入山頂の塚	和島村板谷	円形	鳴海1996
34	天ヶ谷の塚	和島村上桐	方形	鳴海1996	86	鍋カブリ塚	和島村両高	円形	鳴海1996
35	島崎大塚	和島村島崎	方形	鳴海1996	87	宿屋の経塚	和島村落水	円形	鳴海1996
36	山谷御経塚群	和島村島崎	方形１基・円形２基	鳴海1996	88	宿屋塚	和島村落水	円形	鳴海1996
37	清水の塚群（大平塚）	和島村島崎	円形２基	鳴海1996	89	六万部塚	和島村落水	方形	鳴海1996
38	島崎塚	和島村島崎	円形	鳴海1996	90	城ノ腰の塚	和島村村田	円形	鳴海1996
39	八幡林塚群	和島村島崎	円形２基	鳴海1996	91	御経塚群	出雲崎町大寺	円形２基	県教委1980
40	北野大平塚	和島村北野	方形	鳴海1996	92	乙茂塚群	出雲崎町乙茂	円形７基	県教委1980
41	大稲葉塚	和島村北野	円形	鳴海1996	93	稲葉塚群	出雲崎町乙茂	円形２基	県教委1980
42	北野大塚	和島村北野	円形	鳴海1996	94	万法寺経塚	出雲崎町乙茂	円形２基	県教委1980
43	城ノ上の大塚	和島村北野	方形	鳴海1996	95	金谷川内２号塚	出雲崎町乙茂	形態不明２基	県教委1980
44	丸山塚群	和島村北野	方形２基	鳴海1996	96	金谷川内１号塚	出雲崎町乙茂		県教委1980
45	富士（金）塚	寺泊町矢田	円形	鳴海1996	97	合清水２号塚	出雲崎町乙茂	形態不明２基	県教委1980
46	神明高山塚群	和島村根小屋	方形１基・円形６基	鳴海1996	98	合清水１号塚	出雲崎町乙茂		県教委1980
47	荒巻塚群	和島村荒巻	円形５基	鳴海1996	99	湯ブ谷２号塚	出雲崎町乙茂	形態不明２基	県教委1980
48	下ノ東塚群	和島村小島谷	方形６基・円形６基	鳴海1996	100	湯ブ谷１号塚	出雲崎町乙茂		県教委1980
49	別当谷の塚	和島村小島谷	円形	鳴海1996	101	湯ブ谷３号塚	出雲崎町乙茂		県教委1980
50	東ノ峰塚群	和島村小島谷	方形３基・円形５基	鳴海1996	102	清水谷内２号塚	出雲崎町上中条	形態不明２基	県教委1980
51	下小島谷塚	和島村小島谷	円形	鳴海1996	103	清水谷内１号塚	出雲崎町上中条		県教委1980
52	小布施の塚	和島村東保内	円形	鳴海1996					

第12表　遺跡周辺の塚



第16図　姥ヶ入南遺跡の周溝墓と出土鉄器　［（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団1997］より転載



第17図　大武遺跡の層位と出土遺物（縮尺不同）　［春日2000］より転載

第Ⅲ章　調 査 の 概 要

1　遺 跡 の 名 称

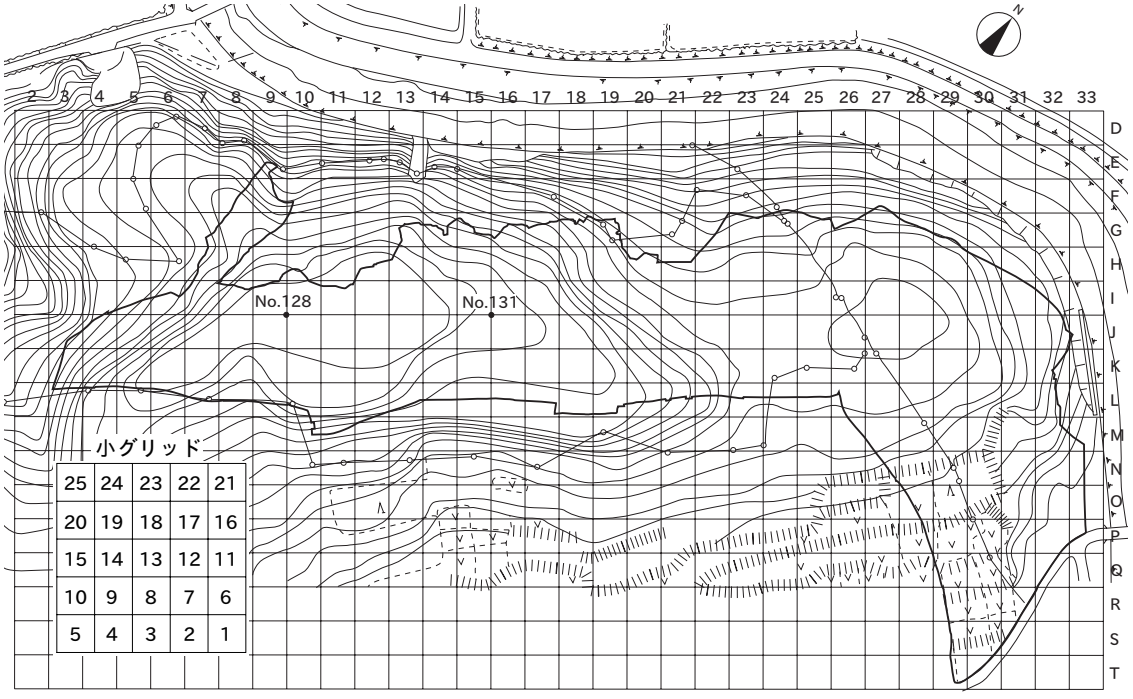
昭和63年度から平成11年度にかけて実施された発掘調査の範囲は、『新潟県遺跡地図』［新潟県教育委員会1980］に記載されている奈良崎塚・奈良崎砦・奈良崎遺跡の３遺跡にまたがる。しかし、３遺跡は異なった遺跡として明確に線引きできない。以下では「奈良崎遺跡」として一括し報告を行う。

2　グリッドの設定

和島バイパスのセンター杭№128と№131を直線で結び長軸とし、これに直行するラインを横軸とし10ｍピッチの方眼を組み大グリッドとした。センター杭№128は東経138度176分245秒953、北緯38度23分976秒106、№131は東経138度176分289秒201、北緯38度24分017秒694である。その結果グリッドは国土座標軸に対し44.0度東偏することとなった。大グリッドは長軸を数字、短軸をアルファベットとし、両者の組み合わせにより「7G」のように表わした。大グリッドはさらに２ｍ方眼の小グリッドに区分けし、１～25の番号を付け「7G－10」のように表わした（第18図）。グリッド設営に係る杭の測量・打設は民間業者に委託した。

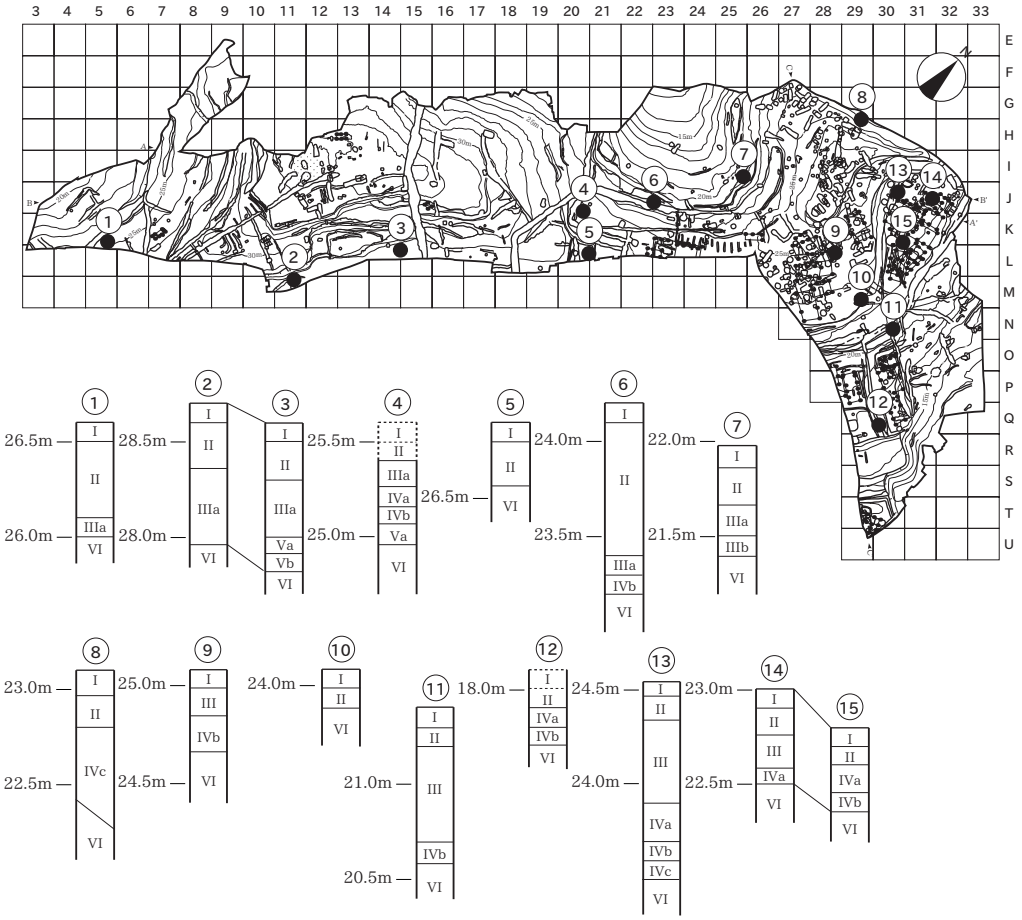
3　基　本　層　序

表土から地山まで６層に区分し、このうちⅢ・Ⅳ・Ⅴ層は更に２～３に細分した。同一と考えられる土



第18図　グリッド設定図

層でも地点により色調・粘性に相違がある。また後世の削平などにより土層の堆積状況は異なる（第19図)。各層序の概要は第13表に示した。



第19図　奈良崎遺跡の層序

層名	特　　徴
Ⅰ層	褐色（10YR4/4）シルト。樹木・草本の根を多量に含む。いわゆる表土。しまり・粘性弱い。標高の低い地点では粘土質となる場合が多い。
Ⅱ層	明黄褐（10YR7/6）色シルト。炭化物片（2～3㎜前後が中心）を少量含む。粘性弱い。しまり強い。還元により褐灰（10YR5/1）色もしくは褐黄灰（10YR5/2）色を呈する地点も存在する。また、地山小ブロックを少量含む地点もある。標高の低い地点では粘土質となることが多い。主に近･現代の遺物が出土する。
Ⅲa層	明黄褐（10YR7/6）色シルト。炭化物片（2～3㎜前後が中心）を少量含む。粘性弱い。しまり強い。酸化・還元の程度により、黄橙（10YR8/6）色・にぶい黄橙（10YR6/4）色を呈する地点も存在する。また、地山小ブロックを少量含む地点もある。標高の低い地点では粘土質となることが多い。主に近･現代の遺物が出土する。
Ⅲb層	にぶい黄橙（10YR6/4）色粘土。炭化物片（2～3㎜前後が中心）を定量含む。粘性･しまり強い。地山小ブロックを少量含む地点もある。主に近世の遺物が出土する。
Ⅳa層	にぶい黄褐（10YR5/4）色粘土。炭化物片（2～3㎜前後が中心）定量含む。粘性･しまり強い。還元により灰黄褐（10YR6/2）色を呈する地点も存在する。また、地山小ブロックを少量含む地点もある。近世から中世の遺物が出土する。
Ⅳb層	にぶい黄褐（10YR5/3）色粘土。炭化物片（2～3㎜前後が中心）定量含む。粘性･しまり強い。還元により褐灰（10YR5/1）色を呈する地点もかなり存在する。また、地山小ブロックを少量含む地点も多い。主に中世の遺物が出土する。
Ⅳc層	浅黄橙（10YR8/4）色粘土。炭化物片（2～3㎜前後が中心）を少量含む。粘性･しまり強い。標高の高い地点ではシルト質となる。主に中世の遺物が出土する。地下式横穴開口部の覆土となる場合も多い。
Ⅴa層	黒褐（10YR3/2）色粘土。炭化物片（2～5㎜前後が中心）多く含む。粘性･しまり強い。谷Ａでは色調が褐（10YR4/4）色を呈する。縄文時代から平安時代の遺物が出土し、特に弥生時代後期の土器が多い。
Ⅴb層	黒（10YR2/2）色粘土。いわゆる地山。縄文時代以前に堆積した土層と考えられる。炭化物を含まず、遺物は出土しない。
Ⅵ層	黄橙（10YR8/8）色粘土・黄橙（10YR8/8）色砂の互層。いわゆる地山。還元により灰白（10YR8/1）色となる地点も存在する。黄橙（10YR8/8）色粘土層中に淡赤橙（10YR7/3）色の火山灰が幅5㎝前後で含まれる。魚沼層群の新相に対比できるものと考えられる。

第13表　基本層序の土質

4　遺構・遺物の検出状況

A　遺　　構

概　　要

遺構はⅣ層を除去した段階で確認できるものと、Ｖａ層を除去した段階で確認できるものがある。以下では便宜的に前者を上層（遺構）、後者を下層（遺構）とする。

出土遺物から考え、下層遺構は弥生時代後期・古墳時代前期を主体とし、縄文時代から10世紀頃までの遺構を含み、上層遺構はこれに後続し、中世を主体とし近世（以降）の遺構も定量存在すると考えられる。Ｖａ層は後の削平などにより調査区全域に普遍的に存在する土層ではないが、Ｖａ層が存在しない地点でも、ある程度の大きさを持つ遺構ならば、覆土の土質・色調などから両者の区別は比較的容易であった。

上層遺構（図版１）

削平段・掘立柱建物・井戸・土坑・溝・地下式坑・塚などがある。地下式坑と土坑はＡ・Ｂ区に存在する南－北方向に伸びる２つの尾根上（尾根Ａ・Ｂ）に集中する。また塚は尾根Ｂの最も標高の高い11IJ・12IJに存在する。掘立柱建物・井戸は尾根Ａ東側斜面（29～33I～Q）に集中する。溝は調査区全域に確認できるが、規模の大きなものは、掘立柱建物・井戸と同様に尾根Ａ東斜面に集中する。削平段も調査区全域に確認できるが、確実に中世に溯り、かつ規模の大きなものは尾根Ａ東斜面に集中する。これら、掘立柱建物・井戸・大型の溝・削平段は相互に関連すると考えられる。

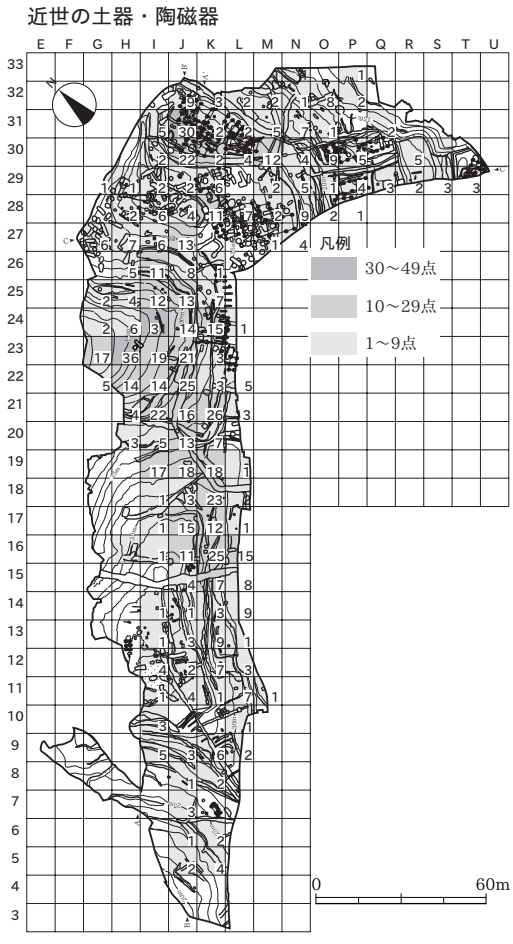
下層遺構（図版147）

下層遺構には建物跡・墳墓・土坑・溝が確認できる。建物跡は弥生時代後期から平安時代のものが確認できた。弥生時代後期から古墳時代前期のものが最も多い。Ａ・Ｂ区南（東）側の緩斜面に多く確認できるが、尾根Ｂにも点在する。墳墓は弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものと考えられ尾根Ａで２基、尾根Ｂで３基確認できた。

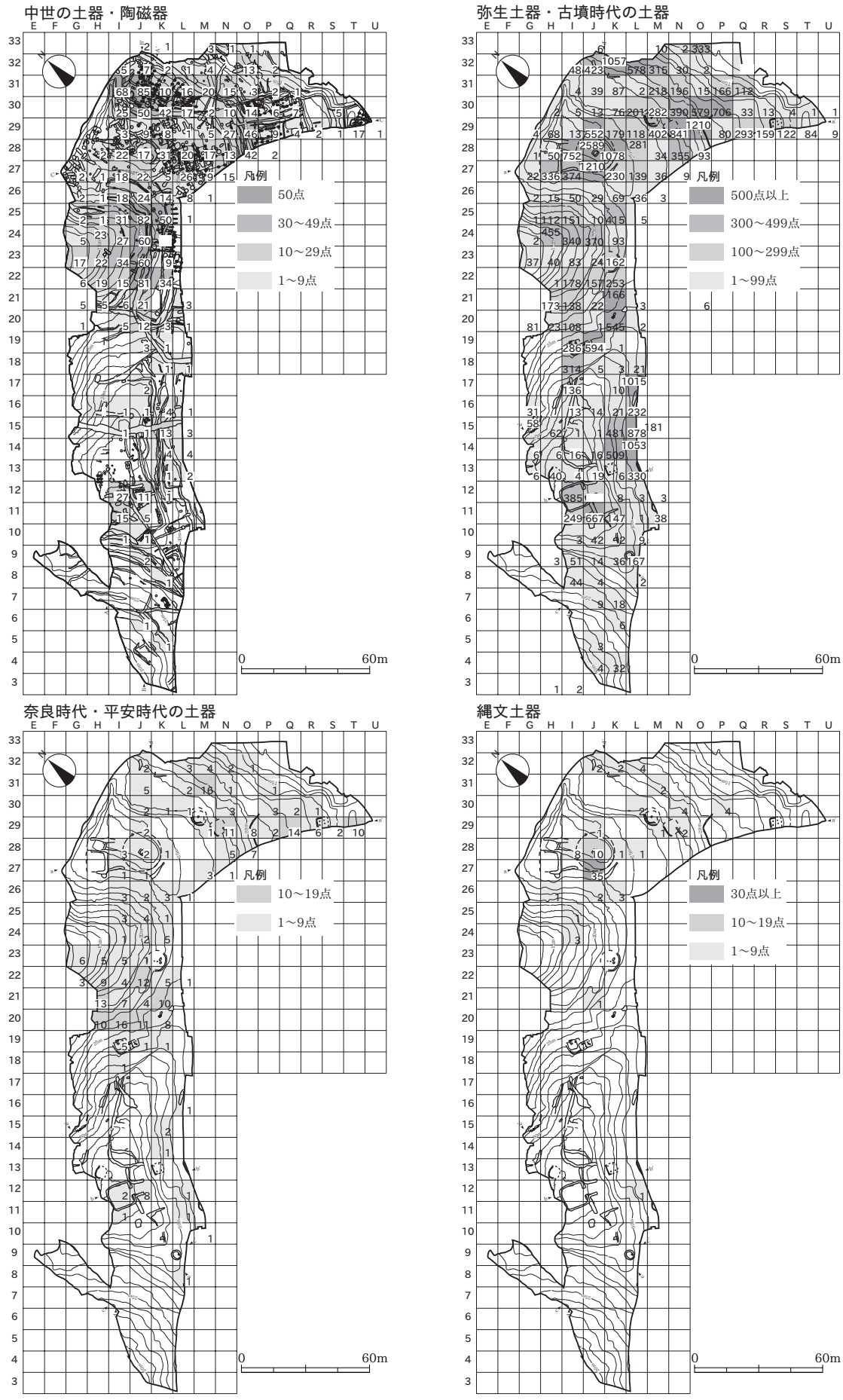
B　遺　　物

遺物の分布は遺構の分布と概ね一致する。中世の遺物は、尾根Ａ東側斜面を中心に出土している。陶磁器類が主体を占めるが、砥石・石臼などの石器、釘・銭貨などの金属器、漆器椀や曲物などの木器も定量出土している。

弥生時代から古代の遺物は尾根Ａ・尾根Ｂから多く出土した。土器類が大半を占めるが、石器・金属器も定量出土している（第20・21図）。また、尾根Ａで検出された古墳からは勾玉・管玉・仿製鏡（捩文鏡）が出土した。



第20図　土器・陶磁器類の出土状況（1）



第21図　土器・陶磁器類の出土状況（2）

第Ⅳ章　遺　　構

1　記 述 の 方 法

方　　針

遺構の説明には観察表・本文（挿図含む）・図面図版・写真図版を用いる。遺構の種類には、削平段・建物跡・井戸・溝・地下式坑・土坑・墳墓などがあり、これらについては、大半のものについて観察表を作成し、位置・分類・規模・形状・出土遺物・覆土の堆積状況・年代・切り合い関係などを記載した。遺構個々の形状・規模・切り合い関係・特徴などに関しては、観察表の記載を参照していただくこととし、本文中では特別な場合を除き触れない。またピットについては、建物跡などと関連するもの以外は、観察表も含め基本的には触れない。

遺 構 番 号

遺構名の表記例

89	SK	102
調査年度の西暦下二桁	遺構種類の略称	年度毎の遺構番号

個々の遺構の名称は、調査年度・遺構種類・（遺構の）番号の順に表記した遺構番号で表わす。調査年度は西暦の下二桁のみを用いた。遺構種類は略称を用いた。主な略称は第14表に示した。

遺構の番号は調査年度により、若干の相違があるが時代・種別・グリッドに関係無く調査年度毎に1から通し番号とすることを基本とした。ただし掘立柱建物・墳墓については、調査終了後の整理の過程で認識したものも定量存在することと、誤解をまねきかねないことから、年度に関係無く別途に通し番号を付した。

遺構種類	略　称
SA	柵
SB	掘立柱建物
SD	溝
SK	土坑・地下式坑
SE	井戸
SI	竪穴建物
SX	不明遺構

第14表　遺構の略称

図　　版

遺構の図面図版は1／1200の全体図と1／100の分割平面図、1／40のセクション図、1／80のエレベーション図などから構成され、個別図は建物跡・墳墓・枠を持つ井戸など特別なものを除き作成していない。

平面図は、遺構の切り合い（新旧）関係を表現することを基本としたが、統一は取れていない。現場での記録が充分でなかったため、新旧に関係なくより深い遺構が浅い遺構を切っているように表現されている場合や、浅い遺構が深い遺構を切っている場合には実線が重複している場合もある。遺構の新旧関係については観察表を参照していただきたい。

セクション図の土層注記は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人 日本色彩研究所監修の『新版 標準土色帖』に添った色の表記を行うことを基本としたが、これに添った土層注記を行っていない調査年度（1989・1992年）もあり、統一は取れていない。

遺構の写真は、観察表を作成したすべての遺構を網羅していない。重要な遺構・遺存状態の良好な遺構・遺構の特徴が良く捉えられているカットなどを選択して掲載した。

地 区 の 名 称

地区の名称については、第Ⅰ章の呼称を踏襲しＡ・Ｂ区の名称を引き続き使用する。また、これとは

別に、１・２号墳が存在する尾根を「尾根Ａ」、１～３号方形周溝墓の存在する尾根を「尾根Ｂ」、尾根Ａの西側の谷を「谷Ａ」、尾根Ｂの南東側の谷を「谷Ｂ」、尾根Ｂ西側の谷（斜面）を「谷Ｃ」、尾根Ａ東側の谷（斜面）を「谷Ｄ」とする（第22図）。

2　上 層 の 遺 構

上層の遺構には削平段（斜面と平坦面）・溝・土坑・井戸・掘立柱建物・地下式坑などがある。第Ⅲ章で述べたように年代は中世（12世紀後半から16世紀）を中心とし、近世（17世紀）以降のものも一定量含むものと考えている。

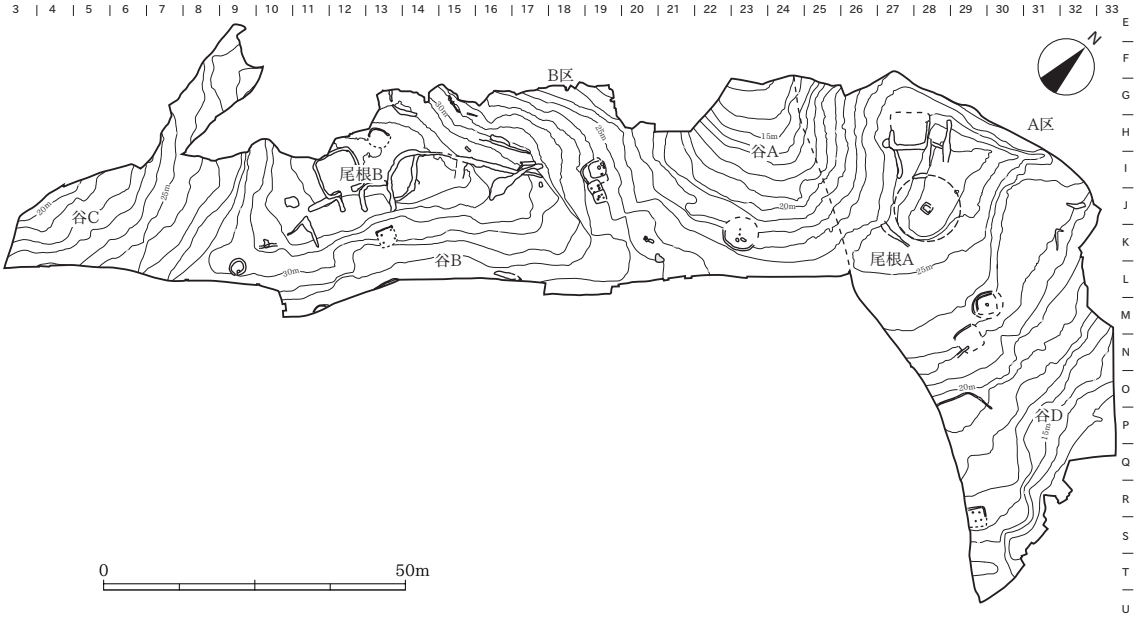
削　平　段

分　　布　調査区ほぼ全域に確認できるが、谷Ａでは疎らである（第23図）。

規模・形状　尾根Ａ東側のものは大規模で斜面下端付近に大・中型の溝が巡り、掘立柱建物・井戸が存在する大型の平坦面とセットとなる場合が多い。谷Ｂ・Ｃのものは、尾根Ａ東側に比べ小規模で、下端を巡る溝の規模も小さく、掘立柱建物・井戸などが存在する明確な平坦面をもたないものが多い。

年　　代　尾根Ａ東側のものは土層や斜面下端を巡る溝（からの出土遺物）、平坦面上に存在する掘立柱建物・井戸（からの出土遺物）の年代から考え、17世紀以降に一部改変されている可能性もあるが、基本的には、14～16世紀に削平された可能性が高い。これに対し、谷Ｂ・Ｃの削平段は、17世紀以降に下るものが大半と思われる。斜面下端を巡る溝のいくつかが、覆土や出土遺物から考え17世紀以降に下ることや、14～16世紀と考えられる遺構を切るものがあることが主な根拠である。

性　　格　14～16世紀の削平と考えられる平担面４・５・10・13、斜面33・36・37は建物などを構築するためのものである可能性が高い。他のものは畑地・水田や植林地として利用するために削平された可能性が推測される。



第22図　地点の名称

溝

分　　布　調査区全域で確認できるが、谷Ａでは少ない。

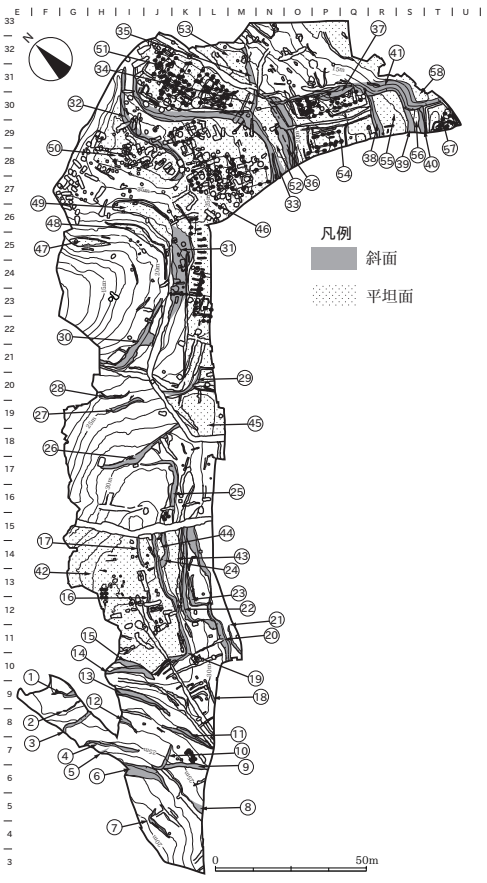
分　　類　断面形は箱状・台形状・彎曲・皿状・「V」字状の５種に、覆土の堆積状況をレンズ状・水平・斜め・ブロック状・凸状・単層の５種に分類した（第24図）。

形態・規模　大型のものは断面形が「V」字状・台形状のものが多く、小型のものは皿状・彎曲のものが多い。尾根Ａ周辺には規模が大きく、断面形が「V」字状・台形状のものが定量確認できる。一方Ｂ区南西のものは総じて規模が小さく、断面形が皿状もしくは彎曲のものが多い。

出土遺物　中世の土器・陶磁器類が定量確認できるものがある。98SD23・1508・1880などから遺物が定量出土した。

年　　代　尾根Ａ周辺に確認できるものの多くは、覆土や出土遺物などから考え、多くのものが14～16世紀代に掘削されたものと考えられる。谷Ｂ・Ｃの溝の多くは、近世以降の可能性が高い。

性　　格　89SD18・23・3・53・34、99SD31・1508・1880などの大型で断面形が「V」字状、台形状を呈するものは防禦的な機能を持っていた可能性が高い。99SD1722・1735・2407・2409・272・536・151・181・1854・1860・1797・1554などは、掘立柱建物のなかに方位が一致し、近接しているものがあることから、平坦面の中を区画するための溝である可能性が高い。これらのうち２本の溝が平行する99SD1722・1735、99SD2407・240、99SD1554・1797・1508などは、道路の側溝としての機能を持っていた可能性が考えられる。98SD15には近接して掘立柱建物が存在しないが、これについても平坦面の中を区画する溝である可能性が考えられる。



番号	名称	番号	名称
1	斜面１	30	斜面30
2	斜面２	31	斜面31
3	斜面３	32	斜面32
4	斜面４	33	斜面33
5	斜面５	34	斜面34
6	斜面６	35	斜面35
7	斜面７	36	斜面36
8	斜面８	37	斜面37
9	斜面９	38	斜面38
10	斜面10	39	斜面39
11	斜面11	40	斜面40
12	斜面12	41	斜面41
13	斜面13	42	平坦面１
14	斜面14	43	平坦面２
15	斜面15	44	平坦面３
16	斜面16	45	平坦面４
17	斜面17	46	平坦面５
18	斜面18	47	平坦面６
19	斜面19	48	平坦面７
20	斜面20	49	平坦面８
21	斜面21	50	平坦面９
22	斜面22	51	平坦面10
23	斜面23	52	平坦面11
24	斜面24	53	平坦面12
25	斜面25	54	平坦面13
26	斜面26	55	平坦面14
27	斜面27	56	平坦面15
28	斜面28	57	平坦面16
29	斜面29	58	平坦面17

第23図　削平段の位置と名称

土　　坑

分　　類　ピットとの区別は必ずしも明確でないが、長軸70㎝以上で、柱痕・柱根を持たず、長さ・幅に比べ深さが比較的浅い穴は土坑とすることとしたが、これ以下の規模のものでも土坑とした場合もある。平面形は、円・楕円・方・長方・台形・隅丸三角・不

整の７種、断面形は箱状・台形状・袋状・「U」字状・彎曲・「V」字状・皿状・階段状の８種、覆土の堆積状況はレンズ状・水平・斜め・ブロック状・単層・凸状の６種に分類した（第24図）。また方形・長方形の土坑（以下では（長）方形土坑とする）は機能や平面形・断面形により５種14類に分類した（第15表・第25図）。円形・楕円形の土坑（以下では（楕）円形土坑とする）も、細分が可能と考えられるが分類案を提示できなかった。

分　　布　約370基検出した。谷Ａ・Ｃを除いてほぼ万遍なく、各地点で確認できるが、Ｃ・Ｅ類は尾根Ａ・Ｂに集中し、特に尾根Ａで多く確認できる。

覆　　土　（長）方形土坑Ａ・Ｅ類には褐色系の覆土がレンズ状堆積するものが多い。Ｃ・Ｄ・Ｅ類は地山小ブロックを含んだ黄色ないしは褐色系の覆土の単層となるもの、褐色系の覆土が斜めに堆積するものが多く確認できる。

出土遺物　（長）方形土坑Ｃ・Ｄ・Ｅ類の一部からは銭貨や骨片・炭化物が出土したものが一定量存在する。銭貨は６枚がまとまって出土する場合が多く、六道銭と考えられる。（長）方形土坑Ｄ4類99SK1276からは六道銭のほか完形の瀬戸・美濃鉄釉天目茶碗が出土した（第26図）。

切り合い　地下式坑・掘立柱建物（ピット）・井戸・土坑と切り合いがある。地下式坑に対しては、土坑が切る例が大半である。ピット・井戸に対しては切る場合と切られる場合がある。

年　　代　（長）方形土坑Ｂ類は近世以降のものが大半を占める。（長）方形土坑Ａ・Ｃ・Ｄ・Ｅ類の多くは中世の可能性が高い。（楕）円形・不整形土坑は中世のものと近世以降の両者が混在するものと思われる。

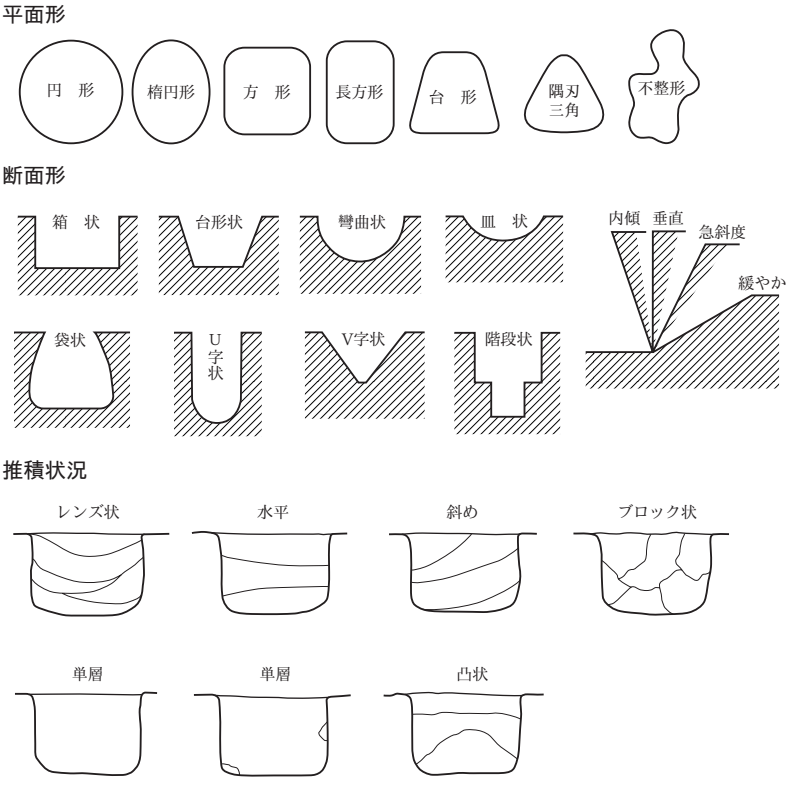
性　　格　Ａ類は竪穴状遺構と一般的に呼称されてきた土坑、Ｂ類は炭窯、Ｃ・Ｄ類、Ｅ類の一部は墓穴となる可能性が高い。また、平坦面に存在する円形・楕円形土坑のいくつかは、近接する掘立柱建物と関連するゴミ穴の可能性が考えられる。

井　　戸

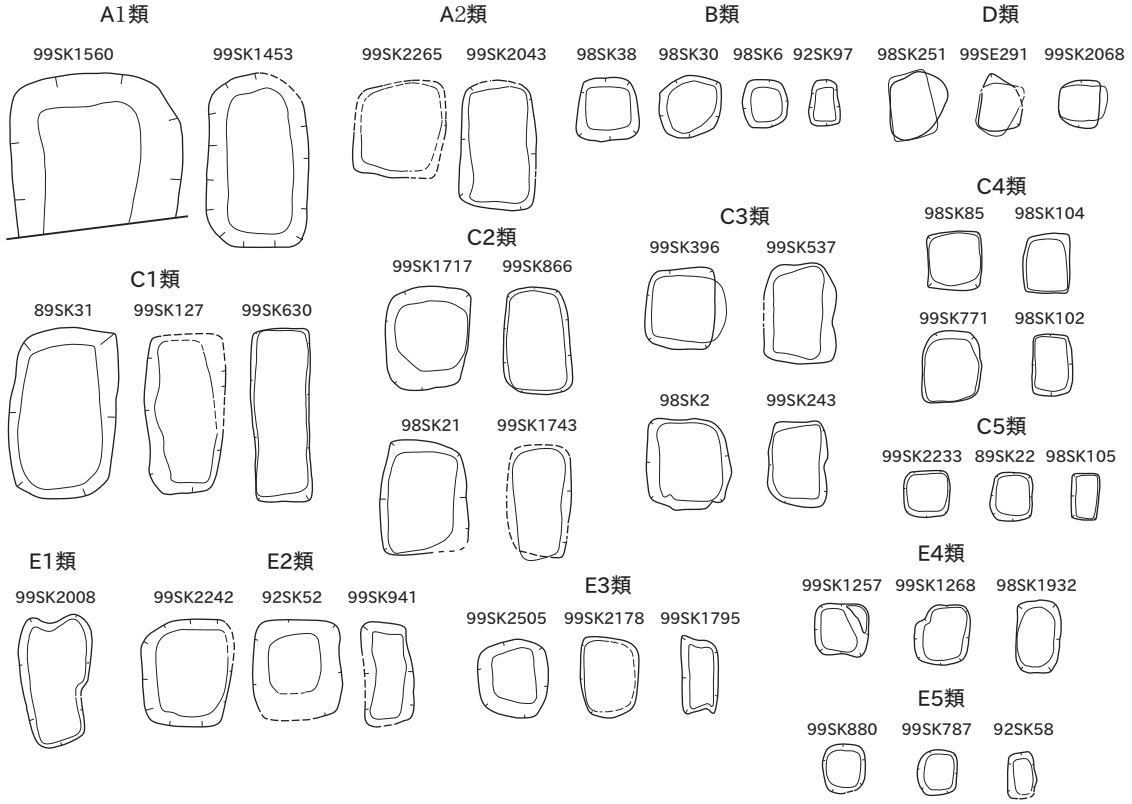
規模・構造　平面形は直径１～２ｍ前後の円形・楕円形のものがほとんどである。構造は素掘りのものが多く、井戸側などの施設を持つものは99SE813の１例のみである。99SE813は後述する。

分　　布　48基確認した。谷Ｂに１例確認できるほかは、Ａ区に集中する（第29図）。

覆　　土　ほとんどの井戸が、下半には炭化物片を少量含む地山系のグライ化した



第24図　遺構の形状の分類



第25図　（長）方形土坑の分類

分類	基　　準
A1類	竪穴状遺構と呼ばれるものに類似する土坑のうち、長軸が3ｍを超える大型のもの。断面形は皿状もしくは彎曲。覆土は褐色系の土がレンズ状に堆積するものが多い。
A2類	竪穴状遺構と呼ばれるものに類似する土坑のうち、ＡＩに比べ小型で浅いもの。断面形は皿状もしくは彎曲。覆土は褐色系の土の単層が多い。掘立柱建物と重複する例がある。
B類	炭窯。底面は被熱による硬貨・赤化が顕著で、覆土下層には炭化物が多量に入る。
C1類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が箱状もしくは台形状で、長軸が3m以上となるもの。覆土は地山小ブロック混じりの黄色系もしくは褐色系の土の単層が多い。
C2類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が箱状もしくは台形状で、長軸が2m～3ｍの間に入るもの。覆土は地山小ブロック混じりの黄色系もしくは褐色系の土の単層が多い。
C3類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が箱状もしくは台形状で、長軸が1m50㎝～2ｍの間に入るもの。覆土は地山小ブロック混じりの黄色系もしくは褐色系の土の単層かレンズ状堆積が多い。
C4類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が箱状もしくは台形状で、長軸が1m50㎝～1ｍの間に入るもの。覆土は地山小ブロック混じりの黄色系もしくは褐色系の土の単層かレンズ状堆積が多い。
C5類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が箱状もしくは台形状で、長軸が1m以下のもの。覆土は地山小ブロック混じりの黄色系もしくは褐色系の土の単層かレンズ状堆積が多い。
D類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が袋状となるもの。覆土は褐色系の土に地山の小ブロックが混じった土の単層となるものが多い。
E1類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が彎曲もしくは皿状で、長軸が3ｍ以上となるもの。深さは浅く、平面形もやや崩れた（長）方形となるものが多い。稀に炭化物を多量に含む土坑がある。
E2類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が彎曲もしくは皿状で、長軸が2m～3ｍの間に入るもの。深さは浅く、平面形もやや崩れた（長）方形となるものが多い。稀に炭化物を多量に含む土坑がある。
E3類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が彎曲もしくは皿状で、長軸が1ｍ50㎝～2ｍの間に入るもの。深さは浅く、平面形もやや崩れた（長）方形となるものが多い。稀に炭化物を多量に含む土坑がある。
E4類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が彎曲もしくは皿状で、長軸が1ｍ～1ｍ50㎝の間に入るもの。深さは浅く、平面形もやや崩れた（長）方形となるものが多い。稀に炭化物を多量に含む土坑がある。
E5類	竪穴状遺構・炭窯以外の（長）方形の土坑のうち、断面形が彎曲もしくは皿状で、長軸が1ｍ以下のもの。深さは浅く、平面形もやや崩れた（長）方形となるものが多い。稀に炭化物を多量に含む土坑がある。

第15表　（長）方形土坑の分類

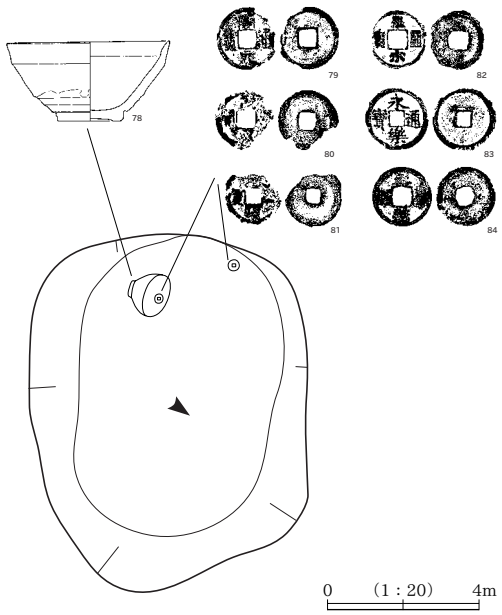
土層が堆積する。上層は褐色ないしは灰色の土層と炭化物層・地山系の土層がレンズ状に堆積するものが多い。

切り合い　掘立柱建物（ピット）・（楕）円形土坑・溝・(長）方形土坑・地下式坑などと切り合い関係をもつものがある。掘立柱建物（ピット）・（長）方形土坑Ｅ類・小規模な溝に対しては井戸がこれらの遺構を切る場合と、切られる場合が確認できる。一方土坑Ｃ類・地下式坑に対しては、井戸がこれらの遺構を切る例が多い。

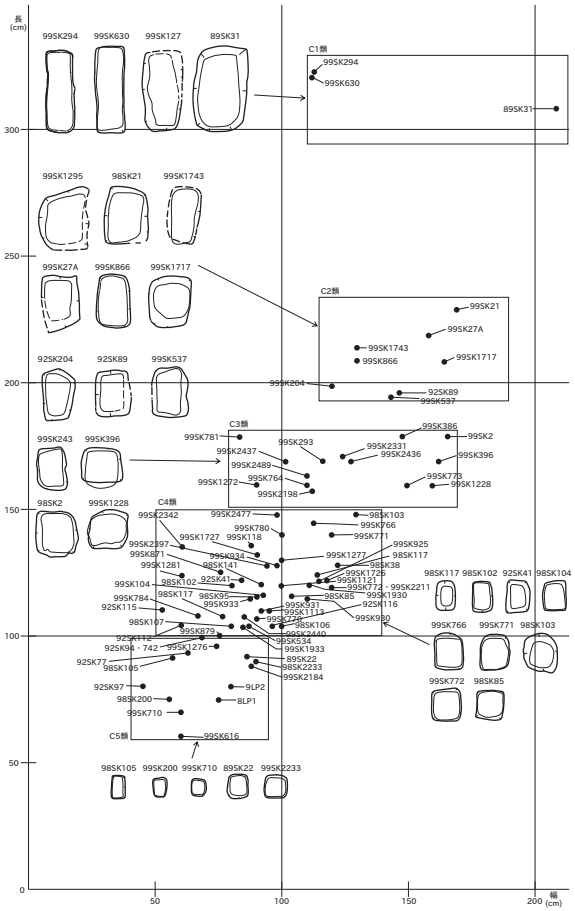
出土遺物　中世の土器・陶磁器・木器・石製品などが定量出土するものがある。99SE310・831・1905などからは、比較的多くの遺物が出土した。

年　代　出土遺物や覆土の特徴から考え、大半が中世のものと考えられる。

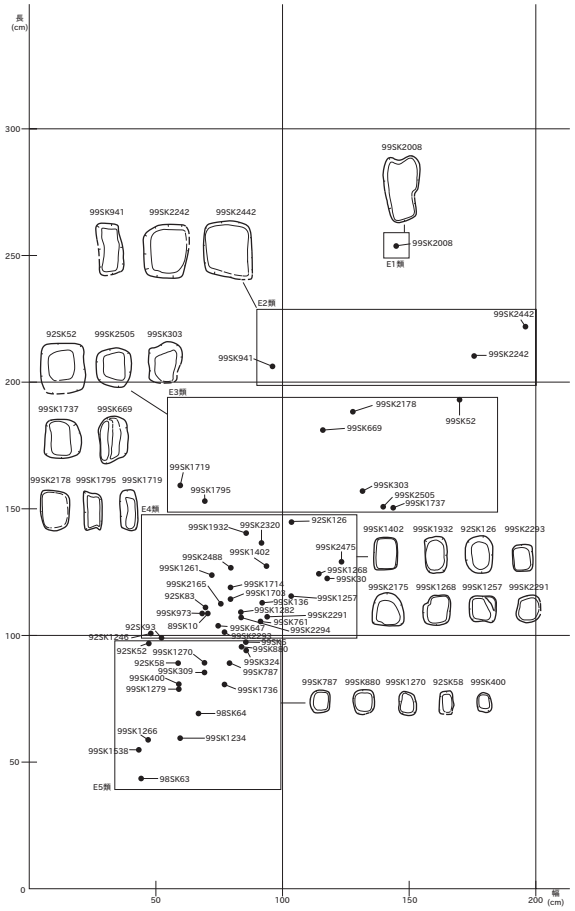
99SE811：宇野隆夫の分類では［宇野1982］、BⅣ類縦板組隅柱横桟どめに分類される。井戸側の平面形は一片80㎝前後の方形となる。1辺10～12㎝前後の角材を隅柱として用い、幅6㎝前後の桟木を渡す。



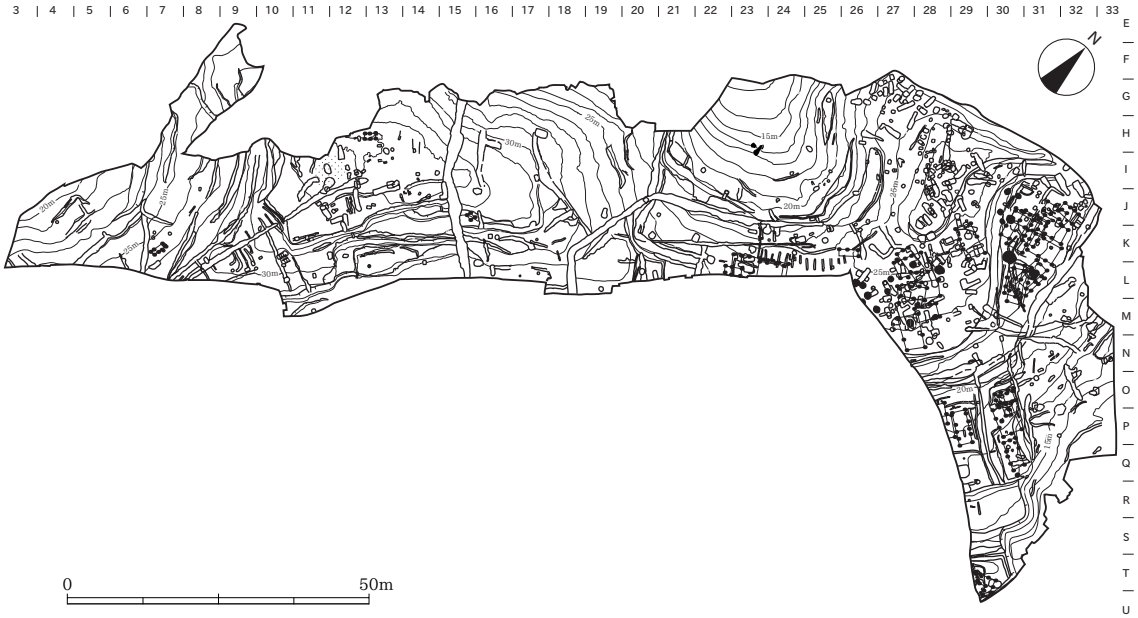
第26図　99SK1276遺物出土状況



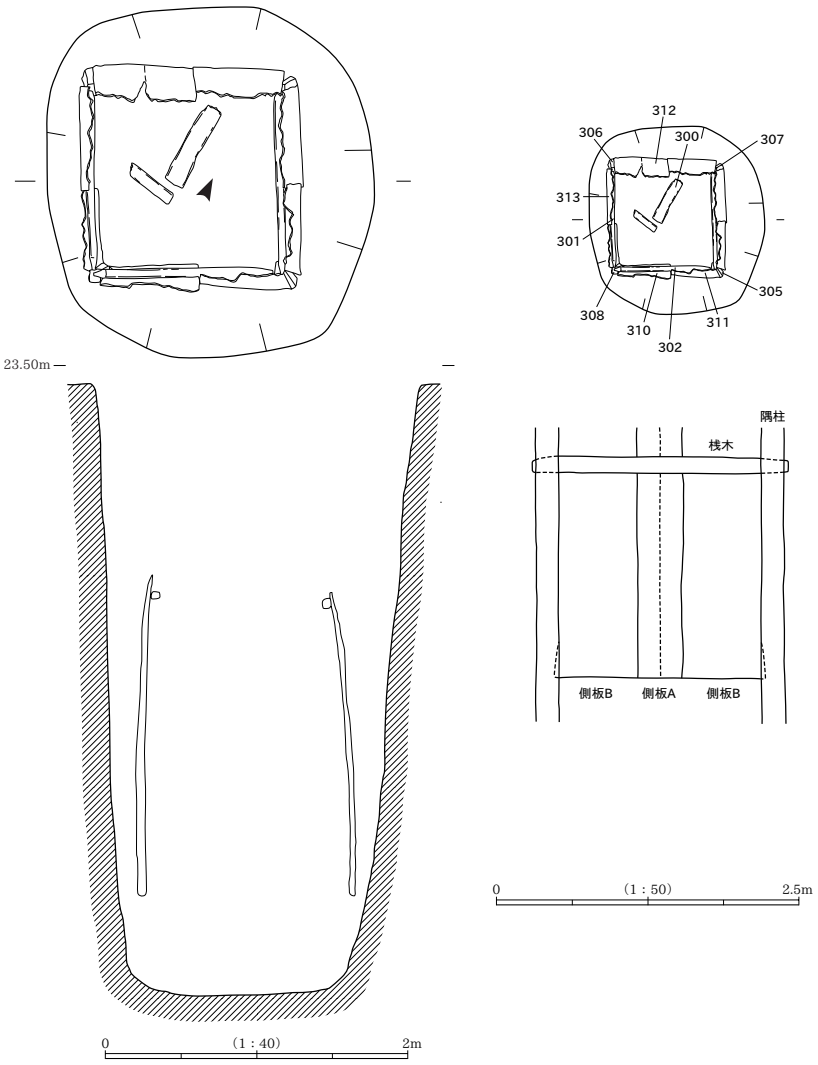
第27図　（長）方形土坑Ｃ類の規模



第28図　（長）方形土坑Ｅ類の規模



第29図　井戸の分布　　（アミが井戸）



第30図　99SE813

形状	分類	長さ	幅	厚さ
角材	桟木	89.0	6.0	4.0
角材	桟木	92.0	7.0	4.0
角材	桟木	92.0	5.0	4.0
角材	桟木	93.0	6.0	3.0
角材	隅柱	126.0	11.0	9.5
角材	隅柱	130.0	11.0	8.0
角材	隅柱	156.0	12.0	10.0
角材	隅柱	156.0	12.0	11.0
板材	側版A	130.0	42.0	3.0
板材	側版A	155.0	44.0	2.0
板材	側版A	159.0	46.0	2.0
板材	側版A	163.0	40.0	2.0
板材	側版A	163.0	47.0	2.5
板材	側版A	168.0	44.0	3.0
板材	側版A	169.0	43.0	2.0
板材	側版A	172.0	41.0	2.0
板材	側版B	109.0	13.0	1.0
板材	側版B	110.0	12.0	0.8
板材	側版B	136.0	13.0	0.5
板材	側版B	138.0	12.0	1.0

第16表　99SE813井戸側部材計測表

側板には幅40㎝、厚さ３㎝前後の板材（側板A）を１辺に２枚ずつ用い、側板Ａの接合部には厚さ約１㎝、幅約20㎝の側板Ｂを当てる。隅柱と桟木は大入により結合し、側板と隅柱の結合には部分的に蟻型追い入れ継ぎを用いている（第30図）。

掘立柱建物

分　布　36棟確認した。尾根Ａ東側に集中する。尾根Ａ西側にもまとまりが見られる。尾根Ａ・谷Ｃにも点在するが、他に比べ疎らである。

構　造　側柱建物が主体を占め（SB1・4～37）、総柱建物と考えられるものは１棟（SB2）のみである。また、庇もしくは縁を持つと考えられるものは２棟（SB28・36）のみである。梁間は１間のものが最も多く（SB3・6～10・13～19・21・22・24～28）、次いで２間のもの（SB1・2・5・11・12・17・23・31～33）が多く確認でき、３間以上のものは２棟のみ（SB20・34）である（第31図）。

規　模　規模は７群に分類できる（第32図）。地点により規模に差が見られ、尾根Ａ東側では40～60㎡前後のものが多い。尾根Ａ西側は掘立柱建物の全体が分かるものがないが、柱穴の規模・柱穴の間隔から考えると、大規模なものが集中していた可能性が高い。特にSB7は、梁間１間（5.7ｍ）、桁行７間（15.4ｍ）、平面積90㎡弱となる大型のものである（第32図）。また、尾根Ａ・谷Ｃには小規模で柱筋もきちんと通らないものが多い。

柱　穴　平面形は円形のものが大半を占める。覆土には第17表に示した５種の土が確認できる。それぞれの土が単層でピットを覆う例も多いが、上層が覆土１、下層が覆土２～４となる場合も多く確認できた。

柱間寸法　柱間寸法にはある程度まとまりが見られる。柱間が１ｍ前後、１ｍ50㎝前後、２ｍ前後、２ｍ30㎝前後、２ｍ50㎝前後、３ｍ前後の６種がある（第34図）。

切り合い　井戸、円形土坑、小型の溝、（長）方形土坑Ａ・Ｃ・Ｄ・Ｅ類、地下式坑などと切り合い関係を持つものがある。井戸・円形土坑・小型の溝に対しては、これらの遺構を掘立柱建物（のピット）が切る場合と切られる場合の両者があり、これに対し（長）方形土坑Ｃ・Ｄ・Ｅ類、地下式坑に対しては、掘立柱建物（のピット）が切る例がほとんどである。なお掘立柱建物同士も、切り合いや重複が見られるが、これについては本章４－Ｄで後述する。

地下式坑

分　布　94例確認できた。尾根Ａに集中するが、尾根Ｂでも６基確認できる。また、谷Ａでも３基確認できた（第35図）。

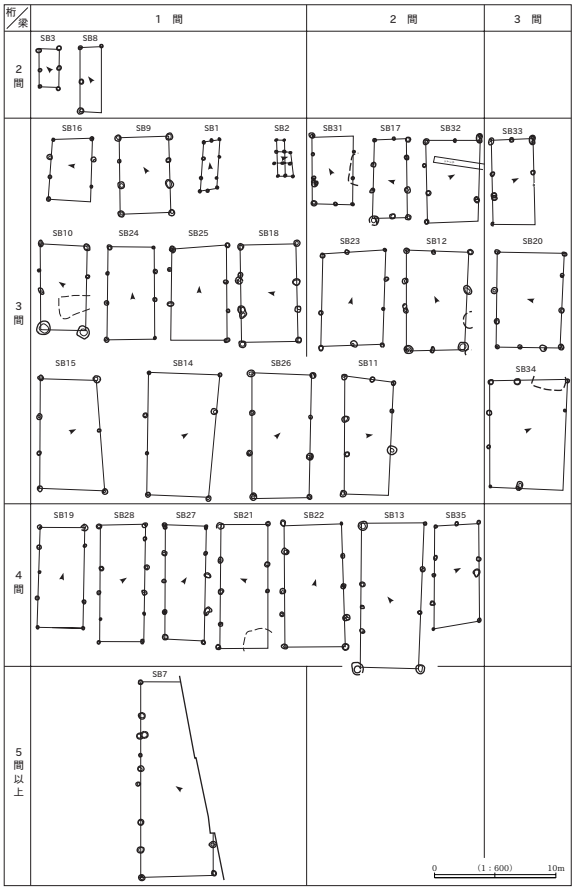
形態・規模　竪穴を掘った後トンネル状に横穴を掘った土坑である。ほとんどが、天井部が崩落しており、そのため掘り上がりは大型で深い土坑と同じ形状となる。

平面形は６種12類に細分した（第37図）。下端の平面形を基にした分類であり、分類の基準については第18表に示した。A1類が最も多いが、C1類、Ｅ類も比較的多い。長さは７ｍを超えるものから、1.5ｍ弱のものまで確認できる。最も長いものは92SK43であり、長さ712㎝を測る。幅は２ｍ～50㎝前後のものが確認できるが１ｍ前後のものが多い。深さは１～２ｍ前後のものが多い。平坦面５では50㎝前後のものも確認できるが、これは後世に上部が削平された結果と考えられる。

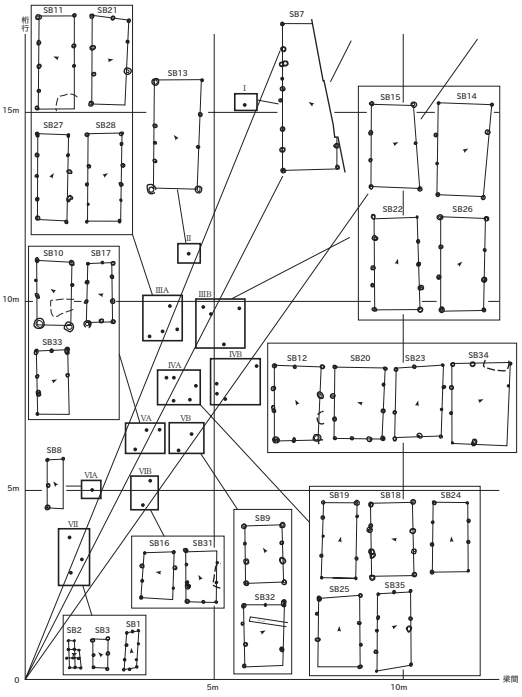
覆　土　堆積状況は、横断面がレンズ状、縦断面は開口部から奥壁に向かって前下がりの斜めに堆

名称	覆　　土	切り合い
覆土１	褐色（10YR4/4）粘土。基本層序Ⅳｂ層に対応する土層	覆土２～４を切ることが多い。
覆土２	褐色（10YR4/4）粘土。明黄褐色（10YR6/8）シルト・地山（灰白色（10YR7/1）粘土）ブロック定量混じる。	覆土１に切られることが多い。
覆土３	地山（灰白色（10YR7/1）粘土）ブロック。褐色（10YR4/4）粘土・明黄褐色（10YR6/8）シルト定量混じる。	覆土１に切られることが多い。
覆土４	褐色（10YR4/4）粘土。明黄褐色（10YR6/8）シルトブロック定量混じる。	覆土１に切られることが多い。
覆土５	地山（灰白色（10YR7/1）粘土）ブロック。暗褐色（10YR3/4）粘土ブロック多量・明黄褐色（10YR6/8）シルト定量混じる。	覆土２に切られることが多い。

第17表　ピットの覆土



第31図　掘立柱建物の分類

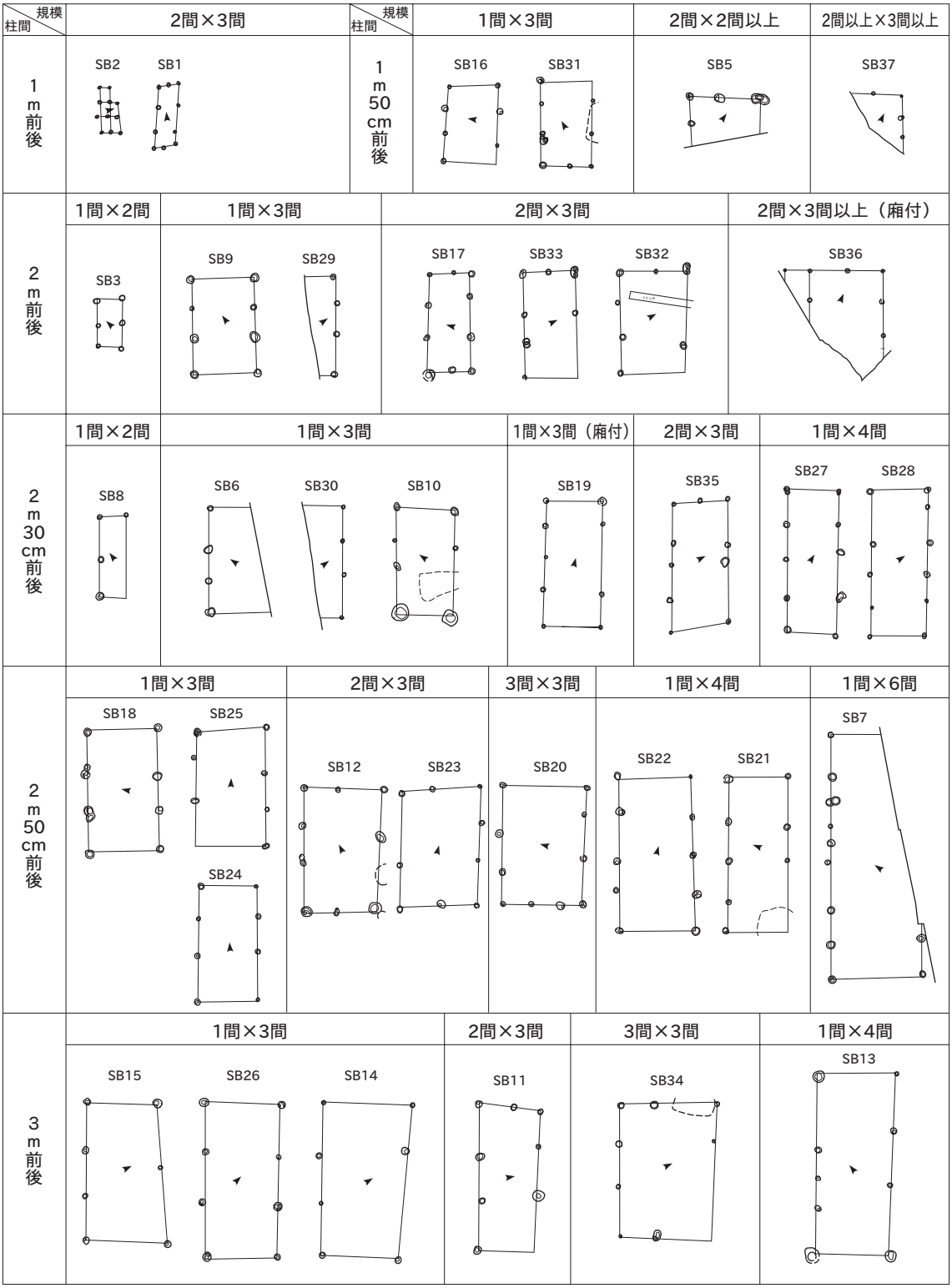


第32図　掘立柱建物の規模

第33図　掘立柱建物の分布　（アミが掘立柱建物）

積するものが多い。覆土の色調・土質は、開口部には褐色系ないしは黄色系のシルト質の土が確認できる場合が多く、奥壁に向かうにしたがってⅤ層・地山起源の土層が多くなる。第36図に示したような埋没過程が典型的なものと考えられる。

切り合い　　掘立柱建物、井戸、溝、（楕）円形の土坑、（長）方形の土坑などと切り合い関係を持つものがある。また地下式坑同士で切り合うものも確認できる。掘立柱建物、井戸、溝、（楕）円形土坑、（長）



第34図　掘立柱建物の柱間寸法

方形の土坑に対しては地下式坑がこれらの土坑に切られる場合がほとんどである。溝の一部には地下式坑に切られるものも存在する。

出土遺物　　銭貨（99SK657、99SK1443など）、砥石（98SK44など）が出土している。銭貨はいずれも６枚出土しており六道銭の可能性が高い。砥石は副葬品の可能性が考えられる。このほか陶磁器類が出土している遺構も存在しているが、これは天井崩落後の凹地へ混入した可能性が考えられる。

年　　代　　井戸・ピットに切られるものが大半で、縄文時代から９世紀後半頃の遺物が出土する基本層序Ⅴ層の崩落土が覆土に含まれ、六道銭は北宋銭が大半をしめることから、中世のものと考えられる。上限は11～12世紀頃であろう。

性　　格　　六道銭が出土しているものが存在することから、墓である可能性が高い。

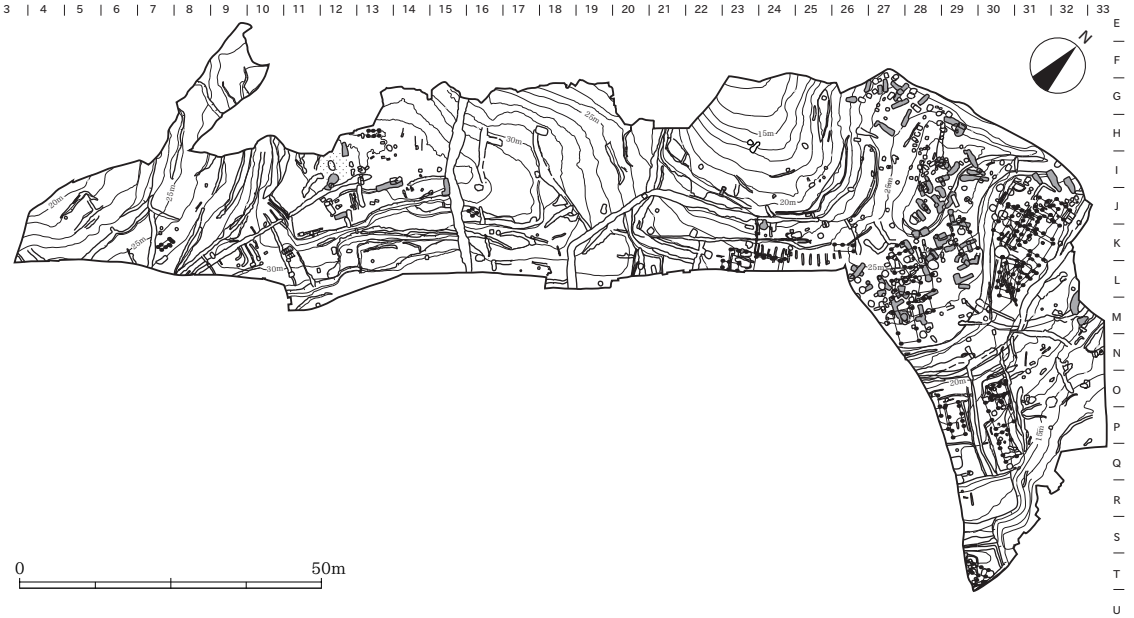
そ　の　他

その他の遺構としては、１号塚（奈良崎塚）・98SX40がある。

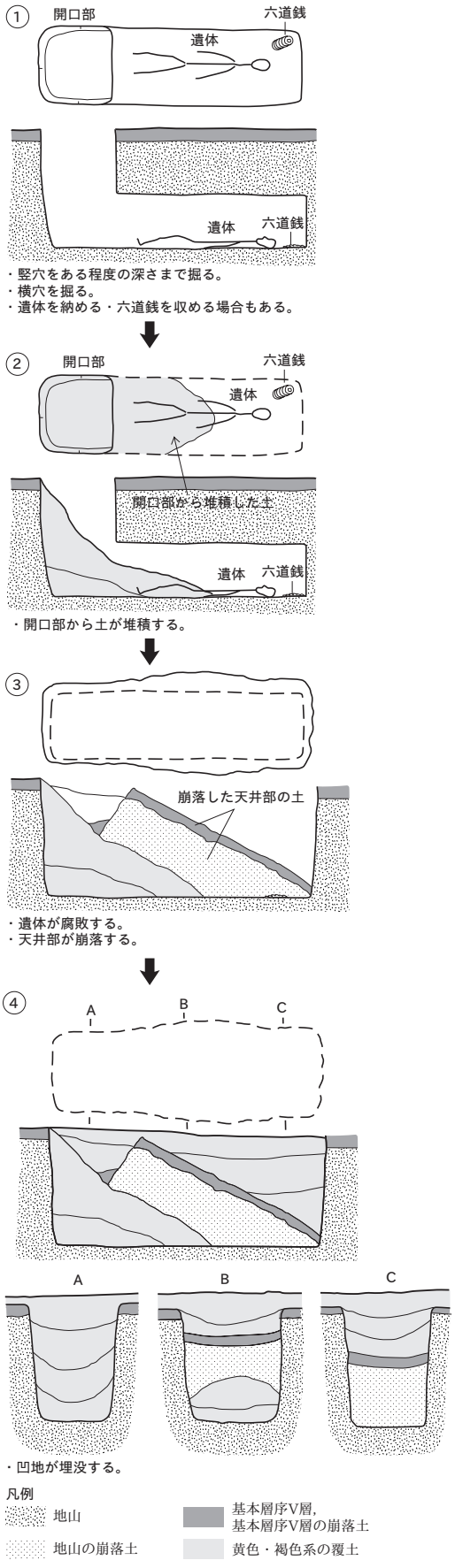
１号塚（図版176・177）：11I・12Iに位置する直径約10ｍの円形になると思われる塚。弥生時代後期の方形周溝墓の高まりを利用して構築している。図版177の１号塚・１号周溝墓断面図ａ・ｂの９が弥生時代後期以後の旧表土、５・６が中世以後の旧表土と考えられ、３・４は中世以後の盛土、７・８は中世の盛土と考えられる。地下式坑C3類99SK84は、弥生時代後期以降の旧表土を掘り込んでおり、中世の盛土７・８に覆われている。

98SX40（図版60・61）：23Hにある杭列。杭はいずれも芯持ち丸太材で、杭列の上に直交して重なっていた横木も芯持ち丸太材である。本来地下に打ち込まれていたものが土圧により倒れたものと考えられる。周辺からは珠洲すり鉢（57）と京焼風陶器椀（641）が出土した。SX40の部材のC14ではAD1645・1660年の暦年代が示されており、近世に下る可能性がある。

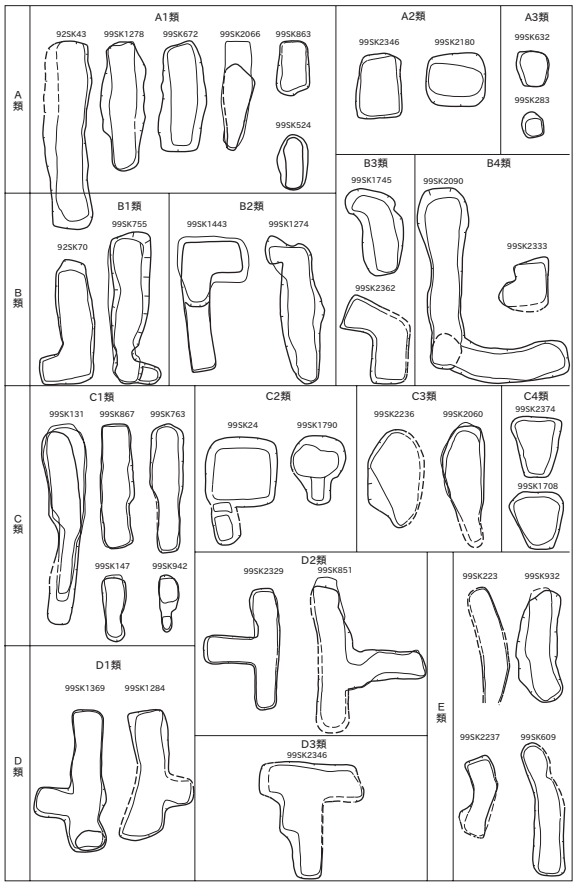
99SX926（図版94・220）：30K-9に位置する。明確な掘り込み等は確認できなかったが、長軸40㎝、短軸20㎝前後の範囲の中から銭貨が1,000枚強まとまって出土した。



第35図　地下式坑の分布　　（アミが地下式坑）



第36図　地下式坑の埋没過程



第37図　地下式坑の分類

分類	細分	特　　徴
A類	1	下端の平面形が長方形状もしくは楕円形状を呈するもののうち、長軸（a）に対し短軸（b）が1/2以下のもの。
	2	下端の平面形が長方形状もしくは楕円形状を呈するもののうち、長軸（a）に対し短軸（b）が1/2以上のもの。
	3	開口部と下端の形状が大きく違わないもの。
B類	1	下端の平面形が「L」字状を呈するもののうち、開口部から奥壁までの距離（a）が、奥壁からの屈曲部の長さ（b）より短いもの。
	2	下端の平面形が「L」字状を呈するもののうち、開口部から奥壁までの距離（a）が、奥壁からの屈曲部の長さ（b）より長いもの。
	3	開口部から、鈍角に屈曲するもの。
	4	下端の平面形がL字状を呈するもののうち、開口部から二股に分かれるもの。
C類	1	下端の平面形が片袖状もしくは羽子板状を呈するが、胴部の広がりがあまり大きくないもの。
	2	下端の平面形が片袖状もしくは羽子板状を呈し、胴部の広がりが大きいもの。
	3	下端の平面形が雫状を呈するもの。
	4	下端の平面形が台形状を呈するもの。
D類	1	下端の平面形が「T」字状を呈するもののうち、短軸（b）が長軸（a）の1/2に満たないもの。
	2	下端の平面形が「T」字状を呈するもののうち、短軸（b）が長軸（a）の1/2を超えるもの。
	3	D１・２類に類似するが、片側が階段状に広がるもの。
E類		下端の平面形が緩やかな弧状を呈するもの。

第18表　地下式坑の分類

3　下層の遺構

下層の遺構には溝・土坑・竪穴建物・墳墓などがある。前述したように年代は弥生時代後期・古墳時代初頭中心とし、古墳時代中～後期、奈良・平安時代のものも一定量含む。墳墓については個別に遺構の記述を行うが、他の遺構の詳細については遺構計測表を参照していただきたい。

溝

分　　布　古墳・墳墓や竪穴建物の周溝と考えられるものを除き、12条確認している。尾根Ｂで多く確認できる。

分　　類　断面形、覆土の堆積状況については上層に準じた。断面形は「V」字状・箱状・台形状・彎曲・皿状の５種、覆土の堆積状況はレンズ状・水平・斜め・ブロック状・凸状・単層の６種に分類した（第24図）。

規模・形状　尾根Ｂには規模が大きく、断面形が「V」字状、台形状のものが定量確認できる。ほかでは小規模なものが多い。

覆　　土　炭化物・小焼土粒を含んだ褐色系の覆土の単層かレンズ状堆積のものが多い。

出土遺物　89SD19からは小型壺（774）・小型器台（775）が残りの良い状況で出土した。また、99SD768（835～838）・1880（786～783）からは遺物が定量出土したが、他の遺構からはまとまった遺物の出土は見られなかった。

年　　代　大半のものが弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。

土　　坑

分　　布　10基確認した。散発的に確認でき、まとまりは見られない。

分　　類　上層に準じた。ピットとの区別は必ずしも明確でないが、長軸70㎝以上で、柱痕・柱根を持たず、長さ・幅に比べ深さが比較的浅い穴は土坑とした。また、平面形は、円・楕円・方・長方・台形・隅丸三角・不整の７種、断面形は箱状・台形状・袋状・「U」字状・彎曲・皿状の６種、覆土の堆積状況はレンズ状・水平・斜め・ブロック状・単層・凸状の６種に分類した（第24図）。

覆　　土　溝と同様で、炭化物・小焼土粒を含んだ褐色系の覆土の単層かレンズ状堆積の例が多いが、地山系の覆土が堆積しているものも確認できる。

出土遺物　98SK62（706～718）、20Kピット２（719～722）から古墳時代後期の土器が定量出土した。ほかの遺構からはまとまった遺物の出土は見られない。

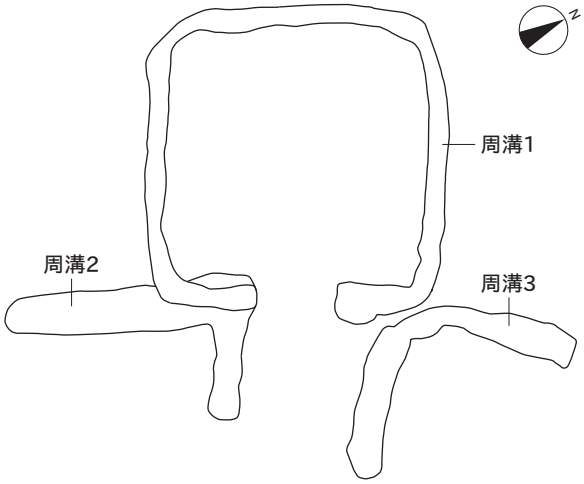
古墳・周溝墓

５基確認できる。尾根Ａに２基（１・２号墳）、尾根Ｂに３基（１～３号周溝墓）存在する（第39図）。

１号墳（図版160～163）：後世の削平のため確定的でないが、直径約18ｍの円墳と考えられる。99SD957が周溝となる可能性が高く、また99SD2502も周溝となる可能性がある（図版174）。

長軸約3.5ｍの長方形の掘り方のなかに、長軸約２ｍの平面形が長方形、断面形が台形状となる墓坑が確認できた。木棺直葬と考えられるが、木棺の形状は不明。副葬品として捩文鏡・管玉・勾玉（872～

879）がある。周溝の可能性が考えられる99SD2502からは壺もしくは釜の胴部破片が出土したが、図化できなかった。年代は捩文鏡の年代から考え古墳時代前期後半から中期の初めであろう。



第38図　1号周溝墓周溝の呼称

2号墳（図版167）：一辺約10ｍ前後になると思われる方墳。1号墳に近接する。後の削平などのため埋葬施設は確認できなかった。周溝内から土器と鉄器（832～834）が近接して出土した。出土土器の年代から考え古墳時代前期頃のものであろう。

1号周溝墓（図版164～166）：平面形が一辺約12ｍの方形となり、「L」字状の溝が2基付属施設として付く周溝墓。以下では便宜的に第38図のように周溝を呼称する。周溝1の1辺中央付近が途切れ陸橋状となる。後世に一部改変され塚として利用されており、盛土と旧表土がそれぞれ3枚確認できる（図版177）。3・4が近世ないしはそれ以降の塚の盛土、5・6が中世の塚の旧表土、7・8が中世の塚の盛土、9が弥生時代後期以降の旧表土、10～16が1号方形周溝墓の盛土、20が弥生後期以前の旧表土と考えられる。後世の削平などのため埋葬施設は確認できなかった。周溝1の南コーナー付近から多量の土器が出土している（839～855）。出土土器の年代から考え弥生時代後期のものであろう。

2号周溝墓（図版167）：平面形が直径約4ｍの円形もしくは、1辺4ｍの方形となる周溝墓。周溝の一部が途切れ陸橋状となる。周溝周辺から土器が定量出土した（781～784）。出土土器の年代から考え弥生時代後期から古墳時代初頭のものであろう。

3号周溝墓（図版180）：一辺10ｍ以上になる方形の周溝墓。後世の削平などのため埋葬施設は確認できなかった。周溝から土器が出土している（889）。出土土器の年代から考え弥生時代後期のものであろう。

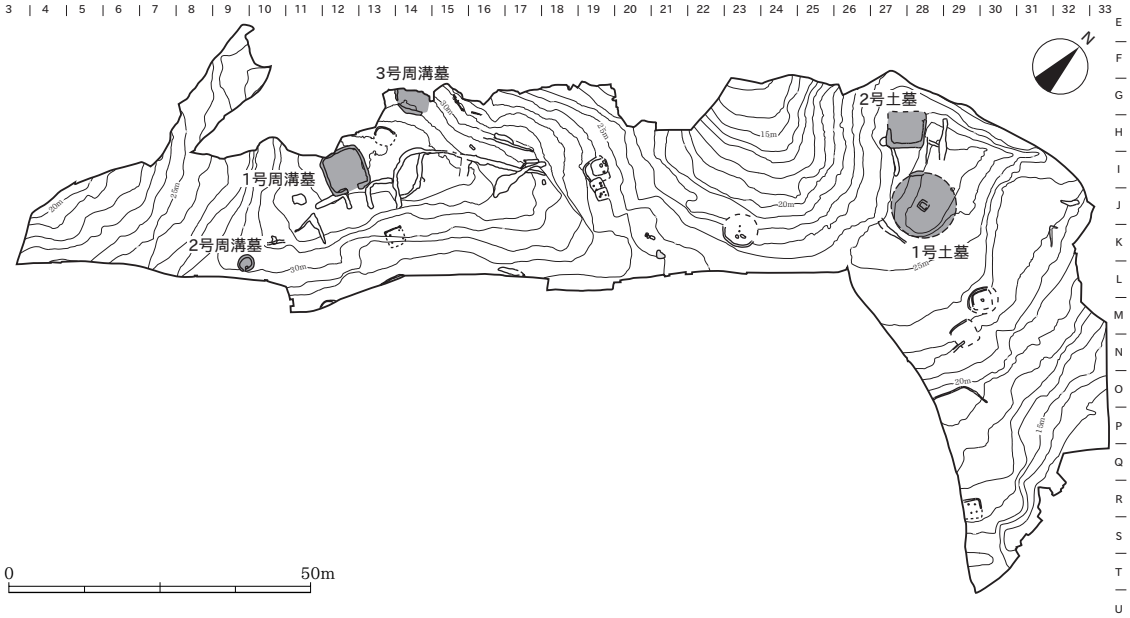
竪　穴　建　物（図版180～184）

分　　布　14棟確認した。尾根Ａの東側斜面に4棟、谷Ａに6棟、尾根Ｂ上に1棟、谷Ｂに3棟確認できる（第40図）。

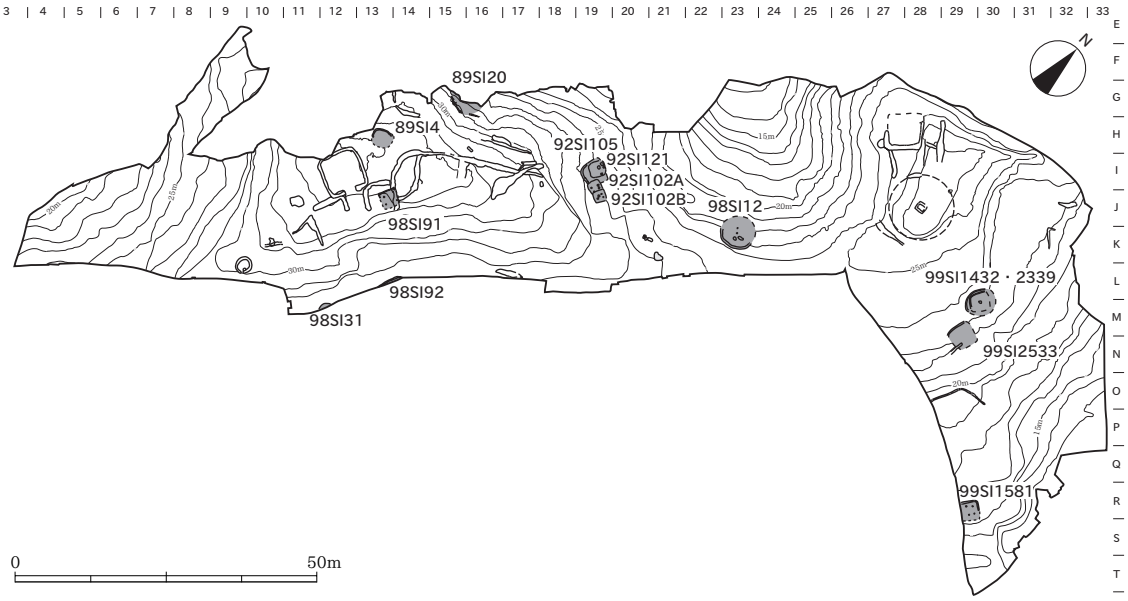
形態・規模　周溝の一部のみ残存しているものが大半で細かな形態分類はできない。平面形には（惰）円形のものと、方形のものがある。方形のものには弥生時代後期とそれ以降のものがあるが、（惰）円形のものは弥生時代後期のものにほぼ限定される。

覆　　土　溝・土坑と同様に炭化物・小焼土粒を含む褐色系の土の単層かレンズ状堆積の例が多い。

年　　代　92SI121は平安時代、92SI102Aは古墳時代後期から平安時代、89SI20・92SI105は弥生時代後期、89SI4・98SI139・99SI2533は出土遺物が少なく時期不明。他のものは古墳時代初頭から前半頃と考えられる。



第39図　古墳・墳墓の分布



第40図　竪穴建物の分布

4　遺構の前後関係

A　複雑な切り合い関係を持つ地点

以下では、上層の遺構が密集し複雑な切り合い関係が見られる地点を取り上げ、個々の遺構の前後関係を記述する。その際、地点毎の大まかな遺構の変遷も明らかにしていくよう努めたい。なお、遺跡全体の遺構の変遷については第Ⅵ章１で別に論じる。

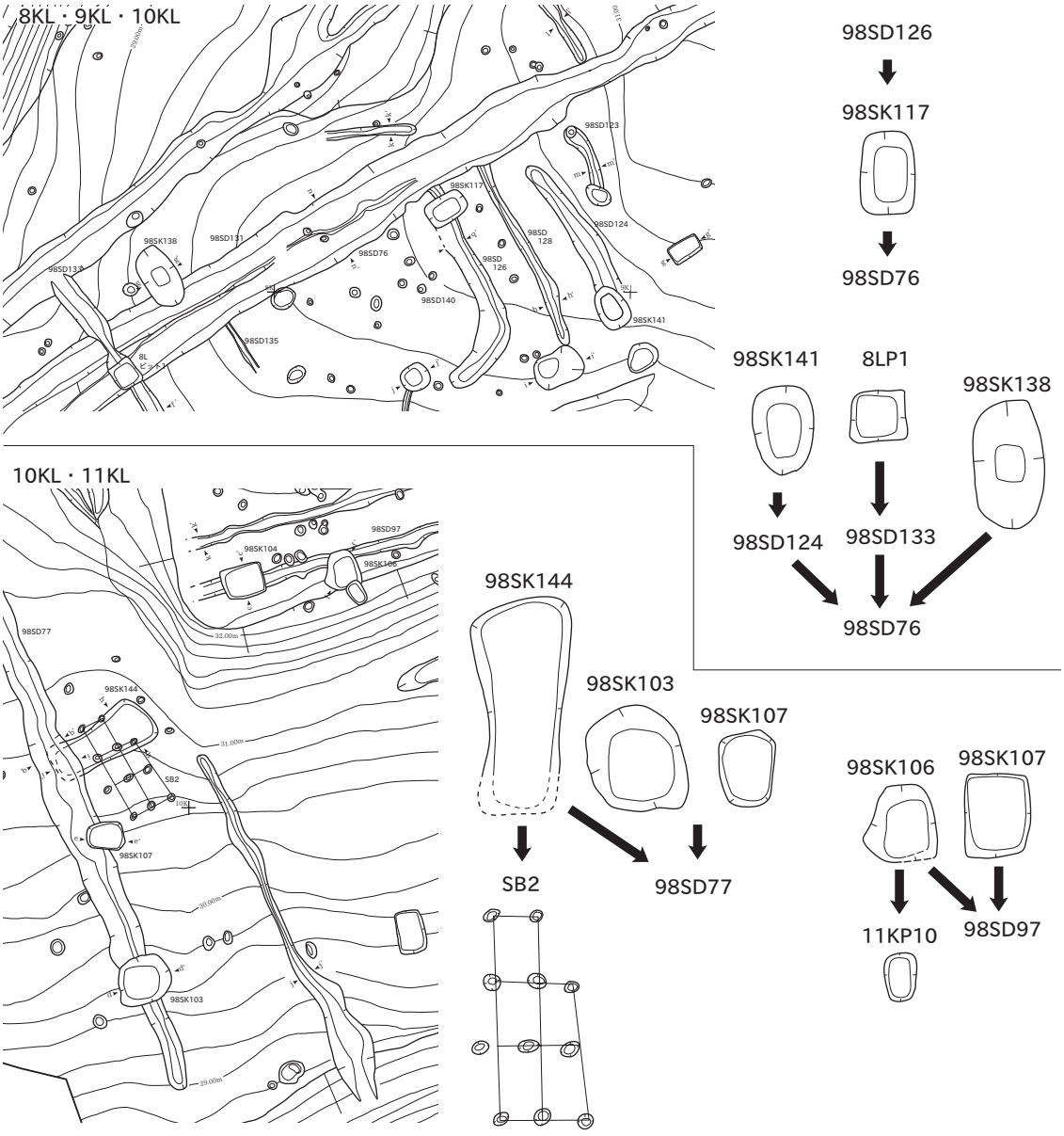
尾　根　B

8KL・9KL・10KL（第41図、図版12～15）：鉤型の溝98SD126が古く、（長）方形土坑C4類98SK117、98SD76がこれを切り、このうち98SD76は98SD131に切られる。また、（長）方形土坑

C4類の98SK141・8Lピット1は東西方向にのびる溝98SD124・133に切られ、98SD124・133は南北方向にのびる溝98SD76・131に切られる。（長）方形土坑C4類と切り合い関係の無い98SD135・128も98SD76に切られる。（長）方形土坑C4類98SK138は南北方向の溝98SD131に切られる。

10KL・11KL（第41図、図版14・15）：地下式坑A1類98SK144、（長）方形土坑C4類98SK103・107は南北方向の溝98SD77に切られ、98SK144はSB2に切られる。（長）方形土坑C4・5類98SK106・104は、南北方向の溝98SD97に切られる。

11HIJ・12HIJ（第42図、図版28～30）：地下式坑C3類92SK82が古く、地下式坑A3類92SK42はこれを切る。1号塚の盛土は92SK82・42、地下式坑89SK8を覆う。98SD75・131と一連と考えられる南北方向の溝92SD34Aは92SK82を切る。また、（長）方形土坑C3類92SK89も古い遺構と考えられ（楕）円形土坑92SK69に切られる。92SK69は長方形土坑E3類92SK68に切られ、92SK68は



第41図　8KL・9KL・10KL、10KL・11KLの遺構と変遷

92SD34Aに切られる。（長）方形土坑E5類92SK58、円形土坑92SK49も92SD34Aに切られる。

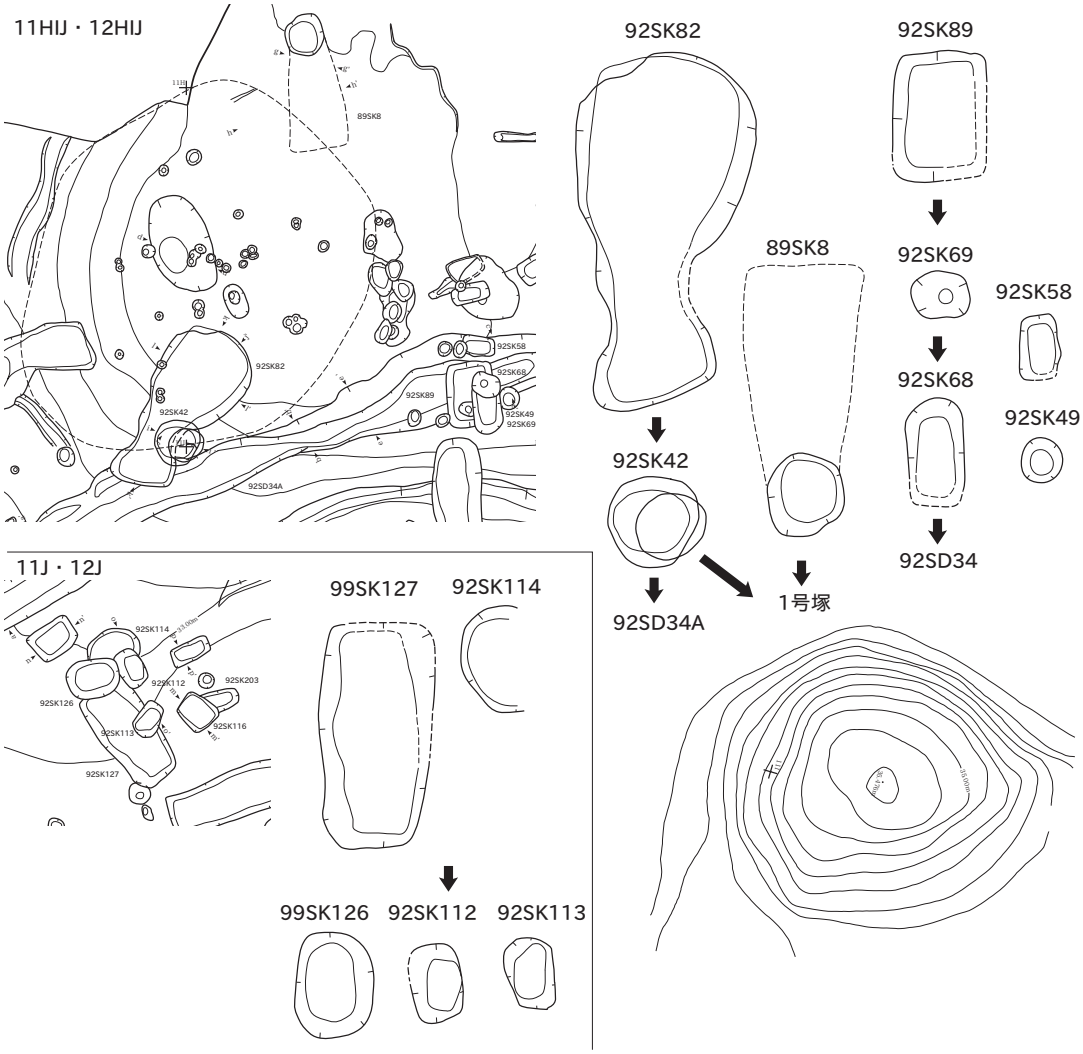
11J・12J（第42図、図版18～20）：（長）方形土坑C1類92SK127、（楕）円形土坑92SK114が古く、同C5類92SK112・113・126がこれを切る。また、（長）方形土坑E4？類92SK203は同C4類92SK116に切られる。

遺構の変遷　　尾根Bからは塚、南北方向の溝、東西方向の溝、地下式坑、（長）方形土坑C1・C3・C4・C5・E類、（楕）円形土坑、掘立柱建物などが検出されている。

1号塚は11HIJ・12HIJ（第42図）において、盛土が地下式坑C3類92SK82、同A3類92SK42、同A1類89SK8を覆うことからこれより新しい。

南北方向の溝には98SD74・131・97、92SD34Aなどがある。98SD74・131と98SD34Aは一連と考えられ、8KL・9KL・10KL（第41図）では東西方向の溝98SD77・128・133を、11HIJ・12HIJでは地下式坑92SK42・82、（長）方形土坑C3類92SK89、同C4類92SK68、同E5類92SK58、円形土坑92SK69を切る。また98SD97は（長）方形土坑C4類98SK104・106を切る。これらのことから、南北方向の溝は、地下式坑・（長）方形土坑・（楕）円形土坑の大半よりも新しいと考えられる。

東西方向の溝には98SD77・123・124・128・133・135などがある。8KL・9KL・10KL（第41図）では128・133・135が南北方向の溝98SD74に切られ、98SD124・133が（長）方形土坑C4・5



第42図　11HIJ・12HIJ、11J・12Jの遺構と変遷

類99SK141・8Lピット2を切る。10KL・11KL（第41図）では98SD77が地下式坑A1類98SK144、（長）方形土坑C4類98SK103・107を切る。これらのことから東西方向の溝は南北方向の溝より古く、地下式坑・（長）方形土坑C4・5類より新しいと考えられる。1号塚との前後関係は不明である。

（長）方形土坑C1類には92SK127がある。11J・12J（第42図）では、（長）方形土坑C3・4類92SK112・113・126に切られる。他の遺構との前後関係は不明である。

（長）方形土坑C3類には92SK89・126がある。11J・12J（第42図）では99SK126は（楕）円形土坑99SK114と（長）方形土坑C1類99SK127を切る。92SK89は、南北方向の溝92SD34A、長方形土坑E3類92SK69、（楕）円形土坑92SK62に切られる。（長）方形土坑C3類は（長）方形土坑E3類、南北方向の溝よりも古く、（長）方形土坑C1類よりも新しいものである可能性が高い。楕円形土坑とは古い場合と新しい場合がある。

（長）方形土坑C4・5類は98SK103・104・106・107・117・141、8Lピット2、92SK68・112・113など多数検出されている。8KL・9KL・10KL（第41図）では98SK141・8Lピット2が東西方向の溝に切られ、92SK117が鉤型の溝98SD126を切る。10KL・11KL（第41図）では東西方向の溝99SD77に98SK103・107が、南北方向の溝98SD97に98SK104・106がそれぞれ切られる。また、（長）方形土坑E5類11Kピット10が92SK106を切る。11HIJ・12HIJ（第42図）では92SK68が（長）方形土坑C3類92SK89・（楕）円形土坑92SK69を切り、南北方向の溝92SD34Aに切られる。11J・12J（第42図）では92SK113が（長）方形土坑C1類92SK127を、92SK112が（楕）円形土坑92SK114を切る。したがって、（長）方形土坑C4・5類は南北方向の溝・東西方向の溝より古く（長）方形土坑C1より新しいと考えられる。

地下式坑には89SK8、92SK42・82、98SK144などがある。11HIJ・12HIJ（第42図）では89SK8、92SK42・82が1号塚の盛土に覆われ、92SK42・82が南北方向の溝SD34Aに切られる。10KL・11KL（第41図）では98SK144が東西方向の溝98SD77に切られる。したがって、地下式坑は1号塚・東西方向の溝・南北方向の溝に先行する可能性が高い。他の遺構との前後関係は不明である。

（長）方形土坑E類には98SK138、92SK58・69などがある。11HIJ・12HIJ（第42図）、8KL・9KL・10KL（第41図）では、ともに南北方向の溝92SD34A、98SD131に切られ、このうち92SK69は、（長）方形土坑C3類92SK89、（楕）円形土坑92SK69を切る。

円形土坑には92SK69・49・114などがある。11HIJ・12HIJ（第42図）では、92SK69が（長）方形土坑C3類92SK89を切り、同E3類92SK68、南北方向の溝92SD34Aに切られる。また、92SK49は南北方向の溝92SD34Aに切られる。

掘立柱建物は10KL・11KL（第41図）でSB2が1棟確認でき、これは地下式坑99SK144を切る。

以上のことから、尾根Bの遺構は①（長）方形土坑C1類→②（長）方形土坑C3類→③（長）方形土坑C4・5類→④東西方向の溝→⑤南北方向の溝と変遷した可能性が高い。

なお、地下式坑は1号塚・東西方向の溝・南北方向の溝に先行することは確実だが、（長）方形土坑C類との前後関係はここでは明確でない。また1号塚も地下式坑に後続すること以外は不明であり、円形土坑・（長）方形土坑E類についても、南北方向の溝に先行する可能性が高いが、それ以上時期を限定することはできない。掘立柱建物SB2は切り合いからは99SK144に後続することしかわからない。

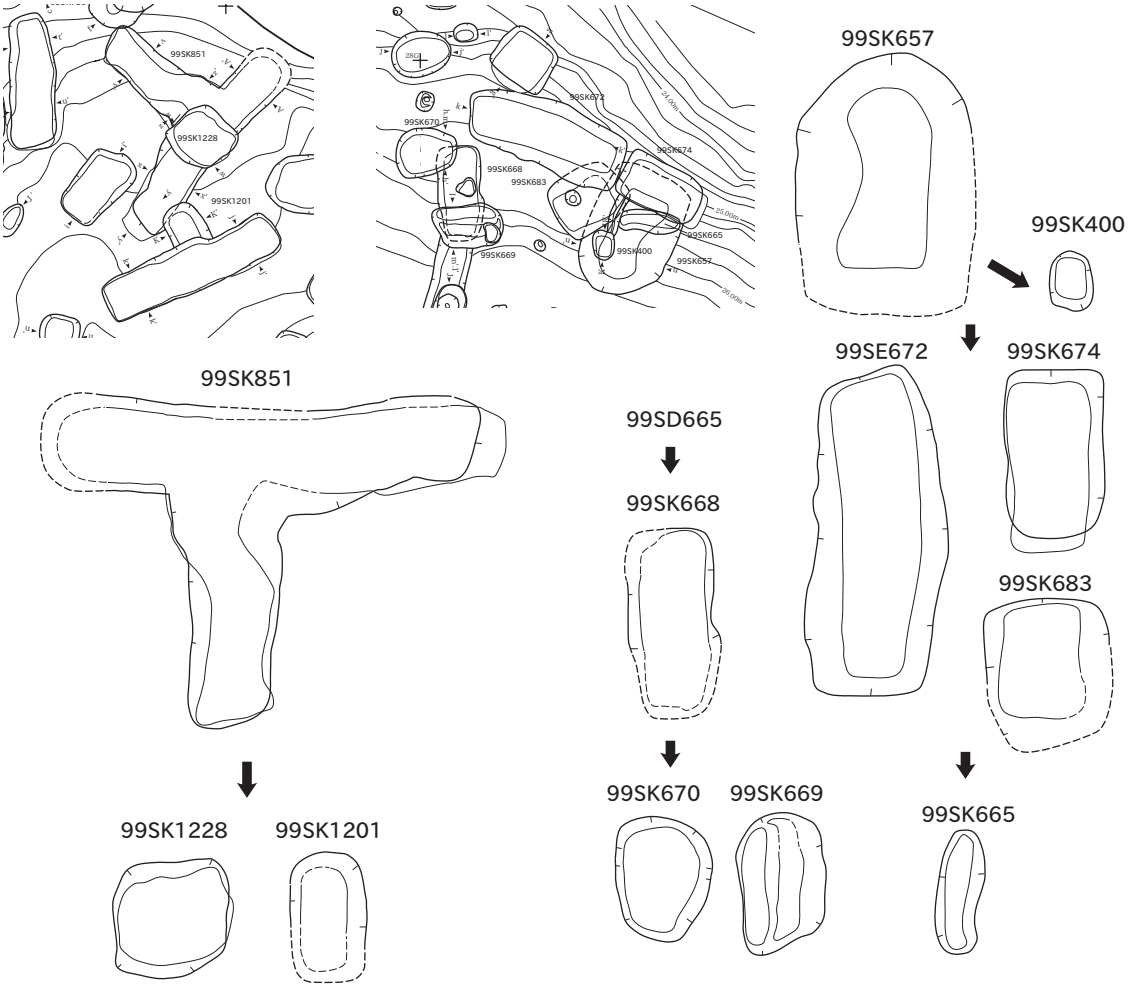
尾　根　A

27G・26G（第43図、図版62～66）：地下式坑D2類99SK851が古く、（長）方形土坑C3類1228、同E類99SK1201はこれを切る。なお、99SK1201と地下式坑C1類99SK867は重複するが切り合い関係は把握できていない。

28H・29H（第44図、図版67～72）：断面彎曲で南東－北西方向にのびる中型の溝99SD665が古く、地下式土坑A1類99SK668に切られる。99SK668は（楕）円形土坑99SK670、（長）方形土坑C3類99SK669に切られる。また、地下式坑A1類99SK657は同A1類99SK652・674、（長）方形土坑C3類99SK683、同E類99SK400に切られる。99SK674は（楕）円形土坑99SK665に切られる。なお、99SK683と99SK672は一部重複するが、切り合い関係を把握できていない。

28IJ（第45図、図版76～79）：断面彎曲で東西方向に伸びる中型の99SD1280が古く、地下式坑A1類99SK2066、同C3類99SK2060がこれを切る。99SK2066は（長）方形土坑C3類92SK1732、99SK2060は（長）方形土坑C3類99SK1743にそれぞれ切られる。99SK1732は（長）方形土坑C3類99SK1717・同C4類99SK2088に切られ、99SK1743は（楕）円形土坑99SK1742のほか99SK1717・2088にも切られる。99SK1717は（長）方形土坑C4類99SK1702に切られる。なお、99SK1717と99SK2088は一部重複するが、切り合い関係を把握できなかった。

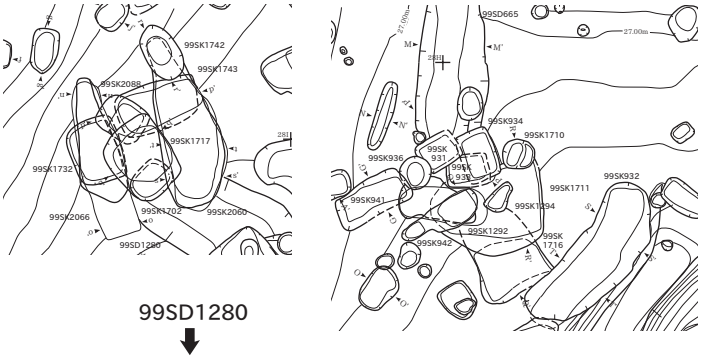
第43図　27G・28Gの遺構と変遷

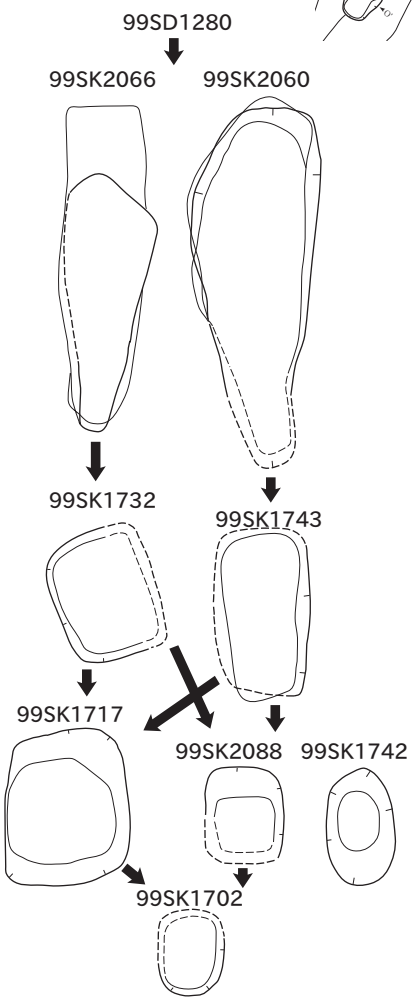


第44図　28H・29Hの遺構と変遷

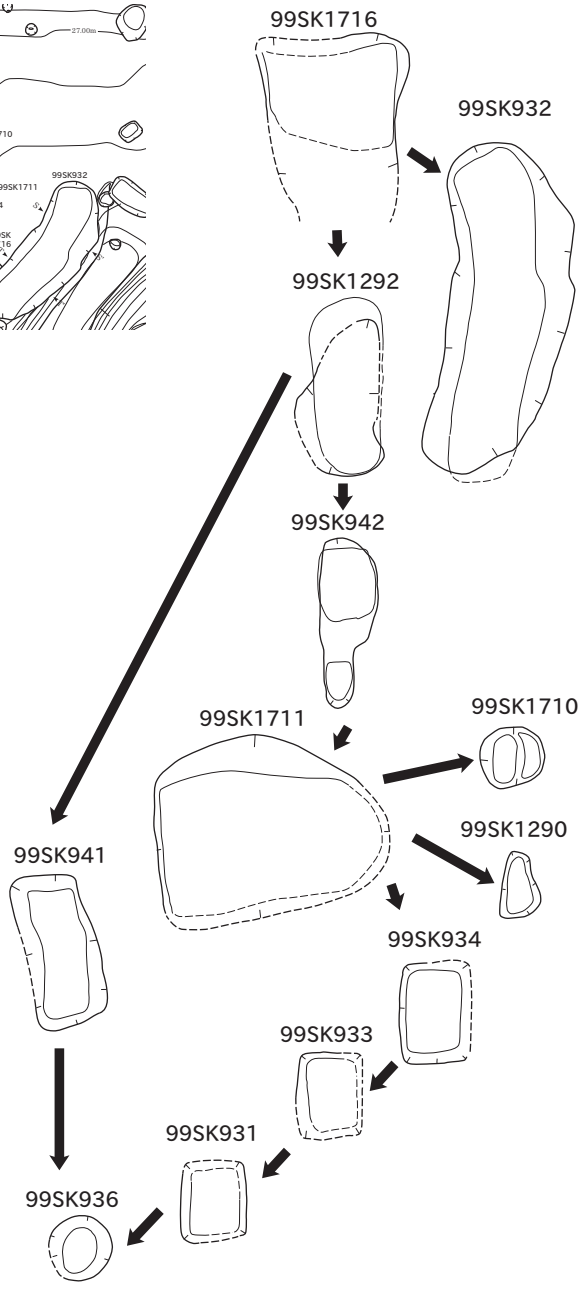
28I・29I（第46図、図版67～72）：地下式坑99SK1716が古く、地下式坑A1類99SK1292、同E類99SK932に切られる。99SK1292は地下式坑C1類99SK942、（長）方形土坑E2類99SK941に切られる。99SK942は大型の不整形土坑99SK1711に切られ、99SK1711は（長）方形土坑C4類99SK934、（楕）円形土坑99SK1710、小型の不整形土坑99SK1290に切られる。99SK934は（長）方形土坑C4類99SK933に切られ、99SK933は（長）方形土坑C4類99SK931に、99SK931は（楕）円形土坑99SK936に切られる。また99SK936は99SK941も切る。

28IJ・29IJ（第47図　図版94～101）：99SD1280が古く、地下式坑D1類99SK1284に切られる。99SK1284は大型の不整形土坑99SK1723に切られ、99SK1723は、（楕）円形土坑99SK1715・（長）方形土坑E5類99SK1724に切られ、99SK1715は（楕）円形土坑99SK938に切られる。地下式坑A1類99SK1283は、地下式坑A1類99SK1285に切られる。99SK1285は（長）方形土坑C3類99SK950





第45図　28IJの遺構と変遷



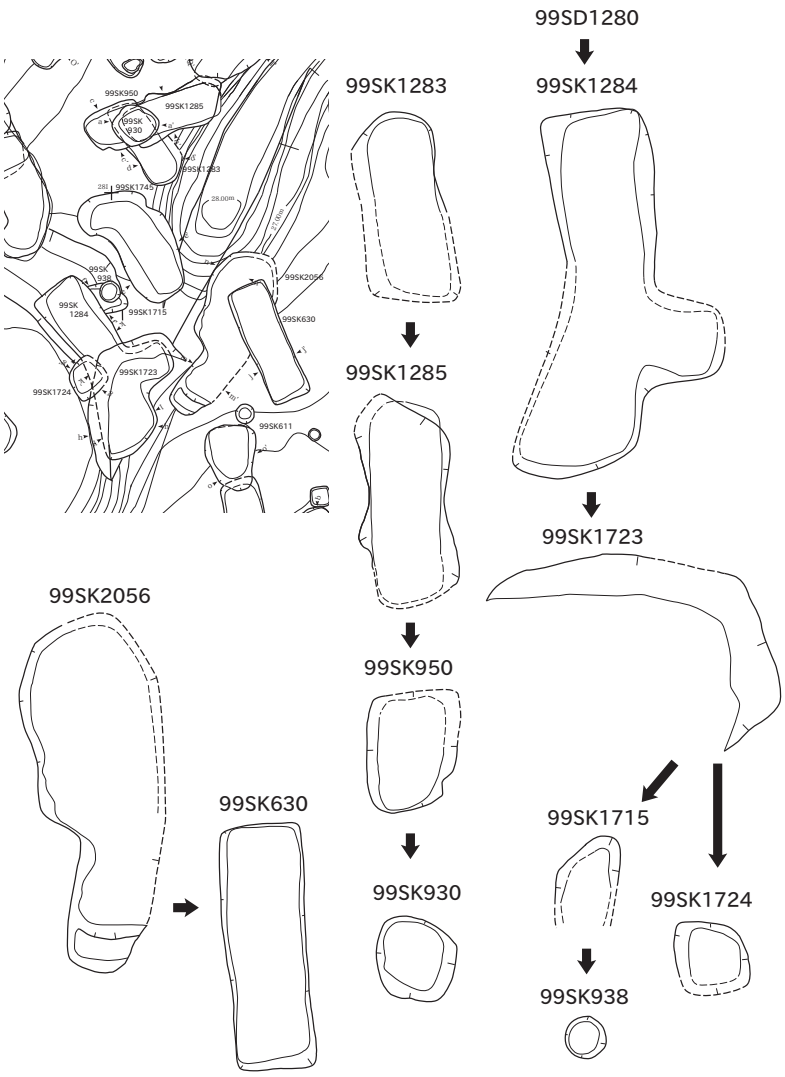
第46図　28I・29Iの遺構と変遷

に切られ、99SK950は（長）方形土坑C4類99SK930に切られる。また、地下式坑C1類99SK2056は（長）方形土坑C1類99SK630に切られる。

遺構の変遷　　尾根Ａからは中型の溝・地下式坑・（長）方形土坑Ｃ類・（長）方形土坑Ｅ類・（楕）円形土坑などが確認できる。

中型溝には99SD665・1280がある。99SD665は28H・29H（第44図）で地下式坑A1類99SK668に、28I・29I（第46図）で（長）方形土坑C4類99SK931・933・934に切られる。また28IJ（第45図）、28IJ・29IJ（第47図）では99SD1280は地下式坑D1類99SK1284に切られ、28IJ（第45図）では同A1類99SK2006・同C3類99SK2060に切られる。これらの溝は一部の地下式坑に先行する可能性が高い。

地下式坑は多数検出されており、27G・28G（第43図）ではD2類99SK851が（長）方形土坑C3類99SK1228、同Ｅ類99SK1201に切られる。28H・29H（第44図）においては地下式坑A1類99SK668が99SD665を切り（楕）円形土坑99SK670・（長）方形土坑E3類に切られる。地下式坑A1類？99SK657が同A1類99SK674、（長）方形土坑C3類99SK683に切られる。28IJ（第45図）では地下式坑A1類99SK2066が中型の溝99SD1280を切り、（長）方形土坑A3類99SK1732に切られ、地下式坑C3類99SK2060が、99SD1280を切り、（長）方形土坑C2類99SK1743に切られる。28I・29I（第46図）では99SK1716を地下式坑A1類99SK1292、同Ｅ類99SK932、同C1類99SK942が切る。また99SK1292は（長）方形土坑Ｅ2類99SK941に、99SK942は大型の不整形土坑99SK1711に切られる。28IJ・29IJ（第47図）では地下式坑C1類99SK2056が（長）方形土坑Ｃ1類99SK630に切られ、地下式坑A1類99SK1283は同A1類99SK1285に切られ、99SK1285は（長）方形土坑C3類99SK950に切られる。地下式坑D1類99SK1284は中型の溝99SD1280を切り、大型の不整形土坑99SK1723に切られる。



第47図　28IJ・29IJの遺構と変遷

このように、地下式坑はそれ同士が切り合い関係を持つものが認められ、比較

的長期間にわたって掘削された可能性が高い。また、（長）方形土坑C1～C3類・大型の不整形土坑に先行するものと考えられる。中型の溝99SD655・1280には後続するか近接した時期である可能性が高い。

（長）方形土坑C1～3類には99SK630・683・950・1228・1717・1732・1743などがある。27G・28G（第43図）では（長）方形土坑C3類99SK1228が地下式坑D2類99SK851を切る。28H・29H（第44図）では（長）方形土坑C3類99SK683が地下式坑A1類99SK657を切る。28IJ（第45図）では（長）方形土坑C3類99SK1732が地下式坑A1類99SK2066を切り、（長）方形土坑C2類99SK1717・同C4類99SK2088に切られ、99SK1717は（長）方形土坑C4類99SK1702に切られる。（長）方形土坑C2類99SK1743は地下式坑C3類99SK2060を切り、（長）方形土坑C4類99SK2088・（楕）円形土坑99SK1742に切られる。28IJ・29IJ（第47図）では（長）方形土坑C1類99SK630が地下式坑C1類99SK2056を切り、（長）方形土坑C3類99SK950は地下式坑A1類99SK1285を切り、（長）方形土坑D類99SK930に切られる。このことから、（長）方形土坑C1～3類の多くは地下式坑に後続し、（長）方形土坑C4・5類に先行する可能性が高い。

（長）方形土坑C4・5類には99SK930・931・933・934・1201・1702・1742・2088などがある。28IJ（第45図）では、99SK2088が（長）方形土坑C2類99SK1743を、99SK1702が（長）方形土坑C3類99SK1717を切る。28I・29I（第46図）では99SK933・934が不整形土坑99SK1711を切り、99SK933を切る。99SK931が円形土坑99SK936に切られる。28IJ・29IJ（第47図）では99SK930が（長）方形土坑C3類99SK950を切る。

このように、（長）方形土坑C4・5類は、それ同士が切り合い関係を持つ例が定量存在することから、比較的長期間に渡って掘削されたと考えられる。また、地下式坑・（長）方形土坑C1～5類に後続し、大型の不整形土坑にも後続する可能性が高い。類例が少なく確定的ではないが、（楕）円形土坑の一部には先行する可能性が高い。

（長）方形土坑E類には99SK669・941・1201・1724などがある。27G・28G（第43図）では地下式坑C1類99SK867との切り合い関係は不明だが、99SK1201が地下式坑D2類99SK851を切る。28H・29H（第44図）では、（長）方形土坑E1類99SK669が地下式坑A1類99SK668を切る。28I・29I（第46図）では（長）方形土坑E2類99SK941は地下式坑A1類99SK1292を切り、（楕）円形土坑99SK935に切られる。28IJ・29IJ（第47図）では（長）方形土坑E5類99SK1724が大型の不整形土坑99SK1723を切る。これらのことから、（長）方形土坑E類は地下式坑・大型の不整形土坑に後続すると考えられる。また、類例が少なく確定的ではないが、円形土坑の一部には先行する可能性が高い。（長）方形土坑C類との前後関係については不明である。

（楕）円形土坑には99SK670・936・938・1710・1715・1742などがある。28H・29H（第44図）では99SK670が地下式坑A1類99SK668を切る。28IJ（第45図）では、99SK1742は（長）方形土坑C2類99SK1743を切る。28I・29I（第46図）では99SK1710が大型の不整形土坑99SK1711を切り、99SK936は（長）方形土坑C4類99SK931・同E2類99SK941を切る。28IJ・29IJ（第47図）では99SK1715は大型の不整形土坑99SK1723を切り、99SK938に切られる。これらのことから、（楕）円形土坑の多くは地下式坑・大型の不整形土坑に後続する可能性が高く、またその一部は（長）方形土坑C4・5類にも後続すると考えられる。

大型の不整形土坑には99SK1711・1723がある。28I・29I（第46図）では99SK1711が地下式坑C1類99SK942を切り、（長）方形土坑C3類99SK933・934、（楕）円形土坑99SK1710、小型の不整

形土坑1290に切られる。28IJ・29IJ（第47図）では99SK1723が地下式坑D1類99SK1284を切り、（楕）円形土坑99SK1715、（長）方形土坑E5類99SK1724に切られる。

以上のことから、尾根Aでは①中型の溝→②地下式坑→③（長）方形土坑C1～3類、大型の不整形土坑→④（長）方形土坑C4・5類と変遷した可能性が高い。ただし、全ての地下式坑が中型の溝に後続するという確証はない。また（長）方形土坑E類、（楕）円形土坑の多くは地下式坑に後続すると思われるが、その後のどの段階に位置付けられるかは明確でない。また②は地下式坑同士、④では（長）方形土坑C4・5類同士の切り合いが定量見られることから、一定の時間幅が存在した可能性が高い。

平　坦　面　5

26L（第48図、図版80～83）：地下式坑A1類99SK2197が古く、地下式坑E類99SK2398がこれを切る。99SK2398は99SE2471・2361に切られ、99SE2471は（長）方形土坑E3類99SK2198に切られる。99SK2198は同C4類99SK2178に切られる。地下式坑E類99SK2449は99SE2345に切られる。

27LM・28LM（第49図、図版94～99）：地下式坑E類99SK2463、（楕）円形土坑99SK2478が古く、これら二つの遺構を地下式坑A1類99SK2444が切り、99SK2444は99SE2441に切られる。地下式坑A2類99SK2357は（楕）円形土坑99SK2374に切られ、（長）方形土坑E2類99SK2442は（長）方形土坑E4類99SK2416に切られ、99SK2416はSB10に切られる。地下式坑B3類99SK2362は地下式坑C4類99SK2374、SB10に切られる。99SK2374とSB10は一部重複しており、同時には存在しなかった可能性が高い。重複する地点の柱穴が欠落することからSB10→99SK2374という変遷も考えられるが、99SK2374の現存する遺構の深さから考え、平坦面5を作る際に削平された可能性が高く、これに対しSB10は平坦面5が作られてから構築されたと考えられる。99SK2374→SB10とするのが妥当であろう。

27M・28M（第50図、図版90～93）：地下式坑99SK2244・同D1類99SK1369・同A1類99SK2424（A1類）、（楕）円形土坑99SK2243が古い。99SK2244は地下式坑E類99SK2231に、99SK1369・2243は（長）方形土坑E2類99SK2242に、99SK2424はSE2229・SB9にそれぞれ切られる。99SK2231は地下式坑D1類99SK2210、同C3類99SK2336、（長）方形土坑C4類99SK2233に切られ、99SK2210は99SE2209・SB9に切られ、99SE2209はSB14に切られる。99SK2236は地下式坑D2類99SK2223・同A1類？99SK2227にそれぞれ切られる。99SK2223は、99SE1373、（長）方形土坑C4類99SK2440に切られる。

28KL（第51図、図版94～99）：地下式坑99SK2176・同A1類99SK2393が古く、99SK2176は地下式坑B3類99SK2498に、99SK2393は99SD1735・SB13に切られる。99SK2498は地下式坑E類99SK2491、（長）方形土坑E3類99SK1737、99SE1725に切られる。また、99SK2491は99SD2290に、99SK1737は99SD1735にそれぞれ切られる。

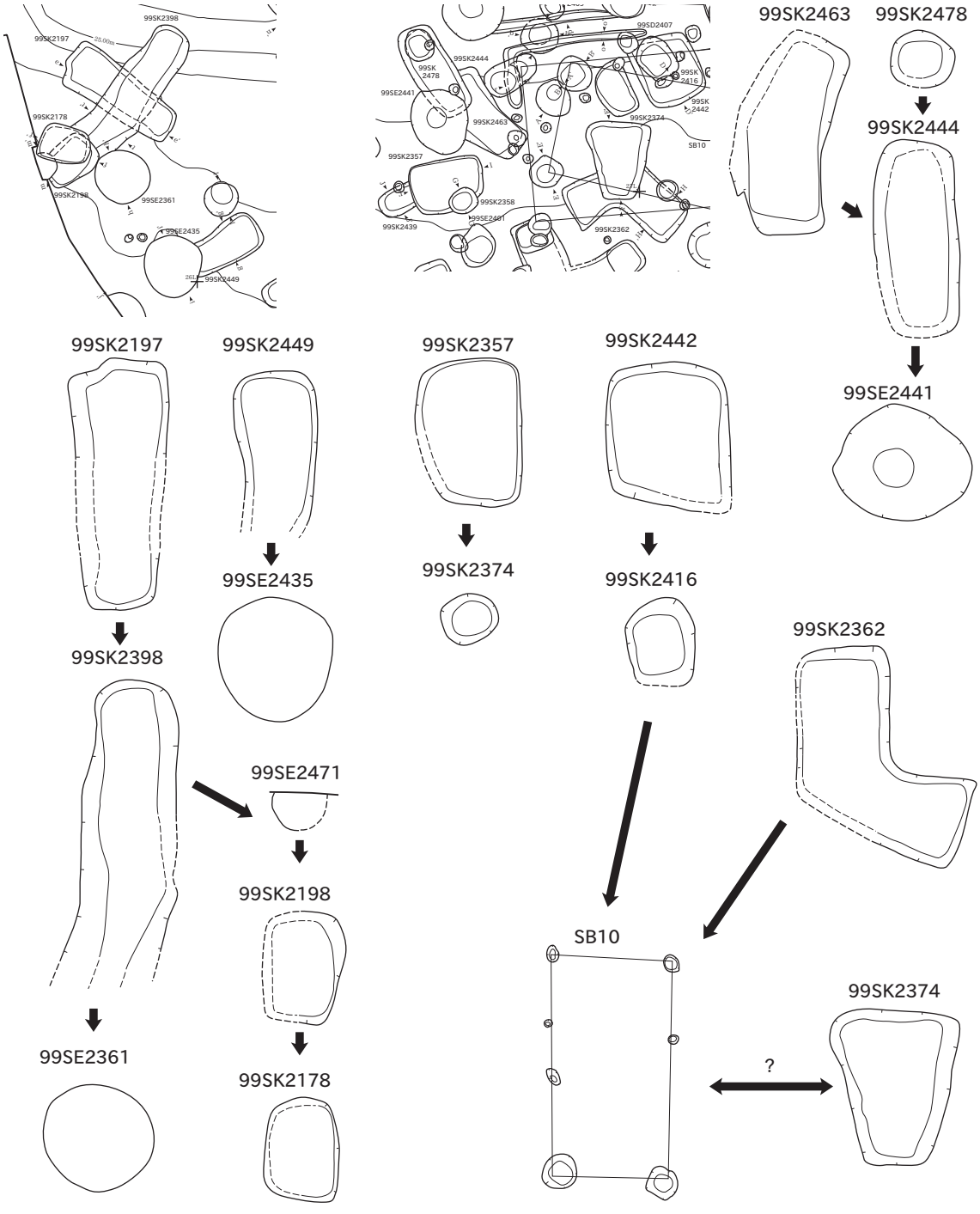
28LM（第52図、図版84～89）：地下式坑A1類99SK2344が古い遺構と考えられ、地下式坑A1類99SK2212、SB13に切られる。99SK2212は（長）方形土坑C4類99SK1366・2211に切られる。99SK2211は円形土坑99SK2226を切り、SB9に切られる。SB13は99SK2344のほかに99SE2445も切る。

29JK（第53図、図版104～111）：地下式坑A1類99SK610が古い遺構と考えられ、地下式坑C4類99SK611・同E類99SK609に切られる。99SK609は地下式坑C4類99SK632に切られ、99SK632は（楕）円形土坑99SK631に切られる。

29KL・30KL（第54図、図版104～111）：地下式坑A1類99SK2335・2332、同B1類99SK2330が古く、このうち99SK2335は地下式坑B4類99SK2333、同E類99SK2337に切られる。99SK2333は（長）方形土坑C1類99SK2331に切られ、99SK2337は（長）方形土坑E1類99SK2320・SB14に切られる。99SK2331は99SK2333のほか99SK2330・2332を切る。

遺構の変遷　　平坦面5からは地下式坑・（長）方形土坑C類・同E類・（楕）円形土坑・井戸・掘立柱建物・溝などが検出されている。

地下式坑は多数検出されている。26L（第48図）では地下式坑A1類99SK2197が同E類99SK2398

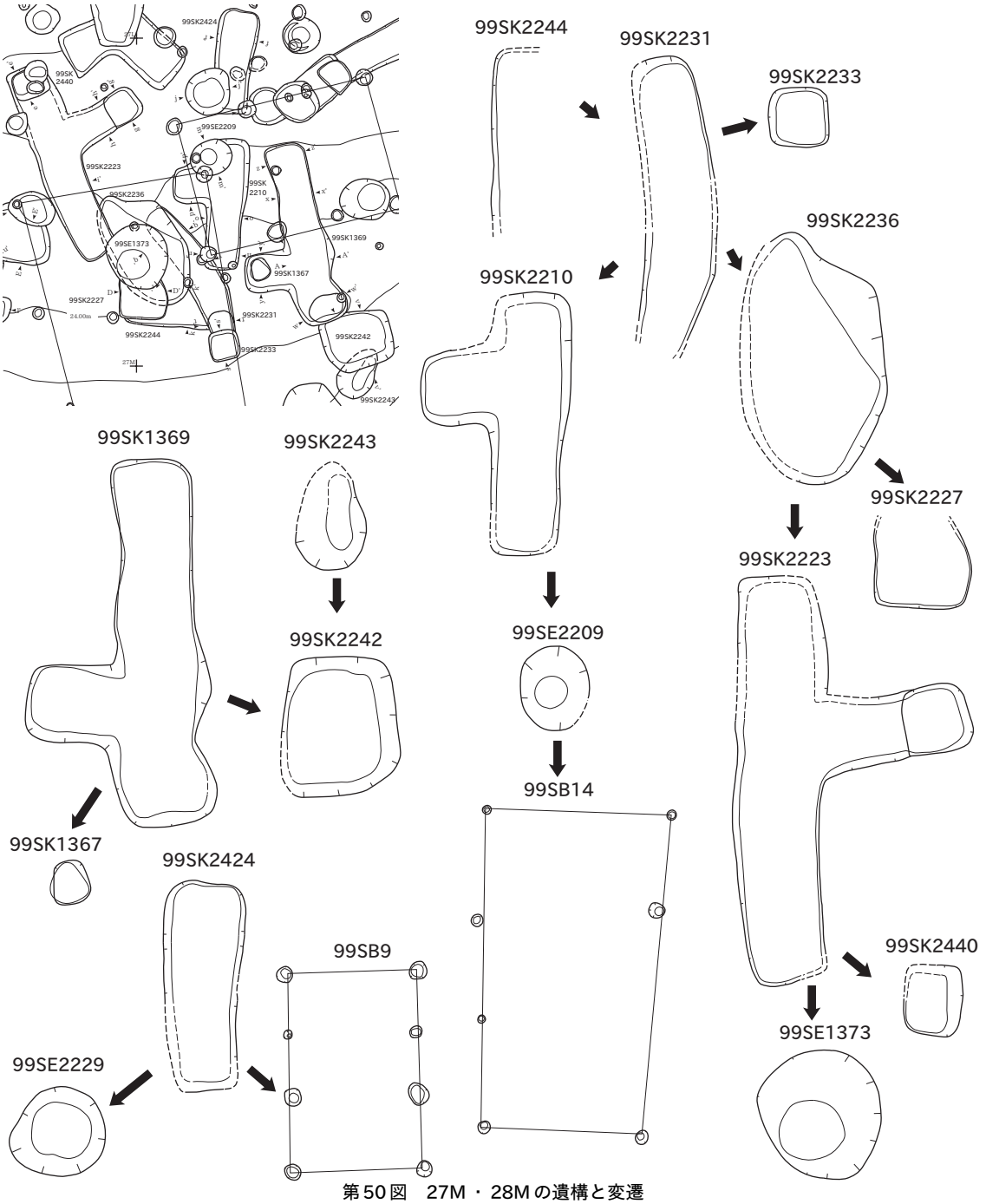


第48図　26Lの遺構と変遷　　第49図　27LM・28LMの遺構と変遷

に切られ、99SK2398は99SE2361・2471に切られる。また、地下式坑A1類99SK2449は99SE2435に切られる。

27LM・28LM（第49図）では地下式坑E類99SK2463が地下式坑A1類99SK2444に切られる。99SK2444は99SK2463・（楕）円形土坑99SK2478を切り、99SE2441に切られる。地下式坑A2類99SK2362は（楕）円形土坑99SK2374に切られ、地下式坑B3類99SK2362は同C4類99SK2374、SB10に切られる。

27M・28M（第50図）では地下式坑D1類99SK1369が（長）方形土坑E2類99SK2242に切られる。地下式坑A1類99SK2424は99SE2229・SB9に切られる。また、地下式坑99SK2244は同E類



第50図　27M・28Mの遺構と変遷

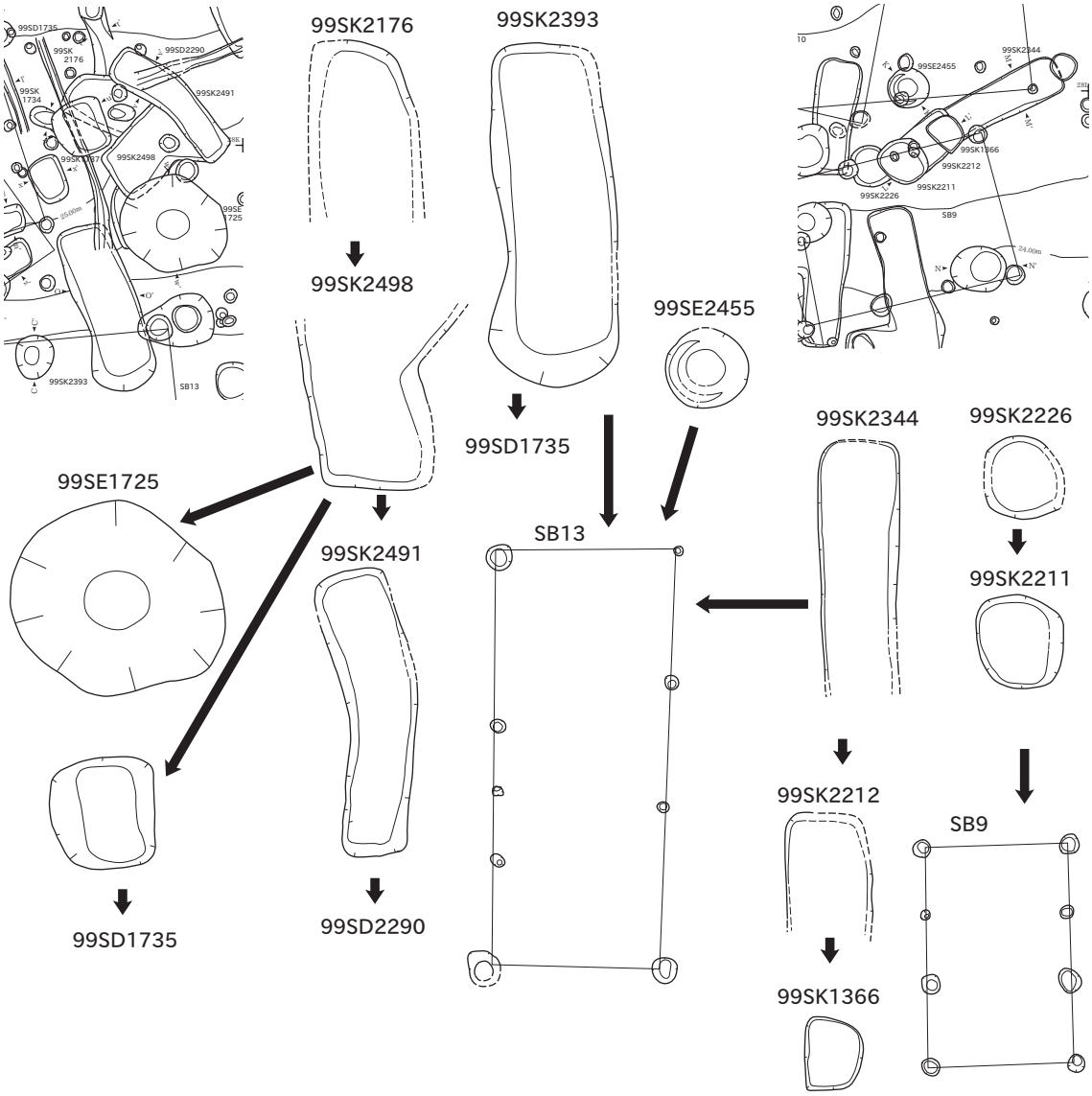
99SK2231に切られ、99SK2231は同D1類99SK2210、同C3類99SK2236、（長）方形土坑C5類99SK2233に切られ、99SK2210は99SE2209・SB9に切られる。99SK2236は地下式坑99SK2227、同D3類99SK2223に切られ、99SK2223は（長）方形土坑C4類99SK2440、99SE1373に切られる。

28KL（第51図）では地下式坑99SK2176が同B3類99SK2498に切られ、99SK2498は同E類99SK2491、（長）方形土坑E3類99SK1737、99SE1725に切られる。また、地下式坑A1類99SK2393は小型の溝99SD1735とSB13に切られる。

28LM（第52図）では地下式坑A1類99SK2344が同A1類99SK2212、SB13に切られ99SK2212は（長）方形土坑C4類99SK1366・2211に切られる。

29JK（第53図）では地下式坑A1類99SK610が同E類99SK609、同C4類99SK611に切られ99SK609は同A3類99SK632に切られる。99SK632は（楕）円形土坑99SK631に切られる。

29KL・30KL（第54図）では地下式坑A1類99SK2335を同B4類99SK2333、同E類99SK2337が切る。また、同A1類99SK2332、同B1類99SK2330、同B4類99SK2333は（長）方形土坑C3類



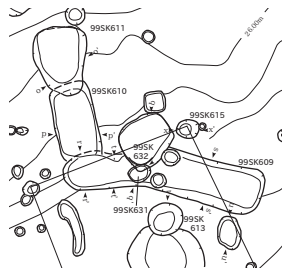
第52図　28LMの遺構と変遷　　第51図　28KLの遺構と変遷

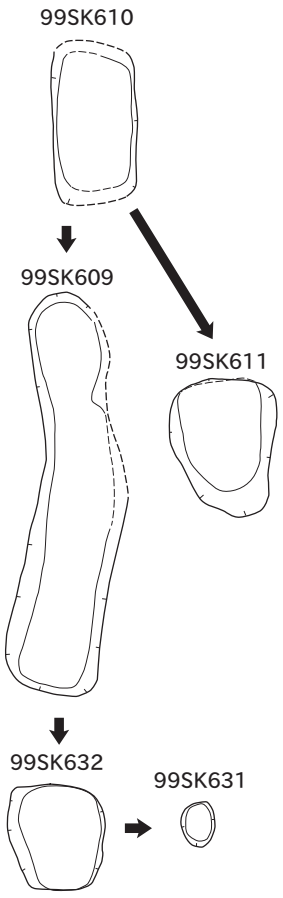
99SK2331に切られ、99SK2337は（長）方形土坑Ｅ類99SK2320とSB14に切られる。

これらのことから、地下式坑は（楕）円形土坑に後続するものが少量確認できるが、大半の（楕）円形土坑・（長）方形土坑・井戸・掘立柱建物・小型の溝に先行する可能性が高い。

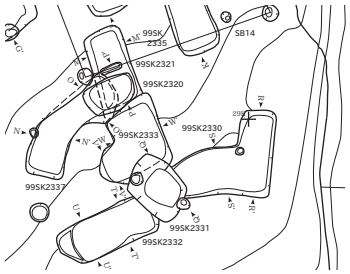
（長）方形土坑Ｃ3類には99SK1737・2198などがある。26L（第48図）では99SK2198が99SE2471を切り、28KL（第51図）では99SK1737が地下式坑B3類99SK2498を切る。例が少ないが、地下式坑に後続し、井戸に後続する例も存在する。

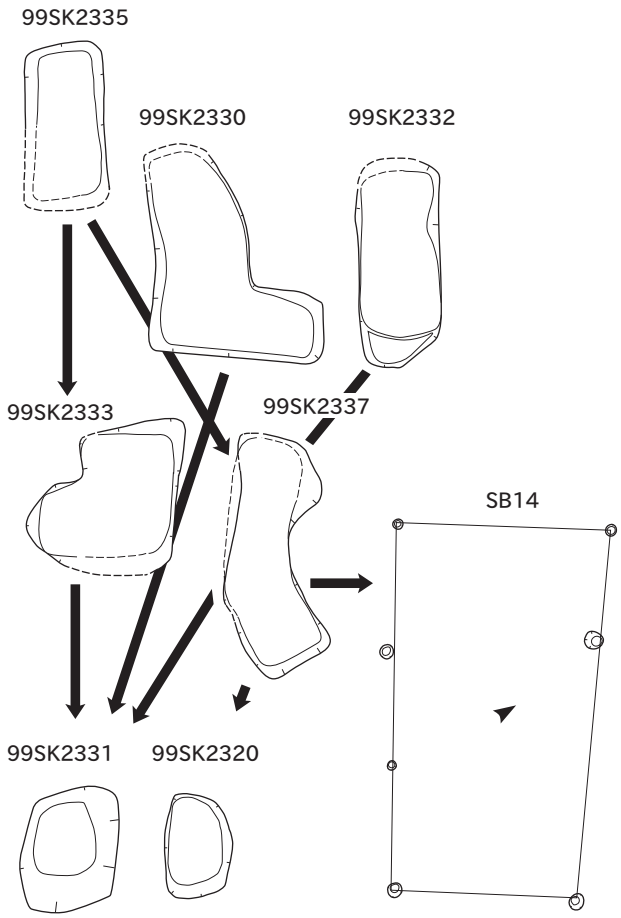
（長）方形土坑Ｃ4・5類には99SK1366・2211・2333・2440などがある。27M・28M（第50図）では（長）方形土坑Ｃ5類99SK2233が地下式坑Ｅ類99SK2231を切り、（長）方形土坑Ｃ4類99SK2440が地下式坑D3類99SK2223を切る。28LM（第52図）では（長）方形土坑C4類99SK1336が地下式坑A1類99SK2212を切り、（長）方形土坑C4類99SK2211も99SK2212と（楕）円形土坑99SK2226を切り、SB9に切られる。このことから、（長）方形土坑Ｃ4・5類は地下式坑と一部の（楕）





第53図　29JKの遺構と変遷





第54図　29KL・30KLの遺構と変遷

円形土坑に後続し、掘立柱建物に先行する可能性が高い。

井戸には99SE1373・1725・2209・2229・2361・2435・2441・2455・2471などがある。26L（第48図）では99SE2471が地下式坑Ｅ類99SK2398を切り、（長）方形土坑C3類99SK2198に切られる。また、99SE2361も99SK2398を切り、99SE2435は地下式坑A1類99SK2449を切る。27LM・28LM（第49図）では99SE2441が地下式坑A1類99SK2444を切る。27M・28M（第50図）では99SE2229が地下式坑A1類99SK2424を切る。99SE2209は地下式坑D1類99SK2210を切り、SB14に切られる。99SE1373は地下式坑D3類99SK2223を切る。28KL（第51図）では99SE1725が地下式坑B3類99SK2498を切る。これらのことから、井戸は地下式坑には後続し、一部の（長）方形土坑・掘立柱建物に先行する。

掘立柱建物はSB9・10・13・14などがあり、27LM・28LM（第49図）ではSB10が地下式坑B3類99SK2362・（長）方形土坑E4類99SK2416を切り、同C4類99SK2374も切る可能性が高い。27M・28M（第50図）ではSB9が地下式坑A1類99SK2424、同D1類99SK2210を切る。また、SB9は28LM（第52図）で、（長）方形土坑C4類99SK2211を切る。SB14は27M・28M（第50図）では99SE2209を切る。29KL・SB13は28KL（第51図）では地下式坑A3類99SK2393を切り、28LM（第52図）では地下式坑A1類99SK2344、99SE2445を切る。30KL（第54図）では、SB15が地下式坑Ｅ類99SK2337を切る。これらのことから、掘立柱建物は地下式坑・（長）方形土坑C4・５類、一部の井戸に後続する可能性が高い。

小型の溝には99SD1735・2290などがある。28KL（第51図）では99SD1735が地下式坑A1類99SK2393、（長）方形土坑E2類99SK1737を切り、99SD2290は地下式坑Ｅ類99SK2491を切る。このことから小型の溝は地下式坑、（長）方形土坑Ｅ類に後続する可能性が高い。

（楕）円形土坑には99SK1367・2224・2226・2243・2374・2478などがある。27LM・28LM（第49図）では99SK2478が地下式坑A1類99SK2444に切られ、99SK2374は地下式坑A2類99SK2357を切る。28LM（第52図）では99SK2226が（長）方形土坑C4類99SK2211に切られる。27M・28M（第50図）では99SK2243が（長）方形土坑E1類99SK2242に切られ、99SK1367は地下式坑D1類99SK1369を切り、99SK2224はSB14に切られる。これらのことから、（楕）円形土坑は地下式坑に先行するものと後続するものがあり、長期間に渡って存続した可能性が高い。

以上のことから、平坦面５では①（楕）円形土坑の一部、地下式坑→②（長）方形土坑C1・２類、（長）方形土坑E1・２類→③掘立柱建物、井戸、小型の溝、（長）方形土坑C3・４・５類、（長）方形土坑E3・４類、（楕）円形土坑と変遷した可能性が高い。①は地下式坑同士、③は掘立柱建物・溝・井戸・（長）方形土坑C3・４・５類、（長）方形土坑E3・４類で切り合い・重複が定量見られることから、ある程度の時間幅が存在した可能性が高い。また、（楕）円形土坑は各時期を通じ存在した可能性がある。

平　坦　面　10

30LM・31LM（第55図、図版105～107）：小型の溝99SD916が古くこれを小型の溝99SD304が切り、99SD304は小型の溝99SD308、（長）方形土坑E4類99SK309に切られ、99SD308は小型の溝99SD301に切られる。99SD301は99SD531、99SE305、（楕）円形土坑99SK302に切られる。99SK302は（長）方形土坑E3類99SK303を切る。

31J・32J（第56図、図版108～111・116・117）：（長）方形土坑Ｃ類99SK265が古い遺構と考えら

れ、（長）方形土坑C1類99SK294に切られ、99SK294はSB16に切られる。SB16は99SK294のほか、（長）方形土坑D類99SK291を切る。地下式坑A1類99SK524はSB17に切られ、（長）方形土坑C2類99SK537は99SB17・18に切られる。

30JKLM・31JKLM（第57・58図、図版105～107・112～115）：99SE231が古い遺構と考えられ小型の溝99SD151・SB26に切られ、99SD151は小型の溝99SD152、99SE831に切られる。99SD152はSB25に切られる。

（楕）円形土坑99SK841も古い遺構と考えられ、小型の溝99SD94・164に切られ、99SD94・164は小型の溝99SD96に切られ、99SD96は小型の溝99SD97に切られる。99SD97は99SE831に切られ、99SE831はSB27に切られる。また、99SE831に切られる遺構には小型の溝99SD234・235があり、このうち99SD234は99SE831のほかに、小型の溝99SD233に切られ、99SD233はSB19に切られる。

（長）方形土坑99SK723も古い遺構と考えられ99SE310、SB22に切られる。99SE310に切られる遺構にはこのほかSB21・23があり、このうちSB21はSB19に切られ、SB23は99SD235に切られる。またSB22は99SK723の他に99SD536を切る。

遺構の変遷　　平坦面10からは地下式坑、（長）方形土坑、掘立柱建物、井戸、溝などが検出されている。

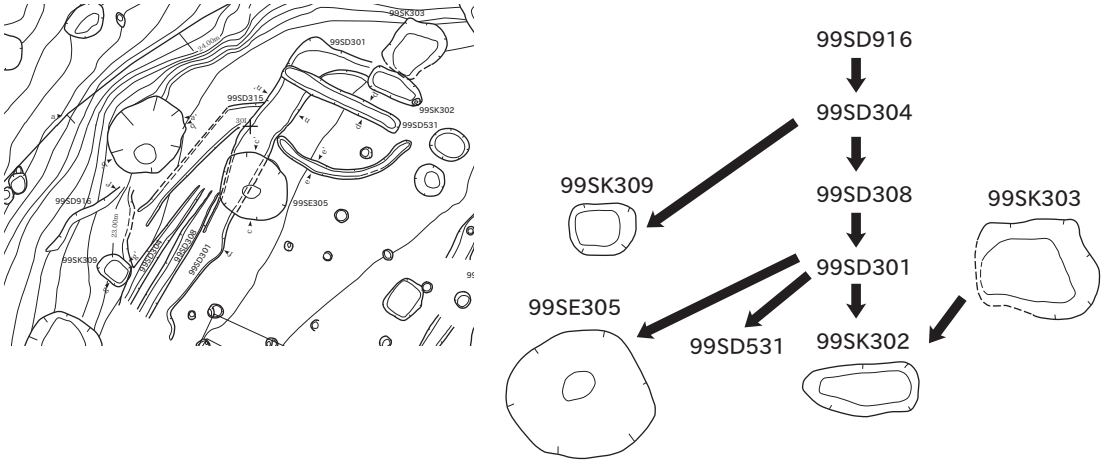
地下式坑は定量検出されているが、切り合い関係を持つものはA1類99SK524のみである。31J・32J（第56図）ではSB17に切られる。

（長）方形土坑C1～3類には99SK265・294・537などがある。31J・32J（第56図）では（長）方形土坑C2類99SK537はSB17・18に切られる。（長）方形土坑C1～3類99SK265は（長）方形土坑99SK294に切られ、99SK294はSB16に切られる。

（長）方形土坑D類には99SK291などがある。31J・32J（第55図）では99SK291はSB16に切られる。これらのことから、地下式坑・（長）方形土坑C1～3・D類は大半の掘立柱建物に先行するものと思われる。

（長）方形土坑E2・3類は99SK303・723などがある。30LM・31LM（第55図）では（長）方形土坑E3類99SK303は（楕）円形土坑99SK302に切られる。30JKLM・31JKLM（第57・58図）では（長）方形土坑E2類99SK723が99SE310とSB22に切られる。（長）方形土坑E2・3類は井戸・掘立柱建物・（楕）円形土坑に先行する可能性が高い。

（楕）円形土坑には99SK302・841・520などがある。30LM・31LM（第55図）では99SK302が



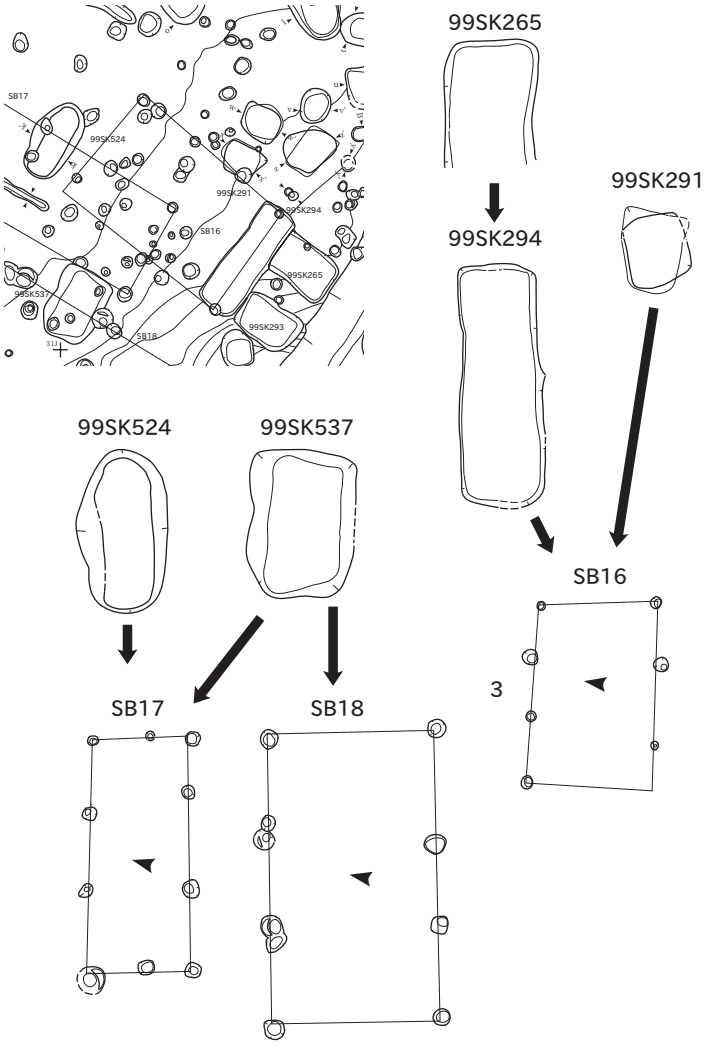
第55図　30LM・31LMの遺構と変遷

小型の溝99SD301、（長）方形土坑E2類99SK303を切るが、30JKLM・31JKLM（第57・58図）では99SK841は、小型の溝99SD94などに切られる。また、挿図では示さなかったが、99SK520は大型で断面「V」字状の溝99SD31に切られる（図版116）。このことから、（長）方形土坑E2・3類は掘立柱建物・井戸に先行する可能性が高く、また（楕）円形土坑は、（長）方形土坑E2・3類に切られるものと、溝や井戸、掘立柱建物に先行するものの両者が存在する。

井戸には99SE231・305・310・831などがある。30LM・31LM（第55図）では99SE305は小型の溝99SD301を切る。30JKLM・31JKLM（第57・58図）では99SE231はSB26、小型の溝99SD151・152に切られ、99SE831は小型の溝99SD151・96・97・234・235などを切り、SB27に切られる。また99SE310は（長）方形土坑E1類99SK723・SB21・23に切られる。これらのことから、井戸は（長）方形土坑E1類に後続する可能性が高く、掘立柱建物・小型の溝とは先行する場合と後続する場合の両者が存在することから、比較的長期間存在した可能性が高い。井戸の中では99SE231は古い遺構と考えられ、これに対し99SE310・831はこれより新しい可能性が高い。

掘立柱建物にはSB16～19・21～23・25～27などがあり、31J・32J（第56図）ではSB17・18が地下式坑A1類99SK524、（長）方形土坑C2類99SK537を切り、SB16は（長）方形土坑C1類99SK294、（長）方形土坑D類99SK291を切る。30JKLM・31JKLM（第57・58図）では、SB25が小型の溝99SD152を切り、SB26は99SE231、小型の溝SD97を切る。SB23は小型の溝99SD235に切られ、SB27はSE831を切る。また、SB21はSB19と99SE310に切られ、SB22は99SK723を切る。これらのことから、掘立柱建物は地下式坑、（長）方形土坑C1・2類、（長）方形土坑E1・2類に後続する可能性が高く、井戸・小型の溝とは先行する場合と後続する場合の両者が存在し、掘立柱建物同士の重複も見られることから、比較的長期間存在した井戸・小型の溝と並存した可能性が高い。掘立柱建物の中でもSB21・23は比較的古く、SB19・27は新しいと考えられる。

小型の溝には99SD94・96・97・151・152・301・304・308・531・536・916などがある。小型の溝同士の切り合いも多く確認できるが、他の種類の遺構との切り



第56図　31J・32Jの遺構と変遷

合い関係を見ると、30LM・31LM（第55図）では99SD304が（長）方形土坑E4類99SK309に切られ、99SD301が99SE305に切られる。30JKLM・31JKLM（第57・58図）では、99SD151・152が99SE231を切り、99SD152がSB25に切られる。また、99SD94・164は円形土坑99SK841を切り、99SD97は99SE831に切られ、99SD233はSB19に切られ、（長）方形土坑E2類99SK723を切る。99SD235はSB23を切る。99SD536はSB22に切られる。これらのことから、小型の溝は（長）方形土坑E2類、（楕）円形土坑の一部に後続する可能性が高く、井戸・掘立柱建物とは切る場合と切られる場合の両者が存在し、溝同士が重複することも多いことから、比較的長期間井戸・掘立柱建物と並存した可能性が高い。

以上のことから平坦面10では、①地下式坑、（長）方形土坑C1・2類、（長）方形土坑E1・2類、円形土坑の一部→②掘立柱建物・井戸・小型の溝と変遷した可能性が高いが、①・②とも一定の時間幅が考えられる。

平坦面13・16

30OP・31OP（第59図）：（長）方形土坑A2類99SK2043・99SK2265が古くSB31・33・34がこれを切る。SB33は99SE2050に切られる。

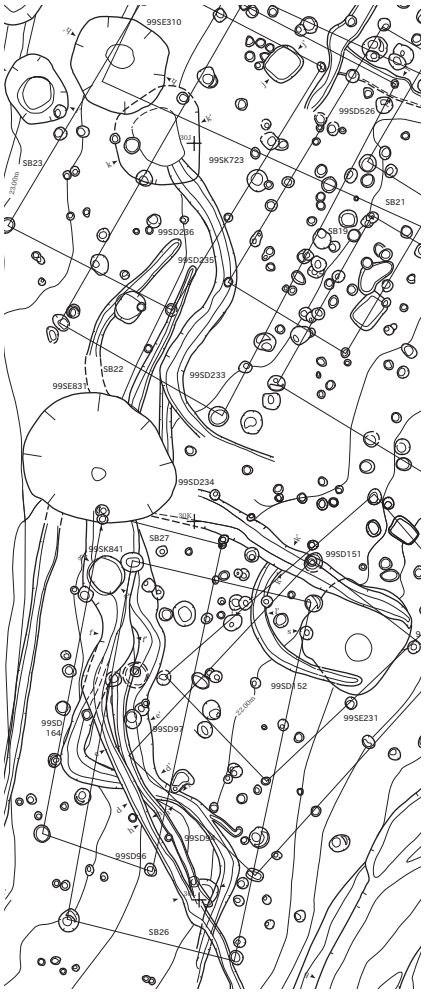
29TU・30TU（第60図）：小型の溝99SD1464が古く、99SE1465・1626・1463に切られ、99SE1465は99SE1618に切られ、99SE1618は99SE1493に切られ、99SE1493は円形土坑99SK1620に切られ、99SK1620はSB36を切る。またSB36は、99SK1620のほか（長）方形土坑A1類99SK1453を切る。

遺構の変遷　　平坦面13・15からは、（長）方形土坑A類、井戸、掘立柱建物、小型の溝などが検出されている。

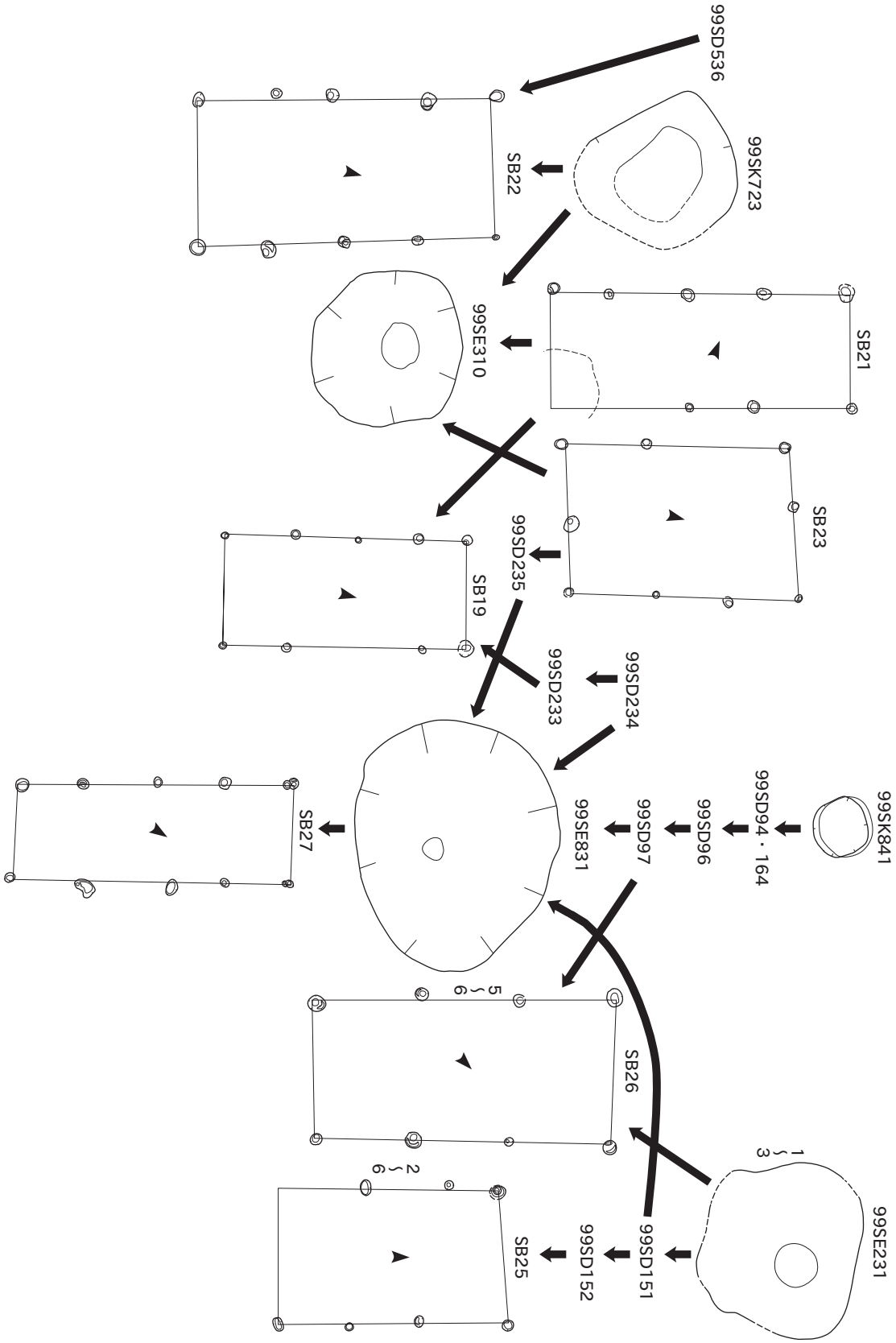
（長）方形土坑A類には99SK1453・2043・2265などがある。30OP・31OP（第59図）では99SK2043はSB31・SB33・34に切られる。また、99SK2265はSB33に切られる。29TU・30TU（第60図）では99SK1453はSB36に切られる。以上のように、（長）方形土坑A類は掘立柱建物に切られる例が多い。

井戸には99SE1463・1465・1493・1618・1626・2050などがある。井戸同士の切り合いも見られるが、別の遺構との切り合いを見ると、30OP・31OP（第59図）では99SE2050がSB33を切る。29TU・30TU（第60図）では、99SE1465が小型の溝99SD1464を切り、99SE1493は、（楕）円形土坑99SK1620に切られる。以上のように、井戸は掘立柱建物を切る例と切られる例がある。

掘立柱建物はSB31・33・34・36などがある。30OP・31OP（第59図）ではSB31・33・34は（長）方



第57図　30JKLM・31JKLMの遺構

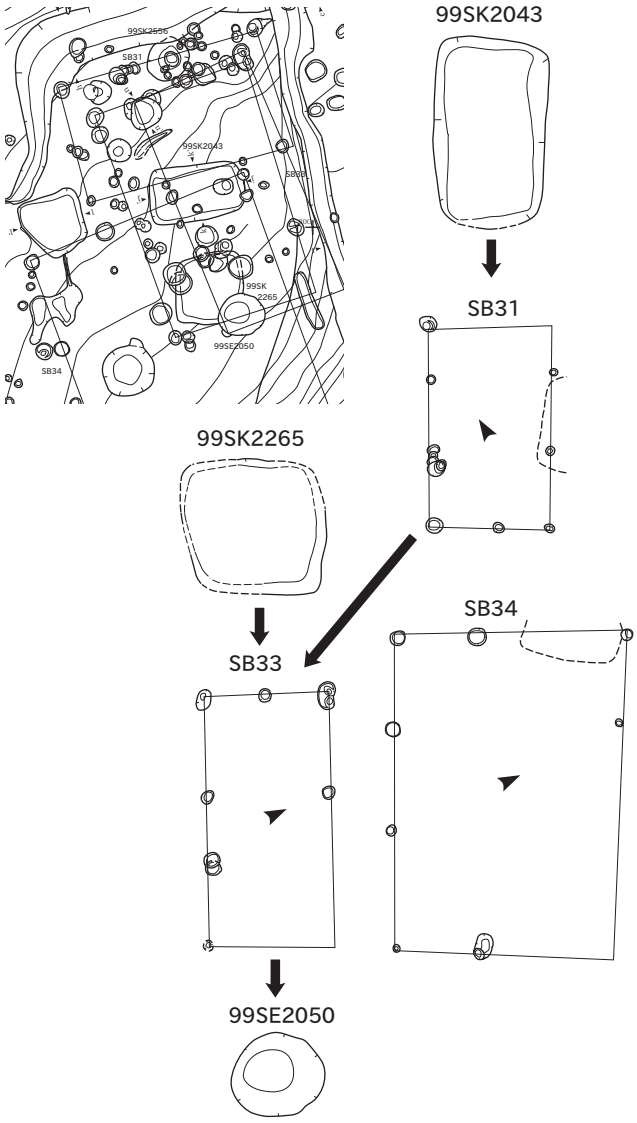


第58図　30JKLM・31JKLMの遺構と変遷

形土坑A2類99SK2043・2265を切り、SB34は99SE2050に切られる。29TU・30TU（第60図）ではSB36が（長）方形土坑A1類99SK1453、（楕）円形土坑99SK1620に切られる。

小型の溝には99SD1464などがある。29TU・30TU（第60図）では99SD1464は99SE1463・1465・1626に切られるが、挿図に示さなかった他の地点では井戸を小型の溝が切る例（図版118、99SE1842と99SD1864など）がある。

以上のように、平坦面13・15では（長）方形土坑A類が掘立柱建物に先行する。掘立柱建物は井戸に先行する場合と後続する場合、ある程度の時間幅の中で並存した可能性が高い。



第59図　30OP・31OPの遺構と変遷

B　そ　の　他

以下では、遺構の重複はそれほど複雑ではないが、遺構の変遷を考える上で、重要と思われる切り合い関係について記述する。

15IJ（図版30・31）：地下式坑B1類92SK70が、断面台形の大型の溝89SD18に切られる（図版31セクションa）。

20IJKL・21IJKL（第62図、図版44～47）：（楕）円形土坑98SK3Aが、大型の溝SD3Bに切られる（図版54セクションg）。また、大型の溝SD3Bは、断面形が台形状のものが埋没した後「V」字状のものへ掘り直されている。

また、98SD3B・53・34は一連と考えられる。20Jでは98SD53・34と大型で断面台形状の溝98SD23が交錯するが、図版55セクションdでは、他地点のような断面台形状のセクションが確認できず、98SD23が98SD53・34に切られている可能性が高い。

22K（図版48）：（長）方形土坑C2類98SK21は中型で断面V字状の溝98SD15に切られる。

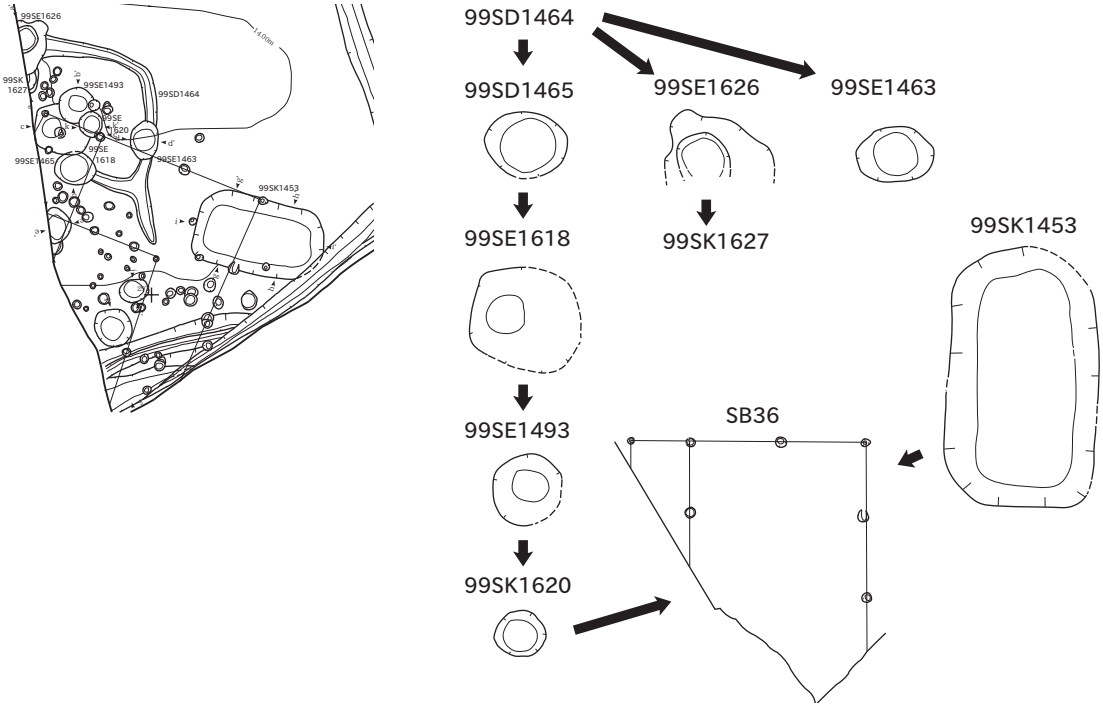
29I・30I（図版73・74）：地下式坑B2類99SK1274の覆土の上に土塁の盛土がみられる。

29LM・30LM（第63図　図版102・104・112・114）：中型で断面形が彎曲の溝98SD30が古くこれを（長）方形土坑C4類99SK925が切る。99SK925は99SD937に切られ、99SD937は99SD923に切られる。また、斜面33から平坦面10に変わる地点で99SD30が急激に細く、浅くなっている。これは99SD30が平坦面10に先行して存在したことを示唆する。

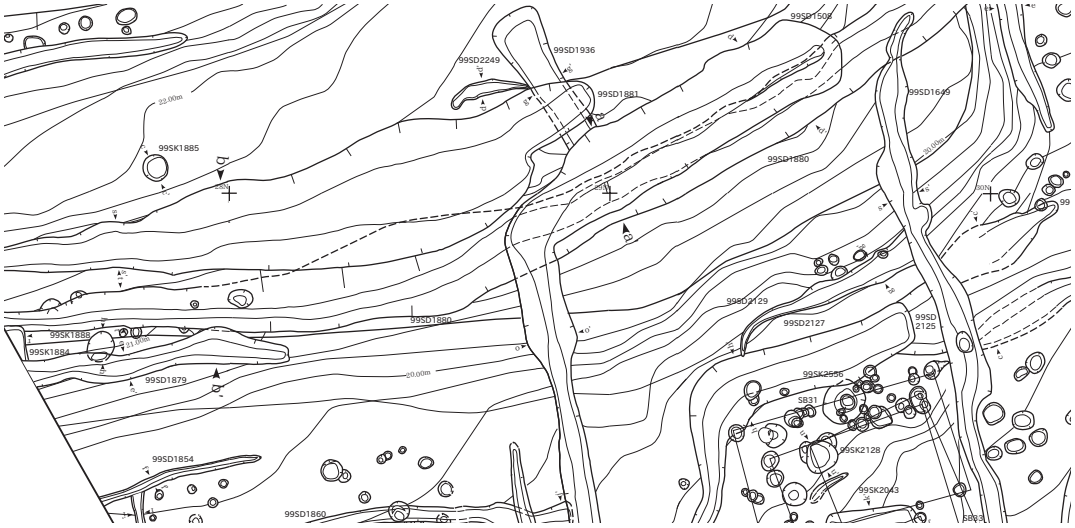
32JK（図版106）：（楕）円形土坑99SK520が大型で断面形が「V」字状の溝99SD31に切られる。また、99SE468は99SD31を切る。

29NO・30NO（第61図、図版118～122）：大型で断面形が「V」字状の溝99SD1508が、大型で断面台形状の溝99SD1880に切られる（図版119セクションa）。また、99SD1880は大型で断面形が彎曲の溝99SD1881に切られる（図版119セクションb）。

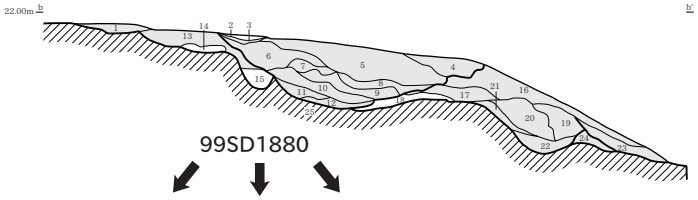
30QP（図版127・128）：99SE1905が大型で断面形が「V」字状の溝99SD1508を切る（図版128セ



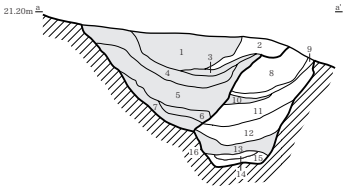
第60図　29TU・30TUの遺構と変遷

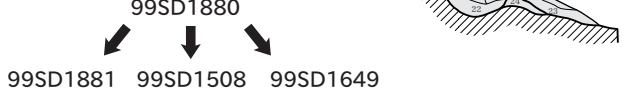


99SD1881・1880のセクション

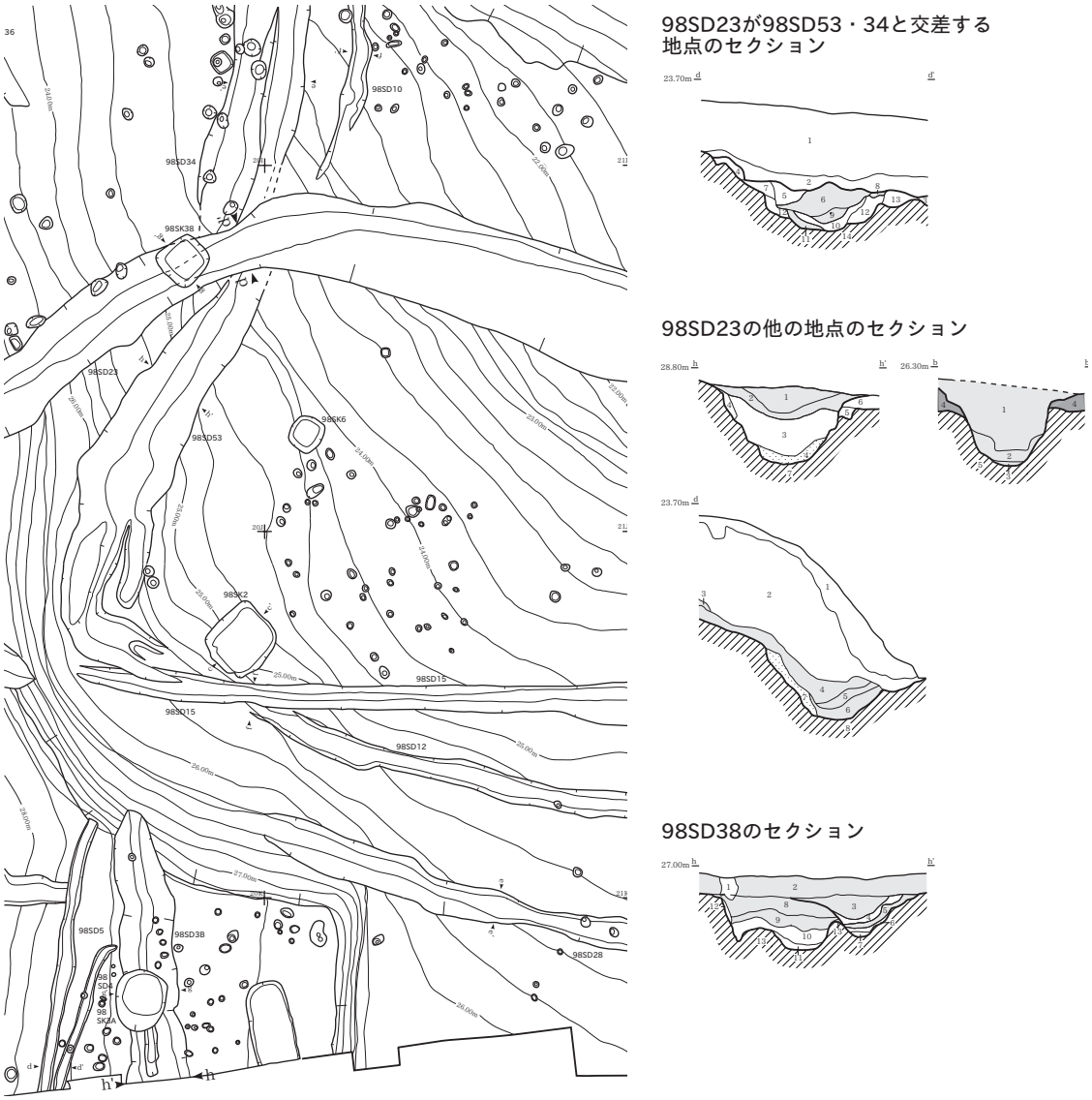


99SD1880・1508のセクション

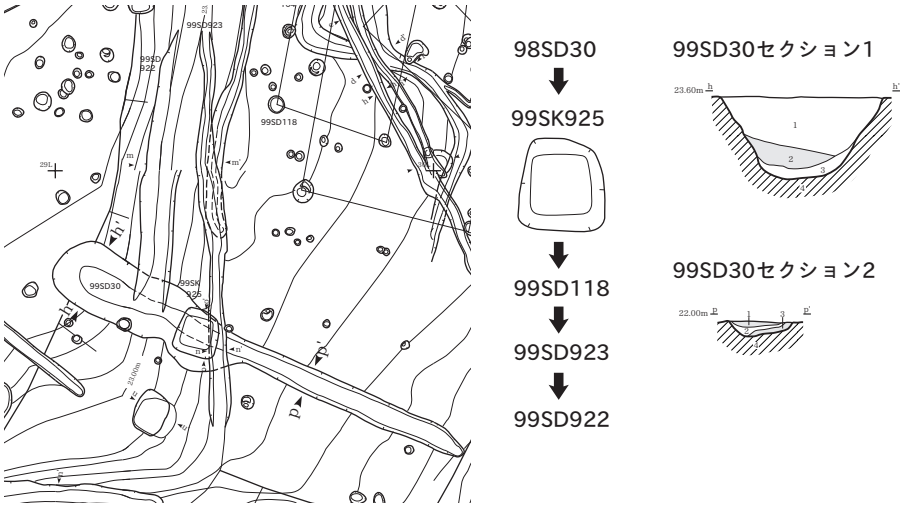




第61図　29NO・30NOの遺構と変遷



第62図　20IJKL・21IJKLの遺構と変遷



第63図　29LM・30LMの遺構と変遷

クションf)。99SD1508の埋没後も平坦面13に井戸が作られたこととなる。

また、平坦面13により近い99SD1649が99SD2005を切る（図版128セクションh)。ある段階で平坦面13がやや縮小したことが推測される。また、99SD2005は99SD1508を切る。したがって、平坦面13周辺の溝は、①99SD1880→②99SD1508・1881・1649→③99SD2005と変遷したものと思われる。

C　掘立柱建物

本節A・Bで検討したように平坦面5・10・13の掘立柱建物は、大半の地下式坑や（長）方形土坑に後続し、ある程度限定した時期の中で構築された可能性が高い。ただし、掘立柱建物同士で重複するものが定量存在し、全てが同時に存在したものでないことも確実である。

また、掘立柱建物の桁行きの柱間寸法にはいくつかパターンがあることを本章−2で述べた。以下では掘立柱建物の桁行きの柱間寸法に着目し、これが時期差を反映していないか検討する。具体的には、近似した柱間寸法の掘立柱建物を抽出し、①これらが重複するか否か、②建物の主軸方位は近似するか否かについて、掘立柱建物が集中する平坦面4・10・13を中心に検討する（第64図)。

1ｍ50㎝前後・3ｍ前後　柱間寸法1ｍ50㎝前後のものは平坦面4ではSB5、平坦面10ではSB16、平坦面13ではSB31がある。柱間寸法3ｍ前後のものには平坦面4ではSB11・13～15、平坦面10ではSB16・26、平坦面13ではSB31・34がある。また、平坦面15ではSB37がある。SB31・34が近接するが、重複は見られない。平坦面毎に建物の主軸方位を見ると、平坦面4ではSB11を除いて他のものは概ね一致する。平坦面10のSB16・26、平坦面13のSB31・34では主軸方位に大きな差は見られない。

2ｍ前後　平坦面4ではSB9、平坦面10ではSB17、平坦面13ではSB29・32・33がある。また尾根AにはSB3、平坦面15ではSB37がある。SB32・33に重複が見られるが、両建物は位置が近接し、規模・構造・主軸方位が近接する。近い時期の建て替えの可能性も考えられる。複数の建物が存在する平坦面13の掘立柱建物の主軸方位には大きな差はない。

2ｍ30㎝前後　平坦面4ではSB6・8・10、平坦面10ではSB19・27、平坦面13ではSB28・30・35があり、重複は見られず、平坦面毎の掘立柱建物の主軸方位にも大きな差は見られない。

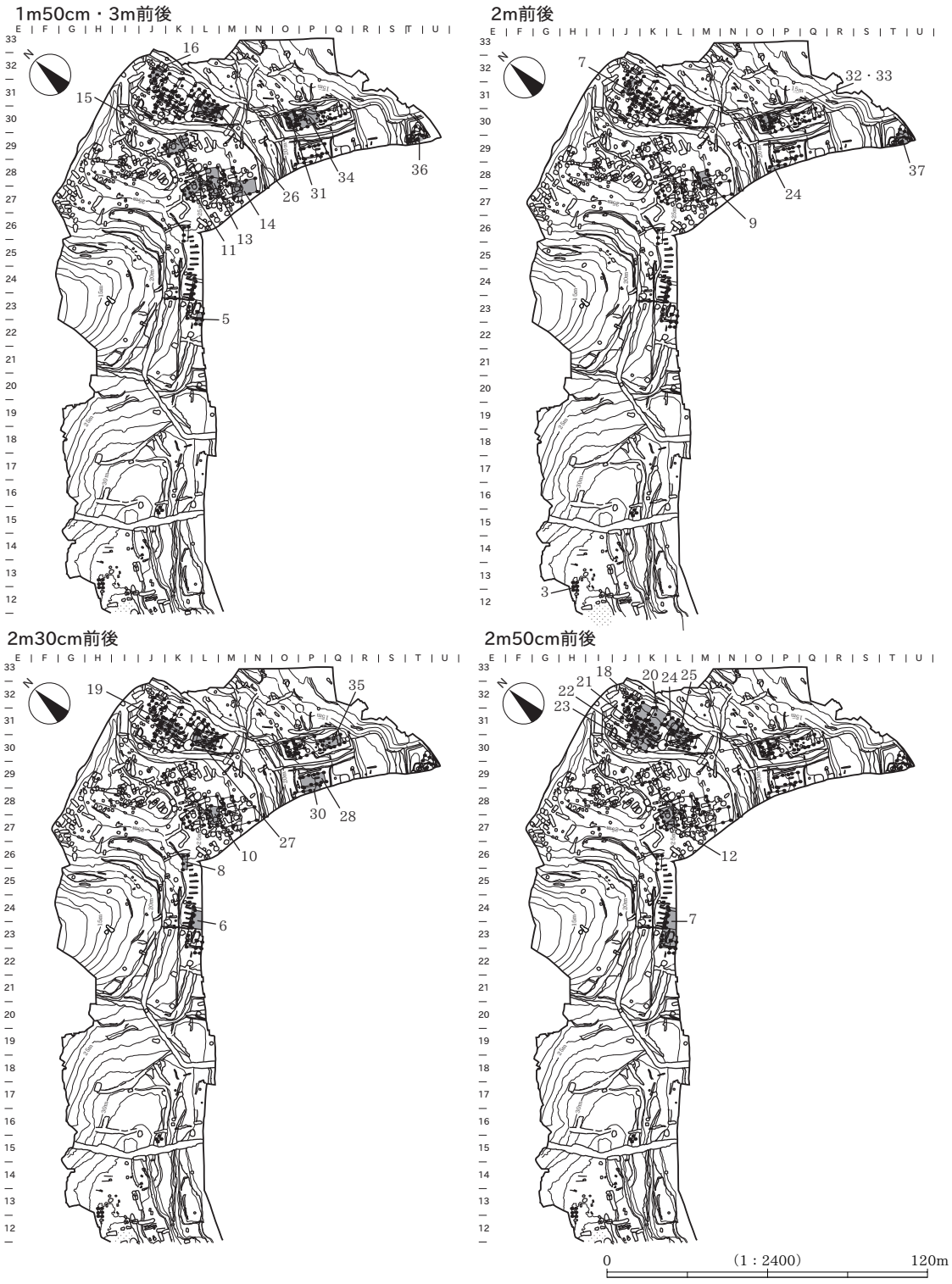
2ｍ50㎝前後　平坦面4ではSB7・12、平坦面10ではSB20～25があり、平坦面13では建物は確認できない。平坦面10で重複が見られるが、SB24・25は位置が近接し、主軸方位・構造・規模が近似する。また、SB21・23も位置が近接し、主軸方位が近似する。いずれも、近い時期での建て替えの可能性が考えられる。

以上、桁行きの柱間寸法毎の掘立柱建物の分布状況を見てきた。平坦面毎の掘立柱建物の主軸方位には差が見られるものもあり、掘立柱建物の重複も全く見られないわけではないが、その数は少なく、重複が見られるものも位置が近接し、主軸方位・構造・規模などが近似するなど、近い時期での建て替えの可能性が考えられる。桁行きの柱間寸法が時期差を反映している可能性は考えられる。

このように考えた場合、平坦面10では、柱間寸法2ｍ50㎝前後のSB21が柱間寸法2ｍ30㎝前後のSB19に切られ、柱間寸法2ｍ30㎝前後のSB27は16世紀と考えられる漆器椀が底面付近から出土したSE831に切られることから、柱間寸法2ｍ30㎝前後の掘立柱建物が比較的新しい時期の可能性が高い。また、柱間寸法2ｍ50㎝前後のSB25は、、柱間寸法3ｍ前後のSB26の区画溝となる可能性の高いSD151に切られる。

平坦面13では、99SD1649に切られない柱間寸法３ｍ前後のSB31・34が、これに切られると思われる柱間寸法２ｍ前後のSB32・33よりも新しい可能性が高い。

したがって①柱間寸法２ｍ前後・２ｍ50㎝の掘立柱建物→②柱間寸法３ｍ前後の掘立柱建物→③柱間寸法２ｍ30㎝前後の掘立柱建物と変遷したものと考えられる。



第64図　柱間寸法別掘立柱建物の分布

第Ⅴ章　遺　　物

1　記 述 の 方 法

方　　針　遺物の記述には観察表・本文（挿図含む）・図面図版・写真図版を用いる。遺物の種類には土器・陶磁器・石器・木器・金属器がある。遺物量は整理終了後で平箱（54×34×10㎝内法）約150箱である。内訳は土器・陶磁器類約75箱、石器約50箱、木器約20箱、金属器約5箱である。遺構出土のもの、残りの良いもの、出土例の少ないものを任意に選択して図化し、図化した遺物全てについて観察表を作成した。

観 察 表　遺物の種類により観察項目が微妙に異なるため、種類毎に作製した。観察項目は出土地点・層位・大きさのほか、遺物のライフヒストリー的観察が必要と考え、土器・陶磁器・木器については製作痕跡と消費痕跡を記載したが、金属器・石器についてはこれらを示せなかった。製作痕跡・消費痕跡の区分については川畑　誠の研究［川畑1999・2001］を参考とした（第19～21表）。

本　　文　遺物の個々の特徴については観察表に譲り、本文中では基本的には触れない。主要な一括遺物の特徴や、遺物の種類毎の概要を中心に記述を行う。

図面図版　個々の遺物を時代毎に大別し、これを遺構・出土地点毎にレイアウトすることを基本とした。ただし、図版作製終了後に別地点のものと同一地点であることが明らかになったり、遺物注記の読み間違いに気付いたなどにより、これに沿わない位置にレイアウトされている遺物も存在することとなった。遺構観察表の「出土遺物」の欄を確認していただきたい。

遺物の縮尺は、石鏃・小型の剥片石器・玉作工程資料・小型の石核は2／3、石斧類は1／2、縄文土器・弥生土器・土師器・瀬戸・美濃・輸入陶磁器・小型の砥石類・石塔類の一部・磨石類・石錘・大型の石核・玉作工具・小型の金属器は1／3、珠洲・瓷器系陶器の壺・すり鉢・断面実測の甕は1／4、珠洲・瓷器系陶器の反転実測の甕・石臼類・石塔類の一部・大型の金属器は1／6を基本としたがこれに沿わないものもある。図面図版中のスケール、遺物観察表の法量や長さ・幅などを参考としていただきたい。

写真図版　写真図版の遺物番号と図面図版の遺物番号は一致する。大半の遺物を撮影したが、小片のため撮影を省略した遺物も存在する。また、鉄滓類・焼土塊については、写真図版にのみ掲載した。

2　遺　物　各　説

A　中 世 の 遺 物

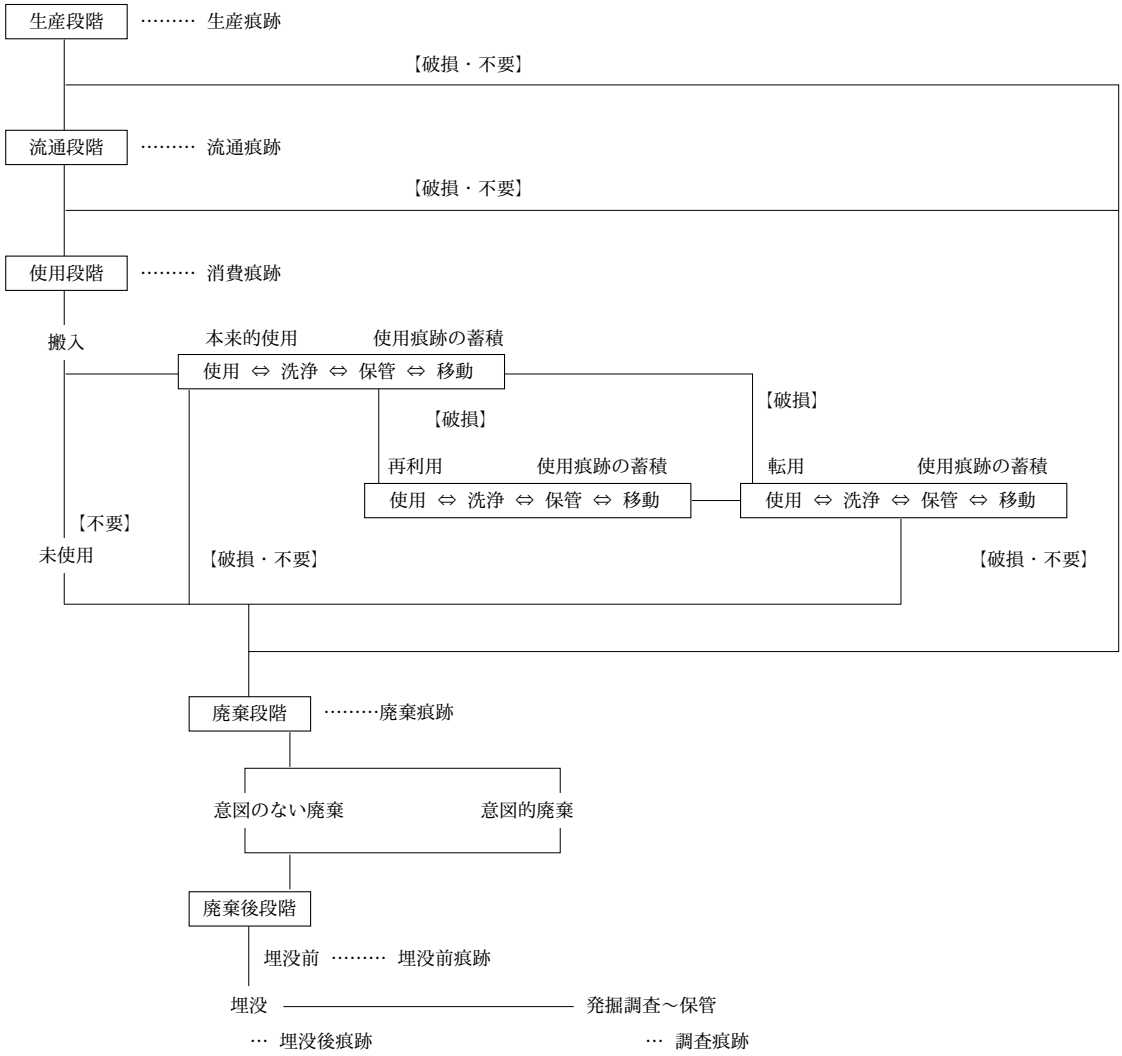
1）概　　要

中世の遺物には土器・陶磁器・石器・木器・金属器がある。土器・陶磁器が大半を占め、次いで石器・木器が多く、金属器は少ない。

土器・陶磁器

第66図に分類を示した。種類（輸入陶磁器、瀬戸・美濃、瓷器系陶器、珠洲、土師器）と器種による大別し

か行っていない。器種構成比率は第22表に示した。口縁部残存率では、珠洲が5割近くを占め最も多く、輸入陶磁器→瀬戸・美濃→瓷器系陶器→土師器の順で確認できる（第22表）。機能別の構成比率は食膳具が最も多いが、貯蔵具・調理具もこれに拮抗する。



第19表　土器の一生

段階	生産痕跡		特徴など
素地作り	胎土		素地・混和材よりなる。土器の生産地特定の指標のひとつ。
製　作	形状・法量・容量		前二者は研究の蓄積多い。
	製作に伴う痕跡（製作痕跡）		工具痕・指痕など。
乾　燥	乾燥に伴うヒビ割れ・剥離・敷物圧痕など。		
焼　成	付着痕跡	自然釉・黒化・火だすきなど	窯内での位置、設置状況などを示し、焼成技術復元の指標のひとつ。
		他個体・焼き台との接触・溶着痕跡窯土の付着など	
	変化痕跡	色調など	焼成の状況を示し、焼成技術復元の指標のひとつ。
		焼け具合・堅さ・焼き歪み・ヒビ割れなど	
	除去痕跡	他個体・焼き台の除去、窯土の除去など	窯出し状況、成品の許容範囲を示す。
選　別	（窯周辺での大量出土）		完成品の許容範囲、流通のあり方を示す。

第20表　生産段階と生産痕跡　［川畑1999］より転載

観察項目		観察点	区分など
① 遺存度		全体の形	完形・一部欠損（略完形）・部分・小片
		構成する破片の数・大きさ	
接触痕跡	② 割れ・割り・剥離・穿孔	部位	
		範囲	全周・部分・単独などの連続性の有無、水平・非水平
		大きさ・数	大・中・小、多い～少ない
		方向・順序	打点位置、割れの順序
	③ 欠け・欠き・細かい剥離	部位	
		範囲	全面・環状・帯状・部分・単独など連続性の有無、水平・非水平
		大きさ・頻度	頻度は規則的・非規則的、多い～少ない
		方向・順序	打点位置、欠け順序
	④ 摩耗	部位	
		範囲	全面・環状・帯状・部分・単独など連続性の有無、水平・非水平
		頻度	強い摩耗、中程度の摩耗、弱い摩耗
		方向・順序	
付着痕跡	⑤ 付着物	内容	煤・こげ・炭化物・漆・粘土・編物痕・シミ・汚れなど
		部位	
		範囲	全面・環状・帯状・部分・単独など連続性の有無、水平・非水平
		頻度	多い～少ない
		取れ具合	取れた範囲・頻度・要因
	⑥ 文字・記号	記入方法	墨書（黒墨、朱墨）・漆書など
		記入内容	文字・文字様・記号・記号様など
		記入部位、大きさ	
		筆法､筆原体、墨の良し悪し	
		摩耗具合	取れた範囲・頻度・要因､摩耗など記入後の使用状況の確認
⑦ 色調の変化、堅さの変化		色調の変化	変化の部位・範囲、変化の要因（煮炊きなど）
		堅さの変化	変化の部位・範囲、変化の要因（煮炊きなど）
⑧ 出土状況			

第21表　土器にみられる使用段階以後の様々な痕跡　［川畑1999］を一部改変

石　　器

砥石・石臼類・石塔類などがある。砥石はⅣc層より上位で327点、126,915ｇ出土した。産地は在地のものが大半を占めるが、京都鳴滝産のものと九州天草ないしは備水産のものも定量確認できる。遺物の分布状況は平坦面10周辺にまとまりが見られるほか、1号塚周辺にもまとまりが見られる（第67図）。石臼は破片で65点、28,292ｇ確認している。内訳は茶臼35点11,640ｇ、粉挽き臼30点、16,652ｇである。平坦面4・5・10周辺に多く見られる（第69・70図）。石塔類は破片で151点、41,690ｇ確認している。宝篋印塔の相輪・笠・基礎ないしは塔身の一部などが1号塚周辺を中心に出土している（第67図）。そのほかに把手のつく容器（595）などが確認できる。

木　　器

井戸などから定量出土した。計量を行っていないため、器種別の個数などの数値は示せない。漆器椀・曲物・円形板・板材・杭などがある。98SX40からは杭、99SE813からは井戸側部材と漆器・曲物、99SE831からは漆器椀、99SE1905からは炭化した板材が定量出土している。

金　属　器

鉄器・銭貨・鉄滓などがある。鉄器は井戸・包含層から出土したものが多い。釘が最も多く出土している。このほか、瓶・鋤ないしは鍬先・刀子などの出土もある。銭貨は六道銭として土坑・地下式坑から定量出土したほか、99SX926から大量に出土した（421～537）。北宋銭が大半を占め、明銭は少ない。また1号塚周辺からは貨泉が出土している（第65図）。鉄滓には、炉壁と精錬滓があり、精錬滓の中には椀型滓も確認できる。分布は炉壁斜面34付近に集中し、精錬滓は斜面34のほか1号塚周辺にも分布のまとまりが見られる（第71・72図）。隣接して姥ヶ入製鉄遺跡・立野大谷製鉄遺跡があり、炉壁については、これらの遺跡からの搬入が考えられる。

2）主　な　遺　物

比較的まとまって遺物が出土した遺構を中心に記述する。以下では特に断らない限り、遺物の年代決定に際しては、珠洲は吉岡康暢の編年［吉岡1994］を主に用い、吉岡編年の細分案が示されているⅣ期については浜木さおりの編年案［浜木1993］を補足的に用いる。輸入陶磁器については、青磁は上田秀夫［上田1982］、白磁は横田健次郎・森田勉［横田・森田1978］と森田　勉［森田1982］、青花は小野正敏［小野1982］の編年をそれぞれ用いる。瀬戸・美濃は藤沢良祐の編年［藤沢1986・1991・1997］、漆器・土師器皿については越後を対象とした品田高志の編年［品田1990・1991］を主に用いる。

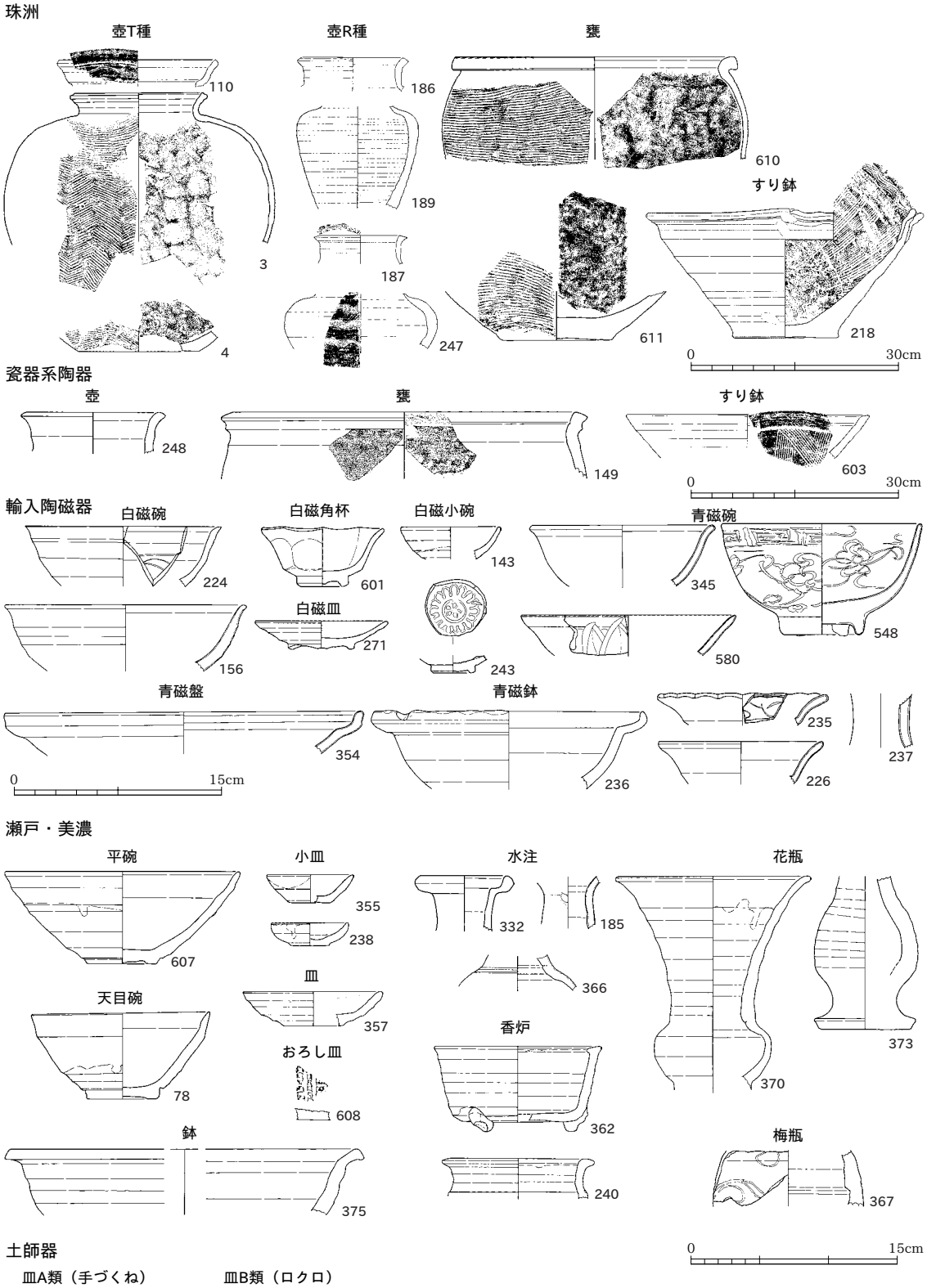
1号塚周辺（図版173　1～18）　3・4・9～14が92SD34Aから出土したもので、他は1号塚周辺の包含層中からの出土である。92SD34Aからは珠洲壺T種（3・4）と銭貨（9～14）が出土している。3・4は同一個体と考えられ、吉岡編年Ⅵ期（15世紀後半）のものと考えられる。92SD34A出土の最新銭は聖宋元寶（14：初鋳1101年）である。92SD34Aを除いた1号塚周辺からは珠洲壺T種（2）・石塔類（5～8）・銭貨（10～18）が出土しており、10～18の最新銭は洪武通寶（17：初鋳1368年）である。

92SK115（図版173　23～26）　遺構は（長）方形土坑C4類に分類され墓坑と考えられる。六道銭（23～26）が

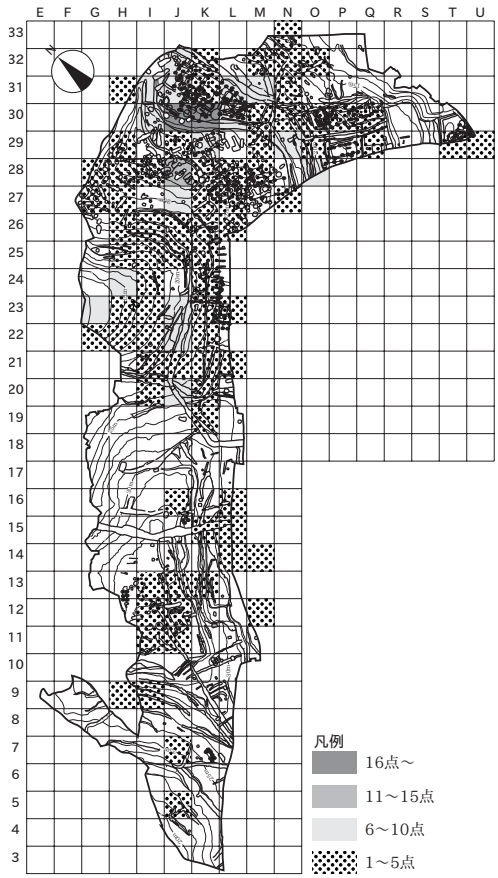
第65図　1号塚周辺貨泉（2/3）

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
白磁	碗	11.0	4	1.4％	0.2％
白磁	皿	48.0	46	6.2％	2.4％
白磁	杯	6.0	1	0.8％	0.1％
白磁	瓶	0.0	1	1.4％	0.1％
青磁	碗	107.0	128	13.7％	6.7％
青磁	皿	34.0	9	4.4％	0.5％
青磁	盤	7.0	7	0.9％	0.4％
青磁	鉢	10.0	4	1.3％	0.2％
青磁	瓶	0.0	3	0.0％	0.2％
青花	碗	1.5	3	0.2％	0.2％
青花	皿	5.5	3	0.7％	0.2％
輸入陶磁器　計		**230.0**	**205**	**29.5％**	**10.7％**
瀬戸・美濃	平碗	26.0	33	3.3％	1.7％
瀬戸・美濃	碗	6.0	3	0.8％	0.2％
瀬戸・美濃	天目碗	37.0	21	4.8％	1.1％
瀬戸・美濃	皿	3.5	5	0.4％	0.3％
瀬戸・美濃	小皿・小碗	25.0	7	3.2％	0.4％
瀬戸・美濃	鉢・平鉢	8.5	17	1.1％	0.9％
瀬戸・美濃	おろし皿	0.0	2	0.0％	0.1％
瀬戸・美濃	香炉	11.0	2	1.4％	0.1％
瀬戸・美濃	瓶	16.5	51	2.1％	2.7％
瀬戸・美濃	壺	12.0	4	1.5％	0.2％
瀬戸・美濃	不明	0.0	1	0.0％	0.1％
瀬戸・美濃　計		**145.5**	**146**	**18.7％**	**7.6％**
瓷器系	すり鉢	2.5	4	0.3％	0.2％
瓷器系	壺	1.5	9	0.2％	0.5％
瓷器系	甕	22.5	355	2.9％	18.6％
瓷器系	甕？	0.0	1	0.0％	0.1％
瓷器系	不明	0.0	1	0.0％	0.1％
瓷器系　計		**26.5**	**370**	**3.4％**	**19.4％**
珠洲	すり鉢	186.0	339	23.9％	17.7％
珠洲	壺R	28.5	67	3.7％	3.5％
珠洲	壺T	33.0	75	4.2％	3.9％
珠洲	甕か壺R	0.0	7	0.0％	0.4％
珠洲	甕か壺T	2.5	600	0.3％	31.4％
珠洲	甕	114.5	82	14.7％	4.3％
珠洲	不明	0.0	1	0.0％	0.1％
珠洲　計		**364.5**	**1171**	**46.8％**	**61.3％**
中世土師器	皿	12.5	13	1.6％	0.7％
中世土師器		**12.5**	**13**	**1.6％**	**0.7％**
瓦器？	すり鉢	0.0	1	0.0％	0.1％
瓦器？　計		**0.0**	**1**	**0.0％**	**0.1％**
総　　計		**779.0**	**1910**	**100.0％**	**100.0％**

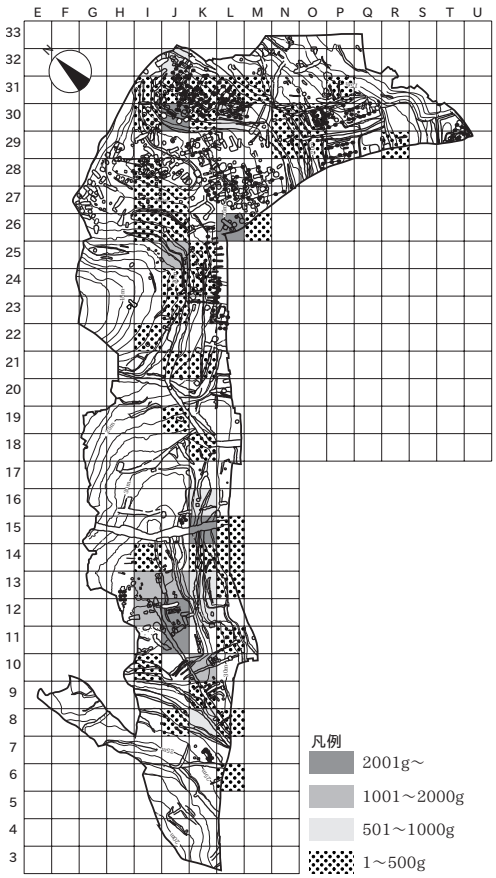
第22表　器種構成表（1）


珠洲
壺T種
壺R種
甕
すり鉢
110
186
610
189
3
187
611
218
4
247
0
30cm
瓷器系陶器
壺
甕
すり鉢
248
149
603
0
30cm
輸入陶磁器
白磁碗
白磁角杯
白磁小碗
青磁碗
224
601
143
345
548
白磁皿
156
271
243
580
青磁盤
青磁鉢
354
236
235
237
226
0
15cm
瀬戸・美濃
平碗
小皿
水注
花瓶
355
332
185
607
238
373
皿
366
天目碗
357
香炉
おろし皿
78
370
608
362
鉢
梅瓶
375
240
367
0
15cm
土師器
皿A類（手づくね）
皿B類（ロクロ）
341
617
小皿B類（ロクロ）
338
174

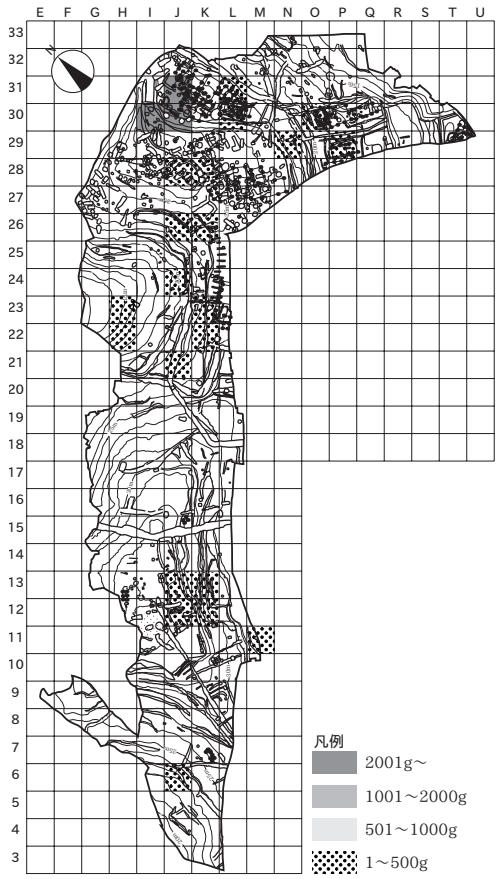
第66図　器種分類図（1）



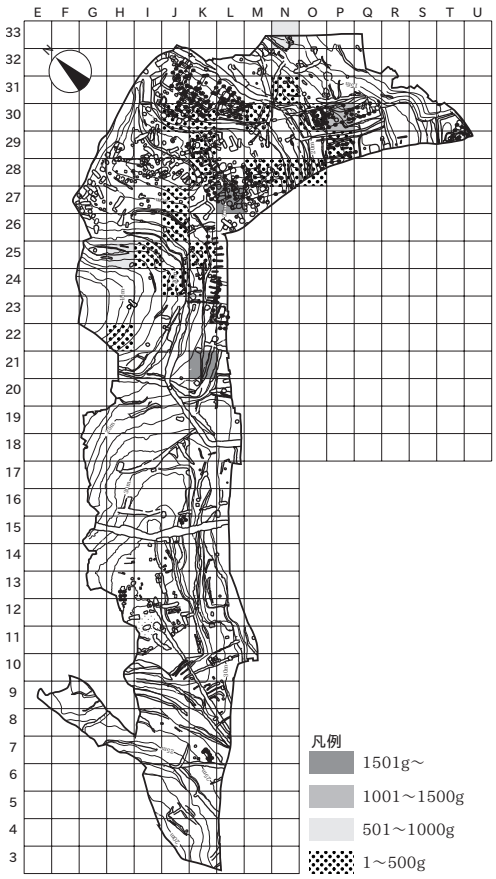
第67図　砥石の出土状況



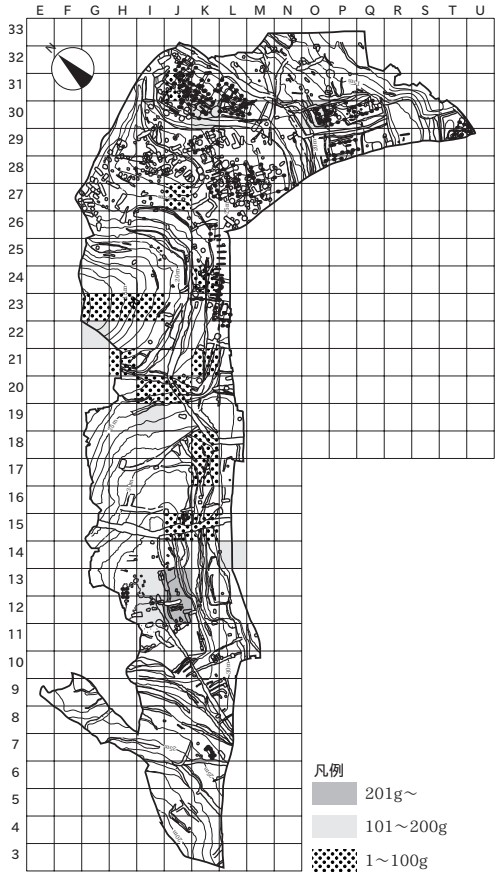
第68図　石塔類の出土状況



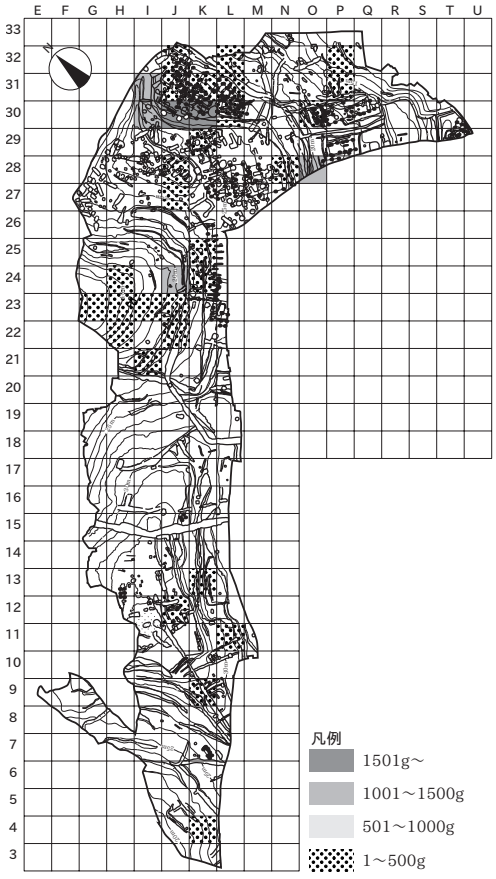
第69図　粉挽き臼の出土状況



第70図　茶臼の出土状況



第71図　炉壁の出土状況



第72図　鉄滓の出土状況

出土した。23は裏面に洪武通寶が付着しており、24は左が熙寧元寶、右が元祐通寶である。最新銭は永楽通寶（26：初鋳1408年）である。

92SK41（図版173　27～29）　遺構は（長）方形土坑C4類に分類され墓坑と考えられる。出土した銭貨は3点だが、六道銭の可能性が高い。最新銭は元豊通寶（27：初鋳1078年）である。

98SK132（図版173　30～32）　遺構は（長）方形土坑C5類に分類され墓坑と考えられる。銭貨は4点出土し、このうち残りの良い3点を図化した。最新銭は図化しなかった洪武通寶（初鋳1368）である。

92SK93（図版173　33～35）　遺構は（長）方形土坑E4類に分類され墓坑と考えられる。銭貨は3点の出土であるが、六道銭の可能性が高い。最新銭は紹聖元寶（34：初鋳1094年）である。

98SK106（図版173　36～39）　遺構は（長）方形土坑E4類に分類され墓坑と考えられる。銭貨が6点出土しており、六道銭と考えられる。38の裏面には別個体の銭貨が付着する。また39も2点付着しており右が元□通寶、左が熙寧元寶である。最新銭は政和通寶（38：初鋳1111年）である。

99SK1292（図版174　58～63）　遺構は地下式坑A1類に分類され墓坑と考えられる。銭貨が6点出土しており六道銭と考えられる。銭貨名を判読できないものがいくつかあるが、最新銭は熙寧元寶（58：初鋳1068）である。

99SK1710（図版174　64～69）　遺構は（楕）円形土坑である。銭貨が6点出土しており六道銭の可能性が高い。最新銭は永楽通寶（67：初鋳1408年）である。

99SK1296（図版174　70～73）　遺構は（長）方形土坑E1類に分類され墓坑の可能性が高い。銭貨は5点の出土だが六道銭の可能性が高い。遺存状態が良好で判読可能な4点を図化した。最新銭は洪武通寶

（73：初鋳1368年）である。

99SK1284（図版174　76・77）　遺構は地下式坑である。銭貨は3点の出土であるが六道銭の可能性が高い。遺存状態が良好で判読可能な2点を図示した。最新銭は元豊通寶（77：初鋳1078年）である。

99SK1276（図版175　78～84）　遺構は（長）方形土坑C5類に分類され墓坑と考えられる。副葬品と考えられる瀬戸・美濃天目椀（78）と六道銭（79～84）が出土した。六道銭の最新銭は永楽通寶（83：初鋳1408年）である。

99SK1259A（図版175　85～88）　遺構は（楕）円形土坑であるが、骨片が定量出土しており墓坑と考えられる。砥石（88）と六道銭（85～87）が出土した。遺存状態が比較的良好で判読可能な3点を図示した。最新銭は元豊通寶（85：初鋳1073年）である。

99SK664（図版175　89～92）　遺構は（楕）円形土坑である。6点出土しており六道銭の可能性が高い。判読できるのは2点のみである。最新銭は元豊通寶（92左：初鋳1078年）である。

99SK657（図版175　93～98）　遺構は地下式坑である。銭貨が6点出土しており六道銭の可能性が高い。最新銭は政和通寶（98：初鋳1111年）である。

99SK941（図版175　99～107）　遺構は（長）方形土坑E2類に分類できる。銭貨が16～17点出土している。遺存状態の良いものを選択して図化した。二次的な被熱の痕跡があり、銭貨名を判読できないものが多い。最新銭は政和通寶（104左：初鋳1111年）である。

99SE1731（図版176　143～146、図版195　354）　陶磁器類（143～145・354）と鉄瓶（146）が出土している。陶磁器類（143～145・354）は主に覆土の上層から出土し、鉄瓶（146）は覆土の下層から出土した。陶磁器類は15世紀代を中心とするものと考えられる。

88SE2401（図版176　150～152）　円形曲物側板（150）と円形板（151）が出土した。いずれも底面付近からの出土で、151は木釘（痕）があることから150の底板となる可能性が高い。152は全面に炭化物の付着が見られ、150の蓋となる可能性がある。

99SK1443（図版177　168～173）　遺構は地下式坑である。銭貨が6点出土しており、六道銭の可能性が高い。最新銭は元豊通寶（172：初鋳1078年）である。

98SD23（図版176　147、図版178　216～223）　青花皿（216）・珠洲（217～221・223）・瓷器系陶器甕（222）・釘（147）などが出土している。青花皿（216）が最も新しい遺物で15世紀後半から16世紀前半代のものと考えられる。218は吉岡編Ⅵ期（15世紀後半）頃のものであろう。

99SE310（図版180　271～290）　白磁割高台皿（271）・青磁碗（272）・瀬戸・美濃天目碗（273）・同平碗（274）・珠洲壺T種（275・276）・同すり鉢（277～285）・同甕（287）・粉挽き臼（288・289）、砥石（290）がある。吉岡編年Ⅳ期（14世紀）のすり鉢（277・280）も存在するが、白磁割高台皿（271）は15世紀後半頃に比定でき、珠洲すり鉢（279）は吉岡編Ⅵ期（15世紀後半）と考えられる。

99SE231（図版180　291～296）　珠洲すり鉢（291・292）・円形板（293～295）・楔（296）が出土している。珠洲すり鉢（292）は見込みの卸目が比較的疎らで、Ⅳ期に遡る可能性が高い。

99SE813（図版181・182　297～313）　覆土中から出土した遺物（297～300・309）と井戸側の部材（301～308・310～313）がある。覆土中の遺物には内外面黒色漆の漆器椀（297）・円形曲物（298）・柄（309）・板材（299・300）がある。年代の推定できる土器・陶磁器類は出土していない。

99SE831（図版182　314～325）　青磁碗（314）・珠洲すり鉢（315～318）・ヒョウタン（319、柄杓身）・漆器椀（320～323）・円形板（324）・砥石（325）が出土している。319～324は底面付近からの

出土であり、315～318・325は覆土上層からの出土である。322・323は15世紀後半～16世紀のものと考えられる。

99SK723（図版183　326～328）　珠洲すり鉢（326・327）と砥石（328）が出土している。珠洲すり鉢（326）は吉岡編年Ⅳ期に比定できる。

99SE811（図版195　329・330）　珠洲すり鉢（329）と円形板（330）が出土している。329は見込みの卸目が比較的疎らであり吉岡編年Ⅳ期（14世紀）前後のものと考えられる。

99SK304（図版183　331～333）　青磁盤（331）・瀬戸・美濃水注（332）・珠洲すり鉢（333）が出土している。333は吉岡編年Ⅳ期（14世紀）に比定できる。瀬戸・美濃水注もこれに近い時期のものと考えられる。

99SX926（図版186・187　421～537）　明確な彫り込みなどは確認できなかったが、銭貨が1ヶ所からまとまって出土した。銭貨は1014点以上出土し、最新銭は淳祐元寶（535：初鋳1241年）である。各銭貨の点数は第23表に示した。

99SD1508（図版188　538～542）　土師器皿（538）・すり鉢（539・540）・同壺T種（541・542）が出土している。土師器皿（538）は手づくね成形であり14世紀代のものであろう。珠洲すり鉢（541・542）・同壺T種（541）も吉岡編年のⅣ期（14世紀）に比定できる。

99SD1880（図版188　543～547）　珠洲すり鉢（543～546）・同甕（547）が出土している。珠洲すり鉢（544・545）は吉岡編年Ⅳ期に比定できる。

99SD1881（図版188　548～552）　青磁碗（548）・珠洲すり鉢（549～552）が出土している。青磁碗（548）は口縁部に雷文があり、14世紀後半から15世紀代のものと考えられる。珠洲すり鉢（549・551）

番号	銭貨名	字体・背	初鋳年	国	ブロック1	ブロック2	ブロック3	ブロック4	ブロック5	ブロック6	ブロック7	ブロック8	ブロック9	ブロック10	ブロック11	ブロック12	ブロック13	その他	ブロック9か11	小計	合計
74	開元通寶	真書	621	唐	6		5	8	5	12	6	3		5	2	6	19	2	1	80	80
74	開元通寶	真書・背月	621	唐		2	1		1	1						1	3			9	9
74	開元通寶	真書・背□	621	唐												1				1	1
76	？元重寶	真書	758	唐													2	1	2	5	5
84	？徳元寶	真書	919	前濁	1															1	1
90	唐国通寶	篆書	959	南唐			1													1	1
93	宋通元寶	真書	960	北宋			2			2								1	1	6	6
94	太平通寶	真書	976	北宋				1	2		1					1		1	3	9	9
95	淳化元寶	真書	990	北宋		1	2			1		1				2				7	16
95	淳化元寶	行書	990	北宋		1			2		1						1		1	6	
95	淳化元寶	草書	990	北宋					2		1									3	
96	至道元寶	真書	995	北宋					2			1					1		1	5	14
96	至道元寶	行書	995	北宋	1				2	2	1					1	1			8	
96	至道元寶	草書	995	北宋		1														1	
97	咸平元寶	真書	998	北宋						1	1	2		1	1		3	1	1	11	11
98	景徳元寶	真書	1004	北宋	2		2	3	4	5		3		1		2	3		1	26	26
99	祥符元寶	真書	1009	北宋	6	2	1		1			1		4			4		3	22	22
100	祥符通寶	真書	1009	北宋	1						4			5	1	6	1	1	3	22	22
101	天禧通寶	真書	1017	北宋	5	2	3	4	1	2			1			2	2		3	25	25
102	天聖元寶	真書	1023	北宋	4	3	4	2				2		10	1	4	1	3	4	38	62
102	天聖元寶	篆書	1023	北宋	3	1	2	3	1	1			3	1	1	4	2		2	24	
103	明道元寶	真書	1032	北宋						1							1			2	4
103	明道元寶	篆書	1032	北宋						1		1								2	

第23表　99SX926の銭貨（1）

番号	銭貨名	字体・背	初鋳年	国	ブロック1	ブロック2	ブロック3	ブロック4	ブロック5	ブロック6	ブロック7	ブロック8	ブロック9	ブロック10	ブロック11	ブロック12	ブロック13	その他	ブロック9か11	小計	合計
104	景祐元寶	真書	1034	北宋	2		1				1			1						5	13
104	景祐元寶	篆書	1034	北宋			1		1	3	1		1				1			8	
105	皇宋通寶	真書	1038	北宋	10	7	10		9	2	1	2		3		7	6	1	6	64	128
105	皇宋通寶	篆書	1038	北宋	7	4	2	6	5	3	4	4		4	1	8	11	3	2	64	
107	至和元寶	真書	1054	北宋	1			1	1	1							2	1		7	11
107	至和元寶	篆書	1054	北宋	1											1			2	4	
108	至和通寶	真書	1054	北宋				1		2										3	3
109	嘉祐元寶	真書	1056	北宋			1			1				1					2	5	10
109	嘉祐元寶	篆書	1056	北宋	1		1				1			1			1			5	
110	嘉祐通寶	真書	1056	北宋		1	2	1	2	1					2	2	1	1		13	20
110	嘉祐通寶	篆書	1056	北宋	4	1										1	1			7	
111	治平元寶	真書	1064	北宋		1	3	1	1			1		2				1		10	21
111	治平元寶	篆書	1064	北宋	1			1		2				1			3		3	11	
112	治平通寶	真書	1064	北宋	2									1			1			4	4
113	熙寧元寶	真書	1068	北宋	5	5	2	4	3	4		4	1		1	4	6	3	4	46	99
113	熙寧元寶	篆書	1068	北宋	5	6	4	4	5	3		1		5	1	5	9	2	3	53	
115	元豊通寶	行書	1078	北宋	4	4	7	6	4	3	9	1	1	7	1	2	9	1	5	64	98
115	元豊通寶	篆書	1078	北宋	1	3	2			3	1	2	1	5	2	7	5	1	1	34	
117	元祐通寶	行書	1086	北宋	3	3	2	6	8		4	7		3	1	4	7	4	9	61	106
117	元祐通寶	篆書	1086	北宋	6	3	2	1	4	3	4	3	1	2	1	5	6	3	1	45	
119	紹聖元寶	行書	1094	北宋	1	2		2	1	2	2	2		1			3	3	1	20	37
119	紹聖元寶	篆書	1094	北宋				2	3	2				4		4	2			17	
122	元符通寶	行書	1098	北宋					1	1			1	1	2		1		2	9	20
122	元符通寶	篆書	1098	北宋			1	1	2			1		2	1			1	2	11	
124	聖宋元寶	行書	1101	北宋		6		2	3	1		3		1		2	1			19	31
124	聖宋元寶	篆書	1101	北宋		1	1	2	2					1			1	1	3	12	
129	大観通寶	真書	1107	北宋	1		2	4		1		1							2	11	11
132	政和通寶	分楷	1111	北宋		4	3			4		2		4	3	2	3	1	4	30	52
132	政和通寶	篆書	1111	北宋		2		1	3	2	2	2		1	1	4			4	22	
135	宣和通寶	分楷	1119	北宋		1												2		3	6
135	宣和通寶	篆書	1119	北宋														2	1	3	
153	淳熙元寶	真書・背月	1174	南宋												1				1	1
153	淳熙元寶	真書・背十	1174	南宋															1	1	1
153	淳熙元寶	真書･背十一	1174	南宋										1						1	1
153	淳熙元寶	真書･背十四	1174	南宋						1	1			1						3	3
153	淳熙元寶	真書･背一六	1174	南宋		1														1	1
153	淳熙元寶	真書・背捌	1174	南宋							1					1				2	2
153	淳熙元寶	真書･背月星	1174	南宋												1				1	1
155	淳熙元寶	真書・背四	1190	南宋												1				1	1
157	慶元通寶	真書・背三	1195	南宋				1										1		2	2
157	慶元通寶	真書・背四	1195	南宋		1														1	1
157	慶元通寶	真書・背五	1195	南宋				1												1	1
157	慶元通寶	真書・背六	1195	南宋										1						1	1
161	開喜通寶	真書	1205	南宋												1				1	1
163	嘉定通寶	真書･背十一	1208	南宋															1	1	1
163	嘉定通寶	真書･背十二	1208	南宋				1												1	1
163	嘉定通寶	真書・背三	1208	南宋		1														1	1
163	嘉定通寶	真書・背六	1208	南宋						1										1	1
174	淳祐元寶	真書・背三	1241	南宋		1														1	1
182	咸淳元寶	真書・背二	1265	南宋															1	1	1
188	正隆元寶	真書	1157	金	1														1	2	2
235	三韓重寶	真書	1097	高麗					1											1	1
－	元□□寶	－	－	－	1															1	1
－	□□通□	行書	－	－						1										1	1
－	□□□寶	－	－	－													2			2	2
合　計					86	71	70	70	82	76	47	50	10	81	23	93	126	42	87	1014	

第24表　99SX926の銭貨（2）

は吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期（13世紀後半～14世紀）のものと思われる。

99SE1905（図版188　561～571）　珠洲甕（561）・炭化した板材（562～569・571）・炭化した芯持ち丸太材（570）が出土している。珠洲甕（561）は吉岡編年Ⅴ期（15世紀前半）前後に比定できるものであろう。炭化材は円形板（563・564・566・568）や板状の部材（567・571）に小孔を穿け何かに転用した後炭化しものと考えられる。

99SE2050（図版188　572～577）　箸（572～575）・杭（576）・柄（577）が出土している。年代の推定できる土器・陶磁器類は出土していない。

99SK1974（図版189　601～603）　白磁角杯（601）・越前すり鉢（603）・粉挽き臼（602）が出土している。白磁角杯（601）は15世紀後半、越前すり鉢（603）は16世紀頃のものであろう。

99SE1493（図版190　610～612）　珠洲甕（610・611）・土師器皿（612）が出土している。珠洲甕（610・611）は同一個体と考えられ、吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期（13世紀後半～14世紀）に比定できる。土師器皿（612）は手づくね成形であり、14世紀代のものと考えられる。

99SE1465（図版202　613～615）　砥石（613）・杓子（614）・鍬先（615）が出土している。年代の推定できる土器・陶磁器類は出土していない。

B　近世の遺物（図版191）

近世の遺物としては土器・陶磁器・金属器などがある。大半が包含層（Ⅰ～Ⅳa層）からの出土であり、遺構からまとまって出土したものはない。図版191の遺物以外にも、図版173～190の中に示した石製品・金属製品の一部は近世に下る可能性がある。

図化は土器・陶磁器類の碗・皿を中心に行った。土器・陶磁器の分類図は第73図に示した。器種による大まかな分類しか行っていない。器種構成比率は第24表に示した。肥前系陶磁器が大半を占めるが、在地産と推定される土師器（631・632）、相馬系陶器（645）、越中瀬戸（656・658）も確認できる。また、肥前系としたすり鉢の中には須佐産陶器が一定量含まれる可能性が高い。土器・陶磁器以外の遺物には戊辰戦争に関連すると思われる砲弾（674）がある。

C　古代の遺物（図版192）

古代の遺物は土器類を主に図示した。また、図版193～200に示した石器・金属器のなかに古代に下るものが含まれる可能性がある。

土器類の分類は第74図に示した。器種による大まかな分類しか行っていない。須恵器の胎土は梯子谷窯跡

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
肥前系陶器	碗	127.5	225	16.7％	20.3％
肥前系陶器	皿	59.5	99	7.8％	8.9％
肥前系陶器	小碗・小皿	4.0	2	0.5％	0.2％
肥前系陶器	天目台	0.0	2	0.0％	0.2％
肥前系陶器	鉢	17.0	49	2.2％	4.4％
肥前系陶器	香炉	5.5	6	0.7％	0.5％
肥前系陶器	すり鉢	24.0	104	3.2％	9.4％
肥前系陶器	瓶	24.0	26	3.2％	2.3％
肥前系陶器	壺	11.5	35	1.5％	3.2％
肥前系陶器	行平鍋	3.0	8	0.4％	0.7％
肥前系陶器　計		**276.0**	**556**	**36.2％**	**50.2％**
肥前系磁器	蓋	13.0	2	1.7％	0.2％
肥前系磁器	碗	259.0	355	34.0％	31.3％
肥前系磁器	皿	157.5	134	20.7％	12.1％
肥前系磁器	小皿・小碗	44.0	6	5.8％	0.5％
肥前系磁器	盤	0.0	1	0.0％	0.1％
肥前系磁器	おろし皿	0.0	1	0.0％	0.1％
肥前系磁器	瓶	1.0	31	0.1％	2.8％
肥前系磁器	甕	0.5	6	0.1％	0.5％
肥前系磁器　計		**469.0**	**526**	**62.4％**	**47.6％**
越中瀬戸	皿	3.0	1	0.4％	0.1％
越中瀬戸	すり鉢	0.0	2	0.0％	0.2％
越中瀬戸	壺	4.0	6	0.5％	0.5％
越中瀬戸　計		**7.0**	**9**	**0.9％**	**0.8％**
相馬	小碗	0.0	1	0.0％	0.1％
相馬　計		**0.0**	**1**	**0.0％**	**0.1％**
陶器	すり鉢	0.0	2	0.0％	0.2％
陶器	壺	0.0	3	0.0％	0.3％
陶器	壺？	0.0	1	0.0％	0.1％
陶器	甕	0.0	1	0.0％	0.1％
陶器	不明	0.0	4	0.0％	0.4％
陶器　計		**0.0**	**11**	**0.0％**	**1.0％**
土師器	焙烙	3.5	3	0.5％	0.3％
土師器　計		**3.5**	**3**	**0.5％**	**0.3％**
総　計		**761.5**	**1107**	**100.0％**	**100.0％**

第25表　器種構成表（2）

［春日2001］に準じた分類を行った（第27表）。器種構成比率は第26表に示した。中世の土器類・弥生時代～古墳時代の土器類との区別は比較的容易であったが、土師器の中には判断を誤って弥生時代～古墳時代の土器の中に含めたものが全くなかったとは言い切れない。計測結果をみると、食膳具が煮炊具を大きく上回り、食膳具の大半は須恵器無台杯が占める。古代の土師器の一部について判断を誤り、弥生時代～古墳時代の土器の中に含めた結果が器種構成比率の数値に影響を与えている可能性は考えられるが、それによって食膳具が煮炊具を大きく上回り、食膳具の大半は須恵器無台杯が占めるという傾向が大きく変わることはないと考える。

92SI121・102Bからは土器が出土しており、92SI102では須恵器有台杯（675）と、須恵器無台杯（676）が確認できる。

92SI102Bでは土師器長釜（677・678）が確認できる。古墳時代後期に下る可能性も考えられるが、頸部の屈曲が明瞭でないことと、島崎川流域では9世紀初頭頃までは須恵器技法を用いない土師器釜が定量存在すること［春日2001］などから考え古代のものと判断した。

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	杯蓋	25.5	25	13.1％	5.5％
須恵器	有台杯	22.5	36	11.5％	7.9％
須恵器	無台杯	117.0	120	60.0％	26.3％
須恵器	杯	0.0	22	0.0％	4.8％
須恵器	有台皿	0.0	1	0.0％	0.2％
須恵器	壺・瓶類	0.0	56	0.0％	12.3％
須恵器	甕	4.0	89	2.1％	19.5％
須恵器	甕か壺	0.0	2	0.0％	0.4％
須恵器	不明	0.0	2	0.0％	0.4％
須恵器　計		**169.0**	**353**	**86.7％**	**77.4％**
黒色土器	碗	0.0	1	0.0％	0.2％
黒色土器　計		**0.0**	**1**	**0.0％**	**0.2％**
土師器	無台碗	0.0	4	0.0％	0.9％
土師器	釜	25.0	93	12.8％	20.4％
土師器	釜か壺	0.0	2	0.0％	0.4％
土師器	鍋	1.0	3	0.5％	0.7％
土師器　計		**26.0**	**102**	**13.3％**	**22.4％**
総　　計		**195.0**	**456**	**100.0％**	**100.0％**

第26表　器種構成表（3）

種類	器種	口縁部残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
須恵器	甑	6.0	1	4.1％	0.0％
須恵器	杯身	0.0	1	0.0％	0.0％
須恵器　計		**6.0**	**1**	**4.1％**	**0.0％**
黒色土器	杯	4.0	11	2.7％	0.4％
黒色土器　計		**4.0**	**11**	**2.7％**	**0.4％**
土師器	杯	18.0	106	12.3％	3.7％
土師器	高杯	2.0	8	1.4％	0.3％
土師器	壺	13.0	38	8.9％	1.3％
土師器	釜	94.0	650	64.0％	22.9％
土師器	釜？	0.0	9	0.0％	0.3％
土師器	釜か壺	9.8	2017	6.7％	71.0％
土師器	不明	0.0	1	0.0％	0.0％
土師器　計		**136.8**	**2829**	**93.2％**	**99.6％**
総　　計		**146.8**	**2842**	**100.0％**	**100.0％**

第27表　器種構成表（4）

D　古墳時代中期～後期の遺物

1）概　　要

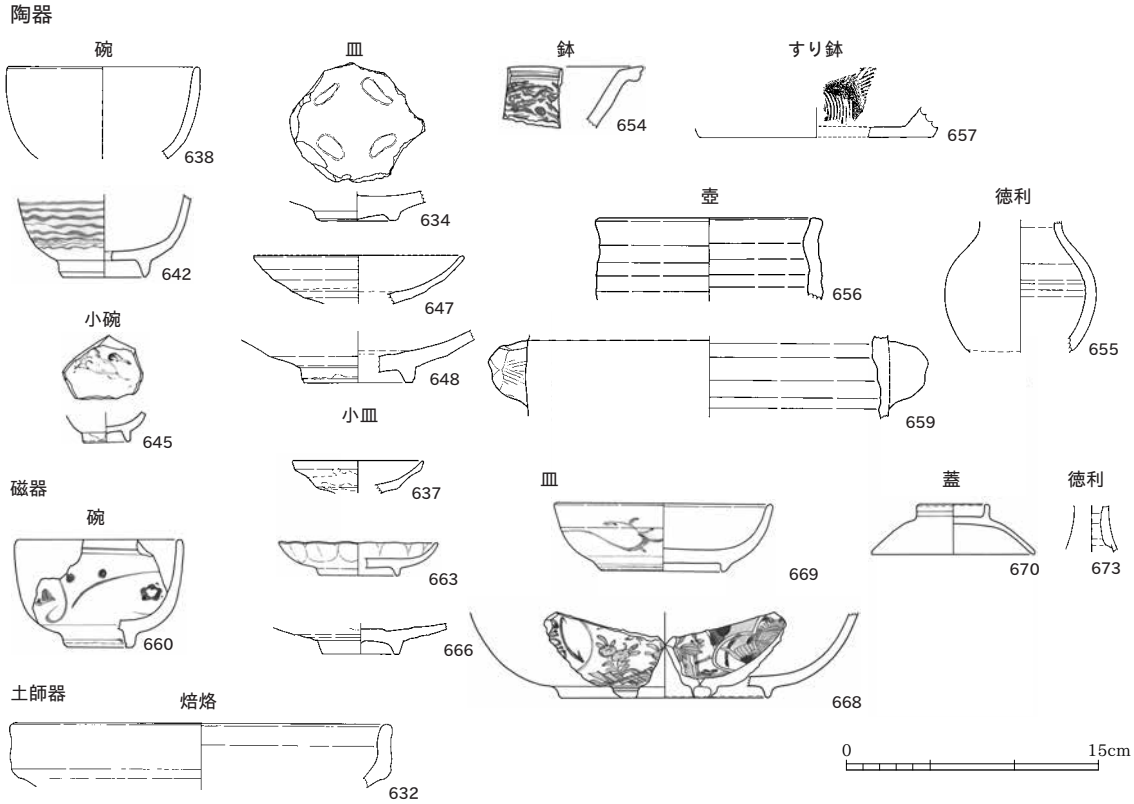
古代の土器同様、土器類を主に図示した。後述する図版193～200に示した石器・金属器のなかに当期に下るものが含まれる可能性がある。

土器類の分類図は第75図に示した。器種による大まかな分類しか行っていない。弥生時代後期～古墳時代前期の土器との識別が明確にできなかったため、第26表に示した土器類の器種構成比率は、古墳時代中期～後期の土器類が集中して出土した16L・17L・20K・21Kから出土した土器の器種構成比率（ただし、明らかに他時期のものと判断できる土器は除外してある）を示した。煮炊具が70％近くを占め、食膳具・貯蔵具は比較的少ない。98SK62、20Kピット2、20K－5周辺、98SX1などからまとまって土器が出土している。

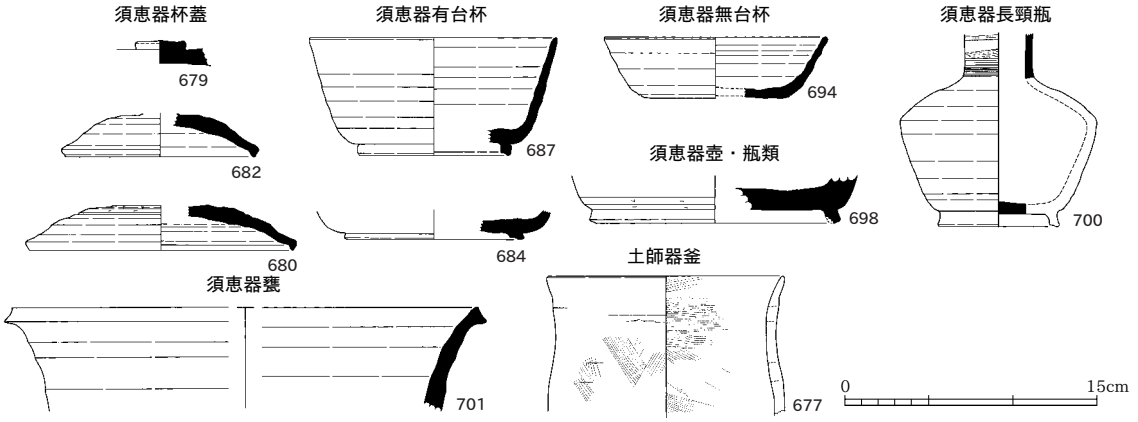
2）主　な　遺　物

98SK72（図版192　706～718）　土師器釜が多く出土した。釜はいずれも「く」字状で（707～710）、胴部は長胴となる可能性が高い。また底部は平底（712～718）である。712・717～718は底部充填技法によるものである。

20Kピット2（図版193　719～722）　須恵器甑（719）・土師器釜（720～722）がある。須恵器甑



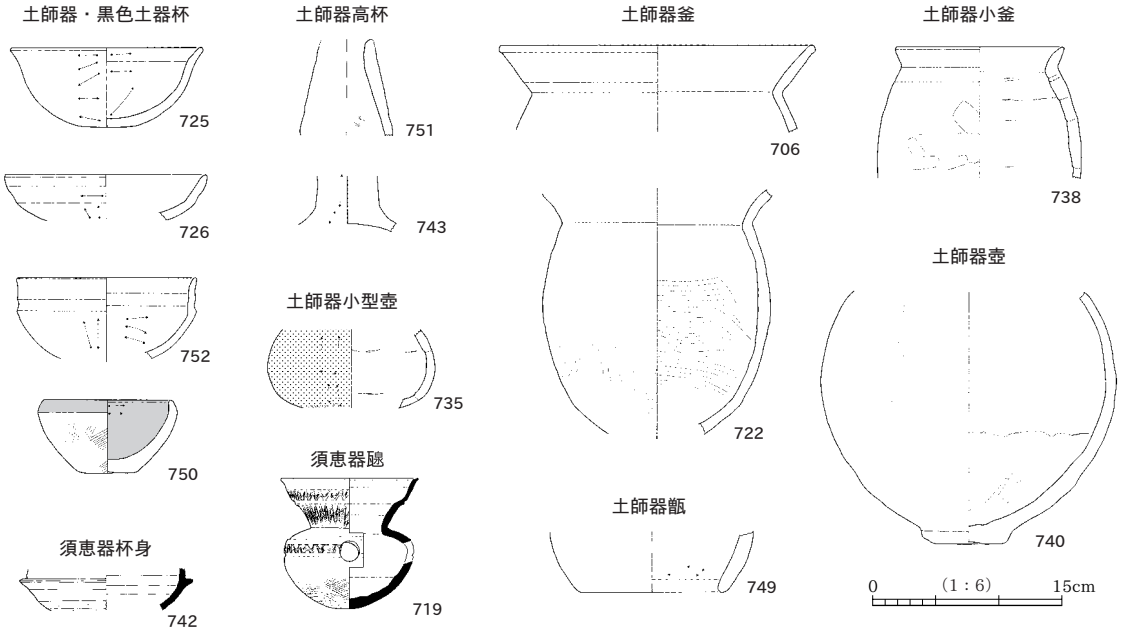
第73図　器種分類図（2）



第74図　器種分類図（3）

胎土	特　　徴
A1類	砂質の強い素地に、砂粒が多く入る。海綿骨針を含む。生産地は西古志窯跡群の可能性が高い。
A2類	素地は比較的砂質が強いが、A1・3・4と比較するとやや粘土質が強い。海綿骨針を含むものが多い。径1～2㎜前後の風化した白色の礫が定量入る。八幡林官衙遺跡H地区SD01出土須恵器の主体を占める胎土である。産地は西古志窯跡群の可能性が高い。
A3類	素地は砂質が強い。混入物は少なく、比較的精良な胎土である。海綿骨針を含むものが多い。八幡林官衙遺跡I地区下層出土須恵器に定量みられる。生産地は西古志窯跡群の可能性が高い。
A4類	A3に類似するが、径1～2㎜前後の風化した白色の礫が定量入る。海綿骨針を含むものが多い。産地は西古志窯跡群の可能性が高い。
B1類	素地は粘土質が強い。1㎜前後の石英・長石粒を少量含む。生産地は新津丘陵窯跡群の可能性が高い。
B2類	B1類に類似するが、乳白色の粘土塊を含む。産地は新津丘陵窯跡群の可能性が高い。
C1類	素地は砂質が強い。混入物は少なく、精良な胎土である。A3類よりもきめが細かい印象を受ける。生産地は佐渡小泊窯跡群の可能性が高い。
C2類	C1類に似るが、1㎜以下の白色粒子を多量に含む。生産地は佐渡小泊窯跡群の可能性が高い。

第28表　須恵器胎土の特徴　　［春日2001］を一部改変



第75図　器種分類図（4）

（719）は陶邑産の可能性が高く、陶邑編年［田辺1981］のTK23型式（5世紀後半）に比定できる。

20K－5周辺（図版193　723～730）　20Kピット2の周辺から出土した土器であり、近接した時期の可能性が高い。黒色土器杯（723・724）・土師器杯（725～727）・土師器釜（723～730）がある。土師器・黒色土器杯（723～726）には模倣杯（723・726）と口縁部が外側に屈曲するタイプのもの（724・725）がある。

98SX1（図版193　731～741）　土師器杯（731～734）・土師器小型壺（735）・土師器釜（736・738・739・741）・土師器壺（737・740）がある。731・732・734は3個体ならんで出土した。土師器壺（740）は底部充填技法を用いる。

29O－16・17（図版193　742～749）　須恵器杯（742）・土師器高杯（743）・土師器釜（744～748）・土師器甑（749）ある。742は陶邑産の可能性が高い。推定される口径が12㎝前後と大振りであることから、陶邑編年［田辺1981］MT15～TK10型式（5世紀末～6世紀前半）に比定できる。

そ の 他　762は滑石製の有孔円盤である。近世の炭窯と考えられる92SK97から出土した。758は甑としたが、天地逆で釜の可能性も考えられる。

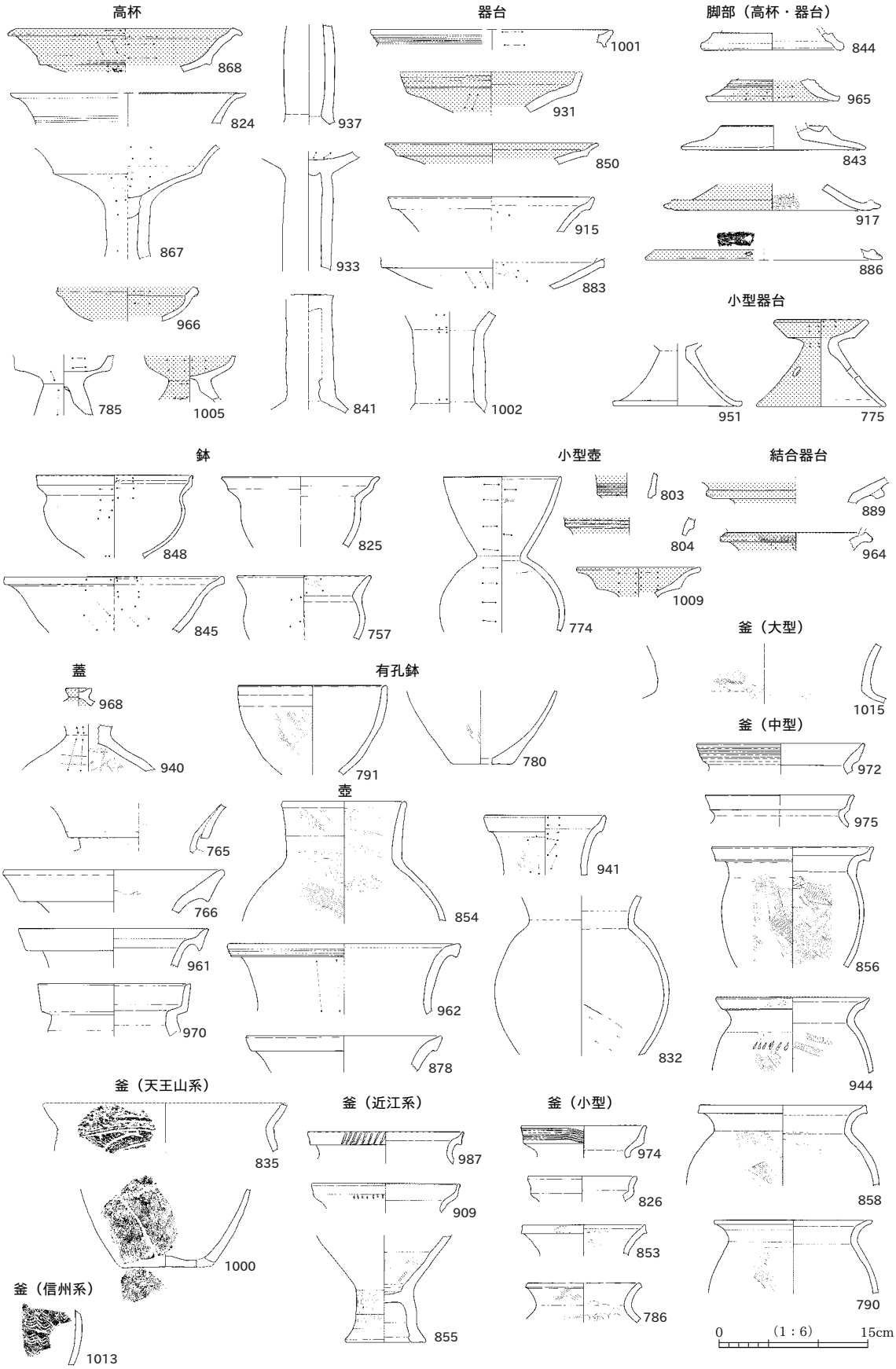
器種	口縁部残存率/36	破片数	比率（残存率）	比率（破片数）
蓋	0.0	151	0.0％	0.6％
高杯	28.0	160	3.9％	0.7％
器台	28.0	79	3.9％	0.3％
器台？	2.0	40	0.3％	0.2％
高杯か器台	13.0	47	1.8％	0.2％
小型壺・鉢	40.5	185	5.6％	0.8％
壺	91.5	466	12.7％	2.0％
壺？	0.0	26	0.0％	0.1％
釜	482.5	1182	66.9％	5.0％
釜？	0.0	17	0.0％	0.1％
釜か壺	33.0	21032	4.6％	89.7％
天王山系釜	0.0	5	0.0％	0.0％
天王山系か壺	1.0	23	0.1％	0.1％
箱清水系釜	1.5	5	0.2％	0.0％
総　　計	721.0	23434	100.0％	100.0％

第29表　器種構成表（5）

E　弥生時代後期～古墳時代前期の遺物

1）概　　要

土器・石器・金属器がある。ただし、石器・金属器の一部は古代・古墳時代後期に遡る可能性がある。土器類の分類図は第76図に示した器種による大まかな分類しか行っていない。古墳時代中期～後期の土器との識別が明確にできなかったため、第28表


高杯
868
824
937
867
933
966
785
1005
841
器台
1001
931
850
915
883
1002
脚部（高杯・器台）
844
965
843
917
886
小型器台
951
775
鉢
848
825
845
757
小型壺
803
804
1009
774
結合器台
889
964
蓋
968
940
有孔鉢
791
780
釜（大型）
1015
釜（中型）
972
壺
765
766
961
970
854
962
878
941
832
975
856
944
釜（天王山系）
835
1000
釜（信州系）
1013
釜（近江系）
987
909
855
釜（小型）
974
826
853
786
858
790
0
（1：6）
15cm

第76図　器種分類図（5）

に示した土器類の器種構成比率は、古墳時代中期～後期の土器類が集中した16L・17L・20K・21K出土の土器を除いた器種構成比率（ただし、明確に他時期のものと判断できる土器は除外してある）を示した。99SD1850・89SD19・98SI92・99SI1432・98SI98・１号墳・１号方形周溝墓・89SI20・92SI105・１号墳などから遺物が定量出土している。

2）主　な　遺　物

99SD1850（図版194　766～773）　壺（766・767・770・773）・器台（768・769）・高杯か器台（772）、釜（771）がある。土師器壺（766・767・770）は同一個体と考えられる。

89SD19（図版194　774・775）　小型壺（774）・小型器台（775）が出土している。２個体並んで出土しており（図版360）、組みで用いられていた可能性が高い。

98SI92（図版194　776～780）　小型器台（776）・鉢（777）・釜（778・779）・有孔鉢（780）が出土している。776～778は建物周溝内からの出土であり、779・780は建物周辺からの出土である。鉢（777）は緩く「く」字に屈曲する単口縁のものである。

２号周溝墓（図版194　781～784）　器台（781・784）・釜（782）・底部（783）がある。器台（781・784）は同一個体となる可能性が高い。

99SI1432（図版194　785～791）　高杯（785）・釜（786～790）・有孔鉢（791）が確認できる。785～787・791は建物周溝内の出土であり、788～790は建物周辺からの出土である。建物周溝内出土の高杯（785）はいわゆる畿内系の掘折脚の高杯と思われ、杯部内面には横方向のヘラミガキがみられる。釜（786・790）は口縁端部に狭い面をもつ。

30K－20周辺（図版195　792～815）　30K－20周辺の落込みから出土した。釜（792～799）・高杯（800～802）・小型壺（803～805）・底部（806～813）・砥石（814・815）が出土している。小型壺（803・804）は、いわゆる台付装飾壺の口縁部と胴部の破片であり同一個体と考えられる。

98SI12（図版195　819～823）　釜（819・822）・高杯（820・821）・底部（823）がある。819・821・822は建物周溝内の出土、820は建物周辺からの出土、823は98SI12と関連すると考えた土坑98SK22からの出土である。

98SI98（図版195　824～831）　高杯（824）・鉢（825・826）・小型壺（827）・釜（828）・底部（829～831）がある。825～831は建物周溝内の出土であり、824はその周辺からの出土である。鉢（826・827）は緩く屈曲する有段口縁である。小型壺（872）は「く」字の単口縁になると思われる。釜（828）は「く」字口縁で、口縁端部は丸くなる。

２号墳（図版207　832～834）　３点とも周溝内から近接して出土した。壺（832・833）と鉄器（834）がある。壺（832・833）は同一個体と考えられる。器壁は比較的薄い。

99SD757（図版195　835～838）　天王山系土器釜（835～837）と底部（838）が出土している。

１号周溝墓（図版196　839～854）　高杯（839～842）・器台（849・850）・脚部（843・844）・鉢（845～847）・釜（851～853・855）・壺（854）がある。鉢（845・846）は同一個体と考えられる。鉢（848）は近江系と考えられる。釜（855）は他の器種の可能性も考えられるが、台付きの釜と考えた。東海地方との関連が想定される。１号周溝墓の形態とあわせ、注目される資料である。

99SI20（図版208　856～862）　釜（856・858・859・862）・鉢（860）・高杯（861）・底部（857）がある。釜には受口状になるもの（856）と「く」字状になるもの（858・859）がある。

92SI105（図版208　863～871）　釜（863～865）・高杯（867・868）・器台（869）・小型壺（870）・鉄器（871）がある。釜（863・864）は「く」字口縁で端部にやや広い面を持つ。

1号墳（図版209　872～877）　872～874は埋葬施設から出土した。875～877は埋葬施設周辺に入れたトレンチなどから出土している。捩文鏡（872）、水晶製勾玉（873）、緑色凝灰岩製管玉（874～877）、緑色凝灰岩製棗玉（876）がある。

そ の 他　99SI1581からは壺（図版194　765）、92SI102Aからは高杯（図版195　816・817）と釜（図版195　818）、3号周溝墓からは高杯脚部（図版197　882）が出土している。

F　弥生時代中期の土器・縄文土器

弥生時代中期の土器・縄文土器は計量を行っていない。

弥生時代中期の土器（図版212　1024～1054）　北陸系（1024～1037）が多く、中部高地系（1038～1043）、東北南部系（1044～1054）も確認できる。図化に際しては、北陸系以外のものは、反転実測できない資料でも図化するよう努めた。したがって、北陸系土器の実際の割合は、実測点数の割合よりもかなり高い。

縄文土器（図版212　1055～1072）　確実に認識できたものは92点である。前期前葉から中葉（1055・1056・1069～1072）、前期末～中期（1057～1065）、縄文時代晩期（1068）のものがあり、縄文時代前期前葉から中葉の土器類が最も多い。

G　縄文時代・弥生時代の石器・石製品

1）石　　鏃（図版201～203）

図化した資料は、成品32点、未成品および素材を含めた合計は52点である。成品をタイプ別にみると、有茎鏃18点（平基有茎鏃9点、凸基有茎鏃5点、凹基有茎鏃4点）・無茎鏃9点（凹基無茎鏃4点、平基無茎鏃5点）・尖基鏃5点である。以下順を追って解説する。

平基有茎鏃（図版201　1073～1081）　1073～1075は茎部両側の調整がやや不揃いで、微妙に抉れているように見える調整もあるが、凹基有茎鏃に分類したものと比べると、抉りを作出するという明確な意図が読みとれないため平基有茎鏃に含めた。1073は頁岩製で、深型の調整によって器厚を調整するとともに器形を整えている。先端部は鋭さにやや欠ける。1074はチャート製で先端部を僅かに欠いている。表面は体部中央付近まで深型の調整が見られるが、裏面中央には素材の主剥離面を一部残す。これは素材剥片の表面側がやや厚く盛り上がっていたためで、器厚を減ずると同時に器形を成形している。しかし表面中央付近には取りきれないで残された箇所がある。脚部は左右が不揃いで、右側縁の調整に荒さが目立つ。1075は珪質頁岩製でバランスのとれた全体形を呈している。両側縁からの調整も入念であるが、表裏とも素材の剥離面を一部残す。器厚はやや厚い。1076は珪質頁岩製で、浅型調整によって器形を成形しており、表裏ともに素材の剥離面を大きく残す。これは素材剥片が薄かったため、器厚を減じるための面的な調整が不要だったからと考えられる。1077は珪質頁岩製でやや小型である。全体的に入念な作りで、形態的なバランスは良いが、先端部の鋭利さは失われている。1078は頁岩製で、左右の形状が不釣り合いである。調整もやや荒く、表面側に盛り上がったような側面形を呈し、やや厚い。1079はチャート製で小型である。全体形は体部中央付近が膨らむ木の葉型を呈している。1080は珪質頁岩製で、先端部および茎部を欠いている。深型調整による面的な加工によって器厚を非常に薄くかつ均一に調整してい

る。1081はチャート製で、器長がやや長く、両縁辺は直線的である。体部の長さに対して茎部が短く、茎部の先端部が丸みを帯びた加工となっている。

凸基有茎鏃（図版201　1082～1086）　1082は珪質頁岩製で、茎部が非常に長くなっている。脚部の張り出しは僅かであるが、茎部との繋がり部分の形状からこの分類に含めた。加工は入念で、とくに茎部の作りだしは錐の先端部を想起させるほど繊細である。1083はチャート製で、全体に深型調整による面的な加工が施され、脚や先端部は鋭く加工されている。1084は珪質頁岩製で、全体形のバランスは悪い。表面左側縁がやや張り出したようになっており、茎部の加工も荒い。成品としたが、成形途中の可能性も捨てきれない。1085は珪質頁岩製で、先端部を欠いている。茎部の形状は整っているが、全体的には加工が荒く、表面側にやや盛り上がったような側面形を呈する。1086はチャート製で、茎部を欠き、先端部は鋭利さを失いやや丸くなっている。加工は入念で、全体的に面的な加工が施され、器厚を薄く調整しているが、脚部の先端は曲線的である。

凹基有茎鏃（図版201　1087～1090）　1087は珪質頁岩製で、脚部の長さが不釣り合いである。表裏とも茎部付け根両側の調整がやや大きく、明確な抉れ部を作出しているが、脚部先端部は薄くなりすぎ、折れやすくなっている。1088は珪質頁岩製で、全体形は良く整っている。茎部は短く、脚部は左右とも内湾する傾向がある。両縁辺とも平面形は直線的で、連続的な調整によって成形をしているが、表裏とも素材の剥離面を中央部付近に残す。これは素材が薄い剥片であったためと考えられる。1089は珪質頁岩製で、やや長い。脚部・茎部付近の加工は1088によく似ているが、先端部は細く突出し、体部中央付近でややくびれたような平面形を呈する。先端部左側縁に樋状剥離が観察できることから、先端部を若干欠いている可能性がある。1090はチャート製で長く、表面左側縁にダメージがある。加工は縁辺部を中心に入念で、連続的な調整で器形を整えているが、表裏とも体部中央付近に素材の剥離面を一部残している。

尖基鏃（図版201　1091～1095）　明確な脚部を持たないものをこの分類に含めた。1091は珪質頁岩製でやや大型である。全体的に平面形も整わず、断面も四角形に近く厚く、先端部も鋭さを欠いている。成品としたが、成形途中の可能性も捨てきれない。1092は玉髄製で、器形も良く整っている。平面形は、体部中央付近が外側にやや膨らみ、下部に向かって細く、薄くなっている。表面の調整に比べると裏面はやや不規則な調整である。1093は頁岩製で、平面形は上下端部が鋭い菱形を呈する。裏面に素材の主剥離面の一部を残し、表面側がやや盛り上がっていることから、主剥離面側に内湾する剥片を素材にしたものと考えられる。1094は紅玉製で、全体形は余り整わず、先端部も鋭さにかける。裏面に素材の主剥離面を残し、調整が表面側に集中し、側面形は裏面側にやや内湾する。1095は頁岩製で小型である。先端部は丸みを帯び、茎部を突出するよう作出しているようにも見える。断面はやや厚く丸い。

平基無茎鏃（図版201　1096～1100）　1096は緑色凝灰岩製で、急斜度浅型の調整によって器形を三角形に整え、表裏とも素材の剥離面を大きく残す。縁辺部の調整角度が大きく、鋭さに欠ける。1097は頁岩製で、表裏とも深型の調整によって器厚を調整している。上端部は鋭さに欠け、下端部は下方からの調整によって縁辺部が薄く鋭くなっている。1098は頁岩製で、表裏とも先端部の加工は入念であるが、下部には素材の剥離面をやや大きく残している。側面形は裏面側に内湾し、下端部縁辺が鋭くなっている。1099波形質頁岩製で、両縁辺に抉れ部を有する特殊なものである。下端部が直線的であるためここに分類して報告するが、今後検討を要するものと思われる。先端部の鋭さは失われているが、先端付近でややくびれ、先端部が突出する形状をしている。表面には面的な加工が全面に施されているが、裏面には素材の主剥離面を一部残す。1100は珪質頁岩製でやや大型である。比較的急斜度の浅型調整によって器形を

成形しており、表裏両面とも素材の剥離面を大きく残している。側面形は裏面側に内湾し、断面は六角形を呈し、縁辺部は鋭さに欠ける。

凹基無茎鏃（図版201　1101～1104）　1101は珪質頁岩製で、基部の抉れが深くなっている。全体に面的な加工によって器形・器厚を整え、表面の調整は連続的で良く揃っている。先端部付近が若干くびれ、先端部が突出する様に見える。1102は黒曜石製。加工は表裏とも入念で、先端部も鋭く、縁辺部の加工も直線的で鋭い。器厚も実に薄く均一である。1103頁岩製で、表面の加工は全面にわたる調整であるが、裏面には素材の剥離面を大きく残し、側面形は裏面側にやや内湾する。抉れ部は浅い弧の形状を呈する。1104は水晶を用いている。先端部を欠失しているが、平面の全体形は体部中央付近が外側に丸く膨らみ、先端部に向かってすぼむ形状であったと思われる。抉れ部は1103と同様浅い弧状である。

石鏃未成品および素材（図版202・203　1105～1124）　1105は珪質岩の剥片を素材とし、基部の加工が見られる。全体形は折断によって粗っぽく成形されているのみで、細部の調整は加えられていない。基部の加工は素材の打点付近にあることから、バルブはずしを兼ねたものと思われる。1106は珪質頁岩の縦長剥片両側縁および下端部に調整が見られる。下端部の調整は基部の加工を目的としたものであろう。細部調整による器形成形段階の資料である。1107は珪質頁岩の剥片周縁部に調整が見られ、裏面下部の調整はバルブはずしによる器厚調整と見られる。細部調整による器形成形段階である。1108は珪質頁岩の剥片を折断によって粗成形したものである。いまだ細部調整による器形成形段階には至らない。1109は珪質頁岩の幅広剥片を細部調整によって成形している段階である。裏面下部のバルブがそのままであることから、器厚の調整には至っていない。1110は珪質頁岩の剥片を用い、表裏両面とも左側縁から調整を加えている。断面が四角形状であることから、器形の成形に入る前に、厚さの調整をしているものと考えられる。1111は表面左と下部に折断面が見られ、上部には表裏両面からの調整がある。表面には節理面があり、裏面は比較的平坦な剥離面である。細部調整による器形成形段階とみられる。石材は珪質頁岩である。1112は頁岩の剥片を用い、バルブはずしによる厚さ調整の段階とみられる。上部の折れ面は加工途上で破損した可能性がある。1113は珪質頁岩の剥片を用い、細部調整による器形成形段階とみられる。1114は黒曜石の横長剥片を素材とし、一端を切断し、他の縁辺に調整を加えている。細部調整による器形成形段階とみられる。1115は表裏全体に縁辺部からの調整によって荒く器形を調整している。石材は頁岩である。1116は珪質頁岩の剥片を素材とし、表面右側には折断面がある。表裏両面からの調整による器形成形段階であろう。1117は珪質頁岩の剥片を素材とし、比較的深い調整によって器厚の調整をするとともに、尖頭部を作出している。1118・1119はともに珪質頁岩の剥片である。両者とも折断によって三角形に粗成形されているが、1118には表面左上部に尖頭部を作出するための調整が見られる。1119には明確な細部調整は見られないが、1118と酷似した形状であることから、細部調整の前段階の資料とした。1120はやや大型の剥片である。裏面に見られるように、やや荒い調整ではあるが尖頭部を作出しようとした意図が読みとれる。細部調整に至る前の粗成形段階のものと判断した。1121～1124は片面に素材の自然面をそのまま、あるいは大きく残すグループである。石材は1122・1124がチャートで、他は珪質頁岩である。1121～1123はいずれも自然面側からの打撃によって全体形を楕円もしくは円形に成形している。1121および1122には自然面側にも調整が加えられており、厚さの調整に着手したものと考えられる。1123は自然面はそのままで、周縁部からの調整によって器形を整えるとともに器厚の調整をしているが、中央部に僅かな自然面が残され、加工が完了していない。扁平な小円礫を素材にしているものと考えられる。1124は楕円形の小礫から打ち剥がされた剥片で、形状を変更するような

明確な加工は見られないが、上下に僅かながら小剥離が観察できる。細部調整前の素材剥片とみられる。

2）石　　錐（図版203　1125～1128）

1125はチャート製で、表裏とも素材の剥離面を大きく残し、周縁部の連続調整によって成形されている。先端部には、使用（回転）によって生じたと思われる摩滅が観察できる。1126・1127は珪質頁岩製で、いずれも入念な細部調整によって全体を加工し、先端部を作出している。形態には相違があるが、両者とも一側縁がやや張り出すという形態的特徴がある。1128は珪質頁岩製で、突出した先端部を欠いている。表面下部には自然面を、裏面には主剥離面を残しており、小円礫から剥離された自然面を有する剥片を素材とし、先端部を作出するための調整に終始したことを示唆している。

3）石　　匙（図版203　1129～1130）

1129は珪質頁岩製で、裏面中央部に素材の剥離面を一部残すが、ほぼ全体に調整がみられる。刃部は表裏両面からの調整によって鋭利に加工されている。1130はガラス質黒色安山岩製で、上部のつまみ部分および一側縁に調整が見られる。素材剥片の打点付近は未調整で、刃部の加工も部分的である。よって成形途中の可能性もある。

4）不定形剥片石器（図版204　1131～1137）

1131は珪質頁岩の剥片を素材とし、下部に折断面、表面左側縁および裏面左側縁に部分的な細部調整が見られる。1132は形質頁岩のやや厚手の剥片を用い、表面左側縁に裏面からの調整を連続させ、右側上部の節理面と鋭角に交差する尖頭部を作出し、右側縁下部にも表裏両面からの調整が見られる。1133は自然面を大きく残す頁岩の剥片を素材とし、打点付近からの斜めの切断面と鋭角に交差する尖頭部を作出している。両側縁は、裏面からの調整によって縁辺部の鋭利さを減じ、かつ器形を整えている。尖頭部左側縁はやや抉れており、裏面には微細な剥離も観察できる。よってやや大型の錐として機能していた可能性がある。1134は節理面の発達した横型剥片を素材とし、図の下半部に、基部の成形を想起させるような面的な調整が集中している。節理面を大きく残す上半部は、先端に向かって徐々に厚さを減じ、鋭利な縁辺を有していたと考えられるが、現状では折れ面となっている。また表面右側縁上部には樋状剥離が観察される。1135は側縁に自然面を残す珪質頁岩の剥片を用い、表面上部および裏面左側縁に調整が集中している。これらの調整は、剥離面と自然面が交差する角の鋭利さを除去するために行われたものと考えられる。1136は頁岩の縦長剥片を素材とし、尖頭部を作出しているように見える。1137は頁岩のやや大型厚手の剥片を用い、折断によって全体形をほぼ四角形に成形し、下端部に裏面からの調整を加えている。

5）磨　製　石　斧（図版204・128　1138～1152）

破片を含めた総計は32点であり、このうち15点の図を掲載している。弥生時代・縄文時代の石斧が混在しており、前者と考えられるものが6点（1138～1143）存在する。

1138～1140は太型蛤刃石斧である。1138・1139は石材がともに閃緑岩で、法量にも違和感がなく、同一個体の可能性がある。1138は折損面等から剥離が加えられており、二次利用が意図されたものと思われる。側面の面取りは刃縁近くでのみ明瞭である。1139には広く敲打整形痕が残り、これにも折損後

の剥離がなされている。1138・1139・1143の石材は長野県榎田遺跡の報告［町田1999］で「緑色岩類」と呼称される輝緑岩・玄武岩に相当するものであろう。1140は折損面に剥離と敲打が加えられ、正面の剥離面上部・剥離面の周縁には研磨がなされる。さらに刃部の再生を意図した剥離が加えられ、原形とは異なる別の石器への転換が意図されている。整形剥離痕が右側面・裏面に残る。正面の傷は主にガジリ痕（鉄製農耕具等の打撃による傷痕か）である。

折損面の加工は小型の偏平片刃石斧（1141・1142）でも認められる。2点はいずれも頭部の端面が研磨されており、最終的には寸詰まりの形態で使用されている。長さと幅がほぼ等しい石斧は、破損したそれの再利用ということに加え、定型的なトゥールとして存在している可能性もある。1141は両面に擦切痕を残す。1142は両面に整形剥離痕が広く残る。1143は頭部を欠くが偏平片刃石斧であろう。ガジリ痕が密に見られる。

1144～1152の磨製石斧およびその未成品は、縄文時代の所産と思われる。1150は早・前期、1144～1146は中期、1147・1149・1152は後・晩期であろうか。1146は敲打具として転用されている。1147は頭部が剥離と敲打によって平坦に再加工される。1148には刃部の再生を意図した剥離が加えられる。ガジリ痕も多い。器面が著しくザラつく1149は、敲打整形によるのではなく、石材自体の風化であろう。1150は礫から素材剥片を得た整形剥離段階の未成品である。研磨の痕跡は認められない。14は偏平礫を直接磨きこんだものであろう。裏面と頭部に礫面が残る。

6）磨　石　類（図版206～218　1153～1168）

敲石・磨石・凹石の類を一括する。凹陥を除く面的な敲打痕・磨耗痕は、敲き潰しと磨り潰しが複合したと見られる状況で敲石・磨石のいずれとも言い難く、また、凹陥は敲打痕・磨耗痕と複合して一つの石器に併存するものがあるため、凹石という限定的な名称を用いることが不適当であり、これらを磨石類と総称する。掲載したほかに20点程度が出土している。磨製石斧と同様、縄文時代・弥生時代のものが混在しており、両者を明瞭に判別できない。

1153～1156は弥生時代後期に多く見られ、通例「敲石」と報告されるものである。俵形を呈し、礫の長軸上両端を使用する。新潟県域の類例は、上越市裏山遺跡［小池ほか2000］の3点などが存在する。1153は硬砂岩、1154は無斑晶質安山岩であり、火山岩を多用する縄文時代の磨石類とは異質である。

1160は軽度に珪質化した頁岩を用いており、これのみ裏面中央部と側面に平滑な摩耗面をもつ。1164は正面に厚さ1㎜前後の炭化物が付着しており、全面的に被熱赤化している。

6面のすべてに大形の凹陥を持つ1168は、他の磨石類とは性格の異なるものであろう。凹陥は敲打によって形成されたものであろうが、他の敲打痕に比べ滑らかである。1161・1167のガジリ痕は面が新鮮ではなく、古い時期のものと見られる。これは他の石器にも共通することで、弥生時代の居住や中世の城館造営によって生じたものと思われる。

7）石　　錘（図版218　1169～1174）

偏平円礫の両端を打ち欠いた石錘は弥生時代にも存在し、やはり時代を特定できない。計17点が出土している。石材は32が頁岩、不掲載の1点が泥岩、その他は安山岩である。

8）砥石様の石製品（図版218　1175～1177）

摩耗面を有する用途不明の石器・石製品が3点ある。2点が接合している1175は下縁が弧を描くような形状で、断面が尖っているため、環状石斧様の石器も想定できるが、推定直径が約19㎝と大形であること、石材が凝灰岩であることから砥石であろうか。磨製石斧に形状が近似する1167も凝灰岩で、砥石であろう。1177は広い摩耗面を持つが、石材は黒色系の頁岩であり、砥石とは断定できない。石包丁に類似した石器であろうか。下端には回転運動による穿孔があり、右側縁には抉りとるような剥離が加えられる。

9）石　　核（図版209　1178～1182）

1178は珪質頁岩の厚手の剥片を用いている。主に左右の側面からの剥離作業が顕著であり、下部の平坦な剥離面を打面とするものはごく僅かである。石核としたが、これ自体に対する加工ともとれる調整が見られることから、加工途中の剥片と見ることも可能であろう。1179は、1178と同様に珪質頁岩の剥片を用いている。上部および左右の面から比較的薄手の剥片が採られている。1180は、下部に自然面を有するガラス質黒色安山岩の厚手の剥片を用いている。やや幅広の剥片が採られていたことが分かる。1181は、ほぼ拳大の頁岩円礫を素材とし、上部を打面とする剥片剥離作業が繰り返されている。下部は原石の形状を残している。表裏上面に比較的大きな剥離面が残され、階段状の剥離がほぼ直線上に並ぶことから、両面加工礫器の製作途中と見ることも可能である。1182は珪質頁岩の大型の石核である。重量は1.2kgを超えている。左面や裏面には表面が荒れた節理面が見られ、残された剥離面の形状は様々である。下面が比較的平坦で上面がやや尖ることから、最終的には下面を打面とする石核への調整段階であると思われる。

10）玉作関係資料（図版210・211　1183～1198）

小玉1点、管玉（破損品を含む）3点、勾玉未成品1点、玉未成品7点、翡翠原石4点を含めた。

小玉（図版210　1183）　白濁した淡青色のガラスを素材とする。上下の穿孔部付近に平坦部を作り出すための擦痕が僅かに見られるが、全体的には良く磨かれた平滑な仕上げとなっている。

管玉（図版210　1184～1186）　石材はすべて緑色凝灰岩である。1184は非常に細く、表面の仕上げも良好である。1185は上部に若干の擦痕がみられ、下部は一部欠けている。表面の仕上げは丁寧で、成形痕はほとんど見られない。1186は下部をやや大きく破損している。上面の穿孔部付近には平面仕上げの擦痕が若干観察できる。

玉未成品（図版210・211　1187～1193・1196）　石材はすべて緑色凝灰岩である。1187は上部の穿孔が未完成で貫通していない。右側縁に剥離による調整が見られ、抉れ部の加工をしている。他の面には擦りによる成形痕が観察できる。1188は表面下部左側と裏面右側に擦り切り具による細い溝状擦痕があり、これらに沿って打ち割られている。全体形はほぼ五角形を呈する素材である。1189はいわゆる角柱状素材で、裏面右側に擦り切り痕が認められる。表面には小剥離による調整が密集し、成形に着手していることが分かる。1190はほぼ三角形を呈する素材で、表面上部および裏面左側に擦り切り痕が見られる。1191も角柱状の素材で表面は小剥離によって成形が進められている。1192も角柱状素材で、右側面両端に擦り切り痕がある。1193は剥片状素材で、右側面にわずかながら調整が観察できるが、粗割りの成

形には至っていない。1196は全体に緑色が濃く、剥離によって全体が角柱状に粗成形されている。

石鏃と同様、製作に伴う砕片や剥片が乏しいため、原石から成品にいたる一貫した作業を認めることは検討を要する。素材剥片あるいは半成品状態での獲得、それらの流通・集散に関わる一時保有などを考慮する必要があろう。玉未成品の存在は必ずしも玉作遺跡であることを意味しない。

原石（図版210・211　1194・1195・1197・1198）　石材はすべて翡翠である。1194はほぼ三角柱状にうち割られたもので、緑色部の色は淡く散在する。上部には自然面を残している。1195は剥片で、緑色部の色は淡い。1197は資料の上部に緑色部がまとまっており、剥片が採られている。他の箇所には緑色部分があまり存在しない。表面の一部に磨り面が認められる。整形の工程を経ていない原石塊が研磨される例は裏山遺跡［小池ほか2000］にもあり、研磨は石材の状態を知るための行為かと推測する。1198は小円礫を打ち欠いたもので、全体に緑色は淡い。

11）玉作工具類（図版211～213　1199～1210）

ここには敲き石1点、弾み車1点、擦り切り具2点を含めた。

敲き石（図版211　1199）　円盤状の珪質頁岩を用いている。表面は経年変化による風化が顕著である。裏面の上下に比較的大きな剥離があり、同じく上下の周縁部に小剥離・敲打痕が集中している。

弾み車（図版211　1200）　石材は砂岩で、資料は2点接合している。上部の穴は貫通せず、下部の穴を貫通させている。上部の穿孔途中に破損し、成形し直したものとみられる。

擦り切り具（図版211　1201・1202）　1201は節理が発達した頁岩の板状剥片を素材とし、薄くなった右側縁に上下方向の擦痕が認められる。上部は欠損している。1202は硬質凝灰岩の薄い剥片を用い、外彎する右側面に上下方向の擦痕が見られる。上下とも欠損している。

砥石（図版212・213　1203～1210）　1203・1205は軽石を用いた砥石である。1203は表裏両面に広い磨り面があり、側面には僅かながら浅い溝状の擦痕が認められる。1205は表裏に加えて右側面にも磨り面が見られるが、方向の違う幾つかの面で構成されるため砥石自体の成形痕と考えられる。細い溝状の擦痕が僅かに見られる。これらは極めて軟質の石材であることから、玉などの最終仕上げ段階、あるいは鉄器の研磨に用いられたものであろう。1204は砂岩を用いている。表面には明確な2条の溝状擦痕が認められる。1206は砂岩を用い、表裏に広い磨り面がある。表面には幅の異なる2条の溝状擦痕が認められる。1207は表面に広い磨り面があり、ほぼ同じ幅の明確な2条の溝状擦痕がある。石材は砂岩である。1208は表面に磨り面があり、幅・方向の異なる6条の溝状擦痕が見られるが、表面は被熱に起因すると思われる黒色付着物で覆われている。上面および左側面には成形痕と見られる若干の線状痕が、裏面には数条の短い溝状擦痕が認められる。石材は砂岩である。1209は、上部から左側面にかけて外形線が弧状をなすことから、大型の石皿破片を砥石として転用した可能性がある。表裏両面に磨り面があるが、石皿の名残であろう。溝状擦痕は表面に2条、裏面に1条認められる。石材は砂岩である。1210は層状節理の発達した砂岩を用いている。表面に長さの異なる溝状擦痕が見られ、裏面は大きく磨かれている。裏面中央には浅いながらも敲打痕が集中しており、若干の敲打を伴う作業の台石、もしくは石皿として機能していた可能性がある。

12）石　　棒（図版213　1211）

1点のみ出土している。頭部周縁には器面の剥落が見られる。

3　遺物からみた遺構の年代

A　上　　層

遺物の年代決定に際しては、本章２－Ａと同じように珠洲は吉岡康暢の編年［吉岡1994］を主に用い、吉岡編年の細分案が示されているⅣ期については浜木さおりの編年案［浜木1993］を用いる。輸入陶磁器については、青磁は上田秀夫［上田1982］、白磁は横田健次郎・森田　勉［横田・森田1978］と森田勉［森田1982］、青花は小野正敏［小野1982］、瀬戸・美濃は藤沢良祐の編年［藤沢1986・1991・1997］、漆器・土師器皿については品田高志の編年［品田1990・1991］を主に用いる。

溝

中・大型の溝　溝の最大幅が１ｍを超えるものを対象とする。第77図には遺構内から出土した最新遺物を中心に土器・陶磁器類を示した。99SD1280からは珠洲すり鉢（629）が出土している。底部外面が静止糸切り、内面には卸目が確認できないことから、吉岡編年Ⅰ期かⅡ期（12世紀後半～13世紀）に比定できる。したがって、99SD1280の埋没は12世紀後半～13世紀を上限とする時期と考えられる。

99SD1936からは青磁碗（580）が出土している。片切彫りによる鎬蓮弁文がみられ、年代は13世紀後半と考えられる。したがって、99SD1936の埋没は13世紀後半を上限とする時期と考えられる。

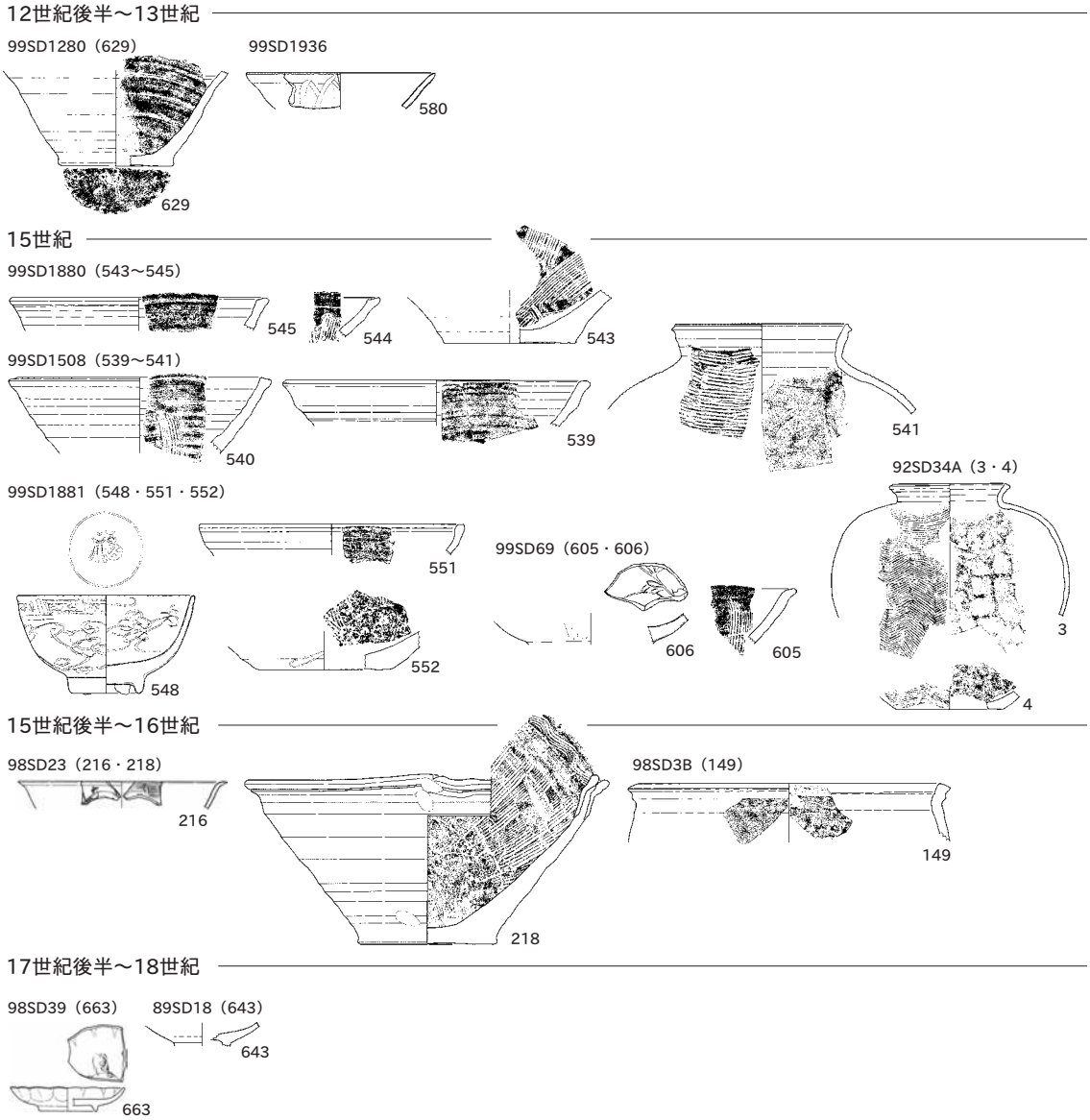
99SD1880からは珠洲すり鉢（543～545）が出土している。544・545は吉岡編年Ⅴ期（15世紀前半）に比定できる。543は口縁部を欠くが、太い卸目が比較的密に入ることからⅤ期前後の可能性が高い。99SD1508からは珠洲すり鉢・壺Ｔ種（539～541）が出土している。３点とも吉岡編年の珠洲Ⅳ期（14世紀）と考えられ、まとまりがみられる。99SD1881からは青磁碗・珠洲（548・551・552）などが出土している。548は口縁部に雷文が巡る青磁であり15世紀前半頃のものと考えられる。551は吉岡編年Ⅴ期（15世紀前半）に比定できる。99SD69からは珠洲・青磁（605・606）が出土している。605は珠洲すり鉢であり、吉岡編年Ⅴ期（15世紀前半）に比定できる。92SD34Aから珠洲壺Ｔ種（３・４）が出土している。同一個体と考えられ、年代は吉岡編年のⅥ期（15世紀後半）と考える。

従って、99SD1880・69の埋没は15世紀前半を上限とする時期、92SD34Aの埋没は15世紀後半を上限とする時期と考えられる。99SD1508は主に14世紀の遺物が出土し、99SD1881は15世紀の遺物が出土しているが、第Ⅳ章－４で記述したように99SD1508・1881は99SD1880を切っていることから15世紀前半に後続する時期となる。

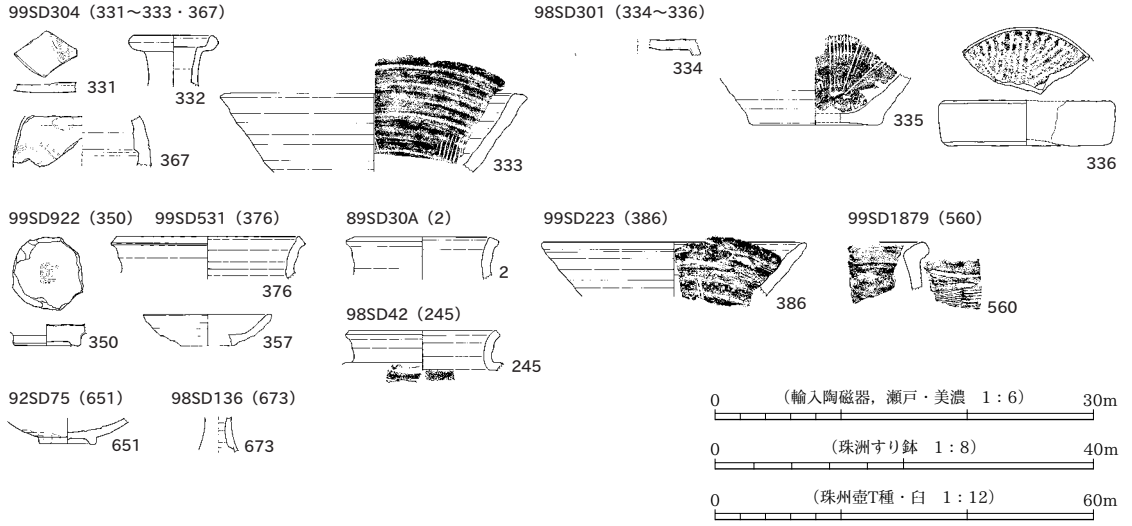
98SD23からは青花・珠洲（216・218）などが出土している。216は小野分類の皿Ｂ群に分類でき、年代は15世紀後半～16世紀前半頃と考えられる。218は珠洲すり鉢であり吉岡編年Ⅵ期（15世紀後半）のものと考えられる。149は98SD3出土の越前甕であり、年代は16世紀と考えられる。したがって、98SD23の埋没は15世紀後半～16世紀前半を上限とする時期、92SD3Aの埋没は16世紀を上限とする時期と考えられる。

663は98SD39出土の肥前系磁器で大橋編年Ⅲ期（17世紀末～18世紀前半）のものであろう。643は89SD18の覆土上層出土の肥前系陶器であり、大橋編年Ⅱ～Ⅲ期（17世紀後半～18世紀前半）である。したがって、98SD39・89SD18の埋没は17世紀後半～18世紀前半を上限とする時期と考えられる。

小 型 の 溝　第78図に主な遺物を図示した。99SD304からは珠洲・瀬戸・美濃・青磁（331～

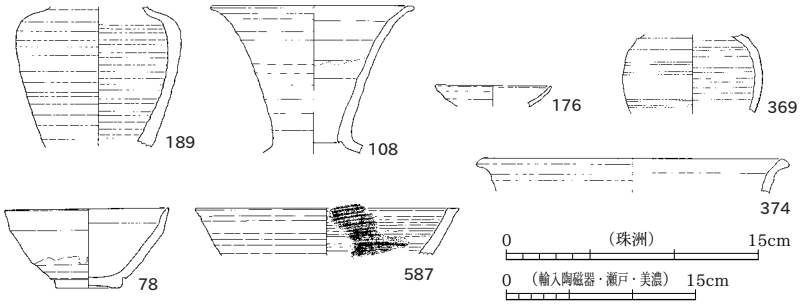


第77図　溝の主な出土遺物（1）



第78図　溝の主な出土遺物（2）

333・367）が出土している。332・367は瀬戸・美濃であり、ともに藤沢編年の中期様式（12世紀末～14世紀中葉）の中に収まるものであろう。333は吉岡編年のⅣ期前半（14世紀前半）のものと考えられる。従って99SD304の埋没は14世紀を上限とする時期と考えられる。



第79図　地下式坑・（長）方形土坑から出土した陶磁器類

99SD301からは青磁盤・珠洲すり鉢・粉挽き臼（334～336）が出土している。335は卸目が比較的密に入ることから吉岡編年Ⅴ期（15世紀前半）を前後する時期の可能性が高い。また粉挽き臼は15世紀以降多くみられるようになる。したがって、99SD301の埋没は15世紀を上限とする時期と考えられる。

99SD531・89SD30・98SD42からは珠洲壺Ｔ種（2・245・376）、99SD233からは珠洲すり鉢（386）、99SD1879からは珠洲甕（560）、99SD96からは瀬戸・美濃縁釉小皿（357）、98SD136・92SD75からは肥前系磁器が出土している。376は吉岡編年Ⅳ期（14世紀）、2・245・560は吉岡編年Ⅴ期（15世紀前半）、386は吉岡編年Ⅵ期（15世紀後半）と考えられる。357は藤沢編年後Ⅳ期～大窯Ⅰ期（15世紀後半～末）、651は大橋編年Ⅱ～Ⅲ期（17世紀後半～18世紀前半）と考えられる。673は小片のため確定的でないが大橋編年Ⅲ期（17世紀末～18世紀前半）以降の可能性が高い。

従って、99SD531の埋没は14世紀を上限とする時期、89SD30・98SD42・99SD1879の埋没は15世紀前半を上限とする時期、99SD233・96の埋没は15世紀後半～末を上限とする時期、92SD75の埋没は17世紀後半～18世紀前半を上限とする時期、98SD136の埋没は18世紀以降と考えられる。

墓坑と考えられる土坑・地下式坑

土器・陶磁器　　第79図には墓坑と考えられる土坑・地下式坑から出土した陶磁器を示した。これらの遺構から出土した土器・陶磁器類は少なく、明らかに時期が異なると考えられる弥生時代から古墳時代の土器を除けば、図化できたものは示した7点で全てである。

189は地下式坑C4類99SK1708から出土した珠洲壺Ｒ種であり、口縁部を欠くため細かな時期は不明であるが、肩部の張りなどから考え吉岡編年のⅣ～Ⅴ期（14世紀～15世紀前半）と考えられる。108は地下式坑B1類99SK755と同A1類99SK1278から出土した瀬戸・美濃花瓶であり、藤沢編年の後Ⅱ期（14世紀末～15世紀初頭）に比定できる。176は地下式坑A1類99SK2322出土の白磁皿であり、14世紀後半から15世紀初頭に多くみられるものである。374・396は99SK139からの出土である。389は瀬戸・美濃水注、374は瀬戸・美濃底卸目皿であり、389は藤沢編年の中Ⅳ期～後Ⅱ期（14世紀中葉～15世紀初頭）頃のもの、369は中Ⅱ期（14世紀前葉）のものと考えられる。5点とも覆土上層からの出土であり、天井崩落後の凹地に廃棄されたと思われる。従って、99SK139・775・1278・1708・2322は14世紀～15世紀以前の遺構の可能性が高い。

78は（長）方形土坑C5類99SK1276から出土した瀬戸・美濃天目碗であり、藤沢編年の後Ⅳ期新（15世紀後半）と考えられる。遺構床面直上からの出土であり、完形であることから副葬品と考えられる。従って99SK1276は15世紀後半以降の遺構と考えられる。これは六道銭の中に永楽通寶が含まれること

銭名	初鋳年（西暦）	位置		合計
		尾根A	尾根B	
開元通寶	621年	5	1	6
開元通寶	960年		1	1
至道元寶	995年	1	1	2
咸平元寶	998年		1	1
祥符元寶	1009年	1	3	4
祥符通寶	1009年	1	1	2
天禧通寶	1017年		1	1
明道元寶	1032年	1		1
景祐元寶	1034年	1	1	2
皇宋通寶	1038年	4	3	7
至和通寶	1054年		1	1
嘉祐元寶	1056年	3	1	4
治平通寶	1064年	1	1	2
熙寧元宝	1068年	7	5	12
元豊通寶	1078年	7	2	9
元祐通寶	1086年		4	4
紹聖元寶	1094年	3	1	4
聖宋元寶	1101年		2	2
政和通寶	1111年	2	1	3
洪武通寶	1368年	1	2	3
永楽通寶	1408年	2	1	3
不明	－	15	1	16
合　計		55	35	90

第30表　遺構出土銭貨の構成（1）

銭名	初鋳年（西暦）	分類								合計
		地下式坑	土坑C4類（長）方形	土坑C5類（長）方形	土坑E1類（長）方形	土坑E2類（長）方形	土坑E4類（長）方形	（楕）円形土坑	1号塚	
開元通寶	621年	2		1				2	1	6
開元通寶	960年		1							1
至道元寶	995年							1	1	2
咸平元寶	998年								1	1
祥符元寶	1009年		2	1				1		4
祥符通寶	1009年						1	1		2
天禧通寶	1017年								1	1
明道元寶	1032年							1		1
景祐元寶	1034年	1	1							2
皇宋通寶	1038年	2		1	1				3	7
至和通寶	1054年		1							1
嘉祐元寶	1056年	2		1		1				4
治平通寶	1064年	1							1	2
熙寧元宝	1068年	3	2	2		1		2	2	12
元豊通寶	1078年	3	1			1		3	1	9
元祐通寶	1086年		2				1		1	4
紹聖元寶	1094年	1			1	1	1			4
聖宋元寶	1101年								2	2
政和通寶	1111年	1	1			1				3
洪武通寶	1368年			1	1				1	3
永楽通寶	1408年		1	1				1		3
不明	－	4	1	2	1	4		4		16
合　計		20	13	10	4	9	3	16	15	90

第31表　遺構出土銭貨の構成（2）

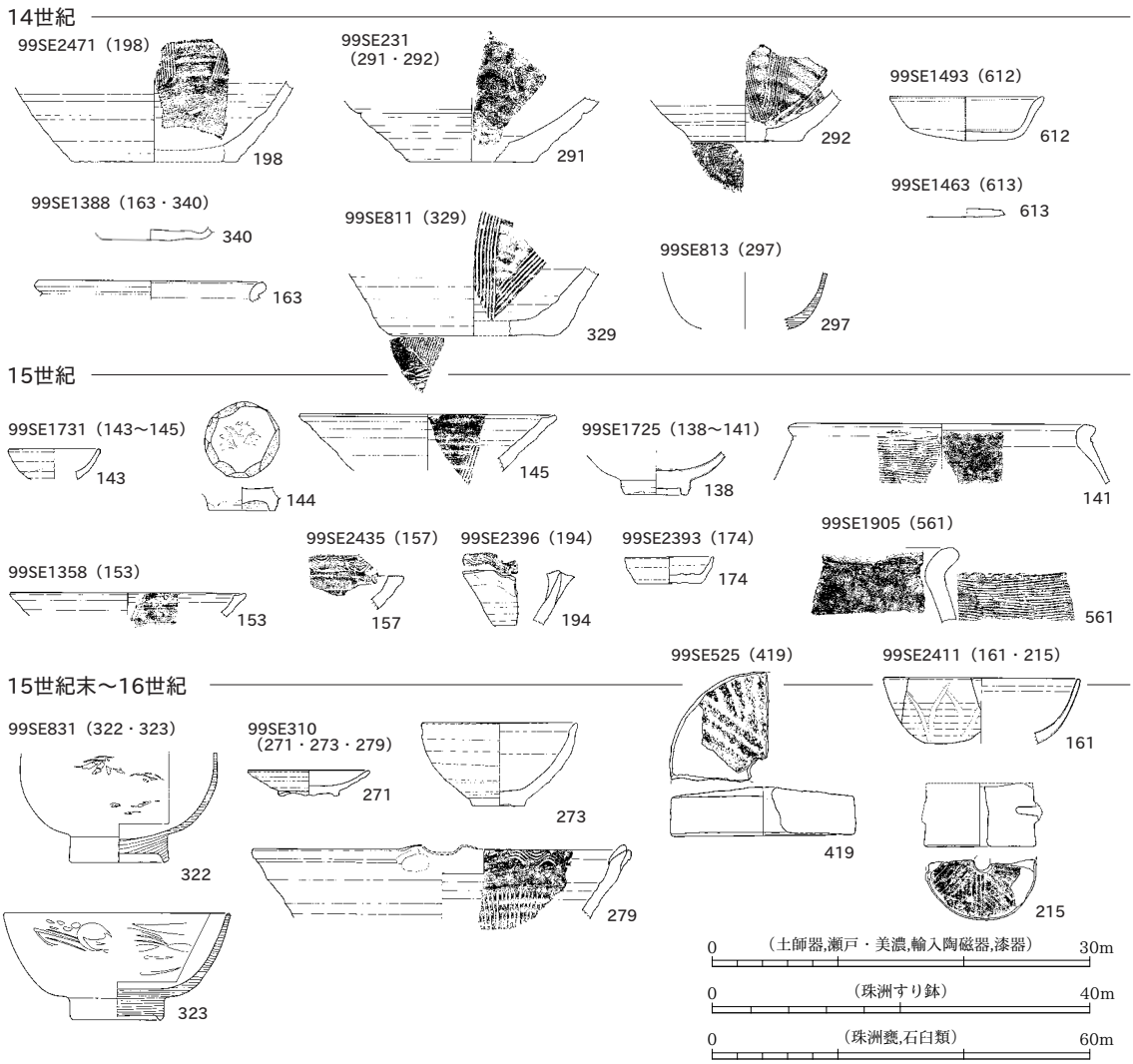
とも矛盾しない。587は（長）方形土坑C4類99SK1737出土の珠洲すり鉢であり、吉岡編年Ⅳ期前半（14世紀前半）のものと考えられる。覆土からの出土であり、土坑を埋める際に混入した可能性が高い。したがって、99SK1737は14世紀前半以降の遺構の可能性が高い。

銭　　貨　第29表には遺構出土の六道銭と思われる銭貨の構成を示した。北宋銭が主体を占め、最新銭は永楽通寶（初鋳1408年）である。これは尾根Ａ・尾根Ｂとも出土している。したがって、尾根Ａと尾根Ｂは15世紀以降のある時期まで墓地としてともに利用された可能性が高い。

第30表は遺構種類別の銭貨の構成を示した。地下式坑・（長）方形土坑E2類の最新銭は政和通寶（初鋳1111年）、（長）方形土坑C4・C5類と（楕）円形土坑の最新銭は永楽通寶（初鋳1408年）、（長）方形土坑E1類と１号塚の最新銭は洪武通寶（初鋳1368年）、（長）方形土坑E4類の最新銭は紹聖元寶（初鋳1094年）である。従って、地下式坑は長方形土坑C4・C5・E1類・（楕）円形土坑に先行する可能性が高く、地下式坑の一部は12世紀前半以降、１号塚・（長）方形土坑C4・C5・E1類の一部は14世紀後半～15世紀以降の年代となる。（長）方形土坑E2・E4類の最新銭は地下式坑の最新銭と同じか古く、地下式坑に先行するとも考えられるが、第Ⅳ章－４での遺構の切り合い関係による検討では、地下式坑に後続するものが大半であり、対象とした銭貨の点数が少ないことが、（長）方形土坑E2・E4類出土の最新銭が地下式坑の最新銭と同じかこれより古いという結果が生じさせたと考えられる。

井　　戸

第80図には遺構内から出土した最新遺物を中心に、井戸出土の主な遺物を示した。198・292・329は珠洲すり鉢であり、口縁部を欠くために確実ではないが、見込みに比較的疎らな卸目がみられることか



第80図　井戸の主な出土遺物

	地下式坑	土坑C4・5類	土坑E3・4類	大・中型溝	小型溝	井戸
12世紀				99SD1280		
13世紀				99SD1936		
14世紀					99SD304・531	99SE231・811・1388・1463・2471
15世紀				99SD1880・69 99SD1508・1881 92SD34A 98SD23	89SD30，98SD42 99SD301・1879 99SD96・233	99SE1358・1725・1731・1905・2393・2396・2435 99SE310
16世紀						99SE831
17世紀				98SD39 89SD18	92SD75 98SD136	
18世紀						

第32表　出土遺物から推測される遺構の埋没年代

ら、いずれも吉岡編年Ⅳ期（14世紀）に比定できる。340・612・613は手づくね成形の土師器皿であり、品田編年Ⅲ期（14世紀）に比定できる。したがって、99SE231・811・1388・1463・1493・2471の埋没は14世紀を上限とする時期と考えられる。

145・153・157・194は珠洲すり鉢であり、いずれも吉岡編年Ⅴ期（15世紀前半）に比定できる。141・561は珠洲甕であり、これも珠洲Ⅴ期（15世紀前半）に比定できる。143は白磁小碗であり森田分類のＤ類に比定でき、年代は14世紀後半～15世紀になるものと思われる。138は青磁碗であり上田分類のＥ類に比定でき、年代は15世紀前半頃と考えられる。174は土師器皿でありロクロ成形で底部外面には回転糸切りで品田編年４期に比定でき、年代は15世紀と考えられる。したがって、99SE1358・1725・1731・1905・2393・2396・2435の埋没は15世紀を上限とする時期と考えられる。

271・273・279は99SE310からの出土である。271は白磁皿で、森田分類のＤ類に比定でき、14世紀後半～15世紀と考えられる。273は瀬戸・美濃天目碗であり、藤沢編年の後Ⅰ期（14世紀末）に比定できる。279は珠洲すり鉢であり吉岡編年Ⅴ期（15世紀後半）に比定できる。したがってSE310の埋没は15世紀末を上限とする時期と考えられる。322・323は99SE831出土の漆器椀であり品田編年Ⅴ群（15世紀末～16世紀）に比定できる。従って、99SE831の埋没は15世紀末～16世紀を上限とする時期と考えられる。これら、地下式坑・土坑・溝・井戸の遺物から推定される年代をまとめると第31表となる。

Ｂ　下　　層

弥生時代後期は滝沢規朗の編年［滝沢2000］、古墳時代は川村浩司の編年［川村2000］、奈良・平安時代は梯子谷窯跡の編年［春日2001］を用い出土土器から遺構の年代の一端を示したい。

竪　穴　建　物

第81図に竪穴建物から出土した主な遺物を示した。

98SI12（819～823）　高杯は２点出土しており、820は後述する92SI105出土のものより口縁部の立ち上がりがきつく古い様相が見られる。釜（819）も同１期のものとしても大きな矛盾は無い。従って、98SI12は滝沢編年１期の建物跡である可能性が高い。

89SI20（856～862）　釜（856）は滝沢編年１期の資料である糸魚川市後生山遺跡３号住、同２期（古）の資料である上越市裏山４号住居に類似した資料が見られる。また釜（858・859）も同２期（古）の裏山遺跡11号土坑に類例がある。従って、89SI20は滝沢編年１～２期（古）の建物跡と考えられる。

92SI105（863～870）　釜（863・864）は滝沢編年２期（古）の裏山遺跡11号土坑に類例があり、高杯（867）も同２期（古）裏山遺跡４号住の高杯に類似する。従って92SI105は滝沢編年２期（古）と考えられる。

92SI102（816～818）　高杯は２点出土しており、816は92SI105出土のものより口縁部の立ち上がりがきつく古い様相が見られるが、817はいわゆる東海系の高杯であり、川村編年１～４段階に多く見られる。釜（818）は同１・２段階に多い。従って、818は川村編年の１・２段階の建物跡である可能性が高い。

98SI98（825～829）　ゆるい有段口縁の鉢（825）、有段口縁の鉢か小型の釜（826）、単口縁の鉢か小型壺（827）があり、釜（828）は「く」字口縁で単部が丸い。有段口縁の鉢・小釜は川村編年の５段階にはほとんど確認できなくなり、口縁単部の丸い「く」字口縁釜は同３段階以降増加傾向にある。従って、

98SI98は川村編年の３・４段階の建物跡である可能性が高い。

99SI92（776～780）　小型器台（776）は川村編年の１段階から５ないしは６段階までは存在する。「く」字口縁の小型の鉢（777）は同４段階以降増加する。従って、98SI91は川村編年４～６段階の建物跡である可能性が高い。

99SI1432（785～791）　畿内系の屈折脚の高杯（758）は川村編年５・６期に限定できるものであり、「く」字口縁で端部に狭い面をもつ釜（786・787）と有孔鉢（791）はこの頃としても矛盾は無い。従って99SI1432は川村編年５・６段階の住居跡と考えられる。

99SI1851（765）　図化できた資料は畿内系の二重口縁壺１点のみである。頸部は比較的太く、川村編年の５・６段階のものである可能性が高い。

92SI102B（677・678）　胴部に張りのない長釜の口縁部（677）とその底部（678）である。川村編年14段階（6世紀後半）～梯子谷編年８期（9世紀前半）までの時間幅が考えられる。

92SI121（675・676）　大型で深身の須恵器有台杯（675）と無台杯（676）が確認できる。675・676とも在地産だが、器壁は薄く、676の体部の開きは大きい。梯子谷編年８期（9世紀前半）と考えられる。

墳　　墓

第82図に古墳・周溝墓から出土した主な土器を示した。

１号周溝墓（839～854）　有段口縁の釜（851）・「く」字口縁の釜（853）・東海系の可能性が高い台付き釜（855）・近江系の鉢（848）・器台（849・850）・高杯（839～843）などが確認できる。県内の類似資料としては上越市山畑遺跡７号住居出土土器［上越市1979］があげられる。高杯（859）は杯部の立ち上がりが急で、裏山遺跡７号住居や92SI105よりは先行した様相が見られる。滝沢編年１期の新しい時期か同２期（古）の古い時期のものと考えられる。

３号周溝墓（882）　高杯の脚部が１点出土している。滝沢編年１～２期（新）にかけて普遍的にみられる棒状脚である。

２号周溝墓（782～784）　釜の底部（782・783）と器台（781・784）が出土している。781・784はやや小型化した器台であり滝沢編年３～４期にかけて多くみられるものである。

２号墳（832・833）　壺が出土しており、832は833の底部と考えられる。二重口縁壺の可能性が考えられる。頸部は太く川村編年５・６段階のものである可能性が高い。

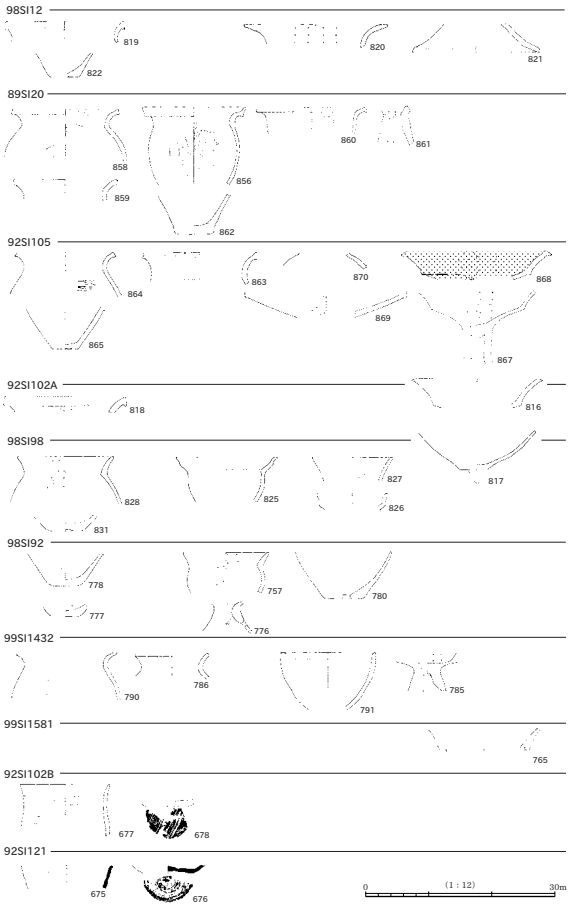
その他の遺構

第83図にその他の遺構から出土した主な土器を示した。

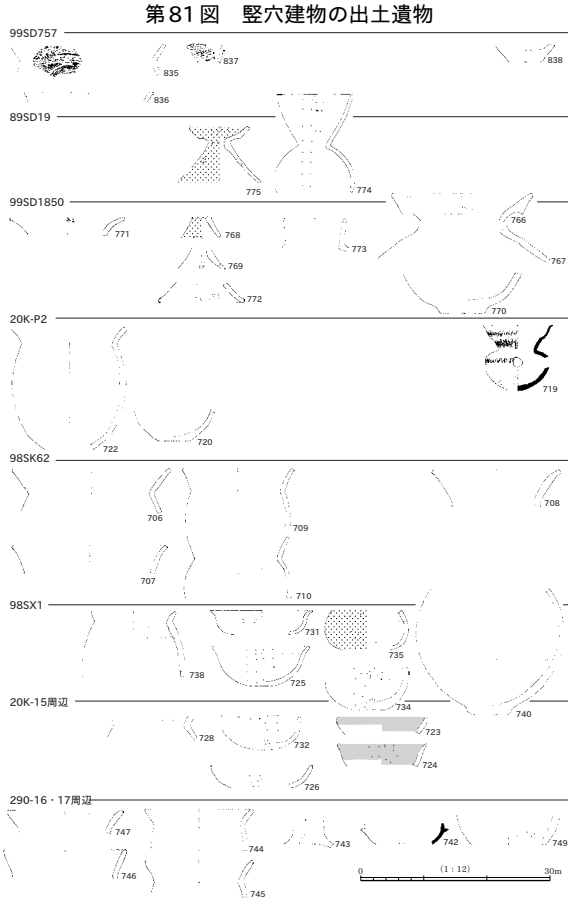
99SD757（835～838）　天王山系土器（835～837）と底部（838）がある。天王山系土器は滝沢編年１期から２期の土器と伴う場合が多い。

89SD19（774・775）　口縁部の長い小型の壺（774）は川村編年１～５段階に確認でき、有段口縁の小型器台（775）は同１段階に多い。従って川村編年１段階を中心とする時期のものと考えられる。

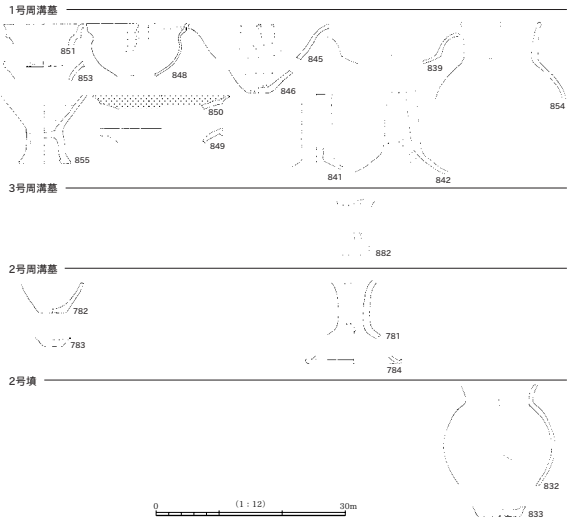
98SX1（731～741）　赤彩を行う小型壺（735）が確認でき、黒色土器が確認できないことから、後述する20K－15周辺に先行し、20K－ピット２とは同時期かやや先行するものと考えている。735が混入でないとすれば、川村編年の12・13段階頃のものと考えられる。



第81図　竪穴建物の出土遺物



第83図　その他の下層遺構出土遺物



第82図　墳墓の出土遺物

時期		竪穴建物	墳墓	その他
滝沢	1期	89SI20・98SI12	1号周溝墓 2号周溝墓	99SD757
	2（古）期	92SI102		
	2（新）期			
	3期		3号周溝墓	
	4期			
川村	1段階	92SI102		89SD19
	2段階			
	3段階	98SI98		
	4段階			
	5段階	99SI1432　92SI92	2号墳	
	6段階	99SI1851		
	7段階			
	8段階			
	9段階			
	10段階			
	11段階			
	12段階			98SX1
	13段階			
	14段階			20K-P2　98SK62
	15段階			20K-15　29O-16・17
7世紀				
梯子谷	1期			
	2期	99SI102B		
	3期			
	4期			
	5期			
	6期			
	7期	92SI121		
	8期			
	9期			

第33表　主な下層遺構の年代

98SK62（706～710）　土師器長釜（706・707）は口縁部と胴部が接合する例が少ないが、底部は安定した平底のものが多く、長胴化がある程度進行したものである可能性が高い。川村編年の14段階を中心とする時期のものと考えられる。

20K－ピット2（719～722）　須恵器甕（719）は陶邑編年［田辺1981］のTK23型式（5世紀後半）のものと考えられる。須恵器の型式を直接川村編年に当てはめるならば11段階になるが、川村編年11段階の柏崎市戸口遺跡22～23ライン出土の釜と土師器長釜（722）を比較すると722の方が長胴化が進行している。722は14段階とされる上越市一之口遺跡SI113に類例が有り、14段階まで下る可能性が高い。

20K－15周辺（723～730）　釜（728）、底部（729・730）が確認できる。土師器杯（725）は川村編年14段階に比定される一之口遺跡SI113、黒色土器杯（723・724）は同15段階に比定される一之口遺跡SI112などに類例があり、この頃に位置づけられるものであろう。

29O－16・17（744・745）　須恵器杯身は陶邑編年［田辺1981］のMT15～TK10（5世紀末～6世紀前半）である。須恵器の型式を直接川村編年に当てはめると13・14段階となり、これは上限を示すと考える。高杯（743）は14段階以降増加するものであり、川村編年14段階かそれ以降の時期が考えられる。これらをまとめると第32表となる。

4　遺　物　小　考

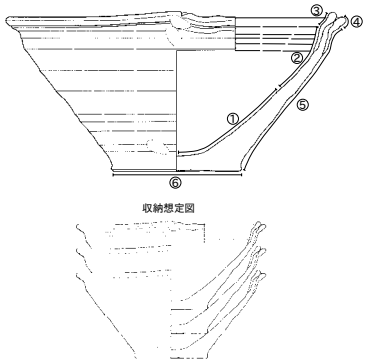
A　陶磁器の消費痕跡

網羅的な記述はできないが、特徴的な消費痕跡が、ある程度普遍的に確認できた、珠洲すり鉢・甕、施釉陶磁器碗皿類について記述する。

珠洲すり鉢　　すり鉢本来の機能である食物などを摺る・潰すことなどによって主に生じたと思われる①見込みから口縁部下半にかけての強い磨耗・器面の剥落のほかに、②口縁部上半部の中程度の磨耗、③口縁端部内面の細かい欠け・強い磨耗、④口縁端部外面の細かい欠け、⑤口縁部外面の弱い磨耗、⑥底部外面の強い磨耗がかなりの頻度で観察できた。②～⑥は食物などを摺る・潰す動作によって必然的に生じる痕跡としても説明できるが、③・④などは木質（スリコギ）や人間の皮膚（掌や足の裏）のみで生じるかどうかという疑問もある。入れ子状に収納するなどの、使用後の収納時に生じた可能性もあろう。その場合、①・②・⑥の消費痕跡についても、入れ子状の収納がこのような消費痕跡を生じさせた副次的な要因としてあげられることになる（第84図）。

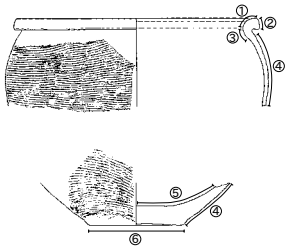
珠洲甕　　①口縁部内面の細かい欠け、②口縁部外面の細かい欠け、③頸部内面の弱い磨耗、④体部外面の弱い磨耗、⑤底部内面の中程度の磨耗、⑥底部外面の中程度磨耗などがかなりの頻度で観察できた。①～⑤は甕内部の内容物をすくう動作によって生じる消費痕跡として説明でき、また比較的人の行き来が多い場所に置かれたとすれば、②・④は偶発的な人との接触によっても生じる可能性があろう。⑥は甕を移動させる際に生じた可能性が最も高い（第84図）。なお、⑤・⑥は古代の甕ではそれほど顕著でない消費痕跡であり［柿田1999］、こうした状況が他遺跡でも確認できれば、中世の甕の方が、より多く内容物と接触し、移動も頻繁な使われ方をしたことが推測できる。

施釉陶磁器碗・皿　　①見込みの細かな擦痕、②口縁端部の欠けが認められるものが定量確認できた。また③高台畳付けの磨耗は、かなりの頻度で確認できた。①～③は、食事の場での実際の使用のほかに、すり鉢同様入れ子状態での収納する際に生じた痕跡の可能性もあろう（第86図）。



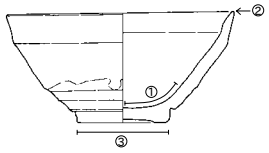
番号	消費痕跡	要　　因
①	強い磨耗、器面の剥落	主：食物などの摺り・潰しなどの使用（スリコギなどとの接触）による磨耗
		副：入れ子状の収納による磨耗
②	中程度の磨耗	主：食物などの摺り・潰しなどの使用（スリコギなどとの接触）による磨耗
		副：入れ子状の収納による磨耗
③	細かい欠け、強い磨耗	主：入れ子状の収納による磨耗
		副：食物などの摺り・潰しなどの使用（スリコギなどとの接触）による磨耗
④	細かい欠け	主：入れ子状の収納による磨耗
		副：食物などの摺り・潰しなどの使用（すり鉢を固定する人との接触）による磨耗
⑤	弱い磨耗	主：入れ子状の収納による磨耗
		副：食物などの摺り・潰しなどの使用（すり鉢を固定する人との接触）による磨耗
⑥	強い磨耗	主：食物などの摺り・潰しなどの使用（床･土間との接触）による磨耗
		副：入れ子状の収納による磨耗

第84図　珠洲すり鉢の消費痕跡



番号	消費痕跡	要　　因
①	細かい欠け	主：内容物を取り出す際の柄杓などとの接触による欠け
②	細かい欠け	主：内容物を取り出す際の柄杓などとの接触による欠け
		副：偶発的な接触による欠け
③	弱い磨耗	主：内容物を取り出す際の柄杓などとの接触による磨耗
④	弱い磨耗	主：内容物を取り出そうとする人との接触による磨耗
		副：偶発的な接触による磨耗
⑤	中程度の磨耗	主：内容物を取り出す際の柄杓などとの接触による磨耗
⑥	中程度の磨耗	主：移動（床･土間との接触）による磨耗

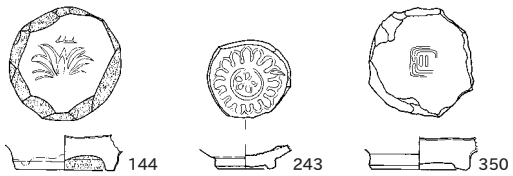
第85図　珠洲甕の消費痕跡



番号	消費痕跡	要　　因
①	細かい擦痕・摩耗	主：食事などの際の箸・茶筅などとの接触
		副：入れ子状態での収納の際の他食器との接触
②	微細な欠け・摩耗	主：食事の際の箸などとの接触
		副：入れ子状態での収納の際の他食器との接触
③	中程度の摩耗	主：食事の際の箸などとの接触
		副：入れ子状態での収納の際の他食器との接触

第86図　施釉陶磁器碗類の消費痕跡

また、底部のみを円形に割りそろえる例も一定量確認でき（第87図）、これについては呪術的な意味を持つ行為とする考えや［中井1996］、遊戯具とする考えがある。また、箸置きや高台内側を容器として用いる実用的な使用目的が存在した可能性も考えられる。

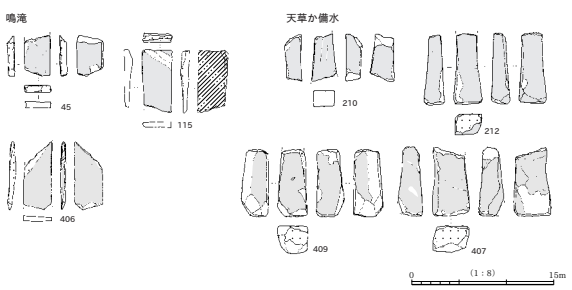


第87図　円形に割り揃えた施釉陶磁器の底部

B　砥　　石

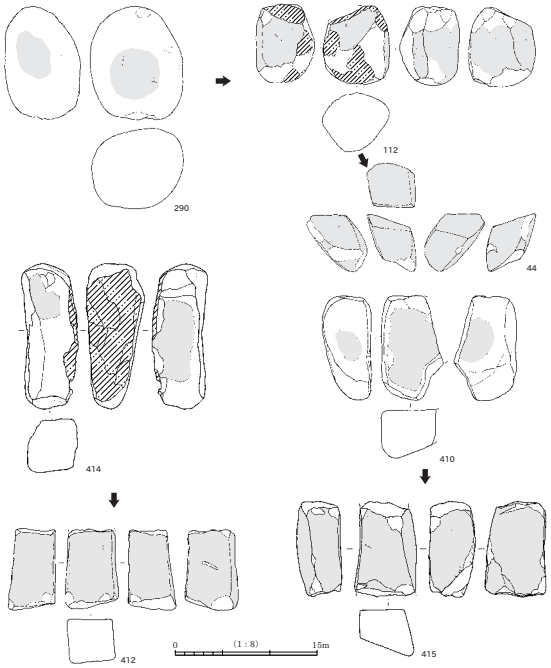
砥石は遠隔地から運ばれたものと在地産のものがある。遠隔地から運ばれたものには京都鳴滝産のものと九州の天草ないしは備水産が存在する（第88図）。遠隔地から運ばれた砥石は、大半が直方体状を示し、薄手のものは2面、ある程度厚みのあるものは4面に作業面が存在し、上下側面には切断面が存在する。

ただし、遺跡全体から出土した砥石の中で、遠隔地産の比率は1割に満たず、大半を占めるのは在地産のものである。在地産の砥石には、第89図に示した直方体状を呈するもののほかに、中・大型の砥石を中心に多様な形のものが存在する。これは、中・大型の砥石には自然礫を素材としているものが相当量存在し、素材の形態に規制された結果と考えられる。例えば44のような多角形状の砥石は290のような円礫を素材とし、112のような段階を経て廃棄に至った可能性がある。また415・612のような断面形が台形もしくは不整多角形状を呈するものは410のような形状のものを素材としていた可能性が考えられる。直方体状を呈するものも、第89図に示した小型の砥石は切石を素材とするものが大半を占めると思われるが、中型・大型の砥石の中には、414のような節理面と自然面により直方体状を呈する礫を素材とし、使用の結果直方体状となったものも定量存在すると思われる（第90図）。



第88図　遠隔地産の砥石

第89図　在地産の砥石（1）



第90図　在地産の砥石（2）

C　被熱痕跡のある陶磁器について

第91図には被熱痕跡のある陶磁器類を示した。被熱痕を持つ陶磁器を個別に見ていくと、比較的古相のものには、片切彫りによる鎬蓮弁文が外面にある青磁碗（58・166・579）、低く幅広の高台を持つ青磁碗（553）がある。これらの製作年代は13世紀後半を中心とする時期であろう。

篦描きで鎬を持たない蓮弁文が外面にある青磁碗（136・161）、口縁端部が外反する無文の青磁碗のうち薄手のもの（227・345・347・348）、高台端部が尖る青磁碗（230・231）、口縁部が屈曲する鉢（354）。瀬戸・美濃水注（332・365）も製作年代は14世紀中葉ないしはそれ以前に収まる可能性が高い。

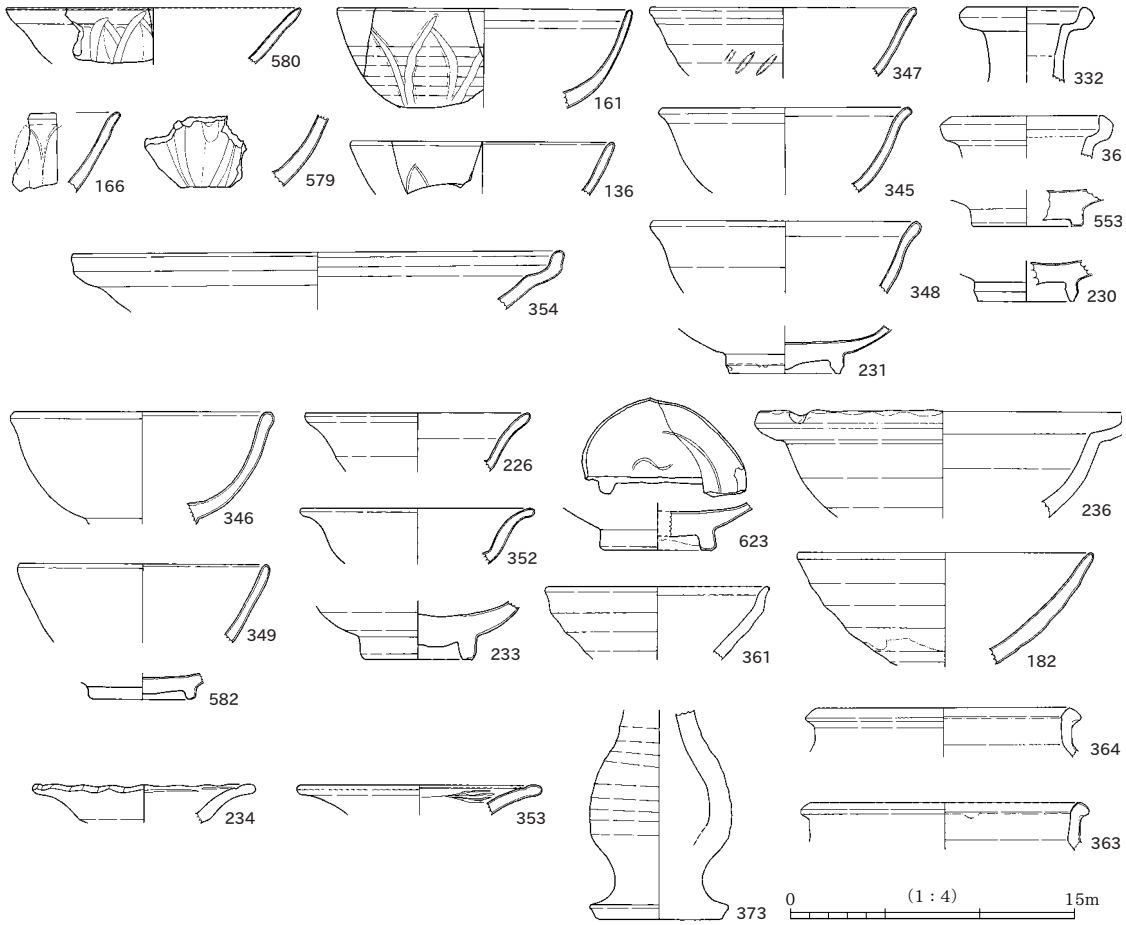
口縁端部が外反する無文の青磁碗のうち厚手のもの（346）、口縁部が内彎気味にのびる無文の青磁碗（349）、腰部が鋭く屈曲し、口縁部が外反する青磁皿（226・352）などは14世紀終わりから15世紀前半を中心とする時期の可能性が高い。

また、稜花を持つ青磁皿（234）、内面に片切彫りによる文様を持つ青磁皿（353）、瀬戸・美濃花瓶・香炉の一部は15世紀後半頃のものである可能性が高い。

以上のように、被熱痕跡のある陶磁器類の（製作）年代は13世紀後半頃に比定できるものから15世紀後半のものまであり、被熱の時期は1度ではない可能性がある。しかしここでは、14世紀中葉以前に比定できる陶磁器類に被熱痕跡が見られるものが一定量存在する点に注目したい。

「色部高長軍忠状案」［新潟県史資料編4中世2、1051］には、建武3（1336）年に南北朝の動乱に際し、南朝側についた小木・風間・河内・池氏らが「島崎城郭」に立て篭もり、北朝側の色部高長・加地景綱らと戦ったが、搦手より責められ落城したことが記されており、島崎城郭の比定地は奈良崎遺跡とされていた。

被熱痕跡がある製作年代が14世紀中葉以前の陶磁器類が、この際に火災などにより熱を受けた可能性が考えられる。このことは、削平段の中に作られた井戸や溝の一部に14世紀代に遡り得るものが定量存在することと併せて、本遺跡が島崎城郭であることを支持する要素となると考える。



第91図　被熱痕跡のある陶磁器

D　弥生時代の鉄器について

奈良崎遺跡において、共伴遺物から弥生時代と限定できる鉄器は、92SI105の弧状の不明品（871）1点のみであり、弥生時代後期～古墳時代前期の時期幅をもたせれば、2号墳の不明品（834）と、包含層（V層）出土の鑿？（914）・刀子？（1016）・刀子（1017）をあわせた計5点が存在する。

新潟県域では、第33表のとおり40点前後の鉄器の出土を認める。数量の乏しさは、北九州・山陰との交易という鉄器獲得手段にあって西から東への漸減的傾向に沿うものであろうが、200点あまりの出土がある長野県域と大きく隔たっていることは、単に弥生集落・墳墓の調査例が乏しいことに起因するものではなかろう。出土の分布はいわゆる高地性集落と概ね重複しており、高地性集落は消費地であるとともに、鉄器の流通にも一定の役割を担っているものと推測されるが、高田平野周辺の裏山・下馬場・斐太の各遺跡を除けば、一遺跡に小型の工具が1～2点あるに過ぎない。また、墳墓出土の資料は奈良崎遺跡に近接する和島村姥ヶ入南遺跡と新津市八幡山遺跡の例に限られる。鉄器の帰属時期については、中期または後期前半に遡る確実な例は存在せず、普及が明確になるのは、高地性集落が形成される時期と重なる後期後半以降である。以下、比較の対象として出土鉄器の概要を列記しておく。

後生山遺跡　　刀子とされる1点は、鉇あるいは鉄鏃であろうか。鉄器が出土している1号住居跡の土器は未報告で詳細な時期は不明である。なお、5基の竪穴のうち4基が玉作工房と報告されている［木島1986・1998］。

裏山遺跡　　小型の鉄器と鋤先が共出している唯一の遺跡である。２タイプ計６点の鋤先が特筆されるものの、これらは北部九州や山陰のそれに比較してかなり小形である上、鉄板の厚さは１㎜前後と薄く、両地方からの供給品であると一概には断定しかねる。無茎有孔の鉄鏃は中部高地の石鏃と関連性のあるものであろうが、信州系の土器は１点のみであり、鉄器を多く保有する長野県域との関係は土器の上からは窺えない。また、この形態は山陰にも存在するものである。８基の竪穴からなる小集落としては鋤先の量が突出していること、鉄器関連の遺物として70点あまりの砥石と165点の軽石製研磨具があることからすると、裏山遺跡は保守工具をも含んだ鉄器の集散地であったとも考えられる。

下馬場遺跡　　玉作に関わる剥片・砕片が各竪穴にあり、３基（1号・7号・13号）の竪穴でそれらが多く出土している。13号竪穴の鉄針は穿孔技術の変化に対応する遺物である。「不明鉄片」とした３点は周縁を鋭くしない板状の鉄器であり、裏山遺跡報告書の「鉄鏃」の記述を改め、用途不明の鉄片としておきたい。７基の竪穴には炉以外にも床面の硬化・赤化が認められ、これらには鍛冶作業を行っていた可能性がある。

斐太遺跡　　鉄斧や鋤先を欠くものの、小型の鉄器が竪穴に伴って出土している。現在、鉄器の所在は不明になっており、現物を検証しえない。図版では５点、本文の記載では４点の出土がある。

姥ヶ入南遺跡　　墳墓（周溝が伴う墳丘墓）主体部から２点が出土している。鉄剣は長さ40㎝、袋状鉄斧は長さ15.6㎝を測り、特に鉄斧は大型である。主体部の弥生時代後期終末とされる土器は細片で、時期は明らかではない。鉄斧袋部の断面は楕円形で、肉眼では閉じ合わせを観察できない。村上恭通氏は袋状鉄斧に「船載品あるいは北部九州製の鉄器である可能性」を指摘している［村上2001］。

経塚山遺跡　　板状鉄斧は袋状鉄斧が卓越する日本海沿岸域にあっては数少ない例で、朝鮮半島あるい

遺跡名	所在地	出土地点	鉄器種別・数量	時　　期	文　　献
後生山遺跡	糸魚川市	1号住居跡	「刀子」1	後期	木島勉1986（18p・第21図）
裏山遺跡	上越市	包含層 〃 1号溝	鋤先5・鉄鏃3 鉇1・不明1 鋤先1	後期後半 〃 〃	小池義人ほか2000（61p・図版76・107）
下馬場遺跡	上越市	1号竪穴 2号竪穴 6号竪穴 7号竪穴 13号竪穴	鉄鏃1 不明鉄片1 不明鉄片1 不明鉄片1 鉄針4？（銹着1塊）	後期後半 〃 〃 〃 〃	小池義人ほか2000（61p） ※鉄器は未報告
斐太遺跡（上ノ平・矢代山）	新井市	第1号住居址 第2号住居址 第24号住居址	「刀子」1・「釘片」1 「刀子残欠」1 「鉄片」1	後期後半 後期後半 後期終末～古墳初頭	駒井和愛・吉田章一郎1962 （46p・51p・55p・72p・73p・図版17） ※「図版一七　土器片及鉄器片」には5点。
西谷遺跡	刈羽郡刈羽村	環濠	「不明」1	後期後半	滝沢規朗ほか1992（41p・44p）
姥ヶ入南遺跡	三島郡和島村	墳墓	「鉄剣」1・「鉄斧」1	後期終末	菅井良咲1998（35p）
奈良崎遺跡	三島郡和島村	92SI105竪穴 99SD769溝 包含層	不明1 鉇？1 鑿？1・刀子1・刀子？1	後期後半 後期後半～古墳前期 後期後半～古墳前期	本書
横山遺跡	長岡市	不明	「鉄製品の小片」1	後期終末～古墳初頭	長岡市1996（102p）
経塚山遺跡	三条市	3号住居址	「板状鉄斧」1	後期後半	金子正典1999（7p・写真図版8）
八幡山遺跡	新津市	2号方形周溝墓 SI13号住居址	「鉄剣」1 「鉄鏃」1	天王山式 後期	渡辺朋和1995 ※鉄鏃は未報告
山谷古墳	西蒲原郡巻町	小マウンド1	「袋状鉄斧」1・「刀子」1	後期後半～古墳前期	甘粕 健・小野 昭編1993（70p・77p）
砂山遺跡	村上市	不明	鑿1・不明鉄製品1	不明（天王山式主体）	川越哲志編1999（27p）　橋本博文1997（80p） 小片・上原1972（130p）　新潟県1983（図版473） ※小片・上原1972では鉄器の記述はなし。
千種遺跡	佐渡郡金井町	不明	「刀子」1	後期終末～古墳初	大場磐雄ほか1953（61p・図版20）

北陸南西部の土器編年と時期の対応　　後期前半：猫橋式　後期後半：法仏式　後期終末：月影式　古墳初頭：白江式

第34表　新潟県域における弥生時代の鉄器一覧

は北部九州との直接的交流が伺われる。

八幡山遺跡　方形周溝墓主体部出土の鉄剣がある。「刃関双孔鉄剣」と呼ばれるタイプで、北陸地方では福井県小羽山30号墓［林・佐々木2001］に類例があるのみである。

山谷古墳　鉄器については、報文が「小マウンド構築の途中で、特に埋納施設をともなうことなく埋置されたものと思われる」としており［甘粕・小野編1993］、小マウンドに弥生後期の土器が混入しているものの、弥生時代に遡る可能性は低いと思われる。

砂山遺跡　鉄器は土砂採取時の緊急調査［小片・上原1972］、あるい採集によるもので、出土状況が明らかではない。異なる時代の遺物もあり、鉄器の帰属時期は不明である。村上市教育委員会が保管している鉄器は第33表の2点であり、「鉄斧1、刀子2」とする『弥生時代鉄器総覧』［川越編1999］の記述とは異なる。『新潟県史』資料編に掲載されている2点の鉄器は接合する同一個体の鑿（あるいは鑿状の先端部をもつ鉄鏃）で、関は全周にめぐる。『弥生クロスロード』［大阪府立弥生文化博物館2001］が新潟県域の弥生時代の鉄器数を「中期3」としているのは、『弥生時代鉄器総覧』を参照し、出土土器の主体を占める天王山式土器を中期とする編年観によるものであろう。

千種遺跡　「刀子」とある鉄器は断面が凸レンズ状で、長さは約8.1㎝を測る。小形の鉄剣あるいは鉄鏃とすべきものである。

E　石鏃の製作方法について

本遺跡出土の石鏃および未成品の観察から、石鏃の製作方法について、特に素材と加工方法の関係を重点に、若干のまとめをしてみたい。

そもそも石鏃に求められる機能的特徴とは、第一に、対象に容易に突き刺さるという事であろう。そのためには鋭利な尖端部や良く切れる鋭い縁辺部を作出する事が肝要となる。しかし尖基鏃に分類される一部の石鏃には、断面形が惰円形もしくは多角形に加工され、鋭利な縁辺部を作出しない例も存在する（例えば、当遺跡出土の1091や1095がそれにあたる）。この例を除けば、他は大きさや形態的特徴に様々な相違はあるものの、前述の要件を満たすべく加工されているか、加工しようと作業が進められていると言えよう。言い換えれば、鋭い尖端部を作出するためには、素材の両縁辺を出来るだけ鋭角に交わらせるように加工する必要があるし、さらに効果的な刺突を実現するためには、両縁辺が鋭利に加工された方が都合がよい。また刺突後、対象の内部に確実に食い込むためには、器厚も重要な要素と考えられる。ある程度の強度を保ちながらも進入し易い厚さに加工することも求められたものと思われる。

このような観点で資料を見ると、未成品のみならず成品の中にも、素材と加工方法の関係について示唆的なものがある。例えば、1074～1076には素材の剥離面が残されており、製作者の採った加工方法の一端を伺い知ることが出来る。1074は裏面に素材の主剥離面の一部が観察でき、リングの向きから素材剥片の打点付近に茎部を作り出していることが分かる。側面形からこの素材剥片は、主剥離面の中程から先端部にかけてはほぼ平坦な面を有し、背面はやや盛り上がっていたものと思われる。製作者は、徐々に厚さを減ずる素材先端部に向けて連続的な深型調整を施し尖端部を作り出している。その際、背面側については一層深い調整によって厚さを減ずるべく試みているが、中央付近に取り残しが生じてしまった。

一方主剥離面側については、平坦な面が存在するため器厚の調整をする必要がなかったものと思われる（1103も同種の事例である）。1075については、表裏とも僅かながら素材の剥離面を残している。1074同様に、素材の器厚が減少する方向に尖端部を作り出している。その際深型の連続調整によって器形を成形

するとともに、先端に向かって厚さが減少するよう加工している。残された素材の剥離面はこの調整が届かなかった箇所を意味している（1088・1090も同種の事例である）。1076は表裏両面に大きく素材の剥離面を残している。加工方法で特徴的な点は、浅型調整を連続させて器形を成形していることである。これは素材剥片が十分な薄さであったため、ほとんど器厚の調整が必要なかったものと考えられる。ただし背面側には一部厚い箇所があり、その付近だけやや深い調整によって器厚調整を試みている（1096も同種の事例と云える）。

このように、素材と加工方法の間には、製作者が目的とする機能や形態などに応じた密接な関係があるものと考えられる。すなわち、製作者は意図するものを作ろうとする際、まず素材を選び、次いでその素材に如何なる調整を加えるかを考えるであろう。従って、加工方法の選択は、目的を達成（意図するものを作り上げる事）するため、素材に対するある種の対処方法であると言い換えられる。そして都合の良い素材（石材の種類や質も含めて）が入手出来ない場合、技術的に様々な試みが為されるものと考えられる。

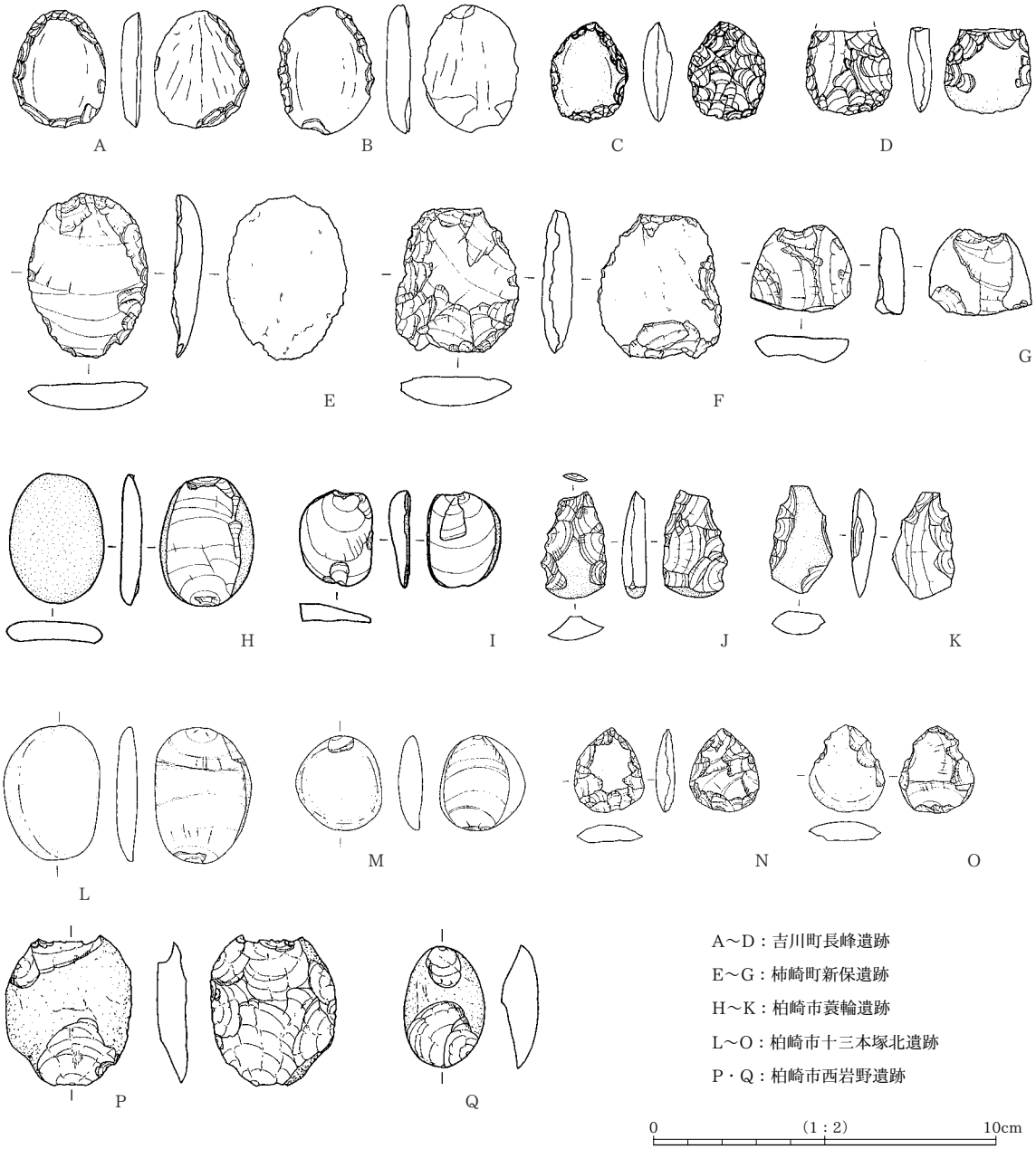
未成品にはさらに興味深い情報を備えている。それは素材に対する加工方法のみならず、加工工程の一端が伺えることである。1105は縦型剥片に一部調整を加えた例であるが、素材剥片の先端部を切断して長さを調整し、また最も厚い打点付近に茎部を作出するための調整を加えている。この作業の順番は不明であるが、この時点で目的の形態は概ね想像できる。後は両縁辺に調整を加えて鋭い尖端部を作り出す工程が残されている。1109は素材剥片の周縁部に調整を加え、形状を整えようとしているが、この時点で素材剥片の打点付近の厚さ調整は為されていない。1107の場合は、周縁部の成形とともに素材剥片のバルブはずしが終了しており、1109より工程が一歩進んでいる。もちろん、意図する形態や素材の相違、製作者の個人差によって、細部の工程が一致しない事もあると思われるため、一概に工程をパターン化出来るものではないが、概ね素材の粗成形から細部調整へと移行することは疑い得ない。

素材のあり方と加工について見てみると、1108や1118では共に大きな折断面が見られる。両者とも、現状より大きな剥片の一部を折断することで、全体形を鋭い三角形に粗成形している。また共に尖端部に僅かながら細部調整が見られる。1119も同様の資料であるが、細部調整は見られない。従って大きすぎる素材に対しては、折断によって希望の大きさや形状に整え、折断面を打面として細部調整を加えるという方法が伺える。また1110の場合、素材が厚いため、表裏両面の縁辺から調整を加え、まず厚みを減ずる作業から始めている。その他、不定形剥片や他器種の破片であっても、折断や細部調整などを駆使して大きさや厚さを調整することが可能ならば、石質が加工に不向きな程劣悪でない限り、実に様々な状態のものが素材となり得る。しかしこのことは反面、効率よく製作するためには素材選びが重要な点であることも示唆している。

1121～1124は自然面を有する剥片を素材としているもので、類例は「ピエス・エスキーユ」とも報告されている。1124を除けば器形成形段階の資料であるが、いずれも手頃な大きさの円礫もしくは扁平な円礫を打ち欠いた剥片を素材としている。自然面側からの調整によって器形と器厚の調整が進められている。片面は浅い弧状を呈するが滑らかな面であるため、余り多くの加工は必要なく、効率よく成形作業が進められる。1124はさらに小型の円礫から打ち欠かれたものであるが、主剥離面側にやや内湾した薄い剥片である。周縁部を調整することで容易に成形可能な素材である。これらの資料は、前述の様々な素材や加工方法とは一線を画す製作技術に位置付けることが出来る。というのは、様々な素材にどう対処するかではなく、作業効率の良い素材を積極的に選択し、きわめて類似した調整が見られるからである。またこれらを素材とした成品は、片面に大きく自然面を残したり、周縁部の調整のみで終わっているものに

なると思われる。弥生時代に限定しなければ、柏崎市岩野遺跡［関ほか1980］、同市西岩野遺跡［品田1987］、同市十三本塚北遺跡［品田・平吹2001］、同市箕輪遺跡［小野塚ほか2002］、中頸城郡吉川町長峰遺跡［室岡ほか1984］、同郡柿崎町新保遺跡［石川ほか2001］などでも同様の資料が報告されている（第91図）。

以上、素材と加工方法との関連に注目して、本遺跡に見られる石鏃の製作方法について簡単なまとめを試みた。時間的・資料的な制約もあって、総合的・包括的な検討には至らなかった。そればかりかごく一部の細部の問題に終始した観もある。また、製作に伴って生み出される砕片・小形剥片が乏しい（あるいは調査時に取り上げられていない）ために、「残滓」から製作技術を検証することができなかった。石鏃に関する問題は、時代や地域差によって様々であり、形態や着柄の方法についても多くの課題を残している。今後様々な視点での検討が望まれる。



第92図　円礫由来の素材薄片と石鏃未成品

第Ⅵ章　自然科学分析

1　胎　土　分　析

A　実　験　条　件

1）試　　料

分析に供した試料は、胎土性状表（第34表）に示す通りである。X線回折試験に供する試料は洗浄・乾燥した後に、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄・乾燥後に試料表面をコーテングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し分析した。

2）X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製ＪＤＸ－8020 X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu、Filter: Ni、Voltage: 40ｋV、Current: 30mA、ステップ角度：0.02°、計数時間：0.5秒

3）化　学　分　析

元素分析は、日本電子製5300ＬＶ型電子顕微鏡2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧：15ｋV、分析法：スプリント法、分析倍率：200倍、分析有効時間：100秒、分析指定元素10元素で行った。

B　X線回折試験結果の取扱い

実験結果は胎土性状表（第34表）に示す通りである。表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には各胎土に対する分類を行った結果を示している。

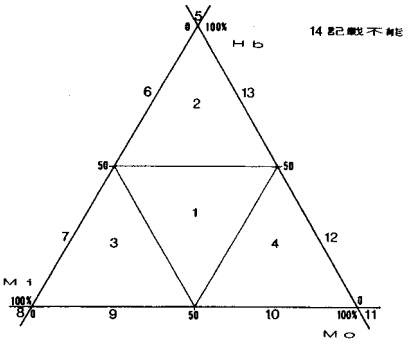
X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字は、チャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

1）組　成　分　類

ａ　Ｍｏｎｔ－Ｍｉｃａ－Ｈｂ三角ダイヤグラム

第93図に示すように三角ダイヤグラムを1～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont、Mica、Hbの三成分の含まれない胎土は、記載不能として14に入れ別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト（Mont），雲母類（Mica），角閃石（Hb）のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント（％）で表示する。モンモリロナイトはMont/Mont+Mica+Hb×100でパーセン



第93図　三角ダイヤグラム位置分類図

トとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。三角ダイヤグラム内の１～４はMont, Mica, Hbの３成分を含み、各辺は２成分、各頂点は１成分よりなっていることを表している。位置分類についての基本原則は、第93図に示す通りである。

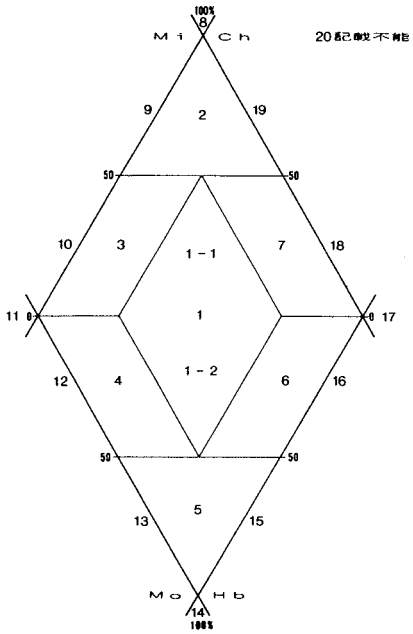
ｂ　Ｍｏｎｔ－Ｃｈ，Ｍｉｃａ－Ｈｂ菱形ダイヤグラム

第94図に示すように菱形ダイヤグラムを１～19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト（Mont)、雲母類（Mica)、角閃石（Hb)、緑泥石（Ch）の内、①３成分以上含まれない、②Mont, Chの２成分が含まれない、③Mica, Hbの２成分が含まれないの３例がある。菱形ダイヤグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組み合せを表示するものである。

Mont-Ch, Mica-Hb Ｘ線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えばMont/Mont+Ch×100と計算し、Mica, Hb, Chも同様に計算し記載する。

菱形ダイヤグラム内にある１～７はMont, Mica, Hb, Chの４成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち３成分、各頂点は２成分を含んでいることを示す。位置分類についての基本原則は第94図に示す通りである。



第94図　菱形ダイヤグラム位置分類図

ｃ　化学分析結果の取扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法（10元素全体で100%になる）で計算し、化学分析表（第35表）を作成した。化学分析表に基づいてSiO_2－Al_2O_3図、Fe_2O_2－MgO図、K_2O－CaO図、TiO_2－MnO図を作成した（第95図)。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

Ｃ　Ｘ線回折試験結果

1）タイプ分類

胎土性状表（第34表）には、奈良崎遺跡及び梯子谷窯跡出土土器のＸ線回折試験結果を記載したが、Ａタイプだけが検出された。

Ａタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの４成分に欠ける。高温で焼成されているため、鉱物はガラスに変質し、４成分は検出されない。

2）石英（Qt)－斜長石（Pl)の相関について

胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は、粘土の材質や土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは、個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術と考えられる。自然の状態における各地の砂は、固有の石英と斜長石比を有している。この比率は後背地の地質条件によって異なるものであり、言い換えれば各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第95図（1）に示すように、Qtの強度が低い領域から高い領域にかけて２グループに分類され、さらにPlの強度の高い領域に１グループがあり、３グループに分かれる。３グループに属さない土器は「その他」とした。

Qt小：Qtが800～2200､Plが0～400の領域に集中する｡有台杯が集中し､杯蓋とその他の土器が共存する。

Qt大：Qtが2000～4500、Plが0～200の領域に集中する。無台杯が集中し、梯子谷の土器と共存する。

Pl大：Qtが1000～4500、Plが350～550の領域に分布する。焼成温度が低いためにPlの強度が高い。

D　化学分析結果

1）　SiO_2－Al_2O_3の相関について

第95図（2）に示すように、土器はSiO_2が低い領域から高い領域にかけてⅠ～Ⅲの３タイプに分類され、これらの３タイプに属さないものは「その他」とした。

Ⅰタイプ：SiO_2が57～67％、Al_2O_3が18～30％の領域に集中する。肉眼分類での胎土は奈良崎のＣ１胎土の無台杯、Ａ２胎土の有台杯が共存する。梯子谷の土器が混在する。

Ⅱタイプ：SiO_2が65～73％、Al_2O_3が15～23％の領域に集中する。奈良崎の有台杯・杯蓋・長頸瓶・その他の土器が共存する。肉眼分類での胎土は有台杯がA2胎土、杯蓋がA4胎土、その他の土器がＢ１とＣ２胎土で構成される。

Ⅲタイプ：SiO_2が73～77％、Al_2O_3が15～20％の領域に集中する。

そ の 他：奈良崎－15は、SiO_2が55％と低く異質である。

2）Fe_2O_3－MgOの相関について

第95図（3）に示すように、Fe_2O_3とMgOが高い領域と低い領域で５グループに細分される。MgOが高い領域には梯子谷の土器が分布し、梯子谷：Ⅰa、梯子谷：Ⅰb、梯子谷：Ⅰcの３タイプに分類され、奈良崎の土器はFe_2O_3が10%以下のグループと10%以上のグループに２分される。

梯子谷：Ⅰa：Fe_2O_3が3～9％、MgOが0.2～1.0％の領域に集中する。

梯子谷：Ⅰb：Fe_2O_3が8～13％、MgOが1.0～1.7％の領域に集中する。

梯子谷：Ⅰc：Fe_2O_3が9～14％、MgOが0.3～0.8％の領域にある。

奈良崎－低領域：Fe_2O_3が3～10％、MgOが0～0.1％の領域にある。奈良崎の有台杯・杯蓋・長頸瓶・その他の土器が共存する。

奈良崎－高領域：Fe_2O_3が11～14％、MgOが0～0.1％の領域にある。奈良崎の無台杯が集中する。

3）　K_2O－CaOの相関について

第95図(4)に示すように、K_2Oが低い領域から高い領域にかけてＫ１～Ｋ４の４グループに分類される。

Ｋ１グループ：K_2Oが0.8～2.5％、CaOが0.1～0.9％の領域にあり、奈良崎の有台杯・無台杯・杯蓋・長頸瓶が混在する。

Ｋ２グループ：K_2Oが1.5～3.0％、CaOが0.1～0.6％の領域にあり、梯子谷の土器が集中し、奈良崎の無台杯が混在する。

Ｋ３グループ：K_2Oが2.8～3.5％、CaOが0.2～0.4％の領域にあり、奈良崎の有台杯が集中し、梯子谷の土器が混在する。

K４グループ：K_2Oが3.6～4.4％、CaOが0.5～0.8％の領域にあり、奈良崎の甕・瓶で構成される。肉眼観察では、Ａ２胎土で統一される。

4）TiO_2－MnOの相関について

第95図（5）に示すように、Ｔ１～Ｔ３の３グループに分類される。

Ｔ１グループ：TiO_2が0.7～1.4％、MnOが0～0.4％の領域にあり、奈良崎の有台杯・長頸瓶・杯蓋・その他の土器が集中する。

Ｔ２グループ：TiO_2が1.3～1.9％、MnOが0～0.4％の領域にあり、奈良崎の無台杯が集中する。

Ｔ３グループ：TiO_2が0.7～1.7％、MnOが0.4～1.1％の領域にあり、梯子谷の土器が集中する。

E　陶邑窯跡群の土器との対比について

奈良崎－27の甕と28の杯身については、第95図（6）～（9）で陶邑・美濃須衛と比較検討した。分析結果では、陶邑窯跡群の土器胎土の領域に奈良崎－27と28は分布しており、組成的に陶邑窯跡群の土器に近いように見受けられる。

F　ま　と　め

Ｘ線回折試験と蛍光Ｘ線分析による土器胎土の分析結果に基づいて、組成分類表（第36表）を作成した。その結果、奈良崎遺跡がⅠ～Ⅲの３タイプに、梯子谷窯跡がⅠａ～Ⅰｃの３タイプに分類され、これらに属さないものは６タイプに細分された。分析結果と共に、肉眼観察による胎土分類と比較した結果も記載してある。

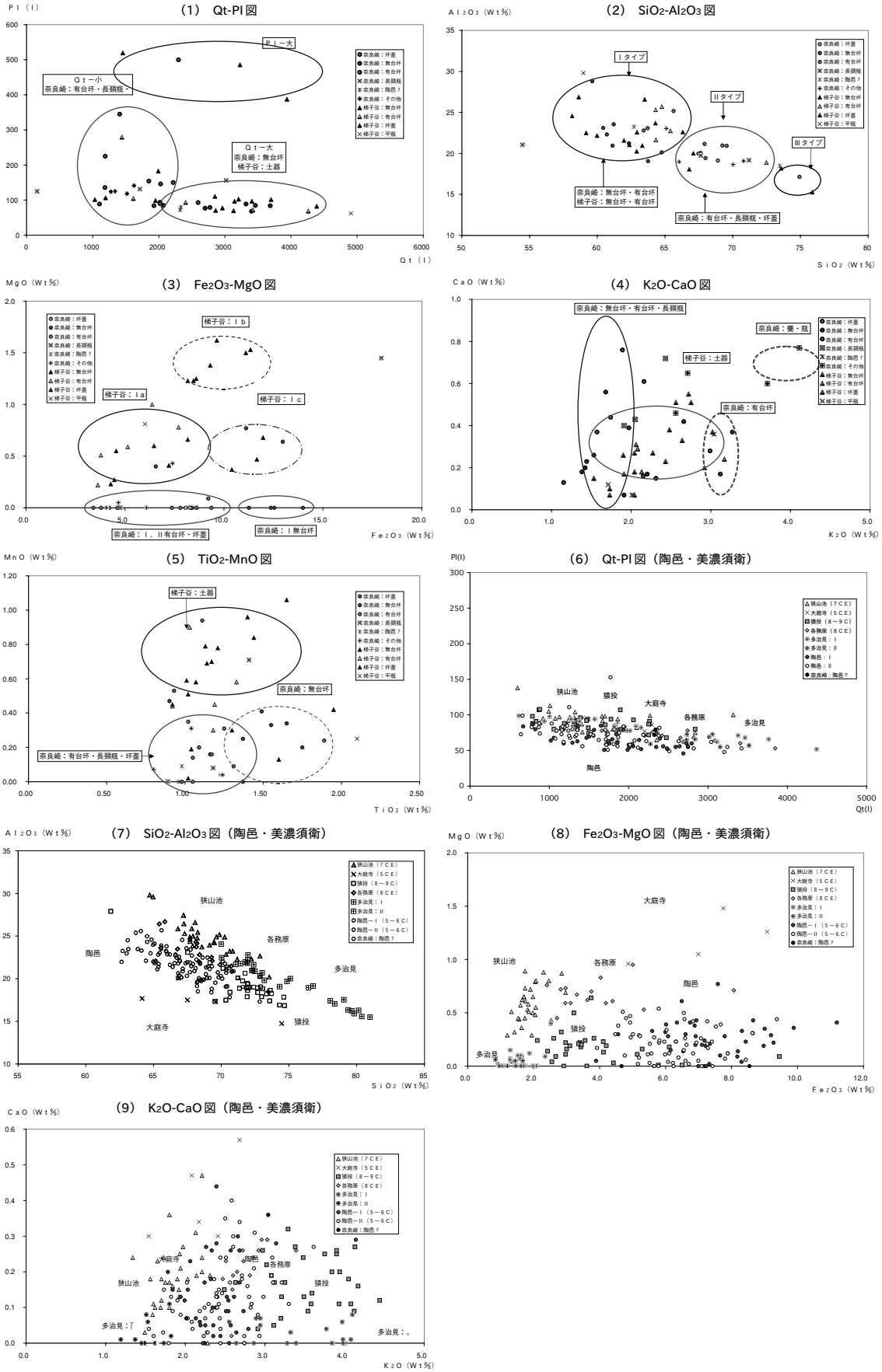
奈良崎遺跡の土器はⅠ～Ⅲの３タイプとその他に分類された。

・ⅠタイプにはC1胎土の無台杯とA2胎土の有台杯が含まれる。
・ⅡタイプにはA2胎土の有台杯、A4胎土の杯蓋、B1とＣ２胎土の長頸瓶が含まれる。
・Ⅲタイプは奈良崎－８が１個で、奈良崎の土器の中ではSiO_2の値が最も高く異質である。
・奈良崎－23と24はＡ２胎土の短頸壷と蓋で、K_2O・CaO大で異質である。
・奈良崎－25と26はＡ２胎土の甕と横瓶で、K_2O・CaO中で異質である。
・奈良崎－15はA3胎土の長頸瓶で、SiO_2の値が低く異質である。
・奈良崎－２はA2胎土の無台杯で、梯子谷：Ⅰａの組成に近い。
・奈良崎－11はA2胎土の無台杯で、梯子谷：Ⅰｃの組成に近い。
・奈良崎－27と28は陶邑窯跡群と対比した結果、化学組成値は陶邑窯跡群の土器に近いと判断される。

梯子谷窯跡の土器は、Fe_2O_3とMgOの相関から梯子谷：Ⅰａ～Ⅰｃの３タイプに分類された。

・梯子谷：ⅠａはＡ１胎土の杯蓋、A2胎土の有台杯と無台杯、B1とB2胎土の有台杯、C2胎土の有台杯と無台杯が含まれ、肉眼観察での結果では多種にわたる。
・梯子谷：ⅠｂはA3胎土とA4胎土の無台杯が集中する。
・梯子谷：ⅠｃはA4胎土とC2胎土の杯蓋、C1胎土の無台杯が含まれる。

〔（株）第四紀地質研究所　井上　巖〕



第95図　各要素の相関図

試料No.	タイプ分類	組成分類		粘土鉱物及び造岩鉱物													備考			
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	器種	種別	年代	胎土
奈良崎-1	A	14	20						2026	146	973	124				106		須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-2	A	14	20						2701	77	158	108	110			119		須恵器	無台杯	9C	A2
奈良崎-3	A	14	20						2298	500	1079	129				133		須恵器	杯蓋	9C	A4
奈良崎-4	A	14	20						2218	150	1161	141				129		須恵器	杯蓋	9C	A4
奈良崎-5	A	14	20						2594	93	507	88	92			82		須恵器	杯蓋	9C	C2
奈良崎-6	A	14	20						2018	94	168	171				187		須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-7	A	14	20						2017	90	278	175				142		須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-8	A	14	20						1189	225	1930	149				132		須恵器	有台杯	9C	C2
奈良崎-9	A	14	20						1184	136	1474	178				157		須恵器	有台杯	9C	C2
奈良崎-10	A	14	20						1408	345	1455	171				150		須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-11	A	14	20						2070	85	209	108				117		須恵器	無台杯	9C	A2
奈良崎-12	A	14	20						1849	154	1143	137				122		須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-13	A	14	20						1927	84	368	101				98		須恵器	有台杯	9C	C2
奈良崎-14	A	14	20						3402	68	549	81	75			85		須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-15	A	14	20						3019	156	146	40						須恵器	長頸瓶	9C	A3
奈良崎-16	A	14	20						3685	84	372	97				90		須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-17	A	14	20						3460	85	462	76	79			74		須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-18	A	14	20						3319	89	534	77				71		須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-19	A	14	20						2773	79	568	99				87		須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-20	A	14	20						1102	89	758	177				142		須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-21	A	14	20						1712	131	661	137				114		須恵器	長頸瓶	9C	B1
奈良崎-22	A	14	20						159	125	769	84				79		須恵器	長頸瓶	9C	C2
奈良崎-23	A	14	20						1275	124	880	168				159		須恵器	短頸・壺?	9C	A2
奈良崎-24	A	14	20						1626	141	566	110				103		須恵器	蓋	9C	A2
奈良崎-25	A	14	20						1336	125	156	95				180		須恵器	甕	9C	A2
奈良崎-26	A	14	20						1521	118	162	143				126		須恵器	横瓶	9C	A2
奈良崎-27	A	14	20						2335	79	1054	187				152		須恵器	瓫(陶邑?)	5C	陶邑?
奈良崎-28	A	14	20						2323	72	174	126				112		須恵器	杯身(陶邑?)	5～6C	陶邑?
梯子谷-55	A	14	20						2849	111	475	176				157		須恵器	杯蓋	8C初頭	A1
梯子谷-56	A	14	20						3147	97	446	188				157		須恵器	杯蓋	8C初頭	A1
梯子谷-57	A	14	20						4906	62	88	109				94		須恵器	平瓶	8C後半	A2
梯子谷-58	A	14	20						1616	105	249	191				168		須恵器	有台杯	8C後半	A2
梯子谷-59	A	14	20						2406	94	266	203				167		須恵器	有台杯	8C前半	A2
梯子谷-60	A	14	20						1196	107	207	69				179		須恵器	無台杯	8C末	A2
梯子谷-61	A	14	20						3938	388	515	51						須恵器	無台杯	9C前半	A3
梯子谷-62	A	14	20						4388	83	51	66						須恵器	杯蓋	9C前半	A4
梯子谷-63	A	14	20						2963	78	168	63						須恵器	無台杯	8C末	A3
梯子谷-64	A	14	20						3228	486	126							須恵器	無台杯	9C前半	A3
梯子谷-65	A	14	20						1032	102	507	87				76		須恵器	杯蓋	9C前半	A4
梯子谷-66	A	14	20						1454	520	391	75				77		須恵器	無台杯	9C前半	A4
梯子谷-67	A	14	20						1993	183	153							須恵器	無台杯	9C前半	A4
梯子谷-68	A	14	20						2860	71	265	125				120		須恵器	杯蓋	8C末	B1
梯子谷-69	A	14	20						4261	69	106	73	123			72		須恵器	有台杯	8C末	B2
梯子谷-70	A	14	20						3426	72	161	123	97			114		須恵器	有台杯	8C末	B1
梯子谷-71	A	14	20						3699	102	156	83				90		須恵器	無台杯	9C前半	B1
梯子谷-72	A	14	20						1950	99	732	78				71		須恵器	杯蓋	9C前半	C2
梯子谷-73	A	14	20						3409	97	123	113				92		須恵器	無台杯	9C前半	C1
梯子谷-74	A	14	20						3131	70	120	72				66		須恵器	杯蓋	9C前半	C1
梯子谷-75	A	14	20						1442	280	1566	161				142		須恵器	有台杯	9C前半	C2
梯子谷-76	A	14	20						3207	103	129							須恵器	無台杯	9C前半	C2

Mont：モンモリロナイト　Mica：雲母類　Hb：角閃石　Ch：緑泥石（Ch:Fe　一次反射、Ch:Mg　二次反射）Qt：石英　Pl：斜長石
Crist：クリストバライト　Mullite：ムライト　K-fels：カリ長石　Halloy：ハロイサイト　Kaol：カオリナイト　Pyrite：黄鉄鉱
Au：普通輝石　Py：紫蘇輝石

第35表　胎土性状表

試料番号	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	NiO	Total	器種	種　別	年　代	胎土
奈良崎-1	0.46	0.09	22.81	63.43	1.44	0.23	1.11	0.94	9.21	0.27	99.99	須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-2	0.44	0.40	28.81	59.62	2.20	0.17	1.37	0.25	6.55	0.21	100.02	須恵器	無台杯	9C	A2
奈良崎-3	0.70	0.00	20.06	67.62	1.57	0.37	1.16	0.16	8.37	0.00	100.01	須恵器	杯蓋	9C	A4
奈良崎-4	0.64	0.00	19.14	68.90	1.57	0.44	0.98	0.00	8.05	0.10	99.99	須恵器	杯蓋	9C	A4
奈良崎-5	0.26	0.00	19.98	67.46	2.15	0.16	0.93	0.53	8.31	0.21	99.99	須恵器	杯蓋	9C	C2
奈良崎-6	0.70	0.00	25.18	65.62	3.27	0.37	1.17	0.16	3.40	0.13	100.00	須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-7	0.65	0.00	20.98	69.24	3.12	0.17	1.05	0.14	4.20	0.44	99.99	須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-8	0.70	0.00	17.16	74.93	1.97	0.39	1.05	0.00	3.79	0.00	99.99	須恵器	有台杯	9C	C2
奈良崎-9	0.73	0.00	20.93	69.55	2.16	0.61	1.31	0.09	4.62	0.00	100.00	須恵器	有台杯	9C	C2
奈良崎-10	0.28	0.00	21.16	67.92	1.15	0.13	1.25	0.31	7.80	0.00	100.00	須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-11	0.70	0.77	19.08	63.74	2.66	0.42	0.90	0.47	11.12	0.14	100.00	須恵器	無台杯	9C	A2
奈良崎-12	0.97	0.00	20.14	64.75	1.89	0.76	1.89	0.24	9.37	0.00	100.01	須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-13	0.76	0.00	23.08	63.71	2.31	0.15	1.02	0.35	8.62	0.00	100.00	須恵器	有台杯	9C	C2
奈良崎-14	0.25	0.00	23.55	61.20	1.53	0.26	1.75	0.20	11.26	0.00	100.00	須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-15	0.63	1.45	21.05	54.47	1.91	0.40	1.41	0.71	17.96	0.01	100.00	須恵器	長頸瓶	9C	A3
奈良崎-16	0.28	0.00	23.12	60.43	1.42	0.20	1.65	0.34	12.54	0.02	100.00	須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-17	0.00	0.64	20.96	61.12	1.68	0.56	1.55	0.33	12.97	0.19	100.00	須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-18	0.05	0.00	22.32	60.70	1.38	0.18	1.37	0.00	13.99	0.01	100.00	須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-19	0.16	0.00	21.24	62.34	1.91	0.07	1.49	0.41	12.37	0.00	99.99	須恵器	無台杯	9C	C1
奈良崎-20	0.61	0.00	19.44	67.98	2.99	0.28	1.09	0.20	7.37	0.05	100.01	須恵器	有台杯	9C	A2
奈良崎-21	0.84	0.00	19.16	71.19	2.43	0.72	0.89	0.00	4.77	0.00	100.00	須恵器	長頸瓶	9C	B1
奈良崎-22	0.74	0.00	19.71	67.64	2.05	0.43	1.18	0.08	8.17	0.00	100.00	須恵器	長頸瓶	9C	C2
奈良崎-23	0.83	0.00	18.66	70.02	2.56	0.46	1.24	0.04	6.09	0.10	100.00	須恵器	短頸・壺?	9C	A2
奈良崎-24	1.26	0.00	19.07	70.80	2.71	0.65	1.04	0.31	4.06	0.10	100.00	須恵器	蓋	9C	A2

第36-1表　化学分析表（1）

試料番号	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	NiO	Total	器種	種　別	年　代	胎土
奈良崎-25	1.41	0.43	18.97	66.05	4.11	0.77	0.80	0.07	7.40	0.00	100.01	須恵器	甕	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-26	1.57	0.05	23.03	65.09	3.71	0.60	1.23	0.04	4.67	0.00	99.99	須恵器	横瓶	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-27	0.29	0.00	18.48	73.47	2.01	0.07	0.96	0.00	4.66	0.07	100.01	須恵器	甑	５Ｃ	陶邑？
奈良崎-28	0.90	0.00	23.26	62.71	3.04	0.36	0.98	0.09	8.54	0.12	100.00	須恵器	杯身	５～６Ｃ	陶邑？
梯子谷-55	0.23	0.27	15.27	75.88	2.04	0.07	0.92	0.45	4.46	0.41	100.00	須恵器	杯蓋	８Ｃ初頭	Ａ１
梯子谷-56	0.35	0.23	18.18	73.58	1.91	0.17	1.04	0.19	4.28	0.07	100.00	須恵器	杯蓋	８Ｃ初頭	Ａ１
梯子谷-57	0.01	0.81	29.80	58.97	1.71	0.12	2.10	0.25	6.01	0.21	99.99	須恵器	平瓶	８Ｃ後半	Ａ２
梯子谷-58	0.40	0.78	21.66	64.32	2.92	0.20	1.03	0.90	7.71	0.09	100.01	須恵器	有台杯	８Ｃ後半	Ａ２
梯子谷-59	0.40	0.51	25.71	64.77	3.17	0.24	0.92	0.44	3.78	0.07	100.01	須恵器	有台杯	８Ｃ後半	Ａ２
梯子谷-60	0.37	0.55	26.59	63.50	3.02	0.37	1.02	0.02	4.56	0.00	100.00	須恵器	無台杯	８Ｃ末	Ａ２
梯子谷-61	0.00	0.41	22.62	66.31	1.73	0.10	1.30	0.30	7.22	0.00	99.99	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ａ３
梯子谷-62	0.00	0.68	24.57	58.14	1.73	0.07	1.65	1.06	11.98	0.12	100.00	須恵器	杯蓋	９Ｃ前半	Ａ４
梯子谷-63	0.42	1.53	22.17	59.98	2.27	0.27	1.13	0.79	11.34	0.08	99.98	須恵器	無台杯	８Ｃ末	Ａ３
梯子谷-64	0.33	1.62	21.59	61.97	2.48	0.38	1.14	0.69	9.64	0.16	100.00	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ａ３
梯子谷-65	1.00	1.38	21.05	62.37	2.72	0.55	1.02	0.51	9.31	0.08	99.99	須恵器	杯蓋	９Ｃ前半	Ａ４
梯子谷-66	0.87	1.25	20.95	63.32	2.75	0.51	1.07	0.58	8.60	0.10	100.00	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ａ４
梯子谷-67	0.53	1.50	22.51	59.18	2.56	0.51	1.17	0.70	11.11	0.22	99.99	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ａ４
梯子谷-68	0.24	0.60	23.69	64.29	2.64	0.33	1.60	0.13	6.47	0.01	100.00	須恵器	杯蓋	８Ｃ末	Ｂ１
梯子谷-69	0.26	1.00	22.76	65.40	2.13	0.18	1.33	0.58	6.37	0.00	100.01	須恵器	有台杯	８Ｃ末	Ｂ２
梯子谷-70	0.28	0.59	25.31	64.30	2.08	0.29	1.19	0.45	5.14	0.37	100.00	須恵器	有台杯	８Ｃ末	Ｂ１
梯子谷-71	0.13	1.23	26.87	58.63	2.04	0.27	1.95	0.42	8.17	0.30	100.01	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ｂ１
梯子谷-72	0.24	0.37	18.07	66.79	1.53	0.15	1.44	0.84	10.40	0.15	99.98	須恵器	杯蓋	９Ｃ前半	Ｃ２
梯子谷-73	0.13	0.47	20.25	62.91	1.90	0.26	1.40	0.96	11.67	0.06	100.01	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ｃ１
梯子谷-74	0.15	1.23	22.57	62.93	2.43	0.23	1.21	0.78	8.46	0.00	99.99	須恵器	杯蓋	９Ｃ前半	Ｃ１
梯子谷-75	0.59	0.22	18.90	72.48	2.06	0.31	1.18	0.30	3.63	0.33	100.00	須恵器	有台杯	９Ｃ前半	Ｃ２
梯子谷-76	0.06	0.66	20.01	67.09	2.04	0.18	1.01	0.59	8.17	0.18	99.99	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ｃ２
											0.00				

第36-2表　化学分析表（2）

試料	タイプ	備　　考			
Ｎｏ	分類	器種	種別	年代	胎土
Ⅰタイプ：奈良崎－無台杯					
奈良崎-14	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ	Ｃ１
奈良崎-16	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ	Ｃ１
奈良崎-17	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ	Ｃ１
奈良崎-18	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ	Ｃ１
奈良崎-19	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ	Ｃ１
Ⅰタイプ：奈良崎－有台杯					
奈良崎-1	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-6	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-12	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-13	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ	Ｃ２
Ⅱタイプ：奈良崎－有台杯・杯蓋・長頸瓶					
奈良崎-7	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-9	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ	Ｃ２
奈良崎-10	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-20	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-3	Ａ	須恵器	杯蓋	９Ｃ	Ａ４（焼成：低）
奈良崎-4	Ａ	須恵器	杯蓋	９Ｃ	Ａ４
奈良崎-5	Ａ	須恵器	杯蓋	９Ｃ	Ｃ２
奈良崎-21	Ａ	須恵器	長頸瓶	９Ｃ	Ｂ１
奈良崎-22	Ａ	須恵器	長頸瓶	９Ｃ	Ｃ２（Ｑｔ小）
Ⅲタイプ：奈良崎－有台杯					
奈良崎-8	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ	Ｃ２
奈良崎－短頸壷・蓋－K_2O・CaO大					
奈良崎-23	Ａ	須恵器	短頸・壺？	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-24	Ａ	須恵器	蓋	９Ｃ	Ａ２
奈良崎－甕・横瓶－K_2O・CaO中					
奈良崎-25	Ａ	須恵器	甕	９Ｃ	Ａ２
奈良崎-26	Ａ	須恵器	横瓶	９Ｃ	Ａ２
奈良崎：異質－SiO_2小					
奈良崎-15	Ａ	須恵器	長頸瓶	９Ｃ	Ａ３

試料	タイプ	備　　考			
Ｎｏ	分類	器種	種別	年代	胎土
奈良崎：梯子谷Ｉａ					
奈良崎-2	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ	Ａ２
奈良崎：梯子谷Ｉｃ					
奈良崎-11	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ	Ａ２
奈良崎：陶邑窯跡群？					
奈良崎-27	Ａ	須恵器	甑（陶邑？）	５Ｃ	陶邑？
奈良崎-28	Ａ	須恵器	杯身（陶邑？）	５～６Ｃ	陶邑？
梯子谷：Ｉａ					
梯子谷-55	Ａ	須恵器	杯蓋	８Ｃ初頭	Ａ１
梯子谷-56	Ａ	須恵器	杯蓋	８Ｃ初頭	Ａ１
梯子谷-57	Ａ	須恵器	平瓶	８Ｃ後半	Ａ２（Ｑｔ大）
梯子谷-58	Ａ	須恵器	有台杯	８Ｃ後半	Ａ２
梯子谷-59	Ａ	須恵器	有台杯	８Ｃ前半	Ａ２
梯子谷-60	Ａ	須恵器	無台杯	８Ｃ末	Ａ２
梯子谷-61	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ａ３（焼成：低）
梯子谷-68	Ａ	須恵器	杯蓋	８Ｃ末	Ｂ１
梯子谷-69	Ａ	須恵器	有台杯	８Ｃ末	Ｂ２
梯子谷-70	Ａ	須恵器	有台杯	８Ｃ末	Ｂ１
梯子谷-75	Ａ	須恵器	有台杯	９Ｃ前半	Ｃ２
梯子谷-76	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ｃ２
梯子谷：Ｉｂ					
梯子谷-63	Ａ	須恵器	無台杯	８Ｃ末	Ａ３（焼成：低）
梯子谷-64	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ａ３（焼成：低）
梯子谷-65	Ａ	須恵器	杯蓋	９Ｃ前半	Ａ４
梯子谷-66	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ａ４（焼成：低）
梯子谷-67	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ａ４
梯子谷-71	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ｂ１
梯子谷-74	Ａ	須恵器	杯蓋	９Ｃ前半	Ｃ１
梯子谷：Ｉｃ					
梯子谷-62	Ａ	須恵器	杯蓋	９Ｃ前半	Ａ４
梯子谷-72	Ａ	須恵器	杯蓋	９Ｃ前半	Ｃ２
梯子谷-73	Ａ	須恵器	無台杯	９Ｃ前半	Ｃ１

第37表　組成分類表

2　木材及び炭化材の樹種同定（平成11年度分析）

A　試　　料

試料は、奈良崎遺跡出土の木材３点と炭化材７点の計10点である。サンプル①～③は古墳時代中期～後期の土器（５世紀後半～６世紀前半）の集中地点より出土した炭化材、サンプル④・⑤は丘陵中位付近の溝ＳＤ23（14世紀～15世紀）より出土した炭化材、サンプル⑥・⑦は近世の炭窯と考えられるＳＫ30・ＳＫ38の底面より出土した炭化材、サンプル⑧～⑩は丘陵裾付近で検出された中世頃の杭材である。

B　方　　法

木材はカミソリを用いて新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、生物顕微鏡によって60～600倍で観察した。炭化材は割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。同定は解剖学的形質及び現生標本との対比によって行った。

C　結　　果

結果を第37表に示す。また、主要な分類群の顕微鏡写真を第96図に示し、以下に同定の根拠となった特徴を記す。

試　　料	樹　　種	（和名／学名）
サンプル①（炭化材）：20K，№11	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Prinus*
サンプル②（炭化材）：20K，№13	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Prinus*
サンプル③（炭化材）：20K，№21	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Prinus*
サンプル④（炭化材）：SD23，上層	草本	grass
サンプル⑤（炭化材）：SD23，22J-8	アカマツ	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.
サンプル⑥（炭化材）：SK30，21H-7S	ブナ科	Fagaceae
サンプル⑦（炭化材）：SK38，５層	アカマツ	*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.
サンプル⑧（木材）：SX40，№５	ケヤキ	*Zelkova serrata* Makino
サンプル⑨（木材）：SX40，№20	クリ	*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.
サンプル⑩（木材）：SX40，22G-10	エノキ属	*Celtis*

第38表　木材及び炭化材の樹種同定結果

アカマツ　*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc.　マツ科（第96-2図）

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横 断 面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には著しい鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科（第96-1図）

横 断 面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

コナラ属コナラ節　*Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科（第96-2図）

横 断 面：年輪のはじめに大型の道管が、１～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

ブ ナ 科　Fagaceae

横 断 面：部分的ではあるが大型の道管と、火炎状に配列する小道管が見られた。

放射断面：放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質より、ブナ科のクリ・シイ属・コナラ属コナラ節のいずれかである。なお、本試料は小片である上に保存状態が悪く、広範囲の観察は困難であったので、ブナ科の同定にとどまる。

ケ ヤ キ　*Zelkova serrata* Makino　ニレ科（第96-1図）

横 断 面：年輪のはじめに大型の道管が１～２列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞で、しばしば大きくふくらむものがある。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は１～７細胞幅である。

エノキ属　*Celtis*　ニレ科（第96-1図）

横 断 面：年輪のはじめに中型から大型の道管が１～２列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、ないし斜線状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性で、ほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部に方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、１～２細胞幅ぐらいで小型のものと、８～10細胞幅ぐらいで鞘細胞をもつ大型のものからなる。

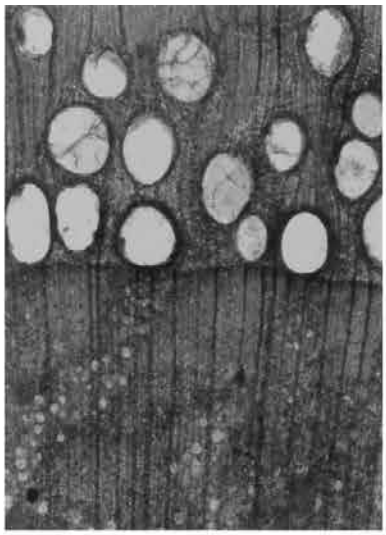
草　　本　grass（第96-2図）

木材の形質を有していなく、草本の炭化したものである。

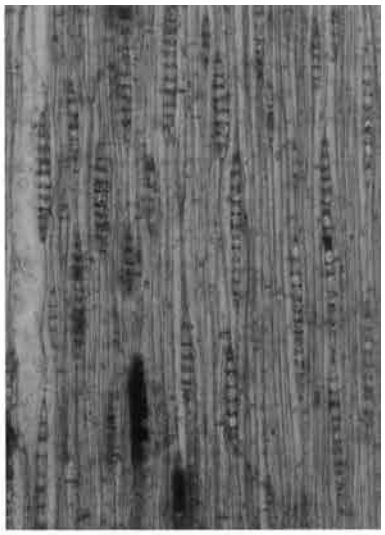
D　所　　見

古墳時代中期～後期の土器（５世紀後半～６世紀前半）集中地点の炭化材であるサンプル①～③は、いずれもコナラ属コナラ節であった。コナラ属コナラ節については、二次林性のコナラやクヌギなどが考えられる。丘陵中位付近の溝ＳＤ23（14世紀～15世紀）出土の炭化材であるサンプル④、⑤と近世の炭窯と考えられるＳＫ30・ＳＫ38の底面の炭化材であるサンプル⑥、⑦は、草本・アカマツ・ブナ科であった。アカマツは二次林の主要素である。丘陵裾付近で検出された中世頃の杭材サンプルである⑧～⑩は、ケヤキ・クリ・エノキ属であった。いずれも人里周辺の人為地にも生育する高木である。

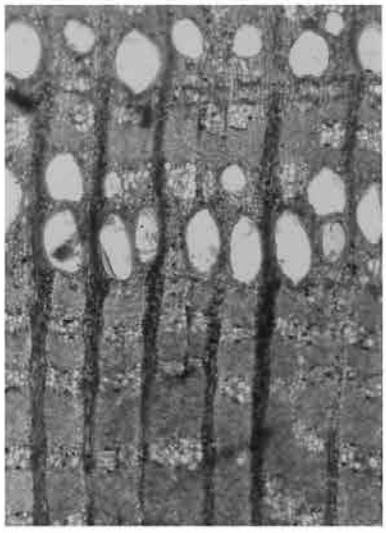
〔株式会社　古環境研究所〕

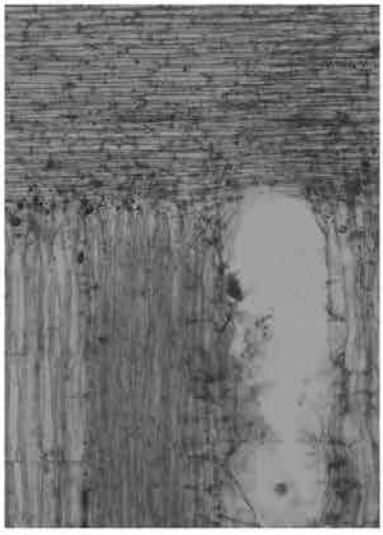

横断面：——— 0.5mm

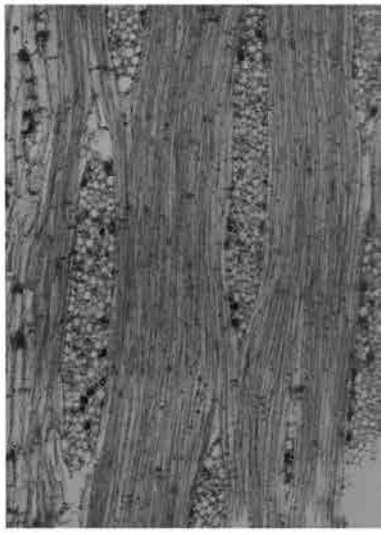
放射断面：——— 0.2mm


接線断面：——— 0.2mm

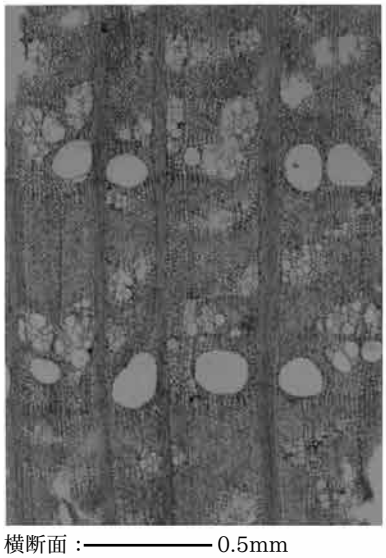
1．サンプル⑨（木材）：SX40，No.20　クリ

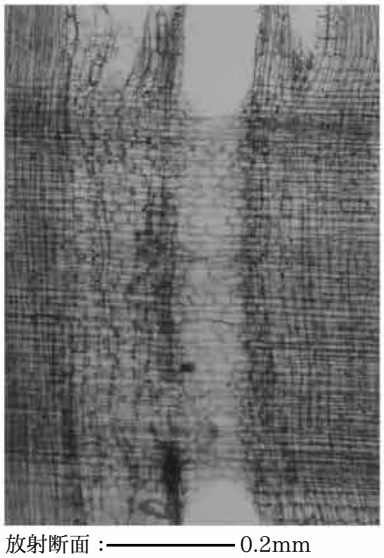

横断面：——— 0.5mm


放射断面：——— 0.2mm


接線断面：——— 0.2mm

2．サンプル⑧（木材）：SX40，No.5　ケヤキ

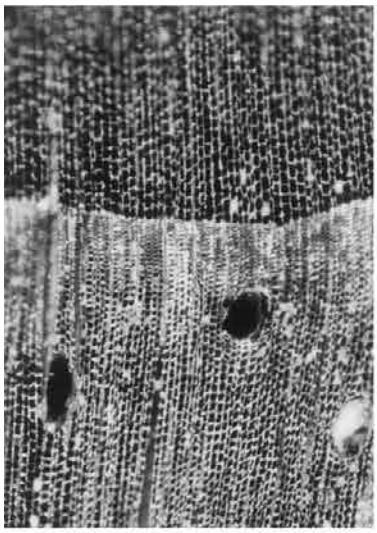

横断面：——— 0.5mm


放射断面：——— 0.2mm

接線断面：——— 0.2mm

3．サンプル⑩（木材）：SX40，22G-10　エノキ属

第96-1図　木材及び炭化材の顕微鏡写真（1）

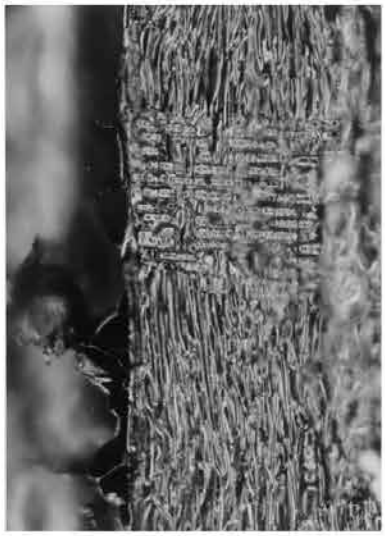

横断面：——— 0.4mm

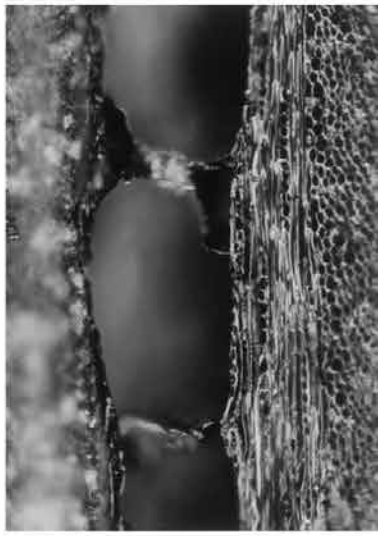
放射断面：——— 0.1mm

接線断面：——— 0.2mm

4．サンプル⑤（炭化材）：SD23，22J-8　アカマツ

横断面：——— 0.4mm


放射断面：——— 0.2mm


接線断面：——— 0.2mm

5．サンプル①（炭化材）：20K，No.11　コナラ属コナラ節

横断面：——— 0.2mm

放射断面：——— 0.2mm

接線断面：——— 0.2mm

6．サンプル④（炭化材）：SD23，上層　草本

第96-2図　木材及び炭化材の顕微鏡写真（2）

3　木器及び炭化材の樹種同定（平成13年度分析）

A　は　じ　め　に

ここでは、中世（主に室町時代）の木器と、中世の土坑・地下式坑や弥生～平安時代の包含層（Va層）から出土した炭化材の樹種を報告する。生活の営みの中で利用されていた木器や炭化材の樹種を明らかにして記録する事は、当遺跡及び周辺地域の樹種利用の歴史を解明して行く資料となり、また利用したであろう周辺の森林など古環境復元の資料蓄積にも繋がる。

B　樹種同定の方法

木器の組織標本は、片刃の剃刀を用いて材の横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柾目）の3方向を薄く剥ぎ取りスライドグラスの上に並べ、ガムクロラールで封入し永久プレパラートを作成し、光学顕微鏡を用いてこれらの材組織を観察し同定を行った。

炭化材は、横断面を手で割り実体顕微鏡で予察をして分類群のおおよその目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリ・シイノキ属などは、横断面の管孔配列が特徴的なので実体顕微鏡下の観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の断面を走査電子顕微鏡で拡大して観察を行い同定した。前述の分類群でも典型的でない試料は、実体顕微鏡下では誤同定の恐れがあるので、走査電子顕微鏡で確認した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

木器の材組織標本は、(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。炭化材は、各試料ごとに検出された分類群に分けて、同定した残りの炭化材を保管した。

C　結　　果

木器樹種（第38・39表）

調査対象は主に複数の井戸から出土した、井戸構築材や漆器椀・箸・木簡・柄などであった。井戸枠や円形板・板材・曲物など井戸構築に関わる木器には針葉樹材が使われ、スギが圧倒的に多く、このほかにヒノキ科に属するヒノキ・ネズコ・サワラも少し含まれていた。SE2401（曲物側板・底板）とSE1905（板材・円形板）は、スギのみが検出された。SE231（円形板）はネズコとヒノキ、SE811（円形板）はヒノキであり、ヒノキ科の材が使われていた井戸もあった。試料数が最も多いSE813では、円形曲物側板・井戸側の側板や支柱はやはりスギがほとんどであったが、ヒノキ科の材も少ないが井戸側桟木（2点はすべてネズコ）や側板（1点はサワラ）に使用されていた。杭（SE831：ナナカマド属、SE2054：アカマツ）や丸太（SE1905：クリ）は、落葉広葉樹材であった。

このほかに井戸内から出土した柄・指物側板・木簡・箸もスギが使われていた。箸（4点）はスギ（1点）のほかにネズコ（2点）とヒノキ（1点）があり、ヒノキ科の材が多く選択使用されていた傾向が見られた。また、杓子もヒノキであった。漆器椀5点は、ブナ属（3点）とハリギリ（2点）である。

SX40の杭（9点）はすべてクリであった。

炭化材樹種（第40・41表）

中世の墓跡やその周囲から出土した土坑からは、クリが出土遺構数と出土量ともに最も多く、次ぎにコナラ節やケヤキが目立ち、そのほかにヤナギ属・イヌシデ節・ハンノキ亜属・モクレン属・サクラ属・カエデ属・ヒサカキ・タラノキ・エゴノキ属・ガマズミ属・散孔材Ａの合計14分類群が検出された。炭化材は、直径が5cm以下の幹・枝材と推定されるものが多く、柾目面で削ぎ落とされたような破片（クリに多い）、横断面に段差加工がなされている破片（SK941に含まれる）、柾目板状の破片（SK1311のケヤキ）、斜め切削痕のある丸木（SK1292のコナラ節）なども含まれていた。ガマズミ属（SK1311出土）は潅木で、炭化材は分枝する節部や当年～２年生の細い材であった。散孔材Ａ（SK1306出土）も、節部や根・匍匐部の茎のような炭化材であった。この２分類群が出土した土坑は墓の周囲の浅い土坑であり、高木落葉樹ではないことから燃料材としての効果は期待されないので､周囲に生育していたものであったのかも知れない。

弥生～平安時代の包含層Va層からも、クリが最も多く検出された。中世からも検出されたイヌシデ節・サクラ属・カエデ属も出土し、このほかにはトチノキ・トネリコ属が検出された。しかし、中世の墓跡から多く検出されたコナラ節とケヤキは、検出されなかった。

以下に同定根拠とした材組織の観察結果を、分類順に記載する。

アカマツ　*Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科　第97-1図　1a-1c（木器581）

垂直と水平の樹脂道があり、早材から晩材への移行はゆるやかな針葉樹材。分野壁孔は窓状、放射仮道管内壁の鋸歯状肥厚は顕著である。

スギ　*Cryptomeria japonica* D.Don スギ科　第97-1図　2a・2b（木器569）2c（木器567）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は多く仮道管壁は極めて厚い。分野壁孔は大きなスギ型、１分野に２～３個が水平に配置している。

ネズコ　*Thuja standishii* Carr.　ヒノキ科　第97-1図　3a・3b（木器300）3c（木器579）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は多く、仮道管壁も肥厚している。分野壁孔はやや小型のスギ型とヒノキ型、１分野に２～４個ある。

ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科　第97-2図　4a-4c（木器299）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少なく、仮道管壁も厚くならない。分野壁孔は典型的なヒノキ型、１分野におもに２個が水平に整然と配列する。

サワラ　*Chamaecyparis pisifera* Sieb. et Zucc. ヒノキ科　第97-2図　5a-5c（木器316）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量はヒノキに比べ多く、仮道管壁も肥厚している。分野壁孔はヒノキ型であるが孔口は壁孔縁の幅と同程度に開き、１分野に主に２個が水平に整然と配列する。

ヤナギ属　*Salix*　ヤナギ科　第97-2図　6a-6c（SK1745）

小型の管孔が単独または２～４個が複合し、晩材部に向いゆるやかに径を減じる散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は単列異性、道管との壁孔は大きく蜂の巣状である。

クマシデ属イヌシデ節　*Carpinus* sect. *Eucarpinus*　カバノキ科　第97-3図　7a-7c（SK11）

放射組織が集合する部分と２～数個の小型の管孔が放射方向に複合し､配列する部分とがある放射孔材。道管の壁孔は小型で交互状に密在、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、１～３細胞幅、道管との壁

孔は交互状でやや大きく開孔している。

ハンノキ属ハンノキ亜属　*Alnus* subgen. *Alnus*　カバノキ科　第97-3図　8a-8c（SK941）

単独または２～３個の小型の管孔が複合し、多数が分布する散孔材。道管の壁孔は小型で交互状に密在、穿孔は横棒数20本前後の階段穿孔である。放射組織は単列同性、道管との壁孔は小型で交互状に密在する。

ブナ属　*Fagus*　ブナ科　第97-3図　9a-9c（木器327）

丸みをおびた小型の管孔が密在し除々に径を減じてゆき、晩材では極めて小型となり分布数も減る散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が10～20本の階段穿孔状と単穿孔がある。放射組織は異性、１～３細胞幅と細胞幅が広く背も高い大型の放射組織がある。

コナラ属コナラ亜属コナラ節　*Quercus*. subgen. *Quercus* sect. *Prinus*　ブナ科　第97-4図　10a-10c（木器301）

年輪の始めに大型の管孔が配列し、その後は薄壁・角形で小型の管孔が火炎状・放射状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、単列と広放射組織がある。

クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　ブナ科　第97-4図　11a-11c（木器53）

年輪の始めに中型の管孔が密に配列して除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一である。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

ケヤキ　*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino　ニレ科　第97-4図　12a-12c（SK1311）

年輪の始めに中型の管孔が１～２層配列し、その後は小型の管孔が多数集合して接線状・斜状・塊状に分布する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、小道管にらせん肥厚がある。放射組織は異性、１～５細胞幅の紡錘形、上下端や縁に結晶細胞があり、道管との壁孔は小型で交互状である。

モクレン属　*Magnolia*　モクレン属　第97-5図　13a-13c（SK1259）

小型の管孔が単独または２～数個が複合して多数が分布する散孔材。道管の壁孔は階段状、穿孔は主に単一で階段穿孔もある。放射組織は異性、１～２細胞幅、上下端に方形細胞がある。

サクラ属　*Prunus*　バラ科　　第97-5図　14a-14c（SK1745）

小型の管孔が年輪の始めにやや密に分布し、その後は放射状・接線状・斜状に複合して分布している散孔材。道管の壁孔は対列状または交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織はほぼ同性、主に５細胞幅の紡錘形である。

ナナカマド属　*Sorbus*　バラ科　第97-5図　15a-15c（木器56）

小型で孔口の丸い管孔が主に単独で均一に散在し、年輪始めの管孔はやや大きい散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にかすかにらせん肥厚がある。放射組織は同性、１～２細胞幅、道管との壁孔は小型で交互状である。

カエデ属　*Acer*　カエデ科　第97-6図　16a-16c（SK1745）

小型の管孔が単独または２～３個が放射方向に複合して分布し年輪界は不明瞭な散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、１～４細胞幅、道管との壁孔は交互状で孔口はやや大きい。

トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　トチノキ科　第97-6図　17a-17c（28J-21 Va層）

小型の管孔が単独または２～数個が複合して分布する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は単列同性で層階状、道管の壁孔は交互状でやや大きく開く。

ヒサカキ　*Eurya japonica* Thunb.　ツバキ属　第97-6図　18a-18c（SK1745）

非常に小型で多角形の管孔が密に散在する散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が非常に多い階段穿孔である。放射組織は異性、２細胞幅が多く単列部の直立細胞は背が高く、道管との壁孔は交互状・階段状である。

ハリギリ　*Kalopanax pictus*（Thunb.）Nakai　ウコギ科　第97-7図　19a-19c（木器325）

年輪の始めに非常に大型の管孔が間隔を開けて１層配列し、その間には小型の管孔が混在し、孔圏外では急に径を減じて非常に小型の管孔が多数複合し接線状・斜状・波状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は異性、おもに５細胞幅の紡錘形、上下端に方形細胞があり、道管との壁孔は大きく開孔して交互状である。ニレ属やケヤキに似るが、ハリギリには小道管にらせん肥厚がない。

タラノキ　*Aralia elata* Seem. ウコギ科　第97-7図　20a-20c（SK11）

年輪の始めに中型や小型の管孔が配列し、その後は非常に小型の管孔が斜状・接線状・波状に複合して紋様を描き配列する環孔材。道管の壁孔は開孔が広く交互状、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、３細胞幅である。小道管にらせん肥厚はない。

エゴノキ属　*Styrax*　エゴノキ科　第97-7図　21a-21c（SK1745）

小型の管孔が単独または２～４個が複合して放射方向に配列し、晩材部では径が減少する散孔材。道管の壁孔は小型で交互状に密在、穿孔は横棒数が少ない階段穿孔である。放射組織は異性、１～４細胞幅、多列部の上下端は方形・直立細胞からなる単列部が１～４層ある。

トネリコ属　*Fraxinus*　モクセイ科　第97-8図　22a-22c（28J-6 Va層）

年輪の始めに大型の管孔が２～３層配列し、その後は単独または２個が複合した小型で厚壁の管孔が散在する環孔材。周囲状柔組織が顕著である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一である。放射組織は同性、１～２細胞幅である。

ガマズミ属　*Viburnum*　スイカズラ科　第97-8図　23a-23c（SK1311）

非常に小型の管孔がほぼ単独でややまばらに分布する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は横棒数が30本前後の階段穿孔である。放射組織は異性、１～２細胞幅、上下端の単列部は方形・直立細胞からなり、道管との壁孔は小型で交互状である。

散孔材Ａ　diffuse-porous wood A　第97-8図　24a-24c（SK1306）

非常に小型の管孔がほぼ単独でややまばらに分布する散孔材。道管の穿孔は横棒数が20本以上の階段穿孔である。放射組織は異性、１～４細胞幅、放射組織の細胞構成は不斉、放射柔細胞は大きい。柔細胞からなる髄を持つものや、茎がうねっているもの、中心部が横断面の縁に偏在しているものがあり、根または匍匐茎の可能性も考えられた。

Ｄ　ま　と　め

当遺跡の中世の木器樹種を調査した結果、井戸構築材には主にスギが使用されていた。北陸一帯では、スギが様々な製品に利用される特徴が知られている。牛道遺跡（亀田町）の平安時代の井戸遺構から出土した木製品もスギが多い［株式会社古環境研究所1999］。また、隣接する大武遺跡（和島村）［松葉2000］や新保遺跡（柿崎町）［松葉2001］においても、中世の木製品のほとんどにスギが使われていた。新保遺跡では中世の井戸材の調査があり、やはりスギが多く使用されていたが、隅柱はコナラ節が、横桟はクリが使われていた。当遺跡でも、SE813の横桟はネズコであり、井戸内の杭はアカマツやナナカマド属で、やはりスギ以外の樹種が使用されていた。当遺跡では98SX40の杭や井戸内から出土した丸木は、クリ

材が多い。大武遺跡でも杭はクリが多く、新保遺跡では柱根にクリが多く使用されていた。中世の当地域一帯では、スギとクリが多用されていたことが、今回の調査からもより明らかになった。当遺跡の漆器からは、ブナ属とハリギリが検出された。ハリギリも漆器木胎の樹種として知られているが、同じ環孔材のケヤキに比べ報告例は少ない。大武遺跡や新保遺跡においても、漆器や挽物はブナ属が多いが、大武遺跡からは挽物にハリギリ（1点）が報告されている。

炭化材からはスギや針葉樹は検出されず、広葉樹16分類群が検出された。墓に関連する中世の土坑からは、クリが多く、次にコナラ節やケヤキが多く検出された。このほかにも丘陵地や河川沿いに生育していたと推定されるヤナギ属・ハンノキ亜属・イヌシデ節・サクラ属・カエデ属・エゴノキ属・タラノキなどが検出され、燃料材として使用されていたと考えられる。釈迦堂遺跡（黒崎町）では、平安時代の墓に関連する土坑の炭化材樹種の報告があり、やはり各土坑からは複数の樹種が検出されている［パリノ・サーヴェイ株式会社2000］。ここでは、針葉樹のヒノキ属やイチイも含まれ、広葉樹材はヤナギ属・イヌシデ節・クヌギ節・コナラ節・エゴノキ属・サクラ属・クリである。広葉樹材は、当遺跡の樹種と共通性がみられるが、釈迦堂遺跡ではクリが意外と少ない点が異なる。当遺跡では弥生～平安時代の包含層Va層から出土した炭化材にもクリが多いことから、クリはスギと共に弥生時代以降から長期にわたり、重要な利用樹種であったことが判った。

〔株式会社　パレオ・ラボ　植田弥生〕

引用文献

株式会社古環境研究所、1999、牛道遺跡出土木製品の樹種同定、「牛道遺跡」、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。

松葉礼子、2000、大武遺跡出土木製品の樹種同定、42-47、図版84-90、「大武遺跡Ⅰ」、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。

松葉礼子、2001、新保遺跡出土木製品の樹種同定、78-82、図版199-202、「新保遺跡」、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。

パリノ・サーヴェイ株式会社、2000、樹種同定、75-77、第28図-第32図、「釈迦堂遺跡」、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団。

報告番号	調査年度	遺構	器種	樹種	時期	備考
48	98	SX40	杭	クリ	中世	No3
49	98	SX40	杭	クリ	中世	No31
50	98	SX40	杭	クリ	中世	No29
51	98	SX40	杭	クリ	中世	No15
52	98	SX40	杭	クリ	中世	No11
53	98	SX40	杭	クリ	中世	No13
54	98	SX40	杭	クリ	中世	No24
55	98	SX40	杭	クリ	中世	No11
56	98	SX40	杭	クリ	中世	No26
150	99	SE2401	円形曲物側板	スギ	中世	
151	99	SE2401	円形曲物底板	スギ	中世	
152	99	SE2401	円形板	スギ	中世	
164	99	SE1388	木簡	スギ	中世	
298	99	SE231	円形板	ネズコ	中世	300と同一個体か
299	99	SE231	円形板	ヒノキ	中世	
300	99	SE231	円形板	ネズコ	中世	298と同一個体か
301	99	SE231	楔	コナラ節	中世	
302	99	SE831	漆器椀	ハリギリ	中世	
303	99	SE813	円形曲物側板	スギ	中世	
304	99	SE813	板材	スギ	中世	
305	99	SE813	板材	スギ	中世	
306	99	SE813	角材(井戸側桟木)	ネズコ	中世	
307	99	SE813	角材(井戸側桟木)	ネズコ	中世	
308	99	SE813	板材(井戸側側板)	スギ	中世	
309	99	SE813	板材(井戸側側板)	スギ	中世	
310	99	SE813	角材(井戸側支柱)	スギ	中世	
311	99	SE813	角材(井戸側支柱)	スギ	中世	
312	99	SE813	角材(井戸側支柱)	スギ	中世	
313	99	SE813	角材(井戸側支柱)	スギ	中世	

報告番号	調査年度	遺構	器種	樹種	時期	備考
314	99	SE813	柄	スギ	中世	
315	99	SE813	板材(井戸側側板)	スギ	中世	
316	99	SE813	板材(井戸側側板)	サワラ	中世	
317	99	SE813	板材(井戸側側板)	スギ	中世	
318	99	SE813	板材(井戸側側板)	スギ	中世	
320	99	SE813	漆器椀	ブナ属	中世	
321	99	SE831	漆器椀	ハリギリ	中世	
322	99	SE831	漆器椀	ブナ属	中世	
323	99	SE831	漆器椀	ブナ属	中世	
329	99	SE831	円形板	ヒノキ	中世	
—	99	SE831	杭	ナナカマド属	中世	
335	99	SE811	円形板	ヒノキ	中世	
567	99	SE1905	板材	スギ	中世	
568	99	SE1905	円形板の転用品	スギ	中世	569･571と同一個体か
569	99	SE1905	円形板の転用品	スギ	中世	568･571と同一個体か
570	99	SE1905	板材の転用品	スギ	中世	
571	99	SE1905	円形板の転用品	スギ	中世	568･569と同一個体か
572	99	SE1905	板材の転用品	スギ	中世	
573	99	SE1905	円形板の転用品	スギ	中世	
574	99	SE1905	板材の転用品	スギ	中世	
575	99	SE1905	丸太材	クリ	中世	
576	99	SE1905	板材	スギ	中世	
577	99	SE2050	箸	ヒノキ	中世	
578	99	SE2051	箸	スギ	中世	
579	99	SE2052	箸	ネズコ	中世	
580	99	SE2053	箸	ネズコ	中世	
581	99	SE2054	杭	アカマツ	中世	
582	99	SE2055	柄	スギ	中世	
621	99	SE1468	杓子	ヒノキ	中世	
628	99	SE1373	指物側板	スギ	中世	

第39表 木器（中世）の樹種同定結果

遺構 / 樹種	井戸																				SX40	合計
	SE813					SE2401		SE1905		井戸内出土												
	板材	井戸側			円形曲物側板	円形曲物		板材	円形板	円形板	柄	指物側板	木簡	箸	杓子	漆器椀	楔	丸太材	杭	杭	
		角材桟木	側板	角材支柱		側板	底板															
アカマツ																			1		1
スギ	2		5	4	1	1	1	5	4	1	2	1	1	1							29
ネズコ		2								2				2							6
ヒノキ										3				1	1						5
サワラ			1																		1
ブナ属																3					3
コナラ節																	1				1
クリ																		1		9	10
ナナカマド属																			1		1
ハリギリ																2					2
合計	2	2	6	4	1	1	1	5	4	6	2	1	1	4	1	5	1	1	2	9	59

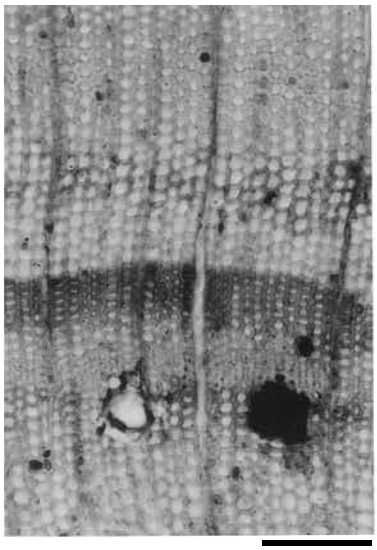
第40表　遺構別出土木器の樹種利用傾向

遺構名	グリッド	時　　期	樹　　種	確認点数	備　　考
SK1306	24K-16	中世？	クリ	多数	直径1.3cm丸木や破片多数
			コナラ節	複数	破片複数
			散孔材A	5	根または葡萄茎か？ 直径3cm前後の破片
SK941	28J-11	中世 （銭貨・小骨片出土）	クリ	多数	芯持ち丸木や加工痕のある破片
			コナラ節	複数	破片
			ケヤキ	5	破片
			ハンノキ亜属	1	破片
SK1311	25K-20	中世？	クリ	多数	直径1.3cm～2.5cm丸木 樹皮付きもあり
			ケヤキ	多数	厚み1cm前後の柾目板状や破片
			ガマズミ属	複数	直径1cm前後の丸木で当年～2年生の材
SK1292	28I-12	中世 （地下式坑）	クリ	多数	直径1.5cm～5cmの丸木の破片
			コナラ節	1	直径1.8cm丸木で斜め切削痕あり
SK1745	28J-25	中世 （地下式坑）	ケヤキ	多数	直径2.5cm前後の破片
			サクラ属	2	放射径5cm破片と小破片
			エゴノキ属	2	直径2cm破片と小破片
			ヤナギ属	1	直径5.5cm丸木
			コナラ節	1	直径1.5cm破片
			カエデ属	1	放射径1.8cm破片
			ヒサカキ	1	直径1.5cm破片
SK1259	28J-8	中世 （小骨片出土）	モクレン属	2	直径4.2cm丸木破片と小破片
			カエデ属	1	2×4cm破片
SK11		中世 （底面が焼土化）	イヌシデ節	1	直径2.5cm丸木
			クリ	1	直径3cm丸木
			タラノキ	1	直径2cm丸木
	28J-6	弥生～平安 （包含層Ⅴa）	クリ	3	直径2cm前後丸木破片と小破片
			イヌシデ節	1	放射径1.8cm破片
			トネリコ属	1	放射径2cm破片
	28J-1	弥生～平安 （包含層Ⅴa）	クリ	1	放射径2.5cm破片
			サクラ属	1	破片
	28J-21	弥生～平安 （包含層Ⅴa）	トチノキ	3	2～3.3×2～4.5cm破片
			クリ	1	2×2破片
			トネリコ属	1	0.4×1cm薄板状の加工材破片
	27J-19	弥生～平安 （包含層Ⅴa）	カエデ属	1	放射径3cm破片
	27J-5	弥生～平安 （包含層Ⅴa）	クリ	多数	破片

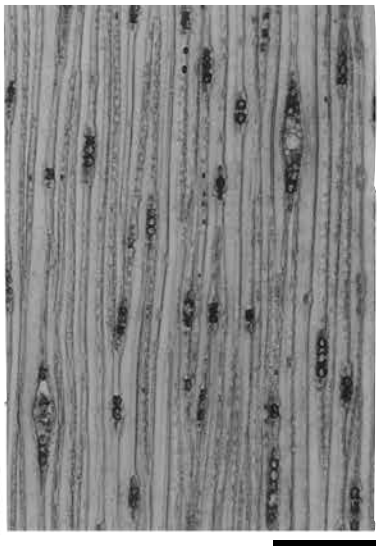
第41表　炭化材の樹種同定結果

遺構	土坑（中世または中世？）							包含層Ⅴa層（弥生～平安）				
樹種	SK1306	SK941	SK1311	SK1292	SK1745	SK1259	SK11	28J-6	28J-1	28J-21	27J-19	27J-5
ヤナギ属					1							
イヌシデ節							1	1				
ハンノキ亜属		1										
コナラ節	○	○		1	1							
クリ	●	●	●	●			1	3	1	1		●
ケヤキ		5	○		●							
モクレン属						2						
サクラ属					2				1			
カエデ属					1	1					1	
トチノキ										3		
ヒサカキ					1							
タラノキ							1					
エゴノキ属					2							
トネリコ属								1		1		
ガマズミ属			○									
散孔材A	5											

第42表　炭化材遺構別の検出樹種比較（●：多数　○：複数）

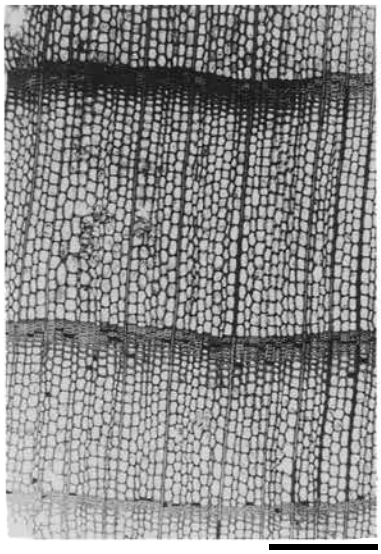


1a　アカマツ（横断面）
木器581　　bar：0.2mm

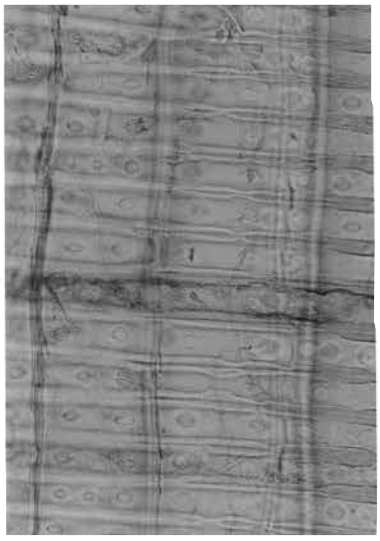


1b　アカマツ（接線断面）
木器581　　bar：0.2mm

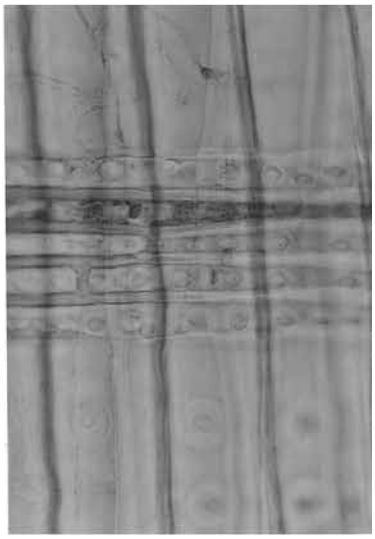
1c　アカマツ（放射断面）
木器581　　bar：0.05mm



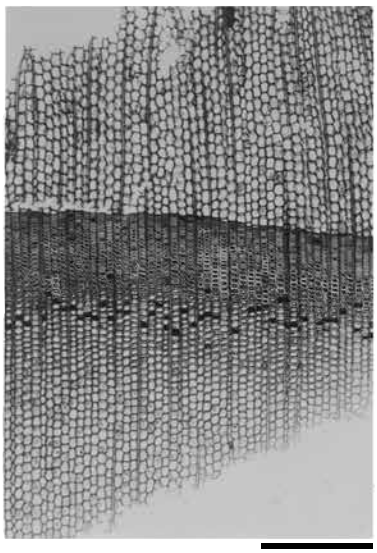
2a　スギ（横断面）
木器569　　bar：0.5mm



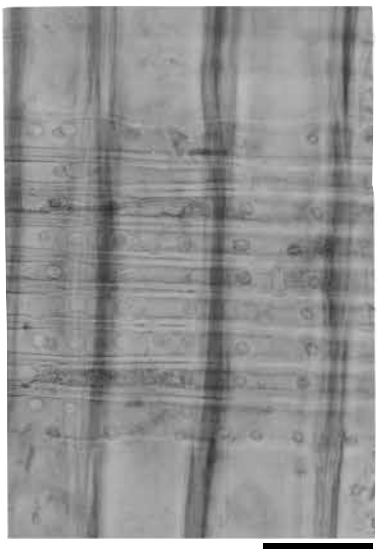
2b　スギ（放射断面）
木器569　　bar：0.05mm



2c　スギ（放射断面）
木器567　　bar：0.05mm



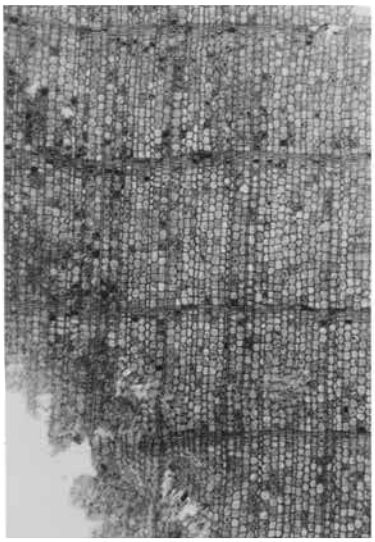
3a　ネズコ（横断面）
木器300　　bar：0.5mm



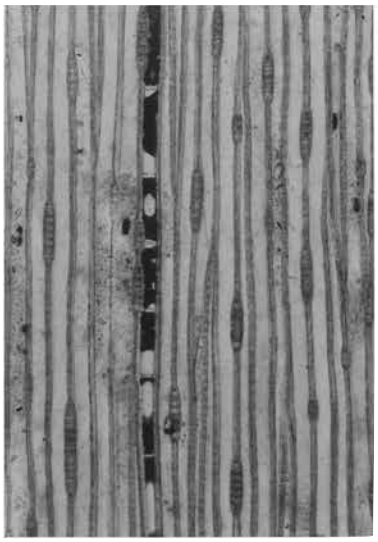
3b　ネズコ（放射断面）
木器300　　bar：0.05mm

3c　アカマツ（放射断面）
木器579　　bar：0.05mm

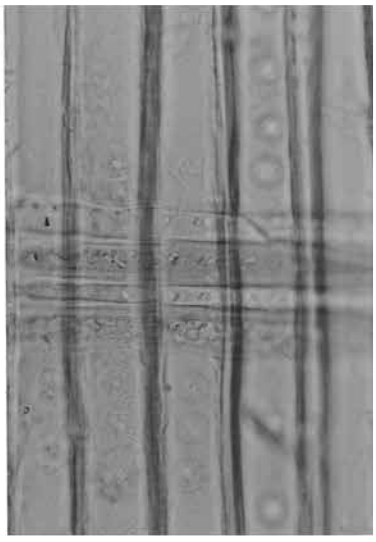
第97-1図　木器・炭化材樹種（1）



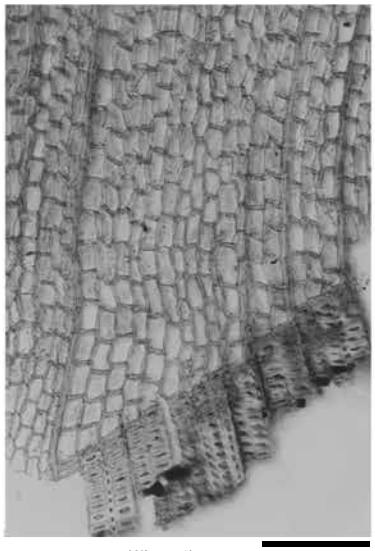
4a　ヒノキ（横断面）
木器299　　bar：0.5mm



4b　ヒノキ（接線断面）
木器299　　bar：0.2mm

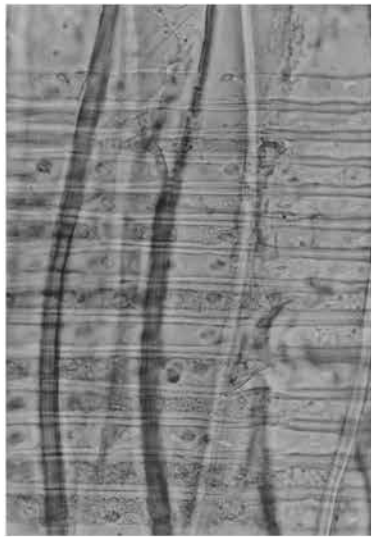


4c　ヒノキ（放射断面）
木器299　　bar：0.05mm

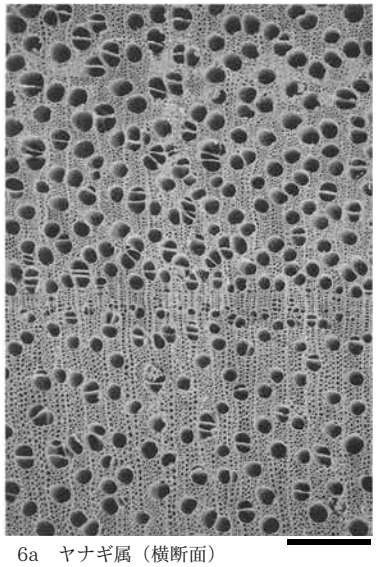


5a　サワラ（横断面）
木器316　　bar：0.2mm

5b　サワラ（接線断面）
木器316　　bar：0.2mm

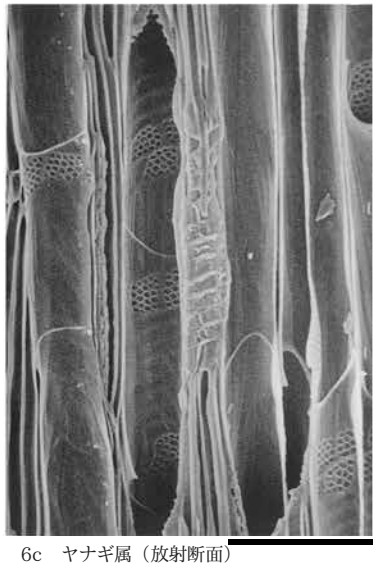


5c　サワラ（放射断面）
木器316　　bar：0.05mm



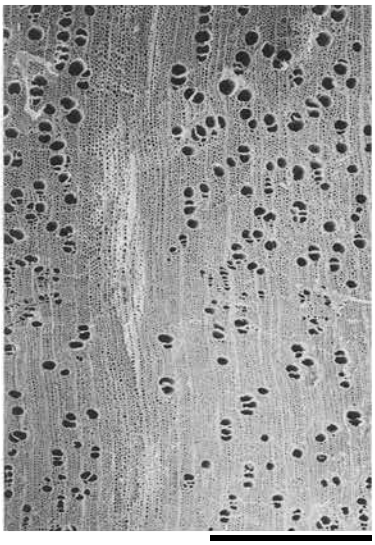
6a　ヤナギ属（横断面）
SK1745　　bar：0.5mm

6b　ヤナギ属（接線断面）
SK1745　　bar：0.1mm



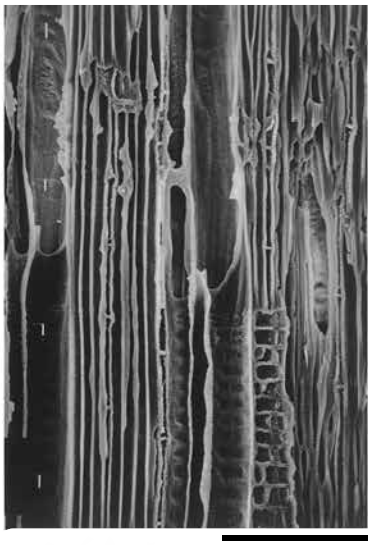
6c　ヤナギ属（放射断面）
SK1745　　bar：0.1mm

第97-2図　木器・炭化材樹種（2）

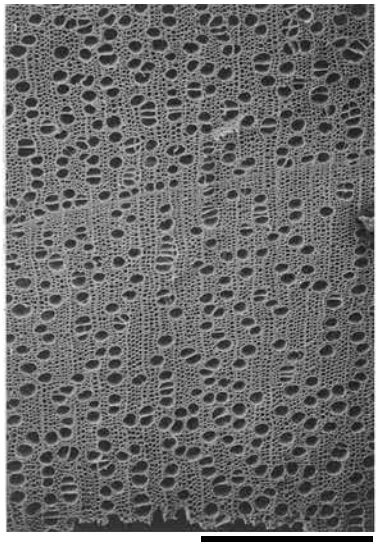


7a　イヌシデ節（横断面）
SK11　　bar：0.5mm

7b　イヌシデ節（接線断面）
SK11　　bar：0.1mm

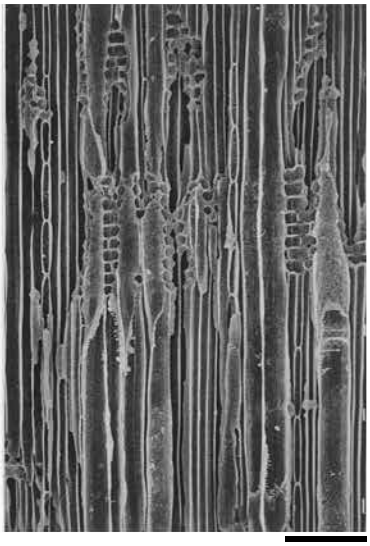


7c　イヌシデ節（放射断面）
SK11　　bar：0.1mm

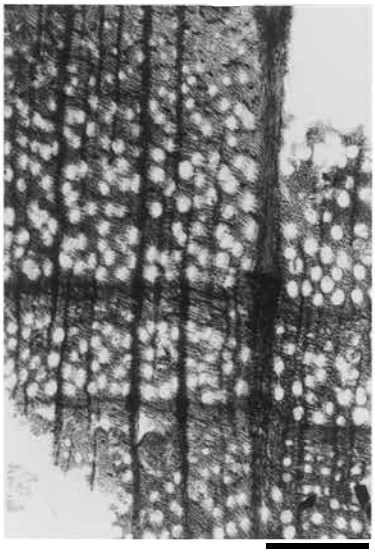


8a　ハンノキ亜属（横断面）
SK941　　bar：0.5mm

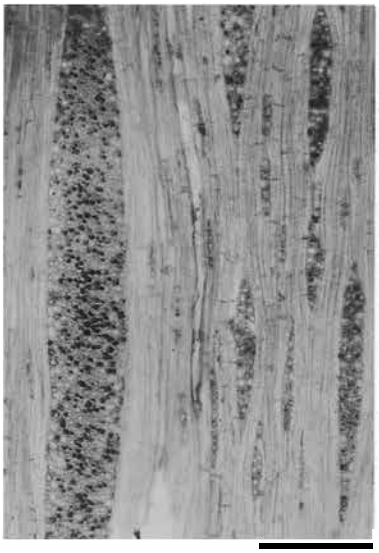
8b　ハンノキ亜属（接線断面）
KS941　　bar：0.1mm



8c　ハンノキ亜属（放射断面）
SK941　　bar：0.1mm



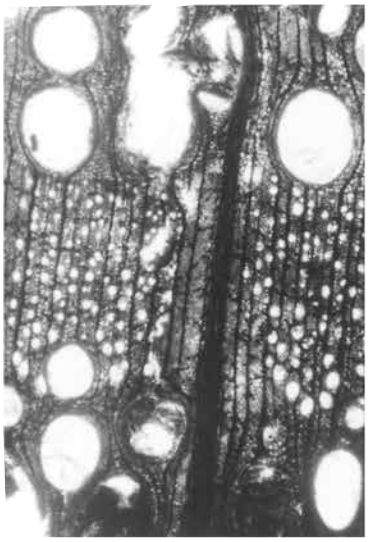
9a　ブナ属（横断面）
木器327　　bar：0.5mm



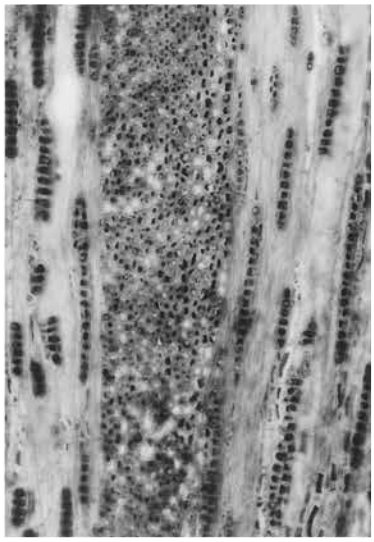
9b ブナ属（接線断面）
木器327　　bar：0.2mm

9c　ブナ属（放射断面）
木器327　　bar：0.1mm

第97-3図　木器・炭化材樹種（3）

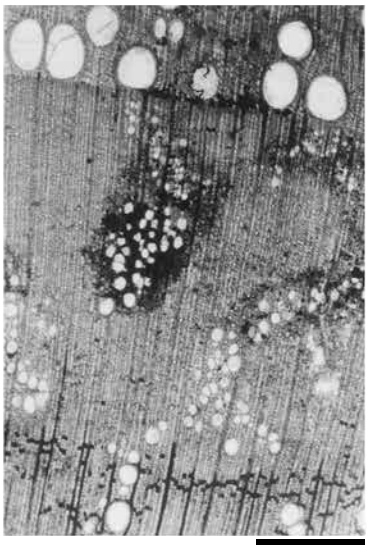


10a　コナラ節（横断面）
木器301　　bar：0.5mm

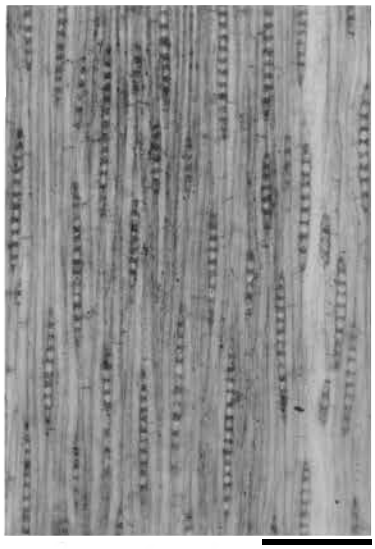


10b　コナラ節（接線断面）
木器301　　bar：0.2mm

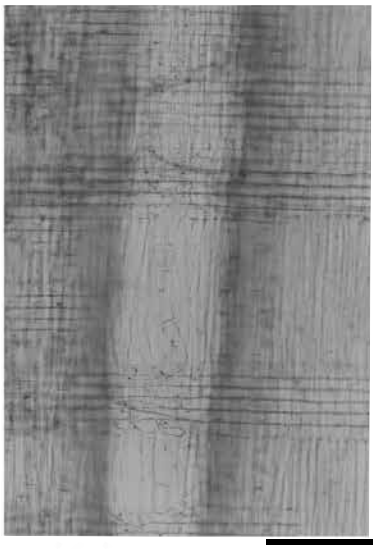
10c　コナラ節（放射断面）
木器301　　bar：0.2mm



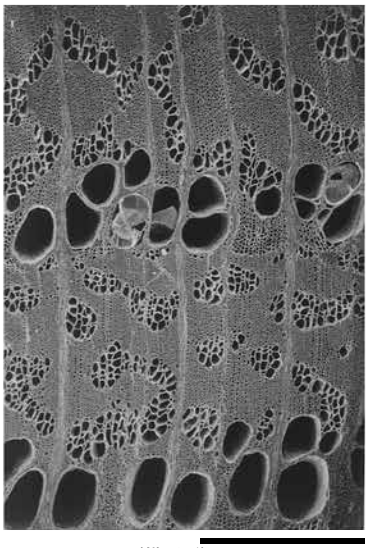
11a　クリ（横断面）
木器53　　bar：0.5mm



11b　クリ（接線断面）
木器53　　bar：0.2mm

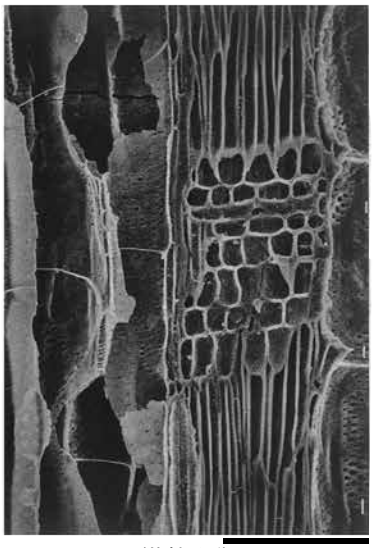


11c　クリ（放射断面）
木器53　　bar：0.2mm



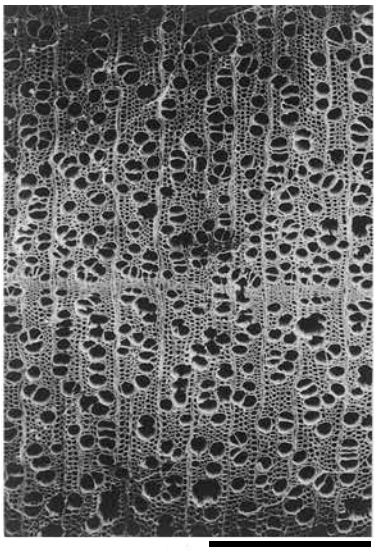
12a　ケヤキ（横断面）
SK1311　　bar：0.5mm

12b　ケヤキ（接線断面）
SK1311　　bar：0.1mm

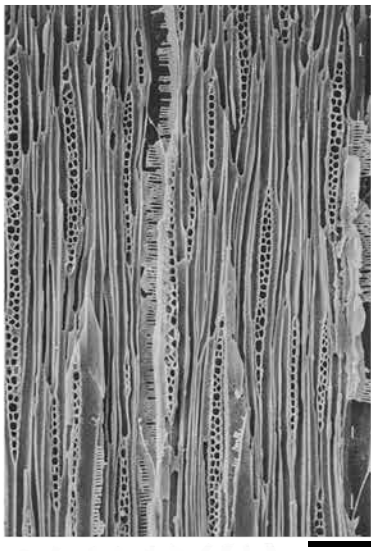


12c　ケヤキ（放射断面）
SK1311　　bar：0.1mm

第97-4図　木器・炭化材樹種（4）

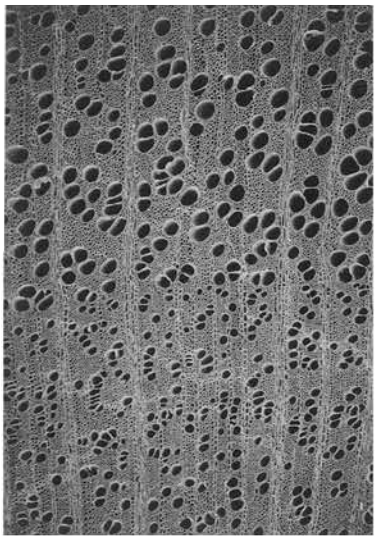


13a　モクレン属（横断面）
SK1259　　bar：0.5mm

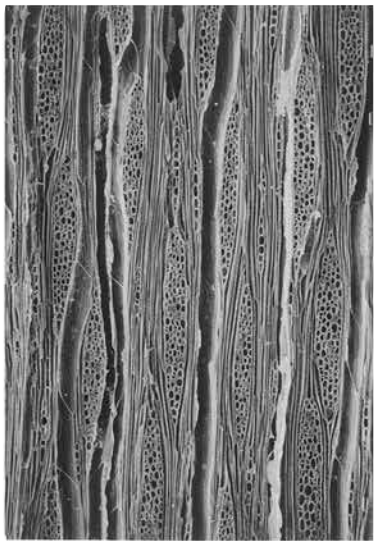


13b　モクレン属（接線断面）
SK1259　　bar：0.5mm

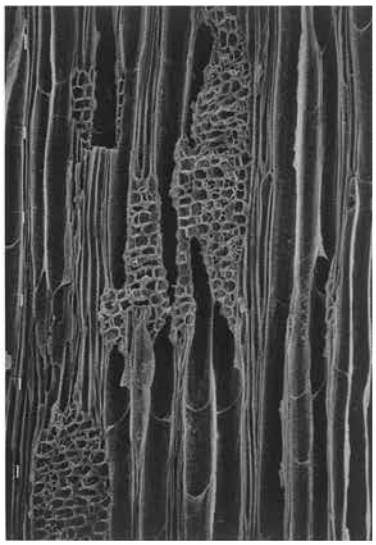
13c　モクレン属（放射断面）
SK1259　　bar：0.1mm



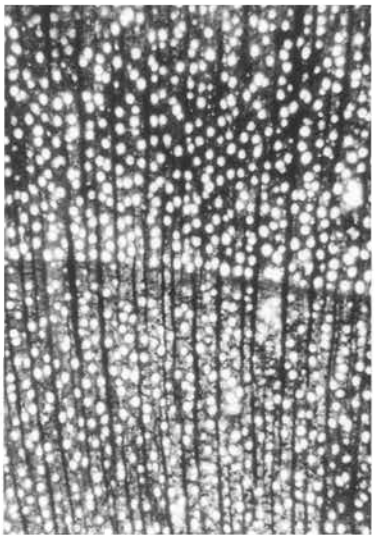
14a　サクラ属（横断面）
SK1745　　bar：0.5mm



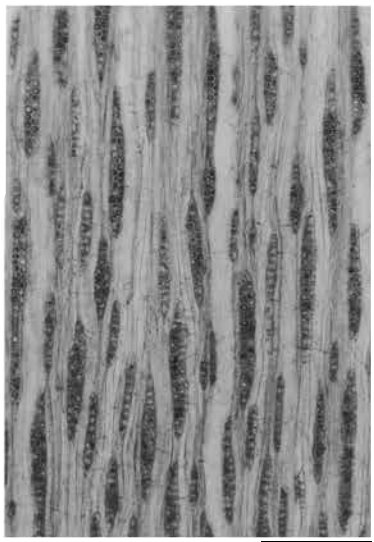
14b　サクラ属（接線断面）
SK1745　　bar：0.5mm



14c　サクラ属（放射断面）
SK1745　　bar：0.1mm



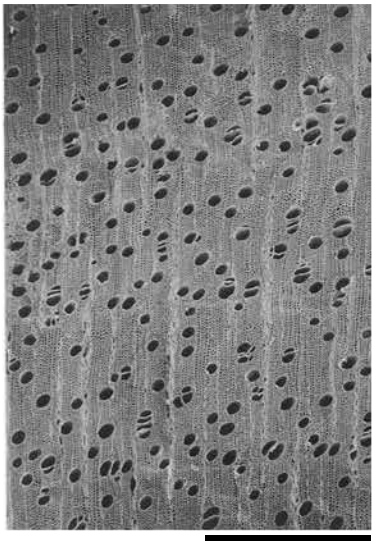
15a　ナナカマド属（横断面）
木器56　　bar：0.5mm



15b　ナナカマド属(接線断面)
木器56　　bar：0.2mm

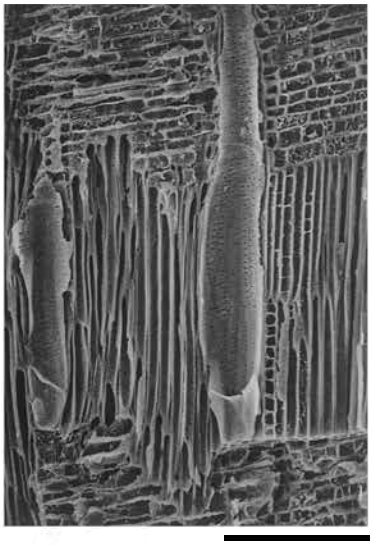
15c　ナナカマド属(放射断面)
木器56　　bar：0.1mm

第97-5図　木器・炭化材樹種（5）

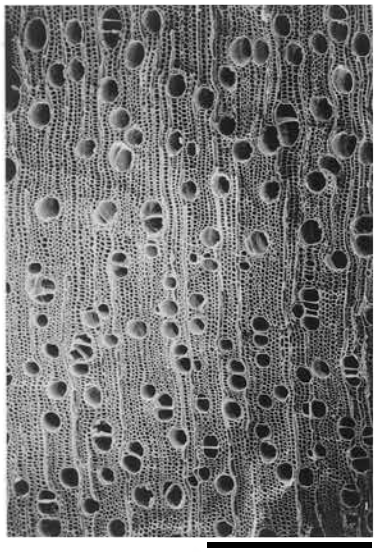


16a　カエデ属（横断面）
SK1745　　bar：0.5mm

16b　カエデ属（接線断面）
SK1745　　bar：0.5mm



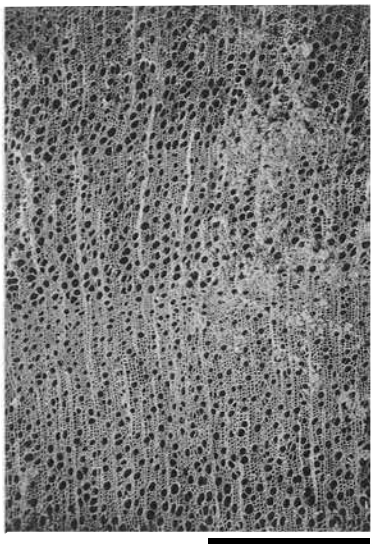
16c　カエデ属（放射断面）
SK1745　　bar：0.1mm



17a　トチノキ（横断面）
28J-21（Ⅴa層）　　bar：0.5mm

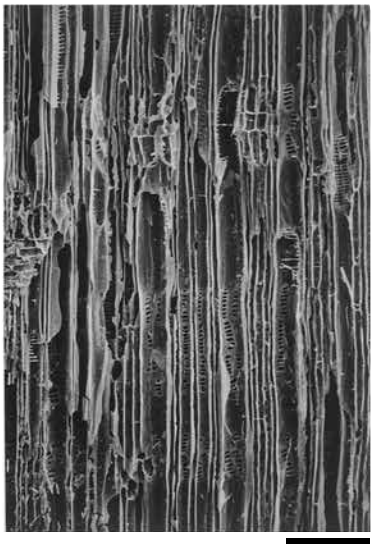
17b　トチノキ（接線断面）
28J-21（Ⅴa層）　　bar：0.1mm

17c　トチノキ（放射断面）
28J-21（Ⅴa層）　　bar：0.1mm



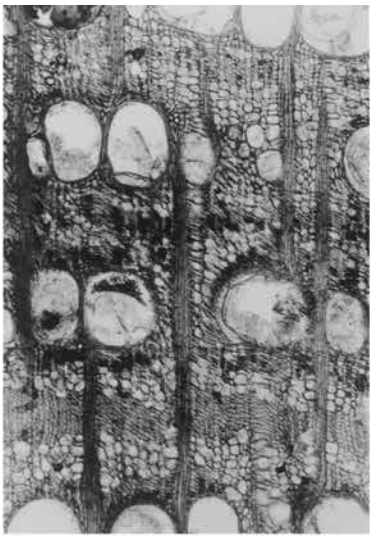
18a　ヒサカキ（横断面）
SK1745　　bar：0.5mm

18b　ヒサカキ（接線断面）
SK1745　　bar：0.1mm



18c　ヒサカキ（放射断面）
SK1745　　bar：0.1mm

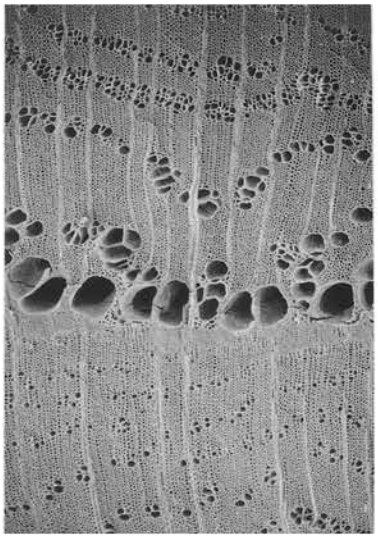
第97-6図　木器・炭化材樹種（6）



19a　ハリギリ（横断面）
木器325　　bar：0.5mm

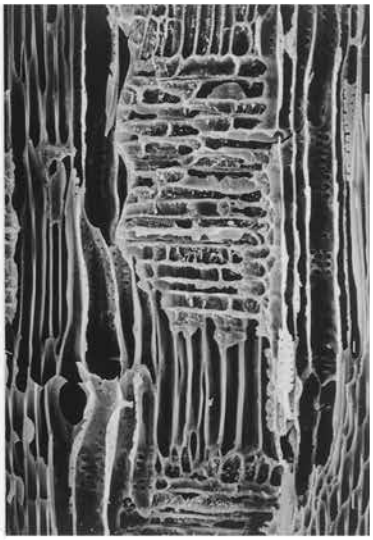
19b　ハリギリ（接線断面）
木器325　　bar：0.5mm

19c　ハリギリ（放射断面）
木器325　　bar：0.1mm

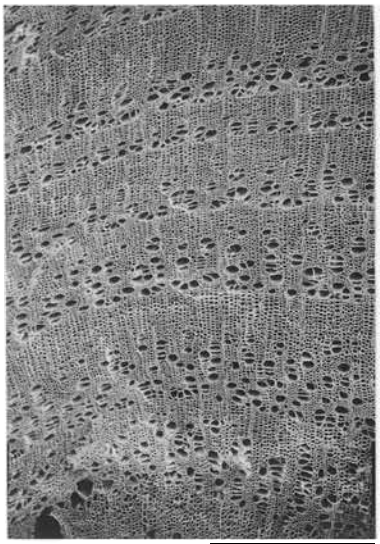


20a　タラノキ（横断面）
SK11　　bar：0.2mm

20b　タラノキ（接線断面）
SK11　　bar：0.1mm

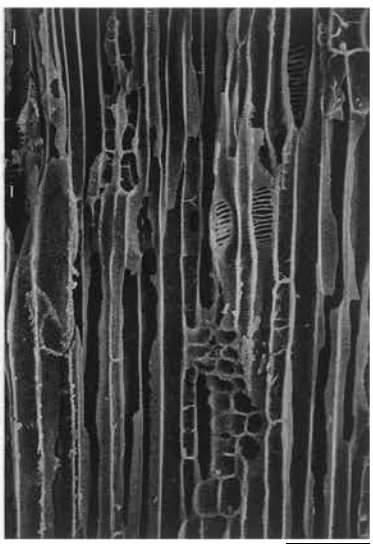


20c　タラノキ（放射断面）
SK11　　bar：0.1mm



21a　エゴノキ属（横断面）
SK1745　　bar：0.5mm

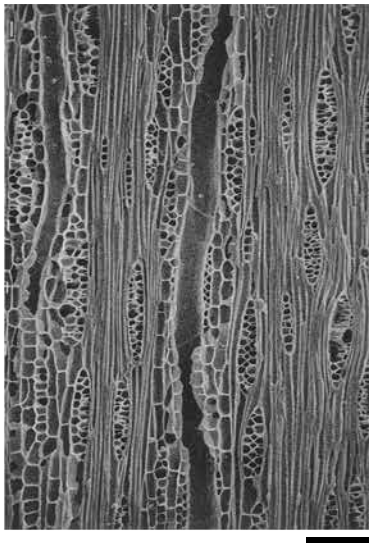
21b　エゴノキ属（接線断面）
SK1745　　bar：0.1mm



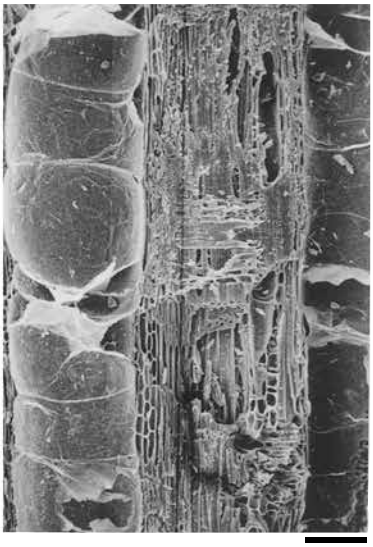
21c　エゴノキ属（放射断面）
SK1745　　bar：0.1mm

第97-7図　木器・炭化材樹種（7）

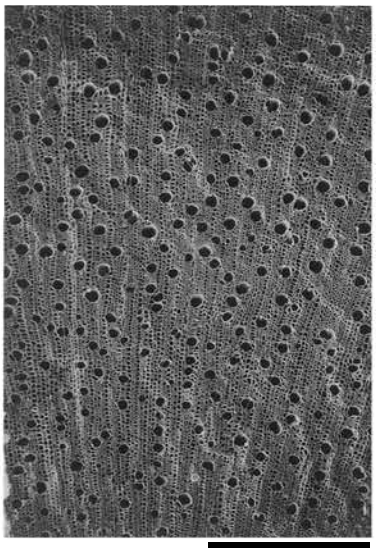
22a　トネリコ属（横断面）
28J-6（Ⅴa層）　　bar：0.5mm



22b　トネリコ属（接線断面）
28J-6（Ⅴa層）　　bar：0.1mm

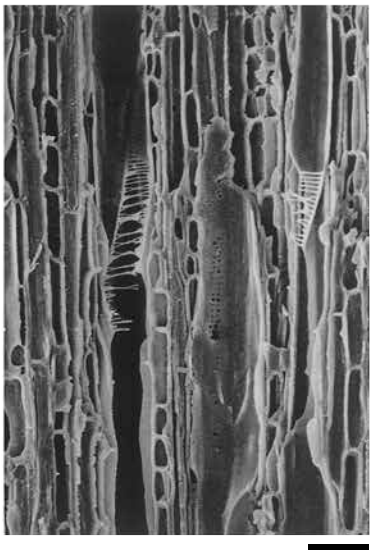


22c　トネリコ属（放射断面）
28J-6（Ⅴa層）　　bar：0.1mm

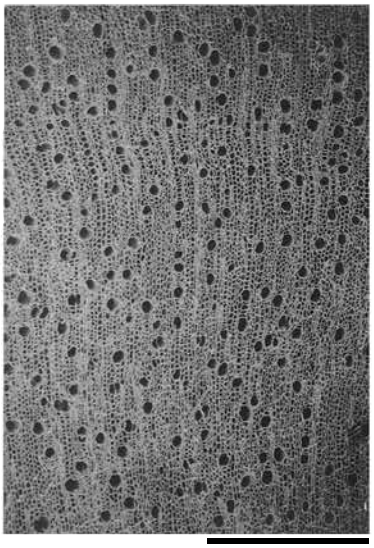


23a　ガマズミ属（横断面）
SK1311　　bar：0.5mm

23b　ガマズミ属（接線断面）
SK1311　　bar：0.1mm

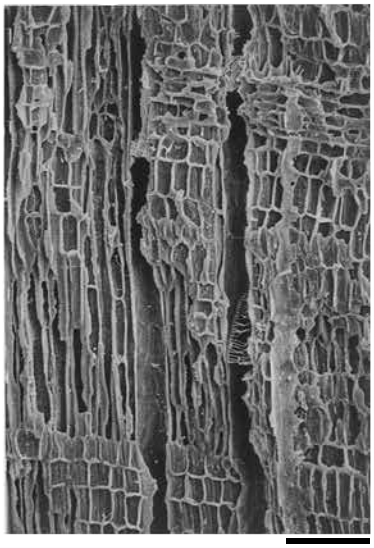


23c　ガマズミ属（放射断面）
SK1311　　bar：0.1mm



24a　散孔材A（横断面）
SK1306　　bar：0.5mm

24b　散孔材A（接線断面）
SK1306　　bar：0.1mm



24c　散孔材A（放射断面）
SK1306　　bar：0.1mm

第97-8図　木器・炭化材樹種（8）

4　プラント・オパール

プラント・オパール分析では井戸の堆積物について行い、遺跡における14～16世紀頃のイネを中心とした食料について検討した。

A　試　　料

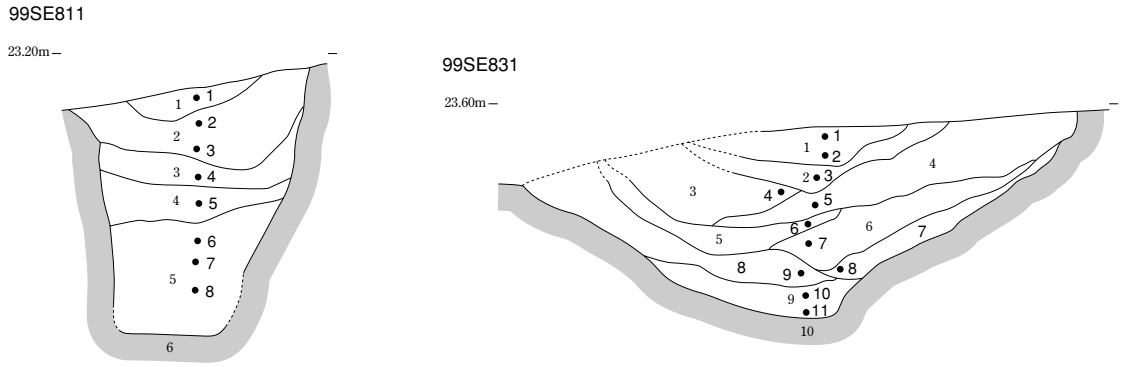
分析用試料は14～16世紀頃と考えられている井戸99SE811と99SE831を埋積している土壌、それぞれ8点と11点および地山試料2点である（第98図）。各試料について、99SE811の試料1（1層）は灰黄褐色の粘土、試料2・3（2層）はにぶい黄橙色の粘土、試料4（3層）は浅黄橙色の粘土、試料5（4層）は明黄橙色の粘土、試料6～8（5層）はにぶい黄橙色の粘土で、最下部の6層は地山である。99SE831の試料1～5（1層～4層）はにぶい黄橙色の粘土、試料6（5層）はにぶい黄褐色の粘土、試料7（6層）は明黄褐色の粘土、試料8（7層）は灰白色の粘土、試料9（8層）はオリーブ灰色の粘土、試料10・11は明オリーブ灰色の粘土で、最下部10層が地山である。また、地山試料である4Kと5Hは、上記地山と同一層と考えられる試料である。

B　分　析　方　法

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1ｇ（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02ｇのガラスビーズ（直径約40μｍ）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により10μｍ以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについてガラスビーズが400個に達するまで行った。

C　分　析　結　果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1ｇ当りの各プラント・オパール個数を求め（第42表）、それらの分布を第99図に示した。以下に示す各分類群の機動細胞珪酸体個数は試料1ｇ当りの検出個数である。なお、イネ穎破片については、あくまでも破片の数を



第98図　試料の採取層位

他のプラント・オパールと同様に計数したものであり、穎そのものの数ではなく、ここでは参考程度にみて頂きたい。

99SE811　検鏡の結果、試料３を除く７試料よりイネのプラント・オパールが検出され、個数的には4,000個前後であるが最上部の試料１では約24,000個と多く検出されている。また、イネの穎の部分に形成された珪酸体の破片は全試料で認められている。

イネ以外について、キビ族は半数の試料より若干検出されている。クマザサ属型は全試料より検出されており、ネザサ節型やウシクサ族も多くの試料より検出されているが、個数的には少ない。また中央部試料においてヨシ属が10,000個近い数値を示しており、ヨシ属としては多く検出されている。

99SE831　全試料よりイネが検出され、多くの試料で10,000個以上を示しており、試料５では約68,000個と非常に多く、試料２・３・９でも50,000個近くを示している。また、イネ穎部破片も全試料で認められ、多くの試料で10,000個を越えている。

イネ以外について、キビ族も多くの試料より得られ、試料５では16,000個に達している。クマザサ属型は全試料10,000個以上で、試料９では100,000個を越えている。ウシクサ族も全試料より得られ、試料２では約25,000を示している。ネザサ節型も多くの試料より検出されており、試料９では30,000個を越えている。ヨシ属も同様であるが、個数的には4,000個前後である。その他サヤヌカグサ属やシバ属が若干検出されている。

地山試料　４Ｋ地点からイネが検出されており、個数は6,000個を示している。また、イネ穎部破片も認められている。イネ以外ではクマザサ属型が10,000個を越え、他にネザサ節型、シバ属、キビ族、ウシクサ族が若干得られている。５Ｈ地点ではクマザサ属型が4,000個ほどを示しているが、他の分類群は得られていない。

試料番号	イ　ネ（個/ｇ）	イネ穎破片（個/ｇ）	ネザサ節型（個/ｇ）	クマザサ属型（個/ｇ）	他のタケ亜科（個/ｇ）	サヤヌカグサ属（個/ｇ）	ヨシ属（個/ｇ）	シバ属（個/ｇ）	キビ族（個/ｇ）	ウシクサ族（個/ｇ）	不　明（個/ｇ）
811－1	24,100	12,600	10,600	23,200	1,900	0	4,800	0	2,900	6,800	1,900
－2	7,500	3,200	3,200	10,700	0	0	0	0	1,100	1,100	3,200
－3	0	1,100	2,200	5,400	0	0	0	0	0	2,200	1,100
－4	4,000	2,000	1,000	9,900	0	0	0	0	0	0	2,000
－5	7,400	19,100	4,200	8,500	0	0	7,400	0	0	2,100	0
－6	6,200	11,400	0	9,300	0	0	9,300	0	2,100	4,100	3,100
－7	1,000	5,100	5,100	7,100	0	0	1,000	0	2,000	1,000	3,100
－8	4,800	7,200	2,400	4,800	0	0	1,200	0	0	1,200	6,000
831－1	24,500	11,800	12,700	53,300	1,700	0	4,200	0	2,500	6,800	7,600
－2	46,100	27,300	4,700	62,100	1,900	0	4,700	900	5,600	25,400	8,500
－3	48,000	24,900	13,400	63,300	0	0	3,800	1,000	5,800	13,400	9,600
－4	8,800	5,300	2,600	83,000	2,600	0	1,800	0	1,800	7,100	5,300
－5	68,100	18,300	4,100	29,500	1,000	0	5,100	0	16,300	18,300	19,300
－6	10,700	11,700	0	21,400	0	0	1,000	0	0	1,900	2,900
－7	16,300	12,000	3,400	42,200	3,400	0	1,700	900	2,600	6,000	9,500
－8	15,400	5,500	5,500	20,900	1,100	1,100	0	0	1,100	7,700	2,200
－9	49,400	35,300	31,200	109,800	6,000	3,000	4,000	0	9,100	17,100	10,100
－10	14,200	19,000	11,900	22,600	1,200	1,200	4,700	0	1,200	2,400	3,600
－11	3,600	3,600	2,400	13,300	0	0	1,200	0	0	2,400	3,600
４Ｋ	6,000	1,000	2,000	13,100	0	0	0	1,000	1,000	2,000	0
５Ｈ	0	0	0	4,300	0	0	0	0	0	0	

第43表　試料１ｇ当たりのプラント・オパール個数

D　食料としてのイネ科植物

食料として利用されるイネ科植物として、イネはもちろん、他にアワ・ヒエ・キビといったキビ族が考えられる。そのうち、上記したように多くの試料よりイネのプラント・オパールが検出されており、これは14世紀から16世紀における奈良崎遺跡ではイネ、すなわち米を主体とした食生活であったことを示していると推察されよう。また、キビ族も多くの試料より検出されている。このキビ族については、その形態からアワ・ヒエ・キビといった栽培種によるものか、エノコログサ・スズメノヒエ・タイヌビエなどの雑草類によるものかについては、現時点において分類は難しいのが現状である。しかし、生産量の少ないキビ族が多くの試料より得られ、試料５・９では大量に検出されていることは、食料として日常的に利用されることにより、井戸内に随時供給されたのではないかと思われる。すなわちこれらのキビ族には、少なくとも栽培種のキビ族が含まれていると推察できよう。

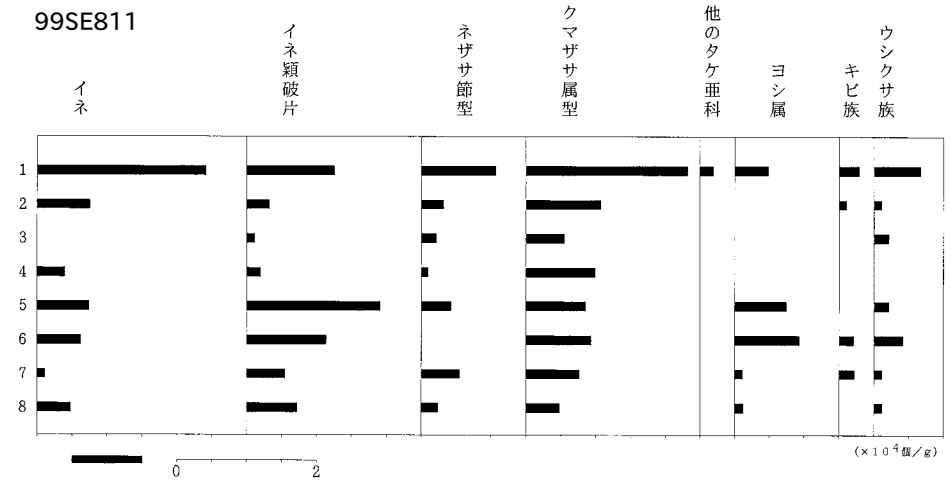
以上のように食料としてのイネ科植物にはイネと、状況的にみて栽培種のキビ族も存在していたとプラント・オパール分析からは判断されよう。

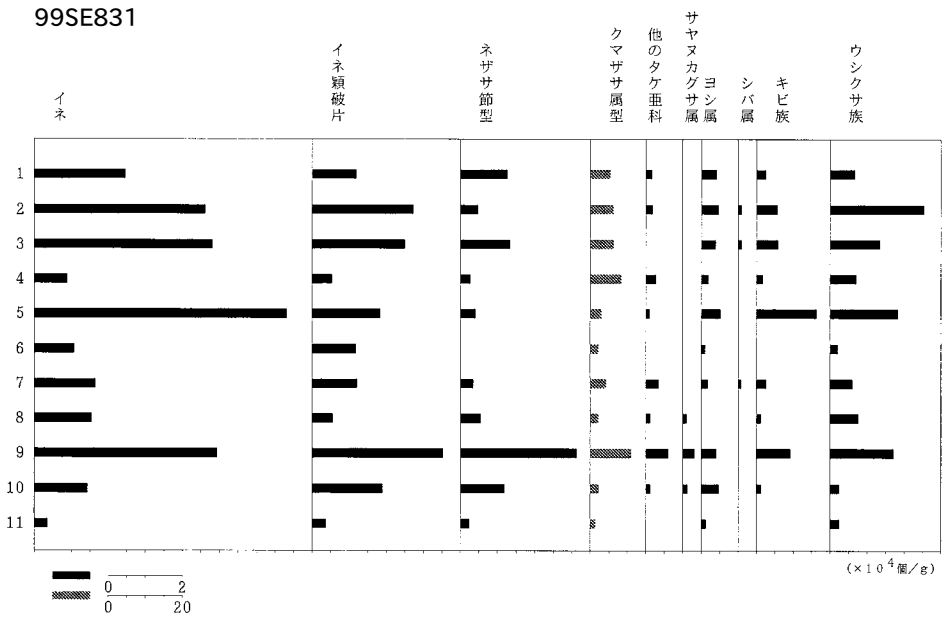
E　遺跡周辺のイネ科植物

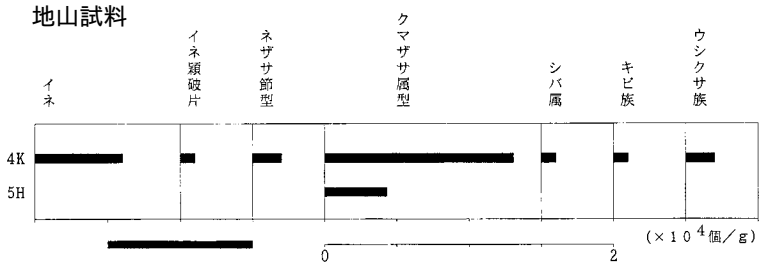
クマザサ属型が多く検出されており、このクマザサ属型のササ類（チシマザサ・チマキザサ・ミヤコザサなど）は主に林下での生育が予想され、遺跡周辺に成立していたであろう森林の下草的存在で分布を広げていたと推測される。一方、ネザサ節型のササ類（アズマネザサ・ゴキダケ・ケネザサ（ミヤコネザサ）など）については、日のあたる開けたところでの生育が考えられ、切り開かれた居住地周辺や林縁部などに生育するようになったと推測される。また、ウシクサ族（ススキ・チガヤなど）も同様のところでの分布が考えられ、ネザサ節型のササ類とともに草地を形成していたと推測される。一方、湿地や地下水位の高いところに生育するヨシ属も多くの試料より検出されていることから、遺跡周辺にはこうした環境も存在し、そこにヨシやツルヨシなどのヨシ属が生育していたとみられる。

なお、地山である４Ｋからもイネが検出されるなど、若干のクマザサ属型のみの５Ｈと比べかなり様相が異なる観察結果であった。この要因については不明であるが、何らかの攪乱で当時？の生活面の土壌が混入していたのではないかと思われる。

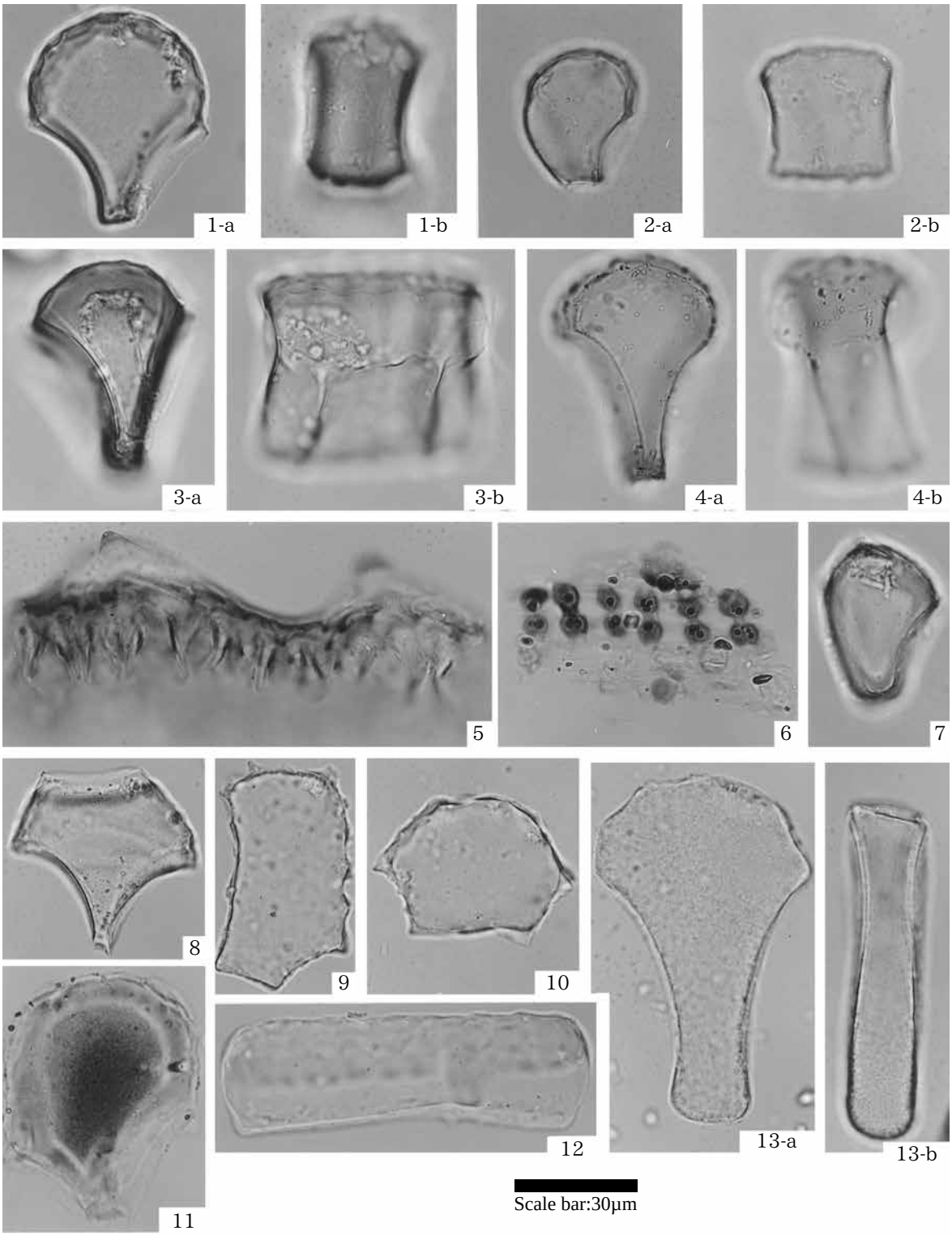
〔株式会社　パレオ・ラボ　鈴木　茂〕







第99図　プラント・オパール分布図



1～4：イネ（a：断面、b：側面）

5：イネ穎部破片　831-3

6：イネ型単細胞珪酸体列　831-9

7：ネザサ節型（断面）　811-2

8：シバ属（断面）　831-3

1：811-1、2：4K、3：831-5、4：831-8

9、10：クマザサ属型（断面）　831-2

11：ヨシ属（断面）811-6　3-a　3-b

12：キビ属（側面）　831-9

13：ウシクサ属（a：断面、b：側面）　831-2

第100図　プラント・オパール

5　花粉化石群集

A　は　じ　め　に

ここでは、14～16世紀頃の井戸覆土を試料とし、当時の古植生および栽培状況を明らかにする一端として、花粉化石群集の検討を試みた。

B　試　　料

99ＳＫ831（試料1～11）　試料1～6（1～5層）は、にぶい黄橙色粘土で、試料1・2・5は、炭化物片を含む。試料7（6層）は、明黄褐色粘土。試料8（7層）は、灰白色粘土。試料9（8層）は、オリーブ灰色粘土。試料10・11（9層）は、明オリーブ灰色粘土。

99ＳＫ811（試料1～8）　試料1（1層）は、灰黄褐色・黄橙色粘土混じり灰黄褐色粘土。試料2・3（2層）は、灰黄褐色・黄橙色粘土混じりにぶい黄橙色粘土。試料4（3層）は、浅黄橙色粘土。試料5（4層）は、明黄褐色粘土。試料6～8（5層）は、にぶい黄橙色粘土。

地　　山（4Ｋ・5Ｈ）　いずれも同一の層と考えられる地山試料であり、にぶい黄色粘土。

C　方　　法

花粉化石の抽出は、試料約5gを10%水酸化カリウム処理（湯煎約15分）による粒子分離、傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理（約30分）による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理（氷酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸9の混液で湯煎約5分）の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、重液分離（臭化亜鉛を比重2.1に調整）による有機物の濃集を行った。プレパラート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪拌した後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検鏡は、プレパラート全面を走査し、その間に出現した全ての種類について同定・計数した。その計数結果をもとにして、各分類群の出現率を樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として百分率で算出した。ただし、クワ科、バラ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

D　花粉化石群集の記載

99ＳＫ831（試料1～11）

同定された分類群数は、樹木花粉25、草本花粉24、形態分類で示したシダ植物胞子2である。十分な花粉化石を産出したのは、試料9～11のみであった。樹木花粉の占める割合は、約23～55％であり、試料10・11は非常に低率である。目立ったのはスギ属とサンショウ属であり、スギ属は約11～90％で上位に向かって増加する傾向にある。サンショウ属は、試料10で約23％、試料11で約56％と大きく突出するが、試料9では全く出現しない。なお、このサンショウ属は、試料10の大半、試料11の全てがサンショウ型であり、おそらくサンショウと思われる。他に、ニレ属－ケヤキ属が約2～8％で比較的目立ち、試料11ではブナ属（約8％）、エノキ属－ムクノキ属（約7％）も目立つ。草本花粉では、イネ科が試料10・11では40％前後と高率であるが、試料9では約10％に減少する。他に、ヨモギ属が約4

～８％で比較的目立ち、オモダカ属・アカザ科－ヒユ科・バラ科なども出現し、試料10ではミズアオイ属・ミツガシワ属－イワイチョウ属・キュウリ属が低率で出現する。試料１～８は樹木花粉数が十分ではなく、花粉化石分布図として示すことができなかった。草本花粉は試料３・５などでは多産し、試料６を除くいずれの試料においてもイネ科が最も多産した。他にアカザ科－ヒユ科・ナデシコ科・ヨモギ属が多くの試料で産出し、オモダカ属・ソバ属なども一部試料で産出した。また、試料６を除くいずれの試料も単条型胞子が多産し、特に試料１・７では非常に目立った。なお、試料11は肉眼で植物遺体が比較的目立ったので、洗い出しを行った。その結果、木本はタラノキ核が１個体、分類群不明の芽が４個体産出し、草本ではオモダカ科種子が１個体産出した。

99ＳＫ811（試料１～８）

同定された分類群数は、樹木花粉22、草本花粉13、形態分類で示したシダ植物胞子２である。花粉化石の産出個数が比較的豊富なのは、試料６～８のみであった。樹木花粉の占める割合は、約41～53％である。試料７ではマツ属複維管束亜属が約25％と高率であり、大半は複維管束亜属と予想されるマツ属（不明）も含めると約64％に達する。次いでハンノキ属とエノキ属－ムクノキ属が約10％、ブナ属が約６％、クリ属が約４％で出現する。草本花粉では、イネ科が約24％、ヨモギ属が約11％と高率である。試料６ではエノキ属－ムクノキ属が約28％と高率であり、マツ属複維管束亜属・スギ属・ハンノキ属も約７～12％と目立つ。他に、シナノキ属・ウコギ科などもやや目立つ。草本花粉では、イネ科が約38％と高率であり、ヨモギ属も約８％と目立つ。試料８は樹木花粉数が十分ではなく、花粉化石分布図として示すことができなかった。産出した中では、樹木花粉ではエノキ属－ムクノキ属・ハンノキ属・マツ属複維管束亜属が多く、草本花粉ではイネ科、ヨモギ属が多かった。なお、試料１～５についても十分な花粉化石が産出せず、花粉化石分布図として示すことができなかった。試料１は、他試料に比べ草本花粉は多少とも産出したが、樹木花粉は全く産出しなかった。なお、単条型胞子は非常に多産した。試料２～５は、花粉・胞子化石を殆どないし全く産出しなかった。

地　　山（４Ｋ・５Ｈ）

花粉・胞子化石は、全く産出しなかった。

Ｅ　考　　察

検討したのは、いずれも14～16世紀頃の井戸覆土であるが、花粉組成においては大きな差異がある。すなわち、99ＳＫ831ではスギ属、サンショウ属が高率であるのに対して、99ＳＫ811ではマツ属複維管束亜属、エノキ属－ムクノキ属が高率である。このことは、ひとつにはこれら分類群が局地的に井戸付近に生育しており、それが過大評価された可能性が考えられる。しかし、いずれの井戸も同一遺跡内の同時期のものであるとすれば、マツ属複維管束亜属、スギ属といった花粉生産量の大きい風媒花は、周辺山地からの飛来花粉と考えることもでき、堆積域での集積の差異が反映された可能性も考えられる。井戸は非常に狭い堆積盆であり、埋積が急速な短期間の堆積物であるという特殊な要素を持つため、両井戸の花粉組成がより大きな差異として表れてしまったのかもしれない。エノキ属－ムクノキ属についてもマツ属複維管束亜属、スギ属と同様、飛来花粉による堆積域での集積の差異とも考えられるが、99ＳＫ811付近により多く生育していたのかもしれない。サンショウ属は、おそらく99ＳＫ831の局地的な要素であって、それが過大評価されたか、井戸付近に多く生育していたと予想される。なお、99ＳＫ831試料のサンショウ属については、大半がサンショウと思われるが、試料10・11では高率であるのに対して、

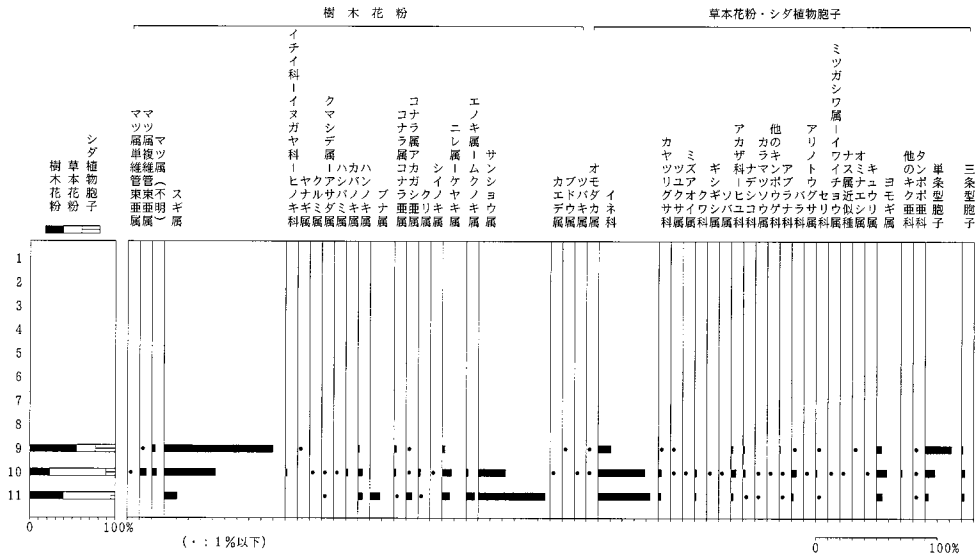
試料９では全く出現しないのは興味深く、８層堆積期にはみられなくった可能性が考えられる。上記した分類群、特にマツ属複維管束亜属、スギ属といった針葉樹が過大評価されているとすれば、さほど高率ではないハンノキ属・ニレ属－ケヤキ属なども周辺の主要な森林構成要素と考えることができるであろう。

草本類については、99ＳＫ831試料では抽水植物のオモダカ属、ミズアオイ属や湿地性のツユクサ属が出現しており、水位の低い湿地ないし水溜りの存在が予想される。試料10ではミツガシワ属－イワイチョウ属も出現しているので、冷たい湧水が湧くような場であったのかもしれない。このような環境だけではなく、付近にはギシギシ属・アカザ科－ヒユ科・カラマツソウ属・アリノトウグサ属・タンポポ亜科などが生育するような日当たりのよい草地もみられたであろう。多産するイネ科は属までの同定は困難であるが、このような草地に生えるススキ・シバなどの類であった可能性も考えられる。

他に注目される分類群として、99ＳＫ831のソバ属（試料３・５・10）・キュウリ属（試料10）があげられる。キュウリ属についてはこれ以上の同定は困難であるが、例えばマクワ・シロウリのようなウリ類が考えられる。おそらく井戸付近にソバやウリ類の栽培地が存在していたであろう。なお、花粉化石は、水成堆積物である場合には良好に保存されるが、土壌などの酸化条件下では、分解・消失し、更にバクテリアによる腐蝕も受ける。検討した試料は、いずれの井戸も下層試料では花粉化石が保存されていたが、中・上層試料では十分な花粉化石が保存されていなかった。このことから、中・上層の堆積物は、水成環境で安定して堆積したものではないと考えられる。

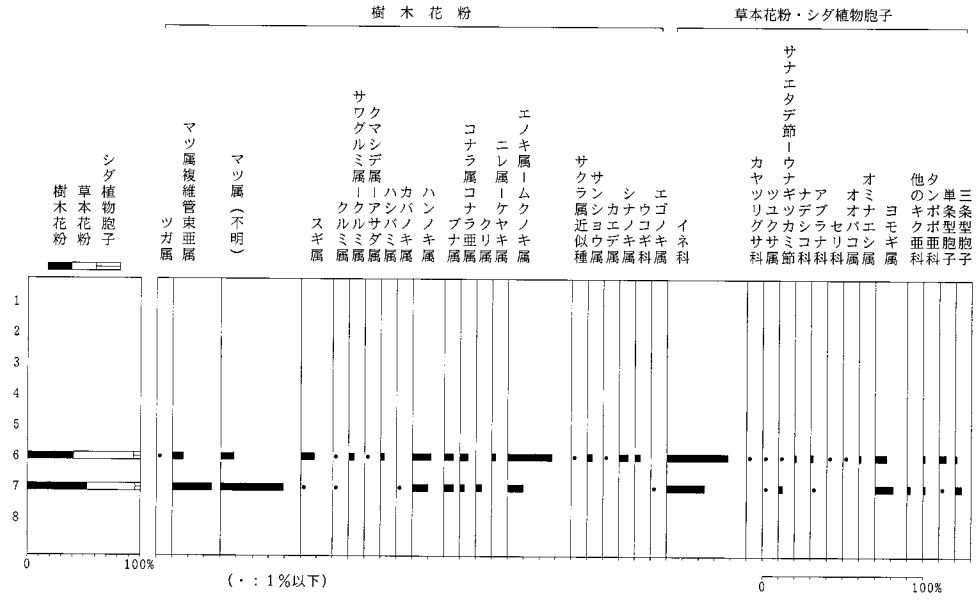
〔株式会社　パレオ・ラボ　新山雅広〕

99SK831



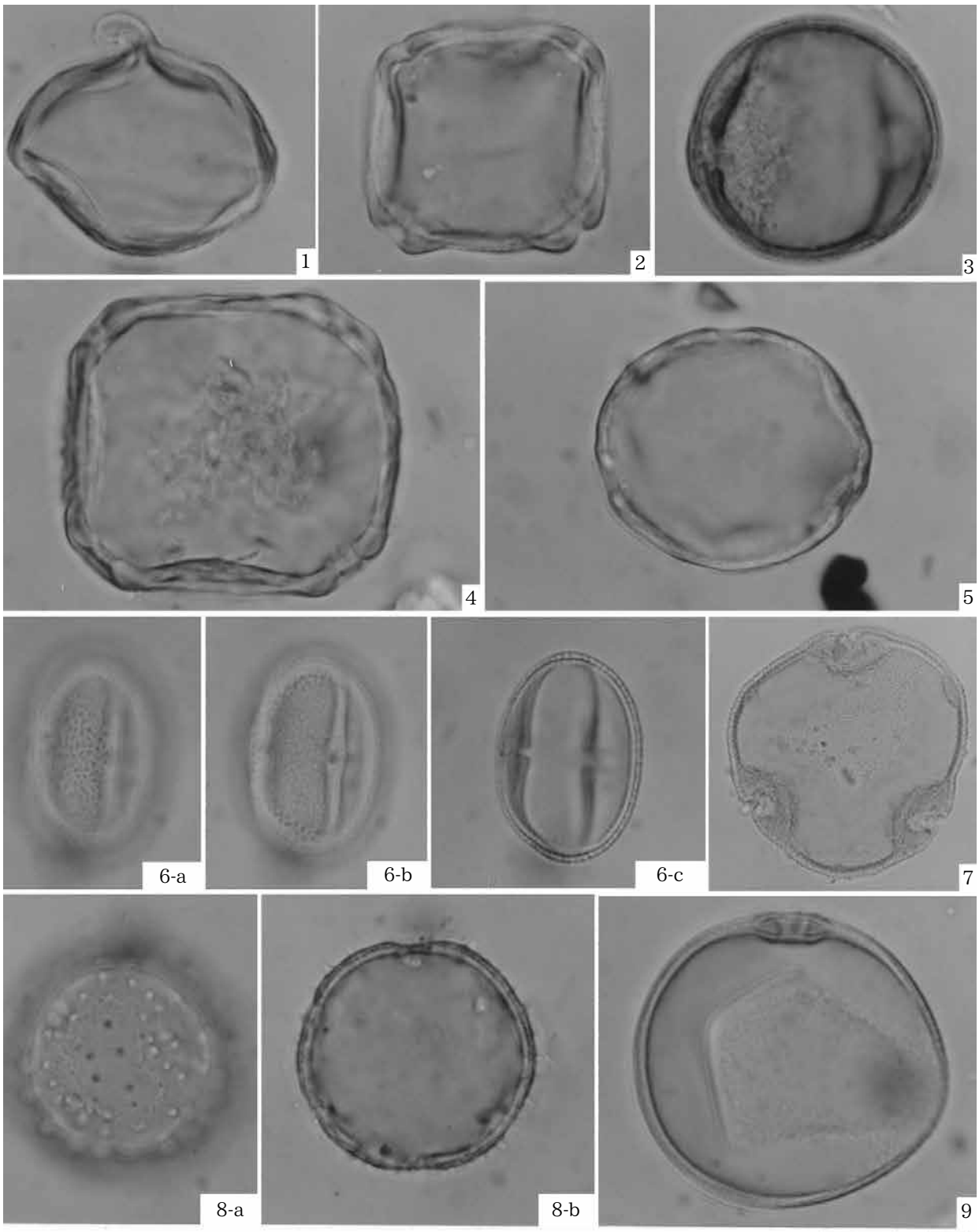
（樹木花粉は樹木花粉総数，草本花粉・胞子は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した）

99SK811



（樹木花粉は樹木花粉総数，草本花粉・胞子は総花粉・胞子数を基数として百分率で算出した）

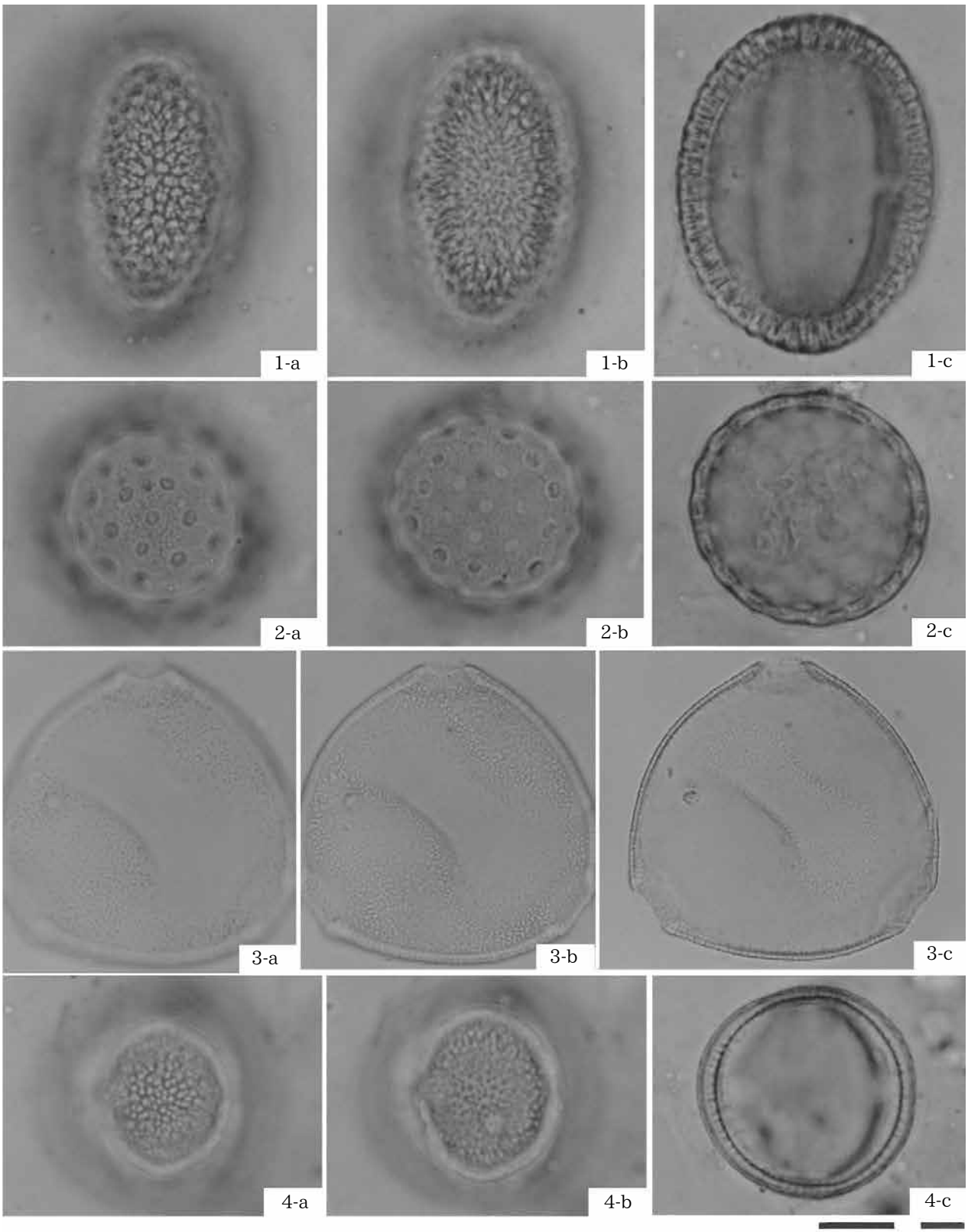
第101図　花粉化石分布図



1．スギ属、99SK831―試料9、PAL. MN　1615
2．ハンノキ属、99SK811―試料6、PAL. MN　1625
3．ブナ属、99SK831―試料11、PAL. MN　1623
4．ニレ属―ケヤキ属、99SK831―試料10、PAL. MN　1617
5．エノキ属―ムクノキ属、99SK811―試料6、PAL. MN　1627
6．サンショウ属、99SK831―試料10、PAL. MN　1624
7．シナノキ属、99SK811―試料6、PAL. MN　1626
8．オモダカ属、99SK831―試料10、PAL. MN　1618
9．イネ科、99SK831―試料10、PAL. MN　1620

Scale bar:10μm　a:1 ～ 6, 8, 9　b:7

第102-1図　産出した花粉化石（1）



1．ソバ属、99SK831―試料10、PAL. MN　1619
2．アカザ科―ヒユ科、99SK831―試料10、PAL. MN　1622
3．キュウリ属、99SK831―試料10、PAL. MN　1616
4．ヨモギ属、99SK831―試料10、PAL. MN　1621

Scale bar:10μm　a:1, 2, 4　b:3

第102-2図　産出した花粉化石（2）

6　木材及び炭化材の放射性炭素年代測定

A　試 料 と 方 法

No.	試　料	試料の種類	重量	前処理・調製	測定法
1	20 K，No.11	炭化物	37.4g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）
2	20 K，No.13	炭化物	7.0g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）
3	20 K，No.21	炭化物	3.1g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）
4	ＳＤ23，上層	炭化物	3.1g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）
5	ＳＤ23，22J-8	炭化物	0.5g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）
6	ＳＫ30，21 H-7S	炭化物	29.7g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）
7	ＳＫ38，５層	炭化物	17.1g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）
8	ＳＸ40，No.５	炭化物	62.0g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）
9	ＳＸ40，No.20	炭化物	33.0g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）
10	ＳＸ40，22G-10	炭化物	43.0g	酸／アルカリ／酸洗浄 石墨調製	ＡＭＳ法 （加速器質量分析法）

B　測定結果

試料名	^{14}C年代 （年BP）	$\delta\ ^{13}$C （‰）	補正^{14}C年代 （年BP）	暦年代	測定No. Beta-
No.１	1470 ± 60	-26.2	1450 ± 60	交点 AD 625 ２σ AD 465 to 480,AD 520 to 675 １σ AD 560 to 655	131639
No.２	1570 ± 40	-25.8	1550 ± 40	交点 AD 535 ２σ AD 420 to 610 １σ AD 440 to 560	131640
No.３	1510 ± 40	-25.1	1510 ± 40	交点 AD 560 ２σ AD 440 to 635 １σ AD 535 to 610	131641
No.４	220 ± 40	-25.3	220 ± 40	交点 AD 1660 ２σ AD 1635 to 1685,AD 1735 to 1810, AD 1925 to 1950 １σ AD 1650 to 1675,AD 1775 to 1800, AD 1940 to 1950	131642

No. 5	540 ± 40	-24.9	540 ± 40	交点 AD 1410	131643
				2 σ AD 1310 to 1360,AD 1385 to 1435	
				1 σ AD 1400 to 1425	
No. 6	1220 ± 40	-26.3	1200 ± 40	交点 AD 815,AD 840,AD 855	131644
				2 σ AD 705 to 910,AD 920 to 955	
				1 σ AD 775 to 885	
No. 7	60 ± 40	-27.7	20 ± 40	交点 ***	131645
				2 σ AD 1705 to 1715,AD 1885 to 1910	
				1 σ ***	
No. 8	290 ± 60	-26.3	270 ± 60	交点 AD 1645	131646
				2 σ AD 1470 to 1680,AD 1740 to 1805,	
				AD 1930 to 1950	
				1 σ AD 1520 to 1575,AD 1625 to 1665	
No. 9	290 ± 80	-26.1	270 ± 80	交点 AD 1645	131647
				2 σ AD 1445 to 1700,AD 1720 to 1820,	
				AD 1835 to 1880,AD 1915 to 1950	
				1 σ AD 1510 to 1595,AD 1615 to 1670,	
				AD 1780 to 1795	
No.10	230 ± 70	-26.0	220 ± 70	交点 AD 1660	131648
				2 σ AD 1500 to 1950	
				1 σ AD 1640 to 1680,AD 1740 to 1805,	
				AD 1930 to 1950	
				（2 σ：95% probability，1 σ：68% probability）	

①^{14}C年代測定値

試料の^{14}C/^{12}C比から、単純に現在（1950年AD）から何年前（BP）かを計算した値。^{14}Cの半減期は5,568年を用いた。

②δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

③補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C/^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

④暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を補正することにより、暦年代（西暦）を算出した。補正には年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い試料には適用できない。

⑤測定No.

測定は、Beta Analytic Inc.(Florida，U.S.A)において行われた。Beta-は同社の測定№を意味する。

〔株式会社　古環境研究所〕

第Ⅶ章　ま　と　め

1　遺 構 の 変 遷

第Ⅳ章－４で検討した遺構の切り合い関係、第Ⅴ章－３で検討した遺構出土の遺物から推測される遺構の年代を基に奈良崎遺跡における遺構の変遷を記述する。また、近接する大武遺跡との関連についても述べる。

奈良崎遺跡における遺構の変遷

奈良崎遺跡は第43・44表に示した７期13小期に区分できるものと考えた。以下、第43・44表と第103～106図に沿って各期の概要を述べる。

Ⅰ期（縄文時代～弥生時代中期）

明確な遺構が確認できない時期。遺物が散発的にしか確認できないⅠ１期（縄文時代）と遺物が定量確認できるⅠ２期（弥生時代中期）に区分した。

Ⅱ期（弥生時代後期～古墳時代前期）

竪穴建物・墳墓・溝などが確認できる時期。尾根Ｂ周辺を中心に竪穴建物・墳墓・溝などが作られたⅡ１期（弥生時代後期）と尾根Ａ周辺と谷Ｂを中心に墳墓・竪穴建物・溝が作られたⅡ２期（古墳時代初頭～前期）に細分する。

Ⅲ期（古墳時代後期）

92SI102Bが当期に属する可能性があるが、確定的でない。確実に当期に伴う建物跡・墳墓は確認されておらず、尾根Ｂ西側縁辺に土坑・ピットなどが確認できる。滑石製模造品（762）や大量の土師器釜を伴う土坑（98SK62）が検出されており、遺跡内で祭祀が行われた可能性が考えられる。

Ⅳ期（奈良時代～平安時代）

谷Ａ西側に竪穴建物が２基（確実なもの１基、Ⅲ期に遡る可能性があるもの１基）が確認でき、小規模な集落が存在したと思われる。

Ⅴ期（12世紀後半～14世紀初頭）

尾根Ａ・Ｂの斜面を中心に地下式坑・土坑墓（（長）方形土坑C1～３類）が作られる時期。機能は不明だが中型の溝（99SD665・1280など）も作られた。遺構の切り合いによると、（長）方形土坑C1～３類に地下式坑が先行する。地下式坑が主に作られた時期をⅤ１期、（長）方形土坑C1～３類が主に作られた時期をⅤ２期とする。なお、遺構数や重複の多さなどから考え、Ⅴ１期はⅤ２期に比べ長期間である可能性が高い。

Ⅵ期（14世紀前半～16世紀）

尾根Ａ東・南側を中心に削平段が作られる時期。削平段の平坦面には掘立柱建物・井戸・小型の溝などが作られるようになる。調査区北側の土塁の構築もこの時期であろう。また削平段に関連して幅１～２ｍ前後の大型の溝も作られた。周辺の水田面との比高差が13ｍ前後とあまり無いが、これらの遺構群の構成は山城として良いものと考える。

平坦面に存在する遺構から出土する遺物は14世紀～16世紀のものが多く、削平段が作られたのは14世紀を上限とする時期と考えられる。現状では南北朝の動乱を契機に削平段（山城）が作られたとするの

時代（編年軸）			時期区分		竪穴建物	墳墓・塚	その他	主な遺物	備考	大武遺跡
縄文時代	草創期		Ⅰ	1						
	早期							1055・1056・1068～1072		
	前期							1057～1066	散発的な遺物の出土状況	
	中期								明確な遺構は確認でない	
	後期							1068・1147・1149・1211		
	晩期									
弥生時代	前期		Ⅰ							
	中期			2				1024～1054	遺物定量出土 明確な遺構は確認できない	
	後期（滝沢編年）	1	Ⅱ	1	98SI20	1号周溝墓	99SD757	835～838，839～854，	尾根Bに周溝墓が継続的に作られる	
		2（古）			92SI102	2号周溝墓		863～870，882		
		2（新）							尾根Bに中型の溝が作られる	
		3				3号周溝墓		781～784	尾根B･谷Aを中心に竪穴建物が作られる	
		4			98SI12			819～823		
古墳時代	川村編年	1段階	Ⅱ	2	92SI102		89SD19	774・775，816～818	尾根Bの中型の溝が埋まる？	
		2段階							谷B・谷Cを中心に竪穴建物が作られる	
		3段階			98SI91			825～831		
		4段階					99SD1850	766～772		
		5段階			99SI1432	1号墳		786～791，872～877	尾根Aに古墳が作られる	
		6段階			99SI1581	2号墳		765，832～834		
400		7～11段階								
		12段階	Ⅲ				98SX1	731～741	谷A上端周辺に土坑・ピットが作られる	
500		13段階								
		14段階					98SK62	706～718	滑石製模造品による祭祀が行われる？	
		15段階					20K-P2 20K-15	719～722		
		16段階					290-16	723～730，742～729		
600	飛鳥時代									
	梯子谷編年	1								
		2								
700	奈良時代		Ⅳ							
		3								
		4								
		5								
800	平安時代	6								
		7			92SI121・102B			675～678	谷A西側に竪穴建物が作られる	
		8								
		9								
		10								
		11								

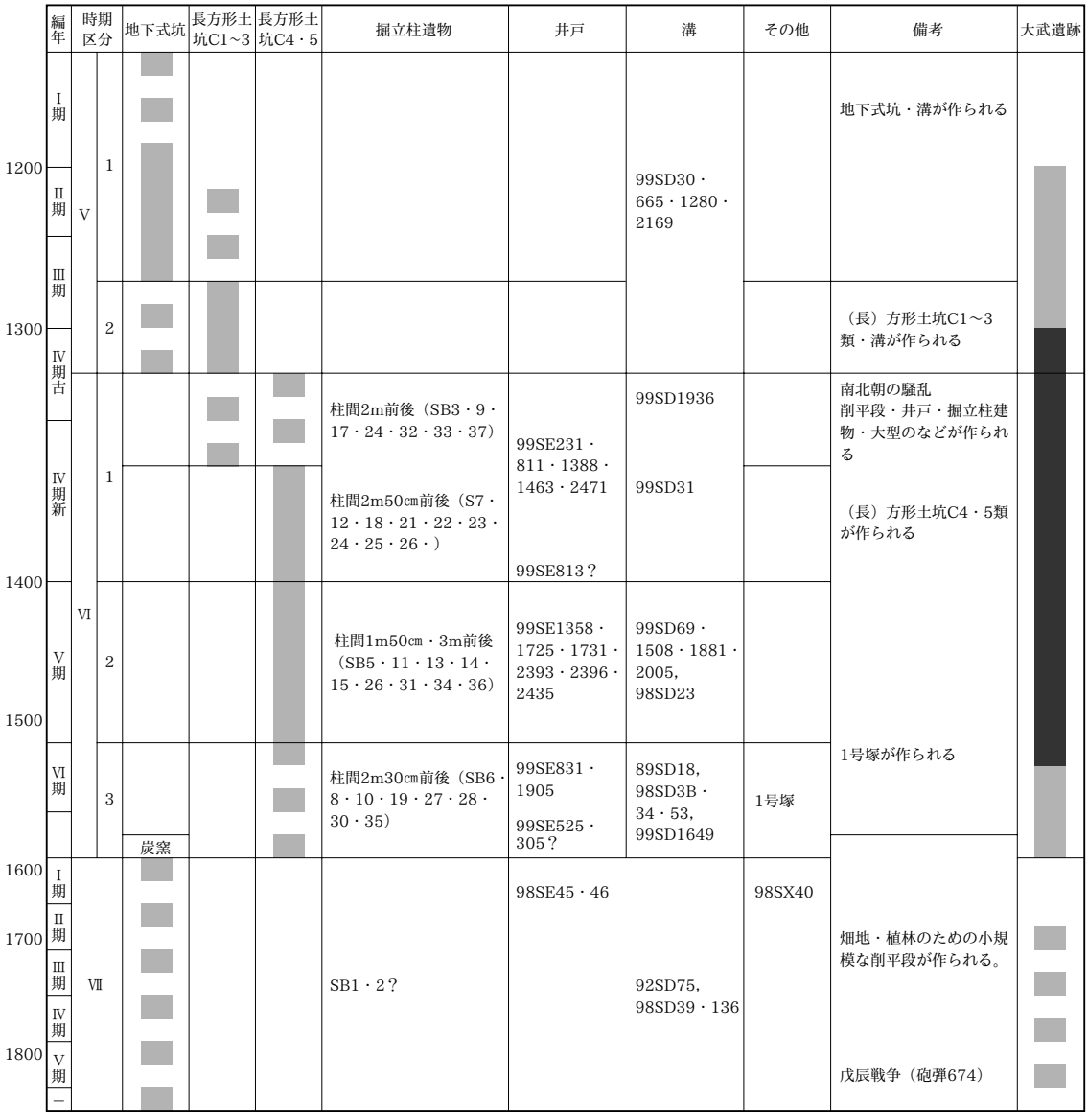
大武遺跡凡例　遺物多い　遺物少ない

第44表　遺跡の時期区分（1）

が最も可能性が高い解釈と考えられる。

削平段が作られなかった尾根Ａ西側・尾根Ｂでは引き続き土坑墓が作られるが、墓坑の形態は（長）方形土坑Ｃ4・5類主体へと変化した。大型の溝・掘立柱建物の変遷を軸に3小期以上に細分可能である。

Ⅵ1期（14世紀）　大型の溝は99SD31・1880、掘立柱建物は柱間2ｍ前後の掘立柱建物群と2ｍ50㎝前後のものが当期と考えられる。また、（長）方形土坑Ａ類の大半も当期の可能性がある。両者は同時に存在したのではなく、時期差を持っていた可能性が高いが、前後関係は不明である。平坦面5には大型の掘立柱建物（SB7）が確認でき、平坦面5・10と平坦面13の間には、等高線に沿うように大きな溝（99SD31・1880）が巡る。



＊編年は吉岡［1994］，大橋

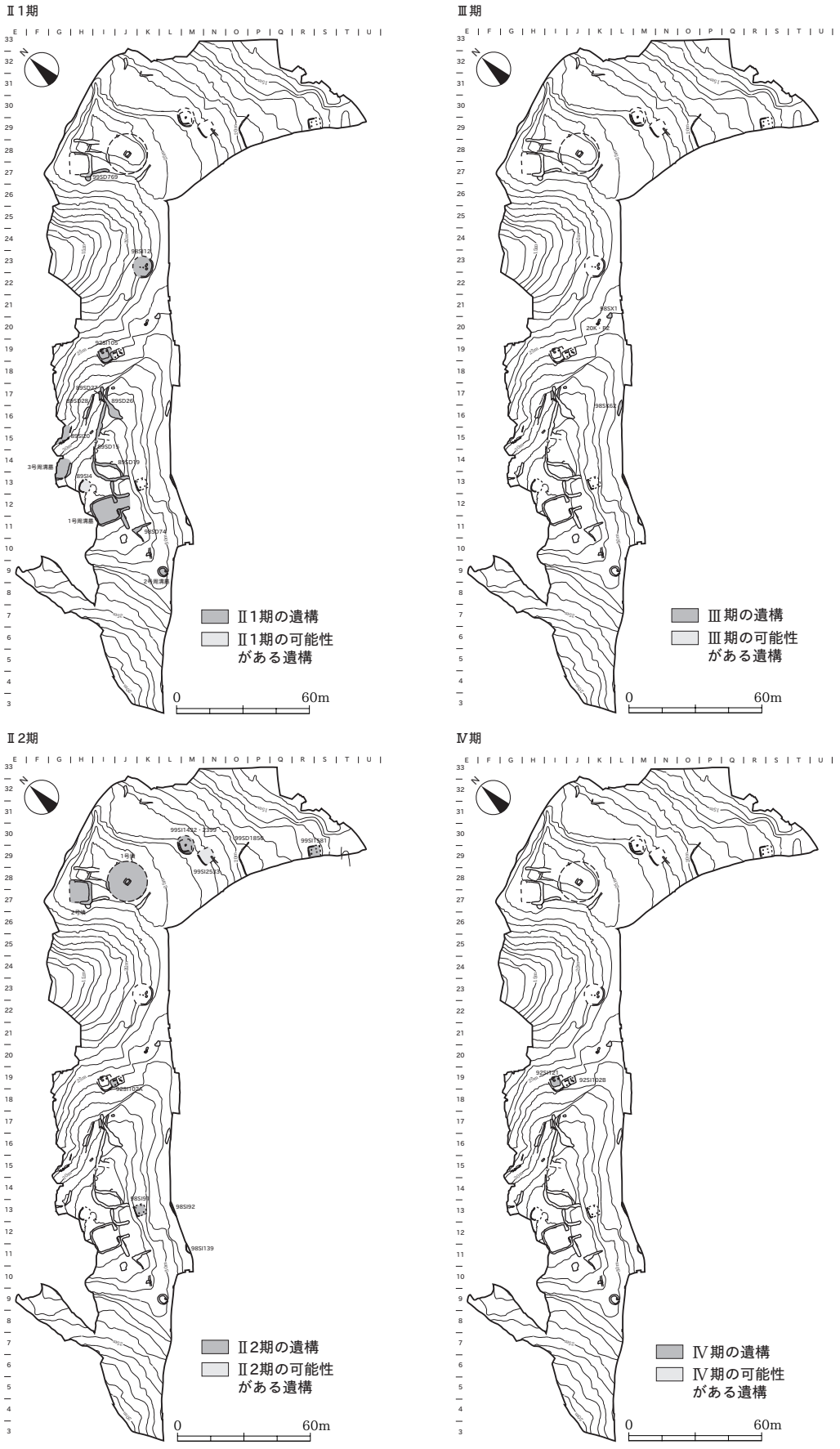
大武遺跡凡例　遺物多い　遺物少ない

第45表　遺跡の時期区分（2）

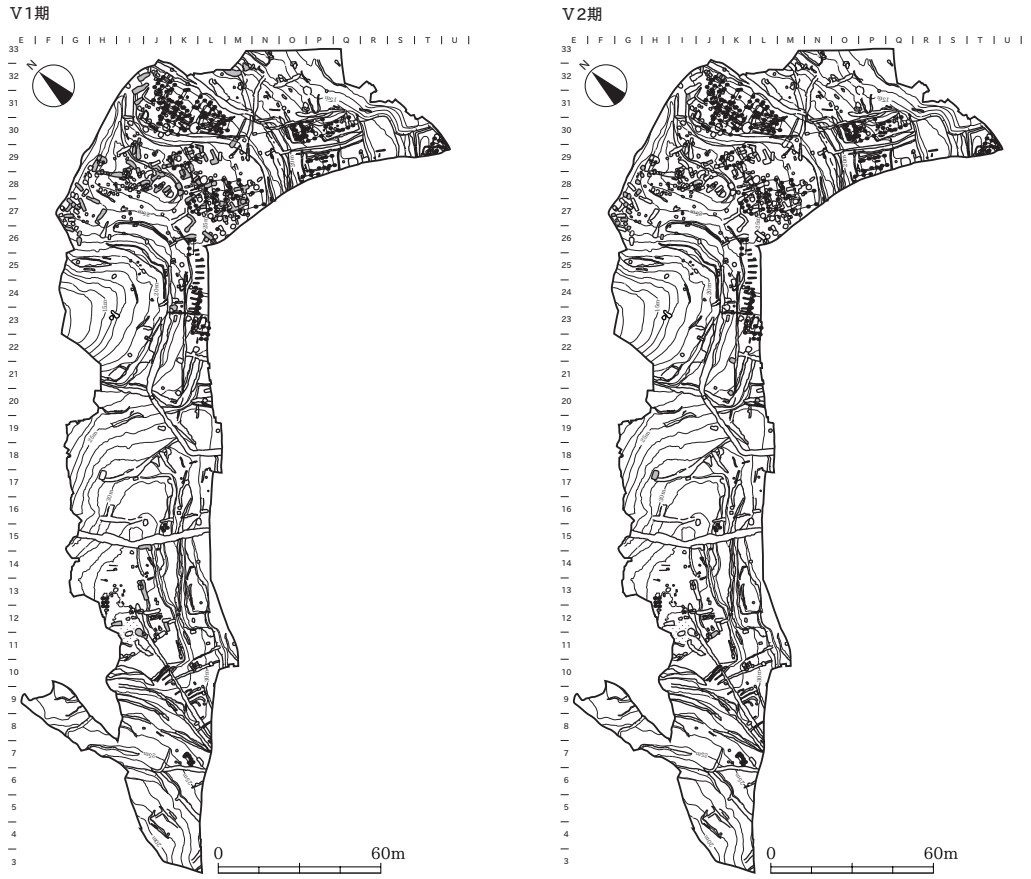
柱間２ｍ50㎝前後の掘立柱建物は平坦面13には無く、柱間２ｍ50㎝前後の掘立柱建物群の時期（仮にⅥⅠａ期とする）が柱間２ｍ前後の掘立柱建物群の時期（仮にⅥ1b期とする）に先行したとすれば、平坦面13はⅥ1b期に新たに作られた可能性も考えられる。

Ⅵ２期（15世紀）　大型の溝は98SD23、99SD1508・1881、掘立柱建物は柱間１ｍ50㎝・３ｍ前後の一群が当期と考えられる。平坦面４・５・10・11・13の周りの大型の溝は等高線に沿うように巡る場合が多いが、98SD23は部分的に尾根を断ち切るように巡る地点が見られる。調査区西側に見られる東西方向の小型の溝も当期の可能性がある。

Ⅵ３期（16世紀）　大型の溝は89SD18、98SD3B・53・34、掘立柱建物は柱間２ｍ30㎝前後の一群が当期のものと考えられる。89SD18からは近世陶磁器が出土しているが、これは溝上部に堆積したⅣａ層からの出土であり、溝の年代はこれより古い。尾根を断ち切る大型の溝（89SD18、98SD3B・53・34）に直交・平行する中・小型の溝も当期の可能性が考えられる。１号塚とこれに近接して走る溝



第103図　遺構の変遷（1）



第104図　遺構の変遷（2）

92SD34A、98SD76・131も当期に作られた可能性が高い。

Ⅶ期（17世紀以降）

植林地や畑地・水田として利用するための小規模な削平段が谷A・B・Cを中心に多く作られる時期。掘立柱建物・井戸・土坑墓と考えられる土坑はほとんど確認できなくなるが、SB1・2は当期の可能性が高く、98SE45・46、98SX40も当期の可能性が高い。点在する方形もしくは円形の炭窯の大半も当期と考えられる。また、幕末～明治初め頃の鉛製の砲弾が1点出土しており（674）、戊辰戦争時には一時的に戦場となった可能性が高い。

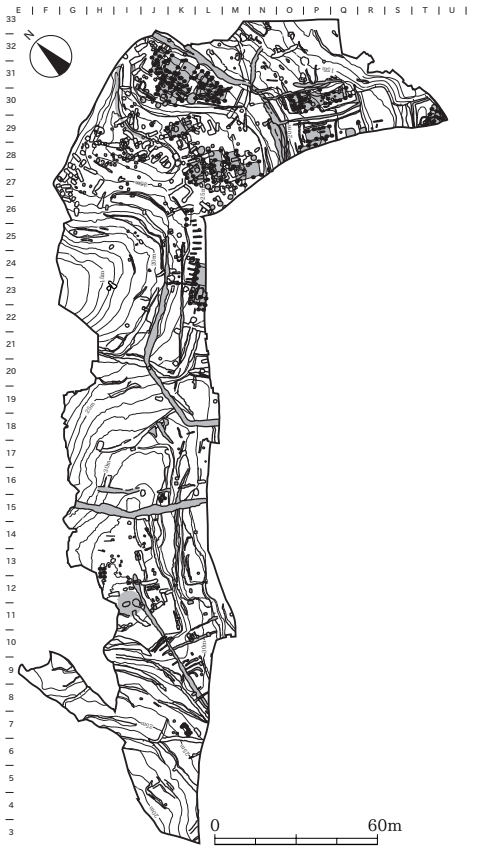
大武遺跡との関連

大武遺跡は縄文時代前期～中世にかけて断続的に営まれた遺跡であり、奈良崎遺跡に近接する。奈良崎遺跡と大武遺跡の位置については第107図を参照して頂きたい。両遺跡の間には郷本川が流れるが、これは明治6年に人工的に掘削された放水路である。郷本川掘削以前は丘陵がさらに東側まで伸びていたものと推測でき、両遺跡を地形から厳密に区別することはできない。

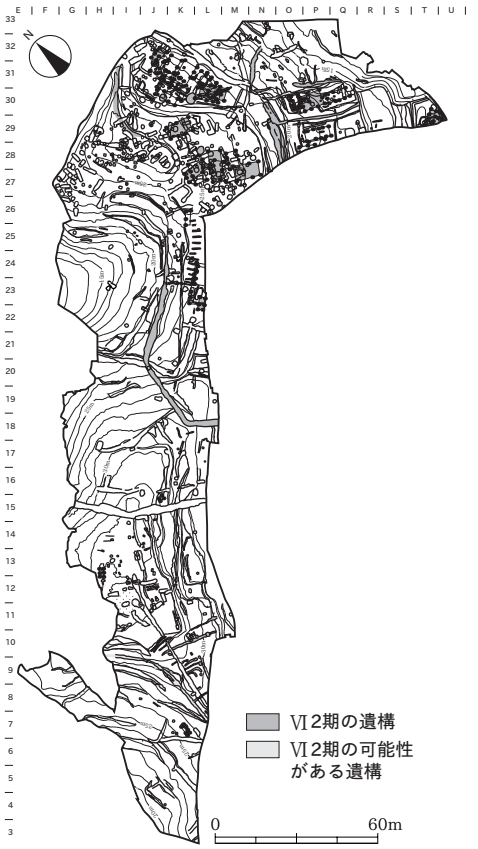
大武遺跡の中世の遺構・遺物については報告があり［春日ほか2000］、それ以前の時期についても概要が報告されている［永井1995・1996、春日1997・1998ab、寺崎・春日1997］。各時期を網羅的に検討することはできないが、主要な時期について第108図に沿って両遺跡の関連を見ていく。

縄文時代前期（Ⅰ1期）　大武遺跡からは縄文時代前期前葉の土器が多量に出土している。また、谷部からは調査では建物跡は確認されなかったが、調査区南西の大武畑と呼ばれる微高地が当時の居住域と推

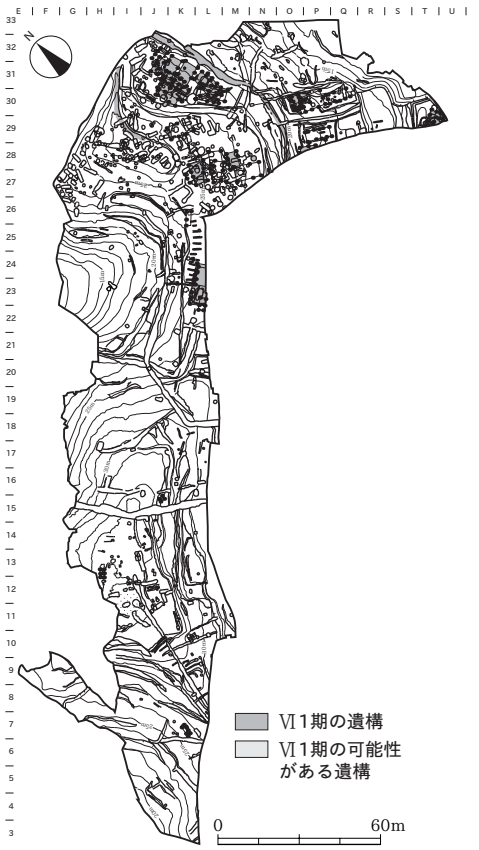
Ⅳ期（全体）



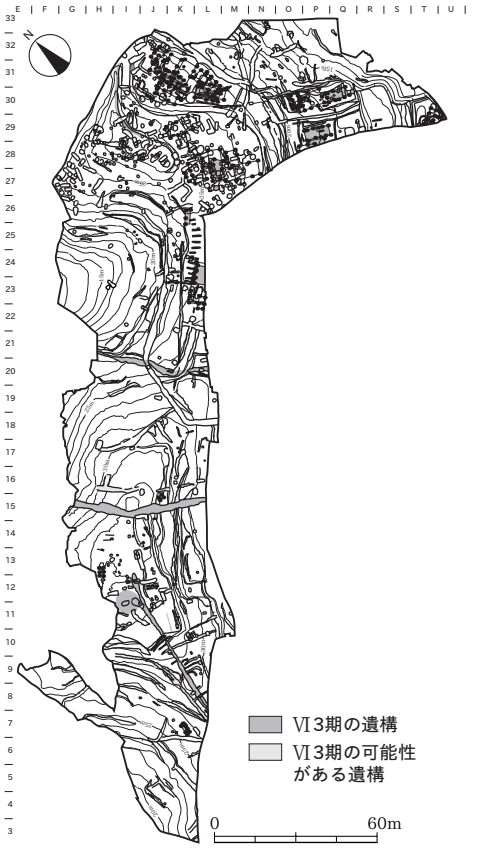
Ⅵ2期



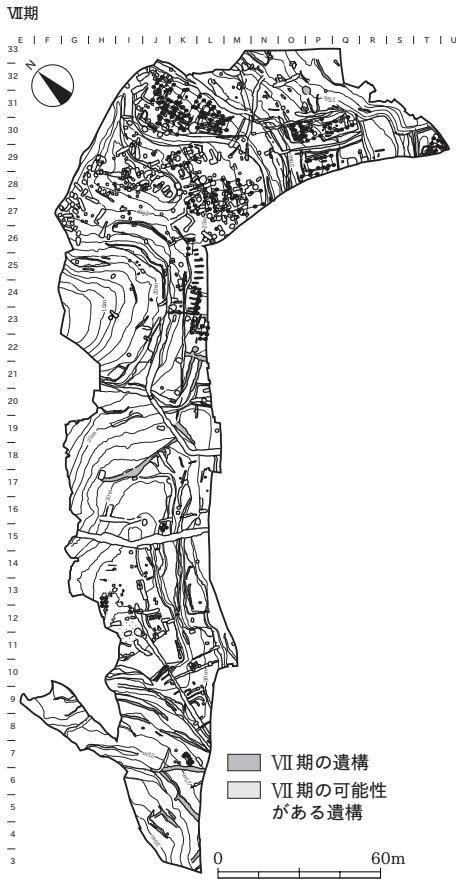
Ⅵ1・2期



Ⅵ3期



第105図　遺構の変遷（3）



第106図　遺構の変遷（4）

測される［寺崎2002・春日2002］。一方当期の奈良崎遺跡は遺物が断片的に出土する程度で、明確な遺構は確認されていない。大武遺跡の微高地部を居住域とし、大武遺跡の低地部を廃棄域・活動域、集落背後の丘陵となる奈良崎遺跡は活動域として利用していた可能性が高い。

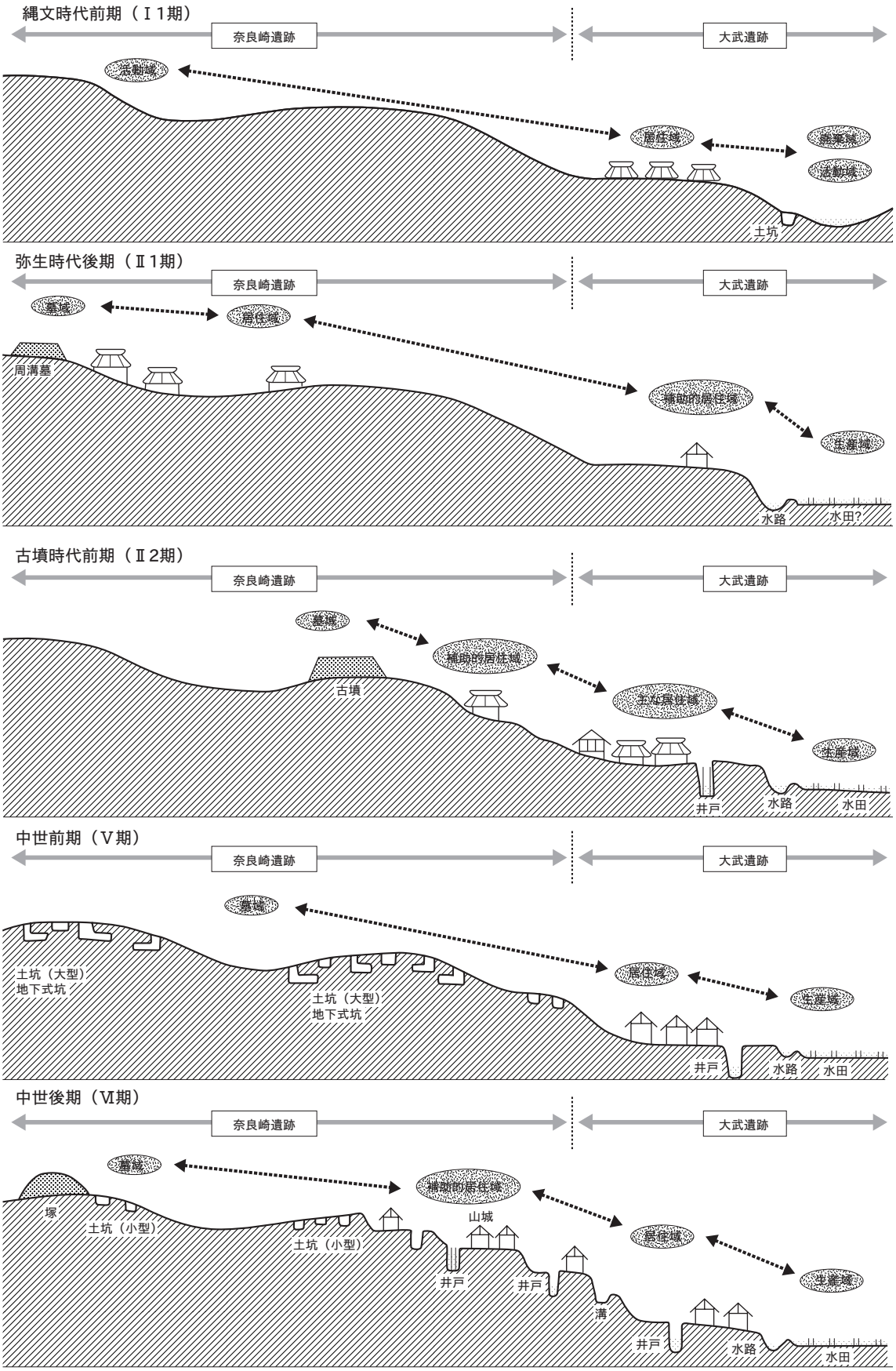
弥生時代後期（Ⅱ1期）　大武遺跡からは当期に遡りうる可能性のある溝（水路）・水田跡が検出されているが、建物跡は検出されておらず、遺物量は少ない。奈良崎遺跡では竪穴建物跡が定量検出され、周溝墓も3基検出されている。奈良崎遺跡を主な居住域・墓域とし、大武遺跡の低地部を生産域、間に存在する大武遺跡の微高地部は補助的な居住域として使用したものと考えられる。

古墳時代前期（Ⅱ2期）　大武遺跡からは当期の溝（水路）・水田跡・井戸と多量の遺物が出土している。一方奈良崎遺跡は竪穴建物が定量検出されたほか、古墳が2基検出された。ただし、土器の出土量はそれほど多くない。奈良崎遺跡を墓域・補助的な居住域、大武遺跡の微高地を主な居住域、大武遺跡の低地部を生産域として使用していたものと考えられる。

第107図　奈良崎遺跡・大武遺跡周辺の明治26年の土地更正図　［渡辺2000］より転載

中世前期（Ⅴ期）　大武遺跡からは溝（水路）・水田・井戸が検出され、遺物も定量出土している。奈良崎遺跡では墓と考えられる地下式坑・大型の（長）方形土坑が大量に検出されているが、当期まで遡る井戸・掘立柱建物は無い。奈良崎遺跡を墓域、大武遺跡の微高地部を居住域、大武遺跡の低地部を生産域として使用していたものと考えられる。

中世後期（Ⅵ期）　大武遺跡からは溝（水路）・水田・井戸が検出され、遺物も定量出土している。奈良崎遺跡では墓と考えられる小型の（長）方形土坑が大量に検出されているほか、削平段・溝・井戸・掘立柱建物などが検出されており、遺物も定量出土している。奈良崎遺跡を墓域・補助的な居住域、大武遺跡の微高地部を主な居住域、大武遺跡の低地部を生産域として使用していたものと考えられる。



第108図　奈良崎遺跡と大武遺跡の関連

2　捩文鏡について

奈良崎鏡の概要

奈良崎遺跡出土の捩文鏡（第109図）は、復元直径9.0㎝で外区の大半を欠くものである。鏡面側にはいくつもの銹膨れが生じており、残存部分も縁などの傷みが著しい。現状で面積にして全体の半分近くが失われている。しかし、欠損は銹の進行などによるものであり、本来は完形品で副葬されていたものと考えられる。なお、わずかに赤色顔料の付着が認められる。

全体に反りを持ち、鏡背の中央に鈕をおく。鈕座は二重の突線。いわゆる仿製の捩文鏡であり、主文には珠点の周囲を弧線で囲んだ鱗状文を用いる。鈕を巡って蒲鉾状にわずかな盛り上がりを巡らす。その上を２本の弧線で４区分し、間を時計回りの方向に巡る鱗状文で埋める。ただし、この弧線は珠点三つに１本の弧線を添えたものであり、また弧の度合いも弱い。一つ一つの珠点を弧線ではっきり囲む通常の鱗状文と比べて、その省略形態と見ることができる。また、主文部の区画に乳を用いない点も本鏡の特徴である。内区外周は３重の突線で囲み、その外側に櫛歯文を巡らす。一段高い外区は素文である。外区及び突線や珠文上には研磨の痕をとどめるが、地の部分には及んでいない。鋳上がりは良好で、恐らく錫分の高い青銅を用いているものと見る。

小　考　察

捩文鏡の分類　　奈良崎鏡はいわゆる「捩文鏡」に属する。「捩文鏡」は「綟形文鏡」などを経て後藤守一によって付けられたものであるが、各種の仿製鏡の中でも良く親しまれた名称として今なお通用している。またこれを対象とし、特に分類を中心とした研究の成果もいくつか発表されており、資料の集成も進んでいる［小林1983・小沢1988・水野1997］。

捩文鏡は一つのまとまりを持った鏡群で、この鏡群のまとまりを特色づける指標は二つ挙げ得る。一つは田中琢によって指摘された重要な特質であるが［田中1979］、捩文鏡はいわゆる 龝龍鏡（単頭双胴神鏡系）の一部の図文を利用して主文としていることである。神像の胴部、あるいは内区の外周寄りを巡る獣毛表現などを切り取ったもので、両者の関係については水野敏典が適確に表現している［水野1997］。そうした主文の起源に関係することであるが、図文が鈕を巡って一方向に旋回するように表現されている。もう一つの特徴は、直径が13㎝～

第109図　奈良崎遺跡出土の捩文鏡

6㎝間に収まることであり、仿製鏡の中では小型鏡ばかりとなる。

捩文鏡は、主文の特徴の違いから細分されてきた。樋口隆康は5型に区分し［樋口1979］、この分類は若干のズレはあるものの、後の分類案にも引き継がれている。樋口案ではⅠからⅤへと主文の型式変化が想定されていたようである。しかし、田中琢の指摘によってそれぞれの主文の違いが龝龍鏡の模倣部分の違いであることが説明されており、それぞれ異なる系列として扱うほうが良い［森下1991］。その差は主文だけの違いに止まらず、外区文様の違いとも結び付くからである。

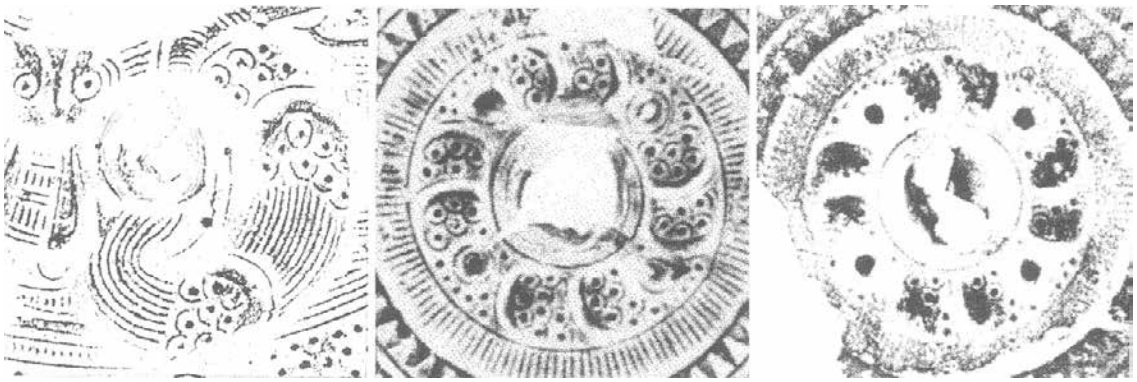
鱗状文の系譜　　奈良崎鏡も大枠としてこの捩文鏡に属する。その鱗状文は龝龍鏡の神像胴部に見られるもので、本来は中国製の盤龍鏡から仿製鏡に取り入れられたものである。ただし、奈良崎鏡のように鱗状文を用いる捩文鏡は数少なく、静岡県陣座ヶ谷古墳出土鏡（径8.3㎝）［高橋編1930］、東京国立博物館蔵鏡（8.5㎝）［田中琢1979］、香川県円養寺C地区出土鏡（8.0㎝）［瀬戸内歴史民俗資料館1983］を挙げ得る程度である。陣座ヶ谷鏡と東博鏡は内区を乳で4つに区分し、各区に二つの房状のふくらみをおき、それぞれ鱗状文を施す。

これらの鱗状文を龝龍鏡の神像胴部表現と比較したとき、陣座ヶ谷鏡と東博鏡の表現がそこから採られたものであることは明らかである（第110図）。その鱗表現は珠文の周囲をはっきりした弧線で囲み、かつ間を埋めるようにそれらを重ねてゆき、正に鱗のような表現をとっている。一方、奈良崎鏡は同様に弧線の間に珠点を配するが、珠点が縦横に並び、また弧線が連なって一本の曲線で囲んだように表現されている。明確な鱗状表現からの省略形と見ることができる。

円養寺鏡では鱗状文を用いるのは一部であり、他は俵状の平行線で埋めている（第111図）。しかしそれ以外の特徴、乳を持たないこと、鈕座や櫛歯文帯、外区が素文であることなど奈良崎鏡との共通点は多い。この円養寺鏡は森下分類の俵文鏡系と関連付けることができる。奈良崎鏡の内区にみられる蒲鉾状のふくらみも俵文鏡系と共通するものと見ることができる。なお、水野敏典は俵文鏡系にみられる珠文を鱗状文の省略形式と見る。

年　　代　　かって捩文鏡を獣文表現からの変形品とみて年代を下らせ、中期の製品と位置付けられた時期もあった。しかし、上記のような他の仿製鏡との比較研究が進み、また年代のわかる古墳の出土例も増えた結果、龝龍鏡と並ぶ前期の製品と見るのが通説となった。

奈良崎鏡には例の少ない特徴もあるが、捩文鏡の一種の俵文鏡系と関連付けるのが妥当であれば、その製作年代は古墳時代前期後半におくことができる。さらに細かい位置付けは難しいが、その鱗状文が龝龍鏡のそれから省略が進んだものであり、また外区の素文も鋸歯文等の省略形と見ることもでき、捩文鏡



1　龝龍鏡（出土地不明）　　2　捩文鏡（出土地不明）東京国立博物館蔵　　3　捩文鏡（静岡県陣座ヶ谷古墳出土）

第110図　鱗状文

の中でも新しい部類に属する可能性がある。

捩文鏡の副葬古墳　　捩文鏡の出土古墳には円墳が多く、また前方後円墳の例も主槨以外の埋葬施設に副葬されている例の多いことが注目されてきた［伊藤1967］。また鼉龍鏡との関連が明らかとなり、大型鏡の多い鼉龍鏡と小型鏡中心の捩文鏡とが、図文の一部を共有しながら作り分けられていたと考えられるようになった。

車崎正彦は、鏡の大小がそれを分け与えられる地方首長に対する「畿内政権の信任の程度の象徴」［車崎1993］に関係するものとみなした。捩文鏡は上述のように大型鏡の図文の一部を借用し、その小型品として生み出されたものであり、大小は意図的に作り分けられたものと考えられる。捩文鏡成立の背景について積極的な評価を行った説である。

第111図　香川県円養寺C地区出土鏡

今回の奈良崎鏡の出土は、この説を補強する好材料と成り得る。すなわち巻町の菖蒲塚古墳からは直径23.6cmの大型の鼉龍鏡が出土している。新潟県では古墳出土鏡数は10面をわずかに超える程度であり、かつほとんどが小型鏡に限られる。そうした状況においてこの菖蒲塚の例はきわだっており、これまでにも注目する研究者が多かった。橋本博文は山梨県甲斐銚子塚古墳や同岡銚子塚古墳例と同様の性格を想定し、「同一の契機に配布された」可能性を説く［橋本1999］。また、同様に分布の中枢地から遠く離れた出土例として、山口県柳井茶臼山古墳とも比較されている［車崎1993］。

菖蒲塚古墳は全長53mの前方後円墳である。奈良崎遺跡については後世の改変によって本来の墳丘規模は不明であるが、それほど大きな墳丘は想定できない。今回の奈良崎鏡の出土により、大型鼉龍鏡－前方後円墳、小型捩文鏡－小古墳という組み合わせが一定の地域内で成り立つことになる。古墳時代仿製鏡の生産や流通が政治的な背景とどのように結び付くのか、さらに検討を要する課題ではあるが、こうした側面を検討する材料としても奈良崎鏡には意義がある。

引用・参考文献

新井　悟　1995　「鼉龍鏡の編年と原鏡の同定」『駿台史学』第95号
伊藤禎樹　1967　「捩文鏡小論」『考古学研究』14巻2号　考古学研究会
小沢　洋　1988　「捩文鏡について」『小浜遺跡群 俵ヶ谷古墳群』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第37集　木更津市小浜地区土地区画整理組合・（財）君津郡市文化財センター
車崎正彦　1990　「江川山の鏡－古墳出土鏡をめぐって－」『上尾市史調査概報』創刊号　上尾市教育委員会
車崎正彦　1993　「鼉龍鏡考」『翔古論聚』久保哲三先生追悼論文集
小林三郎　1988　「捩文鏡とその性格」『日本古代史論苑』遠藤元男先生頌寿記念論文集　※小林三郎は「捩文鏡」の中でも、特にこの鱗状文を持つものを他と区別してとりあげている。
瀬戸内歴史民俗資料館　1983　『讃岐青銅器図録』
高橋　勇編　1930　『静岡県史』第1巻
田中　琢　1979　『古鏡』日本の原始美術8　講談社
田中　琢　1981　『古鏡』日本の美術第178号　至文堂

鶴巻康志　1993　「越後における前期古墳の概要」『シンポジウム２　東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会1993年度新潟大会資料
名本二六雄　1982　「捩文帯を持つ鏡－相の谷古墳出土鏡の占める位置」『遺跡』第22号
名本二六雄　1983　「続捩文帯を持つ鏡－相の谷古墳出土鏡の占める位置」『遺跡』第24号
橋本博文　1999　「副葬品」『新潟県の考古学』　新潟県考古学会編　高志書院
樋口隆康　1979　『古鏡・古鏡図録』　新潮社
水野敏典　1997　「捩文鏡の編年と製作動向」『日上天王山古墳』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第60集　津山市教育委員会・日上天王山古墳発掘調査委員会
森下章司　1991　「古墳時代?製鏡の変遷とその特質」『史林』74巻６号　史学研究会

要　約

1　奈良崎遺跡は、新潟県三島郡和島村大字島崎字奈良崎･小谷に所在する。

2　発掘調査は、国道116号和島バイパス建設に伴い昭和63年7月、平成元年10月24日～12月5日、平成4年4月17日～7月10日、平成10年4月13日～12月14日、郷本川河川改修・国道116号和島バイパス建設に伴い平成11年4月19日～12月29日に実施した。二次調査の調査面積の合計は17,580㎡である。

3　本書では、「奈良崎塚」･「奈良崎遺跡」･「奈良崎砦」と別個に登録されていた3遺跡を一括し、「奈良崎遺跡」として報告する。なお「奈良崎砦」は、地元の歴史研究者の間では中世文書に表れる「島崎城郭」の有力な比定地とされていた。「島崎城郭」は南北朝の動乱に際し、建武3（1336）年に南朝方の小木・風間・河内・池氏らが立てこもり、北朝方の色部・加地氏らと戦い敗れた城郭である。

4　遺跡は縄文時代～近世にかけて断続的に営まれており、弥生時代後期～古墳時代前期と中世の遺構・遺物が特に多い。また古墳時代中期～後期、奈良･平安時代、近世の遺構・遺物も（1107点）検出された。遺構は確認できなかったが弥生時代中期の遺物も定量出土した。

5　弥生時代中期の遺物には、土器・石器がある。土器は北陸系のものが主体を占めるが、信州系・東北南部系も定量確認できる。石器の中には県内では比較的出土例の少ない大陸系磨製石器類（太型蛤刃石斧・扁平片刃石斧など）がある。また、未成品も含め石鏃が多く出土した。

6　弥生時代後期の遺構には、周溝墓3基、竪穴建物3～4基がある。1号周溝墓は一辺約12mの方形の墳墓であり、県内有数の規模で周溝の一辺中央付近が途切れ、陸橋状の施設を持つ。東海地方との関連が推定できる。当期の遺物には、土器・石器・鉄器がある。土器は北陸系が主体を占め信州系、東北系、近江・東海系が定量見られる。

7　古墳時代前期の遺構には、古墳2基、竪穴建物7基がある。1号墳は、後に大幅な削平を受けたため不確実だが、直径約18mの円墳であった可能性が高く、埋葬施設からは捩文鏡1、水晶製勾玉1、緑色凝灰岩製管玉1が出土した。また埋葬施設周辺からは緑色凝灰岩製管玉2、同棗玉1が出土している。

8　古墳時代後期の遺構には、土坑･ピットがある。遺物は土器類が主体を占め、この中には小数であるが須恵器も含まれる。土器類以外では滑石製有孔円盤が1点出土した。

9　中世の遺構には、地下式坑・土坑・削平段・掘立柱建物・土坑・井戸・溝・塚などがある。

10　地下式坑と一部の土坑は、削平段・掘立柱建物・井戸・溝に先行する。年代は地下式坑と一部の土坑が12世紀後半から14世紀前半、削平段・掘立柱建物・井戸・溝が14世紀中葉から16世紀である。

11　奈良崎遺跡が位置する丘陵と周辺の水田との比高差は約13mと少ないが、調査によって検出された削平段・掘立柱建物・井戸・大型の溝など遺構群の構成は、山城として良いものと考えられる。

12　調査によって明らかになった削平段・掘立柱建物・井戸・溝の上限年代は、南北朝期と概ね一致する。従って、本遺跡を「島崎城郭」に比定することと発掘調査結果には大きな矛盾は無い。

13　中世の遺物には土器・陶磁器、石製品、金属製品、木製品がある。土器・陶磁器は珠洲が主体を占め輸入陶磁器、瀬戸・美濃も定量存在する。土師器は少ない。石製品には砥石・粉挽き臼・茶臼・石塔類などがあり、砥石は遠隔地（鳴滝･天草･備水）産は少なく在地産のものが多い。金属製品には銭貨・鉄釘･鉄瓶・鉄鍬先などがある。銭貨は土坑内から六道銭として用いられたものが出土したほか、99SX926から1,000点近くまとまって出土した。

引用文献

赤羽正春・平沢秀昭・田中靖・坂井秀弥　1990　「寺前遺跡（A－2区）『新潟県埋蔵文化財だより』№6　新潟県教育庁文化行政課

麻生田古墳群測量調査団　1991　「長岡市麻生田古墳群測量調査報告」『長岡市史研究』第2号　長岡市

阿部洋輔　1976　「古志軍の荘園と保領」『かみくひむし』第21号　かみくひむしの会

甘粕　健　1993　「基調報告　東日本における古墳の出現－みちのくをめざして－」『東日本における古墳出現期の再検討』　日本考古学協会新潟大会実行委員会

甘粕　健　1994　「菖蒲塚古墳・隼人塚古墳」『巻町史』資料編1考古　巻町

甘粕　健ほか 1981　『大沢遺跡B．B'地区の調査概報』巻町・潟東村教育委員会

甘粕　健ほか 1992　『古津八幡山古墳Ⅰ 1991年測量調査報告』　新潟大学考古学研究室・新津市教育委員会

甘粕　健・小野　昭ほか　1984　『山谷古墳』　巻町教育委員会

甘粕　健・小野　昭編　1993　『越後山谷古墳』　巻町教育委員会

稲場塚古墳測量調査団　1993　「新潟県弥彦村稲場塚古墳測量調査報告」『磐越地域における古墳文化形成過程の研究』磐越地域における古墳文化出現過程の研究会（代表　甘粕　健）

石井　進　1981　「中世の山・川の民と境界」『山の民・川の民』　平凡社

石川智紀ほか 2001　『新保遺跡』新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

井上慶隆　1976　「三島郡の荘・保」『かみくひむし』第21号　かみくひむしの会

井上鋭夫　1981　「日本中世の生活と信仰」『山の民・川の民』　平凡社

上田秀夫　1982　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2号　日本貿易陶磁研究会

宇野隆夫　1982　「井戸考」『史林』第65巻第5号

大橋康二　1989　『肥前陶磁』　ニュー・サイエンス社

小野　昭ほか 1982　『大沢遺跡Ⅱ』　新潟大学考古学研究室

小野正敏　1982　「15・16世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』№2　日本貿易陶磁研究会

大阪府立弥生文化博物館　2001　『弥生クロスロード－再考・信濃の農耕社会』

岡本郁栄　1993　「第1編　自然」『出雲崎町史』通史編上巻　出雲崎町

岡本郁栄・戸根与八郎・渡辺一三　1988　「第1編 原始 古代」『出雲崎町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世・近世（1）出雲崎町史編さん委員会

荻野正博　1986　「荘園と国衙領」『新潟県史』通史編1　新潟県

小野塚徹夫・高橋　保ほか　2002　『一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ 箕輪遺跡Ⅰ』　新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

大場磐雄ほか 1953　『千種』　新潟縣教育委員会

小片　保・上原甲子郎　1972　「新潟県村上市砂山遺跡」『日本考古学年報』20　日本考古学協会

柿田祐司　1999　「使用痕跡から見た須恵器貯蔵具の使用実態について」『須恵器貯蔵具を考えるⅠ つぼとかめ 北陸古代土器研究』第8号　北陸古代土器研究会

春日真実　1997・1998a　「大武遺跡」『年報』　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　1998b　「大武遺跡」『発掘調査報告会98』　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　1999・2000　「奈良崎遺跡」『年報』　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　2000　「奈良崎遺跡－中世文書に表れる「島崎城郭」と新発見の古墳」『埋文にいがた』　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　2001　「奈良崎遺跡－新発見の古墳と南北朝期の山城」『発掘調査報告会2001』　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　2002　「沖積地の遺跡（4）西山丘陵周辺」『新潟考古』第13号　新潟県考古学会

春日真実ほか 2000　『大武遺跡』新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
春日真実ほか 2001　『梯子谷窯跡』新潟県教育委員会　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
金子　達・大谷内礼子　1976　「南蒲原郡の荘・保」『かみくひむし』第21号　かみくひむしの会
金子拓男ほか 1991　『見附市埋蔵文化財調査報告 第8 山崎Ａ遺跡発掘調査報告書』　見附市教育委員会
金子正典　1999　『内野手遺跡・経塚山遺跡』　三条市教育委員会
川上貞雄　1994a　『八幡山遺跡Ⅰ』　新津市教育委員会
川上貞雄　1994b　「大蔵山遺跡」『五泉市史』資料編一 原始・古代・中世　五泉市
川越哲志編　1999　『弥生時代鉄器総覧（東アジア出土鉄器地名表Ⅱ）』　広島大学文学部考古学研究室
川畑　誠　1999　「須恵器貯蔵具の消費痕跡試論」『須恵器貯蔵具を考えるⅠ つぼとかめ 北陸古代土器研究』 第8号　北陸古代土器研究会
川畑　誠　2001　「須恵器貯蔵具の製作痕跡試論」『須恵器貯蔵具を考えるⅡ つぼとかめのつくり方 北陸古代土器研究』第9号　北陸古代土器研究会
川村浩司　1992　「山頂側に存在する墳丘外広域平坦面」『古津八幡山古墳』　新潟大学考古学研究室・新津市教育委員会
川村浩司　1993　「北陸北東部の古墳出現前後の様相」『東日本における古墳出現過程の再検討』　日本考古学協会新潟大会実行委員会
川村浩司　2000　「上越市の古墳時代の土器様相－関川右岸下流域を中心に－」『上越市史研究』第5号　上越市史専門委員会
木島　勉　1986　『後生山遺跡』　糸魚川市教育委員会
木島　勉　1998　『平成9年度遺跡発掘調査概報』　糸魚川市教育委員会
小池義人　2000　「新潟県域の防禦的集落」『裏山遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
小池義人ほか 2000　『裏山遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
建設省長岡国道工事事務所　1984　『一般国道116号改築事業』
駒井和愛・吉田章一郎　1962　『斐太』　慶友社
駒形敏郎ほか 1987　『横山遺跡』　長岡市教育委員会
駒形敏郎ほか 1985　『大萱場古墳』　長岡市教育委員会
駒形敏郎ほか 1999　『藤ヶ森遺跡』　長岡市教育委員会
駒見和夫　1991　「太屋敷遺跡」『寺泊町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世　寺泊町
駒見和夫　1997　「下小島谷古墳群」『和島村史』通史編　和島村
坂井秀弥　1987　「島崎川流域の古代・中世遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第48集 番場遺跡』　新潟県教育委員会
坂井秀弥　1995　「古代越後の環境・交通・官衙」『木簡研究』17号　木簡学会
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団　1992　「奈良崎遺跡第2次調査－弥生時代高地性環濠集落」『埋文にいがた』創刊号（№1）
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団　1993　「奈良崎遺跡」『年報』
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団　1997　『姥ヶ入南遺跡現地説明会資料』
品田高志　1987　『西岩野』　柏崎市教育委員会
品田高志　1991a　「越後における古代・中世の漆器」『新潟考古学談話会会報』第7号　新潟考古学談話会
品田高志　1991b　「越後の中世土師器－編年的研究の現状と課題－」『新潟考古学談話会会報』第8号　新潟考古学談話会
品田高志　1999　「第5章3-1 中世土師器」『新潟県の考古学』　新潟県考古学会
品田高志・平吹　靖　2001　『十三本塚北』　柏崎市教育委員会
上越市教育委員会　1979　『岩木地区遺跡群発掘調査報告書』
菅井良咲　1998　「姥ヶ入南遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成9年度　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

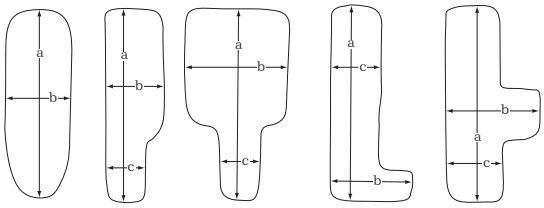
鈴木公雄　1992　「出土備蓄銭と中世後期の銭貨流通」『史学』第六一巻第三・四号　三田史学会
関　雅之　1991　「弥生時代の概観」『寺泊町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世　寺泊町
関　雅之・戸根与八朗　1974　「大平城跡・二ツ塚遺跡調査報告」『北陸高速自動車道　埋蔵文化財発掘調査報告書』新潟県教育委員会
関　雅之・岡本郁栄・宇佐美篤美　1980　『岩野遺跡』　柏崎市教育委員会
高橋　保ほか 1993　『和島村文化財調査報告書 第２集　八幡林遺跡』　和島村教育委員会
滝沢規朗　2000　「稲場塚古墳」『吉田町史』資料編１ 古代・中世・考古
滝沢規朗　2000　「新潟県における弥生後期の土器編年」『第９回 東日本埋蔵文化財研究会 東日本弥生時代後期の土器編年』　東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会・福島県立博物館
滝沢規朗ほか 1992　『西谷遺跡』　刈羽村教育委員会
田中　靖　1988　『耳取遺跡等範囲確認調査報告書』　見附市教育委員会
田中　靖　1989　「島崎川における弥生時代の遺跡」『新潟考古学談話会会報』第４号　新潟考古学談話会
田中　靖　1994　『和島村文化財調査報告書 第３集 八幡林遺跡』　和島村教育委員会
田中　靖　1995　『和島村文化財調査報告書 第５集 門新遺跡－外割田地区－』　和島村教育委員会
田中　靖ほか 1998～2000　『下ノ西遺跡』　和島村教育委員会
田中　靖・鈴木俊成　1996　「弥生時代の和島村」『和島村史』資料編１ 自然・原始古代・中世・文化財
田辺昭三　1981　『須恵器大成』　角川書店
寺崎裕助　2002　「沖積地における縄文時代遺跡の調査」『新潟考古』第13号　新潟県考古学会
寺崎裕助・春日真実　1997　「大武遺跡」『日本考古学年報』48　日本考古学会
寺村光晴　1991　「大久保古墳群」『寺泊町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世　寺泊町
寺村光晴ほか 1977　『横滝山廃寺遺跡発掘調査報告書 第一次 越後国府・国分寺所在論への提言』 新潟県寺泊町教育委員会
寺村光晴ほか 1983　『横滝山廃寺遺跡発掘調査報告書 第二次 昭和57年度調査報告』　寺泊町教育委員会
寺村光晴ほか 1984　『横滝山廃寺遺跡発掘調査報告書 第三次 昭和58年度調査報告』　寺泊町教育委員会
寺村光晴ほか 1985　『横滝山廃寺遺跡発掘調査報告書 第四次 昭和59年度調査報告』　寺泊町教育委員会
寺村光晴ほか 1991　「京田・諏訪田遺跡」『寺泊町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世
寺村光晴ほか 1992　『伊奈胡城跡発掘調査報告書』　寺泊町教育委員会
寺村光晴ほか 1999　『土手上遺跡発掘調査報告書』　寺泊町教育委員会
戸根与八郎　1978　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第14 五分一稲場遺跡』　新潟県教育委員会
戸根与八郎　1991　「古屋敷遺跡」『寺泊町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世　寺泊町
戸根与八郎　1996　「考古学資料からみた中世の和島村」『和島村史』資料編Ⅰ 自然・原始古代・中世・文化財
戸根与八郎　1997　「考古資料からみた中世社会」『和島村史』通史編　和島村
永井　学　1995・1996　「大武遺跡」『年報』　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
長岡市　1992　『長岡市史』資料編１ 考古
長岡市　1996　『長岡市史』通史編上
中井淳史　1996　「土器と真実のあいだ―陶磁器の受容意識を探る実験―」『中近世土器の基礎研究』XI　日本中世土器研究会
中野三義　1976　「中蒲原郡の荘・保」『かみくひむし』第21号　かみくひむしの会
鳴海忠夫　1997　「中世の城と館」『和島村史』通史編　和島村
鳴海忠夫　1996　「和島村の城館跡」・「和島村の塚」『和島村史』資料編１ 自然・原始古代・中世・文化財
鳴海忠夫・戸根与八郎　1991　「寺泊町の城館」『寺泊町史』資料編１ 原始・古代・中世　文化財
永井久美男編　1994　『中世の出土銭－出土銭の調査と分類』　兵庫埋蔵銭調査会
永井久美男編　1996　『中世の出土銭』補遺　兵庫埋蔵銭調査会
新潟県　1983　『新潟県史』資料編１
新潟県　1983　『新潟県史』資料編４ 中世２
新潟県教育委員会　1980　『新潟県遺跡地図』

橋本博文　1997　「北陸における鉄器の普及と展開－北関東との関わりで－」『第４回鉄器文化研究集会 東日本における鉄器文化の受容と展開 発表要旨集』　鉄器文化研究会
長谷川二三夫・本間桂吉　1989　「三条市二ツ山遺跡と表採遺物について」『新潟考古学談話会会報』第３号　新潟考古学談話会
花ヶ前盛明　1993　「出雲崎町の中世」『出雲崎町史』通史編上巻　出雲崎町
浜木さおり　1993　「大畠窯出土遺物の分析」『珠洲大畠窯』　富山大学考古学研究室・石川考古学研究会
林　大智・佐々木　勝　2001　「北陸南西部地域における弥生時代の鉄製品」『石川県考古資料調査・集成事業報告書』補遺編　石川考古学研究会
広井　造　1996　「新潟平野南部における古墳時代開始期の考察」『考古学と遺跡の保護』　甘粕健先生退官記念論集刊行会
広井　造・小熊博史　1999　「信濃川の歴史的意義」『長岡市立科学博物館研究報告』第34号　長岡市立科学博物館
広野耕造　1989　「新潟平野における古墳分布と三王山古墳群」『新潟県三条市 保内三王山古墳群　測量・発掘調査報告書』　新潟大学考古学研究室・三条市教育委員会
藤澤良祐　1991　「瀬戸古窯址群Ⅱ－古瀬戸後期様式の編年－」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅹ　瀬戸市歴史民俗資料館
藤澤良祐　1986　「瀬戸大窯発掘調査報告」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅴ　瀬戸市歴史資料館
藤澤良祐　1991　「城館出土の瀬戸・美濃大窯製品」『中世の城と考古学』　新人物往来社
藤澤良祐　1993　「瀬戸大窯の時代」『瀬戸市史陶磁史編』四　瀬戸市
藤澤良祐　1997　「付編」『研究紀要』第５輯　瀬戸市埋蔵文化財センター
藤田　剛・長谷川正　1996　「和島村の地形・地質」『和島村史』資料編Ⅰ 自然・原始古代・中世・文化財　和島村
北陸中世遺跡研究会　1999　『中世北陸の石文化Ⅰ』
本間信昭　1991　「寺泊町の塚」『寺泊町史』資料編Ⅰ 原始・古代・中世　寺泊町
町田勝則　1999　「第Ⅴ章 第２節１石器」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書12 榎田遺跡』　長野県埋蔵文化財センターほか
丸山一昭　1998　『和島村文化財調査報告書 第６集 松ノ脇遺跡』　和島村教育委員会
丸山一昭　2001　『奈良崎遺跡』　和島村教育委員会
丸山一昭　2002　『奈良崎遺跡Ⅱ』　和島村教育委員会
水澤幸一　1997　「中世越後の土器･陶磁器組成」『中･近世の北陸－考古学が語る社会史』北陸中世土器研究会編　桂書房
室岡　博・関　雅之・本間信昭ほか　1984　『長峰遺跡Ⅱ』　吉川町教育委員会
村上恭通　2001　「日本海沿岸地域における鉄の消費形態－弥生時代後期を中心として－」『古代文化』第53巻第４号　財団法人古代學協会
村山教二　1976　「西蒲原郡の荘・保」『かみくひむし』第21号　かみくひむしの会
森田　勉　1982　「14～16世紀の白磁の分類と編年『貿易陶磁研究』第２号
山本　肇ほか 1992　『八幡林遺跡』和島村文化財調査報告書第１集　和島村教育委員会
横田賢次朗・森田勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4
横山勝栄　1989　「新潟県東蒲原郡の中世山城について―山城の位置を考える―」『新潟考古学談話会会報』第４号　新潟考古学談話会
吉岡康暢　1989　『日本海の土器・陶磁（中世編）』　六興出版
吉岡康暢　1991　「中世的食器組成の成立と時期区分覚え書き」『中近世土器の基礎研究』Ⅶ　中世土器研究会
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館
米沢　康　1980　「大宝二年の越中国四郡分割をめぐって」『信濃』32-6　信濃史学会
吉田恵二　1982　『緒立八幡神社遺跡』　黒埼町教育委員会
渡邊朋和　1995　「新津市八幡山遺跡：高地性環濠集落と方形周溝墓」『新潟県考古学会第７回大会研究発表会発表要旨』
和田寿久　1997　「姥ヶ入製鉄遺跡・姥ヶ入南遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』平成９年度　財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

付表1　遺構観察表

凡例

1　遺構平面図に示した主な遺構の観察表である。
2　遺構種類毎に異なる観察項目が存在するため、観察表は遺構種類毎にまとめた。
3　平面図・断面図・写真の数字は掲載している図版番号を示す。
4　遺構の規模は上端を計測したが、地下式坑のみは下端の規模を示した。地下式坑のａ～ｃは右図の計測値である
5　欠損などにより長・幅・深が本来の数値と大きく異なると考えられる遺構については、それぞれの現存値を（　）内に示した。
6　地下式坑の平面形・断面形は32ページ、第24図に示した分類に添った。また、覆土は同図の分類に添った覆土の堆積状況を記入した。
7　時期には第Ⅶ章－1に示した時期区分を記入した。



削平段

名称		平面図	位置	時期	根拠	備考
種類	番号					
斜面	1	4	9FG	Ⅶ期？	周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	2	4	8G，9G	Ⅶ期？	周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	3	4・5	8G	Ⅶ期？	周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	4	5・10	7GHI	Ⅶ期？	周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	5	5・10	7HI	Ⅶ期？	周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	6	7・8・10	6IJ	Ⅶ期？	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	地滑りにより生じたものか。
斜面	7	6・7	4J，5J	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。下端に沿うように存在する98SD157が近世と考えられる。周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	8	7	5KL	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。下端に沿うように存在する98SD156が近世と考えられる。周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	9	8	6JKL，7JKL	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。下端に沿うように存在する98SD136がⅦ期と考えられる。周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	10	8	6J，7J	Ⅶ期	近世と考えられる98SD136・156を切る。	地滑りにより生じたものか。
斜面	11	8・11	7KL，8JK	Ⅶ期	下端に沿うように存在する98SD137が近世と考えられる。	
斜面	12	10・11	8I	Ⅶ期？	周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	地滑りにより生じたものか。
斜面	13	11	8J，9IJ	Ⅶ期？	下端に沿うように存在する92SD75がⅦ期と考えられる。	
斜面	14	16	10HIJ	Ⅶ期？	周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	15	16	10HIJ	Ⅶ期？	周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。	
斜面	16	24・28・32	12J，13J，14I，15I	Ⅶ期？	Ⅵ期と考えられる92SK43を切る。	
斜面	17	26・30	13J，14J，15J	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。	
斜面	18	18・24	10L	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。	
斜面	19	14・16・21・24・30	10JK，11K，12JK，13K，14K	Ⅶ期？	Ⅵ期の溝92SD34Aを切る。	
斜面	20	14・21・26・30	10L，11L，12KL，13L，14KL，15K，16KL	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。Ⅵ期の遺構98SD101・115・SK95・89SD18を切る。	
斜面	21	14・21	10L，11KL	Ⅶ期？	一部を除き地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。	
斜面	22	21・26・30	12KL，13K，14K，15K	Ⅶ期？	地山直上に基本層序Ⅳ層が堆積する場所が比較的多く存在する。下端付近に沿うように存在する98SD115がⅥ期以前と考えられる。	中世以降にかなり改変を受けた可能性が高い。
斜面	23	21・26	12K，13K，14K	Ⅵ～Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。下端付近に沿うように存在する98SD68が近世と考えられる。	
斜面	24	26・30	14J，15J	Ⅶ期？	周辺にⅥ期の遺構が存在しない。	
斜面	25	30・34・37	15JK，16JK，17IJK	Ⅶ期？	Ⅵ期と考えられる92SD67を切る。	
斜面	26	38・40	17HI，18IJK，19K	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。下端付近に沿うように存在する89SD30がⅦ期と考えられる。	
斜面	27	42	19HI，20HI	Ⅶ期	周辺にⅥ期以前の遺構が存在しない。Ⅵ～Ⅶ期と考えられる92SD98を切る。	
斜面	28	42	20HI	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。下端付近に沿うように存在する98SD37が近世と考えられる。	
斜面	29	40・44	20JK，21KL	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。下端付近に沿うように存在する98SD28が近世と考えられる。Ⅵ期以前と考えられる8SD3・5・15を切る。	
斜面	30	46・48	21HI，22IJ，23J	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。下端付近に沿うように存在する98SD31が近世と考えられる。Ⅴ期と考えられる98SK40を切る。	
斜面	31	48・52・60	23JK，24JK，25JK，26JK，27JK	Ⅵ期？	地山直上に基本層序Ⅳa層が堆積する。下端付近に沿うように存在する98SD23がⅥ期と考えられる。	自然地形を大幅に改変していない可能性が高い。
斜面	32	75・84・94	27K，28JK，29IJ，30I，	Ⅶ期？	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。	中世に原形ができていた可能性が高い。
斜面	33	90・94・102・105・108・112・118	27N，28M，29MN，30IJKLMN，31I，32I	Ⅵ期	一部を除き地山直上に基本層序Ⅳb層が堆積する。	近世以降に一部改変を受けた可能性高い。本来は斜面36と一体であった可能性が高い。
斜面	34・35	112・121	30M，31M，32M	Ⅵ期？	地山直上に基本層序Ⅵ層？が堆積する。下端に沿うように存在する99SD1971・365がⅥ期と考えられる。	
斜面	36	117・121	28O，29O，30MNO，31MNO	Ⅶ期	Ⅵ期以前の遺構99SD1880・1508を切る。	中世に原形ができていた可能性が高い。本来は斜面33と一体であった可能性が高い。
斜面	37	121・124・127	29R，30OPQR，310PQR	Ⅵ期	下端付近に沿うように存在する99SD1649・2005がⅥ期の遺構と考えられる。	近世以降にかなり改変を受けた可能性高い。
斜面	38	125・127	29R，30R	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅱ層が堆積する。	
斜面	39	136	29S，30S	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅱ層が堆積する。	
斜面	40	136	29ST，30S	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅱ層が堆積する。	
斜面	41	126・136	30QRST，31QRST	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅱ層が堆積する。	

付表1　遺構観察表

名称 種類	名称 番号	平面図	位置	時期	根拠	備考
平坦面	1	14・16・18・21・24・26・28	10IJK，11IJK，12HIJK，13HIJ，14HIJ.15IJ	Ⅱ1期	平坦面上にⅡ1期の方形周溝墓が2基存在する。	
平坦面	2	21・24・26・30	13JK，14JK，15JK	Ⅶ期？	平坦面上にⅥ期の遺構が確認できない。	
平坦面	3	26・30	14J，15J	Ⅶ期？	平坦面上にⅥ期の遺構が確認できない。	
平坦面	4	40・44	18KL，19JKL，20KL，21KL	Ⅵ期	平坦面上にⅥ期の遺構が定量存在する。近世と考えられる斜面29に切られる。	近世以降に改変を受けた可能性高い。本来は平坦面5と一体であった可能性が高い。
平坦面	5	44・48・52・60・80・84・90・94・102	20K,21KL,22KL,23KL,24KL，25KL，26KLM,27KLMN，28KLMN,29JKLMN，30KLM	Ⅵ期？	平坦面上にⅥ期の遺構が多く存在する。99SK1721・2090などの地下式坑を切る。	近世以降に改変を受けた可能性が高い。
平坦面	6	58	25GH	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。上端に沿うように存在する99SD1125が近世の遺構と考えられる	
平坦面	7	52・56	24J，25IJ，26IJ	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。上端に沿うように存在する99SD965が近世の遺構と考えられる。	
平坦面	8	56・60	25J，26HIJ，27HIJ	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅲ層が堆積する。上端に沿うように存在する99SD650・1190が近世の遺構と考えられる	
平坦面	9	67・76・94	28HIJK，29HI，30HI	Ⅱ2期？	平坦面上にⅡ2期の古墳が2基存在する。	中世以降に大幅な改変を受けた可能性が高い。
平坦面	10	105・108・112・116・	30JKLM，31IJKL，32IJK	Ⅵ期	平坦面上にⅥ期の遺構が多く存在する。	近世以降に改変を受けた可能性が高い。
平坦面	11	118・121	29N，30MN	Ⅶ期	Ⅴ～Ⅵ期の遺構99SD1881・SK1855を切る。	
平坦面	12	116・130	31LM，32LM	Ⅵ期？	平坦面上にⅥ期の遺構が存在する。	自然地形を大幅に改変していない可能性が高い。
平坦面	13	118・121・124・127・	28OP，29OPQR，30OPQR，31PQ	Ⅵ期	平坦面上にⅥ期の遺構が多く存在する。	近世以降に改変を受けた可能性が高い。
平坦面	14	127・136	29RS，30RS，31RS	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅱ層が堆積する。	
平坦面	15	136	29S，30S	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅱ層が堆積する。	
平坦面	16	136	29TU，30TU	Ⅵ期？	平坦面上にⅥ期の遺構が多く存在する。	近世以降に改変を受けた可能性が高い。
平坦面	17	134・136	30ST，31QRS，32PQR，33P	Ⅶ期	地山直上に基本層序Ⅱ層が堆積する。	

溝（上層）

遺構名	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	幅(cm)	深(cm)	断面形	覆土	切り合い関係	時期	出土遺物	備考
98SD161	6	9	b	224	3KL	178	10	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD162	6	9	c	224	3KL	80	8	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD157	6 7	—	—	224	4・5J	125	—	—	—	無し。	Ⅶ期	青磁碗	
98SD156	7	9	d	224	5KL，6JKL	196	24	皿状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD154	7	9	e	224	4JK，5JK	155	8	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	土師器釜か壺	98SD155と一連。
98SD155	7	9	f	224	5J	78	10	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	98SD154と一連。
98SD152	7	9	g	224	5JK	90	6	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD160	7	9	h	224	6KL	98	12	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD137	8	9	i，j	225	7KL，8JK	104	76	皿状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	1183	92SD75と同一か。
98SD136	8	9	k	224 225	6JKL， 7JKL	100	72	彎曲	単層	無し。	Ⅶ期	673、土師器釜か壺	
92SD74	8 12 16	9 13 17	o b a，b	225 255	7L，8LK， 9IJ，10I	110	16	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅵ3期？	石鏃	
98SD120	11	13	c	225	9JK	60	20	皿状	レンズ状	92SD74に切られる。	Ⅶ期	45、肥前系陶器すり鉢	92SD74と一連。
98SD121	11	13	d	225	9JK	84	26	皿状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	92SD74と一連。
92SD76	11	13	e	226	8IJ	74	14	皿状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	
92SD75	11	—	—	—	8J，9IJ	100	20	皿状	単層	無し。	Ⅶ期？	665	
98SD133	12	13	f	226	8KL	68	43	「U」字状	レンズ状	98SD76・131，92SD74に切られる。8Lピット1を切る。	Ⅵ2期	無し	
98SD128	12	13	h	226	9KL	45	10	皿状	レンズ状	98SD76に切られる。	Ⅵ2期	無し	
98SD127	12	13	k	226	9K	28	12	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅵ期？	無し	
98SD122	12	13	l	226	9K	40	15	彎曲	レンズ状	98SD76との切り合い関係は不明。	Ⅵ2期	無し	
98SD123	12	13	m	227	9K	40	12	皿状	レンズ状	ピットに切られる。	Ⅵ2期	無し	
98SD131	12	13	n	—	8KL，9K	96	30	彎曲	レンズ状	98SD133を切る。98SD76・SK138に切られる。	Ⅵ3期	須恵器壺、土師器釜か壺	
98SD76	12	13	n	—	8KL，9K， 10JK	155	10	彎曲	レンズ状	98SK138に切られる。98SD128・131・133を切る。98SD122・126・135・140との切り合い関係は不明。	Ⅵ3期	土師器釜か壺	92SD34Aと一連か。
98SD126	12	—	—	226	9KL	92	16	彎曲	レンズ状	98SK117・SD76に切られる。	Ⅴ期？	土師器壺	
98SD135	12	—	—	227	8L	20	11	彎曲	水平	98SD76との切り合い関係は不明。	Ⅵ2期	無し	
98SD124	12	—	—	226	9K	70	14	彎曲	レンズ状	98SK141に切られる。	Ⅵ2期	無し	
98SD77	14	15	b，d	227	10JKL	120	28	「V」字状	レンズ状	98SD76に切られる。98SK103・107・144を切る。	Ⅵ2期	土師器釜か壺	
98SD97	14	15	c，f	258	11K	44	27	皿状	単層	98SK104・106を切る。	Ⅵ3期	土師器釜か壺・高杯か器台	
98SD101	14	15	j	227	11KL	120	8	皿状	水平	無し。	Ⅵ2期	無し	
98SD96	14	15	k	227	11K	40	4	皿状	単層	無し。	Ⅵ3期	無し	
92SD88	16	17	c，d，e	227	10I・11I	98	24	台形状・彎曲	レンズ状	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	

遺構名	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	幅(cm)	深(cm)	断面形	覆土	切り合い関係	時期	出土遺物	備　考
92SD84	16	17	f，g	228	11IJ	160	24	彎曲	レンズ状	1号方形周溝墓を切る。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
98SD108	16	17	h	228	10J	100	13	台形状	レンズ状	無し。	Ⅵ2期	無し	
98SD109	16	17	h	228	10J	32	11	皿状	単層	無し。	Ⅵ2期	無し	
98SD110	16	17	i	228	10JK	60	12	皿状	レンズ状	98SD111を切る。	Ⅵ2期	無し	
98SD111	16	17	j	228	10JK	40	8	皿状	レンズ状	98SD76・110に切られる。	Ⅵ2期	無し	
98SD112	16	—	—	—	10J	30	13	皿状	—	98SD76に切られる。	Ⅵ2期	無し	
92SD33A	16	—	—	—	11I	75	14	皿状	—	無し。	Ⅵ3期	無し	
92SD34A	16 18	17 19	k a,b,c,e	—	10J，11J， 12IJ，13I	168	52	彎曲	レンズ状	92SK42・82・58・49・68・69・89を切る。	Ⅵ3期	4・7	98SD76と一連か。
92SD40A	18	19	f	—	12iJ	140	44	彎曲	水平	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
92SD207	18	—	—	—	12J	68	5	皿状	—	無し。	Ⅶ期	無し	
92SD206	18	—	—	—	12J	58	8	皿状	—	92SK202を切る。	Ⅶ期	無し	
98SD42	21 26 30 34	22 27 31 36	f g g，h g	228 229 230	11～16K	90	60	彎曲	レンズ状	89SD18・98SD93に切られる。	Ⅵ3期？	6・245・須恵器甕	
98SD115	21	23	h	229	11L,12KL	80	52	「V」字状	レンズ状	ピットに切られる。	Ⅶ期	無し	
98SD119	21	23	j	229	12L	36	16	「V」字状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD206	21	—	—	—	12K	55	—	皿状	単層	無し。	Ⅵ期？	無し	
92SD62	26	27	b	229	14J	33	5	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
92SD63	26	27	c	229	14J	60	5	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
92SD64	26	27	d	229	14J	25	6	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD68	26	27	e	229	12・13K	60	16	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	
92SD56A	26	27	f	229	14J	58	22	台形状	レンズ状	92SD56Bを切る。	Ⅶ期	無し	
92SD56B	26	—	—	—	14J	56	14	彎曲	単層	92SD56Aに切られる。	Ⅶ期	無し	
98SD94	26	—	—	230	14K	60	27	「V」字状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	
89SD7	28	29	a	—	13H　14H	45	20	箱状	レンズ状	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
89SD21	28	29	c	230	14H	185	20	皿状	単層	89SK23に切られる。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
89SD18	30 32	31 33	a，b j	230 231	15GHIJKL	288	84	台形状	レンズ状	92SK70を切る。	Ⅵ3期	643・1132	
98SD93	30	31	f，h	230	16K	96	36	皿状	レンズ状	98SD42を切る。	Ⅵ3期？	無し	
92SD205	30	—	—	—	14J，15J	50	—	皿状	—	無し。	Ⅶ期	無し	
92SD204	30	—	—	—	15J	45	—	皿状	—	無し。	Ⅶ期	無し	
92SD67	30	—	—	230	16JK	110	35	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅵ3期？	無し	
89SD25	32	33	c，d	231 359	16H	216	28	皿状	単層	無し。	Ⅵ3期？	無し	
98SD61	34	36	d	231	16L	110	48	「V」字状	不整	98SK65を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	土師器釜か壺	
98SD35	34	36	h	231	17K	64	16	皿状	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
98SD81	34	—	—	—	16・17K	116	52	「U」字状	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
89SD30	35 37 38	36 39	o a，b	232	17HI 18IJ	130	32	彎曲	単層	89SK31を切る。	Ⅶ期	46、肥前系陶器	
98SD86	35	36	i	—	18L	116	72	彎曲	不整	98SD23との切り合い関係は不明。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
98SD57	35	36	j	231	18K	40	10	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD58	35	36	k	231 232	18K	40	5	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD55	35	36	l	232	18K	92	12	皿状	単層	98SD23との切り合い関係は不明。	Ⅶ期	無し	
92SD122A	35	36	m，n	232	17K, 18JK	140	48	「U」字状	レンズ状	89SD30に切られる。92SD122Bとの切り合い関係は不明。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
92SD122B	35	—	—	232	18JK	160	15	皿状	レンズ状	89SD30に切られる。92SD122Aとの切り合い関係は不明。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
92SD123	35	—	—	232	18J	290	63	彎曲	レンズ状	89SD30に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
98SD87	35	—	—	232	17L	60	15	皿状	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
98SD39	40	41	c，d， g，i	234 235	19K	180	50	皿状	レンズ状	98SD15・23を切る。	Ⅶ期	663	
98SD23	40 46 48 52	41 47 49 53	b，e， h，i d d a，b	233 234	18KL, 19JK,20J, 21J，22J, 23JK, 24JK，25J	170	92	台形状	レンズ状	98SK38・99SK1796に切られる。99SK1188・1934を切る。	Ⅵ2期	197・216～223・935・1113、珠洲甕か壺T・瓷器系甕・土師器釜か壺	
98SD15	40 44 48 52	41 45 49 54	f，g f g l，s	234	20～25K	90	34	「V」字状	レンズ状	98SK21を切る。98SD12・18・39・99SD1349・ピットに切られる。	Ⅵ3期	土師器釜か壺・高杯	
98SD7	40	41	j	235	20KL	70	15	皿状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD36	42	43	a	235	20I	90	20	皿状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD37	42	43	b，c	235	20HI	85	45	皿状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	
92SD98	42	—	—	—	19I	102	28	皿状	レンズ状	無し。	不明	185・1185	
98SD5	44	45	d	235	20KL	48	10	皿状	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し	
98SD4	44	45	d	235	20L	25	18	「V」字状	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し	
98SD28	44 48	45 49	e l	235	21KL, 22L	90	12	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	瓷器系甕	98SD12・18と一連。
98SD12	44 48	45 49	f h	235 237	21K，22K	80	40	皿状	単層	98SD15を切る	Ⅶ期	土師器釜・釜か壺・高杯	98SD18・28と一連。
98SD3B	44	45	g，h	236	20KL	140	70	台形状	レンズ状	98SK3Aを切る。	Ⅵ3期	148・149	台形状のものから「V」字のものへ掘りなおされる。98SD34・53と同一か。
98SD33	46	47	a	236	21H	108	15	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	98SD31･32と一連。

付表1　遺構観察表

遺構名	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	幅(cm)	深(cm)	断面形	覆土	切り合い関係	時期	出土遺物	備　考
98SD32	46	47	b	236	21HI	65	13	皿状	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	98SD31･33と一連。
98SD31	46	47	c	236	21HI	75	8	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	98SD32･33と一連。
98SD34	46	47	e，i	236 237	20IJ， 21HI	90	64	台形状	レンズ状	98SD23を切る。	Ⅶ期	須恵器甕・横瓶・杯	98SD3A・98SD53と同一か。
98SD10	46	47	f	237	21IJ	55	8	皿状	レンズ状	無し。	Ⅵ3期？	無し	
98SD53	46	47	h	237	20JK	260	80	台形状	レンズ状	98SD23を切る。	Ⅵ3期	無し	
98SD18	48	—	—	237	22KL	172	12	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	瓷器系甕	98SD12･28と一連。
99SD1322	48	—	—	237	23L	40	18	彎曲	単層	98SK24を切る。SB5と重複。	Ⅶ期	無し	
98SD203	48	—	—	—	22J，23J	80	10	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
98SD43	48	—	—	229	23IJ	65	15	彎曲	—	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
99SD1349	52	53	i	237	23K	33	7	彎曲	単層	98SD15・99SD1667を切る。SB7と重複。	Ⅶ期	200	
99SD1668	52	54	j	—	24K	62	36	台形状	レンズ状	99SD1675に切られる。 99SK1934を切る。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
99SD1304	52	54	m	238	24・25K	35	12	彎曲	レンズ状	ピットに切られる。99SD1305を切る。	Ⅶ期	無し	
99SD1305	52	54	p	238	25K	25	7	彎曲	単層	99SD1304に切られる。SB7と重複。	Ⅶ期	無し	
99SD1651	52	54	r	—	23K	20	10	彎曲	単層	ピットに切られる。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD1318	52	—	—	—	24KL	47	13	彎曲	単層	ピットを切る。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD1324	52	—	—	—	24KL， 25KL	45	14	彎曲	単層	無し。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD1664	52	—	—	—	24K	45	7	皿状	単層	SB7と重複。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD1316	52	—	—	—	24KL	50	25	彎曲	レンズ状	ピットを切る。SB7と重複。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD1345	52	—	—	—	24K	35	—	皿状	単層	ピットを切る。SB7と重複。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD1323	52	—	—	—	24KL	45	—	皿状	単層	SB7を切る。SB6と重複。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD2183	52	—	—	—	25KL	50	—	皿状	単層	99SK2182を切る。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD2174	52	—	—	—	25KL	50	—	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD1675	52	—	—	238	24K	60	20	台形状	単層	99SK1790･SD1668を切る。99SK1934との切り合い関係は不明。	Ⅶ期	無し	
99SD1667	52	—	—	237	23K	80	9	皿状	単層	99SD1349・1679に切られる。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
99SD1220	52	—	—	—	25I	50	10	皿状	単層	無し。	不明	無し	
99SD1679	52	—	—	237 238	23K	35	15	—	—	99SD1667を切る。	Ⅵ期	196・204	
99SD700	55	—	—	238	24I	48	14	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	土師器釜か壺	
99SD965	55	57	d	238	24J，25J 26HIJ	90	18	彎曲	単層	99SK1796との切り合い関係は不明。	Ⅶ期	無し	
99SD650	56 60 62	57 61 66	f j I，G	238	26J・ 27HIJ	50	17	彎曲	単層	99SD1190を切る。	Ⅶ期	111	
99SD1190	56 60	67 71	f j	239	26J，27J	85	20	彎曲	単層	99SD650に切られる。 99SK1504を切る。	Ⅶ期	無し	
99SD762	56	—	—	238 239	26・27H	200	22	皿状	単層	ピットに切られる。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	
99SD1202	58	59	e	239	25GH	60	10	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
99SD1125	58	59	f	239	25GH	50	10	皿状	単層	ピットを切る。	Ⅶ期	無し	
99SD1126	58	59	g	239	25H	30	6	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
99SD2185	60	61	c	—	25KL	50	8	皿状	単層	99SK2184を切る。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD2084	60	61	h	239	26・27K	40	10	彎曲	単層	99SD2169を切る。SB8と重複。	Ⅶ期	土師器壺・釜か壺	
99SD2169	60	61	i	239	26K	160	48	台形	レンズ状	99SD2084・SK2161・2165に切られる。	Ⅴ期？	195、珠洲すり鉢・瓷器系甕・土師器釜か壺	
99SD2186	60	—	—	—	25KL	40	—	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	土師器釜か壺	畝状遺構の一部
99SD2199	60	—	—	—	26KL	35	—	皿状	単層	無し。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD2194	60	—	—	—	26KL	35	—	皿状	単層	SB8と重複。	Ⅶ期	無し	畝状遺構の一部
99SD759	62	66	H	240	28H	68	17	彎曲	レンズ状	99SK764に切られる。	Ⅶ期	無し	
99SD665	67	71	L，M	240	28HI， 29HI	152	76	彎曲	レンズ状	99SK664・668・669・931・933・934に切られる。	Ⅱ2～Ⅴ期	無し	
99SD947	67	71	N	240	28I	35	12	彎曲	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD129	73	—	—	240	30I	40	16	「V」字状	単層	無し。	Ⅵ期？	無し	
99SD1280	76	—	—	—	28J	260	68	彎曲	レンズ状	99SK1284・1717・2060・2066に切られる。	Ⅴ期	199	
99SD2081	80	—	—	—	27JK	170	—	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅴ期？	211、土師器高杯・釜・釜か壺	
99SD1722	84	86	l	240	28K	30	10	皿状	単層	SB12に切られる。	Ⅵ期	無し	
99SD1739	84	86	n	240	28L	36	6	皿状	単層	ピットを切る。99SK1736との切り合い関係は不明。SB11･12と重複。	Ⅵ期	無し	
99SD2407	84	86	o，r	240	27・28L	30	10	彎曲	単層	SB13に切られる。99SE2517を切る。	Ⅵ期	無し	
99SD2409	84	86	p	240	27L	35	10	彎曲	単層	99SE2517を切る。99SE2494・2497との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	無し	
99SD1735	84	—	—	241	28KL	45	12	彎曲	単層	99SK1737・2458を切る。	Ⅵ期	無し	
99SD1889	90	93	C	241	28N	80	10	皿状	レンズ状	99SD1894に切られる。	Ⅵ期？	無し	
99SD1894	90	93	C	241	28N	35	10	彎曲	単層	99SD1889を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1377	90	—	—	241	27M	24	26	箱状	単層	無し。	不明	無し	
99SD1898	90	—	—	241	28N	40	10	皿状	単層	ピットを切る。	不明	無し	
99SD2290	94	—	—	241 242	28・29K	44	6	皿状	単層	99SK2346・2491を切る。	Ⅵ期	無し	
99SD617	94	—	—	242	29K	34	10	箱状	単層	無し。	不明	鉄滓	
99SD637	94	95	i	242	29J	60	20	彎曲	単層	99SK636を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	

遺構名	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	幅(cm)	深(cm)	断面形	覆土	切り合い関係	時期	出土遺物	備　考
99SD30	102 112	104 114	h p	242	29M, 30M, 31M	174	88	「U」字状	レンズ状	99SK925を切る。99SD922・923に切られる。	Ⅴ期？	1124、珠洲壺R、黒色土器杯、土師器釜・壺？・高・小型壺・蓋、弥生土器釜	
99SD2390	102	104	k，n	242	29・30M	120	20	皿状	単層	無し。	Ⅵ2期	無し	
99SD1403	102	104	l	242 243	29M	86	36	「V」字状	レンズ状	99SK1404を切る。	Ⅵ期？	無し	
99SD531	105	106	d	243	31IJ	48	6	皿状	単層	99SD301を切る。	Ⅵ期	376	
99SD532	105	106	e	243	31J	32	4	皿状	単層	無し。	Ⅵ期	無し	
99SD308	105	106	f	—	30J	40	22	彎曲	レンズ状	99SD301に切られる。 99SD304を切る。	Ⅵ期	1131、瓷器系甕	
99SD304	105	106	f	—	30J	40	46	彎曲	レンズ状	99SD308に切られる。 99SD916を切る。	Ⅵ1期	331・332・333・367、土師器釜か壺	
99SD916	105	106	f	—	30J	168	54	彎曲	レンズ状	99SD304に切られる。	Ⅵ期	無し	
99SD536	105	107	l	243	31J	52	10	皿状	単層	SB22に切られる。SB18・19と重複。	Ⅵ期	無し	
99SD507	105	107	m	243	31J	25	10	彎曲	単層	SB17と重複。	Ⅵ期	無し	
99SD301	105	106 107	f n	243	30J，31IJ	80	20	彎曲	レンズ状	99SE305・SK302・SD531に切られる。99SD308を切る。	Ⅵ期	334～336、珠洲甕か壺T・瓷器系甕・須恵器杯	
99SD233	105	—	—	244	30・31K	50	22	皿状	レンズ状	99SD234を切る。99SK723との切り合い関係は不明。SB22・23と重複。	Ⅵ期	386	
99SD234	105	—	—	—	30K	30	5	皿状	レンズ状	99SD233に切られる。99SE831との切り合い関係は不明。	Ⅵ1期	無し	
99SD236	105	—	—	—	30K	35	—	皿状	レンズ状	ピットに切られる。99SE831との切り合い関係は不明。SB22・23と重複。	Ⅵ1期	肥前系磁器皿	
99SD235	105	—	—	244	30K	40	—	皿状	レンズ状	SB23を切る。99SE831との切り合い関係は不明。SB22と重複。	Ⅵ期	無し	
99SD270	105	—	—	—	31J	25	—	皿状	単層	99SD272との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	無し	
99SD272	108	109	i，j	244	31IJ，32IJ	90	18	皿状	レンズ状	99SD278を切る。99SD270との切り合い関係は不明。SB21・22と重複。	Ⅵ期	瀬戸美濃鉢	
99SD278	108	109	j	—	32IJ	40	15	皿状	単層	99SD272に切られる。	Ⅵ期	無し	
99SD96	112	113	d，e，f，h	244 245	31ML	80	30	彎曲	単層	99SD94・164を切る。SB26・27に切られる。99SD97との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	357	
99SD97	112	113	d，e，f，i	244 245	31ML	50	25	彎曲	レンズ状	99SD94を切る。SB26・27に切られる。99SD96との切り合い関係は不明。SB25と重複。	Ⅵ期	土師器釜か壺・高杯・器台？	
99SD94	112	—	e	244 245	30L, 31ML	25	15	彎曲	レンズ状	99SD96・97，SB26に切られる。ピットを切る。SB25・27と重複。	Ⅵ期	無し	
99SD151	112	114	k	245	31KL	63	17	皿状	単層	99SE231，99SD152，SB25・26を切る。SB27に切られる。SB24と重複。	Ⅵ期	土師器釜か壺	
99SD152	112	114	l	245	31L	45	10	皿状	単層	99SE231を切る。99SD151に切られる。SB24・25と重複。	Ⅵ期	無し	
99SD922	112	114	m	245	30LM	90	60	皿状	単層	99SD923を切る。	Ⅶ期	350・1208、肥前系磁器碗・珠洲甕か壺T・土師器釜か壺・骨片	
99SD923	112	114	m，n	245	30LM	62	12	皿状	単層	99SD922に切られる。 99SK925・SD30・118を切る。	Ⅵ期	無し	
99SD31	112 116	114 117	q c	245	31LM, 32JKL, 33J	210	156	「V」字状	レンズ状	ピット・99SE468に切られる。 99SK520を切る。	Ⅵ1期	肥前系磁器碗・瀬戸美濃瓶・土師器釜か壺	
99SD164	112	—	—	244	30L	55	25	彎曲	レンズ状	99SD96・97，SB27に切られる。99SD94との切り合い関係は不明。SB26と重複。	Ⅵ期	珠洲甕か壺T・すり鉢	
99SD118	112	—	—	246	30L	40	14	彎曲	レンズ状	99SD923に切られる。99SE831との切り合い関係は不明。	Ⅵ3期	無し	
99SD1880	118 121	119 120 122	a，b t d	246 247	28O, 29ON, 30N	(160)	135	台形状	レンズ状	99SD1508・1879・1881に切られる。99SK1936を切る。	Ⅵ2期	543～547・1012珠洲甕か壺T・壺R、須恵器杯・甕、土師器釜・釜か壺・壺・高杯	
99SD1508	118 121 125	119 120 122 128	a o，p d f	246 247	29NOP, 30NPQR, 31QR	200	102	「V」字状	レンズ状	99SD1880・1881を切る。99SD1507・SE1905に切られる。99SD1535・1860との切り合い関係は不明。	Ⅵ3期	538・539・540・541・542、珠洲甕、須恵器横瓶、土師器釜か壺・壺・高杯	
99SD1879	118	119	b，e	246	28O，29O	70	15	皿状	レンズ状	99SK1884・1888を切る。	Ⅵ期	560	
99SD1881	118	119 120	b s	248	28・29NO	348	68	彎曲	レンズ状	99SD1880・1936を切る。	Ⅵ2期	548～552、珠洲甕か壺T・壺R、須恵器杯、土師器釜か壺	
99SD2249	118	119	d	247	29N	40	7	皿状	単層	99SD1936との切り合い関係は不明。	不明	無し	
99SD1854	118	119	f	243	28O，29O	25	10	彎曲	レンズ状	99SD1859を切る。	Ⅵ期	無し	
99SD1936	118	119	g	247	29N	110	38	彎曲	レンズ状	99SD1880・1881に切られる。99SD2249との切り合い関係は不明。	Ⅵ1期	580	
99SD1859	118	120	i	247	28O	20	5	彎曲	単層	99SD1854に切られる。	Ⅵ期	無し	
99SD1860	118	120	j	247	28O，29O	50	15	皿状	単層	99SD1508との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	土師器釜か壺	
99SD1848	118	120	k	247	29P	50	24	彎曲	レンズ状	ピットを切る。SB29と重複。	Ⅴ～Ⅶ期	無し	

付表1　遺構観察表

遺構名	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	幅(cm)	深(cm)	断面形	覆土	切り合い関係	時期	出土遺物	備　考
99SD1041	118	120	m	248	29P	60	15	皿状	単層	99SD1797との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	無し	
99SD1797	118	120	n	248	29OPQ	47	10	皿状	単層	99SD1041・1554・1860との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	無し	
99SD1864	118	—	—	248	29OP	15	5	彎曲	単層	99SE1842・ピットに切られる。	Ⅵ期	無し	
99SD1971	121	122	b	248	30N，31N	152	24	皿状	レンズ状	99SD1963・1991を切る。	Ⅵ2期	701	99SD69と同一か。
99SD1994	121	122	c	249	30O，31O	80	80	皿状	レンズ状	99SD1995に切られる。99SD1649との切り合い関係は不明。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1995	121	122	c	249	30O，31O	100	40	皿状	レンズ状	99SD1994を切る。99SD1649との切り合い関係は不明。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1957	121	122	e	249	30N，31N	90	12	皿状	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD2129	121	123	g	249	30O	70	20	彎曲	不整	99SD2127を切る。99SD1649との切り合い関係は不明。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD2127	121	123	h	249 250	30O	160	28	皿状	単層	SB31，99SD2129に切られる。99SD2125・SK2256を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	201・206・1169・1205	
99SD1637	121 134	123 135	m f，g	250	31P，32P	72	10	皿状	単層	99SD2005との切り合い関係は不明。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD2006	121	124	q	—	31P	40	12	皿状	単層	99SD2007を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD2007	121	124	q	—	31P	65	40	皿状	単層	99SD2005を切る。99SD2006に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1649	121 127	124 128	s，t h	250	30NO，31OPQ	100	85	「V」字状	レンズ状	99SD1880・2005，SB31・32・33・34を切る。99SD2125・2129との切り合い関係は不明。	Ⅵ3期	無し	99SD1927と同一か。
99SD1927	121	—	—	250	30N	24	9	彎曲	—	99SD1880を切る。	Ⅵ3期	無し	99SD1649と同一か。
99SD1989	121	—	—	250	31NO	28	10	彎曲	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1554	125	126	b，d	250 251	29Q，30QR	45	15	彎曲	単層	99SD1797との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	瓷器系甕、須恵器瓶	
99SD1847	125	126	i	251	29R	70	15	皿状	レンズ状	99SK1846に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1861	125	126	k	251	29R	40	10	彎曲	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1535	125	—	—	—	30Q	22	15	彎曲	レンズ状	99SD1508との切り合い関係は不明。	Ⅵ～Ⅶ期	珠洲甕か壺T	
99SD1507	127	128	c	251	30PQ	112	18	皿状	レンズ状	ピットなどに切られる。99SD1508を切る。	Ⅶ期	肥前系磁器碗	
99SD2005	127	128 129	h t	250 251 252	31OPQ	145	78	「V」字状	レンズ状	99SD2007・1648・1649に切られる。99SD1642・1645との切り合い関係は不明。	Ⅵ2期	無し	
99SD1644	127	129	n	251	31Q	38	32	彎曲	ブロック状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1537	127	129	p	251	30P	25	6	皿状	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD2268	127	129	q	—	30・31P	38	8	皿状	単層	SB32・33と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1907	127	—	—	252	30Q	68	10	彎曲	レンズ状	99SK1906を切る。ピットに切られる。SB35と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD364	130	131	d	252	32・33M	140	33	彎曲	単層	99SK368を切る。	Ⅵ期	1014、珠洲甕か壺T	99SD365・1971と一連。
99SD362	130	131	f	252	32・33M	115	33	彎曲	レンズ状	99SK361を切る。99SK367に切られる。	Ⅵ期	無し	
99SD67	130	131	h	252	32N	48	11	皿状	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD66	130	131	i	252	32N	20	8	彎曲	単層	99SK367を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD69	130	132	j	252 253	31・32N	134	74	「V」字状	レンズ状	無し。	Ⅵ期	604～606	
99SD10	130	132	k，l	253	33MN	85	60	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD70	130	132	m	—	33N	30	10	皿状	単層	99SK9・SD360を切る。ピットに切られる。	Ⅶ期	無し	
99SD356	130	132	p	253	31N，32N	26	8	皿状	単層	99ピット355に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD357	130	132	q	253	31N	23	15	台形状	レンズ状	99SK358との切り合い関係は不明。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD78	130	133	r，s	253	32N0	133	56	彎曲	レンズ状	99SD354に切られる。99SK87を切る。	Ⅶ期	384、肥前系磁器碗・肥前系陶器甕・珠洲甕か壺T	
99SD354	130	133	u，s	253 254	320	70	28	彎曲	レンズ状	99SD78を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD360	130	133	v	254	33N	160	70	彎曲	ブロック状	99SD39·SK8·9·ピットに切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD365	130	—	—	254	32M	136	52	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	99SD364・1971と一連。
99SD366	130	—	—	—	31M，32M	250	80	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し	
99SD73	134	135	e	254	32OP	(88)	15	皿状	単層	99SD74に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD74	134	135	e	254	32OP	48	12	皿状	単層	99SD73を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD2	134	—	—	—	32P，33P，32Q	100	45	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し	
99SD1638	134	—	—	254	31Q	46	12	彎曲	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1461	136	138	f	254	29・30U	70	26	彎曲	水平	99SD1452・1462に切られる。99SE1468，SB36・37を切る。	Ⅶ期	無し	
99SD1462	136	138	f	254 255	29・30U	78	28	彎曲	ブロック状	99SD1452に切られる。99SD1461を切る。SB36・37と重複。	Ⅶ期	無し	
99SD1451	136	138	l	—	29・30T	110	10	彎曲	水平	99SD1452を切る。	Ⅶ期	無し	
99SD1452	136	138	l	255	30TU	60	40	「U」字状	レンズ状	99SD1451に切られる。99SD1461・1462・SK1453・ピットを切る。	Ⅶ期	無し	
99SD1625	136	138	n，m	255	29T·30ST	60	32	彎曲	単層	無し。	Ⅶ期	無し	
99SD1586	136	138	o	255	29R	40	10	皿状	単層	99SI1581を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1557	136	138	p	255	29R	30	10	皿状	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し	
99SD1464	136	—	—	246	29・30T	48	10	皿状	単層	99SE1626・1463・1465に切られる。SB36・37と重複	Ⅴ～Ⅵ期	土師器釜か壺	

土坑（上層）

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）	平面形	断面形	分類	覆土	切り合い	時期	出土遺物
98SK153	6	9	a	256	4J	3	76	80	12	円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	土師器釜か壺
98SK159	8	9	l	256	7K 7L	4 24・25	342	122	12	楕円	皿状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
98SK158	8	9	m	256	7K	24	72	78	10	円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
7Kピット13	8	—	—	—	7K	17・22	86	78	10	円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
7Kピット2	8	—	—	—	7K	8	86	72	12	円	皿状	—	単層	SB1と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
7Kピット31	8	—	—	—	7K	19・20	98	76	10	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
92SK97	11	13	a	256	8I 8J	3 23	80	45	24	長方	台形状	B類	レンズ状	無し。	Ⅶ期	762
98SK138	12	13	g	256	8K 8L	2 22	182	100	46	楕円	台形状	C3類	レンズ状	98SD76を切る。	Ⅵ3～Ⅶ期	無し
98SK118	12	13	i	256 257	9L	16・17 21・22	136	88	44	長方	台形状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	銭貨
9Lピット2	12	13	j	—	9L	18・19 23・24	80	80	26	方	箱状	C5類	単層	溝を切る。	Ⅵ期	1160
8Lピット1	12	—	—	—	8L	17・18 22・23	75	75	34	方	台形状	C5類	単層	98SD76･133に切られる。	Ⅵ1期	無し
98SK117	12	—	—	257	9K	3・8	108	76	36	長方	台形状	C4類	レンズ状	98SD126を切る。	Ⅵ1期	大型の角柱状の石
98SK141	12	—	—	—	9K 9L	1 21	120	92	41	長方	台形状	C4類	—	98SD124に切られる。	Ⅵ1期	土師器釜か壺
98SK125	14	15	a	257	10K	25	136	68	46	楕円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し
98SK104	14	15	c	257	11K	19・20	116	92	84	方	箱状	C4類	レンズ状	98SD97に切られる。	Ⅵ1･2期	無し
98SK103	14	15	d	257	10L	11	148	130	46	方	箱状	C4類	レンズ状	98SD79に切られる。	Ⅵ1期	無し
98SK107	14	15	e	258	10L	21・22	104	80	52	長方	箱状	C4類	斜め	98SD77に切られる。	Ⅵ1期	無し
98SK106	14	15	f	258	11K	18・19	104	100	60	方	箱状	C4類	レンズ状	98SD97･ピットに切られる。	Ⅵ1期	37～40
98SK105	14	15	g	258	10K	5	92	56	34	長方	箱状	C5類	水平	無し。	Ⅵ期	銭貨､土師器釜か壺
98SK132	14	—	—	258	9L 10L	16・21 20・25	92	76	34	円	台形状	—	—	無し。	Ⅵ期	31～33
92SK200	18	19	d	—	11I 12I	11・16 15・20	278	166	12	楕円	皿状	—	レンズ状	Ⅴ層を切る。 ピット群に切られる。	Ⅴ～Ⅵ2期	無し
92SK116	18	20	m	258	12J	9・10 14・15	104	96	62	方	箱状	C4類	レンズ状	92SK203を切る。	Ⅵ期	無し
92SK41	18	20	n	259	11J	11・12 16・17	122	84	96	長方	箱状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	28～30、土師器釜か壺
92SK112	18	20	o	259	11J 12J	11 16	105	60	74	方	箱状	C4類	斜め	92SK126に切られる。 92SK114・127を切る。	Ⅵ期	無し
92SK113	18	20	o	259	11J 12J	6・11 10・15	92	70	60	長方	袋状	D類	水平	92SK127を切る。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
92SK114	18	20	o	259	11J	11・16	150	(70)	20	円	皿状	—	単層	92SK112・126に切られる。	Ⅵ期	無し
92SK115	18	20	p	259	12J	15・20	110	52	26	長方	箱状	C4類	単層	無し。	Ⅵ期	24～27
98SK129	18	—	—	—	12J	3・8	(335)	85	—	長方	箱状	C1類	—	無し。	Ⅴ2期	無し
92SK126	18	—	—	—	11J	11・12	146	104	41	方	彎曲	C4類	—	92SK112・114・127を切る。	Ⅵ期	珠洲甕か壺T
92SK127	18	—	—	259	11J 12J	6・11 10・15	300	160	41	長方	台形状	C1類	—	92SK112・113・126に切られる。	Ⅴ2期	無し
92SK51	18	—	—	260	13I	9・10	54	40	17	円	皿状	—	—	無し。	Ⅵ期？	骨片
98SK203	18	—	—	—	12J	14・15	(100)	60	—	方	—	C4類	—	92SK116に切られる。	Ⅵ期	無し
92SK55	18	—	—	260	12I	13	90	48	28	楕円	台形状	—	レンズ状	99SK43を切る。	Ⅵ期	骨片
92SK49	18	—	—	259	12I	1	58	50	—	円	皿状	—	単層	92SD34Aを切る。92SK69との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	骨片
92SK54	18	—	—	263	12I	20・25	50	41	—	円	皿状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期	骨片
98SK98	21	22	a	260	11J 12J	1・6 5・10	(75)	70	36	円	箱状	—	ブロック状	92SK127に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	1198・1201
98SK100	21	22	d	260	12J 12K	3・4 23・24	(300)	112	76	楕円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
98SK69	21	22	e	260	11K 12K	1・6 5・10	204	142	48	長方	箱状	C2類	ブロック状	無し。	Ⅴ2期	無し
98SK70	21	23	g	261	12K	3・4・8	156	88	8	長方	皿状	E3類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
98SK102	21	23	i	261	11L	12・13 17・18	120	80	43	長方	箱状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
98SK142	21	23	l	261	11M	17・18	108	(60)	74	円	箱状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期？	無し
92SK46	24	25	a, b	261	12I	6・7・ 11・12	200	160	10	楕円	皿状	—	単層	ピットに切られる。 92SK77・82を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
92SK45	24	25	c	—	12I	13・18	150	105	20	楕円	皿状	—	レンズ状	ピットに切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	骨片
92SK89	24	25	d	261	12I	2･6･7	197	147	100	長方	箱状	C3類	レンズ状	92SK69・SD34Aに切られる。	Ⅴ2期	無し
92SK68	24	25	e	261	12I	1・2	150	73	52	円	彎曲	—	レンズ状	92SK69に切られる。	Ⅵ期	骨片
92SK69	24	25	e	261	12I	1・2	84	82	48	長方	彎曲	E4類	レンズ状	92SK68を切る。	Ⅵ期	骨片
92SK94	24	25	j	262	13J	15	100	68	55	長方	箱状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
92SK93	24	25	k	262	13J	14・15 19・20	100	53	10	長方	皿状	E4類	単層	無し。	Ⅵ期	34～36
92SK83	24	25	l	260	12I 13I	11 15	112	70	36	長方	皿状	E4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	骨片
92SK58	24	25	m	262	12I	6・7	90	60	12	長方	皿状	E5類	レンズ状	92SD34A・ピットに切られる。	Ⅵ期	無し
92SK204	24	25	n	—	13I	1･2･6	200	120	36	長方	箱状	C2類	単層	92SK43・52を切る。	Ⅴ期	無し

付表1　遺構観察表

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	分類	覆土	切り合い	時期	出土遺物
92SK52	24	25	n	262	13I	1・2 6・7	(200)	186	24	方	彎曲	E2類	単層	92SK43を切る。 92SK204に切られる。	Ⅴ～Ⅵ期	骨片
92SK82	24	—	—	263	12I	11・12	110	50	10	長方	皿状	E4類	単層	92SK46を切る。ピットに切られる。	Ⅵ期	878
89SK13	24	—	—	264	13I	20・25	106	34	6	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
89SK14	24	—	—	262	12I	21	120	30	14	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
89SK5	24	—	—	263	12H	6・11	136	80	18	不整	台形状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	骨片
89SK6	24	—	—	263	12H	7・12	62	30	10	楕円	彎曲	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	骨片
92SK202	24	—	—	—	12J	12・13	(75)	50	15	長方	箱状	C5類	単層	92SD206に切られる。	Ⅵ期	無し
92SK44	24	—	—	263	12I	8・13	120	90	18	楕円	皿状	—	単層	ピット群に切られる。	Ⅵ期？	骨片
92SK77	24	—	—	263	12I	11・12	94	62	20	長方	箱状	C5類	レンズ状	92SK46に切られる。	Ⅵ期	骨片
98SK95	26	27	a	263 264	14K 14L	2・3 22・23	116	90	36	方	箱状	C4類	単層	無し。	Ⅵ期	無し
92SK119	26	—	—	—	14J	23	70	50	—	長方	箱状	C5類	—	無し。	Ⅵ期	無し
89SK10	28	29	b	264	13H	3・4 8・9	110	70	20	長方	皿状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
89SK16	28	29	d	264	13H 13I	2・3 22・23	192	132	42	楕円	箱状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
89SK1	28	29	e	264	13H	1・2	96	82	36	円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
89SK11	28	29	f	264	13I	18・19 23・24	(112)	58	2	長方	皿状	B類	単層	無し。	Ⅶ期	瓷器系甕
89SK12	28	29	g	265	13I	17・18	86	38	14	楕円	箱状	B類	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
89SK2	28	29	h	264	13I	22	64	52	21	円	彎曲	—	レンズ状	89SD15を切る。	Ⅵ期？	骨片
89SK23	28	29	i	265	14H	4	104	40	60	楕円	「U」字状	—	単層	89SD21を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
89SK22	28	29	j	265	14I	8・13	92	86	22	方	箱状	C5類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
92SK61	28	29	k	265	14I	8	78	43	12	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ期？	骨片
89SK101	28	—	—	—	14H	5	152	(130)	20	円	彎曲	—	—	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
92SK66	30	31	d, e	265	15I 15J 16I 16J	1 21 5 25	224	172	24	不整	皿状	—	単層	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し
98SK89	30	31	i	265	15K 15L 16K 16L	1 21 5 24・25	240	180	88	楕円	台形状	—	レンズ状	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し
89SK24	32	33	e	266	14I 15I	11 15	130	110	40	楕円	箱状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
98SK85	34	36	a	266	16K	18・19	116	104	50	方	箱状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
98SK84	34	36	b	266	16K	17・18	130	116	52	円	箱状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
98SK65	34	36	c	266	16L	18・23	300	120	40	楕円	彎曲	—	レンズ状	98SD61との切り合い関係は不明	Ⅴ～Ⅶ期	珠洲甕か壺T
98SK63	34	36	e	267	17L	14・19	45	45	15	方	皿状	E5類	単層	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	土師器釜か壺
98SK64	34	36	f	266	17L	17	70	68	10	方	皿状	E5類	単層	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し
98SK82	35	—	—	267	17L 18L	11・16 15・20	220	(140)	—	不整	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し
89SK31	38	39	a	—	17H 18H	6・11・ 12・16 17・15	316	210	60	長方	台形状	C1類	単層	89SD30に切られる。	Ⅴ2期	無し
92SK72	38	39	c	267	17I	7・12	(90)	90	48	長方	箱状	C4類	ブロック状	無し。	Ⅵ期	1138
98SK71	40	41	a	267	19J	2・3・ 7・8・ 12・13	272	158	22	不整	彎曲	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
98SK59	40	41	k	267	19L	8	136	124	68	円	台形状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期？	鉄滓
98SK6	44	45	a, b	267	21J	10	98	86	15	方	皿状	B類	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し
98SK2	44	45	c	268	20K 21K	16・21 20	180	166	70	方	箱状	C3類	単層	無し。	Ⅴ2期	土師器釜か壺
98SK3A	44	45	g	236	20L	17	178	148	68	円	台形状	—	レンズ状	98SD3Bに切られる。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
98SK38	44	47	g	268	20J	16・17	126	122	75	方	台形状	B類	レンズ状	98SD23を切る。	Ⅶ期	無し
98SK21	48	49	e	268	22K	15・19 20・25	230	170	56	長方	箱状	C2類	レンズ状	98SD15に切られる。	Ⅴ2期	土師器釜か壺
98SK20	48	49	f	268	22K 22L	2・3 22・23	210	200	56	円	彎曲	—	レンズ状	98SD12を切る。	Ⅶ期	692、瓷器系甕・須恵器杯
98SK41	48	49	i	268	23K	3・8	126	110	68	円	彎曲	—	レンズ状	99SK2572を切る。 SB7と重複。	Ⅵ期？	珠洲甕か壺T、瓷器系甕、土師器釜か壺
98SK2556	48	—	—	—	23K	7・8・ 12・13	200	180	15	不整	—	—	—	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し
99SK2572	48	—	—	—	23K	2・3・8	290	180	25	長方	皿状	—	—	98SK41に切られる。 SB7を切る。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK2575	48	—	—	—	23L	17・18	166	(80)	36	長方	箱状	C3類	単層	98SK24に切られる。	Ⅴ期	無し
99SK1685	48 52	—	—	—	23K	21・22 23	248	92	24	楕円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
98SK30	50	51	a	268	22I	13・ 14・19	124	118	20	方	彎曲	B類	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し
99SK1945	52	53	c	269	25I 25J	3・4 23・24	168	104	26	楕円	袋状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1795	52	53	d	—	25J	4・9	154	70	10	長方	皿状	E3類	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1311	52	53	g, h	269	24K 25K	11・16 15・20	278	132	42	楕円	皿状	—	レンズ状	99SK1674を切る。	Ⅵ期	無し
99SK1319	52	54	k	269	24K	6・7	130	108	16	円	皿状	—	単層	ピットに切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）	平面形	断面形	分類	覆土	切り合い	時期	出土遺物
99SK1637	52	54	n	269	24K	12・16・17	108	(80)	15	円	彎曲	—	単層	99SK1674に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1188	52	54	o	—	24J	4・5 9・10 14・15	350	97	32	楕円	彎曲	—	ブロック状	98SD23に切られる。	Ⅳ～Ⅴ期	無し
99SK1306	52	54	q	269	24K	16	95	80	12	不整	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1674	52	54	t	270	24K	11・12 16・17	178	152	20	楕円	彎曲	—	レンズ状	99SK1673を切る。99SK1311に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1796	52	54	u	—	25J	3・8	180	80	15	不整	皿状	—	単層	98SD23・99SD965を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1301	52	—	—	269	24J	18・19	107	80	40	不整	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1320	52	—	—	—	24K	1	92	57	6	不整	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1760	52	—	—	—	25K	19・24	128	58	20	楕円	彎曲	—	—	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1934	52	—	—	270	24K	18・19 23・24	258	150	—	楕円	台形状	—	レンズ状	98SD23に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1232	55	57	a	270	25H	4・5	190	120	40	楕円	「V」字状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	土師器釜か壺
99SK1501	55	—	—	—	24I	12	68	35	22	不整	彎曲	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1502	55	—	—	270	24I	12	108	80	39	楕円	彎曲	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1204	56	57	b	270	25I	11・12	90	70	60	楕円	階段状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1115	56	57	c	270	26J	22・23	172	(62)	28	楕円	彎曲	—	レンズ状	ピットに切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1054	56	57	e	270	27I	10・15	150	80	32	楕円	彎曲	—	レンズ状	99SD650に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1234	56	57	g	271	25I	7	60	60	10	方	皿状	E5類	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1121	58	59	a	271	25G	11 12	120	100	65	方	箱状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK781	58	59	h	271	26H	7	180	83	50	長方	箱状	C3類	単層	無し。	Ⅴ2期	無し
99SK787	58	59	i	271	26I	16・17 21・22	90	80	15	方	皿状	E5類	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1700	60	61	a	271	25K 25J	21・22 1・2	176	100	40	楕円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1672	60	61	b	272	25K	12・17	150	146	30	円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2184	60	61	c	272	25L	21	88	88	48	方	箱状	C5類	単層	99SD2185に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK2161	60	61	d	272	26J 26K	3 18・23	(290)	80	38	長方	箱状	C1類	単層	99SD2169を切る。	Ⅶ期	無し
99SK2164	60	61	e	272	26J 26K	3 23	74	66	12	方	皿状	E5類	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK2165	60	61	f	272	26K	22	114	76	15	長方	皿状	E4類	単層	99SD2169を切る。	Ⅵ期	無し
99SK1080	60	61	g	272	26J	6	74	45	13	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1113	60	61	k, l	273	26J	1	110	95	47	方	箱状	C4類	ブロック状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK780	62	63	c	273	27F	3	140	100	70	方	箱状	C4類	水平	無し。	Ⅵ期	無し
99SK776	62	63	d	273	27G	24・25	150	150	136	円	箱状	—	レンズ状	99SK859を切る？	Ⅴ2期？	無し
99SK859	62	63	e	273	27G	24	(122)	80	10	長方	皿状	E4類	単層	99SK776に切られる？	Ⅵ期？	無し
99SK853	62	63	f	273	27F 27G	1・2 22	140	130	60	円	彎曲	—	レンズ状	99SK854を切る。	Ⅵ期	無し
99SK854	62	63	f	273	27F 27G	2 22	130	(100)	50	円	彎曲	—	レンズ状	99SK853に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK771	62	63	g	273	26G 27G	11 15	140	120	45	方	箱状	C4類	水平	無し。	Ⅵ期	無し
99SK772	62	63	h	274	27G	14・15 19・20	120	120	40	方	箱状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK861	62	64	l	274	27G	9	100	70	10	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK973	62	64	m	274	27G	4	110	70	20	長方	皿状	E4類	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK761	62	64	n	274	27G	2・3	107	92	28	方	彎曲	E4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK756	62	64	o	274	27H	23	78	86	23	楕円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1228	62	65	w	275	27G 28G	11・16 20	160	160	80	方	箱状	C3類	レンズ状	99SK851を切る。	Ⅴ2期	無し
99SK786	62	66	F	—	27H 27I	5 25	78	70	40	円形	箱状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK775	62	66	J	275	27G	8・9 13・14	100	55	8	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1201	62	66	K	275	27G	6・11	不明	(100)	50	長方	箱状	C4類？	水平	99SK851を切る。99SK867との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	無し
99SK773	67	68	a	275	28G	14・15	160	150	65	方	箱状	C3類	単層	無し。	Ⅴ2期	無し
99SK386	67	68	c	275	28G	1・2 6・7	180	148	134	方	箱状	C3類	斜め	無し。	Ⅴ2期	無し
99SK866	67	68	d, e	276	28G	3・4 8・9	210	130	30	長方	箱状	C2類	単層	99SK865を切る。	Ⅴ2期	無し
99SK865	67	68	e	276	28G	4・9	(150)	110	30	長方	箱状	C3類	単層	99SK866に切られる。	Ⅴ2期	無し
99SK396	67	68	g	276	29G 29H	4 24	170	162	96	方	階段状	C3類	水平	無し。	Ⅴ2期	無し
99SK670	67	68	h	276	28H 29H	16・21 20・25	156	128	56	楕円	箱状	—	レンズ状	99SK668を切る。	Ⅴ～Ⅶ期	無し
99SK654	67	68	i	276	29G	5	(80)	50	12	楕円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK666	67	68	j	277	28G 28H 29G 29H	1 21 5 25	159	118	40	楕円	箱状	—	レンズ状	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	無し
99SK667	67	69	l	277	29G	5	(62)	48	30	楕円	箱状	—	水平	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK764	67	69	o, p	277	28H	13・14 18・19	160	110	55	長方	箱状	C3類	水平	99SD759を切る。	Ⅵ期	骨片

付表1　遺構観察表

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	分類	覆土	切り合い	時期	出土遺物
99SK766	67	70	q	277	28H	8・9 13・14	145	113	48	方	箱状	C4類	不整	無し。	Ⅵ期	骨片
99SK767	67	70	r，s	277 278	28H	9	(140)	85	64	長方	箱状	C4類	単層	99SK768に切られる。	Ⅵ期	959
99SK768	67	70	s	278	28H	9	70	55	12	円	箱状	—	単層	99SK767を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK784	67	70	t	278	28H	4	108	66	45	長方	箱状	C4類	斜め	無し。	Ⅵ期	骨片
99SK1255	67	70	u	278	28H	17	85	(45)	15	方	皿状	C5類	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1256	67	70	v	278	28H	7	85	(45)	42	方	箱状	C5類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1269	67	70	w	279	28H	2・3	72	45	12	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ期	74・75
99SK1260	67	70	x	278	28H 28I	2・3 23	72	51	8	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ期	土師器釜か壺・骨片
99SK783	67	70	y	279	28H 28I	4 24	105	90	44	円	箱状	—	水平	無し。	Ⅵ期	無し
99SK785	67	70	z	279	28H	3	(87)	67	48	楕円	箱状	—	斜め	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1270	67	70	A	279	28I	17	90	70	14	方	皿状	E5類	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1272	67	70	B	280	28I	12・13 17・18	160	90	18	長方	箱状	C4類	単層	無し。	Ⅵ期	土師器釜か壺・骨片
99SK1257	67	70	C	279	28I	17・18 22・23	117	104	23	方	彎曲	E4類	単層	無し。	Ⅵ期	土師器釜か壺
99SK1281	67	70	D	280	28I	18	124	60	48	長方	箱状	C4類	水平	無し。	Ⅵ期	土師器釜か壺
99SK1277	67	71	E	—	28I	13	130	100	60	方	箱状	C4類	単層	99SK1297･1299を切る。	Ⅵ期	骨片
99SK1279	67	71	F	—	28I	23	80	60	32	方	彎曲	E5類	斜め	無し。	Ⅵ期	骨片
99SK941	67	71	G	281	28I	11・12 16・17	208	96	19	長方	皿状	E2類	レンズ状	99SK936に切られる。	Ⅵ期	99～107、骨片
99SK878	67	71	H	282	28I	14・15 19	125	65	20	楕円	皿状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK669	67	71	I	281	29H	14・15 19・20	183	116	36	長方	彎曲	E3類	レンズ状	99SD665・SK668を切る。	Ⅵ期	無し
99SK664	67	71	J	280	29H	10	90	84	58	楕円	「V」字状	—	単層	99SD665を切る。	Ⅵ期	89～92
99SK400	67	71	K	280	29H	13	82	60	39	方	彎曲	E5類	レンズ状	99SK657を切る。	Ⅵ期	無し
99SK1714	67	71	O	282	28I	6・7・ 11・12	120	80	15	方	皿状	E4類	単層	ピットに切られる。	Ⅵ期	無し
99SK931	67	72	P	280	28I 29I	16 20・25	110	92	44	方	箱状	C4類	単層	99SD665・SK933・934を切る。99SK936に切られる。	Ⅵ期	土師器釜か壺、骨片
99SK933	67	72	P	280 281	29I	20	115	87	48	方	箱状	C4類	単層	99SD665・SK934・1711を切る。99SK931に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK934	67	72	P	280 281	29I	20・25	128	98	86	方	箱状	C4類	単層	99SD933934に切られる。 99SD665・1711を切る。	Ⅵ期	無し
99SK1710	67	72	R	282	29I	19・20 24・25	85	80	32	円	彎曲	E5類	レンズ状	99SK1711を切る。	Ⅵ期	64～69
99SK1711	67	72	R	282	29I	14・15 19・20	(310)	225	48	不整	皿状	—	レンズ状	99SK931・933・934・1294・1710に切られる。 99SK1716・99SK942・1292を切る。	Ⅵ期	土師器釜か壺
99SK683	67	—	—	—	29H	13・14 18・19	(160)	165	60	方	箱状	C4類	—	99SK657を切る。 99SK672・674との切り合い関係は不明。	Ⅴ2期	無し
99SK1258	67	—	—	—	28H	2	90	(50)	15	円	皿状	—	—	無し。	Ⅵ期	58～63
99SK1252	67	—	—	—	28H	12	55	45	12	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1253	67	—	—	—	28H	12・17	64	55	12	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK760	67	—	—	282	28H	18・23	100	75	17	楕円	箱状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1282	67	—	—	281	29I	10・15	110	84	24	方	皿状	E4類	単層	ピットに切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	土師器釜か壺
99SK1294	67	—	—	—	29I	20	90	50	—	楕円	—	—	—	99SK1292・1711を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK936	67	—	—	—	28I	16	80	75	12	円	皿状	—	単層	99SK931・941・1292を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1266	73	74	a	—	29I	17・22	60	48	12	長方	皿状	E5類	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1268	73	74	b	283	29I	16・17	125	115	15	方	皿状	E4類	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1261	73	74	c	281	29I	17・18	125	72	12	長方	皿状	E4類	単層	ピットを切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK121	73	75	l	283	30I	4・5	128	110	44	楕円	台形状	—	単層	99SK131を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK123	73	75	o	283	30I	16・17	146	114	42	楕円	台形状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK127	73	—	—	283	30I	8・13	110	78	40	楕円	彎曲	—	—	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK146	73	—	—	—	30I	7・8	115	86	40	楕円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK522	73	—	—	—	30I 31I	11・16 15・20	178	(134)	72	方	階段状	E3類	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK660	73	—	—	—	29H	2	96	81	23	楕円	彎曲	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK770	76	77	a	283	27I	18・23	107	90	33	方	箱状	C4類	ブロック状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK647	76	77	b	283	27I	13・14	105	75	28	長方	彎曲	E4類	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK880	76	77	c	283	27I	1・2	97	85	13	方	皿状	E5類	レンズ状	ピットに切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	1069
99SK1010	76	77	d	—	27I	16・17 21・22	220	115	20	不整	彎曲	—	水平	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK788	76	77	e	284	27I	12・13	83	73	17	円	皿状	—	単層	99SK958を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK879	76	77	f	284	28I	4・5・ 9・10	100	75	40	方	箱状	C4類	レンズ状	99SK2086を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK871	76	77	g	284	28I	4・9	125	75	55	長方	箱状	C4類	不整	無し。	Ⅵ期	無し
99SK2068	76	77	h	284	27J	8・13	100	80	185	方	袋状	D類	ブロック状	無し。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK2175	76	77	i	285	27K	22	130	124	36	方	皿状	E4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）	平面形	断面形	分類	覆土	切り合い	時期	出土遺物
99SK1276	76	77	j	284	28I	8	96	74	64	長方	箱状	E5類	斜め	99SD957を切る。	Ⅵ期	78～84
99SK1275	76	77	k	285	28J	12・13 17・18	75	74	24	円	彎曲	―	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1295	76	77	l	285	28J 28K	3･4･5 24	246	196	44	方	箱状	C3類	単層	99SK1296を切る。	Ⅴ～Ⅵ期	珠洲甕か壺T、土師器釜・釜か壺・小型壺
99SK1296	76	77	m	285	27J	3・4・9	(240)	98	32	長方	彎曲	―	レンズ状	99SK1295に切られる。	Ⅴ～Ⅵ期	土師器釜・釜か壺・高杯
99SK1743	76	78	p	―	28I	2・3	215	130	60	長方	箱状	C4類	水平	99SK2060を切る。 99SK1717・1742・2088に切られる。	Ⅴ2期	無し
99SK2088	76	78	p	286	28I 28J	2・3 23	(130)	(110)	114	方	箱状	―	レンズ状	99SK1717・1743・2060・1732を切る。	Ⅵ期	無し
99SK1717	76	78	q	286	28I 28J	2・3 22・23	210	165	148	方	箱状	C3類	レンズ状	99SK1743・2060・1732・2066を切る。99SK2088に切られる。	Ⅴ2期	無し
99SK1742	76	78	r	285	28I	2・7	150	90	80	楕円	台形状	―	レンズ状	99SK1743・2060を切る。	Ⅴ2期	骨片
99SK1259A	76	79	v	286	28J	7・8 12・13	100	98	56	円	「U」字状	―	斜め	99SK1259B・1278を切る。	Ⅵ期	85～87、骨片
99SK1259B	76	79	v	―	28J	7・8 12・13	214	76	104	楕円	「U」字状	―	レンズ状	99SK1259Aに切られる。 99SK1278を切る。	Ⅵ期	骨片
99SK1702	76	―	―	―	28J	22 23	(100)	(80)	―	方	箱状	C4類	―	99SK1717・2060を切る。	Ⅵ期	無し
99SK1732	76	―	―	―	28I 28J	3 23	170	(130)	―	長方	箱	C3類	―	99SK2088・1717に切られる。99SK2066を切る。	Ⅴ2期	無し
99SK2086	76	―	―	―	28I	5・4・10	(60)	(60)	―	楕円	彎曲	―	―	99SK879に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK958	76	―	―	―	27I	12 13	(80)	(70)	―	楕円	彎曲	―	―	99SK788に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK1297	76	―	―	286	28I	13	(30)	(30)	(32)	方？	―	―	―	99SK1277・1299に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK1299	76	―	―	―	28I	13	(115)	(50)	(30)	方	箱状	C4類	―	99SK1277に切られる。 99SK1297を切る。	Ⅵ期	無し
99SK1703	76	―	―	286	28I	7・8・12	115	80	15	長方	皿状	E4類	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK2178	80	81	f	286	26L	7・8 12・13	190	128	20	長方	皿状	E4類	レンズ状	99SK2198・2398・SE2471を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2198	80	81	f	286	26L	7・8 12・13	158	112	80	長方	箱状	C4類	レンズ状	99SE2471・SK2398を切る。99SK2178に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1726	84	85	f	287	28K	13・14	122	118	74	方	箱状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	土師器釜か壺・高杯
99SK2505	84	86	g	287	27K 27L	2 22	152	140	36	方	彎曲	E3類	斜め	SB11・12と重複。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK1727	84	86	h	287	27L	17	132	90	60	方	箱状	C4類	レンズ状	SB12と重複。	Ⅵ期	無し
99SK2477	84	86	j	287	27L	18・22 23	148	98	64	長方	箱状	C4類	単層	ピットに切られる。	Ⅵ期	無し
99SK1736	84	86	m	289	28L	19・24	82	78	12	方	皿状	E5類	単層	99SD1739との切り合い関係は不明。SB11・12と重複。	Ⅵ期	無し
99SK1719	84	86	s	288	28K	7・8・12・13	160	60	15	長方	皿状	E3類	レンズ状	99SD2163を切る。	Ⅴ2期？	682、須恵器杯蓋
99SK1737	84	87	u	288	28K 28L	2・3 22・23	152	144	56	方	彎曲	E3類	水平	99SD1735・SK1734に切られる。99SK2176を切る。SB12と重複。	Ⅴ2期？	587、珠洲壺R
99SK2397	84	87	x	288	28L	23	128	94	36	長方	台形状	C4類	斜め	無し。	Ⅵ期	無し
99SK2489	84	87	y	288	28L	14・15 19・20	164	110	32	長方	箱状	C3類	斜め	ピットに切られる。99SK2488を切る。SB11と重複	Ⅴ2期？	無し
99SK2488	84	87	z	288	28L	18・19	128	80	16	長方	皿状	E4類	単層	99SK2489・ピットに切られる。SB11と重複。	Ⅵ期	無し
99SK2376	84	87	B	―	27L	6・7 11・12	114	104	52	円	台形状	―	不整	99SE2392を切る。	Ⅵ期	無し
99SK2442	84	88	D	290	27L 28L	6・11 10・15	224	196	18	方	皿状	E2類	斜め	99SK2416・ピットに切られる。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK2365	84	88	E	288	27L	2	105	98	68	円	台形状	―	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK2358	84	88	G	289	27L 27M	3 23	84	78	28	円	彎曲	―	単層	99SK2357を切る。	Ⅵ期	無し
99SK2439	84	88	J	―	27L 27M	4 24	120	84	24	楕円	彎曲	―	レンズ状	99SK2357に切られる？	Ⅵ期？	無し
99SK1366	84	89	L	289	28M	22・23	102	80	120	方	箱状	C4類	斜め	99SK2212・2344を切る。SB9と重複。	Ⅵ期	無し
99SK2211	84	89	L	289	28M	18・23	120	120	65	方	箱状	C4類	水平	99SK2212・2226を切る。SB9に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK2226	84	―	―	289	28M	18・19 23・24	114	110	30	円	箱状	―	水平	99SK2211・SB9に切られる。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK2437	84	―	―	289	27L	6	170	106	20	方	箱状	C3類	単層	SB10に切られる。SB13と重複。	Ⅵ期	無し
99SK2474	84	―	―	290	28K 28L	4・5 24・25	194	(174)	22	方	皿状	E3類	―	99SE1731・SB11に切られる。SB12と重複。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK2416	84	―	―	287	27L 28L	11 10・15	140	110	―	方	皿状	E4類	単層	99SK2442を切る。SB10に切られる。SB13と重複。	Ⅵ期	珠洲すり鉢
99SK1380	90	91	a	290	27M	13・14 18・19	(95)	105	42	円	袋状	―	斜め	99SK2436・2456を切る。99SK1376に切られる。	Ⅵ期	無し

付表1　遺構観察表

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）	平面形	断面形	分類	覆土	切り合い	時期	出土遺物
99SK2456	90	91	a	290	27M	13・14	（90）	108	34	方	箱状	C4類	斜め	99SK1380に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK2436	90	91	b	290	27M	18・19	170	128	40	長方	箱状	C3類	単層	99SK1380・1376に切られる。	Ⅴ2期	無し
99SK1370	90	91	c	290	27M	18	（56）	74	25	方	箱状	C5類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	珠洲甕か壺T
99SK1376	90	91	d	291	27M	14・15・19	200	（40）	22	楕円	彎曲	—	単層	99SK1380・2436を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	珠洲甕か壺T、土師器釜か壺
99SK2440	90	91	e	291	27M	22	108	85	40	方	箱状	C4類	単層	99SK2223を切る。SB13に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK2224	90	91	i	291 332	27M	12	140	100	30	楕円	彎曲	—	レンズ状	99SK2230を切る。SB14に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	192
99SK2215	90	91	l	291	27M	3・8	110	80	30	円	彎曲	—	単層	99SK2216を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2216	90	91	l	291	27M	2・3	（80）	78	15	円	彎曲	—	単層	99SK2215に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2233	90	92	s	—	28M	4	90	90	90	方	箱状	C5類	水平	99SK2231を切る。SB14と重複。	Ⅵ期	珠洲甕か壺T
99SK2228	90	92	u	291	27M	8	80	80	15	円	彎曲	—	単層	99SK2230を切る。	Ⅵ期	無し
99SK2242	90	92	v	292	28M 28N	2・3 22	212	176	16	方	皿状	E2類	単層	99SK1369・2243を切る。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK2243	90	92	v	292	28M 28N	2 22	（140）	110	26	楕円	台形状	—	単層	99SK2242に切られる。	Ⅳ～Ⅴ期	無し
99SK2230	90	93	E	—	27M	7・8 12・13	138	90	10	台形	箱状	—	斜め	99SK2224・2228に切られる。SB14と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK930	94	95	a	292	29I	5・10	115	110	70	方	台形状	C4類	単層	99SK950・1283・1285を切る。	Ⅵ期	無し
99SK950	94	95	c	334	28I 29I	1・6 5・10	168	135	108	長方	箱状	C3類	レンズ状	99SK930に切られる。99SK1283・1285を切る。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK1715	94	95	f	292 293	28J 29J	16 20	（110）	（80）	16	楕円	彎曲	—	単層	99SK938に切られる。99SD1280を切る。99SK1284との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	骨片
99SK1723	94	95	h	292	28J 29J	6・11 10・15	（159）	（84）	32	楕円？	皿状	—	単層	99SK1284・1724を切る。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK1724	94	95	g	293	28J	11	105	（85）	26	方	彎曲	E4類	斜め	99SK1284・SD1280・99SK1723を切る。	Ⅵ期	骨片
99SK636	94	95	i	293	29J	11・12 16・17	150	110	40	方	「V」字状	E3類	レンズ状	99SD637に切られる。	Ⅴ～Ⅵ期	骨片
99SK630	94	96	j	335	29J	13・14 18・19	332	102	60	長方	箱状	C1類	斜め	99SK2056を切る。	Ⅴ2期	無し
99SK614	94	97	u	293	29K	16・17 21・22	80	60	10	楕円	箱状	—	レンズ状	SB15と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK613	94	98	v	—	29K	17・18 22・23	90	90	30	円	彎曲	—	斜め	99SE612を切る。SB15と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2316	94	98	B	309	28K	11・16	（80）	76	36	楕円	彎曲	—	レンズ状	99SK2346を切る。99SK2313との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	無し
99SK2292	94	98	C	291	29K	9・14	124	114	42	方	箱状	C4類	水平	無し。	Ⅵ期	無し
99SK2293	94	98	D	292	29K	13・14	102	78	18	方	彎曲	E4類	単層	SB15と重複。	Ⅵ期	無し
99SK2336	94	99	H	—	29K 29L	5 25	160	70	28	楕円	彎曲	—	レンズ状	ピットを切る。	Ⅵ期	無し
99SK2291	94	99	I	—	29L	25	108	94	17	方	皿状	E4類	単層	ピットに切られる。	Ⅵ期	無し
99SK2320	94	100	P	294	29K	2・3	138	92	10	長方	皿状	E4類	単層	99SK2335･2337を切る。	Ⅵ期	無し
99SK2331	94	100	Q	—	29L	16・17 21・22	172	124	96	方	台形状	C3類	斜め	99SK2330･2332･2333を切る。ピットに切られる。	Ⅴ2期	無し
99SK615	94	101	X	293	29J	2	60	50	40	円	彎曲	—	水平	無し。	Ⅵ2期	無し
99SK645	94	101	Y	295	29I 29J	2 22	140	120	140	円	袋状	—	水平	無し。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK2294	94	—	—	294	29K	6・7・11・12	110	84	20	方	彎曲	E4類	単層	99SK2294を切る。SB15と重複。	Ⅵ期	無し
99SK616	94	—	—	294	29J	2・3	60	60	12	方	箱状	C5類	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK626	94	—	—	294	30J	10	80	45	18	楕円	箱状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK628	94	—	—	294	29J 29K	2 22	48	46	12	円	台形状	—	水平	99SK609・632を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK631	94	—	—	295	29K	23	55	45	10	楕円	「U」字状	—	単層	99SK632・609を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	土師器甕か壺
99SK1418	102	103	r	295	29M	21・22	60	30	18	楕円	箱状	—	水平	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1356	102	103	s	295	28M 29M	6・11 10・15	96	95	22	円	彎曲	—	水平	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1402	102	104	i	295	29M	17・22	128	94	10	長方	皿状	E4類	単層	ピットを切る。	Ⅵ期	無し
99SK2342	102	104	j	296	29M	7・8	135	60	20	長方	台形状	C4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1404	102	104	l	—	29M	19・20	100	（80）	7	長方	皿状	E4類	単層	99SK1403・ピットに切られる。	Ⅵ期	無し
99SK2221	102	104	m	296	28N	16・17	220	90	10	楕円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1930	102	104	p	296	29N	16・17	120	111	32	方	箱状	C4類	レンズ状	ピットを切る。	Ⅵ期	土師器甕か壺
99SK2310	102	104	q	296	28L 29L	6 10	120	108	94	円	箱状	—	水平	無し。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK1424	102	—	—	296	29M	6・7 11・12	140	107	52	楕円	箱状	—	ブロック状	ピットを切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2451	102	—	—	297	28L	11・12	80	75	—	円	箱状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK309	105	106	g	297	30J	12・17	86	70	22	方	彎曲	E5類	レンズ状	99SD916を切る。	Ⅵ期	無し
99SK324	105	107	j	297	31J	4・5 9・10	96	86	12	方	彎曲	E5類	単層	ピットを切る。SB21・22・23と重複。	Ⅵ期	無し

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）	平面形	断面形	分類	覆土	切り合い	時期	出土遺物
99SK723	105	107	k	297	30J 30K 31J 31K	1 21 5 25	(250)	210	28	方	彎曲	E1類	水平	99SE310・SB22に切られる。 ピットを切る。 SB21・23と重複。	Ⅴ～Ⅵ期	326～328、珠洲甕か壺T
99SK200	105	—	—	297	31K 31L	3 23	75	55	18	長方	箱状	C5類	単層	SB24と重複。	Ⅵ期	無し
99SK527	105	—	—	298	31J	11・12	80	60	10	円	皿状	—	—	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK535	105	—	—	298	31J	12	100	90	10	円	皿状	—	—	99SK533・SB17に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK303	108	109	d	298	31I	3・4 8・9	(158)	132	38	方	彎曲	E3類	単層	99SK302に切られる。	Ⅴ～Ⅵ期	368
99SK302	108	109	e	297	31I	3・4	152	64	30	楕円	彎曲	—	レンズ状	99SD301･SK303を切る。	Ⅵ期	無し
99SK288	108	109	f	298	31J	23	100	80	32	円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK289	108	109	g	298	31J	18・23	110	82	6	円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK534	108	109	h	299	31J	13・14	104	86	26	方	箱状	C4類	単層	ピットに切られる。	Ⅵ期	406
99SK527	108	111	g	298	31J	11・12	70	60	10	円	皿状	—	単層	SB17と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK533	108	111	r	299	31J	7・12	112	110	49	円	箱状	—	レンズ状	99SK535を切る。 SB17に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK539	108	111	t	299	32J	16・21 22	248	108	52	楕円	「V」字状	—	単層	無し。	Ⅴ～Ⅶ期	瓷器系甕か壺、土師器釜か壺
99SK136	108	111	u	299	32J	16・17	114	92	10	長方	皿状	E4類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	362
99SK132	108	111	v	299	32J	17	92	84	32	円	彎曲	—	単層	無し。	Ⅵ期	土師器釜か壺
99SK258	108	111	w	300	32J	13・18	110	86	56	長方	袋状	D類	レンズ状	無し。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK291	108	111	x	—	32J	13	128	76	72	方	袋状	D類	水平	SB16に切られる。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK523	108	111	y	300	32J	12	40	40	8	円	彎曲	—	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK251	108	111	z	299	32J	12・13	132	96	64	長方	袋状	D類	単層	無し。	Ⅴ～Ⅵ期	無し
99SK142	108	111	A	299	32I	14・19	(180)	164	16	楕円	皿状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期	土師器釜か壺
99SK256	108	111	B	—	32J	11・12 16・18	62	40	15	楕円	皿状	—	レンズ状	98SK538（下層）を切る。	Ⅵ期	無し
99SK744	112	113	a	300	31K	18	110	65	22	不整	彎曲	—	単層	99SK742を切る。 SB19・20と重複。	Ⅵ期	無し
99SK742	112	113	b	300	31K	13・18	100	68	22	長方	箱状	C4類	単層	99SK744・ピットに切られる。SB19・20と重複。	Ⅵ期	無し
99SK841	112	113	g	301	30L	21・22	98	96	36	円	箱状	—	単層	99SD96・ピットに切られる。SB27と重複。	Ⅵ期	土師器釜か壺、骨片
99SK710	112	113	j	300	31K	11	70	60	22	方	箱状	E5類	単層	SB20と重複。	Ⅵ期	無し
99SK925	112	114	o	301	30M	13・14 18・19	122	115	52	方	箱状	C4類	水平	99SD30・923に切られる。	Ⅵ期	1144、土師器釜か壺、骨片
99SK371	112	115	t	301	31M	11・16	60	60	30	円	彎曲	—	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1933	112	115	u	301	30M	9・14	104	85	78	方	箱状	C4類	斜め	無し。	Ⅵ期	無し
99SK294	116	117	a	301	32J	3・4 7・8	324	114	52	長方	箱状	C1類	単層	99SK265を切る。SB16に切られる。	Ⅴ2期	土師器釜か壺
99SK265	116	117	a，d	302	32J	2・3 7・8	(168)	124	26	長方	箱状	C3類	単層	99SK294に切られる。	Ⅵ期	398
99SK293	116	117	b	302	32J	2・3	170	116	40	長方	箱状	C4類	単層	99SK294との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	土師器釜か壺
99SK520	116	117	f	302	32J 32K	1 21	124	122	116	円	「U」字状	—	単層？	99SD31に切られる。	Ⅴ期	無し
99SK537	116	117	g	302	31J 32J	1 5・10	196	144	45	長方	箱状	C3類	単層	SB17・18に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK924	116	117	i	302	32L	2・7	99	84	20	円	皿状	—	不整	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1885	118	119	c	303	28N	1・2	70	70	5	円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1888	118	119	h	303	28O	12・17	80	76	25	円	彎曲	—	レンズ状	99SD1879に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK1884	118	120	r	303	28O	13・18	(98)	(60)	20	方	箱状	C4類	水平	99SD1880を切る。	Ⅵ期	珠洲甕か壺T
99SK1932	121	122	a	303	30N	23	142	86	8	方	皿状	E4類	単層	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1974	121	123	i	303	31O	18・23	136	130	46	円	階段状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期	601～603
99SK2043	121	123	j，k	304	30O	1・2 3	255	150	32	長方	台形状	A2類	レンズ状	SB31・33・34に切られる。SB32と重複。	Ⅵ期	無し
99SK2020	121	123	l	304	30O 30P	4 24	165	160	22	台形	台形状	A2類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK1973	121	123	n	304	31O	19	92	78	76	円	台形状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2120	121	123	o	—	31O 31P	2・3 22・23	(270)	(175)	20	楕円	皿状	—	レンズ状	99SK2008に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2008	121	124	p	304	31O 31P	3・4 23・24	255	145	15	長方	皿状	C2類	単層	99SD2005・SK2120を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2128	121	124	u	—	30O	8	84	84	18	円	箱状	—	レンズ状	SB32・33を切る。 SB31と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK2556	121	—	—	—	30O	12・13	120	110	—	円	—	—	—	SB31に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1555	125	126	c	304	29R	21	98	92	6	円	皿状	—	単層	99SK1556を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1556	125	126	c	304	29R	21・22	(70)	92	6	円	皿状	—	単層	99SK1555に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1846	125	126	e，f	305	29R	17・18 22・23	(240)	240	30	長方	台形状	A1類	レンズ状	99SD1847を切る。	Ⅵ期	無し
99SK1560	125	126	g，h	305	29Q	2～4 7～9	(340)	340	30	長方	台形状	A2類	レンズ状	無し。	Ⅵ期	583、土師器壺
99SK1559	125	126	l	—	29R	7・12 13	55	50	55	円	箱状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SK2265	127	128	a	305	30P	16・17 21・22	190	180	13	方	皿状	A2類	単層	99SE2050・SB32に切られる。SB33・34と重複。	Ⅵ期	無し

付表1　遺構観察表

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	分類	覆土	切り合い	時期	出土遺物
99SK1547	127	128	b	305	30Q	22	102	92	99	円	箱状	—	ブロック状	99SK1546を切る？	Ⅵ期	土師器釜か壺
99SK1908	127	128	e	306	30Q 31Q	6・7 11・12 9・10 14・15	532	142	16	不整	台形状	—	レンズ状	SB35に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	珠洲甕か壺T、土師器釜か壺
99SK1947	127	128	g	306	30Q 31Q	11・16 15・20	240	65	16	不整	皿状	—	単層	SB35と重複。	Ⅵ期	土師器釜か壺
99SK1546	127	129	i	306	30Q	17・22	102	49	10	長方	皿状	E4類	レンズ状	99SK1547に切られる？ SB35と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1531	127	129	j	306	31Q	4・5	108	53	18	不整	彎曲	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1646	127	129	k	306	31P	3	70	40	24	楕円	箱状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1645	127	129	m	306	31P	13	64	56	20	隅丸三角	彎曲	—	単層	99SD1637を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1549	127	129	o	307	30Q	6	64	55	60	円	「U」字状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1544	127	129	r	307	30Q 31Q	16 20	64	56	34	不整	台形状	—	レンズ状	SB35と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1538	127	129	s	307	30P	2・7	56	44	5	楕	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1642	127	—	—	307	31P 31Q	3 23	162	52	24	楕円	彎曲	—	レンズ状	99SD2005を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1906	127	—	—	—	30Q	23	50	(40)	15	方	彎曲	E5類	単層	99SD1907に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1946	127	—	—	307	30Q	21	65	40	15	楕円	—	—	—	SB35と重複。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK64	130	131	a	307	32M	9・10 14・15	277	148	35	台形	台形状	—	水平	99SK63に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	413、土師器釜か壺
99SK63	130	131	b	307	32M	14	105	76	38	楕円	箱状	—	水平	99SK64を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	土師器釜か壺
99SK367	130	131	g	—	32M 32N 33N	1 21 25	206	94	41	楕円	彎曲	—	水平	99SD66・362に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	1015
99SK9	130	132	m	—	33N	4・9	170	82	60	楕円	「V」字状	—	レンズ状	99SD70に切られる。 99SD360を切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK8	130	132	n	—	33N	8	110	90	20	円	皿状	—	レンズ状	99SD360・ピットを切る。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK358	130	132	o	—	31N	11	87	76	19	円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK87	130	133	r	308	32N	3	(68)	68	10	楕円	皿状	—	レンズ状	99SD78に切られる。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK76	130	133	t	308	31O	16・21	216	71	15	楕円	皿状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK62	130	133	w	308	32M	14・15 19・20	80	75	12	円	皿状	—	単層	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK75	134	135	a	308	32O	14・15	162	76	26	不整	皿状	—	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK27A	134	135	b	—	33O	10・15	220	159	40	方	彎曲	E2類	単層	99SK27Bに切られる。	Ⅵ期	
99SK27B	134	135	b	—	32O 33O	6・11 10・15	200	110	45	楕円	台形状	—	レンズ状	99SK27Aを切る。	Ⅵ～Ⅶ期	
99SK359	134	135	c	308	32O 32P	4・5 24・25	(198)	(272)	104	円	彎曲	—	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し
99SK1643	134	136	d	308	32P	5・10	102	96	32	円	台形状	—	ブロック状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
99SK1	134	—	—	—	33Q	19・20 24・25	262	96	16	楕円	皿状	—	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し
99SK1627	136	137	a	308	29T	12	(60)	(34)	46	円	彎曲	—	レンズ状	99SE1626に切られる。	Ⅵ期	無し
99SK1469	136	137	e	—	29T	2・7	96	(64)	56	円	箱状	—	レンズ状	ピットを切る。 SB36・37と重複。	Ⅵ期	無し
99SK1453	136	138	g,h,i	309	30T	3～4 8～10	340	200	44	長方	台形状	A1類	水平	99ピット1605・1606・1607・1616との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	無し
99SK1458	136	138	j	309	29T 29U	1 21	76	56	46	円	箱状	—	水平	SB36・37と重複。	Ⅵ期	無し
99SK1620	136	138	k	309	29T	11	70	68	20	円	台形状	—	レンズ状	99SE1493・1618を切る。	Ⅵ期	無し

上層井戸

遺構名	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	深(cm)	平面形	形状	覆土	切り合い関係	時期	出土遺物
98SE116	21	23	k	310	13L	25	80	78	84	円	素掘り	レンズ状	無し。	Ⅵ～Ⅶ期	無し
98SE45A	50	51	b	310	23H 23I	1・2 21・22	(208)	(152)	68	楕円	素掘り	レンズ状	98SE45Bとの切り合い関係は不明。	Ⅶ期？	無し
98SE45B	50	51	b	310	23H	1・6	(158)	(98)	72	楕円	素掘り	レンズ状	98SE45Aとの切り合い関係は不明。	Ⅶ期？	無し
98SE46	50	51	c	310	23H	2・7	144	138	22	不整	素掘り	レンズ状	無し。	Ⅶ期	無し
99SE2361	80	82	h	310	26L	6・7	172	168	(140)	円	素掘り	レンズ状	無し。	Ⅵ期	205
99SE2435	80	82	i	311	26L 26M 27L	1 21 5	188	182	(130)	円	素掘り	レンズ状	99SK2449を切る。	Ⅵ3期	156～158、珠洲甕か壺T、土師器釜か壺
99SE2396	80	82	j	310	26M	21・22	175	(75)	(150)	円？	素掘り	レンズ状	無し。	Ⅵ3期	194、土師器釜か壺
99SE2431	80	82	k	311	27M	20・25	195	166	(150)	楕円	素掘り	レンズ状	無し。	Ⅵ期	無し
99SE2369	80	82	l	311	27L	5・10	110	106	160	円	素掘り	水平	無し。	Ⅵ期	無し
99SE2471	80	82	m	311	26L	8	(86)	(55)	(121)	円？	素掘り	斜め	99SK2178・2198に切られる。	Ⅵ1期	198
99SE2441	80	83	q	311	27L	3・4 8・9	216	180	196	円	素掘り	レンズ状	99SK2478・2463を切る。	Ⅵ期	161・162・215
99SE2394	80	83	r	311	27L	13 18	182	178	265	円	素掘り	レンズ状	99SD2409との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	瓷器系甕、土師器釜か壺
99SE2555	80	—	—	—	27L	18・19 23・24	185	142	260	楕円	素掘り	—	99SK2513を切る。	Ⅵ期	無し

遺構名	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ（cm）	幅（cm）	深（cm）	平面形	形状	覆土	切り合い関係	時期	出土遺物
99SE1731	84	86	i	312	28K 28L	5 24	182	178	268	円	素掘り	レンズ状	99SK2474を切る。 SB11と重複。	Ⅵ2期	143～146・354
99SE2497	84	86	k	—	27L 28L	11・16 15・20	132	111	276	楕円	素掘り	レンズ状	99SD2409との切り合い関係は不明。	Ⅵ期	無し
99SE2517	84	86	q	—	27L	12	110	100	204	楕円	素掘り	水平	99SD2407・2409に切られる。	Ⅵ期	無し
99SE1725	84	87	w	312	28L	16・17 21・22	302	272	320	楕円	素掘り	レンズ状	99SK2498を切る。	Ⅵ2期	138～142、珠洲すり鉢・甕か壺T
99SE2392	84	87	A	312	27L	7	118	106	180	円	素掘り	水平	99SK2376（SB10）に切られる。SB13と重複。	Ⅵ期	無し
99SE2393	84	88	C	—	28L	8・9 13・14	116	104	202	円	素掘り	ブロック状	無し。	Ⅵ2期	174
99SE2455	84	88	K	312	28L 28M	3 23	114	108	158	円	素掘り	レンズ状	SB13に切られる。	Ⅵ期	無し
99SE1358	84	89	N	312	28M	12	156	132	200	楕円	素掘り	レンズ状	SB9と重複。	Ⅵ2期	153～155・1161、土師器釜か壺
99SE2229	90	91	j	313	28M	19・20 24・25	152	138	(85)	円	素掘り	レンズ状	99SK2424を切る。	Ⅵ期	212、珠洲甕か壺T
99SE2209	90	92	m	313	28M	14・15 19・20	130	108	166	円	素掘り	ブロック状	99SK2210を切る。SB14に切られる。SB9と重複。	Ⅵ期	無し
99SE2401	90	93	B	313	27M	18 23	118	114	210	円	素掘り	斜め	ピットに切られる。	Ⅵ期	150～152
99SE1373	90	—	—	313	27M 28M	6・11 10・15	200	178	280	円	素掘り	レンズ状	99SK2223・2227・2231・2236を切る。ピットに切られる。	Ⅵ期	165～167・621、珠洲甕か壺T・土師器釜か壺
99SE612	94	98	v	313 314	29K	17・18	202	188	300	円	素掘り	レンズ状	99SK613に切られる。	Ⅵ期	無し
99SE1388	102	104	o	314	28N	17・18 22・23	200	188	(184)	円	素掘り	レンズ状	無し。	Ⅵ1期	163・164・340・689、珠洲甕か壺T、須恵器杯、土師器釜か壺
99SE525	105	106	b	314	30I 30J	1・2 21・22	218	190	74	円	素掘り	レンズ状	無し。	Ⅵ期	419、瀬戸美濃平碗、珠洲甕か壺T
99SE305	105	106	c	314	30J 31J	16・21 20・25	178	178	88	円	素掘り	レンズ状	99SD301を切る。	Ⅵ期	359
99SE310	105	107	h	—	30J	1・2 6・7	254	250	160	円	素掘り	レンズ状	99SK723・SB21・23を切る。	Ⅵ期	271～290、珠洲甕か壺T・瓷器系甕
99SE811	105	107	i	316	30J	2・3 7・8	192	144	180	楕円	素掘り	レンズ状	ピットに切られる。	Ⅵ1期	329・330・699、須恵器瓶・土師器釜か壺
99SE813	105	—	—	314 315	30J	7・8 12・13	184	176	—	方	方形縦板桟組井戸側	—	無し。	Ⅵ1期？	297～313
99SE831	112	113	c	315	30K	1～3 6～8	418	334	144	円	素掘り	レンズ状	ピットに切られる。	Ⅵ2期	314～325・551・1168・1184、白磁皿、珠洲甕か壺T、土師器釜か壺
99SE190	112	115	r	315	31L	21	80	80	(130)	円	素掘り	水平	無し。	Ⅵ期	無し
99SE231	112	115	s	315 316	31L	13・14 18・19 23・24	300	256	304	円	素掘り	レンズ状	99SD151・152，SB26に切られる。SB24・25と重複。	Ⅵ1期	291～296・1140
99SE468	116	117	h	316	32K	9・14	120	110	180	円	素掘り	水平	99SD31を切る。	Ⅵ2・3期	無し
99SE1842	118	120	l	316	29O 29P	4・5 24・25	110	110	200	円	素掘り	レンズ状	99SD1864を切る。	Ⅵ期	須恵器杯、土師器釜か壺
99SE1558	125	126	a	316	29Q	13・18	70	70	50	円	素掘り	レンズ状	無し。	Ⅵ期	珠洲甕か壺T
99SE1800	125	126	j	317	30P	13・18	135	135	190	円	素掘り	水平	SB34と重複。	Ⅵ期	無し
99SE2050	127	128	d	317	30P	16・17 21・22	125	110	345	円	素掘り	斜め	99SK2265・SB33を切る。SB32・34と重複。	Ⅵ期	572～577
99SE1905	127	128	f	317	30Q 31Q	1 5	164	148	265	円	素掘り	レンズ状	99SD1508を切る。	Ⅵ3期	561～571、珠洲甕か壺T、須恵器甕、土師器釜か壺
99SE1626	136	137	a	317	29T	12・17	(146)	(78)	168	円	素掘り	水平	99SK1627・SD1464を切る。	Ⅵ期	無し
99SE1465	136	137	b	317	29T	6・7	110	88	158	円	素掘り	斜め	99SE1618に切られる。99SD1464を切る。SB35と重複。	Ⅵ期	613～615・1200
99SE1493	136	137	b	317 318	29T	11・12	(90)	94	76	円	素掘り	斜め	99SE1620に切られる。 99SD1464・SE1618を切る。 SB36と重複。	Ⅳ1期	610～612
99SE1618	136	137	b	318	29T	6・7 11・12	(148)	(132)	126	円	素掘り	レンズ状	99SE1493・SE1620に切られる。99SE1465を切る。 SB36と重複。	Ⅵ期	無し
99SE1463	136	137	d	318	29T 30T	6・11 10・15	105	94	88	楕円	素掘り	レンズ状	99SD1464を切る。 SB36と重複。	Ⅵ1期	618
99SE1468	136	138	f	318	29U	21	100	98	84	円	素掘り	水平	99SD1461に切られる。 SB36・37と重複。		616・617

上層掘立柱建物

SB1

図版番号	8・139	位置	7K	梁間(cm)	2間（130）	桁行(cm)	3間（395）
床面積	5.135㎡	時期	Ⅶ期	構造	側柱	方位	N-9°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	30	25	20	1-2		130
2	円	30	25	21	2-3		155
3	円	25	25	22	3-4		105
4	円	25	25	24	4-5		60
5	円	30	25	19	5-6		75
6	円	25	25	40	6-7		80
7	円	20	20	16	7-8		170
8	円	20	20	23	8-9		135
9	円	20	20	20	9-10		65
10	円	30	25	30	10-1		65
切り合い	7Kピット2と重複。						

SB2

図版番号	14・139	位置	10KL	梁間(cm)	2間（120）	桁行(cm)	3間（290）
床面積	3.48㎡	時期	Ⅶ期	構造	総柱	方位	N-74°-W
番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	番号		間隔
1	円	30	25	20	1-2		90
2	円	30	25	21	2-3		90
3	円	25	25	22	3-4		100
4	円	25	25	30	4-5		60
5	円	30	25	19	5-6		60
6	円	30	20	15	6-7		110
7	円	30	20	15	7-8		90
8	円	30	20	30	8-9		—
9	円	—	—	—	9-10		—
10	円	20	15	30	10-11		95
11	円	25	20	15	11-12		90
12	円	30	15	15	12-5		100
切り合い	99SK144を切る。				1-10		65
					2-11		60
					3-12		65
					8-11		55
					7-12		65

SB3

図版番号	24・139	位置	12H, 13H	梁間(cm)	1間（165）	桁行(cm)	2間（320）
床面積	5.28㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-44°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	45	30	14	1-2		160
2	円	30	20	12	2-3		130
3	円	30	25	30	3-4		160
4	円	30	25	20	4-5		160
5	円	35	30	15	5-6		160
6	円	35	35	25	6-1		165
切り合い	無し。						

SB6

図版番号	52・140	位置	23KL, 24KL	梁間(cm)	1間（390）以上	桁行(cm)	3間（670）
床面積	26.13㎡以上	時期	Ⅵ3期	構造	側柱	方位	N-52°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	40	35	40	1-2		270
2	楕円	60	45	30	2-3		200
3	円	40	35	23	3-4		210
4	楕円	60	55	86	切り合い	99SD1323, SB7と重複	

SB5

図版番号	48・139	位置	22L, 23L	梁間(cm)	2間（450）	桁行(cm)	2間（320）以上
床面積	14.4㎡以上	時期	Ⅵ2期	構造	側柱	方位	N-36°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	50	45	102	1-2		160
2	円	45	35	93	3-4		270
3	楕円	110	60	113	4-1		180
4	楕円	70	50	106	切り合い	99SD1322, SB7と重複。	

SB7

図版番号	48・52・139	位置	23KL, 24KL	梁間(cm)	1間（570）	桁行(cm)	7間（1540）
床面積	87.78㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-52°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	35	35	33	1-2		260
2	円	65	50	51	2-3		165
3	円	50	45	51	3-4		260
4	円	45	45	75	4-6		410
5	—	—	—	—	6-7		225
6	円	45	45	60	7-8		220
7	円	55	45	82	8-9		570
8	円	50	40	68	9-10		230
9	円	45	35	72			
10	円	50	50	90			
切り合い	98SK24・41，99SD1349・1651・1664・1345・1323・1316，SB5・6と重複する。99SK2572・1322，99SD1323に切られる。						

SB8

図版番号	60・139	位置	23KL, 24KL	梁間(cm)	1間（170）	桁行(cm)	2間（495）
床面積	8.415㎡	時期	Ⅵ3期	構造	側柱	方位	N-40°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	35	25	25	1-2		270
2	円	40	35	30	2-3		240
3	円	50	50	35	6-1		170
4	—	—	—	—	切り合い		
5	—	—	—	—	99SD2084・2194と重複。		
6	円	25	25	28			

SB9

図版番号	84・140	位置	28M	梁間(cm)	1間（400）	桁行(cm)	3間（600）
床面積	24.00㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-28°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	50	50	38	1-2		190
2	円	30	30	35	2-3		190
3	円	55	50	26	3-4		220
4	円	50	40	39	4-5		400
5	円	50	45	68	5-6		220
6	円	70	55	44	6-7		190
7	円	35	30	40	7-8		190
8	円	55	55	26	8-9		390
切り合い	99SE1358・2209，99SK1366・2212と重複。99SK1369・2210・2211・2226・2424を切る。						

SB10

図版番号	84・140	位置	27LM, 28LM	梁間(cm)	1間（370）	桁行(cm)	3間（670）
床面積	24.79㎡	時期	Ⅵ3期	構造	側柱	方位	N-58°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	楕円	55	35	30	1-2		210
2	円	20	20	11	2-3		170
3	楕円	60	30	47	3-4		290
4	円	115	105	78	4-5		350
5	方	95	90	73	5-7		430
6	—	—	—	—	7-8		240
7	円	30	30	20	8-1		370
8	円	55	45	55			
切り合い	99SK2374，SB13と重複。 99SK2362・2416・2424・2437，99SE2392を切る。						

SB11

図版番号	84・141	位置	27KL, 28KL	梁間(cm)	2間（390）	桁行(cm)	3間（940）
床面積	36.66㎡	時期	Ⅵ2期	構造	側柱	方位	N-76°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	45	45	70	1-2		340
2	円	60	45	80	2-3		290
3	円	35	30	50	3-4		310
4	方	55	50	80	7-8		320
5	—	—	—	—	8-9		225
6	—	—	—	—	9-10		170
7	円	75	65	50	10-1		220
8	円	30	30	18	切り合い		
9	円	35	30	15	99SK1736・2488・2489・2505，99SE1731，99SD1739と重複。99SK1721・2474・2559を切る。		
10	円	45	35	20			

SB12

図版番号	84・141	位置	27KL, 28KL	梁間(cm)	2間（500）	桁行(cm)	3間（790）
床面積	39.5㎡	時期	VI1期	構造	側柱	方位	N-26°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	40	40	38	1-2		240
2	円	45	40	40	2-3a		200
3a	円	30	30	35	2-3b		230
3b	楕円	40	30	35	3a-4		350
4	円	75	60	80	3b-4		320
5	楕円	50	35	56	5-6		260
6	円	80	70	60	6-8		470
7	円	—	—	—	8-9		300
8	楕円	80	55	16	9-10		290
9	円	45	30	40	10-1		210
10	円	50	35	45			
切り合い	99SE1731，99SK1727・1736・1737・2505・2474・2559，99SD1739に重複。99SD1722を切る。99SE2497に切られる。						

SB13

図版番号	84・140	位置	27LM, 28LM	梁間(cm)	1間（500）	桁行(cm)	4間？（1150）
床面積	57.5㎡	時期	VI2期	構造	側柱	方位	N-28°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	70	70	88	1-2		470
2	円	40	35	58	2-3		170
3	不整	30	25	40	3-4		200
4	楕円	40	30	50	4-5		290
5	円	100	90	100	5-6		470
6	円	70	70	70	6-7		450
7	円	35	30	40	7-8		340
8	円	45	40	40	8-9		360
9	円	25	25	30	9-1		500
切り合い	99SK2374・2424・2437・2458，99SE2392，SB10と重複。99SK2344・2362・2416・2440，99SD2407を切る。						

SB14

図版番号	90・141	位置	27MN, 28MN	梁間(cm)	1間（570）	桁行(cm)	3間（970）
床面積	51.895㎡	時期	VI2期	構造	側柱	方位	N-57°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	30	25	17	1-2		340
2	円	40	35	50	2-3		310
3	円	25	20	12	3-4		320
4	円	40	40	20	4-5		490
5	円	45	40	47	5-7		670
6	—	—	—	—	7-8		300
7	円	50	45	68	8-1		570
8	円	35	30	15			
切り合い	99SK2223・2224・2227・2230・2233・2236，99SE1373・SB9と重複。99SE2209，99SK2210・2224・2231を切る。						

SB15

図版番号	94・142	位置	29JK, 30K	梁間(cm)	1間（540）	桁行(cm)	3間（870）
床面積	42.195㎡	時期	VI2期	構造	側柱	方位	N-67°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	45	40	27	1-2		300
2	円	50	45	30	2-3		290
3	円	35	30	18	3-4		280
4	円	45	40	40	4-5		520
5	円	45	45	24	5-6		480
6	円	25	25	44	6-7		400
7	円	60	55	38	7-1		450
切り合い	99SK609・613・614・631・632・2293・2294・2335・2329，99SE612と重複。99SK2337を切る。						

SB16

図版番号	108・142	位置	31J，32J	梁間(cm)	1間（310）	桁行(cm)	3間（470）
床面積	14.57㎡	時期	VI2期	構造	側柱	方位	N-82°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	20	20	86	1-2		140
2	円	40	40	66	2-3		160
3	円	30	25	60	3-4		170
4	円	30	25	32	6-7		210
5	—	—	—	—	7-8		180
6	—	20	20	50	8-1		310
7	円	60	55	38	切り合い	SB17と重複。99SK291・294を切る。	
8	円	30	30	78			

SB17

図版番号	108・141	位置	31J・32J	梁間(cm)	2間（280）	桁行(cm)	3間（625）
床面積	17.5㎡	時期	VI1期	構造	側柱	方位	N-72°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	30	25	40	1-2		200
2	円	45	35	50	2-3		200
3	円	50	30	76	3-4		225
4	円	80	75	74	4-5		160
5	方	44	42	15	5-6		120
6	円	45	40	25	6-7		225
7	円	50	45	69	7-8		250
8	円	40	35	77	8-9		145
9	円	40	40	26	9-10		110
10	円	25	25	20	10-1		150
切り合い	99SK527，99SD507，SB16と重複。99SK524・533・535・537を切る。						

SB18

図版番号	116・143	位置	31JK, 32JK	梁間(cm)	1間（450）	桁行(cm)	3間（780）
床面積	35.1㎡	時期	VI1期	構造	側柱	方位	N-78°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	55	45	50	1-2a		240
2a	円	40	32	75	1-2b		280
2b	円	60	55	130	2a-3a		270
3a	円	60	55	80	2b-3b		280
3b	楕円	60	42	55	3a-4		270
4	円	60	55	60	3b-4		220
5	円	45	40	75	4-5		450
6	方	50	45	98	5-6		260
7	円	75	60	27	6-7		220
8	円	50	50	60	7-8		310
					8-1		440
切り合い	99SD536，SB19・21と重複。99SK537を切る。						

SB19

図版番号	105・142	位置	31JK	梁間(cm)	1間（360）	桁行(cm)	4間（800）
床面積	28.8㎡	時期	VI3期	構造	側柱	方位	N-15°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	35	30	44	1-2		150
2	円	35	30	55	2-3		200
3	円	20	15	51	3-4		210
4	円	30	30	48	4-5		240
5	円	25	20	22	5-6		360
6	円	25	25	20	6-7		210
7	円	30	30	57	7-9		440
8	—	—	—	—	9-10		150
9	円	25	20	40	10-1		360
10	円	55	50	49			
切り合い	99SK742・744，99SD536，SB18・20・22と重複。99SD233を切る。						

SB20

図版番号	105・143	位置	31KL	梁間(cm)	3間（530）	桁行(cm)	4間（750）
床面積	39.00㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-76°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	45	35	33	1-2		300
2	円	50	45	26	2-3		250
3	方	45	35	81	3-4		200
4	円	30	25	57	4-5		190
5	円	30	30	30	5-6		200
6	円	55	50	97	6-7		120
7	円	50	45	60	7-8		300
8	円	40	40	47	8-9		280
9	円	30	25	50	9-10		170
10	円	35	30	29	10-1		530
切り合い	99SK742・744，SB19と重複。						

SB21

図版番号	105・143	位置	30JK，31JK	梁間(cm)	1間（370）	桁行(cm)	4間（990）
床面積	36.63㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-75°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	55	50	90	1-2		290
2	円	55	40	90	2-3		250
3	方	45	45	30	3-4		250
4	円	30	30	47	4-5		200
5	円	40	40	40	5-6		210
6	—	—	—	—	8-9		210
7	—	—	—	—	9-10		320
8	円	35	35	42	10-1		370
9	方	40	35	36			
10	方	35	30	60			
切り合い	99SK324・723，99SD272・536，SB18・19・20・22・23と重複。99SE310に切られる。						

SB22

図版番号	105・142	位置	30JK，31JK	梁間(cm)	1間（480）	桁行(cm)	4間（970）
床面積	45.49㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-14°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	55	40	33	1-2		210
2	円	55	45	57	2-3		310
3	円	45	40	42	3-4		180
4	円	50	45	55	4-5		260
5	楕円	60	40	50	5-6		480
6	円	55	50	45	6-7		240
7	円	30	30	50	7-8		250
8	円	25	25	53	8-9		230
9	楕円	40	30	60	9-10		250
10	円	20	20	30	10-1		460
切り合い	99SK324，99SD233・235・236・272，SB18・19・21・23と重複。99SK723，99SD536を切る。						

SB23

図版番号	105・144	位置	30JK，31JK	梁間(cm)	2間（500）	桁行(cm)	4間（760）
床面積	37.5㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-11°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	40	40	33	1-3		470
2	—	—	—	—	3-4		270
3	円	40	35	38	4-5		260
4	円	45	35	22	5-6		230
5	円	65	45	54	6-7		280
6	円	30	30	15	7-8		240
7	円	20	20	28	8-9		240
8	円	40	30	43	9-10		310
9	円	25	20	24	10-1		190
10	円	35	30	55			
切り合い	99SK324・723，99SD233・236，SB21・22と重複。99SE310，99SD235に切られる。						

SB24

図版番号	112・144	位置	30L，31KL	梁間(cm)	1間（380）	桁行(cm)	3間（740）
床面積	28.12㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-1°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	40	40	40	1-2		220
2	円	25	25	17	2-3		230
3	円	35	30	26	3-4		290
4	円	40	40	108	4-5		380
5	円	20	20	37	5-6		310
6	円	35	30	40	6-7		230
7	円	30	30	60	7-8		190
8	円	20	20	60	8-1		370
切り合い	99SK200，99SE231，99SD151・152，SB25・26・27と重複。						

SB25

図版番号	122・144	位置	30L・31L	梁間(cm)	1間（440）	桁行(cm)	3間（750）
床面積	33.00㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-1°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	55	45	21	1-2		160
2	円	30	30	30	2-3		270
3	楕円	50	30	40	5-6		230
4	—	—	—	—	6-7		230
5	楕円	45	30	40	7-8		290
6	円	25	25	24	8-1		440
7	楕円	35	30	28			
8	円	40	35	33			
切り合い	99SE231，99SD94・97・152，SB24・26・27と重複。99SD151に切られる。						

SB26

図版番号	112・144	位置	30LM，31LM	梁間(cm)	1間（470）	桁行(cm)	3間（990）
床面積	45.08㎡	時期	Ⅵ2期	構造	側柱	方位	N-45°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	60	50	48	1-2		310
2	円	40	40	41	2-3		320
3	円	40	40	50	3-4		360
4	円	60	50	62	4-5		460
5	円	40	30	40	5-6		330
6	円	55	55	30	6-7		310
7	円	35	30	100	7-8		330
8	円	45	45	80	8-1		470
切り合い	99SD164，SB24・25・27と重複。99SE231，99SD94・96・97を切る。						

SB27

図版番号	112・143	位置	30KL，31L	梁間(cm)	1間（320）	桁行(cm)	4間（910）
床面積	29.12㎡	時期	Ⅵ3期	構造	側柱	方位	N-31°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1a	円	35	30	72	1a-2		220
1b	円	25	25	120	1b-2		210
2	方	40	40	59	2-3		220
3	円	35	35	49	3-4		240
4	円	35	35	63	4-5		220
5	円	45	45	47	5-6		310
6	円	35	30	90	6-7		240
7	円	65	50	11	7-8		290
8	円	50	35	47	8-9		170
9	円	35	25	30	9-10a		210
10a	円	30	20	20	9-10b		200
10b	円	20	20	15	10a-1a		310
					10b-1b		310
切り合い	99SK841，99SD94，SB24・25・26と重複。99SE831，99SD96・97・151・164を切る。						

SB28

図版番号	118・145	位置	29PQ	梁間(cm)	1間（350）	桁行(cm)	5間
床面積	31.85㎡	時期	Ⅵ3期	構造	側柱	方位	N-58°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	40	35	38	1-3		350
2	—	—	—	—	3-4		190
3	方	35	35	31	4-5		200
4	円	30	30	44	5-6		180
5	円	20	20	50	6-7		350
6	円	25	20	30	7-8		220
7	円	35	20	20	8-9		170
8	円	25	20	27	9-10		200
9	円	40	30	80	10-11		230
10	円	40	40	40	11-12		110
11	円	35	25	30	12-1		360
12	円	45	35	60	切り合い		99SD1848と重複。

SB31

図版番号	121・145	位置	30OP	梁間(cm)	2間（320）	桁行(cm)	3間（520）
床面積	16.64㎡	時期	Ⅵ2期	構造	側柱	方位	N-29°-E
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	45	40	100	1-2		130
2	円	20	20	20	2-3		180
3	円	30	20	15	3-4		180
4	円	45	40	40	4-5		180
5	円	30	30	30	5-6		140
6	円	30	25	40	6-7		200
7	円	20	20	40	7-8		210
8	円	20	20	40	切り合い		
9	—	—	—	—	99SK2128，SB32・33と重複。		
10	—	—	—	—	99SK2043・2556，99SD2127を切る。99SD1649に切られる？		

SB33

図版番号	121・146	位置	30OP，31OP	梁間(cm)	2間（330）	桁行(cm)	3間（670）
床面積	22.11㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-61°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	楕円	55	35	32	1-2		270
2	円	40	30	38	2-3a		170
3a	円	45	40	50	2-3b		190
3b	円	45	40	50	3a-4		230
4	円	25	25	40	3b-4		210
5	—	—	—	—	8-9		220
6	—	—	—	—	9-10		170
7	—	—	—	—	10-1		160
8	円	35	35	32			
9	円	55	45	30			
10	円	35	35	23			
切り合い	99SK2043を切る。99SD1649，99SK2128，99SE2050に切られる。99SK2265，99SD2268，SB31・32・34と重複。						

SB36

図版番号	136・146	位置	29TU，30T	梁間(cm)	2間庇付(470（620）)	桁行(cm)	4間（500）
床面積	23.50㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-32°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	20	20	20	2-3		220
2	楕円	25	25	22	3-4		200
3	円	35	30	22	4-5		230
4	円	25	20	32	5-6		240
5	円	30	25	55	6-1		160
6	円	25	20	30	6-7		190
7	円	25	25	19			
切り合い	99SE1463・1465・1468，99SD1462・1464，99SK1458・1469と重複。99SE1618を切る。99SD1461，SE1620に切られる。						

SB37

図版番号	136・145	位置	29TU，30T	梁間(cm)	2間（340）以上	桁行(cm)	3間（320）以上
床面積	1058㎡以上	時期	Ⅵ2期	構造	側柱	方位	N-60°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	20	20	39	1-2		120
2	円	20	20	60	2-3		140
3	円	15	15	15	3-4		180
4	円	20	20	29	4-1		180
切り合い	99SE1468，SD1462，99SK1458・1469と重複。99SD1461に切られる。						

SB29

図版番号	118・145	位置	28OP，29P	梁間(cm)	1間（210）以上	桁行(cm)	3間（640）
床面積	13.44㎡以上	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-60°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	35	30	55	1-2		170
2	円	35	30	30	2-3		200
3	円	40	35	36	3-4		260
4	円	45	40	60	切り合い		SB30と重複。

SB30

図版番号	118・145	位置	28P，29P	梁間(cm)	1間（250）以上	桁行(cm)	3間（720）
床面積	18.00㎡以上	時期	Ⅵ3期	構造	側柱	方位	N-53°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	25	20	24	1-2		230
2	円	25	20	26	2-3		220
3	円	30	25	23	3-4		270
4	円	25	20	33	切り合い		SB29と重複。

SB32

図版番号	121・145	位置	30O，31OP	梁間(cm)	2間（430）	桁行(cm)	3間（650）
床面積	27.95㎡	時期	Ⅵ1期	構造	側柱	方位	N-66°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	45	45	30	1-2		200
2	円	30	30	30	2-3		220
3	円	40	40	60	3-4		230
4	円	40	40	70	7-9		470
5	—	—	—	—	9-10		200
6	—	—	—	—	10-1		230
7	円	45	40	30	切り合い		
8	—	—	—	—	99SK2043・2128・2265，99SE2050，99SD2268，SB31・33・34と重複。99SD1649に切られる？		
9	円	35	35	30			
10	円	20	20	30			

SB34

図版番号	121・127・146	位置	30OP，31OP	梁間(cm)	3間（610）	桁行(cm)	3間（840）
床面積	52.08㎡	時期	Ⅵ2期	構造	側柱	方位	N-67°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	40	40	16	1-2		250
2	円	40	40	29	2-3		270
3	円	30	30	22	3-4		320
4	円	20	20	40	4-5		220
5	円	30	25	34	9-10		240
6	—	—	—	—	10-12		400
7	—	—	—	—	12-1		220
8	—	—	—	—	切り合い		
9	円	20	20	30	99SK2265・2020，99SE1800・2050，SB31・32・34と重複。99SK2043を切る。99SD1649に切られる。		
10	円	30	30	60			
11	—	—	—	—			
12	円	45	45	20			

SB35

図版番号	121・145	位置	30PQ，31Q	梁間(cm)	2間（350）	桁行(cm)	4間（800）
床面積	27.48㎡	時期	Ⅵ期	構造	側柱	方位	N-67°-W
ピット番号	形状	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	ピット番号		間隔
1	円	25	25	28	1-2		250
2	楕円	40	25	31	2-3		140
3	円	30	30	28	3-4		230
4	円	35	35	26	4-5		200
5	円	20	20	26	5-7		370
6	—	—	—	—	7-9		390
7	円	40	25	22	9-10		100
8	—	—	—	—	10-11		280
9	不整	65	60	30	11-12		170
10	円	35	35	40	12-1		180
11	円	25	25	20			
12	円	25	25	13			
切り合い	99SK1544・1546・1547・1908・1946・1947，99SD1907と重複。						

上層地下式坑

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	a（cm）	b（cm）	c（cm）	深（cm）	分類	覆土（開口部）	覆土（横断面）	覆土（縦断面）	切り合い	時期	出土遺物
98SK144	14	15	h, i	319	10K	1・2 6・7	278	108	—	116	A1類	—	斜め	斜め	SB2・99SD77に切られる。	V1期	無し
89SK8	18	19	g, h	319	12I 12H	23・24 3・4	(375)	110	(170)	184	A1類？	—	レンズ状	—	無し。	V1期	無し
92SK42	18	20	i	319	11I 11J 12I 12J	1 21 5 25	115	95	—	252	A3類	レンズ状	—	—	99SK82を切る。92SD34Aに切られる。1号塚の第1次盛土に覆われる。	V1期	無し
92SK82	18	20	j, k, l	319	11I 12I 11J	1・6 5・10 21・22	454	166	138	154	C2類	レンズ状	—	—	92SK82・SD34Aに切られる。1号塚の第1次盛土に覆われる。	V1期	無し
98SK99	21	22	b, c	319 320	12J	4・5 9・10	318	102	—	124	A1類	レンズ状	—	斜め	無し。	V1期	土師器釜か壺
92SK43	24	25	f, g, h, i	320	13I 13J	1〜4 21〜24	716	110	—	180	A1類	—	レンズ状	—	92SK52・204に切られる。	V1期	骨片
92SK70	30	31	a.b.c	320	15I 15J	4・5 9・10 19・20・ 24・25	420	218	112	145	B1類	—	凸状	—	89SD18に切られる。	V1期	46
98SK44	48	49	a, b, c	343	22J 23J	16・21 25	232	96	—	160	A1類	レンズ状	—	斜め	無し。	V1期	114、瓷器系甕
98SK24	48	49	j, k	320 321	23J 23L	2〜4 17・18 22〜24	370	225	70	106	C2類	単層	レンズ状	—	99SD1322・ピットに切られる。99SK2575を切る。SB7と重複。	V1期	無し
99SK1790	52	53	e, f	—	23K 24J 24K	21 5 20・25	218	176	48	122	C2類	レンズ状	—	レンズ状	98SD23・99SD1675・ピットに切られる。	V1期	無し
99SK855	58	59	b, c, d	321	26G	7〜9 12〜14	314	188	80	128	C2類	レンズ状	水平	斜め	無し。	V1期	無し
99SK777	62	63	a	321	26G	6・7・ 11・12	170	128	—	96	A3類	—	—	斜め	無し。	V1期	無し
99SK971	62	63	b	321	26G 27G	16・21 20・25	322	90	102	154	E類	—	水平	—	無し。	V1期	無し
99SK863	62	64	i	322	27G	12・13 17	218	136	—	54	A1類	—	—	斜め	無し。	V1期	無し
99SK867	62	64	j, k	322	27G 28G	2・6・7 10・15	464	110	96	74	C1類	レンズ状	単層	—	99SK1201との切り合い関係は不明。	V1期	無し
99SK763	62	64	p, q, r	322	28G 27H 28H	4・5 16・21 20・25	496	104	76	72	C1類	水平	水平	—	無し。	V1期	112・1041
99SK857	62	65	s	322	27G	13・14 18・19	224	128	—	76	A1類	—	—	斜め	無し。	V1期	無し
99SK852	62	65	t, u	323	27G	18・23	342	120	—	38	A1類	凸状	単層	—	無し。	V1期	無し
99SK851	62	65	v, x, y, z, A	323 324	27G 28G	11・12 16・17 21・22 20・25	(500)	406	92	88	D2類	単層	水平	斜め	99SK1201・1228に切られる。	V1期	青花皿、珠洲壺T、瓷器系甕
99SK755	62	66	B, C, D, E,	324	27H	12・13 17〜20 24	558	178	116	138	B1類	斜め	斜め 凸状	—	無し。	V1期	110・990
99SK671	67	68	b	343	28G	7・8 12・13	334	90	—	144	A1類	—	凸状	—	無し。	V1期	無し
99SK672	67	69	k	324	29H	18〜20 23〜25	388	110	—	128	A1類	—	—	凸状	99SK657を切る。99SK683との切り合い関係は不明。	V1期	無し
99SK668	67	69	m	324 325	29H	15・20	(160)	90	—	126	A1類	—	—	斜め	99SK669・670・ピットに切られる。99SD665を切る。	V1期	土師器釜か壺
99SK657	67	69	n	341	29H	8・12 13・17 18	228	124	—	360	E類？	—	水平	—	99SK400・672・674に切られる。99SK683との切り合い関係は不明。	V1期	93〜98、土師器釜か壺
99SK1716	67	72	Q	325	29I	10・14 15	(170)	195	—	96	A1類？	—	—	水平	99SK932・942・1292・1294・1711に切られる。	V1期	無し
99SK942	67	72	Q	325	28I 29I	11・16 15・20	198	62	40	112	C1類	—	レンズ状	—	99SK1292・1716を切る。99SK1711に切られる。	V1期	骨片
99SK1292	67	72	Q	325	28I 29I	11・16 15・20	228	80	—	152	A1類	—	レンズ状	—	99SK942・1711に切られる。99SK1716を切る。	V1期	58から63
99SK932	67	72	S, T	325	29I	8・9・13 ・14・18	432	98	—	208	E類	レンズ状	レンズ状	—	99SK1716を切る。99SK1285との切り合い関係は不明。	V1期	967・982
99SK674	67	—	—	—	29H	12・17 ・18	224	100	—	310	A1類	—	—	—	99SK657を切る。99SK683との切り合い関係は不明。	V1期	無し
99SK1274	73	74	d, e	326	29I 30I 29H	16・21・ 22 15・20・ 25 1・2	528	148	98	146	B2類	レンズ状	レンズ状	—	無し。	V1期	土師器高杯
99SK147	73	74	g, h	326	30I	9・10 14・15	244	62	44	156	C1類	レンズ状	凸状	—	無し。	V1期	無し

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	a（cm）	b（cm）	c（cm）	深（cm）	分類	覆土（開口部）	覆土（横断面）	覆土（縦断面）	切り合い	時期	出土遺物
99SK130	73	75	i, j, k	326	29I 30I	6・11 10・15	242	62	42	120	C1類	レンズ状	レンズ状	—	無し。	V1期	瀬戸美濃瓶
99SK131	73	75	l, m, n	327	29I 30I	1・2 6・7 4・5 9・10	700	152	46	160	C1類	レンズ状	水平	—	99SK121に切られる。	V1期	無し
99SK2066	76	78	n, o	327	28I 28J	3・23	420	100	—	(168)	A1類	レンズ状	凸状	—	99SK1717・1732・2088に切られる。99SD1280を切る。	V1期	青磁碗、土師器釜か壺
99SK2060	76	78	s, t	327	28I 28J	1·2·7 21・22	450	148	52	(104)	C3類	—	水平	—	99SD1280を切る。99SK1702·1717·1742・1743に切られる。	V1期	無し
99SK1278	76	79	u, v, w	328	28J	7・8 12～14 18・19	504	108	—	200	A1類	水平	斜め、レンズ状	—	99SK1259A・Bに切られる。	V1期	110·976、土師器釜・釜か壺·高杯·高杯か器台、骨片
99SK1267	76	79	x, y, z	328	28J	2・3 8・9	320	110	—	152	A1類	単層	凸状	—	無し。	V1期	無し
99SK2090	80	81	a, b, c, d	329	26K 27K	6・11 3～5 8～10 13・15	492	396	108	138	B4類	凸状	レンズ状	—	無し。	V1期	土師器釜か壺
99SK2197	80	81	e	329	26L	11・12 17・18	384	96	—	76	A1類	—	—	斜め	99SK2398に切られる。	V1期	無し
99SK2449	80	81	g, h	328	27L	5・10	(210)	114	—	60	A1類	—	水平	—	99SE2435に切られる。	V1期	無し
99SK2513	80	83	n	329	27L	24	(140)	96	—	96	A1類	—	レンズ状	—	99SE2555に切られる。	V1期	無し
99SK2444	80	83	o	330	27L	8・9 13・14	275	100	—	76	A1類	—	—	斜め	99SE2441・ピット2445・2446に切られる。99SK2463を切る。	V1期	無し
99SK2463	80	83	p	330	27L	2・3・8	250	122	—	64	E類	—	斜め	—	99SE2441・SK2444・ピットに切られる。	V1期	無し
99SK2398	80	81 83	e, t	329	26L	7・11・12・16・17	(430)	135	—	78	E類	—	単層 凸状	—	99SK2178・2198に切られる。99SK2197を切る。	V1期	無し
99SK1721	84	85	a, b, c	330	27K 28K	6・11 4·5·9 10・15	378	250	110	136	B2類	水平	レンズ状 斜め	—	SB11に切られる。SB12と重複。	V1期	土師器釜か壺
99SK1708	84	85	d	330	28K	13・14 18・19	188	178	80	124	C4類	—	—	レンズ状	無し。	V1期	189·983、珠洲すり鉢、土師器釜・釜か壺
99SK2180	84	85	e	331	28K	17・18 22・23	216	120	—	184	A2類	—	凸状	—	無し。	V1期	無し
99SK2491	84	87	v	331	28K 28L	1·2·7 21	364	88	—	112	E類	レンズ状	—	—	99SK2498・2176を切る。99SD2290・ピットに切られる。	V1期	404
99SK2374	84	88	F	331	27L 28L 27M	1・6 5 21	216	164	72	40	C4類	—	—	レンズ状	99SK2362を切る。SB10・13と重複。	V1期	無し
99SK2362	84	88	H	331	27L 27M 28L 28M	1・2 21・22 5 25	(250)	(240)	98	44	B3類	水平	—	—	99SK2374・SB10・ピットに切られる。SB13と重複	V1期	無し
99SK2357	84	88	I	—	27L 27M	3・4 23・24	214	148	—	42	A2類	—	—	水平	99SK2358に切られる。99SK2439を切る。	V1期	無し
99SK2212	84	89	L	289	28M	18・22 23	(120)	116	—	68	A1類	—	—	斜め	99SK1366・2211に切られる。99SK2344を切る。	V1期	無し
99SK2344	84	89	M	331	28L 28M	1・2 21・22	314	92	—	48	A1類	—	水平	—	99SK1366・2212，SB9・13・ピットに切られる。	V1期	無し
99SK2458	84	89	O	332	28L	7・8 12・13 17・18	465	180	150	72	A1類	—	水平	—	99SD1735・SB13に切られる。	V1期	無し
99SK2559	84	—	—	—	27K 27L	1・2 16・ 21・22	344	94	100	—	E類	—	—	—	SB11・ピットに切られる。SB12と重複。	V1期	無し
99SK2498	84	—	—	332	28K 28L	1・2 21・22	(220)	(190)	120	72	B3類	水平	水平	—	99SK2491に切られる。99SK2176を切る。	V1期	無し
99SK2176	84	—	—	—	28K	2・3	(220)	(150)	—	—	不明	—	—	—	99SK1737・2491・2498，SD1735・ピットに切られる。	V1期	無し
99SK2424	90	91	f	333	28L 28M	4 19・24	300	100	—	68	A1類	水平	—	—	99SE2229，SB9・10，ピットに切られる。SB13と重複。	V1期	無し
99SK2223	90	91	g, h, i	332	27M 28M	6・11 12・ 16・17 21・22 20・25	606	336	120	36	D2類	—	水平	—	99SK2440・ピットに切られる。SB14と重複。	V1期	無し
99SK2244	90	91	k	332	27M 28M	1・6 5・10	(250)	(100)	—	40	A1類？	—	凸状	—	99SK2227・2236・2231に切られる。SB14と重複。	V1期	無し
99SK2210	90	92	n, o, p	333	28M	9・14 15・19 20	380	200	95	60	D1類	水平	水平	—	99SE2209・SB9・14・ピットに切られる。99SK2231を切る。	V1期	無し

付表1　遺構観察表

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	a（cm）	b（cm）	c（cm）	深（cm）	分類	覆土（開口部）	覆土（横断面）	覆土（縦断面）	切り合い	時期	出土遺物
99SK2236	90	92	q，r	332 333	27M 28M	6・11 5・10 15	364	185	86	66	C3類	水平	水平	—	99SE1373・2223，SK2227に切られる。99SK2231・2244を切る。SB14と重複。	V1期	無し
99SK2231	90	92	q,r,t	333	28M	4･5･9 10・15	(450)	92	—	96	E類	水平	レンズ状	—	99SE1373，SK2210・2233・2236・SB9・14，ピットに切られる。99SK2244を切る。	V1期	無し
99SK1369	90	93	w,x,y,z,A	334	28M	2・3 7～9 13・18	532	250	114	96	D1類	水平	水平	レンズ状	99SK1367・2242・SB9・ピットに切られる。	V1期	無し
99SK2227	90	93	D	334	27M 28M	1・6 5・10	(120)	140	—	60	不明	—	水平	—	99SE1373に切られる。99SK2244・2336を切る。SB14と重複。	V1期	無し
99SK1285	94	95	b	335	29I	4・5 9・10	280	88	—	136	A1類	—	斜め	—	99SK1283を切る。99SK930・950に切られる。99SK932との切り合い関係は不明。	V1期	骨片
99SK1283	94	95	d	334 335	29I	5・10	256	98	—	96	A1類	—	斜め	—	99SK930・950・1285に切られる。	V1期	土師器釜か壺、骨片
99SK1745	94	95	e	335	28J 29J	21 20・25	292	145	90	152	B2類	—	レンズ状	—	無し。	V1期	118、土師器釜か壺
99SK1284	94	96	k，l	336	28J 29J	11・16 17 10・15 20	490	210	100	180	D1類	レンズ状	レンズ状	—	99SK1724・1715・1723に切られる。99SD1280を切る。	V1期	76・77、瓷器系甕、土師器釜か壺、骨片
99SK2056	94	96	m,n	335	29J	10・14 15･18 19･23 24	(446)	(80)	90	156	C1類	—	レンズ状	—	99SK630に切られる。	V1期	2056
99SK611	94	97	o	336	29J	4・9	152	114	68	92	A3類	—	凸状	—	99SK610を切る。	V1期	無し
99SK610	94	97	p，r	336	29J	3・4	175	95	—	148	A1類	—	レンズ状	斜め	99SK609・611に切られる。	V1期	無し
99SK632	94	97	q	336	29J 29K	2・3 23	138	110	—	116	A3類	—	—	斜め	99SK631に切られる。99SK609を切る。SB15と重複。	V1期	珠洲甕か壺T
99SK609	94	97	r,s,t	337	29J 29K	2～4 21～24	530	120	(96)	136	E類	レンズ状	レンズ状	—	99SK631・632に切られる。99SK610を切る。SB15と重複。	V1期	無し
99SK2346	94	98	z,A	337 338	28K 29K	6・11・16 10・14 15・19	442	358	110	112	D3類	—	ブロック状	水平	99SK2316･2313･SD2290・ピットに切られる。	V1期	無し
99SK2313	94	98	w.x.y	337	28K 29K	11・16 14・15 ・20	226	162	—	36	A2類	単層	単層	単層	99SK2346を切る。99ピットに切られる。99SK2316との切り合い関係は不明。	V1期	無し
99SK2322	94	99	E,F,G	338	29K	4・5 8～10	256	136	124	78	A1類	—	斜め	レンズ状	ピットに切られる。	V1期	176
99SK2329	94	99	J,K,L	338	29K 30K	1･6～8 11・12 15	450	276	98	122	A1類	—	水平 レンズ状	凸状	99SK2294に切られる。SB15と重複。	V1期	無し
99SK2335	94	100	M	338 339	29K	2・3・ 7・8	(190)	(90)	—	104	A1類	—	斜め	—	99SK2320・2333・2337に切られる。SB14と重複。	V1期	無し
99SK2337	94	100	N,O	339	29K 29L	2・3 23	292	92	—	96	E類	—	レンズ状	—	99SK2320・SB15に切られる。99SK2335を切る。99SK2333との切り合い関係は不明。	V1期	無し
99SK2330	94	101	R,S	339	29K 30K 29L 30L	1 5 21 25	(220)	110	200	76	B4類	—	水平	凸状	99SK2331に切られる。	V1期	無し
99SK2332	94	101	T,U	339 340	29L	17・18	254	105	—	108	A1類	レンズ状	凸状	—	99SK2331に切られる。	V1期	無し
99SK2333	94	100 101	Q V,W	340	29K 29L	2 22	160	172	120	100	B4類	水平	水平	斜め	99SK2331に切られる。99SK2335を切る。99SK2337との切り合い関係は不明。	V1期	無し
99SK1443	102	103	a,b,c,d	340 341	29L	7～9 11～14	528	282	94	108	B2類	不整	斜め	—	無し。	V1期	168～173
99SK1406	102	103	e,f,g	341	29L	1～3 6～8	294	98	—	76	A1類	—	斜め 不整	斜め	無し。	V1期	無し
99SK307	108	109	b，c	342	31I	1・2 7・8	320	125	96	164	C1類	レンズ状	斜め	—	無し。	V1期	無し
99SK524	108	109	k	342	31J 32J	11・16 15・20	195	66	—	92	A1類	—	レンズ状	—	SB17に切られる。	V1期	117、珠洲甕か壺T・すり鉢
99SK139	108	110	l,m,n	342	32I 32J	2・3・ 7・8 22・23	468	200	125	232	C1類	レンズ状	レンズ状	—	無し。	V1期	369・374、須恵器甕
99SK701	108	110	o,p,q	342	31I 32I 32J	6・11 4・5・9 10・15 24	624	192	60	196	C1類	レンズ状	レンズ状	—	無し。	V1期	瓷器系甕

遺構番号	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	a（cm）	b（cm）	c（cm）	深（cm）	分類	覆土（開口部）	覆土（横断面）	覆土（縦断面）	切り合い	時期	出土遺物
99SK283	116	117	e	343	32J 32K	3 23	100	85	—	166	A3類	水平	—	—	無し。	V1期	縄文土器深鉢、土師器釜か壺
99SK368	130	131	c	343	32M	7・11・12・16 17・21 22	484	（72）	—	184	E類	—	レンズ状	—	99SD364に切られる。	V1期	須恵器杯、土師器釜か壺
99SK361	130	131	e	343	32M 33M	1・6 10	182	80	112	98	C3類	—	レンズ状	—	99SD362に切られる。	V1期	瀬戸美濃天目碗・瓶、土師器釜か壺

竪穴建物（下層）

遺構名	平面図 断面図	写真	大グリッド	長軸（cm）	短軸（cm）	平面形	主柱穴	炉	覆土	切り合い関係	時期	出土遺物	備　考
89SI4	149・168	354	12H 13H	（530）	（345）	楕円	不明	不明	不明	無し。	Ⅱ1期？		周溝・ピットのみ残存
89SI20	151・168	354	15G	（545）	（320）	円？	不明	不明	不明	無し。	Ⅱ1期	856～862・1170	周溝・ピットのみ残存
98SI91	154・169	354	14JK	490	（130）	方	4本	不明	不明	無し。	Ⅱ2期	824～831	周溝・ピットのみ残存
98SI92	169	355	13L	78	90	方？	不明	不明	不明	無し。	Ⅱ2期	776～780	周溝の一部のみ残存、大半は調査区外
98SI139	169	355	10M 11M	（490）	（130）	円？	不明	不明	不明	無し。	Ⅱ2期？		周溝の一部のみ残存、大半は調査区外
99SI2533	158・169	357	29LM	（625）	（95）	方？	不明	不明	不明	ピットに切られる。	Ⅱ2期？		周溝・ピットの一部のみ残存
92SI105	170	356 357	18I 19I	（460）	（320）	方	不明	不明	レンズ状堆積	92SI121・102に切られる。	Ⅱ1期	863～871	
92SI121	170	357	18I 19I	（465）	（445）	方	不明	不明	レンズ状堆積	92SI105を切る。	Ⅳ期	675・676	
92SI102A	170	355 356 357	18IJ 19IJ	370	（350）	方	4本	中央	レンズ状堆積	92SI105を切る。 92SI102Bに切られる。	Ⅱ1期？		
92SI102B	170	355 356 357	19J	360	350	方	4本	不明	レンズ状堆積	92SI102Aを切る。	Ⅲ～Ⅳ期	677・678	
98SI12	171	355	22JK 23JK	（960）	（310）	円	不明	不明	不明	無し。	Ⅱ1期	829～822	周溝・ピットの一部のみ残存
99SI1581	171	357	29RS 30RS	（456）	（312）	方	4本	不明	不明	無し。	Ⅱ2期	765	周溝・ピットの一部のみ残存
99SI1432	158・172	357 358	29LM 30LM	（850）	（465）	楕円？	不明	中央？	レンズ状堆積	99SI2239を切る。	Ⅱ2期	785～790	周溝・ピットの一部のみ残存
99SI2339	158・172	357 358	29LM 30LM	（465）	（415）	方	不明	中央？	レンズ状堆積	99SI1432に切られる。	Ⅱ2期？	1153	周溝・ピットの一部のみ残存

墳墓（下層）

遺構名	平面図 断面図	写真	大グリッド	平面形	長軸（cm）	短軸（cm）	切り合い関係	時期	出土遺物	備　考
1号周溝墓	148～150 164～166	350 351 352	11HIJ， 12HIJ，13I	方	12.5	11.8		Ⅱ1期	839～855・1073・1087・1090・1099・1136・1175・1195・1115	一辺中央部が途切れる。「L」字型の溝が2基付属する。
2号周溝墓	167	353	9K，9L	円	4.2	4.0		Ⅱ1期	781～784・1189・1207	周溝の一部が途切れる
3号周溝墓	168	353	13GH，14G	方	（9.7）	（9.5）		Ⅱ1期		周溝コーナーが途切れる
1号墳	160～163	346 347 348	27IJK 28IJK 29IJ	円？	径18.0	—		Ⅱ2期	872～877	
2号墳	167	349	27HI，28HI	方	9.8	（7.2）	99SD769を切る。	Ⅱ2期		

付表1　遺構観察表

溝（下層）

遺構名	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	幅（cm）	深（cm）	断面形	覆土	切り合い関係	時期	出土遺物	備考
98SD78	148	153	b	359	10K	76	24	彎曲	レンズ状	98SK113を切る。	Ⅱ1期		
98SD74	148	153	c	359	10JK 11JK	220	96	台形状	レンズ状	無し。	Ⅱ1期	1022・1084・1116・1127	
89SD15	150	153	d,e	359 ～ 361	13HIJ 14HI，15I， 16I，17I	72	65	台形状	レンズ状	98SD26を切る。SD19・25・27との切り合い関係は不明。	Ⅱ1期		
89SD19	150	153	k	360	13HIJ 14HIJ	150	38	台形状	レンズ状	89SD15との切り合い関係は不明。	Ⅱ1期	774・775	
89SD28	151 152	—	—	361	16H，17H	95	40	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅱ1期		
89SD27	152	—	—	361	17I	98	38	彎曲	—	98SD15との切り合い関係は不明。	Ⅱ1期		
89SD26	152	153	f,g	360 361	16IJ，17J	420	54	彎曲	レンズ状	89SD15に切られる。	Ⅱ1期		
99SD2542	158	—	—	—	29N	48	15	皿状	—	無し。	Ⅱ期		
99SD1850	159	159	d,e	361 362	28O，29O， 30OP	48	55	「V」字状	レンズ状	無し。	Ⅱ2期	765～773	
99SD769	167	167	d,e	361	27HI	208	75	台形状	レンズ状	2号墳に切られる。	Ⅱ1期	835～838・1118	
99SD957	161	162	e	348	28I	108	44	彎曲	単層	無し。	Ⅱ2期		1号墳の周溝か。
99SD2502	161	162	d	348	27JK	140	45	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅱ2期？		
99SD1707	161	162	f	348	28H	52	12	皿状	単層	無し。	Ⅱ2期？		

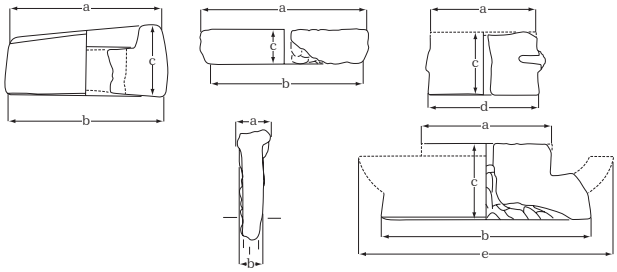
下層土坑

遺構名	平面図	断面図	断面記号	写真	大グリッド	小グリッド	長さ（cm）	幅（cm）	深さ（cm）	平面形	断面形	覆土	切り合い	時期	報告遺物
98SK113	148	153	a	362	10K	14・15・19・20	240	140	75	不整	彎曲	レンズ状	98SD78に切られる。	Ⅱ期？	
92SK125	148	—	—	362	10J 11J	11・12・16・17 15・20	348	302	20	不整	皿状	単層	無し。	Ⅱ期？	
89SK29	151	153	h,i,j	362	15H	2・7	(170)	50	15	楕円	彎曲	レンズ状	無し。	Ⅱ期？	1130
89SK32	152	153	l	362，363	15I	1・2・6・7	135	90	52	楕円	箱型	単層	無し。	Ⅱ期？	
98SK62	155	—	—	363	17L 18L	11・16・17 14・15・19・20	(760)	146	15	楕円	彎曲	単層	無し。	Ⅲ期	706～718
20Kピット1	156	156	a	364	20K	11・12・16・17	142	78	120	楕円	箱型	水平	無し。	Ⅲ期	
20Kピット2	156	156	b,c	363，364	20K	11・16	80	60	42	楕円	箱型	レンズ状	無し。	Ⅲ期	719・720
99SK538	157	159	a,b,c	364，365	30J	12・13　14・17 18・19	524	52	76	楕円	「V」字状	レンズ状	無し。	Ⅱ期	1023
98SK13	171	171	a	364	23K	14・15・19・20	156	64	42	楕円	「V」字状	レンズ状	無し。	Ⅱ1期？	
98SK22	171	171	c	364	23K	15・20	104	80	24	円	皿状	単層	無し。	Ⅱ1期？	

付表2　遺物観察表

凡例

1　遺物図版に示した遺物の観察表である。
2　遺物種類毎に異なる観察項目が存在するため、観察表は遺物種類毎にまとめた。
3　口径・器高・底径が、不確定な場合は（　）内に数値を示した。
4　金属器（釘）の幅a･ｂは右図に示した部位の計測を行った。
5　石器（弥生時代末以降）のうち石臼類は右図に示したａ～ｄの計測値を示した。これ以外の器種については、ａ：長さ、ｂ：幅、ｃ：厚さを示す。
6　須恵器の胎土は主に28ページ、第28表に示した分類に従った。



中世陶器

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	底径（㎜）	最大径（㎜）	胎土・産地	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
173	2	珠洲	壺T種	11J	23	1号塚	—	144	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁部降灰		
173	3	珠洲	壺T種	12I	11・16	92SD34A	—	186	—	—	390	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面綾杉状タタキ、内面無文当て具	還元硬質、口縁部・体部上半外面降灰		4と同一個体
173	4	珠洲	壺T種	12I	—	1号塚	—	—	—	174	—	海針、白色粒子	外面平行タタキ、内面ナデ、砂底	酸化硬質	内面摩耗	3と同一個体
173	43	珠洲	すり鉢	15K	23	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁部外面降灰		
174	57	珠洲	すり鉢	22G	23	—	Ⅳ	—	—	196	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面静止糸切り、内面卸目1単位11条以上	還元硬質	内面・底部外面摩耗	
175	110	珠洲	壺T種	28I	6	—	Ⅲ	224	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、口縁端部櫛描き波状文4条1単位、口縁部外面櫛描き波状文8条1単位	還元硬質、口縁部外面降灰		
175	111	珠洲	壺R種	26J 27HIJ	—	99SD650	1	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、外面櫛描き波状文1単位4条以上	還元硬質	体部外面摩耗	
176	139	珠洲	甕	28L	24	99SE1725	2	500	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、内面無文当て具	還元硬質	口縁部内面・体上部内面摩耗	
176	140	珠洲	甕	27L 28L	17 25	99SE1725	Ⅰ～Ⅲ 2	510	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、内面無文当て具	還元硬質、口縁部内面降灰	口縁部内面摩耗	
176	141	珠洲	甕	28L	24	99SE1725	2	452	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、内面無文当て具	還元硬質、口縁部内面降灰	口縁部内面摩耗	
176	145	珠洲	すり鉢	28L	25	99SE1731	—	268	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位4条以上	還元硬質		
176	149	越前	甕	20L 23J	18	98SD3B	Ⅱ	498	—	—	—	長石、白色粒子	口縁部ヨコナデ	酸化硬質	口縁端部外面摩耗・欠け	
176	153	珠洲	すり鉢	28M	12	99SE1358	8	246	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質		
176	154	珠洲	すり鉢	28M	12	99SE1358	8	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位10条以上	還元硬質		
176	155	珠洲	甕	28M	12	99SE1358	7	—	—	—	—	海針、白色粒子	外面平行タタキ、内面無文当て具	還元硬質		
177	157	珠洲	すり鉢	26K	5	99SE2435	下層	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、口縁端部櫛描き波状文1単位6条	還元硬質	口縁端部内面欠け	
177	159	珠洲	甕か壺T種	24K	24・25	99SD1675	1	—	—	—	—	海針、白色粒子	外面平行タタキ、内面無文当て具	還元軟質		160と同一個体
177	160	珠洲	甕か壺T種	24K	24・25	99SD1675	1	—	—	—	—	海針、白色粒子	外面平行タタキ、内面無文当て具	還元軟質		159と同一個体
177	162	珠洲	すり鉢	26L	3	99SE2441	3	—	—	148	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面板目圧痕	還元軟質	内面・底部外面摩耗	
177	163	珠洲	甕	28N	23	99SE1388	15	356	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ	還元硬質、口縁部内面降灰		
177	167	珠洲	すり鉢	28M	10	99SE1373	—	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位11条以上	還元硬質	内面摩耗	
177	186	珠洲	壺R種	27L	23	—	Ⅳa	142	—	—	—	チャ、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁部内面降灰		
177	187	珠洲	壺R種	26I 28K	6 23	—	Ⅲ	110	—	—	—	海針	内外面ロクロナデ、口縁端部櫛描き波状文7条1単位	還元硬質		
177	188	珠洲	壺R種	25K	23	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、外面櫛描き波状文4条1単位	還元硬質		
177	189	珠洲	壺R種	28K 31J 13L	18・22 14 20	99SK1708	Ⅳa Ⅳb Ⅲ	—	—	—	174	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質		

付表2　遺物観察表

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	底径（㎜）	最大径（㎜）	胎土・産地	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
177	190	珠洲	すり鉢	27L	18	—	Ⅰ～Ⅲ	296	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位10条以上	還元硬質	内面摩耗	
177	191	珠洲	すり鉢	26K	10	—	—	312	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部付近炭化物	
177	192	珠洲	すり鉢	27M	12	99SK2224	—	323	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位4条以上	還元硬質	口縁端部外面摩耗・欠け	
177	193	珠洲	すり鉢	22K	23	—	Ⅲ	（326）	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、口縁端部櫛描き波状文8条以上1単位、内面卸目1単位9条以上	還元硬質	口縁端部摩耗	
177	194	珠洲	すり鉢	26M	22	99SE2396	上層	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、口縁端部櫛描き波状文1単位3条	還元硬質	口縁端部摩耗	
177	195	珠洲	すり鉢	26K	13	99SD2169	—	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、口縁端部櫛描き波状文1単位5条	還元硬質	内面摩耗	
177	196	瓦器	すり鉢	23K	—	99SD1679	1	—	—	—	—	石英、長石、雲母	内外面ヨコナデ、内面卸目1単位14条以上	酸化軟質	体部内面炭化物	
177	197	珠洲	すり鉢	24K	24	98SD23	—	—	—	164	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面静止糸切り、内面卸目1単位7条	還元硬質	内面・底部外面摩耗	
177	198	珠洲	すり鉢	26L	8	99SE2471	—	—	—	176	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目1単位9条以上	還元硬質	内面・底部外面摩耗	
177	199	越前	壺	21K	1	98SD28	—	—	—	—	—	白色粒子	内外面ねじたて、外面にヘラ記号	酸化硬質		
177	200	珠洲	甕	23K	—	99SD1349	1	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、内面無文当て具	還元硬質、口縁部内面降灰		
177	201	珠洲	甕	30O	—	99SD2127	1	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質	口縁部外面炭化物	223と同一個体か
178	202	珠洲	甕	24K 25J	21 21	—	Ⅳa Ⅲa	546	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質、口縁部外面・体上部外面降灰	口縁部内面摩耗、体上部内面炭化物	
178	203	珠洲	甕	24L	—	—	—	576	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、内面無文当て具	還元硬質	口縁部内面・体部外面摩耗、口縁部外面・体上部外面炭化物	
178	204	珠洲	甕	23K	—	99SD1679	1	—	—	—	—	海針、白色粒子	外面平行タタキ、内面無文当て具、砂底	還元硬質	内面摩耗	
178	205	珠洲	壺T種	26L	10	99SE2361	下層	—	—	178	—	海針、白色粒子	外面平行タタキ、内面無文当て具、砂底	還元硬質	内面摩耗	
178	206	珠洲	すり鉢	28O	21	—	Ⅲ	276	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位7条	還元硬質	内面・体部外面摩耗、口縁端部欠け	
178	207	越前	甕	23I 23J 24J 31M	21 1 5 2	—	Ⅳ Ⅴa Ⅳa Ⅳ	—	—	—	—	長石、白色粒子	口縁部ヨコナデ、体部ねじたて	酸化硬質、口縁部内面降灰		
178	208	越前	甕	24K	21	—	Ⅳa	—	—	—	—	長石、白色粒子	口縁部ヨコナデ	酸化硬質、口縁部外面降灰		
178	209	越前	甕	22L	16	—	Ⅱ	—	—	—	—	長石、白色粒子	体部ねじたて、外面格子目文・「大」スタンプ	酸化硬質、体部外面降灰		
178	217	珠洲	すり鉢	22J	3	98SD23	—	286	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁端部外面黒化	口縁端部外面欠け	
178	218	珠洲	すり鉢	25K	24 25	98SD23	5	396	186	156	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目1単位8条、口縁端部内面櫛描き波状文1単位8条、底部外面静止糸切り	還元硬質	内面・底部外面摩耗、体下部外面弱い摩耗、底部内面炭化物	
178	219	珠洲	すり鉢	23J	—	98SD23	1	—	—	160	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目、底部外面板目圧痕	還元硬質	内面・底部外面摩耗、体下部外面弱い摩耗、内面炭化物	
178	220	珠洲	甕	23J	1	98SD23	1	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部・ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質	体上部内面摩耗、口縁部外面炭化物	223と同一個体か
178	221	珠洲	甕	23J	—	98SD23	4	442	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、内面無文当て具	還元硬質、口縁部内面降灰	口縁部内面摩耗	
178	222	越前	甕	23J	1	98SD23	1		—	—	—	長石、白色粒子	体部ねじたて、外面格子目文スタンプ、内面指圧痕	酸化硬質		
178	223	珠洲	甕	23J	8	98SD23	—	576	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ後×のヘラ記号、内面無文当て具	還元硬質	口縁部外面炭化物	201と同一個体か
179	244	珠洲	壺T種	23I	6・22	—	Ⅲ	194	—	—	—	白色粒子	口縁部ロクロナデ	還元硬質、口縁部内外面降灰		
179	245	珠洲	壺T種	14K	18	98SD42	1	154	—	—	—	白色粒子	口縁部・体部内面ロクロナデ、体部外面平行叩き	還元硬質、口縁部内外面・体部外面降灰		
179	246	珠洲	壺R種	26J	3	—	Ⅲa	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、体上部外面櫛描き波状文8条2単位	還元硬質、体上部外面降灰		

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	底径（㎜）	最大径（㎜）	胎土・産地	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
179	247	珠洲	壺R種	25J	2	—	Ⅳa	—	—	—	220	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、外面櫛描き波状文7条3単位	還元硬質	口縁部外面・体部内面炭化物	
179	248	信楽	壺	25I	8	—	Ⅳ	130	—	—	—	長石	内外面ヨコナデ	酸化硬質、口縁部内外面降灰		
179	249	珠洲	すり鉢	25J	1	—	Ⅲa	320	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部欠け	
179	250	珠洲	すり鉢	22J	16	—	Ⅰ～Ⅲ	310	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位7条以上	還元硬質、口縁端部外面黒化	内面摩耗、口縁端部欠け・摩耗	193と同一個体か
179	251	珠洲	すり鉢	23J	12	—	Ⅲ	316	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ヨコナデ	還元硬質	口縁端部・内面摩耗	
179	252	珠洲	すり鉢	26J	1	—	Ⅲa	338	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部・内面摩耗	
179	253	珠洲	すり鉢	27J	21・22	—	Ⅲ	284	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部・内面摩耗	
179	254	珠洲	すり鉢	25J	5	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位7条	還元硬質	口縁端部欠け	
179	255	珠洲	すり鉢	27J	14	—	Ⅲa	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部外面欠け	
179	256	珠洲	すり鉢	26J	25	—	Ⅳa	—	—	142	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面静止糸切り、内面卸目1単位10条	還元硬質	内面、底部外面摩耗	
179	257	珠洲	甕	24I	19	—	Ⅳ	410	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質	体上部内面摩耗	
179	258	珠洲	甕	26I	5	—	カクラン	448	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、内面無文当て具	還元硬質、口縁部内外面・体部外面降灰	口縁部内面摩耗	
179	259	珠洲	甕	23J	24	—	Ⅲ	510	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、内面無文当て具	還元硬質、口縁部内外面・体部外面降灰	口縁部内面摩耗	
179	260	珠洲	甕	23I	23	—	Ⅱ	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質	口縁部外面ハケ、口縁部内面摩耗	
179	261	珠洲	甕	22J	9	—	Ⅳ	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部・体上部外面ロクロナデ、体部内面無文当て具	還元硬質	口縁部外面欠け、口縁部内面摩耗、体部外面炭化物	
179	262	珠洲	甕	23J	15	—	Ⅰ	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質	口縁部外面欠け、口縁部内面·体上部内面摩耗	
179	263	珠洲	甕	24J	4	—	Ⅴa	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質	体部外面・口縁部内面・体上部内面摩耗	
179	264	珠洲	甕	25J 27J	5 9	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部・体上部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質、口縁部内外面・体上部外面降灰	体部内面炭化物	
179	265	越前	甕	24I 24J	5 1・5	—	Ⅳ Ⅲ	430	—	—	—	長石、白色粒子	口縁部ヨコナデ	酸化硬質、口縁部内面降灰	口縁端部外面摩耗・欠け	
180	275	珠洲	壺T種	30J	—	99SE310	—	250	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、口縁部外面櫛描き波状文2条2単位	還元硬質	口縁端部摩耗	
180	276	珠洲	壺T種	30J	1	99SE310	上層	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部・体上部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質、体上部外面降灰	口縁部内面摩耗	
180	277	珠洲	すり鉢	30J	—	99SE310	—	328	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位6条	還元硬質	口縁端部摩耗・欠け、内面摩耗	
180	278	珠洲	すり鉢	30J	6・7	99SE310	上層	296	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位8条以上	還元硬質	口縁端部・内面摩耗	
180	279	珠洲	すり鉢	30J	1	99SE310	上層	400	—	—	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目1単位6条	還元硬質	口縁端部・内面摩耗	280と同一か
180	280	珠洲	すり鉢	30J	1	99SE310	上層	—	—	—	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目1単位6条	還元軟質	内面・体下部外面摩耗	279と同一か
180	281	珠洲	すり鉢	30J	1	99SE310	上層	—	—	—	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目1単位9条以上	還元軟質	内面摩耗、外面荒れ	286と同一か
180	282	珠洲	すり鉢	30J	6	99SE310	下層	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	内面・体下部外面摩耗	
180	283	珠洲	すり鉢	30I	1・2	99SE310	上層	—	—	128	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面板目痕、内面卸目1単位9条	還元硬質	内面・底部外面摩耗	
180	284	珠洲	すり鉢	30J	—	99SE310	—	—	—	145	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目	還元硬質	内面・底部外面・体下部外面摩耗	
180	285	珠洲	すり鉢	30J	6	99SE310	下層	—	—	138	—	海針、白色粒子	内面・体部内面ロクロナデ	還元軟質	内面・底部外面・体下部外面摩耗	
180	286	珠洲	すり鉢	30J	1	99SE310	上層	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目	還元軟質	内面摩耗、外面荒れ	281と同一か
180	287	珠洲	甕	30J	—	99SE310	—	420	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質、口縁部内外面・体上部外面降灰	口縁部内面摩耗	
180	291	珠洲	すり鉢	31L	23	99SE231	—	—	—	132	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ	還元軟質	内面・底部外面摩耗、体下部外面弱い摩耗	

付表2　遺物観察表

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	底径（㎜）	最大径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
180	292	珠洲	すり鉢	31L	—	99SE231	5	—	—	117	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目1単位10条	還元硬質	内面・底部外面摩耗、体下部外面弱い摩耗	
182	315	珠洲	すり鉢	30K	6	99SE831	上層	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位4条以上、口縁端部櫛描き波状文1単位5条	還元硬質	内面摩耗	
182	316	珠洲	すり鉢	30K	6	99SE831	上層	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位7条以上、口縁端部櫛描き波状文1単位5条	還元硬質	内面摩耗	
182	317	珠洲	すり鉢	30K	6	99SE831	上層	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位5条以上、口縁端部櫛描き波状文1単位5条	還元軟質	口縁端部外面欠け、内面摩耗	
182	318	珠洲	すり鉢	30I 30K	5 6	— 99SE831	Ⅳb 上層	316	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	内面摩耗、口縁端部外面欠け	
183	326	珠洲	すり鉢	30K	21	99SK723	1	322	—	—	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目1単位8条	還元硬質、外面・口縁端部内面黒化	内面摩耗	
183	327	珠洲	すり鉢	30K	—	99SK723	1	—	—	194	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、底部外面板目圧痕、内面卸目1単位11条	還元軟質	内面・底部外面摩耗、体下部外面弱い摩耗	
183	329	珠洲	すり鉢	30K	23	99SE811	下層	—	—	170	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面板目痕、内面卸目1単位7条以上	還元硬質	内面・底部外面摩耗、内外面煤	
183	333	珠洲	すり鉢	30J	13	99SD304	—	300	—	—	—	海針、白色粒子	内面・体部内面ロクロナデ、内面卸目1単位8条以上	還元硬質	口縁端部・内面摩耗	
183	335	珠洲	すり鉢	30I	—	99SD301	下層	—	—	140	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面板目痕、内面卸目1単位7条以上	還元軟質	内面・底部外面摩耗、体下部外面弱い摩耗	
184	376	珠洲	壺T種	31I 31J	4 14	99SD531	Ⅳa Ⅳb	190	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部摩耗・欠け	
184	377	珠洲	壺T種	30I	4	—	Ⅳb	160	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部欠け、内外面炭化物	
184	378	珠洲	壺R種	31M	2	—	Ⅲ	—	—	—	176	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、外面櫛描き波状文8条3単位・菱形文のスタンプ	還元硬質	体上部内面摩耗	
184	379	珠洲	すり鉢	32L	10	—	Ⅴ	284	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位6条以上	還元硬質	内面摩耗、口縁端部摩耗・欠け	
184	380	珠洲	すり鉢	31M	2	—	Ⅳ	304	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位6条以上	還元硬質	内面摩耗、口縁端部摩耗・欠け	
184	381	珠洲	すり鉢	31I	3	—	Ⅳ	248	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁部内外面降灰	口縁端部摩耗	
184	382	珠洲	すり鉢	32J	15	—	Ⅲ	304	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁部内外面降灰	内面摩耗、口縁端部摩耗・欠け	
184	383	珠洲	すり鉢	30M	4	—	Ⅳa	280	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁端部外面黒化	内面摩耗、口縁端部摩耗・欠け	
184	384	珠洲	すり鉢	32O	14	99SD78	—	324	—	—	—	白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位9条以上、口縁端部櫛描き波状文1単位6条	還元硬質、内面・口縁端部外面降灰	口縁端部摩耗	
184	385	珠洲	すり鉢	30K	21	—	Ⅳb	328	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、口縁端部櫛描き波状文1単位7条	還元硬質、内面・口縁端部外面降灰	口縁端部摩耗・欠け	
184	386	珠洲	すり鉢	30K 31K	—	99SD233	1	276	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位3条以上	還元軟質	内面・口縁端部摩耗	
184	387	珠洲	すり鉢	31L	23	—	Ⅳa	276	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位4条以上	還元軟質	口縁端部摩耗	
184	388	珠洲	すり鉢	31J	21	—	Ⅳ	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部摩耗・欠け	
184	389	珠洲	すり鉢	30O	13	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位9条以上、口縁端部櫛描き波状文10条1単位	還元硬質	口縁部外面煤、内面摩耗、口縁端部摩耗・欠け	
184	390	珠洲	すり鉢	22J	3	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位6条以上、口縁端部櫛描き波状文5条1単位	還元硬質、口縁部外面黒化	口縁端部内面摩耗、口縁端部摩耗・欠け	
184	391	珠洲	すり鉢	32J	23	—	Ⅳa	(374)	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位7条以上、口縁端部櫛描き波状文1単位5条	還元硬質	内面摩耗、口縁端部摩耗・欠け	
184	392	珠洲	すり鉢	32J	24	99SK256	—	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位8条以上	還元硬質		
184	393	珠洲	すり鉢	32I	4	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位8条以上	還元硬質	内面摩耗、割れ口摩耗	
184	394	越前	すり鉢	30M	—	—	—	—	—	138	—	長石、白色粒子	内面・体部外面ねじたて、底部外面不調整、内面卸目9条1単位	酸化硬質	内面・底部外面摩耗	
184	395	珠洲	すり鉢	31L M	—	99SD97	1	—	—	140	—	流紋岩、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ	還元軟質	内面・底部外面摩耗	

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	底径（㎜）	最大径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
184	396	珠洲	すり鉢	29K 30K	—	—	—	—	—	140	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目、底部外面板目圧痕	還元硬質	内面・体部外面・底部外面摩耗	
184	397	珠洲	甕	32J	16	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部・体部上端ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質、口縁部・体上部外面降灰	口縁部内面摩耗、体上部内面欠け	
184	398	珠洲	甕	32J	7	99SK265	—	—	—	224	—	海針、白色粒子	外面平行タタキ、内面無文当て具、底部外面不調整、砂底	還元硬質	内面摩耗	
184	399	越前	壺	30J 31J	2 21	—	Ⅳa	182	—	—	—	石英、長石	口縁部ヨコナデ、体部ねじたて、体上部内面指圧痕	酸化硬質		
184	400	越前	甕	31M	8	—	Ⅳ	—	—	520	—	長石、白色粒子	内外面ねじたて、底部外面不調整	酸化硬質		
184	401	越前	甕	32J	—	—	—	—	—	360	—	長石、白色粒子	内外面ねじたて、底部外面不調整	酸化硬質	内面・底部外面摩耗	
188	539	珠洲	すり鉢	30N 31J	4 19	99SD1508	1 Ⅳb	330	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部・体部内外面摩耗	
188	540	珠洲	すり鉢	29N	1	99SD1508	4	264	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位9条	還元硬質	口縁端部・体部外面・体部内面摩耗	
188	541	珠洲	壺T種	29N 30N	1 1	99SD1508	3・6	188	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部・体部内面上部ロクロナデ、体部外面平行叩き、体部内面無文当て具	還元硬質、口縁部・体上部外面降灰	口縁端部内面摩耗・欠け	
188	542	珠洲	甕か壺T種	30N	5	99SD1508	—	—	—	184	—	海針、白色粒子	内面ナデ、体部外面平行タタキ、底部外面砂底	還元硬質	底部外面摩耗	
188	543	珠洲	すり鉢	28O 29O	2 18	— 99SD1880	Ⅳa 1	—	—	144	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目1単位9条以上、底部外面板目痕	還元硬質	内面・底部外面摩耗、体下部外面弱い摩耗	
188	544	珠洲	すり鉢	29O	25	99SD1880	1	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位8条以上	還元硬質、内面降灰、口縁端部外面黒化		
188	545	珠洲	すり鉢	28O	16	99SD1880	1	280	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁端部外面黒化	口縁端部・内面摩耗	
188	546	珠洲	すり鉢	29O	20	99SD1880	1	—	—	136	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目1単位7条以上、底部外面板目痕	還元硬質	内面・底部外面摩耗	
188	547	珠洲	甕	29O	22	99SD1880	1	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行叩き、内面無文当て具	還元硬質、口縁部・体上部外面降灰	口縁部内面・体部内面摩耗	
188	549	珠洲	すり鉢	28O	23	99SD1881	1	206	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁部外面降灰	内面摩耗、口縁端部摩耗・欠け	
188	550	珠洲	すり鉢	28O	21	99SD1881	6	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位9条以上	還元硬質	内面摩耗	
188	551	珠洲	すり鉢	28O 30K	24 2	99SD1881 99SE831	上層	290	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部・内面摩耗	
188	552	珠洲	すり鉢	28O	21	99SD1881	6	—	—	150	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、内面卸目	還元硬質	内面・底部外面摩耗、底部外面炭化物	
188	557	珠洲	すり鉢	28N	12	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位2条以上	還元硬質	口縁端部・内面摩耗	
188	558	珠洲	すり鉢	29N	3	—	—	—	—	118	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面板目圧痕、内面卸目1単位7条以上	還元硬質	内面・体部外面・底部外面摩耗	
188	559	珠洲	甕	27N	17	—	Ⅲ	416	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行叩き後放射状スタンプ、内面無文当て具	還元硬質、口縁部・体上部外面降灰	口縁部内面摩耗	
188	560	珠洲	甕	28O	12	99SD1879	1	—	—	—	—	白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行叩き、内面無文当て具	還元硬質、口縁部・体上部外面降灰		
188	561	珠洲	甕	30Q 31Q	1 5	99SE1905	下層	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行タタキ、体部内面無文当て具	還元硬質、口縁部・体上部外面降灰	口縁部・体部内面炭化物、口縁部内面・体部内面摩耗	
189	584	珠洲	壺R種	28O	11	—	Ⅲ	—	—	—	164	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、外面櫛描き波状文9条3単位	還元硬質	体部内外面摩耗	
189	585	珠洲	すり鉢	30P	25	—	Ⅳa	396	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位10条	還元硬質	体部内外面摩耗、口縁端部摩耗・欠け	
189	586	珠洲	すり鉢	28O	16	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位8条	酸化硬質	内面摩耗	
189	587	珠洲	すり鉢	28L	24	99SK1737	2	284	—	—	—	白色粒子	内外面ロクロナデ	還元硬質、口縁端部外面降灰	口縁端部摩耗	
189	588	越前	すり鉢	30O	—	99SD2127	1	280	—	—	—	長石、白色粒子	内外面ねじたて、内面卸目	酸化硬質、口縁端部外面黒化	体部外面炭化物、体部内面弱い摩耗	
189	589	珠洲	すり鉢	30P	16	—	Ⅲ	—	—	142	—	海針、白色粒子	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面板目圧痕、内面卸目1単位10条	還元硬質	内面・体部外面・底部外面摩耗	
189	590	笹神（瓷器）	甕	32O	13	—	Ⅲ	—	—	—	—	長石、白色粒子	体部ねじたて、格子目文スタンプ	酸化硬質		
189	603	越前	すり鉢	31O	—	99SK1974	1	346	—	—	—	長石、白色粒子	内外面ねじたて、内面卸目1単位10条	酸化硬質	口縁端部摩耗	

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	底径（㎜）	最大径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
189	604	珠洲	甕	31J 32O	12 25	99SD69	Ⅳa	—	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行叩き、内面無文当て具	還元硬質、口縁部内面降灰	口縁部・体部内面摩耗	
189	605	珠洲	すり鉢	32O	25	99SD69	—	—	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位5条以上	還元硬質	口縁端部摩耗	
189	609	珠洲	すり鉢	32O	24	—	Ⅲ	306	—	—	—	海針、白色粒子	内外面ロクロナデ、内面卸目1単位4条以上	還元軟質	口縁端部摩耗・欠け、内面摩耗	
190	610	珠洲	甕	29T	11・12	99SE1493	11	406	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行叩き、内面無文当て具	還元硬質、口縁部・体上部外面降灰		
190	611	珠洲	甕	29T	11・12	99SE1493	11	—	—	160	—	海針、長石、白色粒子	外面平行タタキ、内面無文当て具、底部外面不調整、砂底	還元硬質、内面底部内面中央降灰	底部内面摩耗	
190	619	珠洲	甕	29T 30T	6・11 10・15	99SE1463	1	386	—	—	—	海針、白色粒子	口縁部ロクロナデ、体部外面平行叩き、内面無文当て具	還元硬質	口縁部内面・体部外面摩耗	
190	620	越前	甕	30S	10	—	1	—	—	—	—	白色粒子	体部ねじ立て	酸化硬質		
190	628	越前	甕	30G	—	—	—	360	—	—	—	白色粒子	口縁部ヨコナデ、体部ねじ立て	酸化硬質	口縁端部摩耗・欠け	
190	629	珠洲	すり鉢	28J	22	99SD1280	1	—	—	122	—	海針、白色粒子	内面・体部内面ロクロナデ、底部外面板目圧痕・籾痕	還元硬質、内面降灰	底部外面摩耗	

輸入陶磁器

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	底径（㎜）	文様ほか	釉薬・焼成など	施釉部位など	消費痕跡
173	41	白磁	碗	15L	25	—	Va	—	—	—	内面毛彫りによる文様	透明	内外面施釉	
175	109	白磁	皿	22H	12	—	Ⅲ	90	—	—	無文	白色、貫入、陶器質	体下部外面無釉	
176	136	青磁	碗	28L	16	99ピット2495	1	138	—	—	外面ヘラ描き蓮弁文	淡緑色、貫入	内外面施釉	被熱
176	138	青磁	碗	32J 28L	17 25	99SE1725	Ⅳa 2	—	—	48	無文	淡緑色､貫入､陶器質､見込み重ね焼き痕	見込み・高台畳付・高台内側無釉	見込み摩耗
176	143	白磁	小碗	27L	21	99SE1731	1	70	—	—	無文	白色、貫入	体下部外面無釉	
176	144	青磁	碗	27L	21	99SE1731	1	—	—	52	見込みスタンプ花文	緑色、貫入、陶器質	高台畳付・高台内側無釉	円形に割揃え、底部外面・割れ口炭化物
177	156	白磁	碗	26L	5	99SE2435	1	174	—	—	無文・端反り	透明	内外面施釉	
177	161	青磁	碗	26L	3	99SE2441	3	154	—	—	外面ヘラ描き蓮弁文	淡緑色、貫入	内外面施釉	被熱
177	166	青磁	碗	28M	10	99SE1373	4	—	—	—	外面片切り彫りによる鎬蓮弁文	淡青色、貫入	内外面施釉	被熱
177	175	白磁	皿	27L	25	—	Ⅲ	88	—	—	無文	白色、貫入、陶器質	体下部外面無釉	
177	176	白磁	皿	29K	9・10	99SK2322	1	90	—	—	無文	白色、貫入	内外面施釉	
177	177	青磁	碗	26K	23	—	Ⅳa	130	—	—	外面片切り彫りによる圏線	緑色、貫入	内外面施釉	
177	178	青磁	碗	27K	15	99SK2070	1	150	—	—	外面ヘラ描き蓮弁文	緑色	内外面施釉	
177	179	青磁	碗	28K	3	—	—	160	—	—	無文・端反り	淡青色、貫入	内外面施釉	
177	180	青磁	碗	26K	1	—	Ⅳa	—	—	46	外面片切り彫りによる圏線、見込みスタンプ花文	濃緑色、貫入、陶器質	高台畳付・高台内側無釉	
177	181	青磁	盤	30O	13	—	Ⅰ	—	—	—	内面丸彫りによる蓮弁文	緑色	内外面施釉	
178	216	青花	皿	23J	3	98SD23	—	170	—	—	外面唐草文、内面雷文（呉須染付）	透明	内外面施釉	
179	224	白磁	碗	24I	24	—	—	140	—	—	内面片切り彫りによる劃花文	透明	内外面施釉	口縁端部摩耗
179	225	白磁	皿	24J	21	—	Va	98	—	—	無文	白色、貫入、陶器質	体下部外面無釉	
179	226	青磁	皿	21J	17	—	Ⅲ	118	—	—	無文	緑色、貫入	内外面施釉	被熱
179	227	青磁	碗	25J	7	—	Ⅳa	140	—	—	無文・端反り	淡青色、貫入	内外面施釉	被熱
179	228	青磁	碗	22J	6	—	Ⅲ	140	—	—	無文・端反り	淡青色、貫入	内外面施釉	
179	229	青磁	碗	25J	17	—	Ⅲa	140	—	—	無文	濃緑色	内外面施釉	
179	230	青磁	碗	24J 25J	1 5	—	Ⅲ	—	—	50		緑色	高台内側無釉	被熱、円形に割揃え
179	231	青磁	碗	25J	5	—	Ⅲ	—	—	58	無文	緑色	高台畳付け・高台内側無釉	被熱
179	232	青磁	碗	26J	23	—	Ⅳa	—	—	56	見込み片切り彫りによる圏線	緑色、陶器質、見込み・高台内側目痕	内外面施釉	
179	233	青磁	碗	25J	2・6	—	Ⅳa	—	—	56	無文	緑色、陶器質	見込み・高台内側無釉、見込み重ね焼痕	被熱、見込み摩耗
179	234	青磁	稜花皿	21G 21J	4 15	—	Ⅲ Ⅳa	116	—	—	口縁端部に稜花	不明	内外面施釉	被熱
179	235	青磁	稜花皿	25I	22	—	Ⅳa	120	—	—	口縁端部に稜花、口縁部内面片切彫りによる文様	緑色、貫入	内外面施釉	
179	236	青磁	鉢	22I	21・22	—	Ⅳ	193	—	—	口縁端部に稜花	不明、陶器質	内外面施釉	被熱
179	237	青磁	水注	26I	5	—	Ⅰ	—	—	—	無文	緑色	内外面施釉	
179	243	白磁	皿	25I	21	—	Ⅳa	—	—	28	見込みスタンプ花文	白色、貫入、陶器質	体下部外面・高台無釉	円形に割揃え
180	271	白磁	皿	30J	1・2・6・7	99SE310	—	96	20	48	無文、割高台	白色、貫入	全面施釉	
180	272	青磁	碗	30J	6	99SE310	下層	—	—	52	身込みスタンプ花紋	緑色	見込み・高台内側無釉	見込み摩耗
182	314	青磁	碗	30K	6	99SE831	—	—	—	60	見込み片切り彫りによる圏線	淡青色、貫入	高台・体下部外面無釉	見込み擦痕、高台摩耗・欠け

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	底径（㎜）	文様ほか	釉薬・焼成など	施釉部位など	消費痕跡
183	331	青磁	盤	30I	12	99SD304	1	—	—	—	見込み貼り付けによる魚文	淡緑色	内外面施釉	見込み擦痕
183	334	青磁	盤	31I	4	99SD301	1	—	—	—	無文	淡緑色、貫入	内外面施釉	見込み擦痕
183	342	青磁	碗	31L	12	—	Ⅲ	—	—	—	ヘラ描きによる蓮弁文	緑色、貫入	内外面施釉	
183	343	白磁	皿	31J	14	—	Ⅳb	—	—	38	無文	白色、貫入、陶器質、見込み目痕	体下部外面・高台無釉	高台摩耗
183	344	青花	皿	30K	7	99SE831	上層	—	—	66	外面唐草文、内面圏線・花文（呉須染付）	透明	高台畳付・高台内側無釉	
183	345	青磁	碗	32J	20	—	Ⅳb	130	—	—	無文・端反り	淡緑色	内外面施釉	被熱
183	346	青磁	碗	31I 31K 33M	5 24 1・3	—	Ⅲ Ⅳ Ⅳ	134	—	—	無文・端反り	不明	内外面施釉	被熱
183	347	青磁	碗	31J	12	—	Ⅲ	140	—	—	外面丸彫りによる文様	緑色	内外面施釉	被熱
183	348	青磁	碗	30K	7	—	Ⅲ	140	—	—	無文・端反り	緑色、貫入	内外面施釉	被熱
183	349	青磁	碗	30L	6	—	Ⅳ	130	—	—	無文	淡緑色、貫入	内外面施釉	被熱
183	350	青磁	碗	30K	14	99SD922	—	—	—	50	見込みスタンプ文	淡緑色、貫入	高台畳付・高台内側無釉	円形に割り揃え
183	351	青磁	碗	31M	1	—	Ⅳ	—	—	62	外面片切彫り、内面身込みスタンプ花文	濃緑色、底部外面目痕	底部外面蛇ノ目釉剥ぎ	
183	352	青磁	皿	31J	4・12	—	Ⅲ Ⅳa	122	—	—	無文	緑色、貫入	内外面施釉	被熱
183	353	青磁	皿	31K	4	—	Ⅳb	126	—	—	内面片切彫による草花文	淡緑色	内外面施釉	被熱
183	354	青磁	盤	30J 32J 28L	21 3 21・25	99SE1731	Ⅳb	260	—	—	無文	淡緑色	内外面施釉	被熱、漆継ぎ
188	548	青磁	碗	28O 29O	21 24	99SD1881	3 2	144	81	54	外面片切彫り雷文・草花文、内面片切彫り草花文、見込みスタンプ「福」	緑色、貫入、底部外面目痕	底部外面蛇ノ目釉剥ぎ	
188	553	青磁	碗	29N	3	—	—	—	—	58	無文	淡青色、貫入	高台畳付・高台内側無釉	被熱
189	579	青磁	碗	28O	8	—	Ⅳa	—	—	—	外面片切彫りによる鎬蓮弁文	淡緑色	内外面施釉	被熱
189	580	青磁	碗	29N	1	99SD1936	—	154	—	—	外面片切彫りによる鎬蓮弁文	淡緑色	内外面施釉	口縁端部欠け、被熱
189	581	青磁	碗	29O	25	—	Ⅳa	130	—	—	無文	淡緑色	内外面施釉	
189	582	青磁	碗	30P	25	—	Ⅳa	—	—	50	無文	淡緑色	高台内側無釉	被熱、円形に割揃え
189	601	白磁	角杯	31O	18・23	99SK1974	4	88	42	37	無文	白色、貫入、陶器質	体下部外面・高台無釉	高台摩耗
189	606	青磁	碗	32O	25	99SD69	—	—	—	—	外面丸彫りによる文様、内面片切り彫りによる草花文	淡緑色	内外面施釉	
190	622	青花	碗	6J	21・22	—	Ⅳa	—	—	—	外面唐草文、内面圏線（呉須染付）	透明、貫入		
190	623	青磁	碗	—	—	—	表採	—	—	60	見込み片切彫りによる文様	淡緑色、貫入	高台内側無釉	被熱
190	624	白磁	皿	—	—	—	排土	—	—	43	無文	白色、貫入、陶器質	外面下部・高台無釉	高台摩耗

瀬戸・美濃

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	製作痕跡	釉薬	施釉部位など	消費痕跡
173	40	花瓶	15K	9	—	1	—	—	—	70	内面・脚部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	灰釉	底部内面	
173	46	大平鉢	17HI 18IJ	—	89SD30	—	（186）	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	内外面	
175	78	天目碗	28I	8	99SK1276	床	128	63	—	51	体下部ロクロケズリ、高台ケズリ出し	鉄釉	二度掛け、体下部・底部外面無釉	口縁端部・高台摩耗・欠け
175	108	花瓶	27H 28J	19 18	99SK755 99SK1278	4 3	156	—	—	—	内外面ロクロナデ、口縁部下端糸切り	灰釉	口縁下部内面・体部内面無釉	頸部円形に割り揃え
177	165	天目碗	28M	—	99SE1373	—	—	—	—	33	回転糸切り後高台ケズリ出し	鉄釉	外面無釉	方形に割り揃え
177	182	平碗	22K	17	—	Ⅲ	154	—	—	—	内面・体上部外面ロクロナデ、体下部外面ロクロケズリ	灰釉	体下部外面無釉	被熱
177	183	花瓶	28K	4	99ピット2473	1	—	—	—	69	脚部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	—	脚部外面・底部外面無釉	底部外面摩耗
177	184	花瓶	28K	23	—	Ⅲ	—	—	—	74	内面・脚部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	灰釉	内面・底部外面無釉	底部外面摩耗
177	185	水注	28K	22	—	Ⅳa	—	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	口縁下部内面無釉	
179	238	小皿	24J	22	—	Ⅳa	54	17	—	28	内外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	鉄釉	体下部外面・底部外面無釉	口縁部内面欠け
179	239	平碗	24I	6	—	Ⅳ	154	—	—	—	内面・体上部外面ロクロナデ、体下部外面ロクロケズリ	灰釉	体下部外面無釉	口縁端部摩耗
179	240	香炉	24J	11	—	Ⅳa	90	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	口縁下部内面無釉	
179	241	香炉	26J	1	—	Ⅲa	96	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	口縁下部内面無釉	
179	242	水注（把手）	25J	5	—	Ⅲ	—	—	—	—		灰釉	外面施釉	
180	273	天目碗	30I 31I 30J	1・2 4・22 1	99SE310	Ⅳa Ⅲ Ⅳb 上層	124	65	—	42	内面・体上部ロクロナデ、体下部外面ロクロケズリ、底部外面回転糸切り後高台ケズリ出し	鉄釉	体下部外面・底部外面無釉	口縁端部・高台摩耗、見込み細い擦痕

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	製作痕跡	釉薬	施釉部位など	消費痕跡
180	274	平碗	—	—	99SE310	—	—	—	—	62	内面・体上部外面ロクロナデ、体下部外面ロクロケズリ、底部外面回転糸切り後高台貼り付け	灰釉	体下部外面・高台無釉	高台摩耗
183	332	水注	30J	—	99SD304	1	62	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	内外面施釉	被熱
183	355	小皿	31J	2	99ピット342	—	60	20	—	30	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	鉄釉	体下部外面・底部外面無釉	
183	356	小皿	31J	16	99ピット730	—	90	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	体下部外面無釉	
183	357	小皿	31L 31M	—	99SD96	1	100	—	—	43	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	灰釉	口縁端部施釉	
183	358	小皿	31J	8	—	Ⅳb	—	—	—	56	内面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	灰釉	外面無釉	
183	359	平椀	30J	21	99SE305	1・2	130	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	内外面施釉	
183	360	平碗	32J 31M	4 19	—	Ⅳa	—	—	—	60	内面・体上部外面ロクロナデ、体下部外面ロクロケズリ、高台ケズリ出し	灰釉	体下部外面・高台無釉	漆継ぎ，高台・高台内側摩耗
183	361	天目碗	31I	1	—	Ⅳb	115	—	—	—	内外面ロクロナデ	鉄釉	内外面施釉	口縁端部欠け、被熱
183	362	香炉	32J	16	99SK136	—	120	62	—	82	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り後脚貼り付け	灰釉	内面・底部外面無釉	内面・底部外面炭化物、見込み・脚摩耗
183	363	香炉	31J	7	99ピット344	—	140	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	口縁下部内面無釉	被熱
183	364	香炉	31I	1	—	Ⅳb	132	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	口縁下部内面無釉	被熱
183	365	水注	32J	24	—	Ⅳb	78	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	内外面施釉	被熱
183	366	花瓶	31M	2	—	Ⅲ	—	—	—	—	頸部下端切り取り面あり、内外面ロクロナデ、頸部外面沈線2条	灰釉	内面無釉	
183	367	瓶子	30J	12 22	99SD304	1 Ⅳb	—	—	—	—	内外面ロクロナデ、体部外面ヘラ描き草花文	鉄釉	内面無釉	
183	368	瓶子	31I	4	99SK303	—	—	—	—	—	内外面ロクロナデ	鉄釉	内面無釉	
183	369	花瓶	32J	22	99SK139	—	—	—	110	—	内外面ロクロナデ、体部外面沈線4条	灰釉	内面無釉	
184	370	花瓶	31I	3・4 5	—	Ⅲ Ⅳb	136	—	—	—	内外面ロクロナデ、口縁部下端糸切り	灰釉	口縁下部内面・体部内面無釉	漆継ぎ
184	371	花瓶	30J	5	—	Ⅳb	140	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	内外面施釉	
184	372	花瓶	30O	9	—	Ⅳa	(130)	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	内外面施釉	
184	373	花瓶	31L	19	99ピット467	2	—	—	—	64	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	鉄釉	内面・底部外面無釉	脚部打ち欠き、被熱
184	374	鉢	32J	13・23	99SK139	1	237	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	内外面施釉	
184	375	鉢	31I	3	—	Ⅳ	(250)	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	内外面施釉	
188	554	水注	32N	22	—	Ⅲa	—	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	口縁下部内面無釉	
188	555	平碗	29N	3	—	—	164	—	—	—	内面・体上部外面ロクロナデ、体下部外面ロクロケズリ	灰釉	体下部外面無釉	
188	556	広口壺	30N	1	—	3	—	—	—	98	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	鉄釉	体部外面・底部外面無釉	底部外面摩耗
189	583	水注	29Q	9	99SK1560	3	—	—	—	—	内外面ロクロナデ	灰釉	体部内面無釉	
189	607	平碗	29N 33O	1 15	99SK27	3	169	66	—	50	内面・体上部外面ロクロナデ、体下部外面ロクロケズリ、高台ケズリ出し	灰釉	体下部外面・高台無釉、内面目痕	高台摩耗、口縁端部・内面釉剥落
189	608	おろし皿	25K	17	—	Ⅳa	—	—	—	—	内面ロクロナデ後ヘラ描きによる格子の卸目	—	内外面無釉	
190	625	平鉢	—	—	—	—	—	—	—	50	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り後脚張り付け	—	内外面無釉	見込み摩耗
190	626	平碗	—	—	—	—	—	—	—	66	内面ロクロナデ、体下部外面ロクロケズリ、底部外面高台貼り付け	灰釉	体下部外面・高台無釉	体下部外面・高台摩耗
190	627	花瓶	—	—	—	排土	—	—	—	70	内面・脚部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	灰釉	内面・底部外面無釉	
191	640	碗	27G	15	—	Ⅲ	—	—	—	50	内外面ロクロナデ	灰釉	高台畳付無釉、その他施釉	高台摩耗・欠け

中・近世土師器

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡
173	42	皿	16L	18	—	Ⅲ	129	28	—	90	雲母	見込みハケメ後ヨコナデ、口縁部ヨコナデ、底部外面不調整	内面・底部内面黒化	内面炭化物
177	174	小皿	28L	8・9 13・14	99SE2393	上層	68	20	—	50	雲母	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り	底部内面黒化	口縁端部・底部外面炭化物
183	337	皿	30J	16	—	Ⅳb	—	—	—	—	白色粒子	内面ヨコナデ、底部外面不調整		内外面炭化物
183	338	小皿	31J	23	—	Ⅳ	80	14	—	66	長石、チャ、雲母	内面・口縁部外面ヨコナデ、底部外面不調整		口縁端部炭化物
183	339	小皿	30J	16	—	Ⅳb	—	—	—	63	長石、チャ、雲母	内面・体部外面ヨコナデ、底部外面不調整	底部外面黒斑	
183	340	皿	28N	17・18 22・23	99SE1388	下層	—	—	—	80	長石、雲母	内面ハケメ後ヨコナデ、体部外面ヨコナデ、底部外面不調整		内面・底部外面炭化物
183	341	皿	30J	13	—	Ⅳa	—	—	—	58	長石、雲母	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転糸切り		内外面炭化物
188	538	皿	30N	8	99SD1508	1	—	—	—	—	雲母、白色粒子	内面ヨコナデ、底部外面不調整	底部内面黒化	

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡
189	578	皿	30Q	18	—	Ⅲ	100	—	—	—	雲母、白色粒子	内外面ヨコナデ		口縁部内面炭化物
190	612	皿	29T	11・12	99SE1493	8	122	34	—	87	海針、白色粒子	内面・口縁部ヨコナデ、底部外面不調整		見込み摩耗
190	618	皿	29T 30T	6・11 10・15	99SE1463	1	—	—	—	—	海針、雲母	内面ヨコナデ、底部外面不調整	底部内面黒化	
191	631	焙烙	31M	3	—	Ⅲa	372	—	—	—	長石、チャ、雲母	口縁部外面・内面ヨコナデ、底部外面不調整		口縁部外面煤
191	632	焙烙	22J	6	—	Ⅰ～Ⅲ	293	—	—	—	長石、チャ、雲母	内面・口縁部外面ヨコナデ、底部外面不調整		口縁部外面煤

近世陶磁器

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土産地	製作痕跡	文様	釉薬	焼成痕跡 施釉部位	消費痕跡	備考
191	633	陶器	皿	19L	15	—	Ⅰ	—	—	—	55	肥前系	内面ロクロナデ、体下部外面ロクロケズリ、高台ケズリ出し	無文	灰釉	見込み砂目、内面灰釉、外面無釉	高台打ち欠き	
191	634	陶器	皿	30L	23	—	Ⅲ	—	—	—	48	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	灰釉	見込み・高台畳付砂目、内外面施釉	円形に割り揃え	
191	635	陶器	皿	11L	13	—	Ⅱ	—	—	—	—	肥前系	内面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	灰釉	見込み砂目、内面灰釉、外面無釉	高台打ち欠き	
191	636	陶器	皿	29M	16	—	Ⅳb	132	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	見込み文様（鉄絵）	灰釉	体下部外面無釉		
191	637	陶器	小皿	31J	16	—	Ⅰ・Ⅱ	76	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	無文	灰釉	体下部外面無釉		
191	638	陶器	碗	24I	14	—	Ⅳ	110	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	無文	透明釉貫入	内外面施釉		京焼風
191	639	陶器	碗	23H	17	—	Ⅲ	110	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	口縁部外面文様（呉須）	白色貫入	体下部外面無釉		
191	641	陶器	碗	23H	—	—	—	—	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	無文	透明釉貫入	内外面施釉		京焼風
191	642	陶器	碗	30K	20	—	Ⅳa	—	—	—	48	肥前系	内外面ロクロナデ	外面波状文（白泥）	透明釉貫入	内外面施釉	高台摩耗・欠け	
191	643	陶器	皿	23J	23	89SD18	—	—	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	見込み鉄絵	透明釉貫入	内外面施釉	高台打ち欠き	京焼風
191	644	陶器	碗	24K	24・25	99SD1675	Ⅱ	—	—	—	72	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	透明釉貫入	見込み目痕、高台無釉	高台摩耗	京焼風
191	645	陶器	小碗	21J	3	—	Ⅲ	—	—	—	26	相馬系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	見込馬（鉄絵）	灰釉	高台無釉	高台摩耗	
191	646	陶器	皿	21J	21	—	Ⅲ	104	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	無文	内灰釉外透明釉、貫入	体下部外面無釉		
191	647	陶器	皿	23J	2	—	Ⅲ	123	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	無文	内銅緑釉、外透明釉	見込み蛇ノ目釉剥ぎ、体下部外面無釉		内野山
191	648	陶器	皿	23I	16	—	Ⅲ	—	—	—	64	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	内銅緑釉、外透明釉	見込み蛇ノ目釉剥ぎ、高台無釉	見込み・高台摩耗	内野山
191	649	陶器	皿	—	—	—	—	—	—	—	46	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	内灰釉、外透明釉	見込み蛇ノ目釉剥ぎ、高台無釉	見込み・高台摩耗	内野山
191	650	陶器	皿	19J	15	—	Ⅰ～Ⅲ	—	—	—	38	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	内銅緑釉、外灰釉	見込み蛇ノ目釉剥ぎ、高台無釉	見込み摩耗、高台摩耗・欠け	内野山
191	651	陶器	皿	8J 9IJ	—	92SD75	—	—	—	—	44	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	灰釉、貫入	見込み蛇ノ目釉剥ぎ、高台無釉	見込み・高台摩耗	内野山
191	652	陶器	皿	33N	5	—	Ⅲ	—	—	—	44	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	透明釉	見込み蛇ノ目釉剥ぎ、高台無釉	見込み摩耗、高台摩耗・欠け	京焼風 内野山
191	653	陶器	香炉	29K	16	—	Ⅳa	—	—	—	60	肥前系	内面ロクロナデ、外面ロクロケズリ後脚貼り付け	無文	灰釉貫入	外面無釉	被熱	
191	654	陶器	鉢	20K	3	—	Ⅲ	—	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	内面波状文（白泥）	透明釉	内外面施釉		
191	655	陶器	徳利	23H	16	—	Ⅲ	—	—	89	—	肥前系	内外面ロクロナデ	無文	鉄釉	内面無釉		
191	656	陶器	壺	15K 18K	10 1	—	Ⅲ	101	—	—	—	越中瀬戸？	内外面ロクロナデ	無文	鉄釉	内外面施釉	内面炭化物、口縁端部摩耗・欠け	

図版番号	報告番号	種類	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土産地	製作痕跡	文様	釉薬	焼成痕跡施釉部位	消費痕跡	備考
191	657	陶器	すり鉢	22J	9	—	Ⅳ	—	—	—	184	肥前系	内面ロクロナデ、内面おろし目	無文		内外面無釉	内面・底部外面摩耗	
191	658	陶器	すり鉢	21I	23	—	Ⅲ	—	—	—	—	越中瀬戸	内外面ロクロナデ、内面おろし目	無文	鉄釉	内外面施釉	内面摩耗	
191	659	陶器	壺	11M	23	—	Ⅲ	—	—	—	—	肥前系	体部内外面ロクロナデ、把手手づくね後ハケ目	無文	灰釉	内面無釉	被熱	
191	660	磁器	碗	9I	—	—	—	96	63	—	38	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	外面草・梅・圏線（呉須）	透明釉貫入	高台畳付無釉・砂、陶器質		
191	661	磁器	碗	14L	21	—	Ⅲ	100	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	外面草花・岩・雲（呉須）	透明釉	内外面施釉		
191	662	磁器	小皿	15L	16	—	—	56	17	—	30	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	透明釉	高台畳付無釉、高台内側砂		
191	663	磁器	皿	19K	—	98SD39	1	94	20	—	47	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	見込み草花（呉須）	透明釉	高台畳付無釉	高台摩耗	
191	664	磁器	皿	23J	24	—	Ⅲ	—	—	—	40	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	透明釉	見込み蛇ノ目釉剥ぎ、高台無釉	見込み・高台摩耗、円形に割り揃え	内野山
191	665	白磁	皿	26I	9	—	Ⅳa	—	—	—	45	肥前系	内外面ロクロナデ	無文	透明釉	見込み蛇ノ目釉剥ぎ･砂目、高台畳付に砂	見込み・高台摩耗	内野山
191	666	青磁	皿	30N	2	—	Ⅲ	—	—	—	46	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	無文	淡青色	見込み蛇ノ目釉剥ぎ、高台無釉	見込み・高台摩耗	内野山
191	667	磁器	皿	—	—	—	—	—	—	—	72	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	内外面圏線（呉須）	透明釉	高台畳付無釉	円形に割り揃え、高台打ち欠き	表採
191	668	磁器	盤	9L	16	—	Ⅲ	—	—	—	122	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	外面草花、内面草花・木・鳥（呉須）	透明釉	高台畳付無釉	高台摩耗	
191	669	磁器	皿	30K	12	—	Ⅲ	127	40	—	70	肥前系	内外面ロクロナデ	口縁部外面唐草文、底部外面圏線・渦福、口縁部内面雲・草・笹・岩、見込み圏線・コンニャク印判五弁花（呉須）	透明釉	高台畳付・高台内側砂	高台摩耗	
191	670	磁器	広東碗蓋	29S	2	—	Ⅲa	95	30	—	42	肥前系	内外面ロクロナデ	頂部「吉」・圏線、体部外面網目、内面頂部七宝（コバルト）	透明釉	つまみ先端部無釉		
191	671	磁器	皿	31Q	5	—	Ⅰ	—	—	—	56	肥前系	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	見込み草花、内面圏線（コバルト）	透明釉	見込み蛇ノ目釉剥ぎ、高台畳付砂		蛇ノ目凹高台
191	672	磁器	皿	32O	1	—	Ⅱ	158	41	—	84	不明	内外面ロクロナデ、高台ケズリ出し	内面風車・雲・草・船・木、底部外面「MADE IN JAPAN」（コバルト）	透明釉貫入	高台畳付無釉	高台摩耗	
191	673	磁器	徳利	6K	—	98SD136	—	—	—	—	—	肥前系	内外面ロクロナデ	無文	透明釉	内面無釉		

須恵器

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土分類	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備　考
192	675	有台杯	19I	—	92SI121	—	140	—	—	—	A2	内外面ロクロナデ	外面降灰、内面降灰・黒化無し、還元硬質		胎土分析 奈良崎-1
192	676	無台杯	19I	—	92SI121	—	—	—	—	78	A2	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ	残存部には降灰無し還元硬質	見込み・底部外面摩耗	ロクロ回転方向右、胎土分析　奈良崎-2
192	679	杯蓋	22I	25	—	Ⅲ	—	—	—	29	A2	頂部ロクロケズリ後摘み貼り付け、内面ロクロナデ	外面降灰、内面降灰・黒化無し	内面摩耗	
192	680	杯蓋	20G	16	—	—	156	—	—	—	A4 海針	頂部ロクロケズリ、内面・口縁部ロクロナデ	口縁端部外面降灰、内面降灰・黒化無し、還元硬質	内面摩耗	ロクロ回転方向左、胎土分析　奈良崎-3
192	681	杯蓋	22H	6	—	Ⅲ	—	—	—	—	A4	頂部ロクロケズリ、内面・口縁部ロクロナデ	内面降灰無し、還元硬質	内面摩耗	ロクロ回転方向右、胎土分析　奈良崎-4
192	682	杯蓋	28K	13	99SK1719	Ⅰ	110	—	—	—	C2	頂部ロクロケズリ、内面・口縁部ロクロナデ	口縁端部外面降灰、内面降灰・黒化無し、還元硬質	内面摩耗	ロクロ回転方向左、胎土分析　奈良崎-5
192	683	有台杯	30N	7	—	Ⅲ	—	—	—	106	A2	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ、高台貼り付け後ロクロナデ	体部外面降灰、内面・底部外面降灰・黒化無し、還元硬質	高台端部摩耗	胎土分析 奈良崎-6

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土分類	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備　考
192	684	有台杯	29N	1	—	Ⅲ	—	—	—	106	A2	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ、高台貼り付け後ロクロナデ	体部内面降灰、還元硬質	高台摩耗	胎土分析 奈良崎-7
192	685	有台杯	31P	25	—	Ⅳa	—	—	—	90	B1	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ後高台貼り付け	体部外面降灰、内面・底部外面降灰無し、還元硬質	見込み・高台摩耗	
192	686	有台杯	20J	20	—	Ⅲ	—	—	—	86	C2	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ後高台貼り付け	体部・底部外面降灰、内面降灰・黒化無し、還元硬質	見込み・高台摩耗	胎土分析 奈良崎-8
192	687	有台杯	31M	21	—	Ⅴ	144	69	—	88	C2	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ後高台貼り付け	体部・底部外面降灰、内面降灰・黒化無し、還元硬質	見込み・高台摩耗、口縁端部摩耗・欠け	胎土分析 奈良崎-9
192	688	有台杯	19J	14	—	Ⅲ	152	—	—		A2	内外面ロクロナデ	外面降灰、内面降灰・黒化無し、還元硬質	口縁端部摩耗	胎土分析 奈良崎-10
192	689	有台杯	28N	23	99SE1388	15	—	—	—	81	A2 海針	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ後高台貼り付け	内面ヒダスキ、還元硬質	高台摩耗	胎土分析 奈良崎-12
192	690	有台杯	22H	6	—	Ⅲ	—	—	—	92	C2	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ後高台貼り付け	体部外面黒化、内面・底部外面降灰・黒化無し、還元硬質	高台摩耗・欠け、見込み摩耗	胎土分析 奈良崎-13
192	691	無台杯	20G	16	—	—	110	—	—	—	A2	内外面ロクロナデ	口縁端部黒化、還元硬質	外面摩耗	胎土分析 奈良崎-11
192	692	無台杯	22K	3	98SK20	—	116	—	—	—	C1	内外面ロクロナデ	口縁端部黒化、還元硬質	内面摩耗	胎土分析 奈良崎-14
192	693	無台杯	31M	21	—	Ⅳ	114	23	—	68	A3 海針	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ	還元軟質	見込み・底部外面摩耗	ロクロ回転方向右、胎土分析 奈良崎-15
192	694	無台杯	22J	21	—	Ⅳ	130	34	—	86	C1	内面・口縁部・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ	口縁端部黒化、還元硬質	見込み摩耗	胎土分析 奈良崎-16
192	695	無台杯	20I	—	—	—	—	—	—	68	C1	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ	残存部には降灰無し、還元硬質	見込み・底部外面・体下部外面摩耗	ロクロ回転方向左、胎土分析 奈良崎-17
192	696	無台杯	20H	23	—	—	—	—	—	84	C1	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ	残存部には降灰無し、還元硬質	口縁部割り揃え、見込み・底部外面・体下部外面摩耗	胎土分析 奈良崎-18
192	697	無台杯	22J	22	—	Ⅳ	—	—	—	74	C1	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ	残存部には降灰無し、還元硬質	見込み・底部外面摩耗	ロクロ回転方向左、胎土分析 奈良崎-19
192	698	短頸壺？	28O	13	—	Ⅳa	—	—	—	147	A2	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ後高台貼付け	底部内外面・体部外面降灰、還元硬質	高台摩耗・欠け	胎土分析 奈良崎-20
192	699	長頸瓶	30J	8	99SE811	下層	—	—	—	92	B1	内面・体部外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ後高台貼付け	外面降灰、内面降灰・黒化無し、還元硬質	高台打ち欠き	胎土分析 奈良崎-21
192	700	長頸瓶	29N	14	—	Ⅴ	—	—	116	72	C2	口縁部外面ロクロナデ後カキメ、口縁部内面・体部ロクロナデ、底部外面回転ヘラキリ後高台貼り付け	口縁部・体部上半降灰、還元硬質	高台摩耗	ロクロ回転方向左、胎土分析 奈良崎-22
192	701	甕	30N 31N	—	99SD1971	1	(278)	—	—	—	C2	内外面ロクロナデ	還元硬質	口縁端部摩耗・欠け、口縁部内面摩耗	胎土分析 奈良崎-23
192	702	甕	22J	22	—	Ⅳ	—	—	—	—	A2	外面擬格子タタキ、内面同心円当て具（Db類）	還元硬質		胎土分析 奈良崎-24
192	703	甕	29O	18	—	Va	—	—	—	—	A4	外面平行タタキ後カキメ、内面同心円当て具（Db類）	還元硬質		704と同一個体か
192	704	甕	29M	10	—	Ⅲ	—	—	—	—	A4	外面平行タタキ後カキメ、内面同心円当て具（Db類）	還元硬質		703と同一個体か、胎土分析 奈良崎-25
192	705	横瓶	22G	3	—	Ⅳ	—	—	—	—	A2	外面平行タタキ、内面同心当て具（Db類）	還元硬質		胎土分析 奈良崎-26
193	719	甑	20K	19	20Kピット2	6	108	103	102	丸底	陶邑	底部外面平行タタキ後ロクロナデ、内面・口縁部・体部外面ロクロナデ、口縁部・体部中位付近櫛描き波状文	内面・口縁部上半外面・体上半部外面降灰、還元硬質	口縁端部欠け、底部外面摩耗	胎土分析 奈良崎-27
193	742	杯身	29O	17	—	Ⅳa	—	—	—	—	陶邑	底部外面ロクロケズリ、内面・体部外面ロクロナデ	還元硬質	口縁部割り揃え	胎土分析 奈良崎-28

土師器・弥生土器

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
192	677	長釜	19I	—	92SI102B	—	140	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部外面ヨコナデ、体部外面・内面ハケメ	内面・口縁端部外面に黒斑		678の口縁部
192	678	長釜	19I	—	92SI102B	—	—	—	—	66	海針、石英、長石、チャ	内面ハケメ、底部外面板目圧痕	内面に黒斑		677の底部
192	706	長釜	17L	11・16	98SK62	1	250	—	—	—	石英、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部内外面ナデ			
192	707	長釜	17L	11・16	98SK62	1	240	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ハケメ後ヨコナデ		外面煤	
192	708	長釜	17L	12	98SK62	1	200	—	—	—	長石、チャ	口縁部ヨコナデ			
192	709	長釜	17L	11・16	98SK62	1	170	—	163	—	海針、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ		外面煤、内面薄い炭化物	
192	710	長釜	17L	11・16	98SK62	1	160	—	171	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部内面ナデ			体部外面摩滅顕著
192	711	壺	17L	11・16	98SK62	1	130	—	—	—	海針、チャ、雲母	内外面ハケメ後ヨコナデ	口縁内面に黒斑		
192	712	底部（釜）	17L	11・16	98SK62	1	—	—	—	54	海針、石英、長石、チャ、雲母	底部充填、内面ハケメ、体部外面ナデ	底部外面に棒状黒斑		
192	713	底部（釜）	16L	19	98SK62	1	—	—	—	48	石英、長石、チャ、雲母	内面ナデ	体下部外面に黒斑	底部付近に湯沸し線	外面摩滅顕著
192	714	底部（釜）	17L	11・16	98SK62	1	—	—	—	56	海針、長石、チャ	底部外面ヘラケズリ、内面・体部外面ナデ	体下部外面に黒斑		
192	715	底部（釜）	17L	11・16	98SK62	1	—	—	—	60	海針、長石、チャ、雲母	内面ナデ		底部内面に薄い炭化物	外面摩滅顕著
192	716	底部（釜）	16L	18	98SK62	3	—	—	—	50	海針、長石、チャ、雲母	内面ナデ		底部外面赤化、体部外面煤	
192	717	底部（釜）	17L	11・16	98SK62	1	—	—	—	57	海針、長石、チャ	底部充填		底部外面赤化、体部外面煤	内外面摩滅顕著
192	718	底部（釜）	17L	11・16	98SK62	1	—	—	—	69	長石、チャ、雲母	底部充填	底部外面に棒状黒斑		内外面摩滅顕著
193	720	底部（釜）	20K	15	20Kピット2	—	—	—	—	48	石英、長石、チャ	内面ナデ		体下部内面薄い炭化物、底部外面赤化、体部外面煤	
193	721	底部（釜）	20K	15	20Kピット2	—	—	—	—	60	海針、長石、チャ、雲母	底部充填、内面ハケメ、体部外面ナデ	内面黒化、底部外面に弱い黒斑		
193	722	長釜	20K	15	20Kピット2	—	—	—	180	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	体部ハケメ	内面黒化、体中位外面に黒斑		
193	723	杯	20K	19	—	V	140	—	—	—	海針、チャ、白色粒子	内外面ヘラミガキ	内面・口縁部外面黒色処理		
193	724	杯	20K	18	—	V	140	—	—	—	海針、チャ、雲母、白色粒子	内外面ヘラミガキ	内面・口縁部外面黒色処理		
193	725	杯	20K	14・15	—	V	150	63	—	丸底	石英、長石、チャ、雲母	内外面ヘラミガキ、底部外面ヘラ記号			
193	726	杯	20K	18	—	V	160	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部外面ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ	口縁部に黒斑		
193	727	杯	20K	15	—	V	—	—	—	丸底	石英、長石、チャ	内外面ヘラミガキ	底部外面に黒斑		
193	728	長釜	20K	19	—	V	—	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	口縁部外面ハケ	体部内面に黒斑		内外面摩滅顕著
193	729	底部（釜）	20K	20	—	V	—	—	—	56	海針、石英、長石、チャ、雲母	体部外面ナデ	底部外面に黒斑		内面摩滅顕著
193	730	底部（釜）	20K	14	—	V	—	—	—	66	海針、石英、長石、チャ		内面黒化		内外面摩滅顕著
193	731	杯	21K	12	98SX1	—	162	—	—	—	長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ後ヘラケズリ、体部内面ヘラミガキ			
193	732	杯	21K	19	98SX1	—	—	—	—	丸底	海針、石英、長石、チャ	内外面ヘラミガキ	底部中央に黒斑		
193	733	杯	21K	12	98SX1	—	—	—	—	丸底	石英、長石、チャ	内外面ヘラミガキ	底部外面に黒斑		
193	734	杯	21K	12	98SX1	—	—	—	—	48	海針、石英、チャ、雲母	内外面ヘラミガキ	内面黒化、体下部外面に黒斑		
193	735	小型壺	21K	18	98SX1	—	—	—	132	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	外面ハケメ後赤彩・ヘラミガキ、内面ナデ	体中位外面に黒斑	体下部外面に煤	
193	736	長釜	21K	18	98SX1	—	—	—	—	—	海針、長石、チャ	外面ハケメ後ヘラケズリ、内面ナデ		外面煤	
193	737	壺？	21K	18	98SX1	—	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	体上部外面に黒斑		
193	738	長釜	21K	20	98SX1	—	130	—	162	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部ナデ		外面煤	
193	739	底部（釜）	21K	20	98SX1	—	—	—	—	72	海針、石英、長石、チャ	内面ナデ、体部外面ハケメ			
193	740	壺	21K	20	98SX1	—	—	—	233	56	海針、石英、長石、雲母	体部外面ハケメ後ナデ、体上部内面ヘラナデ、体下部内面ナデ、底部充填		外面煤	
193	741	底部（釜）	21K	20	98SX1	—	—	—	—	66	海針、石英、長石、チャ、雲母	内面ナデ、体部外面指頭圧痕、底部外面木葉痕			
193	743	高杯	29O	16	—	V	—	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	外面ハケメ後ヘラミガキ			

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
193	744	釜	29O	16	—	Ⅳa	166	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ後ハケメ、体部外面ハケメ、体部内面ナデ		外面煤	
193	745	釜	29O	16	—	Ⅳa	168	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ナデ			
193	746	釜	29O	16	—	Ⅳa	190	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ヨコナデ	口縁部内面に棒状黒斑		
193	747	釜	29O	16	—	Ⅴ	180	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ヨコナデ	口縁部外面黒斑		
193	748	底部（釜）	29O	16	—	Ⅴ	—	—	—	82	海針、石英、チャ、雲母	内面・体部外面ハケメ	内面黒化		
193	749	甑	29O	16	—	Ⅳa	—	—	—	110	海針、長石、雲母	外面ナデ、内面ヘラミガキ			
193	750	杯	28N	18	—	Ⅲ	100	57	112	46	長石、チャ、雲母	内面・口縁部外面ヘラミガキ、体部外面ハケメ後ナデ	内面・口縁部外面黒色処理		
193	751	高杯	28N	17	—	Ⅲ	40	—	—	—	海針、長石、チャ	内面ハケメ			外面磨滅顕著
194	752	杯	14L	18	—	Ⅲ	140	144	—	—	海針、石英、長石、雲母	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	口縁部外面に黒斑		
194	753	杯	15K	15	—	Ⅲ	126	—	—	—	海針、チャ、雲母	内面・体部外面ヘラミガキ、口縁部外面ヨコナデ	内面黒色処理		
194	754	杯	14L	18	—	Ⅲ	160	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	内外面ナデ	内面黒色処理、口縁端部一部酸化		
194	755	長釜	—	—	—	—	160	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ナデ	体部外面に黒斑		
194	756	長釜	9I	—	—	—	180	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	内外面ヨコナデ			
194	757	長釜	28J	7	—	Ⅴa	151	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ヘラナデ	体部内面に黒斑		
194	758	底部（釜）	14L	22	—	Ⅲ	—	—	—	72	海針、石英、長石、チャ、雲母	内面・体部外面ナデ	内面黒化		
194	759	底部（釜）	30N	5	—	Ⅴa	—	—	—	64	石英、長石、チャ、雲母	内面ナデ、体部・底部外面ヘラケズリ	底部外面・体下部外面に黒斑、内面に弱い黒斑		
194	760	底部（釜）	31Q	4	—	Ⅰ	—	—	—	70	海針、長石、雲母	内面・体部外面ハケメ、底部外面ヘラケズリ	底部外面・体下部外面に黒斑		
194	761	底部（釜）	30M	25	—	Ⅴa	—	—	—	92	海針、石英、長石、チャ、雲母	内面･体部外面ナデ、底部外面板目圧痕	底部外面に黒斑		
194	763	壺	29Q	9	99SK 1560	1	—	—	—		海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ			
194	764	底部（壺）	29Q	8	99SK 1560	1	—	—	—	52	石英、長石、チャ	内面･体部外面ナデ、底部充填		底部外面摩耗	
194	765	壺	29R	2	99SI 1581	1	—	—	—	—	石英、長石、チャ	外面ヨコナデ、内面ハケメ後ヨコナデ			
194	766	壺	30O	5	99SD 1850	—	220	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母				内外面摩滅顕著、767･770の口縁部
194	767	壺	30O	5	99SD 1850	—	—	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母				内外面摩滅顕著、766･770の体部
194	768	小型器台	30O	5	99SD 1850	—	—	—	—	—	海針、チャ、雲母	脚部に円形の透かし3ヶ所、外面赤彩・ヘラミガキ、内面赤彩・ナデ			
194	769	小型器台	29O	8	99SD 1850	—	—	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	脚部に円形の透かし4ヶ所、外面ヘラミガキ、内面ナデ			
194	770	壺	29O	16	99SD 1850	—	—	—	—	70	海針、石英、長石、チャ	内面・体部外面ナデ	内面に黒斑	底部外面摩耗	766・767の底部
194	771	釜	29O	16	99SD 1850	—	180	—	—	—	海針、石英、長石、雲母	外面ヨコナデ、内面ハケメ後ヨコナデ		口縁部外面煤	
194	772	小型器台	29O	16	99SD 1850	—	—	—	—	130	海針、長石、雲母	外面ハケメ後ヘラミガキ、内面ハケメ			
194	773	壺	30O	5	99SD 1850	—	96	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部内外面ヨコナデ、体部内面指頭圧痕		口縁部外面煤	
194	774	小型壺	14I	—	89SD 19	—	116	—	124	—	海針、チャ、白色粒子	口縁部内外面ヘラミガキ、体部外面ヘラミガキ、内面ナデ	体部内面に黒斑		
194	775	小型器台	14I	—	89SD 19	—	90	87	—	124	海針、チャ、白色粒子	外面・受部内面赤彩・ヘラミガキ、脚部内面ナデ			
194	776	小型器台	13L	13	98SI92	1	—	—	—	—	長石、チャ、雲母	脚部に円形の透かし4ヶ所、外面ヘラミガキ			内面摩滅顕著
194	777	鉢	13L	15	98SI91	1	134	—	122	—	長石、チャ	外面・口縁部内面ヘラミガキ、体部内面ナデ		外面煤、口縁部内面炭化物	
194	778	底部（釜）	13L	15	98SI92	1	—	—	—	32	海針、長石、チャ、雲母	体部外面ナデ、内面ハケメ	底部内面に黒斑		

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
194	779	釜	14L	22	—	—	—	—	—	30	海針、石英、チャ、雲母	体部外面ハケメ、内面ナデ		体部外面煤、体下部内面に薄い炭化物	
194	780	有孔鉢	14L	17	—	—	—	—	—	57	長石、チャ、雲母	内面ナデ、体部外面ハケメ	体下部外面に黒斑		
194	781	器台	9L	18	2号周溝墓	—	—	—	—	—	海針、長石、チャ	外面ヘラミガキ、内面ハケメ後ナデ			784と同一個体
194	782	釜	9L	18	2号周溝墓	—	—	—	—	32	長石、チャ	体部内面ナデ、底部内面・体部外面ハケメ	体下部外面に黒斑		
194	783	底部（釜）	9L	18	2号周溝墓	—	—	—	—	28	チャ	体部外面ナデ、内面ハケメ	底部外面・体下部外面に黒斑		
194	784	器台	9L	18	2号周溝墓	—	—	—	—	146	石英、チャ	内外面ヨコナデ	脚部内面に黒斑		781と同一個体
194	785	高杯	29LM 30LM	—	99SI1432	2	—	—	—	—	長石、チャ、雲母	杯部内外面・脚部外面ヘラミガキ、脚部内面ナデ			
194	786	釜	29LM 30LM	—	99SI1432	2	112	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部外面ハケメ	体部内面に黒斑		
194	787	釜	29L	1	—	Va	166	—	—	—	海針、石英、チャ、雲母	内面ヨコナデ			内外面摩滅顕著
194	788	釜	29L	1	—	Va	140	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、口縁部外面擬凹線		口縁部外面煤	
194	789	釜	29L	1	—	Va	—	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、口縁部外面擬凹線		口縁部外面煤	
194	790	釜	29LM 30LM	—	99SI1432	2	160	—	—	—	海針、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ナデ		外面煤	
194	791	有孔鉢	29LM 30LM	—	99SI1432	2	148	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ナデ	外面に黒斑		
195	792	釜	31K	16	—	V	146	—	—	—	海針、チャ、白色粒子	体上部外面棒状工具による連続刺突、体部内面ナデ		口縁端部・体部外面煤	外面摩滅顕著
195	793	釜	32J	6	—	Ⅳa	150	—	—	—	石英、長石、雲母	口縁部ヨコナデ		口縁部外面煤	
195	794	釜	32K	24	—	Va	140	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、白色粒子	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ			
195	795	釜	32K	15	—	Ⅳa	204	—	—	—	石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部内面ハケメ			
195	796	釜	32K	25	—	Va	180	—	—	—	長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ		口縁端部外面煤	
195	797	釜	32K	25	—	Va	181	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ		口縁部外面煤	
195	798	釜	32K	20	—	Ⅳa	160	—	—	—	海針、石英、チャ、雲母	口縁部外面ヨコナデ、口縁部内面ハケメ後ヨコナデ		口縁部外面煤	
195	799	釜	32K	24	—	V	180	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母		口縁部・体上部外面に黒斑		内外面摩滅顕著
195	800	高杯	32K 32J	20 3	—	Va Ⅳa	—	—	—	—	石英、長石、チャ	脚部外面ヘラミガキ、脚部内面ハケメ後ナデ			
195	801	高杯	32J	2	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	脚部に円形の透かし3ヶ所、脚部外面ヘラミガキ、脚部内面ナデ			
195	802	高杯か蓋	32J	1	—	V	—	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母		脚部外面に黒斑		内外面摩滅顕著
195	803	小型壺	32K	24	—	V	—	—	—	—	長石、チャ、雲母	外面赤彩・ヘラミガキ後擬凹線、内面ナデ	口縁部内面に黒斑		804の口縁部
195	804	小型壺	32K	24	—	Va	—	—	—	—	長石、チャ	内面ナデ、外面赤彩・ヘラミガキ後擬凹線	内面に黒斑		803の体部
195	805	小型壺	32K	24	—	Va	100	—	—	—	海針、石英、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ			
195	806	底部（壺）	32K	20	—	Va	—	—	—	60	海針、雲母		内面に黒斑		内外面摩滅顕著
195	807	底部（釜）	32K	25	—	Va	—	—	—	24	石英、長石、チャ	内面ナデ、体部外面ハケメ			
195	808	底部（釜）	32K	20	—	Ⅳa	—	—	—	66	海針、石英、長石、チャ、雲母	底部充填、体部外面ハケメ後ナデ、底部外面ヘラケズリ	底部・体下部外面・内面に黒斑		内外面摩滅顕著
195	809	底部（釜）	32J	2	—	Ⅳa	—	—	—	54	長石、チャ、雲母	内面ヘラナデ、体部外面ナデ	内面に黒斑		
195	810	底部（釜）	32K	24	—	V	—	—	—	32	長石、チャ、雲母	内面ハケメ			外面摩滅顕著
195	811	底部（釜）	32K	25	—	—	—	—	—	50	海針、石英、長石、チャ	内面ナデ、体部外面ハケメ	内面に黒斑		
195	812	底部（釜）	32K	25	—	Va	—	—	—	—	海針、石英、チャ、雲母	内面ハケメ、体部外面ナデ	体下部外面に黒斑		
195	813	底部（釜）	32K	15	—	Ⅳa	—	—	—	80	海針、石英、チャ、雲母	底部外面木葉痕？	内面に黒斑		内外面摩滅顕著
195	816	高杯	18I	—	92SI102A	—	188	—	—	—	海針、長石、チャ				内外面摩滅顕著

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
195	817	高杯	18I	—	92SI102A	—	—	—	—	—	精良				内外面摩滅顕著
195	818	釜	18I	—	92SI102A	—	190	—	—	—	海針、長石、雲母	口縁部ハケメ後ヨコナデ			
195	819	釜	23K	10・15	98SI12	—	184	—	—	—	石英、長石、チャ	口縁部外面ハケメ後ヨコナデ		口縁部外面煤	内面摩滅顕著 822の口縁部
195	820	高杯	23K	13	—	—	202	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	外面ヘラミガキ、内面赤採・ヘラミガキ			
195	821	高杯	23K	10	98SI12	—	—	—	—	200	海針、石英、チャ				内外面摩滅顕著
195	822	底部（釜）	23K	11	98SI12	—	—	—	—	42	石英、チャ	外面ハケメ、内面ナデ	内面黒化	底部外面外縁赤化	819の底部
195	823	底部（壺）	23K	16・17	98SK22	—	—	—	—	20	海針、石英、長石、チャ	内面ナデ、体部外面ヘラミガキ	体下部外面に黒斑	底部外面割れ	
195	824	高杯	14K	18	—	Ⅳ	（238）	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	外面ヘラミガキ後擬凹線、内面ヘラミガキ	口縁部内外面に黒斑		
195	825	鉢	14K	22	98SI91	1	154	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラミガキ、体部内面ナデ	外面に黒斑	外面煤	
195	826	釜	14K	22	98SI91	1	108	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ	口縁部外面に黒斑	外面煤	
195	827	鉢	14K	25	98SI91	—	124	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	内面ハケメ後ヨコナデ			外面摩滅顕著
195	828	釜	14K	23	98SI91	1	150	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ヘラナデ	内面黒化	外面煤	
195	829	底部（釜）	14K	22	98SI91	1	—	—	—	54	海針、石英、長石、チャ	内面ナデ		内面薄い炭化物	外面摩滅顕著
195	830	底部（壺）	14K	12	98SI91	—	—	—	—	14	海針、長石、チャ	外面ヘラケズリ、内面ナデ			
195	831	釜	14K	22	98SI91	1	—	—	—	54	海針、長石、チャ、雲母	底部充填、内面ナデ		底部外面赤化、体下部外面煤	外面摩滅顕著
195	832	壺	27H 28H	—	2号墳	1	—	—	174	—	海針、石英、長石、チャ	体部内面ヘラケズリ、体部外面ナデ	体上部外面・内面に黒斑	体部外面煤	外面・体部内面上半の摩滅顕著、833の体部か
195	833	壺	27H 28H	—	2号墳	1	—	—	—	62	海針、石英、長石、チャ	内面・体部外面ナデ	底部外面・体下部外面に黒斑		832の底部か
195	835	釜	27HI	—	99SD757	1	（246）	—	—	—	長石、チャ、雲母	頸部外面交互刺突、体部縄文	体部外面に黒斑		天王山系
195	836	釜	27HI	—	99SD757	1	200	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ヨコナデ		口縁部外面煤	天王山系か
195	837	釜	27HI	—	99SD757	1	—	—	—	—	長石、チャ	外面沈線文		外面煤	天王山系
195	838	底部（壺）	27HI	—	99SD757	—	—	—	—	54	石英、長石、チャ、雲母	体部外面・内面ナデ	底部外面・体下部外面に黒斑	底部外面摩耗	
196	839	高杯	11J	13・18	1号周溝墓	—	—	—	—	—	海針、長石、チャ				内外面摩滅顕著
196	840	器台	11J	13・18	1号周溝墓	—	—	—	—	—	石英、長石、チャ	外面ヘラミガキ			内面摩滅顕著
196	841	高杯	11J	17	1号周溝墓	—	—	—	—	—	長石、チャ	脚部外面ヘラミガキ、脚部内面ナデ			杯部内面摩滅顕著
196	842	高杯	12I	25	1号周溝墓	—	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	脚部外面ヘラミガキ、脚部内面ハケメ後ナデ			
196	843	高杯か器台	11J	13・18	1号周溝墓	—	—	—	—	182	海針、長石、チャ	外面粘土紐貼り付け後ヘラミガキ、内面ハケメ後ナデ			
196	844	高杯か器台	11J	13・18	1号周溝墓	—	—	—	—	138	海針、石英、長石、チャ	内外面ヨコナデ			
196	845	鉢	11J	13・18	1号周溝墓	—	220	—	—	—	海針、長石、チャ	外面ハケメ後ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	内外面黒化		846の口縁部
196	846	鉢	11J	13・18	1号周溝墓	—	—	—	—	34	海針、長石、チャ	内面・体部外面ヘラミガキ	底部外面・体部外面黒化		845の底部
196	847	鉢？	11J	14	1号周溝墓	—	—	—	—	37	海針、長石、チャ	体部外面ヘラミガキ、内面ハケメ後ナデ	底部外面・体部外面・内面に黒斑		848の底部か
196	848	鉢	—	—	1号周溝墓	—	156	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部外面ヨコナデ、体部外面・口縁部内面ヘラミガキ、体部内面ナデ	外面に黒斑、内面黒化		
196	849	釜	—	—	1号周溝墓	—	190	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ			
196	850	器台	11J	13	1号周溝墓	—	212	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	内外面赤彩・ヘラミガキ			
196	851	釜	—	—	1号周溝墓	—	120	—	—	—	海針、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ			
196	852	底部（釜）	11J	13・18	1号周溝墓	—	—	—	—	45	海針、石英、長石、チャ、雲母	底部充填、内面・体部外面ハケメ		底部外面赤化	
196	853	釜	—	—	1号周溝墓	—	124	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ハケメ後ヨコナデ			
196	854	壺	—	—	1号周溝墓	—	122	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部ハケメ	体部外面・内面に黒斑		

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
196	855	釜	12J	—	1号周溝墓	下層	—	—	—	80	海針、チャ、雲母	脚部外面・体部内面ハケメ、脚部内面ナデ	脚部外面・体下部外面・脚部内面・体部内面に黒斑		体部外面摩滅顕著、東海系？
196	856	釜	15G	—	89SI20	—	162	—	—	—	海針、石英、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ		外面煤	
196	857	底部（釜）	15G	—	89SI20	—	—	—	—	32	雲母	体部外面ハケメ、内面ナデ	底部外面・体下部外面に黒斑		
196	858	釜	15G	—	89SI20	—	166	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部外面ヨコナデ、口縁部内面ハケメ後ヨコナデ、体部ハケメ		口縁部外面煤	
196	859	釜	15G	—	89SI20	—	160	—	—	—	石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ			
196	860	釜	15G	—	89SI20	—	166	—	—	—	石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	内外面に黒斑		
196	861	高杯	15G	—	89SI20	—	—	—	—	—	海針、長石、チャ、白色粒子	杯部内外面、脚部外面ヘラミガキ、脚部内面ナデ、杯部充填	脚部内面に黒斑		
196	862	釜	15G	—	89SI20	—	—	—	—	62	チャ、白色粒子	内面・体部外面ハケメ	底部外面・体下部外面に黒斑、底部内面黒化		
196	863	釜	18I	21～25	92SI105	—	176	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	口縁端部ヨコナデ後ハケメ、口縁部ハケメ後ヨコナデ		口縁部外面煤	
196	864	釜	18I	21～25	92SI105	—	149	—	—	—	海針、長石、雲母	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	体部内面黒化	外面煤	
196	865	釜	18I	21～25	92SI105	—	—	—	—	40	海針、チャ、雲母	内面・体部外面ハケメ	体下部外面に黒斑		
196	866	底部（釜）	19I	—	92SI105	—	—	—	—	74	海針、長石、チャ	内面・体部外面ハケメ後ナデ	底部外面・体下部外面・内面に黒斑		
196	867	高杯	18I	14・18	92SI105	—	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	杯部外面ハケメ後ヘラミガキ、杯部内面・脚部外面ヘラミガキ、脚部内面ナデ、杯部充填	体部内外面に黒斑		
196	868	高杯	18I	21～25	92SI105	—	220	—	—	—	海針、チャ、雲母	杯部赤彩・ヘラミガキ	口縁端部内外面に黒斑		
196	869	器台	19I		92SI105	—	—	—	—	—	海針、長石、チャ	外面ハケメ後ヘラミガキ			内面摩滅顕著
196	870	小型壺	18I	21～25	92SI105	—	—	—	—	—	海針、長石、チャ	外面赤彩・ヘラミガキ、内面ナデ			
197	878	壺	12I	—	92SK82	—	196	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ヨコナデ	口縁部内面に棒状黒斑		
197	879	高杯	11J	4	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、長石、チャ	杯部内面ヘラミガキ、杯部充填			外面摩滅顕著
197	880	釜	11J	16	—	—	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部外面ヨコナデ	口縁部内面に黒斑	口縁部外面煤	内面摩滅顕著
197	881	底部（壺）	12J	—	—	—	—	—	—	52	海針、石英、長石、チャ	内面・体部外面ナデ	底部外面に黒斑、内面黒化		
197	882	高杯	13G	—	3号周溝墓	—	—	—	—	—	長石、雲母	外面ヘラミガキ、内面ナデ、杯部充填			
197	883	器台	15L	16	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	受部ハケメ後ヘラミガキ	受部内外面に黒斑		
197	884	器台	15L	22	—	Ⅴ	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	受部ハケメ後ヘラミガキ		受部外面煤	
197	885	高杯	15K	3	—	Ⅳa	—	—	—	(194)	石英、雲母、白色粒子	脚部外面赤彩・ヘラミガキ	脚部内面に黒斑		内面摩滅顕著
197	886	高杯	15K	22	—	Ⅲ	—	—	—	(236)	石英、長石、チャ	脚端部菱形のスタンプ文、脚部外面赤彩・ヘラミガキ、脚部内面ヨコナデ	脚部内面に黒斑		
197	887	高杯	15K	21	—	Ⅲ	—	—	—	(240)	雲母少量	外面赤彩・ヘラミガキ、円形スタンプ文、内面ヨコナデ			
197	888	高杯	15K	1	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、長石、雲母	外面ヘラミガキ、内面ナデ	脚部外面に黒斑		
197	889	結合器台	14L	16	—	—	—	—	—	—	海針、長石、チャ	外面赤彩・ヘラミガキ、内面ハケメ後ヘラミガキ			
197	890	高杯	15L	25	—	Ⅴ	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	脚部に円形の透かし4ヶ所、脚部外面ヘラミガキ、杯部充填			内面摩滅顕著
197	891	高杯か器台	15K	21	—	Ⅴ	148	—	—	—	長石、雲母	脚部外面下半ヨコナデ、脚部外面上半ヘラミガキ、内面ハケメ後ナデ			
197	892	壺	14L	19	—	Ⅴ	152	—	—	—	海針、石英、長石、チャ				内外面摩滅顕著
197	893	壺	15L	24	—	Ⅲ	132	—	—	—	チャ、雲母				内外面摩滅顕著
197	894	釜	14L	24	—	Ⅳa	156	—	—	—	海針、長石、チャ	内外面ヨコナデ		外面煤	
197	895	釜？	15L	23	—	Ⅴ	(154)	—	—	—	海針、石英、チャ	外面ヨコナデ			内外面摩滅顕著

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
197	896	小型壺	15L	25	—	V	—	—	89	—	海針、石英、長石、チャ	体部ナデ	体部外面に黒斑		
197	897	釜	15L	22	—	V	142	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部外面ヨコナデ、体部外面ハケメ			内面摩滅顕著
197	898	釜	14L	24	—	Ⅳa	170	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部外面ヨコナデ			内面摩滅顕著
197	899	釜	15L	22	—	Ⅳa	162	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ			
197	900	釜	14L	20	—	Ⅳa	144	—	—	—	チャ、雲母、赤色粒子	口縁部ハケメ後ヨコナデ		口縁部外面煤	
197	901	底部（釜）	15K	3	—	Ⅳa	—	—	—	46	海針、石英、長石、チャ		底部外面・体下部外面に黒斑		内外面摩滅顕著
197	902	底部（釜）	15L	16	—	Ⅲ	—	—	—	38	海針、石英、長石、雲母	内面・体部外面ナデ	底部外面に黒斑		
197	903	底部（釜）	15L	16	—	V	—	—	—	58	海針、石英、長石、チャ	底部充填			内外面摩滅顕著
197	904	釜	15K	2	—	V	150	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	内外面ヨコナデ		口縁部外面煤	
197	905	釜	14L	24	—	Ⅳa	145	—	—	—	海針、石英、長石、雲母	口縁部ハケメ後ヨコナデ			
197	906	釜	15L	22	—	Ⅲ	146	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ		口縁部外面煤	
197	907	釜	15L	21	—	Ⅳa	136	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部外面ハケメ後ヨコナデ、口縁部内面ヨコナデ、体部ハケメ	外面に黒斑		
197	908	底部（壺）	15L	22	—	Ⅳa	—	—	—	52	海針、長石、チャ	内面ヘラミガキ	底部外面に黒斑		外面摩滅顕著
197	909	釜	15K	1	—	Ⅳa	148	—	—	—	海針、長石、雲母	口縁部外面ヨコナデ後下端に櫛状工具による連続刺突、口縁部内面ヨコナデ			近江系か
197	910	釜	14L	25	—	V	（152）	—	—	—	石英、長石、チャ	内外面ヨコナデ			
197	911	釜	14L	23	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、長石、チャ	外面ハケメ後棒状工具による連続刺突、内面ハケメ		体部外面煤	
197	912	底部（釜）	15L	16	—	V	—	—	—	84	海針、長石、チャ、雲母	内面・体部外面ナデ		底部外面摩耗	弥生中期か
197	913	底部（壺）	15K	22	—	—	—	—	—	42	海針、石英、長石、チャ、雲母	内面ナデ	底部外面・体下部外面に黒斑		外面摩滅顕著
198	915	器台？	21K	18	—	V	206	—	—	—	石英、チャ、雲母	口縁端部ヨコナデ、受部ヘラミガキ	受部内面に黒斑		
198	916	器台？	20K	19	—	V	—	—	—	—	長石、チャ、雲母				内外面摩滅顕著
198	917	高杯か器台	20I	24	—	Ⅲ	—	—	—	（220）	海針、長石、チャ、雲母	内面ハケメ後ヨコナデ、外面赤彩・ヘラミガキ			
198	918	壺	21K	18	—	V	110	—	—	—	石英、長石	口縁部赤彩・ヘラミガキ	口縁部外面に黒斑		
198	919	高杯	19J	14	—	Ⅲ	—	—	—	—	石英、長石、チャ				内外面摩滅顕著
198	920	高杯	21J	7	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、チャ、白色粒子				内外面摩滅顕著
198	921	高杯	20G	16	—	—	—	—	—	—	海針、石英、チャ、雲母	杯部内面・脚部外面赤彩・ヘラミガキ、脚部内面ナデ			
198	922	釜	21K	24	—	V	208	—	—	—	海針、長石、雲母	内外面ヨコナデ		口縁端部内面炭化物	
198	923	釜	19J	13	—	V	208	—	—	—	海針、石英、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ			内面摩滅顕著
198	924	釜	21K	22	—	V	158	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ナデ			
198	925	釜	21K	18	—	V	—	—	—	—	長石、チャ	口縁部ヨコナデ、外面下端に棒状工具による連続刺突	口縁部外面に黒斑		近江系か
198	926	底部（釜）	19J	14	—	Ⅲ	—	—	—	42	長石、チャ、雲母	内面ナデ			外面摩滅顕著
198	927	底部（釜）	19J	14	—	Ⅲ	—	—	—	40	石英、チャ、雲母	内面・体部外面ナデ	内面黒化		
198	928	底部（釜）	19J	12	—	V	—	—	—	60	海針、石英、チャ、雲母	底部充填、内面ハケメ、体部外面ナデ	底部外面・体下部外面・内面に黒斑		
198	929	底部（釜）	19J	13	—	V	—	—	—	54	海針、石英、長石、チャ		内面に黒斑	底部外面赤化	内外面摩滅顕著
198	930	器台	22I	23	—	Ⅲ	—	—	—	—	長石、チャ	受部内面赤彩・ヘラミガキ、受部外面ヘラミガキ			
198	931	器台	22J	22	—	Ⅳ	—	—	—	—	海針、石英、チャ、雲母	口縁部外面赤彩・ヘラミガキ後擬凹線、受部外面赤彩・ヘラミガキ	口縁部外面に黒斑		内面摩滅
198	932	高杯	24H	5	—	Ⅳ	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	杯部ヘラミガキ			

付表2　遺物観察表

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
198	933	高杯	19J 22I	14 1	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	杯部内面ヘラミガキ、脚部内面ナデ			外面摩滅顕著
198	934	高杯	24J	20	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、長石、雲母		脚部内・外面に黒斑		内外面摩滅顕著
198	935	高杯	22J	14	98SD23	—	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	脚部面赤彩・ヘラミガキ、内面ナデ	脚部内面に黒斑		
198	936	高杯	22J	17	—	Ⅴ	—	—	—	—	石英、チャ、赤色粒子	脚部外面ヘラミガキ、内面ナデ			
198	937	高杯	25H	4	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、長石、チャ		脚部内面に黒斑		内外面摩滅顕著
198	938	壺？	26H	6	—	Ⅲ	—	—	—	—	長石、雲母	内面ナデ、外面赤彩・ヘラミガキ	内面に黒斑		
198	939	高杯	24I	24	—	Ⅰ	—	—	—	—	チャ、長石、石英				内外面摩滅顕著
198	940	蓋？	26J	10	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、石英、チャ、白色粒子	内外面ヘラミガキ			
198	941	壺	26J	10	—	Ⅳa	120	—	—	—	長石、チャ	口縁部外面ヨコナデ、内面・頸部外面ヘラミガキ			
198	942	釜	24J	25	—	Ⅳa	—	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部・頸部ヨコナデ、口縁部外面擬凹線			
198	943	釜	24J	25	—	Ⅳa	（220）	—	—	—	海針、長石、チャ		口縁部外面に黒斑		内外面摩滅顕著
198	944	釜	24J	24	—	Ⅳa	152	—	—	—	石英、長石、チャ	口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部外面ハケメ後櫛状工具による連続刺突、体部内面ハケメ	体部内・外面に黒斑		
198	945	釜	24J	24	—	Ⅳa	150	—	—	—	石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ			
198	946	釜	25H	3	—	Ⅳa	124	—	—	—	海針、石英、長石、チャ		内面に黒斑		内外面摩滅顕著
198	947	釜	29M	16	—	Ⅴa	164	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ	口縁部外面に黒斑		
198	948	底部（壺）	29M 30M	23・24	—	1	—	—	—	46	長石、チャ	内面ナデ、体部外面ヘラミガキ	底部外面・体下部外面・内面に黒斑		
198	949	底部（釜）	29M	11	—	—	—	—	—	46	石英、長石、チャ、雲母	内面・体部外面ナデ	体部外面に黒斑		
198	950	底部（釜）	27K	23	99SD2502	1	—	—	—	51	石英、長石、チャ	内面ハケメ		底部・体下部外面赤化	内面摩滅顕著
198	951	小型器台	28L	22	—	Ⅴa	—	—	—	126	海針、チャ、白色粒子		脚部内面に黒斑		内外面摩滅顕著
198	952	有孔鉢	24H	4	—	—	—	—	—	28	長石、チャ、雲母		体部外面に棒状黒斑、体部内面に黒斑		内外面摩滅顕著
198	953	釜	22J	17	—	Ⅴ	—	—	—	40	海針、白色粒子	内面ナデ	底部外面・内面に黒斑		内外面摩滅顕著
198	954	底部（釜）	25I	21	—	Ⅴ	—	—	—	64	海針、長石、チャ	内面ハケメ、体部外面ナデ	底部外面に黒斑		
198	955	底部（釜）	25I	21	—	Ⅴ	—	—	—	48	海針、長石、チャ、雲母	底部充填、内面ハケメ		円形に割り揃え	
198	956	底部（釜）	25I	10	—	Ⅳa	—	—	—	56	海針、石英、長石、雲母	内面ナデ	底部外面・体下部外面・内面に黒斑		
198	957	底部（釜）	25H	4	—	Ⅴ	—	—	—	46	海針、石英、長石、チャ、雲母		底部外面に黒斑		内外面摩滅顕著
198	958	釜	13L	15	—	Ⅳa	—	—	—	32	海針、石英、長石、チャ、雲母	外面ハケメ、内面ナデ	内面に黒斑	体部外面煤	
198	959	壺	28H	9	99SK767	1	—	—	—	—	長石、チャ	外面ハケメ後櫛状工具による波状文			内面摩滅顕著 箱清水か
198	960	壺？	24I	21	—	Ⅱ	—	—	—	—	長石、チャ	体部外面縄文・沈線			天王山系か
198	961	壺	29N	23	—	Ⅴa	190	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母				内外面摩滅顕著
198	962	壺	32L	13	—	Ⅳa	234	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	口縁端部擬凹線、口縁部内面ヨコナデ、口縁部外面ヘラミガキ			
199	963	器台	28I	14	—	Ⅳa	176	—	—	—	海針、石英、チャ、雲母	口縁部外面ヨコナデ、受部ヘラミガキ	口縁部外面に黒斑		
199	964	結合器台	28J	10	—	Ⅴa	—	—	142	—	海針、チャ	受部内面ヘラミガキ、受部外面赤彩・ヘラミガキ・擬凹線・ヘラ状工具による連続刺突			
199	965	高杯か器台	28J	10	—	Ⅴa	—	—	—	130	海針、チャ、雲母	脚部内面ヨコナデ、脚部外面赤彩・ヘラミガキ・擬凹線			
199	966	高杯	28J	1	—	Ⅴa	—	—	—	—	長石、チャ、雲母	杯部赤彩・ヘラミガキ			
199	967	小型器台	29I	13	99SK932		—	—	130	—	石英、長石、チャ	脚部赤彩・ヘラミガキ			
199	968	蓋	28J	2	—	Ⅴa	—	—	—	24	石英、雲母	内面ナデ、外面赤彩・ヘラミガキ			

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
199	969	蓋	27J	14	—	Va	—	—	—	—	長石、チャ	—			内外面摩滅顕著
199	970	壺	30K	5	—	Va	154	—	—	—	石英、長石、チャ	内外面ヨコナデ	内面に黒斑		
199	971	壺	28J	3	—	Va	—	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁端部擬凹線、口縁部内外面ヨコナデ		口縁部外面煤	
199	972	釜	27J	19	—	Va	168	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	内面ヨコナデ、外面ヨコナデ後擬凹線	内面に黒斑		
199	973	釜？	28J	—	—	—	148	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	内面ヨコナデ、外面ヨコナデ後擬凹線	内面黒化		
199	974	釜	28I	15	—	Ⅳa	124	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	内面ヨコナデ、外面ヨコナデ後擬凹線	外面に黒斑	外面煤	
199	975	釜	28K	24	—	Va	148	—	—	—	長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ			
199	976	釜	28J	13	99SK1278	下層	176	—	—	—	長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ		外面煤	
199	977	釜	27J	—	—	—	202	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁端部ハケメ後ヨコナデ、口縁部外面ヨコナデ			内外面摩滅顕著
199	978	釜	28J	3	—	Va	196	—	—	—	石英、長石、チャ	内面ハケメ後ヨコナデ、外面ヨコナデ			
199	979	釜	28K	24	—	Va	216	—	—	—	長石、チャ、雲母	内面ハケメ後ヨコナデ、外面ヨコナデ	内面に黒斑	外面煤	
199	980	釜	28I	14	—	Ⅳa	170	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ヘラケズリ	内面に黒斑	外面煤	
199	981	釜	28J	6	—	Va	164	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ			
199	982	釜	29I	18	99SK932	—	132	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部内面ヘラケズリ	内面に黒斑	外面煤	
199	983	釜	28K	18	99SK1708	—	147	—	—	—	石英、長石、チャ	外面ヨコナデ	外面に黒斑		内面摩滅顕著
199	984	釜	28J	3	—	Va	134	—	—	—	長石、雲母	口縁部ヨコナデ	内面に黒斑	外面煤	
199	985	釜	28J	1	—	Va	(176)	—	—	—	長石、チャ	内面ヨコナデ、外面ハケメ後ヨコナデ			
199	986	釜	28J	4・5	—	Va	(224)	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	外面ヨコナデ			内面摩滅顕著
199	987	釜	28J	—	—	—	156	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、口縁端部ハケメ後櫛状工具による連続刺突			近江系
199	988	鉢	28J	12	—	Va	160	—	—	—	海針、長石、チャ	内面赤彩・ヘラミガキ、外面赤彩・ヨコナデ			
199	989	底部（釜）	28J	4・5 10・11	—	Va	—	—	—	31	長石、チャ、雲母	底部充填､内面ナデ、体部外面ハケメ	内面に黒斑	外面赤化	
199	990	底部（釜）	27H	12・13・17～20・24	99SK755	1	—	—	—	66	長石、チャ	内面ナデ、体部外面ハケメ、底部外面ヘラケズリ	内面に黒斑	底部穿孔	弥生中期？
199	991	底部（釜）	28J	—	—	—	—	—	—	58	長石、チャ				外面摩滅顕著天王山系か
199	992	底部（壺）	28J	7	—	Va	—	—	—	46	海針、長石、チャ、雲母	内面・体部外面ナデ	底部外面・体下部外面に黒斑		
199	993	底部（釜）	27J	10	—	Ⅳa	—	—	—	64	海針、石英、長石、チャ、雲母	内面ナデ、体部外面ヘラケズリ			
199	994	釜	28J	16	—	Va	192	—	—	—	海針、長石、チャ	外面ヨコナデ	内面に黒斑		天王山系
199	995	釜	28J	—	—	—	—	—	—	—	海針、雲母	内面ナデ、外面LR縄文・沈線		外面煤	天王山系
199	996	釜	28J	4・5	—	Va	—	—	—	—	石英、長石、チャ	内面ナデ、外面交互刺突・LR縄文・沈線			天王山系
199	997	壺	27J	10	—	Va	—	—	—	—	チャ、雲母	内面ナデ、外面RL縄文			998・999と同一個体、天王山系
199	998	釜	28J	16	—	Va	—	—	—	—	長石、チャ、雲母	内面ナデ、外面RL縄文			997・999と同一個体、天王山系
199	999	釜	28J	4・5	—	Va	—	—	—	—	石英、チャ、雲母	内面ナデ、外面RL縄文			997・998と同一個体、天王山系
199	1000	釜	28J	6	—	Va	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	内面ナデ、外面LR縄文、底部外面縄文	体下部内面黒化		天王山系
199	1001	器台	31L	11	—	Ⅳ	(244)	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	受部内面ヘラミガキ、口縁部外面擬凹線	口縁部外面に黒斑		
199	1002	器台	27N	17	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	脚部外面ヘラミガキ，内面ナデ			
199	1003	高杯	28L	22	—	Va	—	—	—	—	石英、長石				内外面摩滅顕著
199	1004	高杯	31M	6	—	Ⅳa	—	—	—	—	長石、チャ	杯部充填			内外面摩滅顕著
199	1005	高杯	31M	11	—	Ⅳ	—	—	—	—	石英、チャ、雲母	杯部・脚部外面赤彩・ヘラミガキ、脚部内面ナデ		杯部内面欠け	
199	1006	高杯	29O	1・8	—	Va	—	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	杯部・脚部外面ヘラミガキ、脚部内面ナデ	脚部外面に黒斑		古墳後期か
199	1007	高杯か器台	31P	18	—	Ⅴ	—	—	—	—	海針、石英、長石、雲母	脚部外面赤彩・ヘラミガキ、脚部内面ナデ			

付表2　遺物観察表

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
199	1008	器台	30P	17	—	—	—	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	受部・脚部外面赤彩・ヘラミガキ、脚部内面ヘラケズリ			
199	1009	壺	31P	18	—	V	124	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	内外面赤彩・ヘラミガキ	外面・内面に黒斑		
199	1010	小型壺	29N	13	—	Va	—	—	171	—	海針、石英、チャ、雲母	内面ナデ、外面赤彩・ヘラミガキ	体部内面に黒斑		
199	1011	釜	29N	23	—	Va	125	—	—	—	石英、雲母、白色粒子	口縁部内面ハケメ後ヨコナデ、口縁部外面ヨコナデ、体部ハケメ	内面に黒斑	外面煤	
199	1012	釜	29O	19	99SD1880	Ⅳ	140	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	口縁部内面ヨコナデ、口縁部外面ハケメ後ヨコナデ	口縁部内外面に黒斑		
199	1013	釜	29M	7	—	Va	—	—	—	—	チャ、雲母、白色粒子	内面ヘラケズリ、外面櫛描き波状文	体部外面・内面に黒斑		箱清水
199	1014	土製品	32M 33M	—	99SD364	1	(51)	(67)	9	—	長石、チャ、雲母	手ずくね、孔2	内外面に黒斑		
199	1015	釜	32M 32N 33N	1 21 25	99SK367	1	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ハケメ後ヨコナデ、体部ハケメ			
200	1018	高杯	30F 31F	—	—	Va	268	—	—	—	海針、長石、チャ	杯部ハケメ後ヘラミガキ	杯部内面に黒斑	口縁端部摩耗欠け	
200	1019	高杯か器台	13L	—	—	—	—	—	—	—	石英、長石、チャ	内外面ヘラミガキ	外面に黒斑	内面荒れ	
200	1020	釜	29J	—	—	—	—	—	—	50	海針、石英、長石、チャ	内面・体部外面ハケメ	底部外面・体下部外面・内面に黒斑		
200	1021	高杯	16J	—	—	—	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	脚部外面ハケメ、脚部内面ハケメ後ナデ	脚部内面に黒斑		
200	1022	不明	11J	2	98SD74	—	—	—	—	尖底	海針、チャ、雲母	内面ナデ、外面赤彩・ヘラミガキ	外面に黒斑		
200	1023	釜	32J	18	99SK538	—	144	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部内面ナデ、体部外面ハケメ	体部内面黒化	外面煤、内面炭化物	
200	1024	釜	14L	25	—	5	212	—	—	—	海針、石英、長石、チャ、雲母	口縁端部櫛状工具による連続刺突、口縁部外面ハケメ、口縁部内面ハケメ後櫛状工具による矢羽状連続刺突・棒状工具による連続刺突		口縁上部内外面煤	
200	1025	釜	14L	22	—	Ⅳa	202	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	口縁端部櫛状工具による連続刺突、口縁部外面ハケメ、口縁部内面ハケメ後櫛状工具による矢羽状連続刺突			
200	1026	釜	11IJ 12IJ	—	1号周溝墓下層	5	—	—	—	—	チャ	小波状口縁、口縁部外面ハケメ後ヨコナデ、口縁部内面ハケメ後櫛状工具による斜行短線文	外面に黒斑		
200	1027	甕	—	—	1号周溝墓下層	5	—	—	—	—	海針、長石、チャ	体部外面ハケメ後櫛状工具による直線文・斜行短線文、体部内面ナデ		外面煤、内面炭化物	
200	1028	壺	14L	24	—	5	—	—	114	44	石英、長石、チャ	底部充填 体部外面ヘラミガキ後櫛状工具による直線文・波状文、体部内面ナデ	底部外面・体部外面・体部内面に黒斑		
200	1029	壺	—	—	1号周溝墓下層	5	—	—	—	—	石英、長石、チャ、雲母	内面ハケメ、外面ハケメ後凸帯貼り付け後櫛状工具による格子目文・直線文			
200	1030	壺	15L	22	—	5	—	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部内面ナデ、口縁部外面凸帯貼り付け後格子目文	外面・内面に黒斑		外面摩滅顕著
200	1031	壺	—	—	1号周溝墓下層	5	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	内面ナデ、外面ハケメ後直線文		内面炭化物	
200	1032	壺	27J	19	—	Va	128	—	—	—	海針、長石、雲母	内面ヨコナデ後櫛状工具による連続刺突外面ハケメ後ヨコナデ		外面煤	
200	1033	壺	15K	1	—	V	122	—	—	—	海針、長石、チャ	口縁部ハケメ後櫛状工具による連続刺突	内面に黒斑		
200	1034	釜	27I	3	—	Ⅲ	—	—	—	—	海針、石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、口縁端部櫛状工具による連続刺突	内面に黒斑		
200	1035	壺	27J	9	—	Va	88	—	—	—	長石、チャ、雲母	外面ハケメ後ヘラミガキ、口縁部内面ヨコナデ、体部内面ハケメ	体下部内面に黒斑	体下部外面煤	

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	製作痕跡	焼成痕跡	消費痕跡	備考
200	1036	釜	29N	4	—	V	—	—	—	86	石英、長石、チャ	内面・体部外面ハケメ	底部外面・体下部外面に黒斑		
200	1037	壺？	32L	20	—	Ⅱ	—	—	—	85	海針、チャ、雲母	底部充填､内面ナデ、体部外面ハケメ			
200	1038	釜	14L	25	—	V	146	—	—	—	石英、長石、チャ	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケメ、体部内面ナデ			古墳中期か
200	1039	釜	25H	1	—	—	180	—	—	—	長石、白色粒子	口縁部ヨコナデ、体上部外面櫛状工具による簾状文			
200	1040	釜	28J	6	—	Va	176	—	—	—	長石、雲母	口縁部ヨコナデ、体部外面櫛状工具による直線文、体部内面ヘラケズリ			
200	1041	壺	28G 27H 28H	4・5 16・21 20・25	99SK763	—	—	—	—	—	石英、チャ、雲母	外面RL縄文後沈線による直線文・鋸歯状文			内外面摩滅顕著、栗林系
200	1042	釜	15K	5	—	V	—	—	—	—	長石、チャ、雲母	内面ナデ、外面櫛状工具による縦方向の波状文後直線文	内面黒化	外面煤	栗林系
200	1043	壺	30F 31F	—	—	Va	—	—	—	—	石英、長石、雲母	内面ハケメ、外面「コ」字状重ね文		外面煤	栗林系
200	1044	壺	32M	11・19	—	V	84	—	—	—	石英、長石、チャ	口縁部・体部外面ヘラミガキ、体部内面ナデ	口縁部内面黒化		山草荷系
200	1045	壺	28J	4・5	—	Va	116	—	—	—	石英、長石、チャ	外面2本1単位の直線文・連弧文、内面ナデ			山草荷系
200	1046	壺	29H	—	—	—	—	—	—	—	石英、長石、チャ	外面2本1単位の直線文・連弧文			内外面摩滅顕著、山草荷系
200	1047	壺	28I	14	—	Ⅳa	—	—	—	—	チャ、雲母	内面ナデ、外面直線文	内面黒化	外面煤	山草荷系
200	1048	壺	28J	15	—	Va	—	—	—	—	チャ、雲母	内面ナデ、外面直線文・RL縄文			山草荷系
200	1049	壺	13L	—	—	—	—	—	—	—	石英、長石	内面ナデ、外面2本1単位の渦巻き文	内面黒化		外面摩滅顕著、山草荷系
200	1050	壺	14L	25	—	Ⅲ	—	—	—	—	石英、長石、チャ	内面ハケメ、外面沈線文後RL縄文	内面黒化、外面に黒斑		山草荷系
200	1051	壺	27J	9	—	Va	—	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母	内面ナデ、外面2本単位の渦巻き文			山草荷系
200	1052	壺	12J	1	12ピット1	1	—	—	—	—	長石、雲母	内面ナデ、外面沈線による菱形文			山草荷系
200	1053	壺	14L	24	—	Ⅳa	—	—	—	—	石英、チャ	内面ナデ、外面2本1単位の直線文			山草荷系
200	1054	高杯	13H	15	89ピット2	—	—	—	—	—	長石、チャ、雲母	内面ナデ、外面直線文・連弧文	内面黒化		山草荷系

縄文土器

図版番号	報告番号	器種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	口径（㎜）	器高（㎜）	最大径（㎜）	底径（㎜）	胎土	文様など	焼成痕跡	消費痕跡	備　考
200	1055	深鉢	24I	—	99SD1198	2	—	—	—	—	長石、チャ、雲母、繊維				前期前葉から中葉
200	1056	深鉢	30P	5	—	Ⅲ	—	—	—	—	雲母、白色粒子、繊維		内面黒化	口縁部補修孔	前期前葉から中葉
200	1057	深鉢	25I	13	—	Ⅳa	—	—	—	—	白色粒子		内面黒化		前期末・中期初
200	1058	深鉢	30N	6	—	Ⅳ	—	—	—	—	長石、チャ、雲母			口縁部外面煤	前期末・中期初
200	1059	深鉢	30N	6	—	Ⅳ	—	—	—	—	白色粒子			体部外面煤	前期末・中期初
200	1060	深鉢	24J	3	98SD23	6	—	—	—	—	繊維		体部内面黒化		前期前葉から中葉
200	1061	深鉢	29N	1	99SD1936	—	—	—	—	—	白色粒子				前期末・中期初
200	1062	深鉢	27J	10	—	Ⅳ	—	—	—	—	長石、白色粒子	木目状撚糸文			中期初
200	1063	深鉢	12L	17	—	V	—	—	—	—	白色粒子	木目状撚糸文			中期初
200	1064	深鉢	26J	1	—	Va	—	—	—	—	雲母、白色粒子	半截竹管	外面に黒斑		中期前葉
200	1065	深鉢	29N	1	—	Va	—	—	—	—	海針、白色粒子	半截竹管			中期前葉
200	1066	深鉢	28J	—	—	—	—	—	—	—	チャ、雲母、白色粒子	半截竹管			中期前葉
200	1067	深鉢	27J	4	—	Va	166	—	—	—	海針、長石、チャ、雲母、繊維	羽状縄文		口縁部外面煤	前期前葉から中葉
200	1068	深鉢	27I	1・2	99SK880	2	—	—	—	—	チャ、雲母	網目状撚糸			前期前葉から中葉
200	1069	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	長石、チャ、雲母		外面に黒斑	外面煤、内面炭化物	前期前葉から中葉
200	1070	深鉢	32L	24	—	Ⅳa	—	—	—	—	白色粒子、繊維	LR縄文			前期前葉から中葉
200	1071	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	長石、チャ、繊維	LR縄文			前期前葉から中葉
200	1072	深鉢	27J	19	—	Va	—	—	—	—	雲母、白色粒子、繊維	LR縄文			前期前葉から中葉

石器（弥生時代末以降）

図版番号	報告番号	種類	器　種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位	a（㎜）	b（㎜）	c（㎜）	d（㎜）	重量（g）	石　材	備　考
173	5		石塔類の一部	14K	14	98SD42	1	(41)	(137)	(31)	—	365.0	安山岩	
173	6		石塔類の一部	10J	23・24	92SD34A	—	(180)	(228)	(132)	—	4470.0	安山岩	
173	7		宝篋院塔の一部	12K	5	—	Ⅳ	238	104	104	—	1940.0	砂岩	
173	8		宝篋院塔の一部	12I	—	1号塚	—	126	240	66	—	1980.0	安山岩	
173	44		砥石	9K	22	98SD120	1	60	51	48	—	156.2	緑色凝灰岩	
173	45		砥石	19J	—	92SK70	—	(43)	27	8	—	14.6	頁岩	鳴滝か中山
175	88		砥石	27J	7	99SK1259A	—	105	63	20	—	71.7	頁岩	在地
175	112		砥石	28I	8	—	Ⅳa	82	70	61	—	418.1	頁岩	在地
175	113		砥石	27H、28GH	—	99SK763	—	151	126	95	—	1560.0	砂岩	在地
175	114		砥石	23J	25	98SK44	—	115	27	18	—	80.3	凝灰岩	在地
175	115		砥石	27G	20	—	Ⅲ	66	32	13	—	24.9	鉄岩	鳴滝
177	158		石塔類の一部？	26L	25	99SE2441	1	160	120	111	—	2860.0	花崗岩	
178	210		砥石	21K	17	—	Ⅲ	(50)	26	16	—	32.7	凝灰岩	天草か備水
178	211		砥石	27K	13	99SD2081	1	64	26	20	—	59.1	流紋岩？	在地
178	212		砥石	28M	24	99SE2229	2	(74)	30	21	—	60.0	凝灰岩	天草か備水
178	213		茶臼（下臼）	21K	21	—	Ⅳa	(208)	330	120	—	4330.0	安山岩？	
178	214		茶臼（下臼）	28K	18	—	Ⅰ	—	—	—	354	138.6	安山岩	
178	215		茶臼（上臼）	27L	8	99SE2441	底	(166)	174	(99)	—	2240.0	砂岩	
179	266		硯	22H	11	—	Ⅰ～Ⅲ	(56)	(50	(10)	—	28.4	頁岩	
179	267		硯	23J	11	—	—	(38)	(38)	(18)	—	45.5	滑石	
179	268		砥石	23I	7	—	Ⅳ	117	51	26	—	163.6	流紋岩	在地
179	269		砥石	24G	11	—	Ⅲ	(84)	29	27	—	98.0	流紋岩	在地
179	270		砥石	24H	3	—	表土	(54)	27	26	—	47.1	流紋岩	在地
180	288		粉挽き臼（上臼）	30J	—	99SE310	—	224	240	114	68	2800.0	花崗岩	
180	289		粉挽き臼（下臼）	30J	—	99SE310	—	268	240	54	—	1480.0	花崗岩	
180	290		砥石	30I	6.7	99SE310	上層	118	98	83	—	1175.5	頁岩	在地
182	325		砥石	30K	1	99SE831	上層	(116)	83	35	—	446.1	流紋岩	在地
183	328		砥石	30J	1	99SK723	1	168	84	47	—	704.0	凝灰岩	在地
183	336		粉挽き臼（下臼）	30J 31IJ	—	99SD301	下層	266	258	72	—	1810.0	花崗岩	
185	405		パステル形石製品	32N	15	—	—	(35)	6	6	—	1.9	滑石	
185	406		砥石	31J	13	99SK534	—	(71)	30	6	—	17.2	頁岩	鳴滝
185	407		砥石	25I	9	—	Ⅳa	(72)	40	26	—	96.6	凝灰岩	天草か備水
185	408		砥石	31J	8	—	Ⅳa	(73)	30	23	—	69.1	流紋岩	在地
185	409		砥石	31I	5	—	Ⅳa	(70)	31	29	—	100.7	凝灰岩	天草か備水
185	410		砥石	—	—	99P753	1	110	(66)	50	—	493.1	頁岩	在地
185	411		砥石	31K	5	—	Ⅳa	118	64	48	—	392.8	頁岩	在地
185	412		砥石	31M	21	—	Ⅳ	(81)	57	45	—	381.3	砂岩	在地
185	413		砥石	32M	15	99SK64	2	164	68	42	—	525.5	凝灰岩	在地
185	414		砥石	30J	16	—	Ⅳb	153	68	62	—	703.4	頁岩	在地
185	415		砥石	28N	15	—	Ⅲ	(100)	65	48	—	409.3	流紋岩	在地
185	416		砥石	30J	1	—	Ⅳb	148	108	49	—	880.1	頁岩	在地
185	417		砥石	31I	5	—	Ⅲ	171	164	35	—	1350.0	頁岩	在地
185	418		砥石	—	—	99P38	床	246	165	102	—	4660.0	砂岩	在地
185	419		粉挽き臼（上臼）	30I	1.2	99SE525	上層	288	288	78	—	2670.0	安山岩	
185	420		砥石	31J	2	99P705	床	270	168	96	—	6310.0	砂岩	在地
189	591		砥石	32O	1	—	Ⅲ	(92)	56	(40)	—	157.7	凝灰岩	在地
189	592		砥石	29O	19	—	Ⅳa	195	108	58	—	1340.0	頁岩	在地
189	593		茶臼（上臼）	30P	19	—	Ⅳa	182	—	(97	—	657.3	花崗岩	
189	594		茶臼（下臼）	29O	19	—	Ⅴ	—	—	—	348	201.0	花崗岩	
189	595		容器	29R	—	—	—	224	158	66	—	1770.0	砂岩	
189	602		粉挽き臼（下臼）	31O	18・23	99SK1974	4	318	324	99	—	5340.0	安山岩	
190	613		砥石	29T	6・7	99SE1465	—	120	56	49	—	469.3	凝灰岩	在地
190	616		砥石	29U	21	99SE1468	7	(119)	61	88	—	950.2	凝灰岩	在地
190	630		不明	—	—	—	排土	(80)	(69)	(50)	—	214.6	安山岩	
194	762		有孔円盤	8I	3	92SK97	—	69	63	12	—	—	滑石	
195	814		砥石	32K	23	—	Ⅴ	(81)	48	13	—	45.7	頁岩	在地
195	815		砥石	32K	20	—	Ⅴa	(51)	12	0.8	—	12.3	頁岩？	在地

銭貨

図版番号	報告番号	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位ほか	銭名	書体	長さ（㎜）	幅（㎜）	重量（g）	初鋳年（西暦）	時代	備　考
173	9	12J	24	92SD34A	—	至道元寶	行書	24.7	24.7	3.3	995	北宋	
173	10	12J	24	92SD34A	—	元祐通寶	行書	24.5	24.4	3.2	1086	北宋	
173	11	12J	24	92SD34A	—	聖宋元寶	行書	24.0	24.2	2.6	1101	北宋	
173	12	12J	24	92SD34A	—	開元通寶		24.7	24.8	2.2	621	唐	
173	13	12J	24	92SD34A	—	熙寧元寶	真書	24.0	23.8	2.9	1068	北宋	
173	14	12J	24	92SD34A	—	聖宋元寶	篆書	23.5	23.5	3.2	1101	北宋	
173	15	12I	21	1号塚周辺	—	天禧通寶		25.4	25.4	3.3	1017	北宋	
173	16	12I	21	1号塚周辺	—	咸平元寶		24.2	25.0	4.8	998	北宋	他に1点付着、裏面は別個体のもの
173	17	12I	21	1号塚周辺	—	洪武通寶		24.7	24.7	3.5	1368	明	加工銭

図版番号	報告番号	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位ほか	銭名	書体	長さ（㎜）	幅（㎜）	重量（ｇ）	初鋳年（西暦）	時代	備　　考
173	18	12I	21	1号塚周辺	—	治平元寶	真書	24.1	23.8	2.9	1064	北宋	
173	19	12J	—	1号塚周辺	—	皇宋通宝	真書	24.4	24.2	5.9	1038	北宋	他に2点付着、裏面は別個体のもの、加工銭
173	20	12J	—	1号塚周辺	—	皇宋通宝	真書	24.7	24.7	2.9	1038	北宋	
173	21左	12I	—	1号塚周辺	—	熙寧元寶	篆書	25.4	25.7	7.8	1068	北宋	付着、骨片と一緒に出土
173	21右	12I	—	1号塚周辺	—	皇宋通宝	真書	24.2	24.3		1038	北宋	
173	22	12J	—	1号塚周辺	—	元豊通寶	篆書	24.4	24.9	2.7	1078	北宋	
173	23	12J	15	92SK115	—	至和元寶	真書	24.6	24.2	3.0	1054	北宋	他に1点付着、裏面の一部は別個体（洪武通寶）のもの
173	24左	12J	15	92SK115	—	熙寧元寶	篆書	24.7	24.4	4.1	1068	北宋	付着
173	24右	12J	15	92SK115	—	元祐通寶	篆書	24.7	24.4		1086	北宋	
173	25	12J	15	92SK115	—	元祐通寶	篆書	24.4	25.0	3.1	1086	北宋	
173	26	12J	15	92SK115	—	永楽通寶		24.6	25.4	3.8	1408	明	
173	27	11J	11·12·16·17	92SK41	—	元豊通寶	篆書	24.1	24.0	3.6	1078	北宋	
173	28	11J	11·12·16·17	92SK41	—	祥符元寶		24.5	25.3	2.8	1009	北宋	
173	29	11J	11·12·16·17	92SK41	—	開元通寶		23.8	24.0	2.5	960	南唐	
173	30	9L 10L	16・21 20・25	98SK132	1	祥符元寶		24.5	24.5	3.0	1009	北宋	
173	31	9L 10L	16・21 20・25	98SK132	1	熙寧元寶	真書	23.3	23.0	2.2	1068	北宋	
173	32	9L 10L	16・21 20・25	98SK132	1	嘉祐元寶	真書	24.0	20.0	2.1	1056	北宋	
173	33	13J	14·15·19·20	92SK93	—	祥符通寶		24.7	24.7	2.2	1009	北宋	
173	34	13J	14·15·19·20	92SK93	—	紹聖元寶	篆書	23.1	23.8	3.0	1094	北宋	
173	35	13J	14·15·19·21	92SK93	—	元祐通寶	篆書	24.5	24.6	2.1	1086	北宋	
173	36	11K	18・19	98SK106	6	祥符元寶		25.0	25.0	3.5	1009	北宋	
173	37	11K	18・19	98SK106	6	景祐元寶	真書	24.6	24.9	3.0	1034	北宋	
173	38	11K	18・19	98SK106	6	政和通寶	分楷	24.7	25.2	3.4	1111	北宋	他に1点付着、裏面の一部は別個体のもの
173	39左	11K	18・19	98SK106	6	元□通寶	篆書	24.2	24.1	4.4	—	北宋	付着
173	39右	11K	18・19	98SK106	6	熙寧元寶	篆書				1068	北宋	
174	58	28I	11	99SK1292	—	熙寧元寶	篆書	24.2	24.0	2.6	1068	北宋	
174	59	28I	11	99SK1292	—	□祐元寶	真書	25.5	25.1	3.2	—		
174	60	28I	11	99SK1292	—	治平元寶	真書	24.4	24.5	3.0	1064	北宋	
174	61	28I	11	99SK1292	—	景祐元寶	真書	25.6	25.0	2.4	1034	北宋	
174	62	28I	11	99SK1292	—	□□元寶	真書	24.5	21.1	2.5	—		
174	63	28I	11	99SK1292	—	不明	—	22.2	23.5	2.2	—		
174	64	29I	20	99SK1711	1	元□通寶	篆書	24.9	24.9	2.6	—		
174	65	29I	20	99SK1711	1	元豊通寶	行書	25.0	25.9	3.8	1078	北宋	
174	66	29I	20	99SK1711	1	不明	—	23.9	24.1	3.2	—		
174	67	29I	20	99SK1711	1	永楽通寶		25.3	25.2	3.3	1408	明	
174	68	29I	20	99SK1711	1	熙寧元寶	篆書	24.1	24.3	3.0	1068	北宋	
174	69	29I	20	99SK1711	1	至道元寶	真書	24.0	24.5	2.8	995	北宋	
174	70	28I	8	99SK1296	床	皇宋通寶	篆書	24.6	24.8	3.0	1038	北宋	
174	71	28I	8	99SK1296	床	紹聖元寶	行書	24.8	24.4	3.2	1094	北宋	
174	72	28I	8	99SK1296	床	□□元□	真書	24.2	24.8	1.9	—	—	
174	73	28I	8	99SK1296	床	洪武通寶		24.0	23.5	3.7	1368	明	
174	74	28H	3	99SK1269	床	開元通寶		20.3	25.0	2.1	621	唐	
175	75	28H	3	99SK1269	床	熙寧元寶	篆書	23.5	24.2	1.9	1068	北宋	
175	76	28J	16	99SK1284	—	皇宋通寶	真書	24.7	24.8	3.2	1038	北宋	
175	77	28J	16	99SK1284	—	元豊通寶	行書	21.8	24.0	2.5	1078	北宋	
175	79	28I	8	99SK1276	床	開元通寶		25.0	23.7	3.1	621	唐	
175	80	28I	8	99SK1276	床	不明	—	24.0	23.7	1.9	—	—	
175	81	28I	8	99SK1276	床	□□□寶	真書	22.7	21.1	1.9	—	—	
175	82	28I	8	99SK1276	床	皇宋通寶	真書	24.0	21.7	2.5	1038	北宋	
175	83	28I	8	99SK1276	床	永楽通寶		25.0	25.5	2.9	1408	明	
175	84	28I	8	99SK1276	床	熙寧元寶	篆書	23.9	24.0	2.6	1068	北宋	加工銭
175	85	28J	17	99SK1259A	—	元豊通寶	篆書	24.9	25.0	3.2	1078	北宋	
175	86	28J	17	99SK1259A	—	祥符通寶		25.3	25.3	3.4	1009	北宋	
175	87	28J	17	99SK1259A	—	明道元寶	篆書	25.3	25.2	2.6	1032	北宋	
175	89	29H	10	99SK664	1	□元通寶	真書	24.7	24.4	3.1	—	—	
175	90	29H	10	99SK664	1	開元通寶		25.1	22.4	2.5	621	唐	
175	91	29H	10	99SK664	1	不明	—	26.7	26.7	6.8	—	—	他に1点付着、裏面は別個体のもの
175	92	29H	10	99SK664	1	元豊通寶	行書	26.2	26.4	5.6	1078	北宋	他に1点付着、裏面は別個体のもの
175	93	29H	13	99SK657	—	元豊通寶	行書	26.4	25.8	3.7	1078	北宋	
175	94	29H	13	99SK657	—	開元通寶	真書	25.2	25.0	2.8	621	唐	
175	95	29H	13	99SK657	—	開元通寶		25.0	25.3	3.0	621	唐	
175	96	29H	13	99SK657	—	紹聖元寶	行書	24.3	24.8	3.2	1094	北宋	
175	97	29H	13	99SK657	—	皇宋通寶	真書	23.7	23.9	2.8	1038	北宋	
175	98	29H	13	99SK657	—	政和通寶	分楷	25.4	25.3	3.6	1111	北宋	
175	99	28I	16・17	99SK941	—	紹聖元寶	行書	23.7	24.0	2.5	1094	北宋	
175	100	28I	16・17	99SK941	—	元豊通寶	篆書	24.6	24.6	3.4	1078	北宋	
175	101	28I	16・17	99SK941	—	□祐元寶	真書	25.3	24.1	2.1	—	—	
175	102	28I	16・17	99SK941	—	熙寧元寶	真書	25.0	25.4	5.1	1068	北宋	他に1点付着、表面の一部は別個体のもの
175	103	28I	16・17	99SK941	—	不明	—	25.6	28.2	2.9	—	—	
175	104	28I	16・17	99SK941	—	政和通寶	分楷	25.9	27.5	5.7	1111	北宋	他に1点付着、裏面は別個体のもの

図版番号	報告番号	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位ほか	銭名	書体	長さ（㎜）	幅（㎜）	重量（g）	初鋳年（西暦）	時代	備　　考
175	105	28I	16・17	99SK941	—	嘉祐元寶	篆書	24.8	24.4	6.7	1056	北宋	他に2点付着、裏面は別個体のもの
175	106	28I	16・17	99SK941	—	不明	—	24.4	24.3	3.4	—	—	他に1点付着、裏面は別個体のもの
175	107	28I	16・17	99SK941	—	□□元□	真書	22.7	22.5	2.3	—	—	
176	119	25H	15	—	Ⅳa	景祐元寶	篆書	22.8	22.6	1.7	1034	北宋	
176	120	28H	12	—	Ⅳa	皇宋通寶	篆書	24.5	24.3	3.6	1038	北宋	
176	121	28H	12	—	Ⅳa	聖宋元寶	行書	24.5	24.4	3.2	1101	北宋	
176	122	28H	12	—	Ⅳa	元符通寶	行書	23.7	23.6	3.2	1098	北宋	
176	123	28H	12	—	Ⅳa	元豊通寶	行書	23.9	23.8	3.4	1078	北宋	
176	124	28H	12	—	Ⅳa	宣和通寶	分楷	25.5	25.4	3.1	1119	北宋	
176	125	28H	12	—	Ⅳa	皇宋通寶	篆書	24.2	24.2	3.0	1038	北宋	
176	126	28H	18	—	Ⅳa	聖宋元寶	篆書	24.1	24.3	2.9	1101	北宋	
176	127	28H	18	—	Ⅳa	元豊通寶	篆書	24.1	24.1	3.4	1078	北宋	
176	128	28H	18	—	Ⅳa	元祐通寶	行書	24.6	24.6	3.3	1086	北宋	
176	129	28H	18	—	Ⅳa	嘉□通寶	篆書	24.3	24.1	2.9	—	—	
176	130	28J	16	—	Ⅲ	皇宋通寶	真書	24.1	24.8	2.9	1038	北宋	
176	131	29I	14	—	Ⅲ	永楽通寶		25.3	25.5	2.7	1408	明	
176	132	28K	23	—	Ⅲ	元祐通寶	篆書	24.6	25.0	2.8	1086	北宋	
176	133	30I	1	—	Ⅳb	元豊通寶	篆書	24.5	24.9	2.7	1078	北宋	
176	134	30I	1	—	Ⅳb	熙寧元寶	真書	24.3	24.1	3.6	1068	北宋	
176	135	30I	1	—	Ⅳb	熙寧元寶	真書	22.9	22.9	2.1	1068	北宋	
177	168	29L	6・7・8・9	99SK1443	13	嘉祐元寶	真書	23.0	23.3	2.5	1056	北宋	
177	169	29L	6・7・8・9	99SK1443	13	熙寧元寶	篆書	25.0	25.2	3.5	1068	北宋	
177	170	29L	6・7・8・9	99SK1443	13	嘉祐元寶	真書	23.7	23.5	5.2	1056	北宋	付着
177	171	29L	6・7・8・9	99SK1443	13	熙寧元寶	篆書	23.8	23.9		1068	北宋	
177	172	29L	6・7・8・9	99SK1443	13	元豊通寶	篆書	23.6	24.0	2.6	1078	北宋	付着
177	173	29L	6・7・8・9	99SK1443	13	不明	—	24.3	23.5		—	—	
186	421	30K	9	99SX926	—	開元通寶		24.4	24.6	3.1	621	唐	
186	422	30K	9	99SX926	ブロック4	開元通寶		22.7	22.6	1.7	621	唐	
186	423	30K	9	99SX926	ブロック5	開元通寶		24.3	24.3	3.4	621	唐	背月、加工銭
186	424	30K	9	99SX926	ブロック10	開元通寶		23.1	22.7	3.1	621	唐	加工銭
186	425	30K	9	99SX926	ブロック13	開元通寶		24.1	24.1	3.2	621	唐	
186	426	30K	9	99SX926	ブロック12	開元通寶		24.2	24.1	3.5	845	唐	背□
186	427	30K	9	99SX926	ブロック13	開元通寶		24.7	25.0	3.3	621	唐	加工銭
186	428	30K	9	99SX926	ブロック13	開元通寶		24.3	23.6	3.3	621	唐	加工銭
186	429	30K	9	99SX926	ブロック7	開元通寶		25.3	25.1	2.9	621	唐	加工銭？
186	430	30K	9	99SX926	ブッロク9・11	乾元重寶	真書	23.0	23.3	2.7	758	唐	
186	431	30K	9	99SX926	ブロック13	乾元重寶	真書	24.7	24.6	3.0	758	唐	
186	432	30K	9	99SX926	—	宋通元寶		24.3	24.1	2.6	960	北宋	加工銭
186	433	30K	9	99SX926	ブロック3	宋通元寶		24.9	24.6	3.2	960	北宋	加工銭
186	434	30K	9	99SX926	ブロック5	太平通寶		24.6	24.7	3.2	976	北宋	
186	435	30K	9	99SX926	ブッロク3	淳化元寶	真書	24.6	24.7	3.6	990	北宋	
186	436	30K	9	99SX926	ブロック12	淳化元寶	真書	22.8	22.9	2.8	990	北宋	
186	437	30K	9	99SX926	ブロック5	淳化元寶	草書	23.9	23.8	3.7	990	北宋	加工銭
186	438	30K	9	99SX926	ブロック7	淳化元寶	草書	24.7	24.8	2.8	990	北宋	加工銭
186	439	30K	9	99SX926	ブロック5	淳化元寶	草書	23.1	22.4	2.2	990	北宋	
186	440	30K	9	99SX926	ブロック5	至道元寶	真書	25.0	25.0	3.1	995	北宋	
186	441	30K	9	99SX926	ブロック6	至道元寶	行書	25.0	25.0	3.4	995	北宋	
186	442	30K	9	99SX926	ブロック5	至道元寶	草書	24.5	25.0	3.7	995	北宋	
186	443	30K	9	99SX926	ブロック8	咸平元寶		24.7	25.0	3.4	998	北宋	
186	444	30K	9	99SX926	ブロック5	景德元寶		24.5	24.4	3.1	1004	北宋	加工銭
186	445	30K	9	99SX926	ブロック13	景德元寶		24.0	24.1	2.9	1004	北宋	
186	446	30K	9	99SX926	ブロック1	祥符元寶		24.5	24.6	3.4	1009	北宋	加工銭
186	447	30K	9	99SX926	ブロック13	祥符元寶		25.6	25.5	3.2	1009	北宋	
186	448	30K	9	99SX926	ブロック10	祥符通寶		25.2	25.5	2.8	1009	北宋	
186	449	30K	9	99SX926	ブロック7	祥符通寶		24.6	24.6	3.2	1009	北宋	加工銭
186	450	30K	9	99SX926	ブロック7	祥符通寶		24.6	24.9	3.1	1009	北宋	加工銭
186	451	30K	9	99SX926	ブロック1	天禧通寶		24.5	24.5	2.6	1017	北宋	
186	452	30K	9	99SX926	ブロック6	天禧通寶		25.6	25.6	3.7	1017	北宋	
186	453	30K	9	99SX926	ブロック3	天聖元寶	真書	25.0	25.0	4.4	1023	北宋	
186	454	30K	9	99SX926	ブロック9・11	天聖元寶	真書	22.2	21.6	2.2	1023	北宋	加工銭
186	455	30K	9	99SX926	ブロック13	天聖元寶	真書	24.7	24.7	3.2	1023	北宋	
186	456	30K	9	99SX926	ブロック12	天聖元寶	真書	25.0	24.8	3.6	1023	北宋	
186	457	30K	9	99SX926	ブロック9	天聖元寶	篆書	24.1	23.9	2.6	1023	北宋	
186	458	30K	9	99SX926	ブロック1	天聖元寶	篆書	25.3	25.3	3.4	1023	北宋	
186	459	30K	9	99SX926	ブロック1	景祐元寶	真書	25.0	25.1	3.2	1034	北宋	加工銭
186	460	30K	9	99SX926	ブロック6	景祐元寶	篆書	25.0	25.0	3.3	1034	北宋	
186	461	30K	9	99SX926	ブロック6	明道元寶	真書	25.5	25.5	3.3	1032	北宋	加工銭
186	462	30K	9	99SX926	ブロック3	皇宋通寶	真書	24.2	24.6	3.7	1038	北宋	
186	463	30K	9	99SX926	ブロック5	皇宋通寶	真書	23.6	23.6	2.5	1038	北宋	
186	464	30K	9	99SX926	ブロック3	皇宋通寶	真書	25.0	24.8	2.9	1038	北宋	
186	465	30K	9	99SX926	ブロック9・11	皇宋通寶	真書	22.4	21.5	2.7	1038	北宋	
186	466	30K	9	99SX926	ブロック3	皇宋通寶	篆書	25.0	25.0	2.6	1038	北宋	
186	467	30K	9	99SX926	ブロック5	皇宋通寶	篆書	24.2	24.1	3.5	1038	北宋	加工銭

図版番号	報告番号	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位ほか	銭名	書体	長さ（㎜）	幅（㎜）	重量（ｇ）	初鋳年（西暦）	時代	備　　考
186	468	30K	9	99SX926	ブロック13	皇宋通寶	篆書	24.6	24.1	3.1	1038	北宋	
186	469	30K	9	99SX926	ブロック13	至和元寶	真書	24.4	24.5	2.9	1054	北宋	
186	470	30K	9	99SX926	ブロック9・11	至和元寶	篆書	24.5	23.7	3.3	1054	北宋	加工銭
186	471	30K	9	99SX926	ブロック6	至和通寶	真書	25.2	25.2	3.7	1054	北宋	
186	472	30K	9	99SX926	ブロック9・11	嘉祐元寶	真書	23.6	23.8	3.0	1056	北宋	
186	473	30K	9	99SX926	ブロック3	嘉祐元寶	真書	23.2	23.7	2.8	1056	北宋	加工銭
186	474	30K	9	99SX926	ブロック5	嘉祐通寶	真書	24.6	24.4	3.3	1056	北宋	
186	475	30K	9	99SX926	ブロック12	嘉祐通寶	篆書	24.7	24.6	3.0	1056	北宋	
186	476	30K	9	99SX926	ブロック1	嘉祐通寶	篆書	25.1	24.5	3.3	1056	北宋	
186	477	30K	9	99SX926	―	嘉祐通寶	真書	23.9	23.9	2.8	1056	北宋	
187	478	30K	9	99SX926	ブロック3	治平元寶	真書	23.4	23.6	3.9	1064	北宋	
187	479	30K	9	99SX926	―	治平元寶	真書	24.6	24.6	3.9	1064	北宋	
187	480	30K	9	99SX926	ブロック6	治平元寶	篆書	24.8	24.5	3.5	1064	北宋	
187	481	30K	9	99SX926	ブロック10	治平通寶	真書	24.9	24.7	3.6	1064	北宋	
187	482	30K	9	99SX926	ブロック6	熙寧元宝	真書	23.7	23.7	3.6	1068	北宋	
187	483	30K	9	99SX926	ブロック5	熙寧元宝	真書	23.7	23.8	3.2	1068	北宋	加工銭
187	484	30K	9	99SX926	ブロック1	熙寧元宝	真書	24.2	24.1	4.0	1068	北宋	
187	485	30K	9	99SX926	ブロック1	熙寧元宝	真書	23.1	23.1	3.4	1068	北宋	加工銭
187	486	30K	9	99SX926	ブロック10	熙寧元宝	篆書	24.4	24.0	4.2	1068	北宋	
187	487	30K	9	99SX926	ブロック3	熙寧元宝	篆書	25.0	25.0	4.5	1068	北宋	
187	488	30K	9	99SX926	ブロック3	元豊通寶	行書	24.8	24.7	4.0	1078	北宋	
187	489	30K	9	99SX926	ブロック1	元豊通寶	行書	24.8	24.8	3.0	1078	北宋	
187	490	30K	9	99SX926	ブロック7	元豊通寶	行書	24.4	24.4	3.7	1078	北宋	
187	491	30K	9	99SX926	ブロック3	元豊通寶	行書	25.4	25.4	3.5	1078	北宋	
187	492	30K	9	99SX926	ブロック12	元豊通寶	篆書	24.8	24.0	3.6	1078	北宋	
187	493	30K	9	99SX926	ブロック8	元祐通寶	行書	24.4	24.4	3.2	1086	北宋	
187	494	30K	9	99SX926	ブロック5	元祐通寶	行書	24.7	24.8	3.4	1086	北宋	
187	495	30K	9	99SX926	ブロック4	元祐通寶	行書	24.8	24.6	4.0	1086	北宋	
187	496	30K	9	99SX926	ブロック4	元祐通寶	行書	24.6	24.7	3.8	1086	北宋	
187	497	30K	9	99SX926	ブロック12	元祐通寶	篆書	24.2	24.2	3.7	1086	北宋	
187	498	30K	9	99SX926	ブロック6	元祐通寶	篆書	24.6	24.5	3.0	1086	北宋	
187	499	30K	9	99SX926	ブロック1	元祐通寶	篆書	24.9	24.9	3.1	1086	北宋	
187	500	30K	9	99SX926	―	紹聖元寶	行書	24.0	24.1	3.0	1094	北宋	加工銭
187	501	30K	9	99SX926	―	紹聖元寶	行書	24.7	24.8	3.9	1094	北宋	
187	502	30K	9	99SX926	ブロック8	紹聖元寶	行書	24.1	24.1	3.9	1094	北宋	
187	503	30K	9	99SX926	ブロック12	紹聖元寶	篆書	25.0	25.0	3.7	1094	北宋	
187	504	30K	9	99SX926	ブロック10	紹聖元寶	篆書	24.0	24.0	4.4	1094	北宋	加工銭
187	505	30K	9	99SX926	ブロック5	紹聖元寶	篆書	23.9	23.9	3.4	1094	北宋	
187	506	30K	9	99SX926	ブロック11	元符通寶	行書	25.0	25.0	3.8	1098	北宋	
187	507	30K	9	99SX926	ブロック5	元符通寶	篆書	23.8	24.0	3.4	1098	北宋	加工銭
187	508	30K	9	99SX926	―	聖宋元寶	行書	24.2	24.2	2.5	1101	北宋	
187	509	30K	9	99SX926	ブロック4	聖宋元寶	行書	25.1	24.9	3.6	1101	北宋	
187	510	30K	9	99SX926	―	聖宋元寶	行書	24.4	24.7	3.7	1101	北宋	
187	511	30K	9	99SX926	ブロック13	聖宋元寶	篆書	23.9	24.0	3.0	1101	北宋	
187	512	30K	9	99SX926	ブロック4	聖宋元寶	篆書	24.7	25.1	3.4	1101	北宋	加工銭
187	513	30K	9	99SX926	ブロック3	大観通寶		24.7	24.8	3.3	1107	北宋	
187	514	30K	9	99SX926	ブロック9・11	大観通寶		24.8	24.5	3.6	1107	北宋	加工銭
187	515	30K	9	99SX926	ブロック8	政和通寶	分楷	24.9	24.7	3.2	1111	北宋	
187	516	30K	9	99SX926	ブロック9・11	政和通寶	分楷	24.6	24.6	3.9	1111	北宋	加工銭
187	517	30K	9	99SX926	ブロック10	政和通寶	分楷	25.0	25.0	3.5	1111	北宋	加工銭
187	518	30K	9	99SX926	ブロック12	政和通寶	分楷	22.3	23.1	2.6	1111	北宋	
187	519	30K	9	99SX926	ブロック8	政和通寶	篆書	24.7	24.7	3.7	1111	北宋	
187	520	30K	9	99SX926	ブロック9・11	政和通寶	篆書	25.2	25.2	3.1	1111	北宋	加工銭
187	521	30K	9	99SX926	ブロック12	政和通寶	篆書	24.9	24.8	3.7	1111	北宋	加工銭
187	522	30K	9	99SX926	―	宣和通寶	分楷	24.3	24.4	3.4	1119	北宋	
187	523	30K	9	99SX926	―	宣和通寶	篆書	24.5	24.5	3.3	1119	北宋	
187	524	30K	9	99SX926	ブロック12	淳熙元寶	真書	23.5	23.8	3.0	1174	南宋	背月
187	525	30K	9	99SX926	ブロック12	淳熙元寶	真書	24.1	24.1	3.2	1174	南宋	背朔
187	526	30K	9	99SX926	ブロック9・11	淳熙元寶	真書	23.9	23.8	3.3	1174	南宋	背十
187	527	30K	9	99SX926	ブロック10	淳熙元寶	真書	24.0	24.0	3.2	1174	南宋	背十一
187	528	30K	9	99SX926	ブロック10	淳熙元寶	真書	24.4	24.5	3.6	1174	南宋	背十四
187	529	30K	9	99SX926	ブロック12	紹熙元寶	真書	24.0	24.1	3.3	1174	南宋	背四
187	530	30K	9	99SX926	ブロック4	慶元通寶	真書	23.8	24.0	3.8	1195	南宋	背五
187	531	30K	9	99SX926	―	慶元通寶		24.8	24.6	4.1	1195	南宋	背三
187	532	30K	9	99SX926	―	慶元通寶		24.5	24.7	3.7	1195	南宋	背四
187	533	30K	9	99SX926	ブロック9・11	嘉定通寶		24.1	24.3	3.6	1208	南宋	背十一
187	534	30K	9	99SX926	ブロック4	嘉定通寶		23.9	24.1	3.9	1208	南宋	背十二
187	535	30K	9	99SX926	―	淳祐元寶		23.6	23.6	2.6	1241	南宋	背三
187	536	30K	9	99SX926	ブロック1	正隆元寶		24.3	24.4	2.7	1157	金	背月
187	537	30K	9	99SX926	ブロック5	三韓重寶	真書	24.0	24.9	4.6	1097	高麗	

木器

図版番号	報告番号	種　類	器　種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位ほか	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	製作痕跡	消費痕跡	備　考
174	48	芯持丸太	杭	23H	12・13	98SX40	N031	1045	43	41	下端に加工痕、側面に3～10㎝間隔の刻み目		
174	49	芯持丸太	杭	23H	12・13	98SX40	N015	645	70	62	上下端に加工痕		
174	50	芯持丸太	杭	23H	12・13	98SX40	N029	613	46	39	上下端・側面に加工痕		
174	51	芯持丸太	杭	23H	12・13	98SX40	NO13	612	60	48	上下端・側面に加工痕、側面に3～10㎝間隔の刻み目		
174	52	芯持丸太	杭	23H	12・13	98SX40	NO11	565	39	42	上下端・側面に加工痕、側面に3～10㎝間隔の刻み目		
174	53	芯持丸太	杭	23H	12・13	98SX40	—	（527）	54	44	下端に加工痕、側面に3～10㎝間隔の刻み目		
174	54	芯持丸太	杭	23H	12・13	98SX40	NO24	（400）	36	51	下端に加工痕、側面に3～10㎝間隔の刻み目		
174	55	芯持丸太	杭	23H	12・13	98SX40	NO11	（408）	43	42	下端に加工痕、側面に3～10㎝間隔の刻み目		
174	56	芯持丸太	杭	23H	12・13	98SX40	NO26	（450）	36	36	上下端・側面に加工痕		
176	150	柾目	円形曲物側板	27M	23	99SE2401	中	294	168	258	皮綴じ1列4段		
176	151	柾目	円形底板	27M	23	99SE2401	中	（236）	（134）	（8）	正面・裏面擦痕、左側面木釘4ヵ所、右側面木釘2ヶ所		
176	152	柾目	円形板	27M	23	99SE2401	下	240	241	10	正面・裏面横方向の擦痕	正面炭化物	
177	164	板目	木簡	28N	23	99SE1388	NO16	237	32	3	正面斜め方向の擦痕		墨書判読不可
180	293	柾目	円形板	31L	18	99SE231	下	（235）	（85）	10		正面・裏面炭化物	295と同一個体
180	294	板目	円形板	31L	18	99SE231	下	（216）	（32）	4		正面・裏面炭化物・斜め方向の擦痕	
180	295	柾目	円形板	31L	18	99SE231	下	（171）	（41）	8		正面炭化物	293と同一個体
180	296	板目	楔	31L	18	99SE231	—	81	30	8			
182	297	横木	椀	30I	8・13	99SE813	下	—	—	—	内外面黒色漆		
181	298	柾目	円形曲物	30J	8・13	99SE813	下	262	143	—	底板側面木釘（痕）8ヵ所、側板皮綴じ	底板内外面擦痕、外面炭化物	
181	299	柾目	板材	30J	8・13	99SE813	下	（451）	90	8	上端木釘2ヶ所、右端木釘4ヵ所、正面加工痕		
181	300	板目	板材	30J	8・13	99SE813	NO13	（810）	220	20	正面加工痕		
181	301	板目	井土側桟木	30J	8・13	99SE813	NO10	926	70	60	上下側面・正面・裏面・左右側面加工痕		
181	302	板目	井土側桟木	30J	8・13	99SE813	NO9-2	892	65	47	上下側面・正面・裏面・左右側面加工痕		
181	303	板目	井戸側板	30J	8・13	99SE813	NO4-1	（1110）	115	9			
181	304	板目	井戸側板	30J	8・13	99SE813	NO3	（1091）	125	11			
181	305	板目	井戸側支柱	30J	8・13	99SE813	NO6	（1277）	121	1090	下側面・正面・裏面・左右側面加工痕		
181	306	板目	井戸側支柱	30J	8・13	99SE813	NO4	（1576）	121	109	下側面・正面・裏面・左右側面加工痕		
181	307	板目	井戸側支柱	30J	8・13	99SE813	NO5	（1380）	130	92	下側面・正面・裏面・左右側面加工痕		
181	308	板目	井戸側支柱	30J	8・13	99SE813	N03	（1326）	118	90	下側面・正面・裏面・左右側面加工痕		
181	309	板目	柄	30J	8・13	99SE813	N07-2	885	35	30		右側面5～10㎝間隔の刻み目	
182	310	板目	井戸側板	30J	8・13	99SE813	N09	1653	403	32	正面・裏面に加工痕	正面に桟木痕	
182	311	板目	井戸側板	30J	8・13	99SE813	NO5	1585	474	28	正面に加工痕	正面に桟木痕	
182	312	板目	井戸側板	30J	8・13	99SE813	NO2	1610	478	26	正面に加工痕	裏面に桟木痕	
182	313	板目	井戸側板	30J	8・13	99SE813	NO1	1755	429	28	正面・裏面に加工痕	裏面に桟木痕	
182	319	ヒョウタン	柄杓身	30K	2	99SE831	下	（129）	（120）	（15）			
182	320	横木	椀	30K	2	99SE831	下	132	36	68	内外面黒色漆		
182	321	横木・板目	椀	30K	2	99SE831	下	—	—	100	内外面黒色漆		
182	322	横木	椀	30K	2	99SE831	下	—	—	72	内面赤色漆、外面黒色漆後、赤色漆による文様		
182	323	横木・柾目	椀	30K	2	99SE831	下	（178）	84	84	内面赤色漆、外面黒色漆後、赤色漆による文様		
182	324	柾目	円形板	30K	2	99SE831	下	（211）	（78）	14	左側面に木釘2ヶ所	正面・裏面炭化物・擦痕	
183	330	柾目	円形底板	30J	2・3	99SE811	下	（149）	（91）	7	左側面に木釘1ヶ所	正面・裏面の1部炭化物・擦痕	
188	562	柾目	板材	30Q	1	99SE1905		289	61	5	正面・裏面横方向の擦痕	正面・裏面の1部炭化、裏面斜め方向の擦痕	
188	563	柾目	板材	30Q	1	99SE1905		（104）	45	7	裏面横方向の擦痕	正面炭化・径5㎜の穴5ヵ所	
188	564	柾目	円形板	30Q	1	99SE1905		（163）	（40）	5		正面炭化・径5㎜の穴2ヵ所、裏面斜め方向の擦痕	
188	565	柾目	板材	30Q	1	99SE1905		（77）	26	8		正面炭化・斜め方向の擦痕、径5㎜の穴2ヶ所	
188	566	柾目	円形板	30Q	1	99SE1905		（96）	（34）	6		正面炭化、径4㎜の穴2ヶ所	
188	567	柾目	板材	30Q	1	99SE1905		（38）	97	10		正面1部炭化・斜め方向の擦痕、径7㎜の穴2ヶ所	

図版番号	報告番号	種　類	器　種	大グリッド	小グリッド	遺　構	層位ほか	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	製作痕跡	消費痕跡	備　考
188	568	柾目	円形板	30Q	1	99SE1905		（383）	（101）	9		正面炭化、径6㎜の穴1ヵ所、正面・裏面斜め方向の擦痕	
188	569	柾目	板材	30Q	1	99SE1905		（252）	（48）	11		正面1部炭化・正面左下径6㎜の穴	
188	570	芯持丸太	杭？	30Q	1	99SE1905		（295）	43	40		表面炭化	
188	571	板目	板材	30Q	1	99SE1905		（586）	130	9	裏面加工痕	正面炭化・径4㎜の穴1ヵ所	
188	572	柾目？	箸	30P	18	99SE2050		（180）	7	4			
188	573	柾目？	箸	30P	18	99SE2050		202	5	6	両口	折れ	
188	574	柾目？	箸	30P	18	99SE2050		（92）	5	5		折れ	
188	575	柾目？	箸	30P	18	99SE2050		（70）	6	5		折れ	
188	576	芯持丸太	杭	30P	18	99SE2050		（24）	41	35		上端炭化	
188	577	柾目	柄杓柄	30P	18	99SE2050		304	16	16			
190	615	柾目	杓子	29T	6・7	99SE1465	5	258	63	5		先端摩耗、正面横方向の擦痕	
190	621	板目	桝部材	—	—	99SE1373		143	90	11	下側面7ヵ所・左右側面3ヵ所の木釘（痕）	正面中央に径7㎜の穴	
190		芯持丸太材	杭	30K	2	99SK831		426	41	35			

金属器

図版番号	報告番号	素材	器　種	大グリッド	小グリッド	遺構名	層位	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	最大径（㎜）	重量（g）	備　考
173	1	鉄	蓋	11I	—	1号塚	I	9	3	1	10	146.6	
173	47	鉄	刀子	18I	20	92SD98	下	（66）	a：18　b：9	3	—	10.4	
175	116	鉄	釘	—	—	ピット424	1	（45）	10	8	—	10.9	
175	117	鉄	釘	32J	15	99SK524	1	（42）	a：12　b：9	7	—	8.7	
175	118	鉄	不明	29J	25	99SK1745	—	32	33	a：11　b：6	—	29.1	輪状
176	137	鉄	不明	28L	20	99P2495	1	50	49	14	—	60.6	輪状
176	142	鉄	釘	28L	21	99SE1725	—	（45）	a：17　b：11	10	—	12.4	
176	146	鉄	瓶	28L	25	99SE1731	下	144	186	154	240		
176	147	鉄	釘	20J	7	98SD23	1	（42）	a：14　b：9	（10）	—	8.4	
176	148	鉄	釘	20K 20L	—	98SD3B	2	（48）	18	8	—	24.2	
184	402	鉄	釘	30K	—	—	—	41	a：12　b：6	a：7　b：5	8	8.3	
184	403	鉄	釘？	30J	3	99P721	—	（77）	8	6	—	16.4	
184	404	鉄	釘	28K 28L	1・2・7・21	99SK2491	1	（64）	8	9	—	44.6	
189	596	鉄	鉢？	30O	12	99P2126	—	29	—	—	—	322.9	
189	597	鉄	釘	29Q	16	—	—	（54）	13	8	—	18.1	
189	598	鉄	釘	29P	23	99P1582	1	（50）	a：14　b：10	10	—	22.2	
189	599	鉄	釘	26J 27J	—	99SD1190	1	（58）	7	6	—	18.3	
189	600	銅	不明	29P	5	—	Ⅳa	15	12	1	—	0.3	
190	615	鉄	鋤・鍬先	29T	12	99SE1465	床	296	211	a：16　b：5	—	792.3	
190	617	鉄	不明	29U	21	99SE1468	7	（42）	15	5	—	5.0	
191	674	鉛	砲弾	22I	22	—	Ⅲ	（35）	（8）	16	—	28.6	
195	834	鉄	棒状鉄製品	27I	12	2号墳	1	（82）	8	4	—	34.4	
196	871	鉄	不明	17I	21～25	92SI105	—	（32）	6	5	—	4.7	
197	872	銅	鏡	28J	14	1号墳	床				—	29.0	
197	914	鉄	釘	14K	15	—	Ⅴ	（41）	a：12　b：6	a：11　b：5	—	8.4	
199	1016	鉄	不明	29N	4	—	Ⅴ	（47）	20	5	—	13.7	
199	1017	鉄	刀子	31Q	18	—	Ⅴ	（93）	a：26　b：16	a：.4　b：4	—	44.5	

石器（縄文時代～弥生時代）

図版番号	報告番号	器種・種別	大グリッド	小グリッド	遺　構	層　位	石　材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	備　考
201	1073	石鏃	11J	—	1号周溝墓周溝2		頁岩	31.3	14.8	4.5	1.53	完形。
201	1074	石鏃	22J	7		Ⅲ層	チャート	29.2	18.2	5.4	1.58	先端部欠損。裏面に素材の主剥離面残存。
201	1075	石鏃	13M	—			珪質頁岩	29.6	16.7	6.3	2.06	完形。
201	1076	石鏃	27J	25		Va層	珪質頁岩	25.2	17.5	4.3	1.37	周縁部からの浅形調整によって成形。
201	1077	石鏃	13M	—			珪質頁岩	24.7	13.4	5.7	1.16	完形。
201	1078	石鏃	28J	16		Va層	頁岩	24.0	14.7	5.9	1.38	完形。
201	1079	石鏃	19I	13			チャート	19.0	10.4	4.0	0.67	完形。
201	1080	石鏃	29M	3		Va層	珪質頁岩	14.9	15.5	2.5	0.55	先端部および茎部欠損。
201	1081	石鏃	29M	7		Va層	チャート	36.2	12.7	5.3	1.62	完形。
201	1082	石鏃	—	—		Va層	珪質頁岩	52.5	14.1	6.8	3.71	完形。
201	1083	石鏃	28I	15		Ⅲa層	チャート	24.3	14.9	4.3	0.85	完形。
201	1084	石鏃	11J	4	98SD74	Ⅳ層	珪質頁岩	29.7	15.0	7.4	2.52	完形。
201	1085	石鏃	23J	14		Va層	珪質頁岩	27.4	18.4	5.7	1.71	先端部欠損。
201	1086	石鏃	25I	21		Ⅳa層	チャート	20.9	14.0	3.4	1.01	先端部および茎部欠損。
201	1087	石鏃	12I	24	1号周溝墓周溝3	下層	珪質頁岩	25.6	18.4	6.2	1.46	完形。脚部左右非対称
201	1088	石鏃	23J	14		Va層	珪質頁岩	28.2	15.5	3.5	1.37	完形。

付表2　遺物観察表

図版番号	報告番号	器種・種別	大グリッド	小グリッド	遺　構	層　位	石　材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	備　　考
201	1089	石鏃	14L	24		Ⅲ層	珪質頁岩	35.1	15.0	6.5	2.09	先端部に樋状剥離あり。
201	1090	石鏃	12J	—	1号周溝墓周溝2		チャート	40.6	15.9	6.2	2.05	表面左側縁にダメージ。表裏中央付近に素材の剥離面残存。
201	1091	石鏃	25I	21		Ⅳa層	珪質頁岩	43.2	14.3	10.8	6.81	未成品か。
201	1092	石鏃	30I	1・2	99SK710	上層	玉髄	33.6	12.6	6.8	2.51	完形。
201	1093	石鏃	28I	25		Ⅳa層	頁岩	24.5	11.0	4.4	0.93	完形。
201	1094	石鏃	31M	16		Ⅳ層	鉄石英	24.2	10.0	4.8	1.39	完形。
201	1095	石鏃	13I	—		Ⅰ層	頁岩	20.8	9.8	6.6	1.32	完形。
201	1096	石鏃	28L	22		Ⅴa層	緑色凝灰岩	17.4	15.2	3.4	0.78	急斜度浅形調整によって整形。
201	1097	石鏃	12K	13		Ⅲ層	頁岩	21.2	12.2	4.2	0.83	先端部未整形か
201	1098	石鏃	18IJ，19IJ	—	92SI102		頁岩	27.0	13.6	5.3	1.44	完形
201	1099	石鏃	12J	—	1号周溝墓周溝2		珪質頁岩	25.1	12.2	3.6	0.81	基部両側縁に抉りあり。裏面に素材の主剥離面残存。
201	1100	石鏃	29J	15		Ⅳa層	珪質頁岩	33.3	24.1	7.0	4.41	完形
201	1101	石鏃	21H	5		Ⅲ層	珪質頁岩	32.7	17.5	4.9	2.24	完形
201	1102	石鏃	26J	1		Ⅴa層	黒曜石	28.4	20.5	3.0	1.42	完形
201	1103	石鏃	28N	16		Ⅴ層	頁岩	24.3	16.3	4.6	1.22	完形
201	1104	石鏃	22G	6		Ⅲ層	水晶	18.9	18.3	5.4	2.09	先端部欠損。
202	1105	石鏃未製品	21H	17		Ⅲ層	珪質岩	28.7	17.2	5.0	1.68	茎部のみ作出。
202	1106	石鏃未製品	17J	12		Ⅳa層	珪質頁岩	30.3	12.7	5.9	2.15	表面両側縁・裏面左側縁に調整あり。
202	1107	石鏃未製品	26I	13		Ⅳa層	珪質頁岩	34.9	19.1	6.4	4.07	ほぼ全周に調整。裏面下部に深形調整によるバルブはずし。
202	1108	石鏃未製品	28J	13		Ⅴa層	珪質頁岩	41.0	15.8	7.9	4.75	先端部および下端部に調整あり。
202	1109	石鏃未製品	16K	—			珪質頁岩	29.2	21.4	5.3	4.08	左側縁に表裏両面から調整。
202	1110	石鏃未製品	28J	—			珪質頁岩	28.3	21.4	8.3	5.49	表裏左側縁にやや深形の調整あり。
202	1111	石鏃未製品	27J	—			珪質頁岩	32.5	24.8	8.5	8.09	表面に面的な調整顕著。
202	1112	石鏃未製品	28J	21		Ⅴa層	頁岩	44.7	27.8	10.3	9.47	基部および両側縁に調整あり。
202	1113	石鏃未製品	24K	24	98SD23		珪質頁岩	36.4	26.0	10.6	9.44	表面右側縁に表裏両面からの調整顕著。
202	1114	石鏃未製品	—	—			黒曜石	28.5	21.5	9.3	5.57	両側縁・下端部に調整あり。
202	1115	石鏃未製品	11J	23	1号周溝墓		頁岩	49.0	25.9	11.5	14.68	深形調整による全体的な調整あり。
202	1116	石鏃未製品	10J	2	98SD74	2層	珪質頁岩	26.0	36.6	8.4	6.43	横型剥片の打点付近に調整あり。
202	1117	石鏃未製品	27G	14	99SK857	1層	珪質頁岩	44.3	32.3	9.2	11.16	横型剥片を用い、深形調整によって尖頭部を作出。
202	1118	石鏃未製品	27HI	—	99SD769	1層	珪質頁岩	49.9	28.7	11.0	9.97	折断によって素材を三角に成形。左側縁上部に調整あり。
202	1119	石鏃未製品	25I	5		Ⅳa層	珪質頁岩	46.4	27.9	9.8	11.68	折断によって素材を三角に成形。
202	1120	石鏃未製品	27K	22		Ⅰ層	珪質頁岩	84.9	56.1	23.9	70.72	やや大型の素材剥片を周縁部から調整。
203	1121	石鏃未製品	28I	5		Ⅳa層	珪質頁岩	45.5	32.0	10.4	14.17	片面に自然面を大きく残す。
203	1122	石鏃未製品	14K	24		Ⅳ層	チャート	48.0	35.3	14.3	25.15	片面に自然面を大きく残す。
203	1123	石鏃未製品	24I	14		Ⅳ層	珪質頁岩	40.5	38.2	13.2	17.20	表面中央・裏面に自然面を残す。扁平な円礫を成形か。
203	1124	石鏃素材	30K	19	99SD30		チャート	26.4	22.3	6.0	4.49	小円礫を縦割りにした剥片。
203	1125	石錐	11K畦部分	22		Ⅲ層	チャート	27.2	12.8	5.0	1.59	先端部に摩滅が観察できる
203	1126	石錐	30J	—		Ⅱ層	珪質頁岩	30.9	9.0	5.7	1.34	完形。
203	1127	石錐	10K	18	98SD74	2層	珪質頁岩	32.4	12.0	7.1	2.41	完形。
203	1128	石錐	28K	18		Ⅰ層	珪質頁岩	24.2	22.4	6.9	3.37	先端部欠損。表面に自然面を残す。
203	1129	石匙	27J	14		Ⅴa層	珪質頁岩	30.8	38.8	7.3	4.37	完形。
203	1130	石匙	15H	—	89SK29		ガラス質黒色安山岩	41.9	42.8	10.8	14.07	調整が粗い。未成品か。
204	1131	不定形剥片石器	30J	—	99SD308		珪質頁岩	38.6	40.1	12.3	20.54	右側縁に微細剥離あり。
204	1132	不定形剥片石器	15K	4	89SD18	Ⅰ層	珪質頁岩	67.1	46.6	18.3	41.19	裏面からの調整によって尖頭部作出。
204	1133	不定形剥片石器	27H	3		Ⅳa層	頁岩	68.3	45.5	14.6	32.18	表面に自然面を大きく残す。裏面からの調整顕著。
204	1134	不定形剥片石器	15K	16		Ⅲ層	珪質頁岩	74.8	36.9	18.3	35.85	表面に節理面を大きく残し、右側縁上部に樋状剥離あり。
204	1135	不定形剥片石器	27J	15		Ⅴa層	珪質頁岩	59.5	60.2	18.8	48.98	自然面から裏面への調整顕著。
204	1136	不定形剥片石器	12J	—	I号周溝墓周溝3		頁岩	77.5	31.6	18.7	32.98	厚手の縦長剥片尖端部裏面に部分的調整。
204	1137	不定形剥片石器	28J	—			頁岩	73.8	46.3	22.8	67.73	下端部に調整あり。
205	1138	磨製石斧	17I	7・12	92SK72	2層	閃緑岩	72.0	70.0	37.0	232.80	1138と同一個体か。
205	1139	磨製石斧	27I	7		Ⅳa層	閃緑岩	39.0	68.0	43.0	198.20	1138と同一個体か。
205	1140	磨製石斧	31L	18	99SE231	1層	安山岩	71.0	60.0	40.0	273.80	折損面を再加工。右側面・裏面右側に整形剥離痕残存。石材は緑灰色。
205	1141	磨製石斧	30O	3		表土	蛇紋岩	41.0	32.0	10.0	26.70	折損面を研磨して再加工。表裏両面に擦切痕。
205	1142	磨製石斧	14L	20		Ⅲ層	頁岩	45.0	32.0	10.0	26.00	折損面を再加工。表裏両面に整形剥離痕が広く残存。
205	1143	磨製石斧	19J	1		Ⅲ層	閃緑岩	55.0	62.0	16.0	83.50	刃部欠損。ガジリ痕多数。
205	1144	磨製石斧	30M	13	99SK925		蛇紋岩	75.0	39.0	14.0	77.00	頭部の剥離は整形剥離痕。
205	1145	磨製石斧	27H	10		Ⅳa層	蛇紋岩	50.0	40.0	18.0	37.90	頭部欠損。
205	1146	磨製石斧	27J	5		Ⅳa層	蛇紋岩	77.0	50.0	19.0	115.00	敲打具として再利用。頭部折損。
205	1147	磨製石斧	25H	12		Ⅳa層	安山岩	81.0	48.0	28.0	152.80	折損面を剥離・敲打して頭部再加工。
206	1148	磨製石斧	—	—		排土	砂岩	100.0	56.0	30.0	273.90	刃部再加工途上。ガジリ痕多数。
206	1149	磨製石斧	30P	25		Ⅳa層	安山岩	98.0	50.0	28.0	190.80	器面の風化著しい。
206	1150	磨製石斧	30J	17		Ⅰ・Ⅱ層	蛇紋岩	82.0	43.0	19.0	65.60	整形剥離途上。裏面はほぼ全面が礫面。

図版番号	報告番号	器種・種別	大グリッド	小グリッド	遺　構	層　位	石　材	長さ（㎜）	幅（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	備　　考
206	1151	磨製石斧	28J	7		Va層	蛇紋岩	62.0	45.0	20.0	84.50	裏面・頭部に礫面残存。円礫素材。刃部折損。
206	1152	磨製石斧	—	—			蛇紋岩	45.0	29.0	11.0	20.70	頭部折損。正面右側の剥離は整形剥離痕。
206	1153	磨石類	29LM，30LM	—	99SI2339	1層	硬砂岩	94.0	62.0	57.0	511.70	
206	1154	磨石類	31N	22		Ⅲa層	無斑晶質安山岩	94.0	68.0	71.0	543.00	礫両端利用。左半部欠損。
206	1155	磨石類	30O	3		表土	安山岩	73.0	65.0	57.0	303.30	礫下端利用。上半部折損。
206	1156	磨石類	33M	10		Ⅲa層	砂岩	95.0	57.0	39.0	209.00	礫下端利用。右上端部欠損。
206	1157	磨石類	29J	18	99SK2056	下層	砂岩	94.0	69.0	33.0	326.20	礫下端・両側面利用。上端部折損。
206	1158	磨石類	25K	23		Ⅳa層	安山岩	85.0	74.0	41.0	393.70	礫下端・両側面利用。上半部折損。
206	1159	磨石類	20K	23		Ⅳa層	安山岩	125.0	96.0	58.0	1159.00	礫下端・両側面利用。表裏に浅い凹陥。上端部欠損。
207	1160	磨石類	9L	18	9Lピット2	1層	頁岩	131.0	95.0	49.0	845.10	礫両端・両側面・裏面利用。礫は軽度に珪質化。
207	1161	磨石類	28M	12	99SE1358	Ⅳ層	安山岩	100.0	72.0	40.0	457.40	礫下端・両側面利用。ガジリ痕多数。
207	1162	磨石類	21K	15		Ⅲ層	安山岩	106.0	79.0	40.0	500.20	礫両端・両面利用。両面の敲打痕は凹陥を呈さない。
207	1163	磨石類	31L	1		Ⅴ層	安山岩	148.0	127.0	67.0	1959.80	礫上端・両側面・正面利用。裏面下端部に1枚の剥離。
207	1164	磨石類	27L	8		Ⅳa層	安山岩	127.0	112.0	59.0	1001.40	両側面利用。正面に炭化物付着。熱変赤化。
207	1165	磨石類	27I	1		Va層	砂岩	92.0	63.0	37.0	320.50	礫側面全周・両面利用。
207	1166	磨石類	20K	18		Ⅴ層	砂岩	89.0	63.0	59.0	332.60	礫下端を敲打。正面中央に2か所の凹陥。裏面剥落。
207	1167	磨石類	30I	—			安山岩	89.0	91.0	45.0	468.40	礫両面に範囲不明瞭な凹陥。ガジリ痕多数。上側面はガジリ痕か。
208	1168	磨石類	30K	1	99SE831	下層	安山岩	234.0	172.0	113.0		礫の6面すべてに径7㎝程度の凹陥。その周囲に敲打痕。
208	1169	石錘	30O	—	99SD2127	1層	頁岩	89.0	63.0	24.0	194.50	礫は軽度に珪質化。
208	1170	石錘	15G	—	89SI20		花崗岩	75.0	69.0	25.0	192.80	
208	1171	石錘	25J	7		Ⅳa層	安山岩	95.0	97.0	33.0	388.60	全面にガジリ痕多数。
208	1172	石錘	24J	25		Ⅳa層	砂岩	60.0	49.0	22.0	81.40	裏面中央にガジリ痕。
208	1173	石錘	24I	14		Ⅳa層	花崗岩	47.0	43.0	13.0	40.40	
208	1174	石錘	24H	1		Ⅴ層	凝灰岩	108.0	80.0	30.0	261.50	両端と器体中央の一端から剥離。
208	1176	砥石	14L	20		Ⅲ層	凝灰岩	41.0	28.0	18.0	28.80	下半欠損。
208	1177	砥石？	27H	8		Ⅲ層	頁岩	100.0	55.0	17.0	11.70	石包丁様の石器あるいは硯か。正面中央にノミ状工具による切削痕。
209	1178	石核	14J	13			珪質頁岩	56.3	49.2	19.1	49.50	厚手の剥片を用いる。
209	1179	石核	28H	4		Ⅴ層	珪質頁岩	46.3	62.3	14.6	43.73	厚手の剥片を用いる。
209	1180	石核	32J	19		Ⅳb層	ガラス質黒色安山岩	33.1	83.7	32.0	79.62	下部に自然面を残す。
209	1181	石核	22H	4・5	98SK44		頁岩	75.7	95.0	63.4	595.50	円礫の形状を残す。
209	1182	石核	10J	4	10JP2	1層	珪質頁岩	86.0	159.3	95.5	1226.00	大型。
210	1183	小玉	4K	13	98SD137	2層	ガラス	7.5	8.0	8.0	0.83	完形。白濁した淡青色を呈する。
210	1184	管玉	30K	3	99SE831		緑色凝灰岩	9.7	2.6	2.6	0.08	完形。
210	1185	管玉	18I	25	92SD98		緑色凝灰岩	12.8	5.8	5.8	0.66	下部に傷あり。
210	1186	管玉	31P	23		Ⅴ層	緑色凝灰岩	18.8	9.4	9.4	0.83	下部欠損。上部および側面に僅かに線状痕あり。
210	1187	勾玉未製品	28J	16		Va層	緑色凝灰岩	21.7	8.8	5.5	1.13	穿孔せず。線状の加工痕残存。
210	1188	玉未成品	14J	—		表土	緑色凝灰岩	21.3	27.5	14.3	10.13	裏面右側縁に擦り切り痕あり。
210	1189	玉未成品	9L	23	2号周溝墓	Ⅲ層	緑色凝灰岩	31.6	14.3	12.5	7.13	裏面右側縁に擦り切り痕あり。
210	1190	玉未成品	28H	18		Ⅳa層	緑色凝灰岩	20.2	27.0	10.2	4.63	上部および裏面右側縁に擦り切り痕あり。
210	1191	玉未成品	27J	21		Ⅳa層	緑色凝灰岩	33.7	19.3	19.2	14.69	三面に面的調整あり。
210	1192	玉未成品	30O	8		Ⅲ層	緑色凝灰岩	34.0	19.6	16.0	13.18	右側縁に擦り切り痕あり。
210	1193	玉未成品	13L	25		Ⅴ層	緑色凝灰岩	39.3	52.9	20.8	33.18	右側縁下部に若干の調整あり。
210	1194	原石	11IJ，12IJ	—		Va層	翡翠	31.2	41.8	35.5	56.42	原石。
210	1195	原石	14I	—	1号周溝墓		翡翠	28.0	24.3	8.8	6.08	原石剥片。
211	1196	玉未成品	17T	—			緑色凝灰岩	47.5	34.8	30.5	48.79	原石。石材はいわゆる碧玉
211	1197	原石	27H	3		Ⅳa層	翡翠	95.5	65.3	49.4	508.50	原石。表面および下面に若干の磨り面あり。
211	1198	原石	11J	1	98SK98		翡翠	34.2	40.6	21.7	41.78	原石。
211	1199	敲き石	30J	16		Ⅳb層	珪質頁岩	90.0	85.1	28.0	507.50	周縁部に敲打痕・剥離が顕著。
211	1200	弾み車	29T	6・7	99SE1465		砂岩	48.0	49.0	13.4	32.14	2点接合。未穿孔の小穴あり。
211	1201	擦り切り具	12J	1	98SK98	Ⅳa層	頁岩	66.8	39.3	12.9	37.34	上部欠損。
211	1202	擦り切り具	15K	14	1号周溝墓	1層	硬質凝灰岩	56.6	37.6	6.6	13.59	上部および下部欠損。
212	1203	砥石	32J	22		Ⅳa層	軽石	130.7	96.3	52.3	121.50	表裏に磨り面。右側縁に浅い溝状の窪みあり。
212	1204	砥石	25J	3		Ⅳa層	砂岩	43.0	35.0	16.1	24.05	表面に2条の線状溝あり。
212	1205	砥石	30O	—	99SD2127	1層	軽石	79.7	64.8	45.1	37.50	側面に磨り成形痕。
212	1206	砥石	—	—	99ピット2046	1層	砂岩	64.3	51.4	25.2	69.45	表裏に磨り面。表面に2条の線状溝あり。
212	1207	砥石	9L	23	2号周溝墓	Ⅲ層	砂岩	135.4	145.0	43.6	744.00	表面に2条の線状溝および磨り面あり。
212	1208	砥石	30K	14	99SD922		砂岩	129.4	106.9	39.1	655.00	随所に線状溝。表面は被熱により黒変。
213	1209	砥石	20K	18		Ⅳa層	砂岩	154.5	104.7	49.3	738.00	表裏に磨り面。表面に2条・裏面に1条の線状溝あり。
213	1210	砥石	—	—			砂岩	203.8	129.8	40.3	1154.50	裏面に磨り面。表面に線状溝。
213	1211	石棒	15L	22		Ⅴ層	砂岩	101.0	41.0	41.0	130.00	胴部以下折損。

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ならさきいせき
書　　名	奈良崎遺跡
副 書 名	国道116号和島バイパス・二級河川郷本川広域基幹河川改修工事関係発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第116集
編 著 者 名	春日真実・小池義人・廣田吉三郎・森下章司・井上 巌・(株)古環境研究所・植田弥生・鈴木 茂・新山雅広
編 集 機 関	財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
所　在　地	〒956-0845　新潟県新津市大字金津93番地1　　TEL 0250（25）3981
発 行 機 関	新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	西暦2002（平成14）年11月15日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
奈良崎遺跡 （ならさきいせき）	新潟県三島郡 （にいがたけんさんとうぐん）	15-404	6	37度 35分 18秒	138度 46分 19秒	198807		道路（国道116号和島バイパス）
						19891024～19891205	1,940	
奈良崎城 （ならさきじょう）	和島村大字島崎 （わしまむらおおあざしまざき）		53	37度 35分 17秒	138度 46分 21秒	19920417～19940710	1,840	
						19951030～19951110	60	
奈良崎塚 （ならさきつか）	字奈良崎・小谷 （あざならさき・こたに）		54	37度 35分 18秒 （旧座標）	138度 46分 17秒 （旧座標）	19980413～19981214	5,500	河川改修（郷本川）
						19981007～19981105	300	
						19990419～19991219	8,300	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
奈良崎遺跡 奈良崎城 奈良崎塚	散布地	縄文時代前期～弥生時代中期		縄文土器･弥生土器・石器・玉作関係遺物	
	集落・墳墓	弥生時代後期～古墳時代前期	竪穴建物12・墳墓5・溝13・土坑7	土器・捩文鏡1・勾玉1・管玉3・鉄器	一辺中央に陸橋状施設を持つ県内最大クラスの方形周溝墓を検出
					古墳の埋葬施設から捩文鏡1・管玉1・勾玉1出土
	集落？	古墳時代後期	竪穴建物1？･土坑3･炭化材集中地点1	土師器・須恵器・滑石製有孔円盤	
	集落	奈良･平安時代	竪穴建物1～2	土師器・須恵器	
	墓地・山城	中世	地下式坑92・土坑243～370？・掘立柱建物33・井戸47・溝101～149？・削平段4・銭貨集中遺構1		地下式坑の検出数は県内最多
					『色部高長軍忠状案』に表れる「島崎城郭」の可能性が高い。
	その他	近世	掘立柱建物2？・土坑4～247？・溝57～105・炭窯5		

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第116集

国道116号和島バイパス・二級河川郷本川
広域基幹河川改修工事関係発掘調査報告書
奈 良 崎 遺 跡（本文編）

平成14年11月14日 印刷
平成14年11月15日 発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新津市大字金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社 第一印刷所
〒950-8724　新潟市和合町2丁目4番18
電話　025（285）7161

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第116集『奈良崎遺跡』 正誤表追加　　2018年11月追加

頁	位置	誤	正
抄録	北緯（旧座標）	３７度３５分１９秒	３７度３５分１８秒
抄録	東経（旧座標）	１３８度４６分１２秒	１３８度４６分１９秒

奈良崎遺跡正誤表

ページ	行	誤	正
3	5行目	た。一次調査の設定とトレンチの位置、出土遺物	た。一次調査のトレンチの位置、出土遺物
12	第9図中央下	小城・城山	小木ノ城山
16	第9表13・14段	巻町竹生野	巻町竹野
16	第9表16段	甘粕	県教委1980
31	12行	**性　格**　89SD18・23・3・53・34、99SD31	**性　格**　89SD18、98SD23・3B・53・34、99SD31
34	6・7行	切られる場合が確認できる。一方土坑C類	切られる場合が確認できる。一方(長)方形土坑C類
35	第16表2列	側版	側板
39	12行	(図版176・177)	(図版164・165)
39	17行	(図版60・61)	(図版50・51)
41	15行	99SD768(835～838)・1880(786～783)からは	99SD769(835～838)・1880(766～773)からは
41	下3行	周溝となる可能性がある(図版174)。	周溝となる可能性がある(図版161)。
42	15行	旧表土がそれぞれ3枚確認できる(図版177)。	旧表土がそれぞれ3枚確認できる(図版165)。
42	下12行	**3号周溝墓**(図版180):1辺10m以上になる	**3号周溝墓**(図版168):1辺10m以上になる
42	下11行	きなかった。周溝から土器が出土している(889)。	きなかった。周溝から土器が出土している(882)。
44	8行	**11HIJ・12HIJ**(第42図　図版28～30):地下式坑C3類	**11HIJ・12HIJ**(第42図　図版16～25):地下式坑C2類
45	3行	同C5類92SK112・113・126がこれを切る。	(長)方形土坑C5類92SK112・113・126がこれを切る。
45	9・16行	98SD74	98SD76
50	15・16行	不整形土坑99SK1711を切り、99SK933を切る。	不整形土坑99SK1711を切る。
50	下13行	99SK935に切られる。28IJ・29IJ(第47図)では	99SK936に切られる。28IJ・29IJ(第47図)では
51	12行・下11行	図版94～99	図版84～89
51	下15行	地下式坑D1類99SK2210、同C3類99SK2336	地下式坑D1類99SK2210、同C3類99SK2236
52	1行	29KL・30KL(第54図、図版104～111)	29KL・30KL(第54図、図版94～101)
53	5行	99SK2362は(楕)円形土坑99SK2374に切られ、	99SK2357は(楕)円形土坑99SK2358に切られ、
54	左下	第52図　28LMの遺構と変遷	第51図　28LMの遺構と変遷
54	右下	第51図　28KLの遺構と変遷	第52図　28KLの遺構と変遷
55	9行	(長)方形土坑C4類99SK1336	(長)方形土坑C4類99SK1366
56	14行	29KL・SB13は28KL(第51図)では	SB13は29KL・28KL(第51図)では
57	下7行	31J・32J(第55図)では99SK291	31J・32J(第56図)では99SK291
58	9行	99SK723・SB21・23に切られる。	99SK723・SB21・23を切る。
61	5行	99SK1620に切られる。	99SK1620を切る。
61	下13行	(図版54セクションg)	(図版45セクションg)
61	下10行	(図版55セクションd)	(図版47セクションd)
62	2行	台形状の溝99SD1880に切られる。	台形状の溝99SD1880を切る。
64	12～14行ほか	平坦面4	平坦面5
73	20行	**88SE2401**(図版176　150～152)	**99SE2401**(図版176　150～152)
74	7行	**99SK304**(図版183　331～333)	**99SD304**(図版183　331～333)
77	1行	に準じた分類を行った(第27表)。	に準じた分類を行った(第28表)。
81	下12～11行	鉢(826・827)はゆるく屈曲する	鉢(825・826)はゆるく屈曲する
81	下11行	小型壺(872)は「く」字の単口縁に	小型壺(827)は「く」字の単口縁に
81	下6～5行	鉢(845～847)・釜(851～853)・壺(854)がある。	鉢(845～848)・釜(851～853)・壺(854)がある。
82	10・14行	図版212	図版200
89	下7行	149は98SD3出土の越前甕	149は98SD3B出土の越前甕
89	下6行	92SD3Aの埋没は16世紀を上限とする	98SD3Bの埋没は16世紀を上限とする
97	11行	**29O-16・17**(744・745)	**29O-16・17**(742～749)
97	14行	これらをまとめると第32表となる。	これらをまとめると第33表となる。
97	下6行	生じた可能性が最も高い(第84図)。	生じた可能性が最も高い(第85図)。
146	第54表欄外	＊編年は吉岡[1994]・大橋	＊編年は吉岡[1994]・大橋[1989]
図版17	k-k´	3,6	2,3
図版138	f-f´	99SE1468・SD1542・1462	99SE1468・SD1461・1462
図版153	a-a´	98SD113	98SK113
図版195	右下	**99SD769(835～838)**	**99SD757(835～838)**